茨城県教育財団文化財調査報告第160集

葛城一体型特定土地区画整理事業
地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

六十目遺跡

平成12年3月

都市基盤整備公団茨城地域支社
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第160集

葛城一体型特定土地区画整理事業
地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

六十目（ろくじゅうめ）遺跡

平成12年3月

都市基盤整備公団茨城地域支社
財団法人　茨城県教育財団

六十目遺跡全景

第９号住居跡出土遺物（壺）

序

茨城県は，世界的な科学研究の中心であるつくば市において，国際都市にふさわしい街づくりを推進しております。平成11年度はその一つとして，海外との交流の場である国際会議場「エポカルつくば」を整備いたしました。また，新しい街づくりの一環として，平成17年に開通予定の常磐新線は，都心部とつくば市を結ぶ動脈としてだけではなく，地域の活性化を進める役割が期待されております。

都市基盤整備公団では，研究学園都市としてのつくば市の特性と地理的条件を勘案し，新たな交通網を備えた都市機能の充実と，良好な居住環境を持つ宅地の供給を目的として土地区画整理事業を進めております。

このたび，茨城県教育財団は，都市基盤整備公団から常磐新線沿線地域の土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査事業について委託を受け，平成10年４月から翌年３月まで発掘調査を実施いたしました。

本書は，平成10年度に調査を行った六十目遺跡の成果を収めたものであります。本書が，研究資料としてはもとより，郷土の歴史への理解を深めると共に，教育・文化の向上の一助として広く活用されることを希望いたします。

なお，発掘調査及び整理を進めるにあたり，委託者である都市基盤整備公団から賜りました多大なる御協力に対し，心から御礼申し上げます。

また，茨城県教育委員会，つくば市教育委員会をはじめ，関係各機関及び関係各位から御指導，御協力を賜りましたことに衷心より感謝の意を表します。

平成12年３月

財団法人　茨城県教育財団

理事長　齋藤　佳郎

例　　言

1　本書は，都市基盤整備公団の委託により，財団法人茨城県教育財団が平成10年４月から平成11年３月まで発掘調査を実施した，茨城県つくば市大字苅間に所在する六十目（ろくじゅうめ）遺跡の発掘調査報告書である。

2　当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は，以下のとおりである。

調査　　平成10年４月１日～平成11年３月31日

整理　　平成11年４月１日～平成12年３月31日

3　当遺跡の発掘調査は，調査第２課長小泉光正の指揮のもと，調査第１班長横堀孝徳，主任調査員矢ノ倉正男，副主任調査員小澤重雄が担当した。

4　当遺跡の整理及び本書の執筆・編集は，整理課長川井正一，首席調査員萩野谷悟の指揮のもと，小澤重雄が担当した。

5　鉄器の保存処理業務は，財団法人岩手県文化振興事業団に委託して実施した。

6　土器の胎土分析は，第四紀地質研究所(株)の井上巌氏に依頼して実施し，成果は付章として収録した。

7　当遺跡の集落構造について，埼玉県埋蔵文化財調査事業団主任調査員の田中広明氏に御教示をいただいた。

8　石材の石質について，工業技術院地質調査所の佐藤岱生氏に御教示をいただいた。

9　当遺跡の墨書土器について，国立歴史民俗博物館教授の平川南氏に御教示をいただいた。

10　発掘調査及び整理に際して，御指導・御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し，深く感謝の意を表します。

凡　　例

1　当遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標を原点とし，Ｘ軸＝＋9,040m，Ｙ軸＝＋24,000mの交点を基準点（Ａ１a1）とした。

大調査区は，この基準点を基に遺跡範囲内を東西南北各々40m四方に分割し，さらにこの大調査区を東西，南北に各々10等分し，４m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へＡ，Ｂ，Ｃ‥‥，西から東へ１，２，３‥‥とし，「Ａ１区」，「Ｂ２区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は，北から南へａ，ｂ，ｃ‥‥ｊ，西から東へ１，２，３‥‥０とし，名称は，大調査区の名称を冠して「Ａ１a1区」，「Ｂ２b2区」のように呼称した。

2　遺構・遺物・土層に使用した記号は，次のとおりである。

遺構　住居跡―ＳＩ　掘立柱建物跡―ＳＢ　溝跡―ＳＤ　土坑―ＳＫ　不明遺構―ＳＸ

遺物　土器・陶器―Ｐ　土製品―ＤＰ　石器・石製品―Ｑ　金属製品・古銭―Ｍ　拓本記録土器―ＴＰ

土層　撹乱―Ｋ

3　遺構・遺物の実測図中の表示は，次のとおりである。

粘土・竈　黒色処理　赤彩・焼土　炉

●　土器　■　石器・石製品　▲　土製品　△　金属製品　□　ガラス

4　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。

5　遺構・遺物実測図の作成方法と掲載方法については，次のとおりである。

(1)　遺構全体図は縮尺600分の1，住居跡や土坑，不明遺構は60分の１に縮小することを原則として掲載した。

(2)　遺物は原則として３分の１の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もある。

6　遺構の主軸方向は，住居跡の場合は炉または竈と入り口を結んだ軸線，その他の遺構は長径方向とし，その主軸が座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例　N―10°―E，N―10°―W)。なお，［　］を付したものは推定である。

7　遺物観察表の記載方法は次のとおりである。

(1)　土器の計測値は，Ａ―口径　Ｂ―器高　Ｃ―底径　Ｄ―高台径　Ｅ―高台高　とし，単位はcmである。なお，現存値は（　）で，推定値は［　］を付して示した。

(2)　備考の欄は，土器の残存率，実測番号（Ｐなど），出土位置及びその他必要と思われる事項を記した。

抄　　録

ふりがな	かつらぎいったいがたとくていとちくかくせいりじぎょうちないまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	葛城一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書
副書名	六十目遺跡
巻次	Ⅲ
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第160集
著者名	小澤　重雄
編集機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310-0911　茨城県水戸市見和１丁目356番地の２　　ＴＥＬ　029-225-6587
発行機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310-0911　茨城県水戸市見和１丁目356番地の２　　ＴＥＬ　029-225-6587
発行日	2000年(平成12年)３月21日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
ろくじゅうめいせき 六十目遺跡	いばらきけんつくばしおおあざ 茨城県つくば市大字 かりまあざひがしうら 苅間字東浦1638-1	08220 ｜ 86	36度 4分 49秒	140度 6分 1秒	23m ～ 24m	19980401 ～ 19990331	19,424㎡	葛城一体型特定土地区画整理事業に伴う事前調査

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
集落跡		竪穴住居跡 12軒	土師器（壷・甕・高坏・器台),土製品（球状土錘・算盤玉状土錘）	古墳時代から平安時代の集落跡と，中世から近世の墓壙が中心の複合遺跡である。第９号住居跡から、南関東系の装飾壺と十王台式土器が伴って出土している。
	古墳時代 奈良・平安時代	竪穴住居跡 41軒 掘立柱建物跡 ６棟	土師器（坏・高台付皿・甕,墨書土器),須恵器（坏・高台付坏・盤・甑・甕・円面硯，墨書土器),灰釉陶器（椀），土製品（紡錘車），鉄製品（刀子・鎌),石器（砥石）	
墓跡	古墳時代	方形周溝状遺構 ２基	土師器	
	中・近世	地下式壙 ４基 土　　坑 53基 火葬施設 ２基	石器（碇石）	
その他	古墳時代	土　　坑 １基	土師器	
	奈良・平安時代	竪穴状遺構 ２基	土師器・須恵器	
	中・近世	溝　　跡 ５条	陶器	
	時期不明	粘土採掘坑 ２基 井戸跡 １基 溝　　跡 24条 土　　坑 90基		

目　　次

序
例言
凡例
抄録
目次
挿図目次，表目次，付図，写真図版目次
第１章　調査経緯 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査経過 …… 1
第２章　位置と環境 …… 3
　第１節　地理的環境 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 3
第３章　調査の成果 …… 9
　第１節　遺跡の概要 …… 9
　第２節　基本層序の検討 …… 9
　第３節　遺構と遺物 …… 10
　　１　古墳時代の遺構と遺物 …… 10
　　（１）竪穴住居跡 …… 10
　　（２）方形周溝状遺構 …… 59
　　（３）土坑 …… 61
　　２　奈良・平安時代の遺構と遺物 …… 62
　　（１）竪穴住居跡 …… 62
　　（２）掘立柱建物跡 …… 175
　　（３）竪穴状遺構 …… 184
　　３　その他の時代の遺構と遺物 …… 187
　　（１）溝跡 …… 187
　　（２）火葬施設 …… 194
　　（３）粘土採掘坑 …… 195
　　（４）地下式壙 …… 197
　　（５）井戸跡 …… 201
　　（６）土坑 …… 202
　　４　遺構外出土遺物 …… 221
第４章　まとめ …… 225
付　章 …… 229
写真図版

挿　図　目　次

第１図　周辺遺跡位置図……4
第２図　基本土層図……10
第３図　第１号住居跡実測図……11
第４図　第１号住居跡出土遺物実測図（１）……12
第５図　第１号住居跡出土遺物実測図（２）……13
第６図　第３号住居跡実測図……15
第７図　第３号住居跡炉実測図……16
第８図　第３号住居跡出土遺物実測図（１）……17
第９図　第３号住居跡出土遺物実測図（２）……18
第10図　第４号住居跡実測図……20
第11図　第４号住居跡出土遺物実測図……21
第12図　第５号住居跡実測図……23
第13図　第５号住居跡出土遺物実測図……24
第14図　第６号住居跡実測図……26
第15図　第６号住居跡出土遺物実測図（１）……27
第16図　第６号住居跡出土遺物実測図（２）……28
第17図　第７号住居跡実測図……30
第18図　第７号住居跡出土遺物実測図……31
第19図　第８号住居跡実測図……34
第20図　第８号住居跡出土遺物実測図（１）……35
第21図　第８号住居跡出土遺物実測図（２）……36
第22図　第９号住居跡実測図……38
第23図　第９号住居跡炉実測図……39
第24図　第９号住居跡出土遺物実測図（１）……40
第25図　第９号住居跡出土遺物実測図（２）……41
第26図　第９号住居跡出土遺物実測図（３）……42
第27図　第65号住居跡実測図……44
第28図　第67号住居跡実測図（１）……46
第29図　第67号住居跡実測図（２）……47
第30図　第67号住居跡出土遺物実測図（１）……48
第31図　第67号住居跡出土遺物実測図（２）……49
第32図　第67号住居跡出土遺物実測図（３）……50
第33図　第67号住居跡出土遺物実測図（４）……51
第34図　第71号住居跡実測図……53
第35図　第71号住居跡出土遺物実測図……55
第36図　第72号住居跡実測図……56
第37図　第72号住居跡出土遺物実測図……57
第38図　第１号方形周溝状遺構実測図……59
第39図　第２号方形周溝状遺構・出土遺物実測図……60
第40図　第52号土坑・出土遺物実測図……62
第41図　第２号住居跡実測図……63
第42図　第２号住居跡出土遺物実測図……64
第43図　第10号住居跡実測図……66
第44図　第10号住居跡出土遺物実測図（１）……67
第45図　第10号住居跡出土遺物実測図（２）……68
第46図　第12号住居跡実測図……70
第47図　第12号住居跡出土遺物実測図……71
第48図　第13号住居跡実測図……73
第49図　第13号住居跡出土遺物実測図……74
第50図　第14号住居跡実測図……75
第51図　第14号住居跡出土遺物実測図……76
第52図　第15号住居跡・出土遺物実測図……77
第53図　第16号住居跡実測図……79
第54図　第16号住居跡出土遺物実測図……80
第55図　第17号住居跡・出土遺物実測図……82
第56図　第18号住居跡実測図……84
第57図　第18号住居跡出土遺物実測図（１）……85
第58図　第18号住居跡出土遺物実測図（２）……86
第59図　第19号住居跡実測図……88
第60図　第19号住居跡出土遺物実測図……89
第61図　第21号住居跡実測図……91
第62図　第21号住居跡竈実測図……92
第63図　第21号住居跡出土遺物実測図（１）……93
第64図　第21号住居跡出土遺物実測図（２）……94
第65図　第22号住居跡実測図……97
第66図　第22号住居跡出土遺物実測図（１）……98
第67図　第22号住居跡出土遺物実測図（２）……99
第68図　第23号住居跡実測図……102
第69図　第23号住居跡出土遺物実測図……103
第70図　第27号住居跡実測図……106

第71図　第27号住居跡出土遺物実測図 ……107
第72図　第28号住居跡実測図 ……108
第73図　第28号住居跡出土遺物実測図 ……109
第74図　第29号住居跡実測図 ……111
第75図　第29号住居跡出土遺物実測図 ……112
第76図　第31号住居跡実測図 ……114
第77図　第31号住居跡出土遺物実測図（１）……115
第78図　第31号住居跡出土遺物実測図（２）……116
第79図　第32号住居跡実測図 ……118
第80図　第32号住居跡出土遺物実測図（１）……119
第81図　第32号住居跡出土遺物実測図（２）……120
第82図　第34号住居跡実測図 ……121
第83図　第35号住居跡実測図 ……122
第84図　第35号住居跡出土遺物実測図 ……123
第85図　第37号住居跡実測図 ……125
第86図　第37号住居跡出土遺物実測図 ……126
第87図　第38Ａ・Ｂ号住居跡実測図 ……129
第88図　第38Ａ号住居跡出土遺物実測図 ……130
第89図　第38Ｂ号住居跡出土遺物実測図 ……132
第90図　第40Ａ号住居跡・出土遺物実測図 ……134
第91図　第40Ｂ号住居跡・出土遺物実測図 ……136
第92図　第43号住居跡実測図 ……137
第93図　第45号住居跡実測図 ……138
第94図　第45号住居跡竈実測図 ……139
第95図　第45号住居跡出土遺物実測図 ……140
第96図　第46号住居跡実測図 ……142
第97図　第46号住居跡出土遺物実測図 ……143
第98図　第47号住居跡実測図 ……146
第99図　第47号住居跡竈実測図 ……147
第100図　第47号住居跡出土遺物実測図……148
第101図　第48号住居跡実測図……150
第102図　第50号住居跡実測図……151
第103図　第50号住居跡出土遺物実測図……152
第104図　第51・52号住居跡実測図……155
第105図　第51号住居跡出土遺物実測図（１）……156
第106図　第51号住居跡出土遺物実測図（２）……157
第107図　第52号住居跡竈実測図……159
第108図　第52号住居跡出土遺物実測図……160
第109図　第53号住居跡実測図……161
第110図　第54号住居跡実測図……162
第111図　第54号住居跡出土遺物実測図……163
第112図　第56号住居跡実測図……164
第113図　第56号住居跡出土遺物実測図……165
第114図　第58号住居跡実測図……166
第115図　第58号住居跡出土遺物実測図……167
第116図　第59号住居跡実測図……168
第117図　第59号住居跡出土遺物実測図……169
第118図　第60号住居跡実測図……170
第119図　第61号住居跡実測図……171
第120図　第61号住居跡出土遺物実測図……172
第121図　第64号住居跡実測図……173
第122図　第64号住居跡出土遺物実測図……173
第123図　第１号掘立柱建物跡実測図……176
第124図　第２号掘立柱建物跡実測図……177
第125図　第３号掘立柱建物跡実測図……179
第126図　第４号掘立柱建物跡実測図……180
第127図　第４号掘立柱建物跡出土遺物実測図…181
第128図　第５号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 ……182
第129図　第６号掘立柱建物跡実測図……183
第130図　第１号竪穴状遺構・出土遺物実測図…185
第131図　第２号竪穴状遺構・出土遺物実測図…186
第132図　第１号溝跡土層断面図……187
第133図　第２～５・7･10･11･13･14･16･17号
溝跡土層断面図……189
第134図　第18･20･21･23･24･26～28･32～35･38･39号
溝跡土層断面図……190
第135図　第14・18・19・23・27・28号溝跡
出土遺物実測図……192
第136図　第１・２号火葬施設実測図 ……194
第137図　第１・２号粘土採掘坑・出土遺物実測図
……196
第138図　第１号地下式壙実測図……197
第139図　第２号地下式壙・出土遺物実測図……198
第140図　第３号地下式壙実測図……199
第141図　第４号地下式壙・出土遺物実測図……200
第142図　第１号井戸跡実測図……202

第143図　第92～98号土坑実測図……204
第144図　第121・126～128号土坑実測図 ……205
第145図　その他の土坑実測図(1)……207
第146図　その他の土坑実測図(2)……208
第147図　その他の土坑実測図(3)……209
第148図　その他の土坑実測図(4)……210
第149図　その他の土坑実測図(5)……211
第150図　その他の土坑実測図(6)……212
第151図　その他の土坑実測図(7)……213
第152図　その他の土坑実測図(8)……214
第153図　第16・78号土坑出土遺物実測図……218
第154図　遺構外出土遺物実測図(1)……222
第155図　遺構外出土遺物実測図(2)……223
付　図　六十目遺跡全体図

表　目　次

表1　六十目遺跡周辺遺跡一覧表 ……5
表2　六十目遺跡住居跡(古墳時代)一覧表 ……59
表3　六十目遺跡方形周溝状遺構一覧表 ……61
表4　六十目遺跡住居跡(奈良・平安時代)一覧表 ……174
表5　六十目遺跡掘立柱建物跡一覧表 ……184
表6　六十目遺跡竪穴状遺構一覧表 ……187
表7　六十目遺跡溝跡一覧表 ……193
表8　六十目遺跡火葬施設一覧表 ……195
表9　六十目遺跡粘土採掘坑一覧表 ……196
表10　六十目遺跡地下式壙一覧表 ……201
表11　六十目遺跡井戸跡一覧表 ……202
表12　六十目遺跡土坑一覧表 ……218

写真図版目次

表紙　六十目遺跡全景
ＰＬ　1　調査前(北側から)
遺構確認状況
ＰＬ　2　第１号住居跡完掘状況
第１号住居跡遺物出土状況
第３号住居跡完掘状況
ＰＬ　3　第３号住居跡遺物出土状況(炉付近)
第４号住居跡完掘状況
第４号住居跡遺物出土状況
ＰＬ　4　第４号住居跡遺物出土状況
第５号住居跡完掘状況
第５号住居跡遺物出土状況
ＰＬ　5　第６号住居跡遺物出土状況
第７号住居跡遺物出土状況
ＰＬ　6　第７号住居跡遺物出土状況
第８号住居跡完掘状況
第８号住居跡遺物出土状況
ＰＬ　7　第９号住居跡遺物出土状況
第65号住居跡完掘状況
ＰＬ　8　第67号住居跡完掘状況
第67号住居跡遺物出土状況
第71号住居跡遺物出土状況
ＰＬ　9　第71号住居跡遺物出土状況
第72号住居跡遺物出土状況
第１号方形周溝状遺構完掘状況
ＰＬ　10　第２号方形周溝状遺構完掘状況
第２号住居跡完掘状況
第10号住居跡遺物出土状況
ＰＬ　11　第10号住居跡竈完掘状況
第12号住居跡遺物出土状況
第12号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ　12　第13号住居跡完掘状況
第14号住居跡遺物出土状況
第14号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ　13　第15号住居跡遺物出土状況
第16号住居跡完掘状況
第16号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ　14　第17号住居跡完掘状況
第18号住居跡完掘状況
第18号住居跡遺物出土状況
ＰＬ　15　第18号住居跡竈遺物出土状況
第19号住居跡完掘状況
第19号住居跡遺物出土状況
ＰＬ　16　第19号住居跡竈遺物出土状況
第21号住居跡完掘状況
第21号住居跡竈１遺物出土状況
ＰＬ　17　第21号住居跡竈２石塊出土状況
第22号住居跡完掘状況
第22号住居跡遺物出土状況
ＰＬ　18　第22号住居跡竈遺物出土状況
第23号住居跡完掘状況
第23号住居跡遺物円面硯出土状況
ＰＬ　19　第23号住居跡竈遺物出土状況
第27号住居跡完掘状況
第28号住居跡遺物出土状況
ＰＬ　20　第31号住居跡遺物出土状況
第31号住居跡竈遺物出土状況
第31号住居跡竈土層断面
ＰＬ　21　第32号住居跡遺物出土状況
第32号住居跡竈遺物出土状況
第34号住居跡完掘状況
ＰＬ　22　第35号住居跡完掘状況
第37号住居跡完掘状況
第37号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ　23　第38Ａ・Ｂ号住居跡完掘状況
第38Ａ号住居跡遺物出土状況
第38Ａ号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ　24　第38Ｂ号住居跡竈遺物出土状況
第40Ａ号住居跡完掘状況
第40Ｂ号住居跡遺物出土状況

ＰＬ　25　第45号住居跡完掘状況
第45号住居跡竈遺物出土状況
第46号住居跡完掘状況
ＰＬ　26　第47号住居跡遺物出土状況
第47号住居跡竈１完掘状況
第47号住居跡竈２完掘状況
ＰＬ　27　第50号住居跡完掘状況
第50号住居跡遺物出土状況
第50号住居跡竈完掘状況
ＰＬ　28　第51・52号住居跡完掘状況
第51号住居跡竈遺物出土状況
第52号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ　29　第53号住居跡完掘状況
第54号住居跡完掘状況
第56号住居跡完掘状況
ＰＬ　30　第58号住居跡完掘状況
第59号住居跡完掘状況
第60号住居跡完掘状況
ＰＬ　31　第61号住居跡完掘状況
第64号住居跡完掘状況
第64号住居跡遺物出土状況
ＰＬ　32　第１号掘立柱建物跡確認状況
第２号掘立柱建物跡確認状況
第３号掘立柱建物跡確認状況
ＰＬ　33　第４号掘立柱建物跡確認状況
第５号掘立柱建物跡完掘状況
第６号掘立柱建物跡確認状況
ＰＬ　34　第１号竪穴状遺構遺物出土状況
土坑群完掘状況
第27・28号溝跡完掘状況
ＰＬ　35　第52号土坑遺物出土状況
第１・２号粘土採掘坑完掘状況
第２号地下式壙完掘状況
ＰＬ　36　第３号地下式壙完掘状況
第４号地下式壙完掘状況
第94・95・96号土坑完掘状況
ＰＬ　37　第１・３号住居跡出土遺物
ＰＬ　38　第３・４号住居跡出土遺物
ＰＬ　39　第５・６号住居跡出土遺物
ＰＬ　40　第６・７号住居跡出土遺物
ＰＬ　41　第７・８・９号住居跡出土遺物
ＰＬ　42　第９・67号住居跡出土遺物
ＰＬ　43　第67号住居跡出土遺物
ＰＬ　44　第67・71号住居跡，第52号土坑出土遺物
ＰＬ　45　第10・12・14・72号住居跡出土遺物
ＰＬ　46　第14・16～19号住居跡出土遺物
ＰＬ　47　第21・22号住居跡出土遺物
ＰＬ　48　第23・27・28号住居跡出土遺物
ＰＬ　49　第28・31・32・35・37・38Ａ・40Ｂ号
住居跡出土遺物
ＰＬ　50　第38Ａ・40Ａ・40Ｂ・45～47号
住居跡出土遺物
ＰＬ　51　第47・50・51・59号住居跡出土遺物
ＰＬ　52　第51・52・54・61・64号住居跡，
第４号掘立柱建物跡，遺構外出土遺物
ＰＬ　53　出土土製品・石製品
ＰＬ　54　出土石製品・鉄製品・ガラス製品

第1章　調 査 経 緯

第1節　調査に至る経緯

茨城県は，世界的な科学研究の中心であるつくば市において，国際都市にふさわしい町づくりを推進している。平成17年開通予定の常磐新線の建設とそれに伴う沿線の開発は，その一環を構成するものである。葛城地区においては，住宅・都市整備公団茨城地域支社（平成11年10月から都市基盤整備公団茨城地域支社に名称を変更）を事業主体として，土地区画整理事業が行われている。

平成６年８月18日，茨城県知事は，茨城県教育委員会に対して，常磐新線沿線地域の開発を行うため，つくば市葛城地区の土地区画整理事業地内の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて照会を行った。茨城県教育委員会は，平成７年５月15日から６月８日にかけて現地踏査を，平成９年１月16～27日，同年６月12～25日にかけて試掘調査を行った。

その結果，開発予定地内において六十目遺跡の存在を確認し，平成９年９月２日，茨城県教育委員会は，茨城県知事にその旨を回答した。平成10年２月12日，茨城県知事から茨城県教育委員会に対し，六十目遺跡の取り扱いについて協議があった。茨城県教育委員会は六十目遺跡の重要性に鑑み，また文化財保護の立場から慎重に検討を重ねた。そして同年３月１３日，茨城県教育委員会は茨城県知事あてに，六十目遺跡を記録保存とする旨を回答し，併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。平成10年４月，茨城県知事から茨城県教育委員会あてに，住宅・都市整備公団茨城地域支社に取り扱いが変更になる旨連絡があった。

そこで，住宅・都市整備公団茨城地域支社から財団法人茨城県教育財団に六十目遺跡の発掘調査の依頼があり，茨城県教育財団は発掘調査の委託契約を結び，平成10年４月１日から発掘調査を実施することとなった。平成10年７月29日，住宅・都市整備公団茨城地域支社から茨城県教育委員会に対し，当初予定していた六十目遺跡（17,557㎡）の調査面積に関わる変更協議があった。同年８月17日，茨城県教育委員会は住宅・都市整備公団茨城地域支社に対して，先に出された発掘調査面積の変更協議について，事業の円滑な推進を考慮し，財団法人茨城県教育財団と十分打ち合わせるように回答するとともに，財団法人茨城県教育財団に対して調査計画の変更を通知した。これにより，当初予定されていた六十目遺跡の調査面積（17,557㎡）に，1,867㎡を新たに追加し，合計19,424㎡の発掘調査を実施することとした。

第2節　調査経過

六十目遺跡の発掘調査を，平成10年４月１日から平成11年３月３１日までの１年間にわたって実施した。以下，調査経過について，その概要を記載する。

４月　７日に発掘予定地の現地踏査を行った。調査器材を搬入し，23日より調査補助員を投入して現地作業を開始した。

５月　試掘を開始し，23日から人力による表土除去と遺構確認作業を行った。竪穴住居跡６軒，溝跡５条を確認した。

6月　12日から重機による第一期の表土除去を開始し，引き続き遺構確認作業を行った。

7月　17日に方眼杭打ち測量を実施した。23日までに表土除去と遺構確認作業を終え，竪穴住居跡50軒，掘立柱建物跡6棟，溝跡24条，土坑102基，地下式壙3基を確認した。

8月　3日より遺構調査を開始した。月末までに竪穴住居跡2軒，土坑17基の調査を終了した。

9月　遺構調査と並行して，21日から重機を投入して第二期の表土除去及び遺構確認作業を行った。数回台風が襲来し，調査区域が水没して調査に支障をきたした。

10月　5日に表土除去及び遺構確認作業を終了した。最終的な遺構数は，竪穴住居跡53軒，掘立柱建物跡6棟，溝跡29条，方形周溝状遺構2基，土坑144基，地下式壙4基，粘土採掘坑2基，火葬施設2基，竪穴状遺構2基，井戸跡1基となった。湧水があるため，比較的地盤が乾燥した区域の遺構を進めた。竪穴住居跡9軒，溝跡6条，方形周溝状遺構2基の調査を終了した。

11月　天候が安定し，調査区域内の湧水も収まった。竪穴住居跡10軒，土坑10基の調査を終了した。

12月　引き続き遺構調査を行い，竪穴住居跡13軒，土坑8基の調査を終了した。

1月　季節風で土埃が舞い，補助員の健康管理と遺構の安全対策に苦慮することが多かった。竪穴住居跡13軒，掘立柱建物跡1棟，土坑12基，粘土採掘坑2基の調査を終了した。

2月　3日，委託者に対し，業務報告会を行った。一般に対しては13日に現地説明会を開催し，これまでの調査の成果を公開した。

3月　4日，遺跡の航空写真を撮影した。12日までにはほぼ調査を終え，その後補足調査を行い，24日をもってすべての現地調査を終了した。

第2章　位置と環境

第1節　地理的環境

六十目遺跡は，茨城県つくば市大字苅間字東浦1638番地1ほかに所在し，常磐自動車道桜土浦インターチェンジの西北西約6.3kmの地点に位置する。

遺跡の所在するつくば市は茨城県の南西部に位置し，北は真壁郡真壁町，同郡明野町，新治郡八郷町に，東は土浦市，新治郡新治村に，南は牛久市，稲敷郡茎崎町，筑波郡伊奈町，同郡谷和原村に，西は水海道市，下妻市，結城郡石下町，同郡千代川村に接している。

つくば市は，昭和62年11月に筑波郡谷田部町，同郡豊里町，同郡大穂町，新治郡桜村の3町1村の合併により誕生した。翌昭和63年1月には筑波郡筑波町を併合して市域を拡大している。古くから自然に恵まれたため，近年に至るまで農業が主要な産業としての地位を占めていた。昭和38年「筑波研究学園都市」の指定を受けてから各種研究機関や企業の進出が相次ぎ，今日では国際的な研究機関の中心として発展を遂げた。現在も常磐新線や周辺地域の開発と整備が進められ，首都圏との結びつきが強まると共に，地域の中核都市としての役割も大きくなっている。

地勢は，市域の北部を筑波山塊が占め，その他の大部分は標高約23m前後の筑波・稲敷台地と呼ばれる平坦な台地となっている。この台地は，西を小貝川，東を桜川と南流する河川によって区切られており，その流域には沖積地が発達している。両河川の間にも東から花室川，蓮沼川，小野川，東谷田川，西谷田川などの中小河川がほぼ北から南に向かって流れ，台地を短冊状に開析し，その支流は樹枝状の谷津を形成する。筑波・稲敷台地は茨城県南部から千葉県北部に広がる常総台地の一部であり，地質的には新生代第四紀更新世に作られた地層が見られる。下層は竜ヶ崎層と呼ばれる砂層・砂礫層があり，その上に板橋層または常総粘土層と呼ばれる白色粘土層・関東ローム層が順次堆積し，最上部は腐植土層となっている。

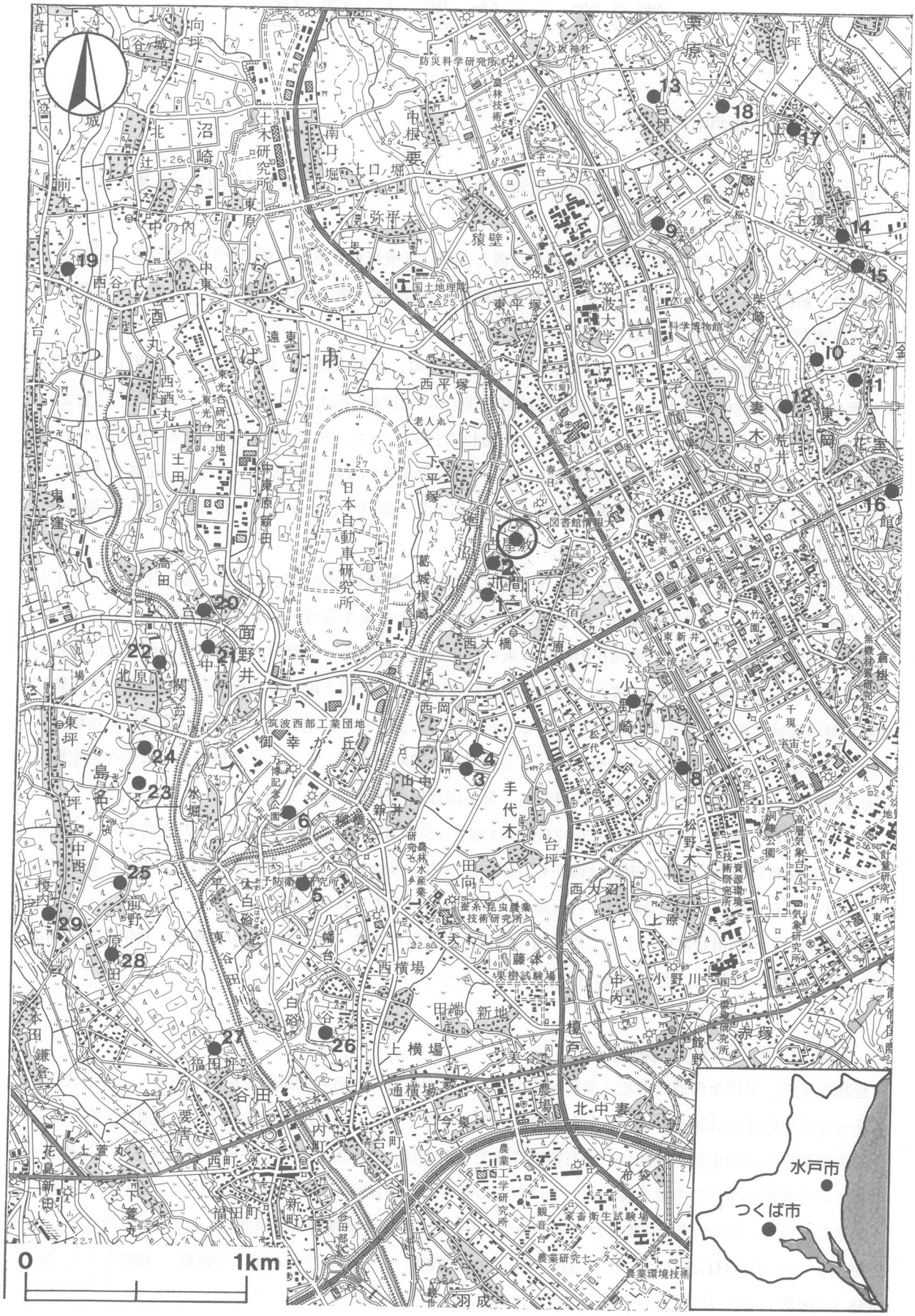
六十目遺跡は，蓮沼川左岸の標高23～24mの台地上に位置する。台地は，6～7mの比高をもって蓮沼川の流れる沖積地に臨み，北側と南側は西から谷津が延びる。台地上はほぼ平坦であるが，南東から北西に向かってわずかながら傾斜する。遺跡はこの台地のほぼ中央部に形成されている。

遺跡周辺の土地利用状況は，主として宅地・畑地・平地林であり，蓮沼川流域の沖積地は水田として利用されている。遺跡の現況は，芝・麦作の畑地と栗林であった。

第2節　歴史的環境

穏和な気候，平坦な台地と南北に流れる河川は，人々が生活を送るのに適した環境を形つくってきた。古代にあってもその状況は現在の状況と大きな変化がないと考えられ，つくば市周辺には多くの遺跡が存在する。

この地域の人々の生活の足跡は，旧石器時代までさかのぼることができる。平成9年以降継続して調査が行われている花室川左岸の中原（なかはら）遺跡〈12〉では石器の集中地点が合計6ヶ所確認され，ナイフ形石器・石刃などが出土している。その他表面採集または表土中からではあるが，大境（おおざかい）遺跡（尖頭器　・ナイフ形石器など），柴崎（しばさき）遺跡〈9〉（ナイフ形石器など），中台（なかだい）遺跡（同），神田（じんでん）遺跡〈1〉（ナイフ形石器・尖頭器　・掻器など），西栗山（にしくりやま）遺跡（尖頭器　・細石刃）などから旧石器時代の遺物が出土している。



第１図　周辺遺跡位置図　　1：50000地形図「土浦」国土地理院

表１　六十目遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	県遺跡番号	時代						番号	遺跡名	県遺跡番号	時代					
			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中近世				旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中近世
◎	六十目遺跡	5842			○	○	○	○	15	旭台貝塚	2084		○				
1	神田遺跡	5841	○	○	○	○	○	○	16	花室城跡	2893						○
2	苅間城跡	—						○	17	上野天神塚古墳	2088				○		
3	苅間古墳	2922			○				18	愛宕塚古墳	2086				○		
4	苅間遺跡	2917			○				19	高野遺跡	2944		○				
5	柳橋遺跡	5839			○				20	面の井古墳群	2113				○		
6	水堀遺跡	5838			○				21	面野井城跡	—						○
7	小野崎館跡	2913						○	22	関の台古墳群	2112				○		
8	小野崎遺跡	2918		○		○			23	熊の山遺跡	214				○	○	○
9	柴崎遺跡	2897	○	○		○	○	○	24	島名熊の山古墳群	2120				○		
10	九重廃寺東岡遺跡)	2890					○		25	前野遺跡	2100		○				
11	西坪遺跡	2085		○	○	○	○		26	台町古墳群	2118				○		
12	中原遺跡	222	○	○			○	○	27	福田遺跡	2099		○				
13	台坪才十郎遺跡	2876		○					28	一町田遺跡	2915		○				
14	滝の台古墳群	2090				○			29	榎内遺跡	2106		○		○		

縄文時代になると遺跡数が増加し，各河川の流域で遺跡が確認されている。桜川流域には台坪才十郎遺跡〈13〉（中期），旭台貝塚〈15〉（後期）がみられる。花室川流域では，上流に柴崎遺跡，中流に下広岡遺跡が存在している。東谷田川流域では福田遺跡〈27〉，一町田遺跡〈28〉などが，また西谷田川流域では榎内遺跡〈29〉，大境遺跡などが知られているが，調査が行われたものは少ない。

関東地方に弥生文化が及ぶのは中期以降のことであるが，つくば市周辺では中期の遺跡は今のところ確認されていない。後期の遺跡がいくつか見つかっているが，その数も縄文時代の遺跡数と比べるとかなり少なくなっている。桜川中流域には，神郡条里遺跡，山木遺跡，中台遺跡など比較的遺跡が集中して確認されている。中台遺跡では10軒の竪穴住居跡が調査され，後期後半とされる上稲吉式の土器を伴っていた。西谷田川下流の境松遺跡でも後期末にあたる6軒の竪穴住居跡が調査され，輪積み痕をもつ台付甕や棒状浮文と円形浮文をもつ壺をはじめとして，東京湾沿岸を出自とする土器が出土した。この点，中台遺跡が在地の土器を持つのとは対照的である。六十目遺跡周辺では，高山遺跡から甕，西坪遺跡〈11〉から壺が出土したことが知られている。どちらも調査によるものではなく，遺構の状況は明らかではない。高山遺跡の土器は破片が残るのみであるが，西坪遺跡出土の壺は装飾は持たないものの，境松遺跡の土器と共通する特徴を持つものである。

古墳時代になると，再び遺跡数は増加の傾向を見せる。蓮沼川流域では上流から六十目遺跡，神田遺跡，柳橋遺跡〈5〉，水堀遺跡〈6〉と集落跡が点在する。このうち神田遺跡では，前～中期の竪穴住居跡9軒，同じく後期のものが10軒確認され，竪穴住居跡の数は少ないものの古墳時代を通して集落が営まれていたことがうかがえる。東谷田川流域の熊の山遺跡〈23〉でも前期の住居跡が見られ，神田遺跡と相前後して集落の形成が始まっている。一方，花室川流域の柴崎遺跡ではこれより少し遅れ，後期から本格的に集落が営まれたようである。調査された遺跡では，後期の遺構は比較的確認されているが，前期・中期のものは少ない。現状では小野川を下った牛久市東猫穴町・中根町周辺に，中久喜遺跡，東山遺跡，馬場遺跡など，中期の集落が確認されており，今後の調査にもよるが，居住域が時代によって移動あるいは拡大した可能性が考えられる。

古墳は，桜川右岸の台地上と東谷田川中流域に多く見られる。桜川流域では愛宕塚古墳〈18〉，上野天神塚古墳〈17〉，滝の台古墳群〈14〉などが沖積地に臨む台地縁辺部に築かれた。東谷田川中流の両岸には面の井古墳群〈20〉，関の台古墳群〈22〉，島名熊の山古墳群〈24〉が分布する。いずれも小規模な円墳を主として構成されており，埋葬施設は箱式石棺が多い。さらに下流には台町古墳群〈26〉があり，この中の大日塚古墳は一辺が23mの方墳の可能性が指摘されている。西谷田川流域には高山古墳群が，小野川流域には3体の人物埴輪を出土したとされる下横場古墳群が存在する。蓮沼川流域にはすでに消滅してしまったが，苅間古墳〈3〉が存在した。

律令制度が固まり，全国に国郡が設置されると，　葛城地区は河内郡菅田郷に所属するようになり，のち12世紀にかけて大井庄，続いて田中庄と呼ばれることになる。先にあげた神田，柴崎，熊の山の各遺跡は前代より引き続いて集落が営まれるが，住居数は一様に増加してこの時代のものが中心となる。熊の山遺跡は，平成10年度までの調査で，奈良・平安時代を主として竪穴住居跡1300軒以上，掘立柱建物跡100棟以上が確認された大規模な集落であり，古代河内郡島名郷との関連が注目される。花室川に面した中原遺跡は，同じく平成10年度までの調査で，8世紀以降の竪穴住居跡210軒，掘立柱建物跡59棟が確認され，銅鋺・腰帯具・緑釉陶器・灰釉陶器などが出土した。近隣の西坪遺跡は河内郡衙跡，九重廃寺（東岡遺跡）〈10〉は河内郡の郡寺跡と推定されており，中原遺跡は，これらと関係が深い遺跡と考えられる。

鎌倉幕府の成立後は，小田城に本拠を構えた小田氏が勢力を振るい，近隣一帯を支配下に置いた。武士の活動が活発になるにつれ，各地に城館が築かれた。六十目遺跡の周辺では平井出氏の面野井城跡〈21〉，大津氏

の花室(はなむろ)城跡〈16〉，荒井氏の小野崎館(おのざきやかた)跡〈７〉などが確認されている。当遺跡に隣接した位置には野中瀬氏の苅間(かりま)城跡〈２〉がある。野中瀬氏は小田氏の家臣であったが，天承２年（1574）小田氏と共に滅亡した。苅間城はその後に廃城となったが，今でも堀と思われる跡が残っている。神田遺跡の平成７年度の調査において，城に関連していると思われる掘立柱建物跡と堀が確認された。

参考文献

・大山年次，蜂須紀夫　『茨城県　地学のガイド』　コロナ社　1977年８月

・蜂須紀夫，大森昌衛　『茨城の地質をめぐって』　築地書館　1979年９月

・茨城県教育庁文化課　『茨城県遺跡地図』第２版　茨城県教育委員会　1990年３月

・谷田部の歴史編さん委員会　『谷田部の歴史』　谷田部町教育委員会　1975年９月

・大野　慎　『葛城の郷土史』　常総史談会　1977年３月

・桜村史編さん委員会　『桜村史　上巻』　桜村教育委員会　1982年３月

・筑波町史編纂委員会　『筑波町史　上巻』　筑波町教育委員会　1989年９月

・中山信名　『新編常陸国誌』　崙書房版　1978年12月

・茨城県立歴史館　『茨城県史料　考古資料編　弥生時代』　茨城県　1991年３月

・茨城県史編さん原始古代史部会　『茨城県史料　考古資料編　古墳時代』　茨城県　1974年２月

・茨城県立歴史館　『茨城県史料　考古資料編　奈良・平安時代』　茨城県　1995年３月

・茨城県教育財団　「科学博関連道路谷田部明野線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書　ツバタ遺跡・高山古墳群」　『茨城県教育財団文化財調査報告第22集』　1983年３月

・茨城県教育財団　「研究学園都市計画手子生工業団地造成事業地内埋蔵文化財調査報告書　大境遺跡」　『茨城県教育財団文化財調査報告第34集』　1986年３月

・茨城県教育財団　「主要地方道取手筑波線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書　境松遺跡」　『茨城県教育財団文化財調査報告第41集』　1987年３月

・茨城県教育財団　「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅰ）　柴崎Ⅰ・Ⅱ－１区」　『茨城県教育財団文化財調査報告第54集』　1989年９月

・茨城県教育財団　「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅱ）　柴崎Ⅱ区・中塚遺跡」　『茨城県教育財団文化財調査報告第54集』　1991年３月

・茨城県教育財団　「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅲ）　柴崎遺跡Ⅲ区」　『茨城県教育財団文化財調査報告第72集』　1992年３月

・茨城県教育財団　「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅳ）　柴崎遺跡Ⅱ区・Ⅲ区」　『茨城県教育財団文化財調査報告第93集』　1994年９月

・茨城県教育財団　「（仮称）北条住宅団地建設工事地内埋蔵文化財調査報告書　中台遺跡」　『茨城県教育財団文化財調査報告第104集』　1995年12月

・茨城県教育財団　「（仮称）　葛城地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ　神田遺跡」　『茨城県教育財団文化財調査報告第121集』　1997年３月

・茨城県教育財団　「(仮称)　葛城地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ　神田遺跡」
『茨城県教育財団文化財調査報告第134集』　1998年３月
・茨城県教育財団　「(仮称) 島名・福田坪地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ
熊の山遺跡」　『茨城県教育財団文化財調査報告第120集』　1997年３月
・茨城県教育財団　「(仮称) 島名・福田坪地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ
熊の山遺跡」　『茨城県教育財団文化財調査報告第133集』　1998年３月
・茨城県教育財団　「(仮称) 島名・福田坪地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書
熊の山遺跡」　『茨城県教育財団文化財調査報告第149集』　1999年３月
・茨城県教育財団　「(仮称) 中根・金田台地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ
中谷津遺跡１」　『茨城県教育財団文化財調査報告第139集』　1998年９月
・茨城県教育財団　「(仮称) 中根・金田台地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ
中原遺跡１」　『茨城県教育財団文化財調査報告第155集』　1999年９月
・茨城県教育財団　「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告（Ⅰ）　ヤツノ上遺跡」
『茨城県教育財団文化財調査報告第81集』　1993年３月
・茨城県教育財団　「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告（Ⅱ）　中久喜遺跡」
『茨城県教育財団文化財調査報告第86集』　1993年９月
・茨城県教育財団　「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告（Ⅲ）　東山遺跡」
『茨城県教育財団文化財調査報告第101集』　1995年９月
・茨城県教育財団　「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告（Ⅳ）
馬場遺跡・行人田遺跡」　『茨城県教育財団文化財調査報告書第106集』　1996年３月
・茨城県教育財団　『年報18』　1999年６月
・九重廃寺遺跡調査団　『東岡遺跡－九重廃寺跡調査報告－』　桜村教育委員会　1984年３月

第3章　調査の成果

第1節　遺跡の概要

六十目遺跡は，つくば市のほぼ中央部に位置し，蓮沼川左岸の標高23.0～24.5mの台地上に立地している。調査区は南北約230m，東西約285m，面積19,424㎡である。現況は畑地であり，主として芝畑及び麦畑として利用されていた。当遺跡から南西に300m離れた同一台地の縁辺部に苅間城跡が，また，谷津をはさんで南側の台地上に神田遺跡がある。

今回の調査によって，竪穴住居跡53軒，掘立柱建物跡6棟，地下式壙4基，方形周溝状遺構2基，溝跡29条，土坑144基，粘土採掘坑2基，火葬施設跡2基，井戸跡2基を確認した。古墳時代の遺構は，主に調査区北部で確認された，前期から中期の竪穴住居跡12軒と方形周溝状遺構2基，土坑1基である。当遺跡の中心となる時代は，奈良・平安時代で，竪穴住居跡41軒，掘立柱建物跡6棟が確認された。この時代の遺構分布は，調査区南部で密度が濃く，北に向かうにつれて薄くなる。中・近世の遺構としては，地下式壙4基，火葬施設跡2基を確認した。土坑は，遺物も少なく，年代・性格とも明らかでないものが多い。その中で，調査区東部で確認された一群は，墓壙であった可能性がある。29条確認された溝跡も，一部は苅間城跡と関連があると思われる。

遺物は，遺物収納箱（60×40×20㎝）に76箱出土している。遺物の大部分は古墳時代から奈良・平安時代にかけての土師器・須恵器で，住居跡と竈の覆土及び床面から出土している。古墳時代前期の竪穴住居跡から，南関東系の装飾壺と十王台式の破片が伴って出土している。また，奈良・平安時代の住居跡からは，円面硯，墨書土器，鉄鎌が出土している。

第2節　基本層序の検討

調査区北部（B4e4区）にテストピットを設定して基本土層の観察を行い，第2図に示すような土層堆積状況を確認した。

1層は，暗褐色の表土層で，ローム粒子を少量，赤色粒子を少量含んでいる。粘性は弱く，しまりもあまりない。層厚は10㎝以下である。芝畑であったところは，耕作によって削平されたため確認できず，腐植土層も見られない。

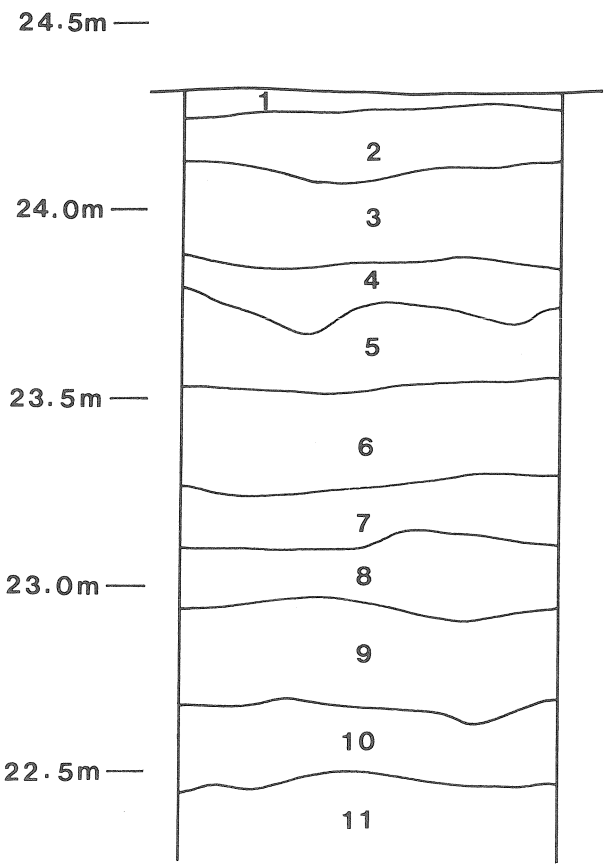
2層は，褐色のソフトローム層で，炭化粒子を極少量含んでいる。層厚は10㎝以下である。

3層は，にぶい褐色をしているハードローム層で，白色粒子を少量，炭化粒子を極少量含んで，しまっている。層厚は4～20㎝である。

4層は，暗褐色のハードローム層で，炭化粒子を少量，白色粒子，赤色スコリア粒子を極少量含んでいる。ハードローム層と思われる地層の下部に堆積した暗褐色土層であることから，第二黒色帯（第2ブラックバンド，BBⅡ）と考えられる。層厚は20～34㎝である。

5層は，明褐色をしたハードローム層で，白色粒子を少量，赤色スコリア粒子を極少量含んでいる。層厚は18～36㎝である。以上が立川ローム，以下が武蔵野ロームに対比されるものと考えられる。

6層は，にぶい褐色をしたローム層で，炭化粒子を極少量含んでいる。層厚は22～34㎝である。



第２図　基本土層図

７層は，褐色をしたローム層で炭化粒子を少量含んでいる。強い粘性があり，しまっている。層厚は10～18cmである。

８層は，にぶい黄燈色をしたローム層である。炭化粒子，灰白色粘土粒子を少量含む。粘性は強く，しまっている。層厚は12～30cmである。

９層は，にぶい褐色をしたローム層である。灰白色粘土粒子と砂粒を中量含んでいる。層厚は20～34cmである。

10層は，黄褐色ローム層で，灰白色粘土の小ブロックと砂粒を多く含む。層厚は16～24cmである。

11層は，黄灰色をした粘土層である。これ以下が，下末吉ロームに対比される常総粘土層と思われる。

住居跡などの遺構は，２層または３層の上面で確認されている。

第３節　遺構と遺物

１　古墳時代の遺構と遺物

今回の調査では，竪穴住居跡12軒，方形周溝状遺構２基，土坑１基が確認された。以下，確認された遺構の特徴や遺物について記載する。

（１）竪穴住居跡

第１号住居跡（第３図）

位置　調査区域の北部，Ａ５i1区。

重複関係　第１号溝跡が，本跡の北東壁と床面を掘り込んでいることから，本跡の方が古い。

規模と平面形　長軸5.61m，短軸（3.50）mである。本跡の東部が破壊されているが，平面形は方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－43°－E

壁　壁高は６～10cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北西壁から南西壁にかけて巡る。断面はU字形で，上幅15～19cm，下幅６～12cm，深さは10～17cmである。

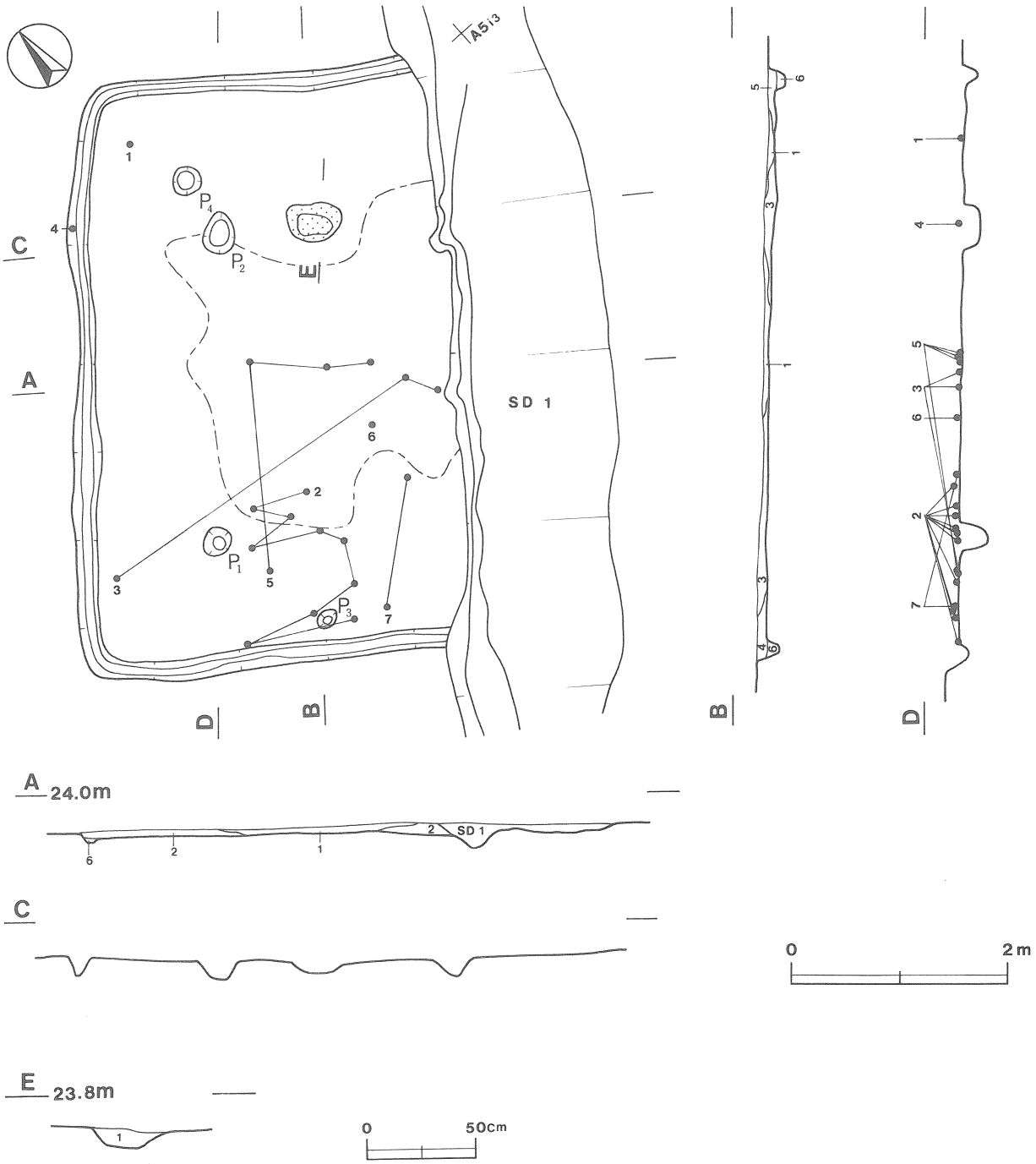
床　全面がローム質で，平坦で，しまっている。中央部は踏み固められている。

炉　炉は北東壁寄りに位置する。長軸51cm，短軸36cmの楕円形で，深さ10cmの地床炉である。炉の長軸は，住居跡の主軸にほぼ直交する。 炉床は全体に火を受けて赤変しており，南西側の壁が硬化している。

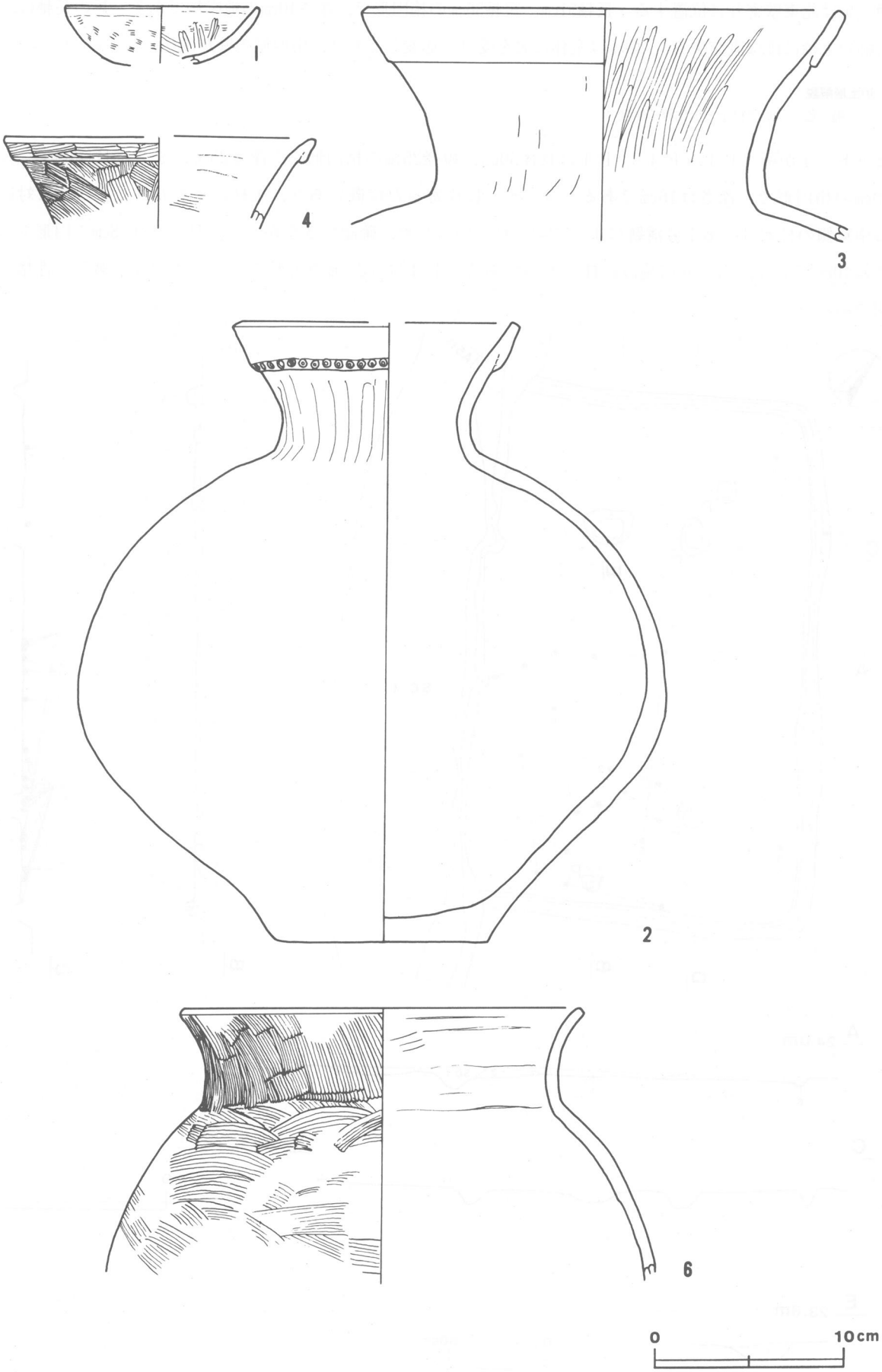
炉土層解説

1　褐　色　　焼土粒子・炭化粒子少量

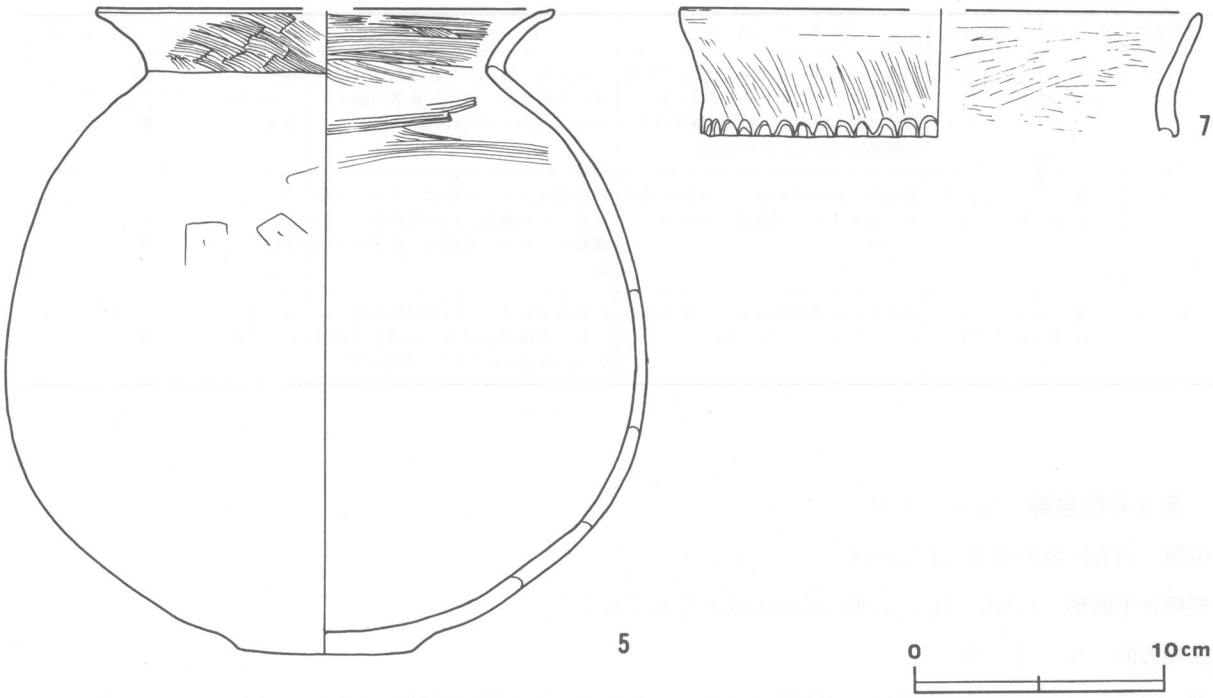
ピット　４か所（Ｐ１～Ｐ４）。Ｐ１は長径30cm，短径25cmの楕円形で，深さ26cm，Ｐ２は長径35cm，短径30cmの楕円形で，深さは16cmである。コーナーに片寄った位置にあり，主柱穴と思われる。これに対応する南東側の柱穴は，第１号溝跡によって切られているため，確認できなかった。Ｐ３は径18cmの円形で，深さは10cmであり，出入り口施設に伴うものである。Ｐ４は径25cmの円形で，深さは10cmである。性格は不明である。



第３図　第１号住居跡実測図



第４図　第１号住居跡出土遺物実測図（１）



第5図　第1号住居跡出土遺物実測図（2）

覆土　6層からなる。レンズ状に堆積し，自然堆積と思われる。第6層は壁溝の覆土である。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量	4	暗褐色	ローム粒子少量，粘性・しまり弱
2	褐　色	ローム粒子中量	5	暗褐色	ローム粒子中量
3	褐　色	ローム中ブロック・同粒子中量	6	褐　色	ローム粒子中量

遺物　土師器片366点，陶器片1点が出土している。第4図1は，底部を穿孔された椀で，精選された胎土を持つ。北コーナー付近の床面から，逆位の状態で出土している。2・3はともに折返し口縁を持つ壺である。2は床面上1～5㎝の高さで，出入り口付近の比較的広い範囲から破片となって出土している。口縁部下端に竹管による円形の刺突文を施し，胴部に赤彩された痕跡を残す。3は，口縁部を下に向けた状態で，北西壁際の床面上から出土している。

所見　本跡の時期は，出土した土器から4世紀前半と考えられる。

第1号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第4図 1	椀 土師器	A　10.0 B　(3.0)	底部欠損。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ハケ目調整後，丁寧なナデ。体部内面横ナデ後，磨き。	砂粒・極小白色粒子 明褐色 普通	P1　80% PL37 床面
2	壺 土師器	A　[14.9] B　32.3 C　11.0	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は球形で，最大径を中位に持つ。口縁部は折り返し口縁で，外傾して立ち上がる。	口縁部横ナデ。口縁折返し部下端に竹管による円形刺突文。頸部外面ヘラナデ。体部外面ナデ。肩部に赤彩痕有り。頸部～底部内面剥離が激しく調整不明。	砂粒・石英・スコリア・極小白色粒子 にぶい橙色 普通	P2　70% PL37 床面
3	壺 土師器	A　24.4 B　(11.9)	口縁部の破片。口縁部は折り返し口縁で，頸部から口縁部にかけて緩やかに外反して立ち上がる。	口縁端部～口縁部外面ナデ。口縁部下端～頸部外面ヘラケズリ後，ナデ。口縁部内面磨き。体部内面剥離が激しく調整不明。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P3　35% PL37 床面
4	壺 土師器	A　[16.0] B　(4.7)	口縁部の破片。口縁部は折り返し口縁で，外傾して立ち上がる。	口縁端部ナデ。口縁部外面ハケ目調整。口縁部内面ナデ，一部にハケ目調整を残す。	砂粒・スコリア にぶい橙色 普通	P4　20% 床面

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第5図 5	甕 土師器	A　[17.9] B　25.2 C　6.8	口縁部・体部一部欠損。平底。体部はほぼ球形で，最大径を中位に持つ。頸部は強く屈曲し，輪積み痕を残す。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面ハケ目調整。体部外面ヘラ削り後，ナデ。体部内面ナデの後，一部にハケ目調整。	砂粒 にぶい橙色 普通	P5　50% PL37 覆土下層
第4図 6	甕 土師器	A　20.4 B　(14.2)	頸部から口縁部の破片。頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁端部ナデ。口縁部～体部上半部外面ハケ目調整。口縁部内面ハケ目調整後，ナデ。頸部内～体部上半内面ナデ。	砂粒・スコリア・白色粒子 明褐色　良	P6　35% PL37 覆土下層
第5図 7	甕 土師器	A　[20.5] B　(4.9)	頸部から口縁部の破片。口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。	口縁端部横ナデ。口縁部外面弱いハケ目。口縁部内面ハケ目調整。頸部外面に輪積み痕を残し，指頭圧痕。	砂粒。スコリア にぶい褐色 良	P7　10% 覆土中層

第3号住居跡（第6・7図）

位置　調査区域の北部，B4f6区。

規模と平面形　長軸6.71m，短軸6.65mの隅丸方形である。

主軸方向　N－53°－W

壁　壁高は14～30cmで，北東壁・南東壁は垂直に，北西壁・南西壁は外傾して立ち上がる。

壁溝　壁際を全周し，断面はU字形である。上幅12～20cm，下幅4～10cmで，深さは10～12cmである。

床　東側コーナー付近が一部撹乱により破壊されている。全面がローム質であり，平坦で，良くしまっている。中央部は踏み固められている。

炉　重複して2基確認され，P1とP4のほぼ中間に位置する。炉1の南東側が炉2によって破壊されていることから，両者の新旧関係は炉1→炉2の順と判断した。炉1は，長径（67）cm，短径50cmの楕円形で，深さ7cmの地床炉である。炉2は，長径65cm，短径52cmの楕円形で，深さ8cmの地床炉である。それぞれの炉の長軸は，住居跡の主軸とほぼ平行する。2基とも焼土が堆積し，底面は熱を受けて硬化している。

炉土層解説

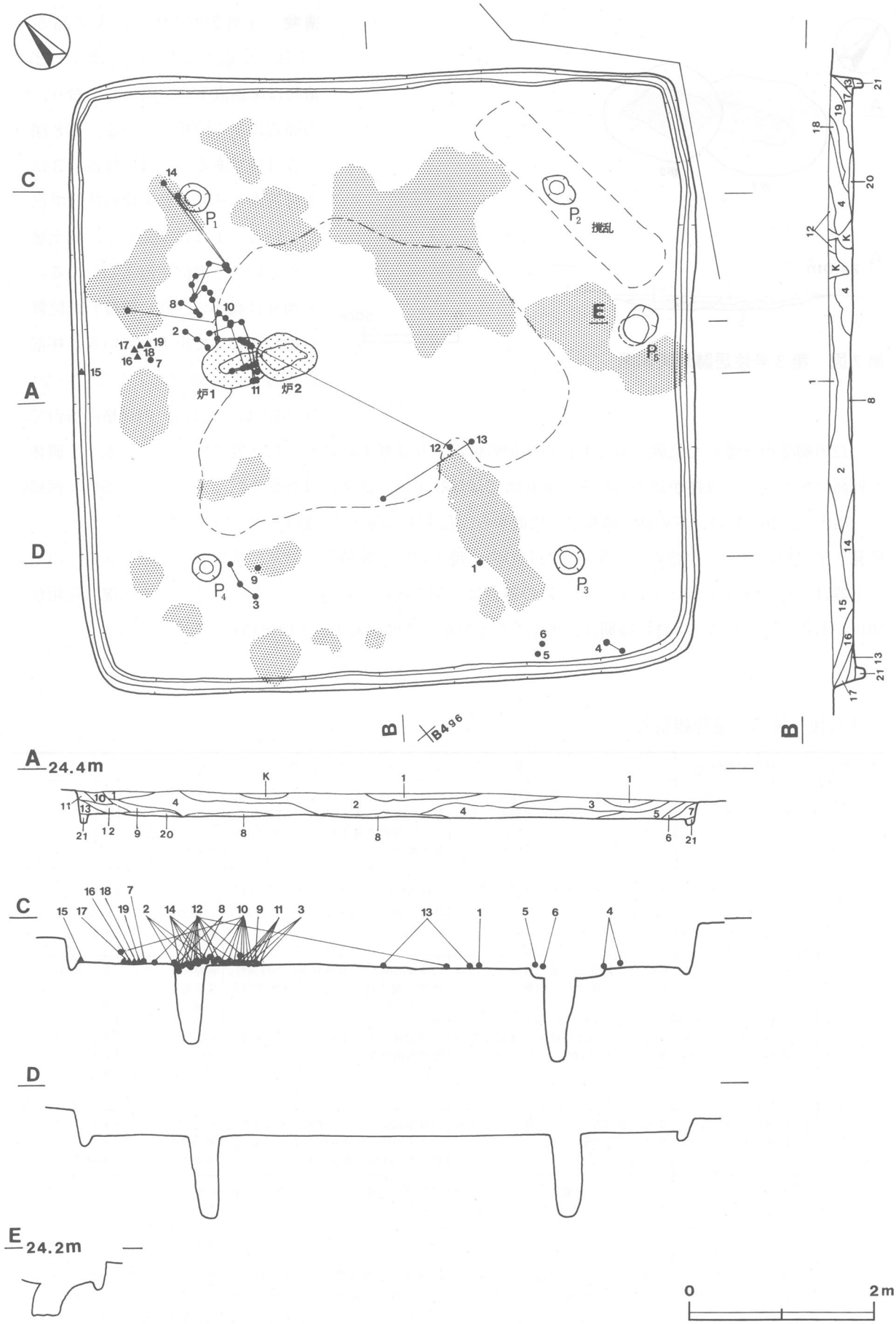
1　にぶい赤褐色　焼土小ブロック中量，ローム中ブロック少量，粘性弱
2　燈　色　焼土大ブロック多量，粘性弱
3　暗赤灰色　焼土小ブロック少量，粘性・しまり弱
4　燈　色　焼土大ブロック多量，粘性・しまり弱

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は，各コーナーに偏った位置にあり，主柱穴と思われる。平面形は，P2が長径36cm，短径28cmの楕円形，その他は径30～32cmの円形である。柱穴の深さは，86～106cmである。P5は，長径40cm，短径34cmの楕円形で，深さは32cmである。断面は長方形で，住居跡の外側に向かって傾斜して掘り込まれていることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

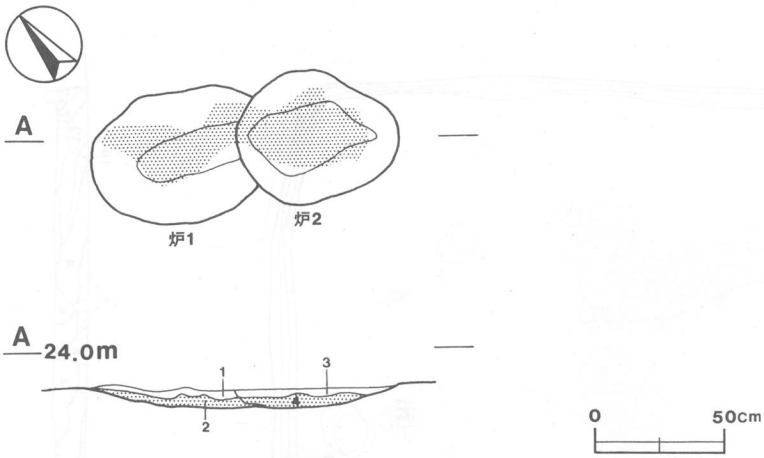
覆土　21層からなる。ロームブロックを含む層が多く，屋外から内部に向かって土砂を投げ込んだような不自然な堆積状況が見られることから，人為堆積と思われる。また床面直上には，焼土層（第20層）が広く薄く堆積している。

土層解説

1　暗褐色　ローム中ブロック微量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量，しまり強
5　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，しまり強
6　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量，焼土中ブロック微量，粘性弱
7　暗褐色　炭化粒子中量，焼土粒子少量
8　極暗褐色　炭化粒子中量
9　暗褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
10　暗褐色　焼土大ブロック中量，しまり弱
11　極暗褐色　焼土粒子少量，炭化粒子微量，粘性・しまり弱
12　褐　色　ローム粒子多量，ローム大ブロック・同小ブロック少量，粘性強
13　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
14　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量，赤色粒子少量
15　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子少量
16　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
17　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
18　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
19　暗褐色　ローム粒子多量，ロームブロック中量
20　橙　色　焼土小ブロック・同粒子多量
21　褐　色　ローム粒子多量



第6図　第3号住居跡実測図



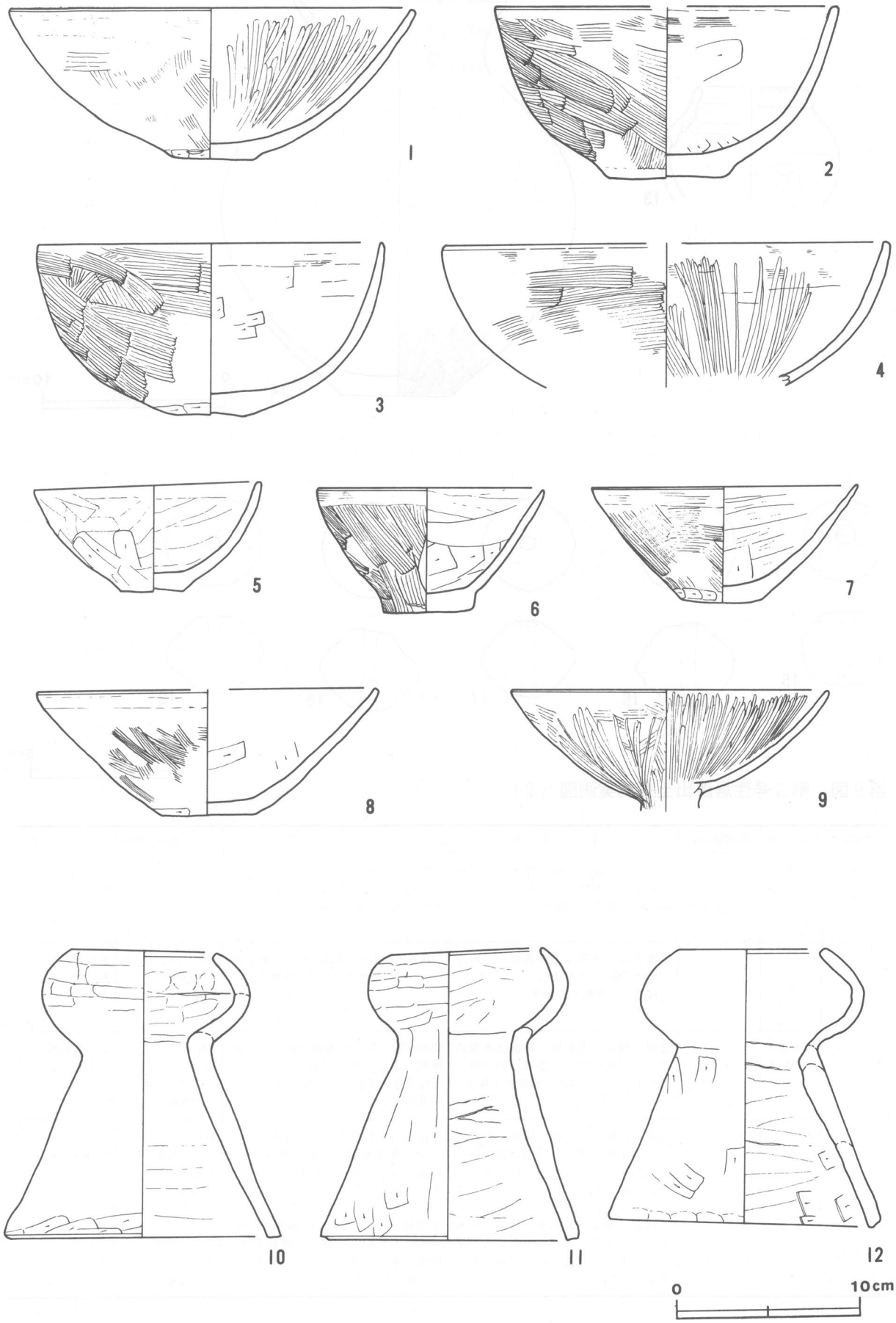
第７図　第３号住居跡炉実測図

遺物　土師器片289点，土製品５点（土錘）が出土している。ほとんどの遺物は床面直上から出土しており，炉の周辺に多く分布している。第８図１～３は椀である。２は炉付近，３はＰ４付近からそれぞれ逆位の状態で出土している。１はほぼ完形で，焼土層の下から同じく逆位で出土している。第８図９は高坏で，３に隣接した位置から細片となって出土している。坏部だけが接合し，脚部は出土していない。10～12は，ほぼ同一の規格の器台である。12の脚部のみ離れた位置にあるものの，炉の付近より３個南北に並んだ状態で出土している。３個体とも外面に熱を受けた痕跡が認められる。第９図15は球状土錘，16～19は算盤玉状土錘である。15は北西壁際から出土し，16～19は，７の鉢に隣接した位置から，孔を上に向けて４個並んで出土している。

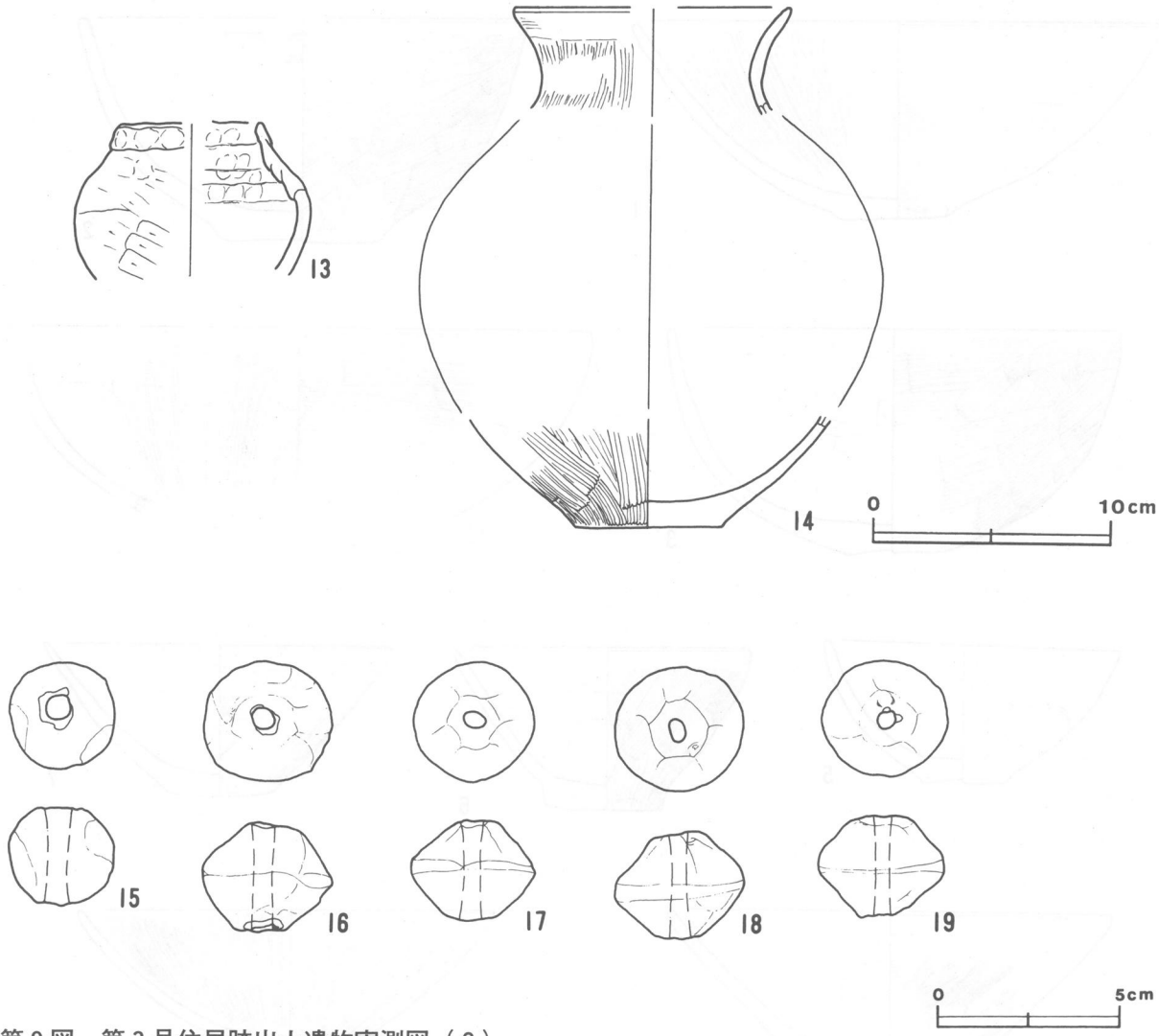
所見　炭化材はほとんど認められなかったものの，焼土が広く堆積しており，焼失家屋と思われる。出土した土器は，椀と鉢を主としている。10～12の器台は，炉の周辺から出土しており，その出土状況は使用法と関係があると思われる。本跡の時期は，出土した土器から３世紀末から４世紀初めと考えられる。

第３号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第８図 1	椀 土師器	A　21.7 B　8.0 C　4.6	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて緩やかに内彎して立ち上がる。	口縁端部横ナデ。口縁部外面ヘラ削り後，ナデ。体部外面ハケ目調整後，ナデ。体部下端手持ちヘラ削り。体部内面磨き。	砂粒・スコリア・雲母 にぶい赤褐色 普通	Ｐ10　80% ＰＬ37 床面
2	椀 土師器	A　18.4 B　9.1 C　6.6	体部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて緩やかに内彎して立ち上がる。	口縁端部横ナデ。体部外面ハケ目調整。体部内面ヘラ削り後，ナデ。底部内面ヘラ削り。	砂粒・スコリア・極小白色粒子 明褐色　普通	Ｐ8　60% ＰＬ37 床面
3	椀 土師器	A　18.5 B　9.2 C　4.0	体部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて緩やかに内彎して立ち上がる。	口縁端部横ナデ。体部外面ハケ目調整。体部下端手持ちヘラ削り。体部内面ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・スコリア 暗灰黄色 普通	Ｐ9　60% ＰＬ38 床面
4	椀 土師器	A　[23.6] B　(7.6)	口縁部から体部の破片。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ハケ目調整。体部内面磨き。	砂粒・スコリア・白色粒子 橙色　良	Ｐ15　30% ＰＬ37 床面
5	小形椀 土師器	A　12.1 B　5.8 C　3.3	体部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁端部横ナデ。口縁部・体部外面ヘラナデの後，体部外面下半に一部ヘラ削り。口縁部・体部内面ヘラナデ。	砂粒 明赤褐色 普通	Ｐ13　80% ＰＬ37 床面
6	鉢 土師器	A　12.1 B　6.6 C　4.8	完形。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部外面横ナデ。体部外面ハケ目。体部内面ヘラ削り後，ヘラナデ。	砂粒・スコリア・雲母 にぶい赤褐色 普通	Ｐ11　100% ＰＬ37 床面
7	鉢 土師器	A　14.4 B　6.2 C　4.5	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目。体部下端手持ちヘラ削り。体部内面ヘラ削り後，上半部をヘラナデ。	砂粒・スコリア・雲母 暗赤褐色　普通	Ｐ12　90% ＰＬ38 床面



第８図　第３号住居跡出土遺物実測図（１）



第9図　第3号住居跡出土遺物実測図（2）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第8図 8	鉢 土師器	A　[18.2] B　6.7 C　4.8	体部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がり，口縁端部に面取りを施す。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目後，ナデ。体部下端手持ちヘラ削り。体部内面ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・スコリア・白色粒子 にぶい赤褐色 良	P14　40% 覆土中層
9	高　坏 土師器	A　17.1 B　(6.3)	脚部欠損。坏部は，体部から口縁部にかけて緩やかに内彎して立ち上がり，口縁端部に面取りを施す。	口縁端部横ナデ。坏部外面ヘラ削り後，ナデ。その後磨き。坏部内面磨き。	砂粒・スコリア・極小白色粒子 黒褐色　普通	P16　45% PL38 床面
10	異形器台 土師器	A　7.8 B　15.5 D　13.3	受部・脚部一部欠損。脚部は直線的にハの字状に開く。受部は胴の張った球形で，口縁端部に面取りを施す。	受部外面ヘラナデ。脚部外面ナデの後，脚部下端に一部ヘラ削り。受部上半部内面指頭圧痕，下半部ナデ。 脚部内面ヘラナデ。	砂粒・スコリア・雲母 灰白色　普通 二次焼成有	P17　95% PL38 床面
11	異形器台 土師器	A　8.0 B　15.7 D　12.7	受部・脚部一部欠損。脚部は直線的にハの字状に開く。受部は胴の張った球形を呈しており，口縁端部に面取りを施す。	口縁部内・外面ナデ。受部外面ヘラナデ。脚部外面ヘラ削り後，ナデ。脚部下端に一部ヘラ削り。受部内面ナデ。脚部内面ヘラナデ。	砂粒・スコリア にぶい橙色 普通 二次焼成有	P18　90% PL38 床面
12	異形器台 土師器	A　7.6 B　15.0 D　13.4	口縁部・脚部一部欠損。脚部は直線的にハの字状に開く。受部は胴の張った球形を呈しており，口縁端部に面取りを施す。	受部外面ナデ。脚部外面ナデの後，一部にヘラ削り・磨き。脚部下端は指頭圧痕。受部内面ナデ。脚部内面ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・スコリア にぶい橙色 普通 二次焼成有	P19　80% PL38 床面

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第9図 13	小形無頸壺 土師器	A　[5.8] B　(6.3)	口縁部から体部の破片。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面指頭圧痕。口縁部外面に輪積み痕を残す。体部外面ヘラ削り。体部内面上半は輪積み痕を残し，指頭圧痕。下半部ナデ。	砂粒・スコリア・雲母 にぶい褐色 良	P21　30% 床面
14	甕 土師器	A　[11.4] B　[22.5] C　6.1	口縁部から頸部，底部の破片。平底。体部は球形を呈すると思われる。頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は緩やかに外反しながら立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。頸部・体部下半ハケ目調整。内面は剥離が激しく調整不明。	砂粒・スコリア・雲母 にぶい橙色 良	P20　30% 覆土下層

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第9図15	球状土錘	2.9	2.7	0.7	18.9	北西壁際床面	DP1　PL53
16	算盤玉状土錘	3.6	3.0	0.6	25.9	炉北西側床面	DP2　PL53
17	算盤玉状土錘	3.3	2.8	0.6	19.8	炉北西側床面	DP3　PL53
18	算盤玉状土錘	3.5	3.0	0.6	25.1	炉北西側床面	DP4　PL53
19	算盤玉状土錘	3.5	2.8	0.5	21.6	炉北西側床面	DP5　PL53

第4号住居跡（第10図）

位置　調査区域の北部，B3g5区。

規模と平面形　長軸6.33m，短軸5.45mの隅丸長方形である。

主軸方向　N－31°－W

壁　壁高は38～44cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　壁際を全周し，断面はU字形である。上幅16～26cm，下幅6～13cm，深さは5～10cmである。

床　全面ローム質で，平坦である。P5から炉1にかけて踏み固められている。

炉　2基確認されている。炉1は，北西壁寄り，P1とP4の中間に位置する。長径85cm，短径51cmの楕円形で，深さは13cmの地床炉である。炉の長軸は，住居跡の主軸とほぼ一致する。炉床は，火を受けて硬化している。

炉1土層解説

1　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子中量
2　にぶい褐色　焼土小ブロック・同粒子多量，炭化粒子中量，粘性・しまり弱

炉2は，P2に隣接して構築されている。長軸70cm，短軸57cmの隅丸長方形で，深さは12cmの地床炉である。炉の長軸は，住居跡の主軸とほぼ一致する。炉床は，火を受けて硬化している。

炉2土層解説

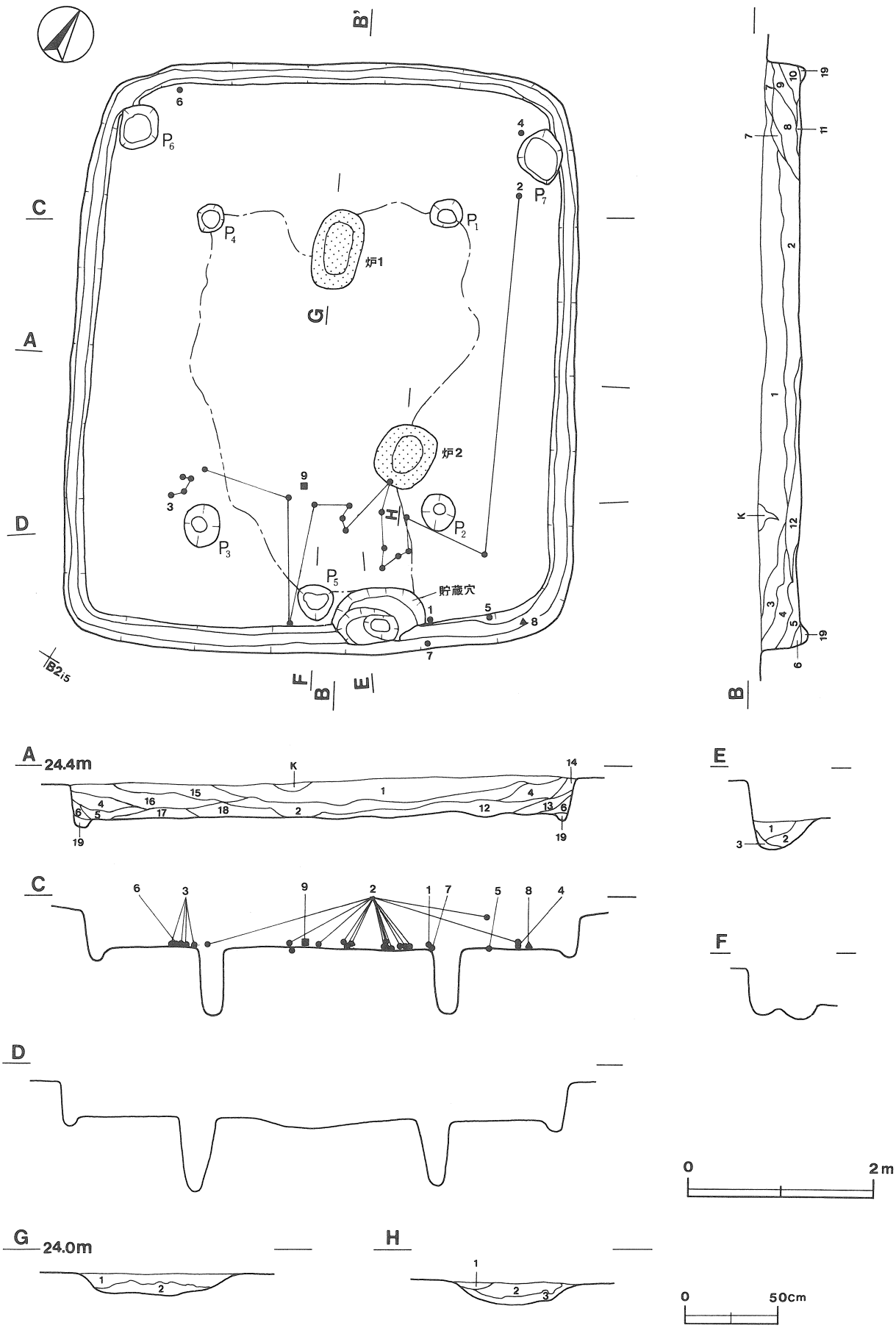
1　暗褐色　焼土粒子少量，炭化物微量
2　褐色　焼土中ブロック・同粒子多量，粘性弱
3　にぶい褐色　焼土粒子多量

貯蔵穴　南東壁に接し，P5の東側に位置する。長径98cm，短径58cmの楕円形で，深さは36cmである。

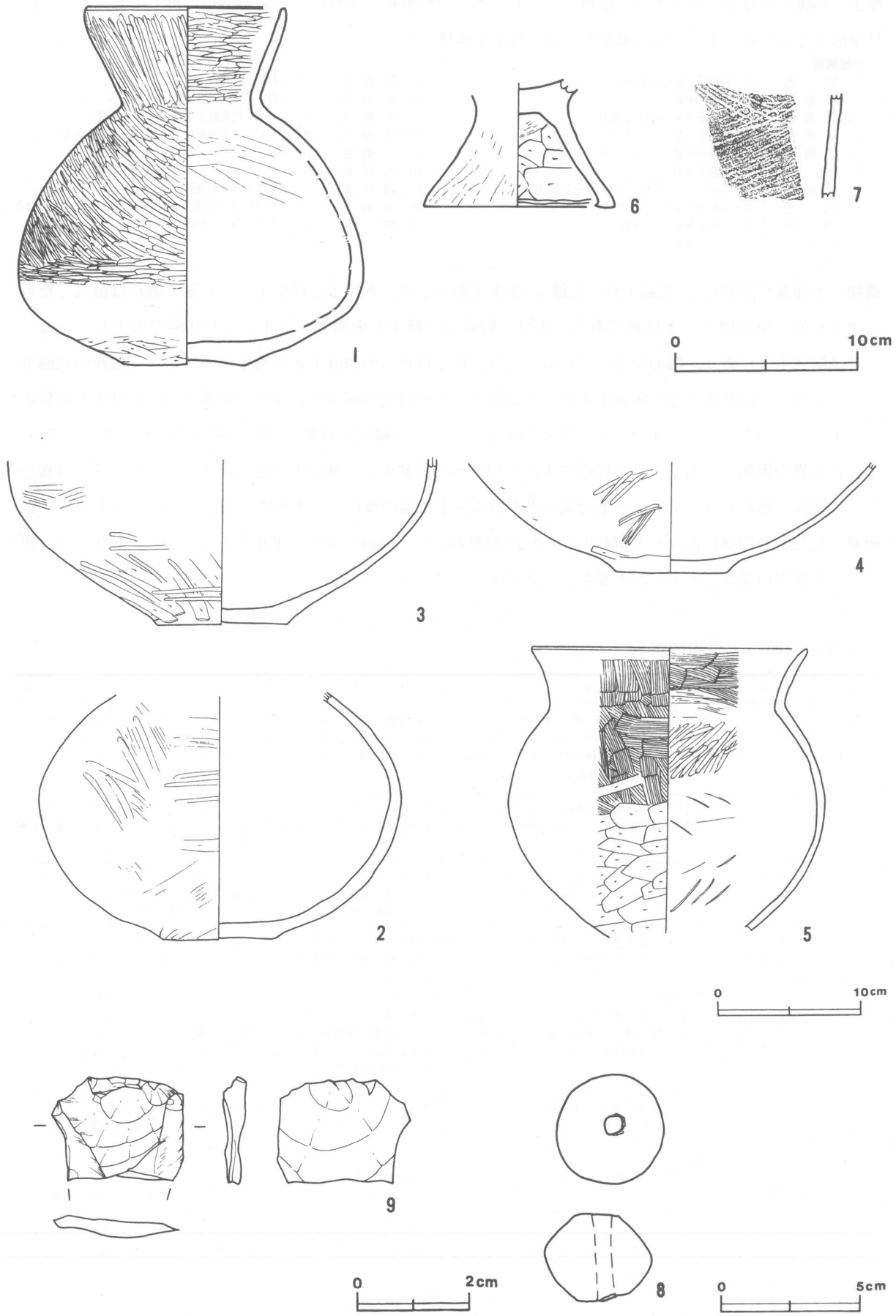
貯蔵穴土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量
2　暗褐色　ローム粒子微量
3　褐色　ローム粒子中量

ピット　7か所（P1～P7）。P1～P4は，各コーナーに偏った位置にあることから主柱穴と思われる。P1・P4は長径30～35cm，短径25～30cmの楕円形，P2・P3は長径40～45cm，短径35～37cmの同じく楕円形である。深さは，74～84cmである。P5は，直径36cmの円形で，深さは15cmである。出入り口施設にともなうピットである。P6・P7は，それぞれ北西壁のコーナー付近に位置し，長径52～58cm，短径42～47cmの楕円形で，深さは13～16cmである。P1～P4よりも浅く，性格は不明である。



第10図　第４号住居跡実測図



第11図　第４号住居跡出土遺物実測図

覆土　18層からなる。レンズ状に堆積しているため，自然堆積と思われる。床面上から覆土中層にかけて炭化材が出土している。また一部の床面上には，焼土が堆積している。

土層解説

1　黒　　色　　ローム粒子・赤色粒子少量
2　黒 褐 色　　ローム粒子中量
3　黒 褐 色　　ローム粒子中量，赤色粒子微量
4　暗 褐 色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　黒 褐 色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
6　褐　　色　　ローム粒子多量
7　暗 褐 色　　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，粘性・しまり弱
8　褐　　色　　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量
9　褐　　色　　ローム粒子多量，しまり弱
10　暗 褐 色　　ローム粒子多量
11　暗 褐 色　　ローム粒子・炭化粒子中量
12　暗 褐 色　　ローム粒子多量，炭化粒子中量
13　暗 褐 色　　ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子少量
14　黒 褐 色　　焼土小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子少量
15　黒 褐 色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
16　暗 褐 色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック・砂粒少量
17　暗 褐 色　　ローム粒子中量，粘性強
18　暗 褐 色　　ローム粒子中量，炭化粒子・砂粒少量，ローム中ブロック微量
19　褐　　色　　ローム粒子中量，粘性強

遺物　土師器片360点，土製品１点（土錘），弥生土器片２点，剥片１点が出土している。剥片は混入したものと思われる。第11図１～４は壺である。１は，貯蔵穴に接する床面上から正立した状態で出土している。最大径は胴部下半にあり，瓢形を呈している。２は，炉２付近の床面直上から覆土下層にかけて破片の状態で出土している。３はＰ３付近の床面上から，４は北コーナー付近の床面上約４cmの位置から，それぞれ正位の状態で出土している。５は，東コーナー付近の床面上から，口縁部を壁側に向けて横位の状態で出土している。６は台付甕の脚部で，西コーナー付近の床面上約２cmの位置から，横位の状態で出土している。５とは接合せず，別個体と思われる。７は，十王台式と思われる弥生土器の破片で，南壁際の覆土下層から出土している。

所見　炭化材が内側に向かって倒れかけた状況が認められ，床面に焼土が堆積することから，焼失住居と思われる。本跡の時期は，出土した土器から４世紀前半と考えられる。

第４号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第11図 1	壺 土師器	A　10.5 B　19.3 C　6.5	完形。平底。体部は卵形で，下位に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外傾し，口縁端部付近でほぼ垂直に立ち上がる。	口縁端部ナデ。口縁部内面磨き。口縁部～体部外面上半磨き。体部外面下半ナデ。体部下端ヘラ削り。体部内面ナデ。	長石 明褐色 良	Ｐ23　100% ＰＬ38 床面
2	壺 土師器	B　(17.5) C　8.0	口縁部・頸部欠損。平底。体部はやや扁平な球形で，中位に最大径を持つ。	体部外面丁寧なナデの後，一部磨き。体部内面剥離が激しく調整不明。	砂粒・スコリア にぶい褐色 良	Ｐ24　50% 床面～覆土下層
3	壺 土師器	B　(12.0) C　9.3	体部下半から底部の破片。平底。体部はやや扁平な球形と思われる。	体部外面ヘラ削り後，ナデ。その後一部に磨きを施す。体部内面剥離が激しく調整不明。	砂粒・スコリア 橙色 良 外面黒斑 有	Ｐ25　45%
4	壺 土師器	B　(7.9) C　8.1	体部下半から底部の破片。平底。体部は球形と思われる。	体部外面ナデの後，一部磨き。体部内面剥離が激しく調整不明。	砂粒・白色粒子 にぶい黄橙色 良	Ｐ26　35% 覆土下層
5	甕 土師器	A　19.8 B　(20.6)	底部欠損。体部は球形で，中位に最大径を持つ。頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は若干外反して立ち上がる。	口縁端部ナデ。口縁部～体部外面上半ハケ目調整。体部外面下半ヘラ削り。口縁部内面ハケ目調整。体部内面上半磨き。体部内面下半ヘラ削り後，ナデ。	白色粒子・赤色粒子 褐色 良	Ｐ30　90% ＰＬ38 床面
6	台付甕 土師器	B　(6.9) D　10.4 E　5.0	脚部の破片。脚部は緩やかに外反しながら広がる。	脚部外面ナデ。底部内面ナデ。脚部内面ヘラ削り。	砂粒・スコリア にぶい黄褐色 普通	Ｐ31　20% 覆土下層
7	壺 弥生土器	B　(6.3)	体部の破片。外傾して立ち上がる。	附加条第一種（附加１条）の縄文を羽状に施す。	砂粒・白色粒子 にぶい黄褐色 普通	ＴＰ２ 覆土下層

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第11図８	球状土錘	3.9	3.2	0.7	36.1	東コーナー床面	ＤＰ６

図版番号	種　別	計　測　値				出　土　地　点	備　　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第11図9	剥　片	1.9	2.4	0.4	1.22	覆土中	Q1　チャート　PL54

第5号住居跡（第12図）

位置　調査区域の北西部，B2g8区。

重複関係　第24号溝が住居跡の壁を破壊していることから，本跡の方が古い。

規模と平面形　遺構の大半が調査区域外にあり，全形は明らかではないが，南壁及び調査された東西の壁が直線的であり，コーナーがやや丸みを帯びることから隅丸方形または隅丸長方形と推定される。規模は，調査された範囲で東西4.26m，南北（1.73）mである。

主軸方向　N－20°－W

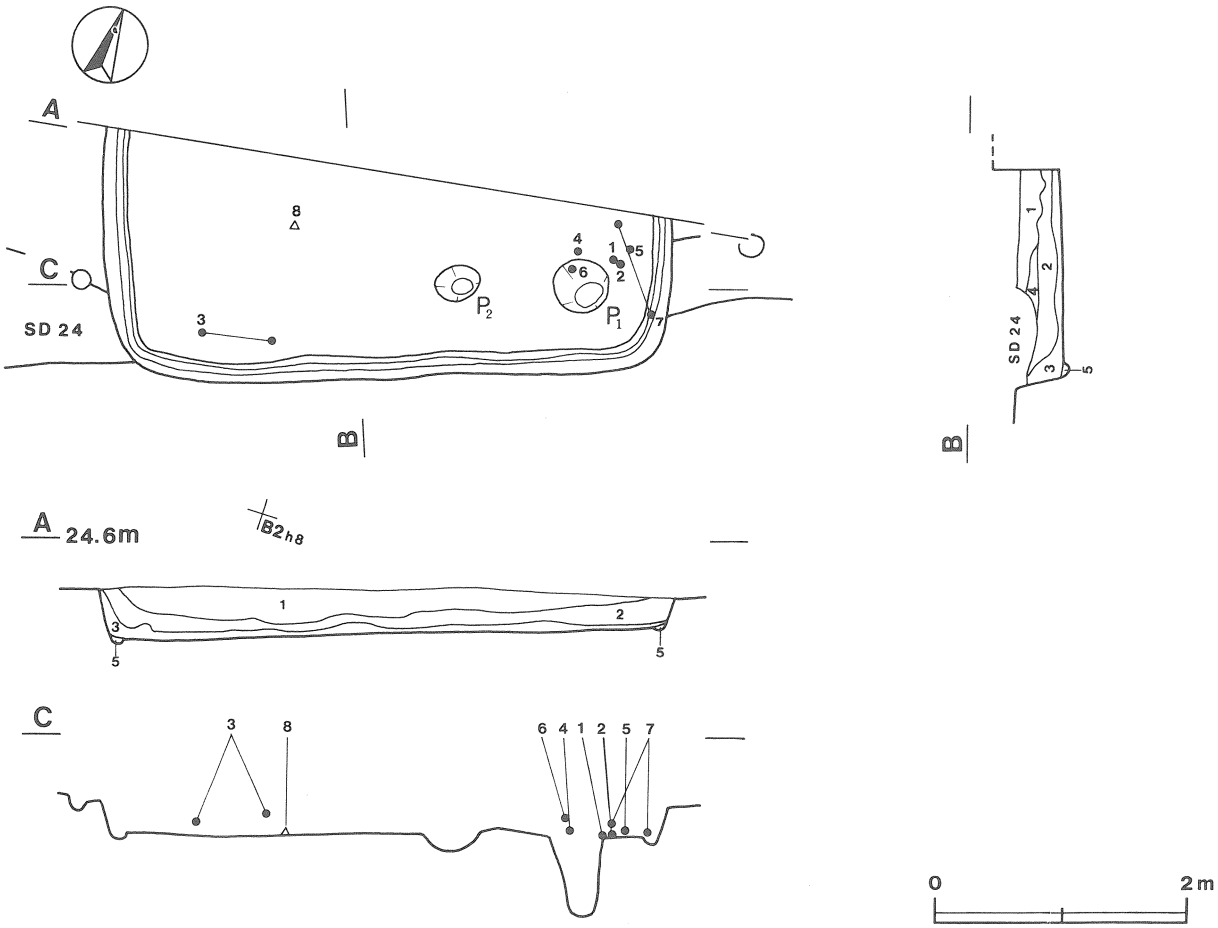
壁　壁高は26～39cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　断面はU字形で，上幅14～20cm，下幅4～6cm，深さは4～8cmである。

床　ローム質で，平坦である。やや軟弱である。

ピット　2か所（P1・P2）。P1は径45cmの円形で，深さは63cmである。南東コーナー寄りに位置し，主柱穴と思われるが，これに対応する西側のピットは確認されなかった。P2は長径39cm，短径30cmの楕円形で，深さは17cmである。出入り口施設に伴うピットと思われる。

覆土　5層からなる。レンズ状に堆積するため，自然堆積と考えられる。

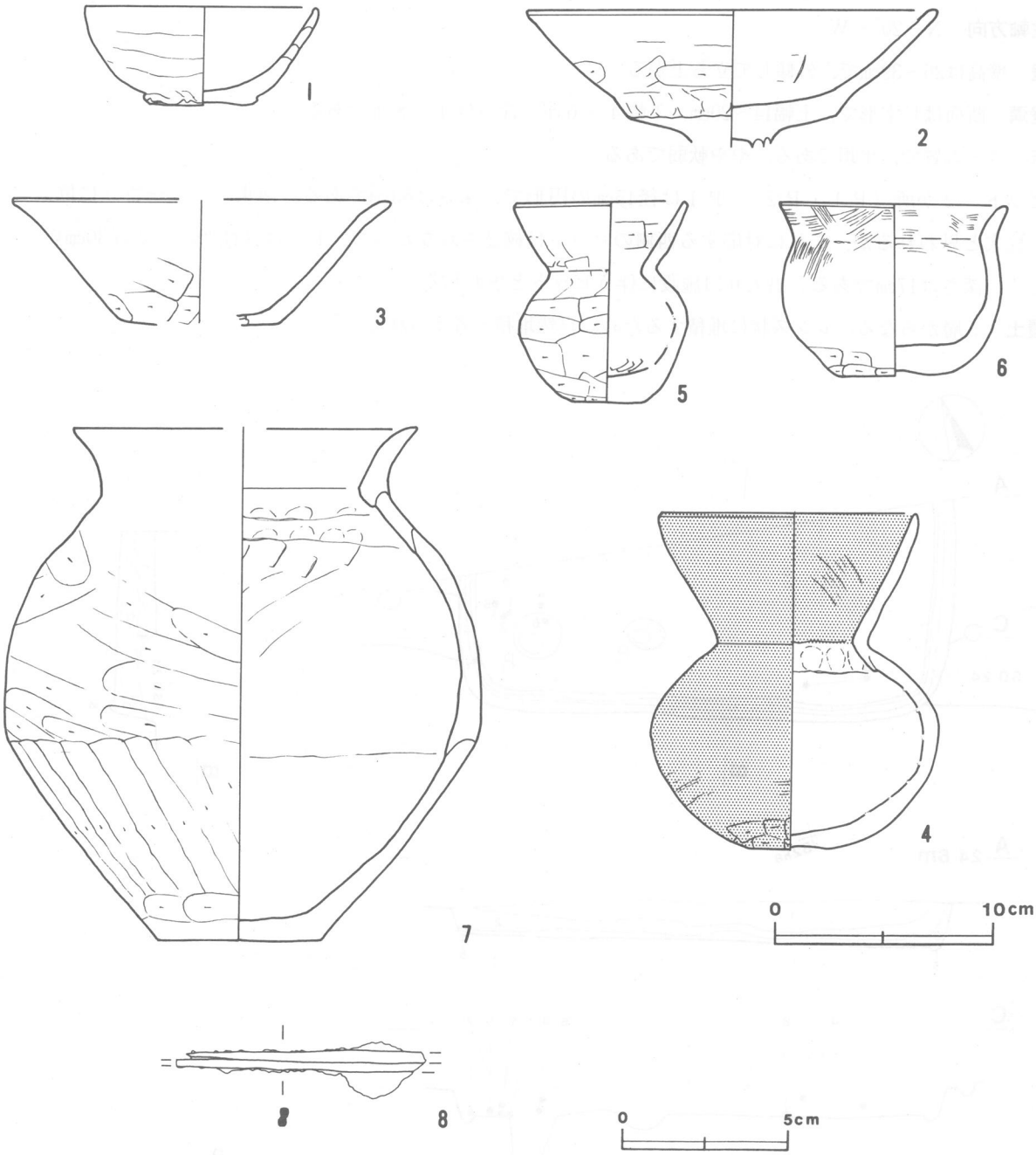


第12図　第5号住居跡実測図

土層解説

1	黒褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量	4	灰褐色	ローム大ブロック中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
2	暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	5	褐色	ローム粒子中量
3	暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量			

遺物　土師器片84点，鉄製品１点，須恵器片11点，灰釉陶器片２点が出土している。須恵器片，灰釉陶器片は，混入と思われる。第13図１・２・４・６は，Ｐ１北側の上端部に沿って出土している。１・２は，２を下に，正位に重なった状態で出土している。１・２は，意図的に重ねられたと思われる。１は土師器の椀，２・３は土師器高坏の坏部である。２は脚部との接合面が摩耗しており，高坏本来の目的とは別の用途に使用された可能性がある。３は，南西コーナー近くの覆土中層からの出土である。４・５は土師器坩である。４は床面上15cmの位置から正位の状態で，５は床面上４cmの位置から横位の状態で出土している。６は土師器小形甕で，床面上15cmの位置から逆位の状態で出土している。７は土師器甕で，南東コーナー付近の覆土下層から横位の状態で出土している。



第13図　第５号住居跡出土遺物実測図

所見　本跡の時期は，出土した土器の特徴から５世紀前半と考えられる。

第５号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第13図 1	椀 土師器	A　10.2 B　4.4 C　4.6	完形。平底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。体部外面ナデ，輪積み痕を残す。体部内面ナデ，底部付近剥落のため調整不明。	砂粒・石英・雲母・白色粒子 にぶい黄褐色 良	P32　100% PL39 内面炭化物付着 覆土下層
2	高　坏 土師器	A　18.4 B　(6.2)	脚部欠損。坏部外面下端に稜を持つ。口縁部は若干内彎して立ち上がる。	口縁端部横ナデ。口縁部外面ヘラ削り後，ナデ。坏部下端～脚部との接合部付近ナデ。坏部内面ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・石英・雲母・白色粒子 にぶい黄褐色 良	P33　50% PL39 床面
3	高　坏 土師器	A　[16.8] B　5.6	脚部欠損。坏部外面下端に稜を持つ。口縁部は外傾して立ち上がり，口縁端部付近で若干外反する。	口縁部内・外面ナデ。坏部外面下半以下ヘラ削り。坏部内面底部付近は剥落が激しく調整不明。	砂粒・石英 赤褐色 普通	P34　40% 覆土中層
4	坩 土師器	A　17.3 B　15.3 C　3.6	口縁部一部欠損。平底。体部は扁平な球形で，中位に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外傾し，口縁端部付近でほぼ直立する。	口縁部～体部外面下位ナデ。体部下端手持ちヘラ削り。口縁部～頸部内面ヘラ削り後，ナデ。頸部内面下位に輪積み痕を残し，指頭圧痕。体部内面剥落が激しく調整不明。口縁部内・外面・体部外面赤彩。	砂粒・石英・雲母 にぶい褐色 良 外面黒斑　有	P35　90% PL39 覆土中層
5	坩 土師器	A　7.6 B　9.1 C　3.1	完形。平底。体部は算盤玉状を呈している。頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外傾して立ち上がり，口縁端部に面取りを施す。	口縁端部横ナデ。口縁部～体部外面ヘラ削り。口縁部内面ヘラ削り後，ナデ。体部内面ナデ。底部内面ヘラ削り。	砂粒・石英・スコリア・長石 にぶい橙色 普通	P36　100% PL39 覆土中層
6	小形甕 土師器	A　10.3 B　7.9 C　5.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は若干外反して短く立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。体部下端手持ちヘラ削り。体部内面一部剥落，ヘラ削り。	砂粒・白色粒子 にぶい黄褐色 良	P38　90% PL39 覆土中層
7	甕 土師器	A　[15.4] B　23.1 C　[7.2]	口縁～底部一部欠損。平底。体部は縦長の算盤玉状を呈している。頸部内面に稜を持つ。頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。頸部内面下位に輪積み痕を残し指頭圧痕。体部内面上半ヘラ削り後，ナデ。体部内面下半ナデ。.	砂粒・石英・雲母 にぶい褐色 良	P39　50% PL39 体部外面炭化物付着 覆土下層

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第13図８	不明鉄器	11.2	0.85	0.45	22.6	中央付近覆土下層	M1

第６号住居跡（第14図）

位置　調査区域の北部，Ｂ３j3区。第４号住居跡の南側に位置する。

規模と平面形　長軸4.60m，短軸4.15mの長方形である。

主軸方向　Ｎ－45°－Ｗ

壁　壁高は19～30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　壁溝はそれぞれの壁を巡るが，西コーナー及び南コーナー付近で途切れる。　断面はＵ字形で，上幅14～26cm，下幅４～13cm，深さは11～14cmである。

床　ローム質で，平坦である。炉からＰ５にかけての中央部が踏み固められている。

炉　北西壁寄り，Ｐ１とＰ４の中間に位置する。長径82cm，短径51cmの楕円形で，深さは17cmの地床炉である。炉の長軸は，住居跡の主軸とほぼ一致する。炉床は，熱を受け硬化している。

炉土層解説

1　橙　　色　　焼土中ブロック多量，粘性・しまり弱
2　暗褐色　　焼土粒子少量
3　褐　　色　　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量

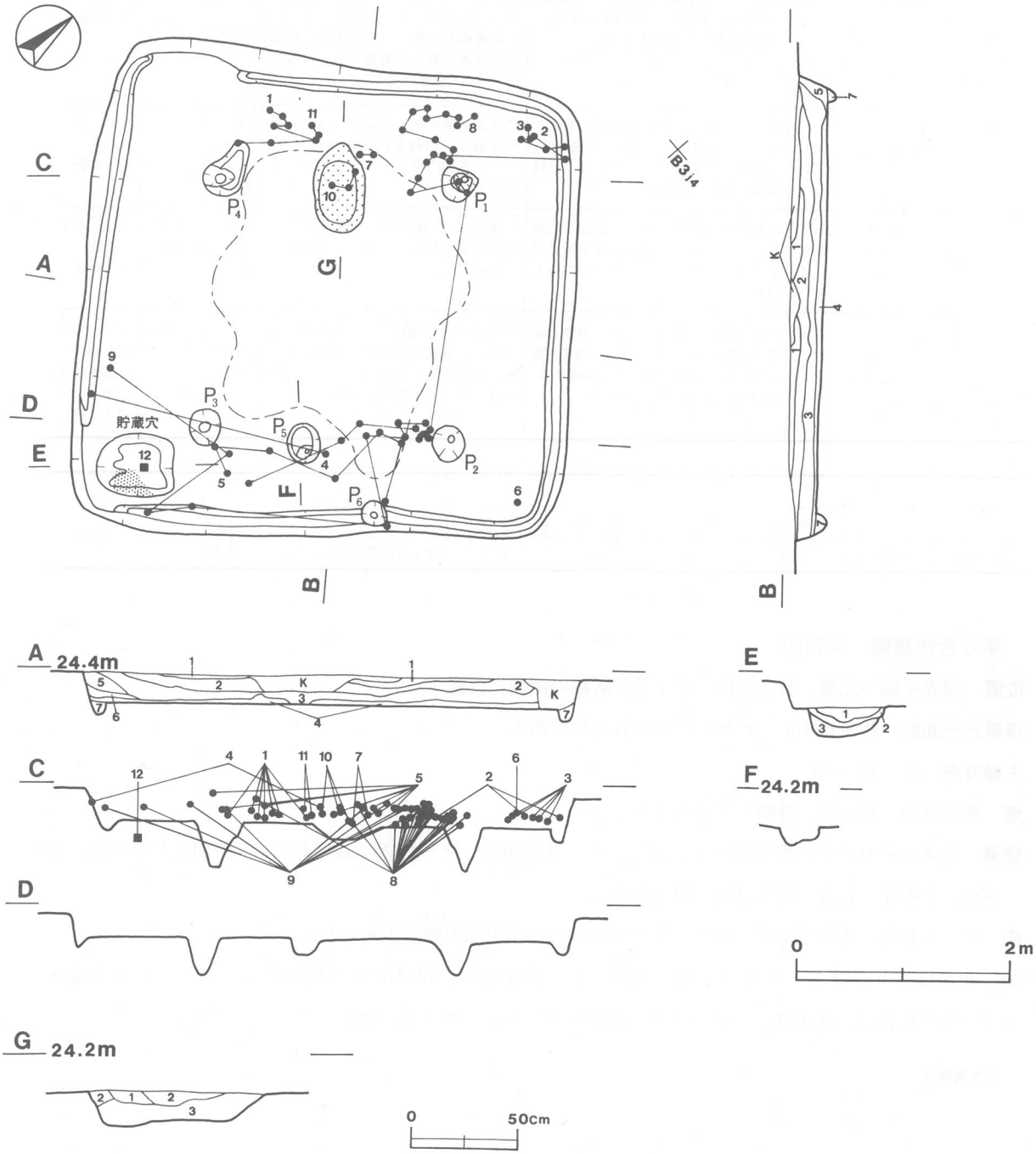
貯蔵穴　南コーナー部に位置する。長軸70cm，短軸61cmのやや丸みを帯びた長方形で，深さは26cmである。底面は平坦で，断面は長方形である。

貯蔵穴土層解説

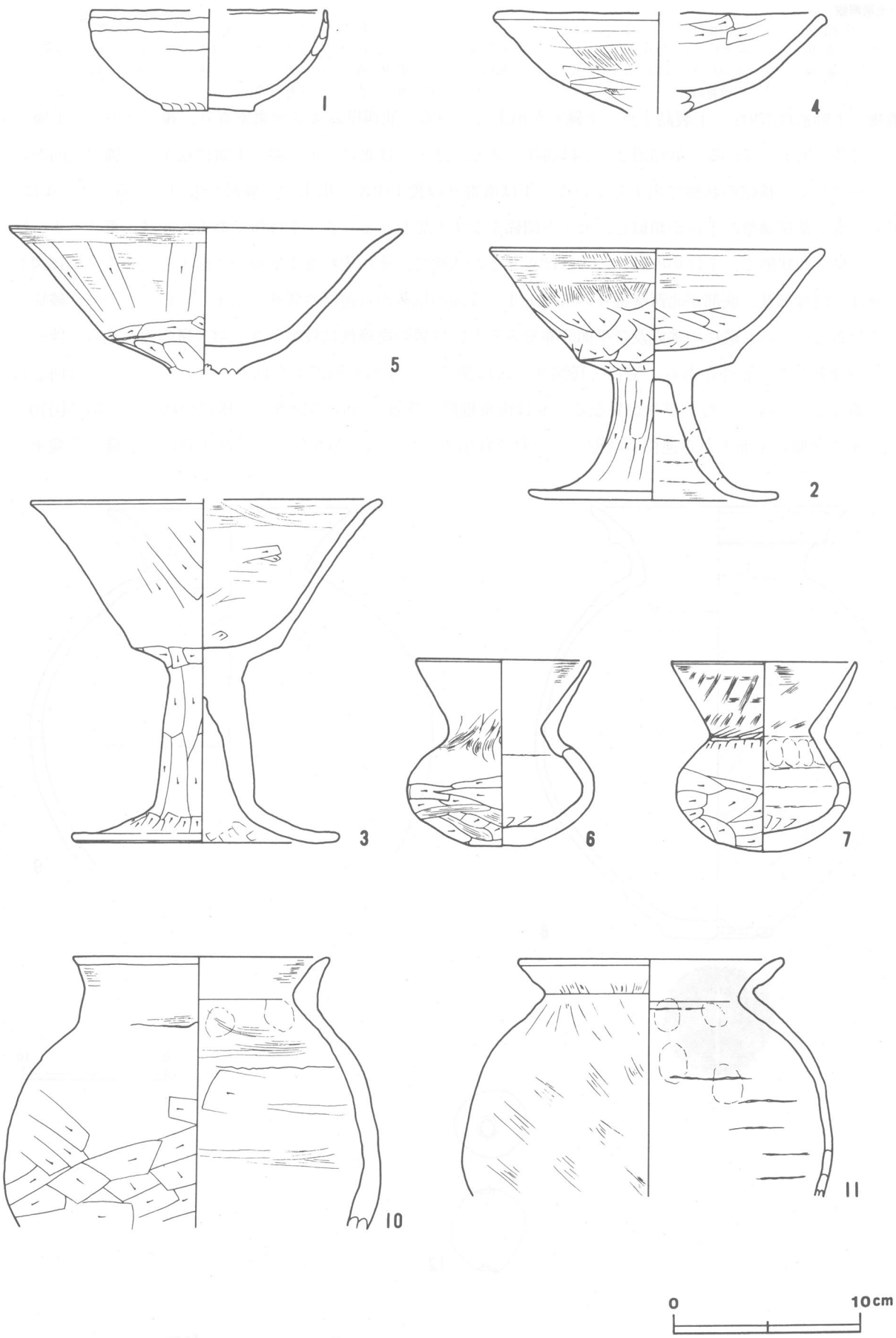
1	灰　褐　色	ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
2	橙　　色	焼土大ブロック多量，炭化物少量，粘性・しまり弱
3	にぶい赤褐色	ローム小ブロック多量，ローム大ブロック・焼土中ブロック少量

ピット　6か所（P1～P6）。P1～P4は各コーナー寄りに位置し，主柱穴である。平面形はP4が不整円形，その他は長径26～30cmの楕円形で，深さは34～40cmである。P5はP2，P3のほぼ中間に位置し，長径38cm，短径30cmの楕円形で，深さは16cmである。出入り口施設に伴うピットと思われる。P6は，南東壁に接する。直径23cmの円形のピットで，深さは16cmである。補助的な柱穴と思われる。

覆土　7層からなる。レンズ状に堆積し，自然堆積と考えられる。



第14図　第6号住居跡実測図

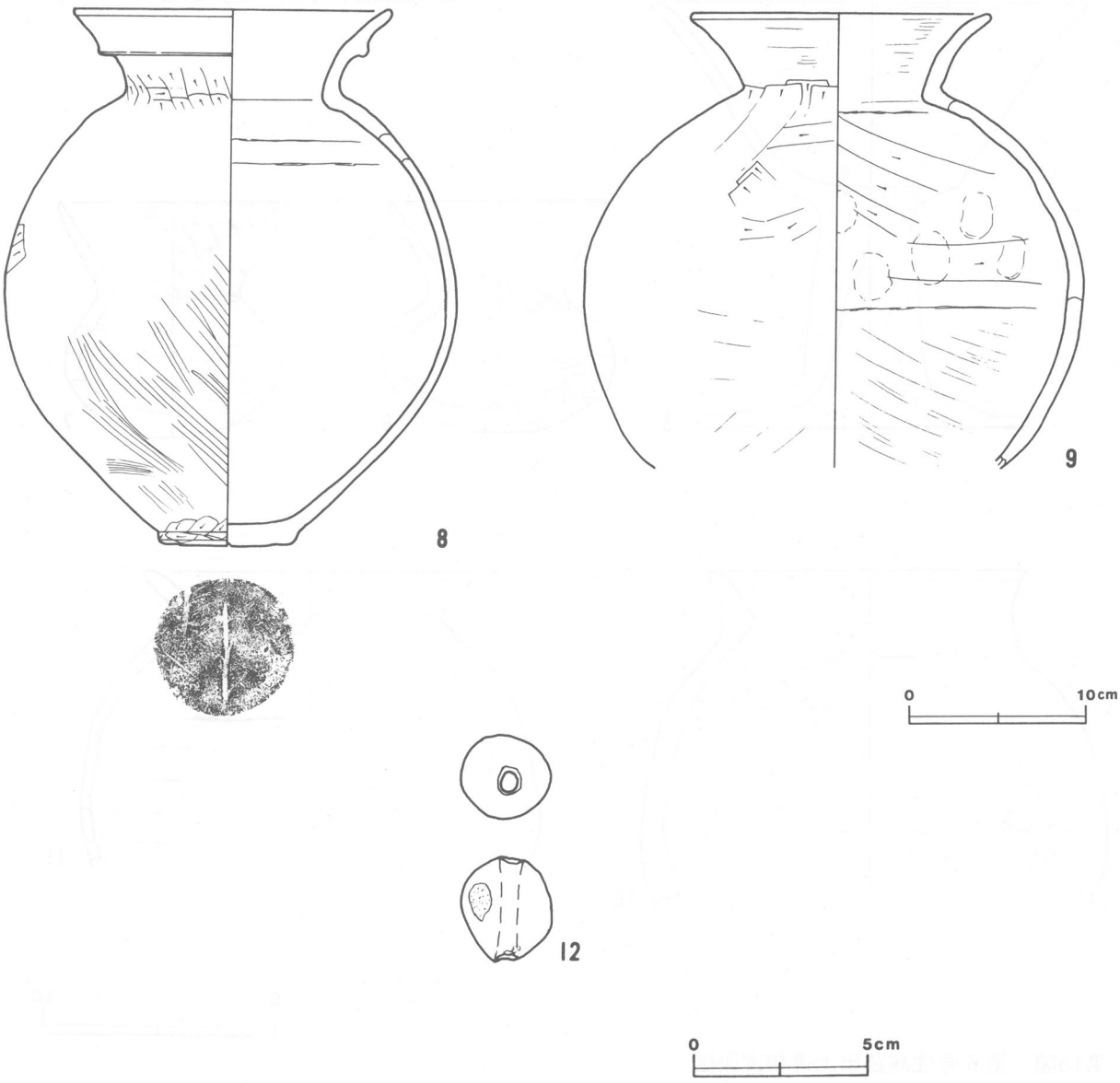


第15図　第６号住居跡出土遺物実測図（１）

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・焼土小ブロック少量	4	にぶい褐色	ローム大ブロック中量，ローム中ブロック・炭化物少量
2	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量	5	灰褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3	暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量	6	褐灰色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子少量
			7	褐色	ローム粒子多量

遺物　土師器片379点，土製品１点（土錘）が出土している。北西壁および南東壁寄り，覆土の中から下層にかけて多く出土している。第15図２～５は高坏である。２・３は北コーナー部の床面付近から，脚部を向かい合わせにして，横位の状態で出土している。４は南寄りの覆土中から出土し，脚部を欠いている。２～４は，器形・胎土及び調整の手法が類似し，セット関係をなすと思われる。６・７は坩である。６は，東コーナー付近から横位の状態で，７は炉の付近からほぼ正立した状態で，それぞれ覆土下層から出土している。第16図８の壺は，口縁部及び底部が北西壁寄りの床面上４～５cmの位置から逆位の状態で出土しているものの，破片は広く分布している。破片の垂直及び平面分布をみると，住居の廃絶後に投棄され，第３層の流れ込みに伴って破片が分散した可能性がある。第15・16図９～11は甕で，いずれも胴部下半以下を欠いている。ほぼ同じ器形であるが，口縁の立ち上がりが異なる。９は南東壁際の床面上10cmの位置から横位の状態で，第15図10・11は炉の北側の床面上から逆位の状態で，それぞれ出土している。第16図12の球状土錘は，貯蔵穴の覆土中



第16図　第６号住居跡出土遺物実測図（２）

からの出土である。

所見　本跡の時期は，出土した土器の特徴などから，５世紀前半と考えられる。

第６号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第15図 1	椀 土師器	A [12.4] B 5.4 C 4.8	口縁部～底部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて内彎しながら立ち上がる。	口縁部～体部外面ナデ。口縁部外面に輪積み痕を残す。体部外面下端に棒状工具による圧痕。口縁部～底部内面ナデ。	砂粒・スコリア・石英・長石 にぶい褐色 普通	P40　40% 覆土下～中層
2	高坏 土師器	A [18.0] B 13.5 D 13.4	坏部一部欠損。脚部はハの字に外反して広がる。坏部外面下端に稜を持つ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部外面ハケ目調整後，横ナデ。坏部～脚部外面ヘラ削り。脚端部内・外面横ナデ。坏部内面上半横ナデ。底部ヘラ削り。脚部内面は輪積み痕を残し，未調整。	砂粒・白色粒子 にぶい黄色 良 外面黒斑有	P41　65% PL39 床面
3	高坏 土師器	A 18.4 B 18.4 D 14.2	坏部・脚部一部欠損。脚部は柱状を呈し，脚端部を強く外反させる。坏部下端に稜を持つ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。坏部～脚部ヘラ削り。脚端部内・外面ヨコナデ。脚部内面上半ナデ。下半ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・スコリア にぶい黄橙色 普通 外面黒斑有	P42　60% PL39 床面
4	高坏 土師器	A [17.8] B (5.4)	坏部の破片。口縁部は若干内彎して立ち上がる。	口縁端部横ナデ。坏部外面ハケ目調整後，ナデ。坏部内面ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・スコリア・長石 にぶい黄橙色 良	P43　35% 覆土中層
5	高坏 土師器	A 11.0 B (7.8)	坏部の破片。坏部外面下端に輪積み痕を残し，稜を持つ。口縁部は外傾して立ち上がり，端部付近で若干外反する。	口縁内・外面横ナデ。坏部外面ナデの後，約３cmおきに縦位のヘラ削り。坏部外面下端ヘラ削り。内面は剥落が激しく調整不明。	砂粒・石英・スコリア・白色粒子 明赤褐色　良 外面黒斑有	P44　45% PL40 覆土下～中層
6	坩 土師器	A 9.1 B 9.8 C 3.0	完形。体部は横長の球形で、中位に最大径を持つ。頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面，頸部外面ナデ。体部外面ヘラ削り後，一部ナデ。体部内面ナデ。底部内面ヘラ削り。	砂粒・石英・スコリア・長石 にぶい橙色 普通	P45　100% PL40 覆土下層
7	坩 土師器	A 10.0 B 10.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は横長の球形で，中位に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半ナデ。体部外面下半ヘラ削り。頸部内面下位に指頭圧痕。体部内面ナデ。底部内面ヘラ削り。	砂粒・スコリア・白色粒子 赤褐色 良	P46　85% PL40 覆土下層
第16図 8	壺 土師器	A 18.0 B 30.3 C 7.8	体部一部欠損。平底。体部は縦長の球形で，中位に最大径を持つ。頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は外反して立ち上がり，複合口縁状である。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラ削り。体部外面上半ナデ。体部外面下半ヘラ削り後，磨き。体部下端ヘラ削り。体部内面剥離が激しく調整不明。	雲母・白色粒子・長石 黒褐色 良	P47　90% PL40 外面炭化物付着 床面～覆土中層
9	甕 土師器	A 16.6 B (25.9)	底部欠損。体部は球形で，中位に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。体部内面上半ヘラ削り後ナデ。その後一部指頭圧痕。体部内面下半ナデ。	砂粒・石英・スコリア・雲母・長石 にぶい褐色 良	P48　70% PL40 外面炭化物付着 覆土中層
第15図 10	甕 土師器	A 13.6 B (14.5)	体部下半以下欠損。体部は縦長の球形と推定される。頸部は緩やかに屈曲し，内面に稜をもつ。口縁部は若干外反して短く立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面ナデ後，下位に指頭圧痕。体部外面上半ナデ。体部外面下半ヘラ削り。体部内面ナデ後，一部ヘラ削り・指頭圧痕。	砂粒・石英・スコリア・長石 橙色 普通	P49　50% PL40 床面
11	甕 土師器	A 13.7 B (12.7)	体部下半以下欠損。体部は球形と推定される。頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外傾して短く立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。体部内面ナデ後，一部指頭圧痕。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P50　45% 床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第16図12	球状土錘	2.6	3.0	0.6	15.3	貯蔵穴覆土中	DP７

第７号住居跡（第17図）

位置　調査区域の北西部，Ｃ２a7区。

規模と平面形　南西壁側が調査区域外にかかる。長軸3.72m，短軸（3.17）mで，平面形は方形または長方形と考えられる。

主軸方向　N－40°－W

壁　壁高は37～48cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　壁際を巡り，断面はU字形である。上幅21～31cm，下幅８～13cm，深さは５～12cmである。

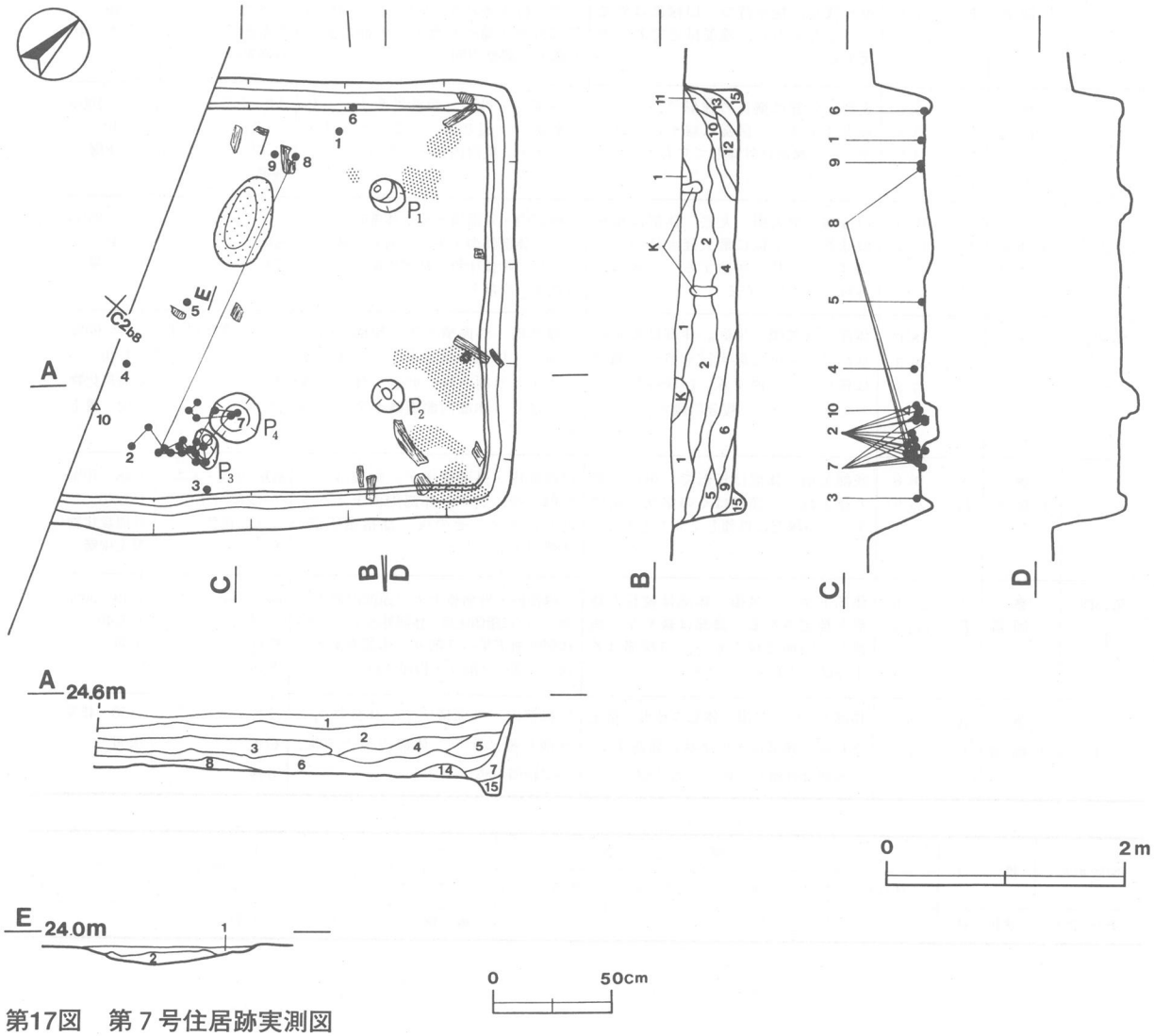
床　ローム質で，若干起伏がある。Ｐ４から炉にかけて踏み固められている。

炉　北西壁寄りに位置する。長径74cm，短径39cmの楕円形で，深さは８cmの地床炉である。炉の長軸は，住居跡の主軸より若干東側をさす。炉は，床面を浅く皿状に掘り込んで構築されており，炉床に焼土が堆積する。炉床面は，熱を受けて硬化している。

炉土層解説

1　暗　褐　色　　焼土粒子中量，炭化粒子少量
2　にぶい褐色　　焼土粒子多量，粘性・しまり弱

ピット　４か所（Ｐ１～Ｐ４）。Ｐ１は長径32cm，短径26cmの楕円形で，深さ14cm，Ｐ２は直径28cmの円形で，深さは16cmである。掘り込みが浅いが，コーナーに寄った位置にあるため主柱穴と考えられる。Ｐ３・Ｐ４は，それぞれ南東壁寄りに位置する。Ｐ３は長径34cm，短径20cmの楕円形で，深さは28cmである。壁側が



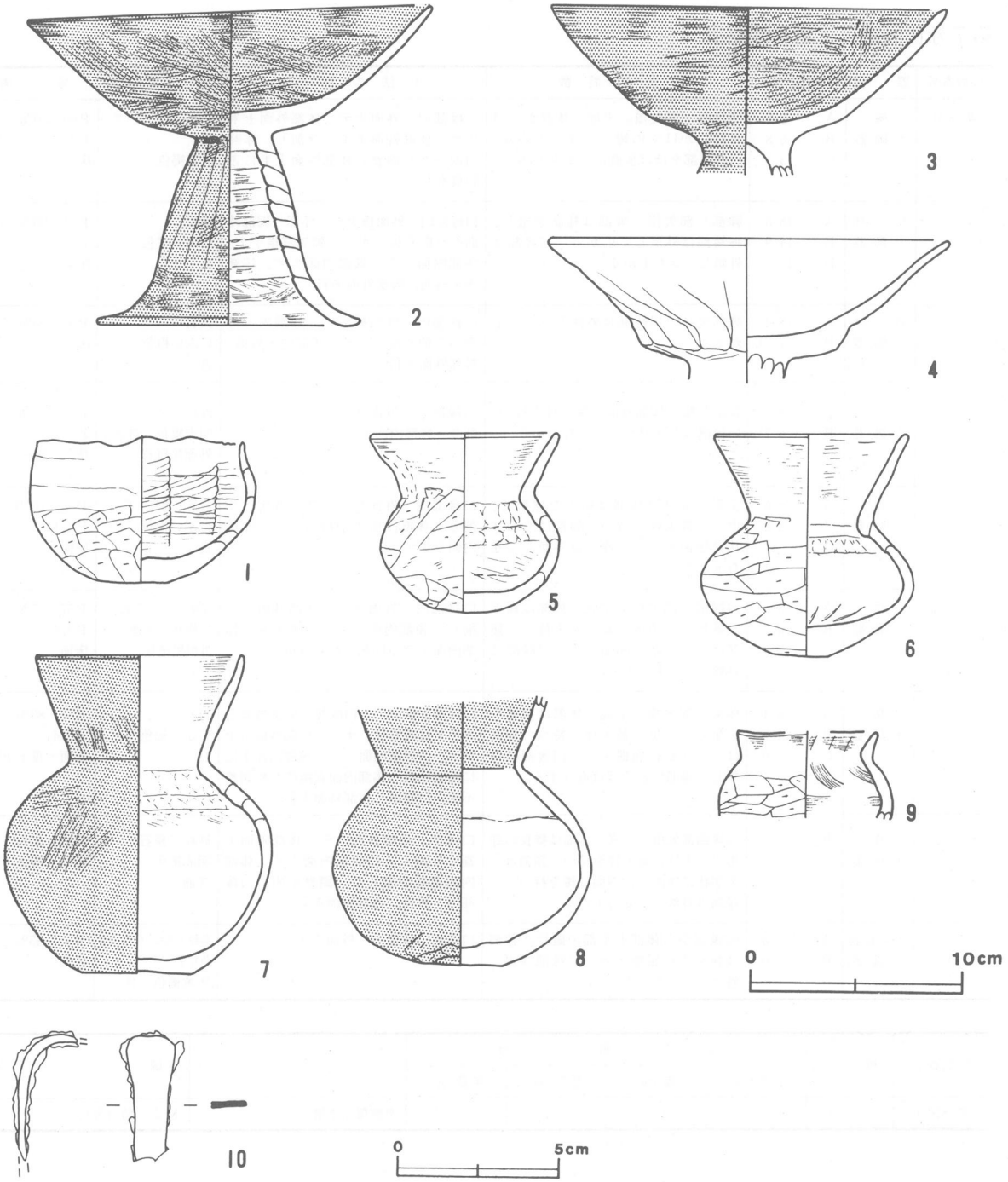
第17図　第７号住居跡実測図

緩やかに外傾して立ち上がるため，出入り口施設に伴うピットと思われる。Ｐ４は径41cmの円形で，深さ20cmである。性格は不明である。

覆土　15層からなる。覆土下層から中層にかけて，炭化物が出土している。レンズ状に堆積するため，自然堆積と思われる。

土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック・同粒子少量
2	黒褐色	ローム小ブロック・同粒子少量
3	黒色	ローム粒子少量
4	暗褐色	ローム粒子中量，粘性・しまり弱
5	褐色	ローム粒子中量，砂粒少量，粘性弱
6	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子微量
7	褐色	ローム粒子中量
8	褐色	ローム粒子多量，焼土粒子微量，粘性強
9	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
10	暗褐色	ローム粒子多量，焼土粒子微量
11	褐色	ローム粒子中量，炭化物微量
12	褐色	ローム粒子多量，炭化物少量，焼土粒子微量，粘性強
13	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
14	にぶい褐色	焼土粒子多量
15	褐色	ローム粒子多量



第18図　第７号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片170点が出土している。第18図１・９はそれぞれ椀及び広口壺で，北西壁寄りの床面上から正位の状態で出土している。２～４は高坏である。２は，７・８とともにP３・P４西側の床面上から出土している。８の口縁部が正位の状態で出土しているが，３個体の破片は一体となって出土しているため，投棄された可能性がある。３はＰ３と壁の間の床面上から，４は調査区域際の床面上約６cmの位置から，それぞれ正位の状態で出土している。２・３は類似した器形を持ち，坏部の両面が赤彩されている。５～８は坩である。５は炉の南側，６は北西壁際の，それぞれ床面上から正位の状態で出土している。５・６は小形で，ともに胴部は算盤玉状を呈している。７・８は平底で，口縁部内面・外面は赤彩されている。

所見　本跡は，床面直上に焼土が堆積し，炭化材が住居跡の内側に向かって倒れていることから，焼失住居と思われる。時期は，出土した土器から５世紀前半と考えられる。

第７号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第18図 1	椀 土師器	A 9.6 B 6.8 C 3.1	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がり，口縁端部をほぼ垂直につまみ上げる。	口縁部内・外面ナデ。体部外面上半ナデ。体部外面下半ヘラ削り。体部内面ハケ目調整。体部外面上半に赤彩痕有り。	砂粒・スコリア・雲母 灰黄褐色 良	P60 90% PL40 床面
2	高坏 土師器	A 18.8 B 14.9 D 12.2	脚部一部欠損。脚部は柱状を呈し，脚端部は外反して広がる。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。坏部～脚部外面ヘラ削り後，ナデ。脚端部横ナデ。坏部内面ナデ。脚部内面ナデ。坏部内・外面，脚部外面赤彩。	砂粒 にぶい橙色 良	P51 90% PL40 床面
3	高坏 土師器	A 18.4 B (7.7)	脚部欠損。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面ヘラ削り後，ナデ。坏部内・外面，脚部外面赤彩。	長石 にぶい橙色 良	P52 55% 床面
4	高坏 土師器	A 18.3 B (6.7)	脚部欠損。坏部外面下端に稜を持つ。口縁部は若干外反して立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。体部外面ヘラ削り。坏部内面ナデ。	砂粒・スコリア 明赤褐色　普通 外面黒斑有	P53 50% PL40 覆土下層
5	坩 土師器	A 8.6 B 8.2	完形。丸底。体部は扁平な球形で，中位に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面上半指頭圧痕。体部内面下半ナデ。	石英・雲母・長石 にぶい褐色 良	P56 100% PL41 床面
6	坩 土師器	A 8.8 B 10.2 C 2.5	口縁部一部欠損。平底。体部は扁平な球形で，中位に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。体部外面ヘラ削り。頸部内面下位に指頭圧痕。体部内面ナデ。底部内面ヘラ削り。	砂粒・スコリア・長石 灰褐色　普通 外面黒斑有	P57 95% PL41 床面
7	坩 土師器	A 9.4 B 14.7 C 5.0	体部一部欠損。平底。体部は倒卵形を呈し，上位に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外傾し，端部付近でほぼ直立する。	口縁端部横ナデ。口縁部～体部外面上半ハケ目調整後，ナデ。体部外面下半ナデ。口縁部内面ナデ。頸部内面下位に指頭圧痕。体部内面剥離のため調整不明。口縁部・体部外面赤彩。	長石 にぶい褐色 良	P58 80% PL41 床面～覆土下層
8	坩 土師器	B (12.3) C 3.6	口縁端部欠損。平底。体部は横長の球形で，中位に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲し，内面に稜を持つ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部～体部外面ナデ。体部外面下端ヘラ削り。口縁部内面ナデ。体部内面剥離が激しく，調整不明。口縁部内・外面，体部外面赤彩。	砂粒・長石 明赤褐色 普通	P59 80% 床面～覆土下層
9	広口壺 土師器	A [6.6] B (4.0)	口縁部から体部上半部の破片。頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は短く外反して立ち上がる。	口縁部，体部内・外面ナデ。	砂粒・スコリア・白色粒子 灰黄褐色　良	P61 35% 床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第18図10	刀装具	(4.1)	(1.1)	(0.2)	(6.5)	南側覆土下層	M２　鞘口金具？

第８号住居跡（第19図）

位置　調査区域の北部，Ｃ４b1区。

規模と平面形　北東コーナー及び東壁の一部が攪乱によって破壊されている。長軸5.41ｍ，短軸5.08ｍの隅丸方形である。

主軸方向　Ｎ－25°－Ｗ

壁　壁高は17～26cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　壁際を巡り，断面はＵ字形である。上幅12～24cm，下幅４～10cm，深さは４～８cmである。

床　ローム質で，平坦である。中央部は踏み固められている。

炉　北壁寄りに位置する。長径130cm，短径75cmの不整楕円形で，深さ10cmの地床炉である。炉の長軸は，住居跡の主軸と直交する。炉は床面を浅く掘り込んで構築され，炉床面は若干の起伏がある。炉床は火を受けて硬化している。

炉土層解説

1	暗褐色	焼土粒子微量

貯蔵穴　南壁際東寄りに位置する。長径50cm，短径39cmの楕円形で，深さは30cmである。

貯蔵穴土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子微量
3	褐色	ローム粒子中量

ピット　６か所（Ｐ１～Ｐ６）。Ｐ１～Ｐ４は各コーナーに偏って位置するため，主柱穴と考えられる。長径23～36cm，短径19～25cmの楕円形で，深さは16～37cmである。Ｐ５は中央部南壁寄りに位置し，直径32cmの円形で，深さは18cmである。出入り口施設に伴うピットである。Ｐ６は，Ｐ３と西壁の中間に位置し，長径20cm，短径16cmの楕円形で，深さは７cmである。補助的な柱穴と思われる。

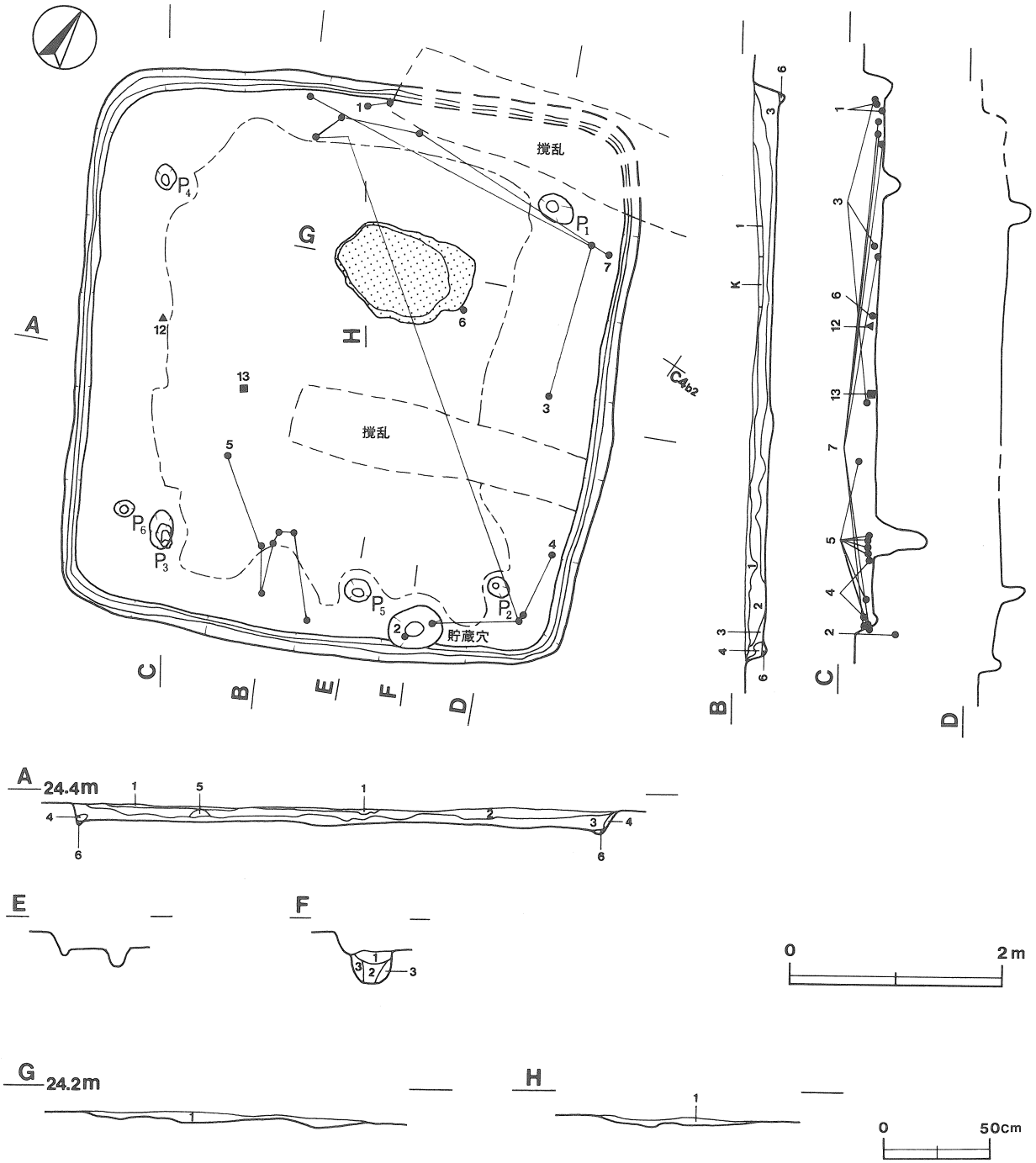
覆土　６層からなる。ロームブロックを含む層が多くみられ，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ローム小ブロック･ローム粒子･炭化粒子少量	4	明褐色	ローム粒子多量
2	褐色	ローム小ブロック中量，ローム大ブロック･炭化物少量	5	黒褐色	ローム粒子多量，ローム大ブロック･ローム小ブロック･炭化物少量
3	黒褐色	ローム大ブロック･ローム中ブロック･炭化物少量	6	褐色	ローム小ブロック多量

遺物　土師器片440点，弥生土器片９点，土製品１点（土錘），剥片２点が出土している。第20図１は椀の口縁部で，北西壁際の床面上から出土している。２の壺は，貯蔵穴中から破片の状態で出土している。緩やかに外反する単口縁と，平底の底部を有する。精選された胎土が使われ，外面には精緻な調整が施される。３・４・５も壺である。４は，南東コーナー付近の床面上５cmの位置から，正位の状態で出土している。６は小型の甕である。炉の上面より出土している。外面には火を受けた痕跡が認められる。７は，十王台式土器の壺である。覆土下層から床面上にかけて出土し，第９号住居跡の炉２から出土した破片と接合する。出土した十王台式土器は，第９号住居跡も含め壺の上半部の破片が多い。これらは，土師器とほぼ同じ土層から出土してることから，供伴していると考えられる。

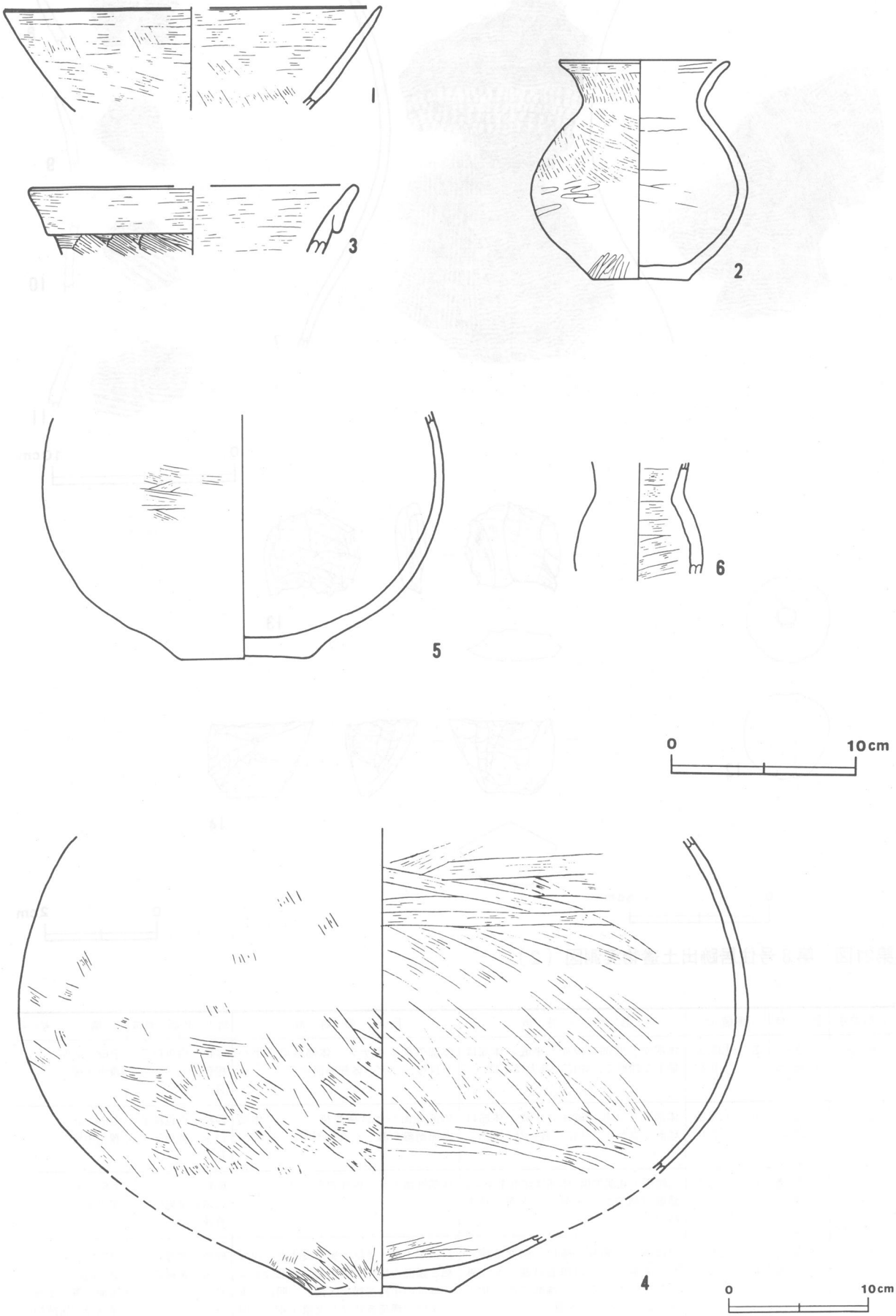
所見　本跡の時期は，出土した土器から３世紀末から４世紀初めと考えられる。



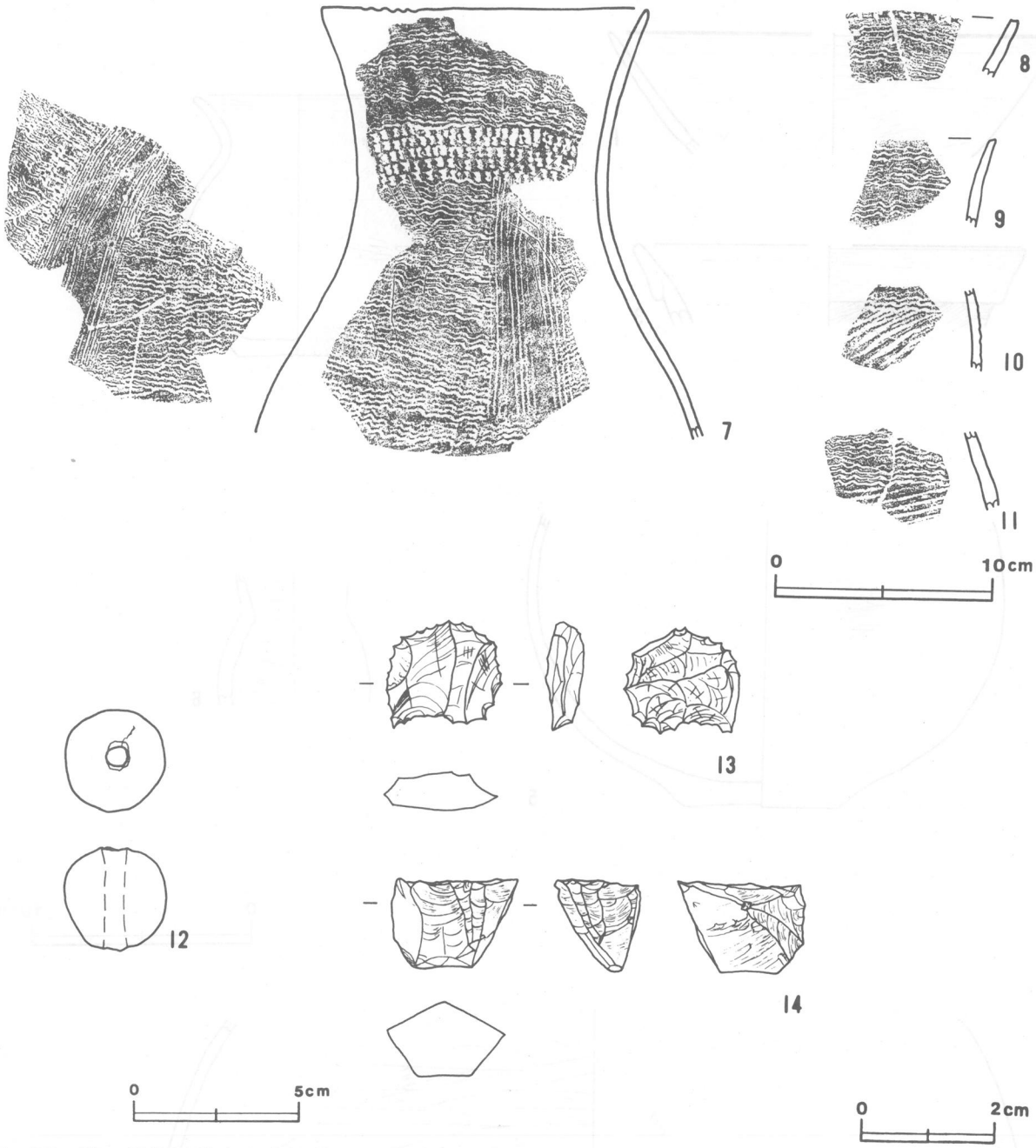
第19図　第８号住居跡実測図

第８号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第20図 1	椀 土師器	A　[20.2] B　(4.5)	口縁部の破片。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面丁寧なナデ。	砂粒・スコリア にぶい橙色 普通	P65　25% 床面
2	壺 土師器	A　9.1 B　11.8 C　5.3	体部一部欠損。平底。体部は横長の球形で，中位に最大径を持つ。頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は外傾して立ち上がり，端部付近で若干外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部～体部外面上半ハケ目調整後，丁寧なナデ。体部外面下半ヘラ削り後，丁寧なナデ。その後一部磨き。頸部内面ナデ。体部内面剥離のため調整不明。	長石 にぶい褐色 良	P63　70% PL41 貯蔵穴覆土中
3	壺 土師器	A　[17.4] B　(3.7)	口縁部の破片。口縁部は折り返しで，外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。折り返し口縁の下位はハケ目調整。	砂粒・スコリア にぶい橙色 普通	P64　15% 覆土中層



第20図　第８号住居跡出土遺物実測図（１）



第21図　第８号住居跡出土遺物実測図（２）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第20図 4	壺 土師器	B　[33.5] C　9.8	体部から底部の破片。平底。体部は扁平な球形で，中位に最大径を持つ。	体部外面上半ナデ。体部外面下半ハケ目後，ナデ。体部内面ナデ。	砂粒・白色粒子 橙色 良	P68　40% 覆土下層
5	壺 土師器	B　(13.2) C　7.0	体部から底部の破片。平底。体部は球形と思われ，中位に最大径を持つ。	体部外面ハケ目調整後，ナデ。体部内面剥離が激しく調整不明。	砂粒・白色粒子 にぶい黄褐色 良	P69　40% 覆土中層
6	小形甕 土師器	B　(5.9)	口縁部・底部欠損。体部は球形を呈す。頸部は緩やかに屈曲し，内面に稜を持つ。	体部外面ナデ。体部内面ナデ。	砂粒 にぶい黄褐色 普通	P67　40% 炉上面
第21図 7	壺 弥生土器	A　[14.7] B　(19.5)	口縁部から頸部の破片。頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は緩やかに外反して立ち上がり，端部にヘラ状工具によるキザミ目を施す。	口縁部４本一単位の櫛描波状文。口縁部と頸部の境界に刺突文。頸部は４本一単位の平行沈線で区画し，間に４本一単位の櫛描波状文を充填する。内面ナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄褐色 良	P71　15% PL41 床面～覆土下層 第９号住居跡炉 覆土中

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第21図 8	壺 弥生土器	B　(3.1)	口縁部の破片。口縁部は外傾して立ち上がり，端部にヘラ状工具によるキザミ目を施す。	口縁部外面に4本一単位の櫛描波状文。内面ナデ。	砂粒・白色粒子 にぶい黄褐色 良	TP3 床面
9	壺 弥生土器	B　(3.8)	口縁部の破片。口縁部は若干外反して立ち上がり，端部にヘラ状工具によるキザミ目を施す。	口縁部外面に4本一単位の櫛描波状文。内面ナデ。	砂粒・白色粒子 にぶい黄褐色 良	TP4 覆土下層
10	壺 弥生土器	B　(3.6)	体部の破片。内彎して立ち上がる。	上位に櫛描波状文，下位に附加条一種（附加1条）の縄文を施す。	砂粒 橙色 普通	TP5 覆土下層
11	壺 弥生土器	B　(3.7)	体部の破片。若干内彎して立ち上がる。	上位に4本一単位の櫛描波状文，下位に附加条一種（附加1条）の縄文を施す。	砂粒・白色粒子 にぶい黄褐色 普通	TP6 覆土下層

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第21図12	球状土錘	3.1	3.1	0.7	25.4	南西壁寄り覆土下層	DP8

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第21図13	剥　片	1.6	1.7	0.5	1.74	覆土中	Q2　黒曜石
14	剥　片	1.4	1.9	1.3	2.86	覆土中	Q3　黒曜石

第9号住居跡（第22・23図）

位置　調査区域の北部，C3d7区。

重複関係　第19号溝が本跡の覆土を掘り込んでいることから，本跡の方が古い。

規模と平面形　長軸6.60m，短軸5.69mの隅丸長方形である。

主軸方向　N－39°－W

壁　壁高は17～45cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　壁際を巡り，断面はU字形である。上幅14～37cm，下幅5～13cm，深さは9～14cmである。

床　ローム質で，平坦である。中央部は踏み固められている。

炉　重複して2基確認されている。北西壁寄り，P1とP4の中間に位置する。新旧関係は，炉2が炉1の壁を壊して構築されていることから，炉1→炉2の順である。

炉1は，直径38cmの円形と推定され，深さ9cmの地床炉である。炉床は火を受けた跡がある。炉2は，長径57cm，短径38cmの楕円形で，深さ9cmの地床炉である。炉の長軸は，住居跡の主軸とほぼ平行している。

炉2から，2点の十王台式土器片が長軸方向に約25cmの間隔をおき，向かい合わせに立てられた状態で出土している。焼土は，この土器の間に多く堆積している。炉床面は，火を受けて硬化している。層位は第1層が炉1，第2～4層が炉2の覆土である。

炉土層解説

1　暗褐色　炭化粒子少量
2　明褐色　焼土粒子多量
3　暗褐色　焼土中ブロック少量
4　褐　色　焼土粒子中量

貯蔵穴　南東壁中央やや東側に位置し，壁面に接して構築されている。長軸80cm，短軸70cmの隅丸長方形で，深さは25cmである。

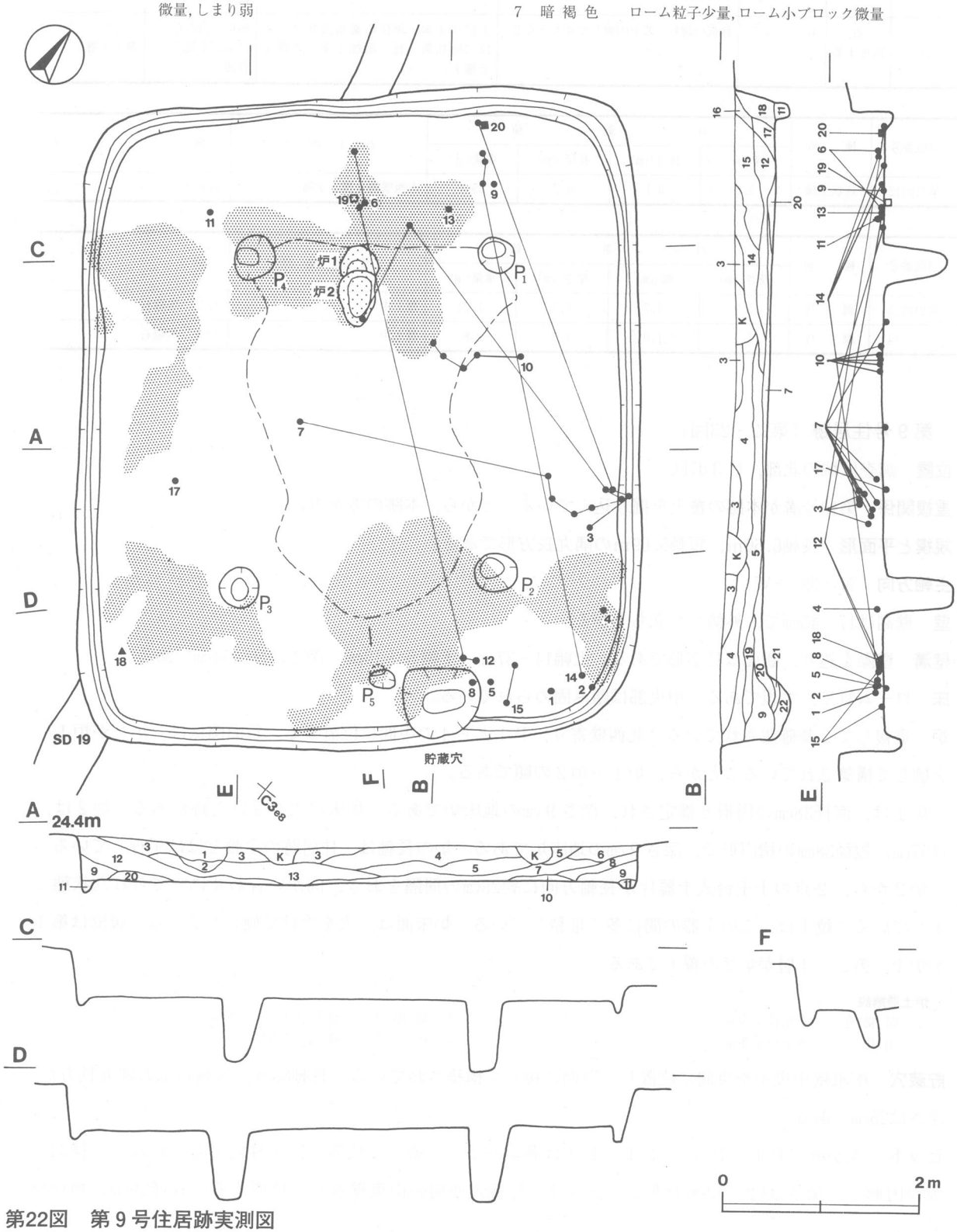
ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は各コーナーに寄って位置し，主柱穴と考えられる。径34～48cmの円形で，深さは62～73cmである。P5は，貯蔵穴西側の南東壁寄りに位置する。長径26cm，短径18cm

の隅丸長方形で，深さは39cmである。壁側に外傾して掘り込まれているので，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　22層からなる。第１～２層は第19号溝跡の覆土，第21～22層は貯蔵穴の覆土である。床面直上に焼土が堆積している。ロームブロックを含む層が多いことから，人為堆積と考えられる。

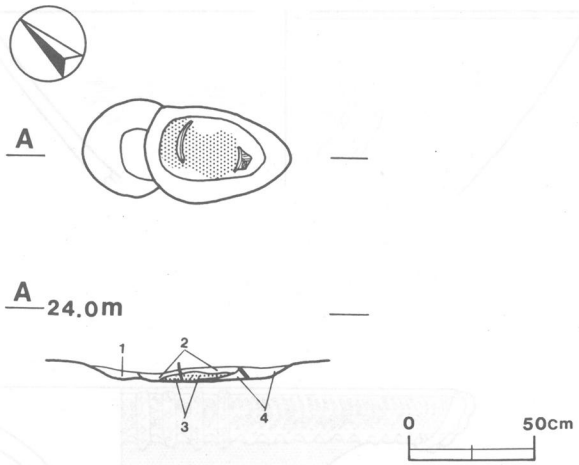
土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，しまり弱
2	暗褐色	ローム粒子中量，しまり弱
3	暗褐色	ローム粒子中量，ローム大ブロック・同中ブロック微量，しまり弱
4	暗褐色	ローム小ブロック・同粒子中量
5	褐色	ローム中ブロック・同粒子中量，焼土粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子中量，赤色粒子微量，粘性・しまり弱
7	暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック微量



第22図　第９号住居跡実測図

8　褐　　色　　ローム粒子中量,ローム中ブロック微量
9　暗　褐　色　　ローム粒子中量,ローム小ブロック少量,粘性・しまり強
10　褐　　色　　ローム粒子多量,粘性・しまり強
11　暗　褐　色　　ローム粒子少量
12　暗　褐　色　　砂粒少量,ローム粒子微量,しまり弱
13　褐　　色　　ローム中ブロック・同粒子中量,ローム小ブロック微量
14　にぶい褐色　　ローム粒子中量,ローム小ブロック・砂粒少量
15　褐　　色　　ローム小ブロック・同粒子中量
16　極暗褐色　　ローム粒子・炭化粒子少量
17　暗　褐　色　　ローム粒子・同中ブロック少量
18　暗　褐　色　　ローム粒子中量,焼土中ブロック・炭化粒子微量
19　にぶい褐色　　ローム粒子中量
20　橙　　色　　焼土小ブロック・同粒子多量
21　暗　褐　色　　ローム粒子・焼土粒子微量
22　褐　　色　　ローム粒子少量



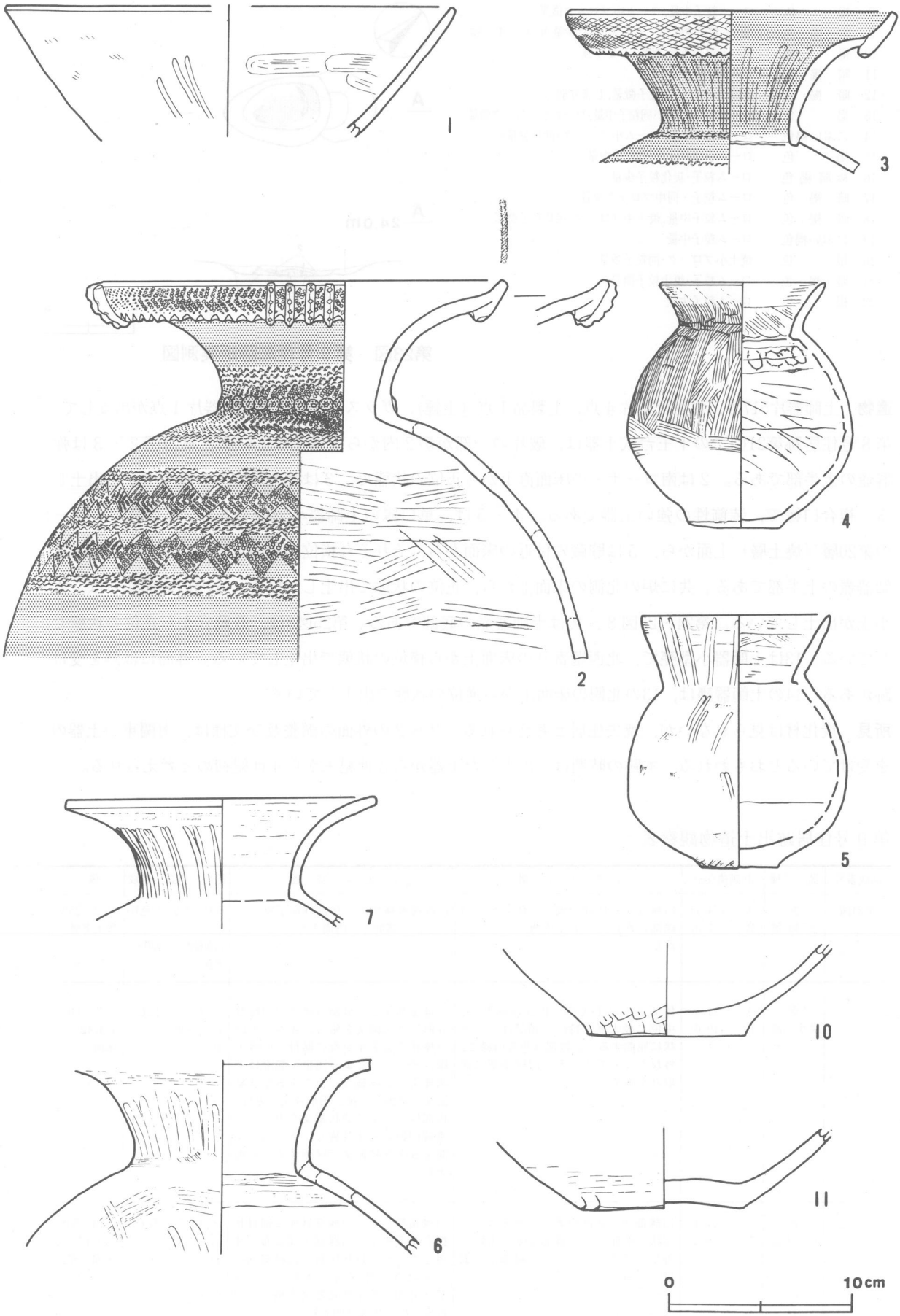
第23図　第９号住居跡炉実測図

遺物　土師器片517点，弥生土器片４点，土製品１点（土錘），ガラス小玉１点，須恵器片１点が出土している。第８号住居跡第21図７の十王台式土器は，破片の一部が炉２内からも出土している。第24図２・３は弥生土器壺の上半部である。２は南コーナーの床面直上から正位の状態で，３は北東壁寄りの覆土中から出土している。複合口縁で，装飾性の強い土器である。４・５は，単口縁の土師器小形壺である。４は東コーナー付近の第20層（焼土層）上面から，５は貯蔵穴付近の床面から，それぞれ横位の状態で出土している。６・７は土師器壺の上半部である。共に炉の北側の床面上から，正位の状態で出土している。６内の底面からは，ガラス小玉が出土している。第24・25図８～10は土師器壺の底部である。第25図8は，貯蔵穴から正位の状態で出土している。13は土師器小型甕で，北西壁寄りの床面上から横位の状態で出土している。外面には熱を受けた痕跡がある。14の土師器甕は，13の北側の床面上から逆位の状態で出土している。

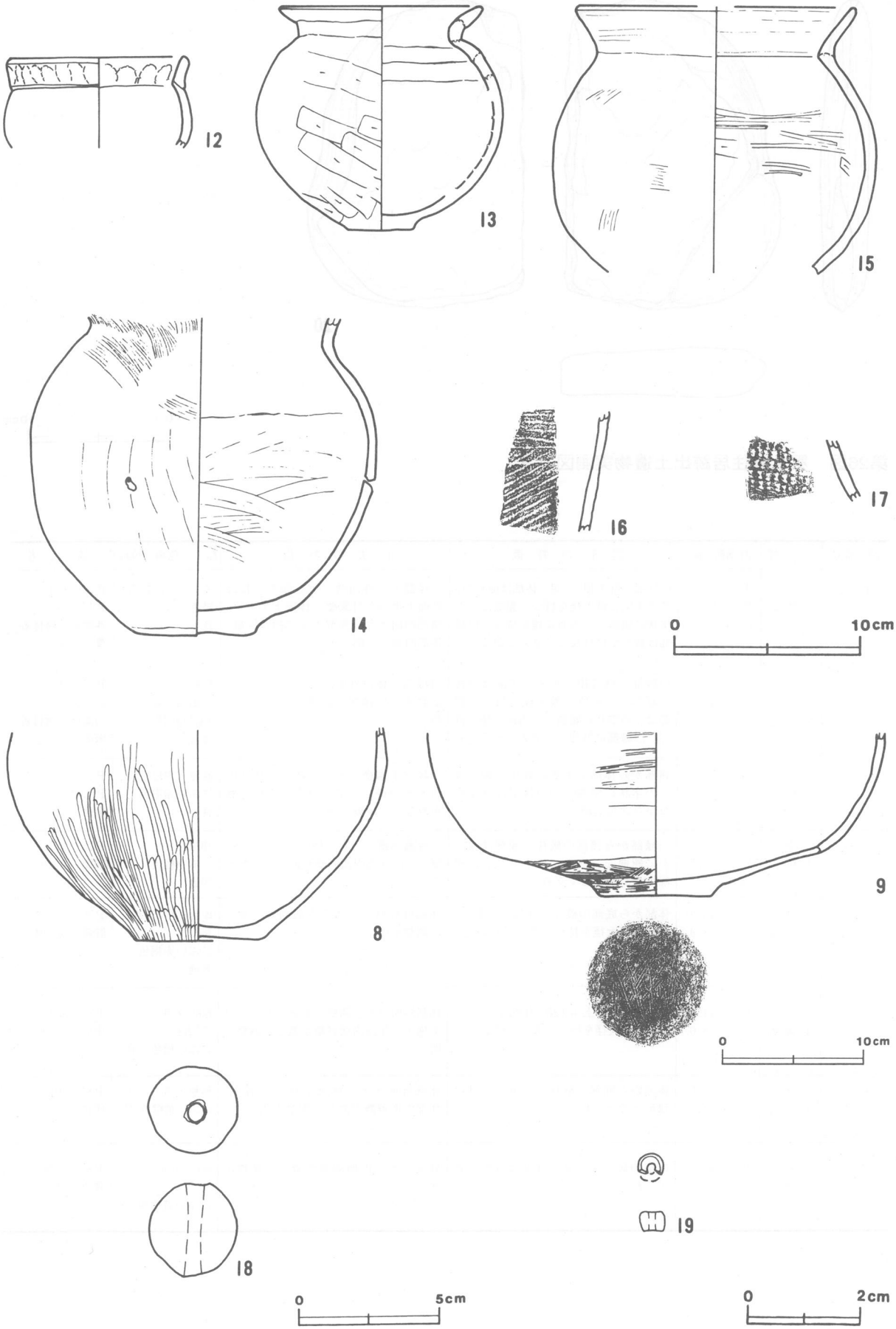
所見　炭化材は見られないが，焼失住居と考えられる。２・３の外面の調整及び文様は，南関東の土器の影響を受けているとおもわれる。本跡の時期は，出土した土器から３世紀末から４世紀初めと考えられる。

第９号住居跡出土遺物観察表

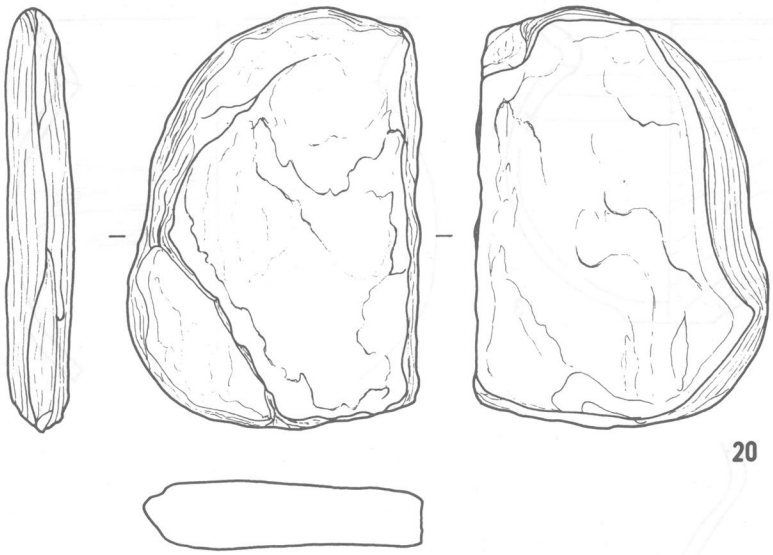
図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第24図 1	椀 土師器	A　[24.1] B　(7.0)	口縁部から体部の破片。体部から口縁部にかけて，若干内彎して立ち上がる。	口縁端部横ナデ。体部外面丁寧なナデ後，一部磨き。内面ナデ。	砂粒・雲母・白色粒子 内面橙色・外面明赤褐色　良	P72　25% 覆土下層
2	壺 弥生土器	A　21.5 B　(19.6)	体部下半以下欠損。体部は球形で，中位に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は複合口縁で，外反して立ち上がる。口縁端部に面取りを施す。	口縁端部ＲＬの単節斜縄文。口縁部外面に羽状縄文を施し，４本一単位の棒状浮文を４か所に貼付。口縁下端に棒状工具による圧痕。頸部は羽状縄文を２段施し，上下をＳ字状結節文で区画した後，円形浮文を貼付。体部外面上半に羽状縄文を充填した連続山形文を２段施し，上下及び中間をＳ字状結節文で区画する。外面赤彩。	スコリア・長石 にぶい褐色 良	P73　60% ＰＬ42 床面
3	壺 弥生土器	A　17.4 B　(8.2)	口縁部から底部の破片。頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は複合口縁で，外反して立ち上がる。口縁端部に面取りを施す。	口縁端部ナデ。口縁部外面に網目状撚糸文を施す。口縁部下端に布を使用したキザミ目状圧痕。口縁部内・外面磨き。体部内・外面ナデ。頸部・肩部にＳ字状結節文を施す。口縁部内面・体部外面赤彩。	スコリア・長石 にぶい褐色 良	P74　30% ＰＬ42 床面～覆土中層



第24図　第９号住居跡出土遺物実測図（１）



第25図　第９号住居跡出土遺物実測図（２）



第26図　第９号住居跡出土遺物実測図（３）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第24図 4	壺 土師器	A　8.9 B　23.3 C　5.0	口縁部一部欠損。平底。体部は卵形で，若干下位に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲し，内面に稜を持つ。口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。頸部～体部外面上半ハケ目調整。体部下半ナデ。頸部内面ナデ。頸部下位に指頭圧痕。体部内面ヘラ削り。	スコリア・長石 褐色 良	P75　95% PL42 外面炭化物付着 覆土下層
5	壺 土師器	A　10.1 B　13.5 C　4.1	口縁部一部欠損。平底。体部は縦長の球形で，中位に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲し，内面に稜を持つ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部～体部外面丁寧なナデ後，一部磨き。口縁部内面横ナデ。体部内面ナデ。	砂粒 内面にぶい褐色 外面明赤褐色 普通	P76　95% PL42 内面炭化物付着 床面
6	壺 土師器	B　(10.5)	頸部から体部上半部の破片。頸部はくの字状に屈曲し，口縁部は外反しながら立ち上がる。	口縁部上端横ナデ。口縁部～体部内面ナデの後，一部に磨き。内面剥離が激しく，調整不明。	砂粒・雲母 にぶい赤褐色 良	P77　35% PL41 床面
7	壺 土師器	A　16.7 B　(6.7)	口縁部から頸部の破片。頸部は緩やかに屈曲し，内面に稜を持つ。口縁部は強く外反して立ち上がる。	口縁端部横ナデ。口縁部外面ナデ後，磨き。口縁部内面剥離が激しく調整不明。	砂粒 にぶい橙色 普通	P78　25% 床面
第25図 8	壺 土師器	B　(14.9) C　8.9	体部から底部の破片。体部は球形で，中位に最大径を持つと考えられる。	体部外面磨き。体部内面剥離が激しく調整不明。	砂粒・スコリア・長石 にぶい赤褐色 普通	P79　45% 貯蔵穴覆土中
9	壺 土師器	B　(11.5) C　8.0	口縁部～体部上半欠損。体部は卵形で，下位に最大径を持つと考えられる。	体部外面ハケ目調整。底部にもハケ目を施す。体部内面剥離が激しく調整不明。	砂粒・石英・スコリア・長石 にぶい褐色　良	P80　35% 床面
第24図 10	壺 土師器	B　(5.0) C　8.6	体部から底部の破片。平底。体部は球形と考えられる。	体部外面ナデ。体部下端ヘラ削り。体部内面剥離が激しく調整不明。	砂粒・スコリア にぶい黄橙色 良	P81　20% 床面
11	壺 土師器	B　(4.1) C　9.1	底部の破片。平底。体部は球形と考えられる。	外面ナデ。内面剥離が激しく調整不明。	砂粒・石英・スコリア にぶい黄橙色 良	P82　25% 覆土下層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第25図 12	広口壺 土師器	A　[9.3] B　(4.7)	口縁部から体部上半部の破片。体部は横長の球形と考えられる。頸部に輪積み痕を残し，頸部内面に稜を持つ。口縁部は折り返し口縁状に作り，短く外傾して立ち上がる。	口縁部外面に指頭圧痕後，ナデ。体部外面ナデ。口縁部内面丁寧なナデ。体部内面ナデ。	砂粒・スコリア・長石 褐色 良	P83　35% 床面
13	甕 土師器	A　10.7 B　11.8 C　3.5	口縁部一部欠損。体部は球形で，中位に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は，輪積み痕を残し，外反しながら立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒 にぶい橙色 良	P84　95% PL41 炭化物付着 床面
14	甕 土師器	B　(16.8) C　6.5	口縁部欠損。体部は縦長の球形で，中位に最大径を持つ。頸部は緩やかに屈曲する。	体部外面上半ヘラナデ。体部外面下半ヘラ削り後，ナデ。体部内面上半ナデ。体部内面ヘラナデ後，一部ヘラ削り。	スコリア・長石 にぶい橙色 普通	P85　85% PL41 床面
15	甕 土師器	A　[14.8] B　(14.2)	底部欠損。体部は球形で，中位に最大径を持つ。頸部は緩やかに屈曲し，内面に稜を持つ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部～体部外面ナデ。口縁部内面ナデ。体部内面ナデ後，一部ヘラ削り。	砂粒・スコリア にぶい赤褐色 普通	P86　40% 床面
16	壺 弥生土器	B　(6.5)	体部の破片。若干外傾して立ち上がる。	附加条一種（附加１条）の縄文を羽状に施す。内面ナデ。	砂粒 にぶい黄褐色 普通	TP7 床面
17	壺 弥生土器	B　(3.5)	頸部の破片。内傾して立ち上がる。	上位に棒状工具による刺突文，下位に櫛描波状文を施す。	砂粒 にぶい黄褐色 普通	TP8 床面

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第25図18	球状土錘	3.1	3.3	0.6	27.4	南コーナー付近床面	DP9
19	ガラス小玉	0.45	0.35	0.15	0.06	床面	PL54

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第26図20	石　片	21.8	15.7	3.4	1880	北東壁際床面	Q4　ホルンフェルス

第65号住居跡（第27図）

位置　調査区域の北西部，B1h9区。

重複関係　第27号溝が本跡の西壁と覆土を掘り込んでいることから，本跡の方が古い。

規模と平面形　長軸（3.42）m，短軸3.20mの隅丸長方形である。

主軸方向　N－21°－W

壁　壁高は43～50cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

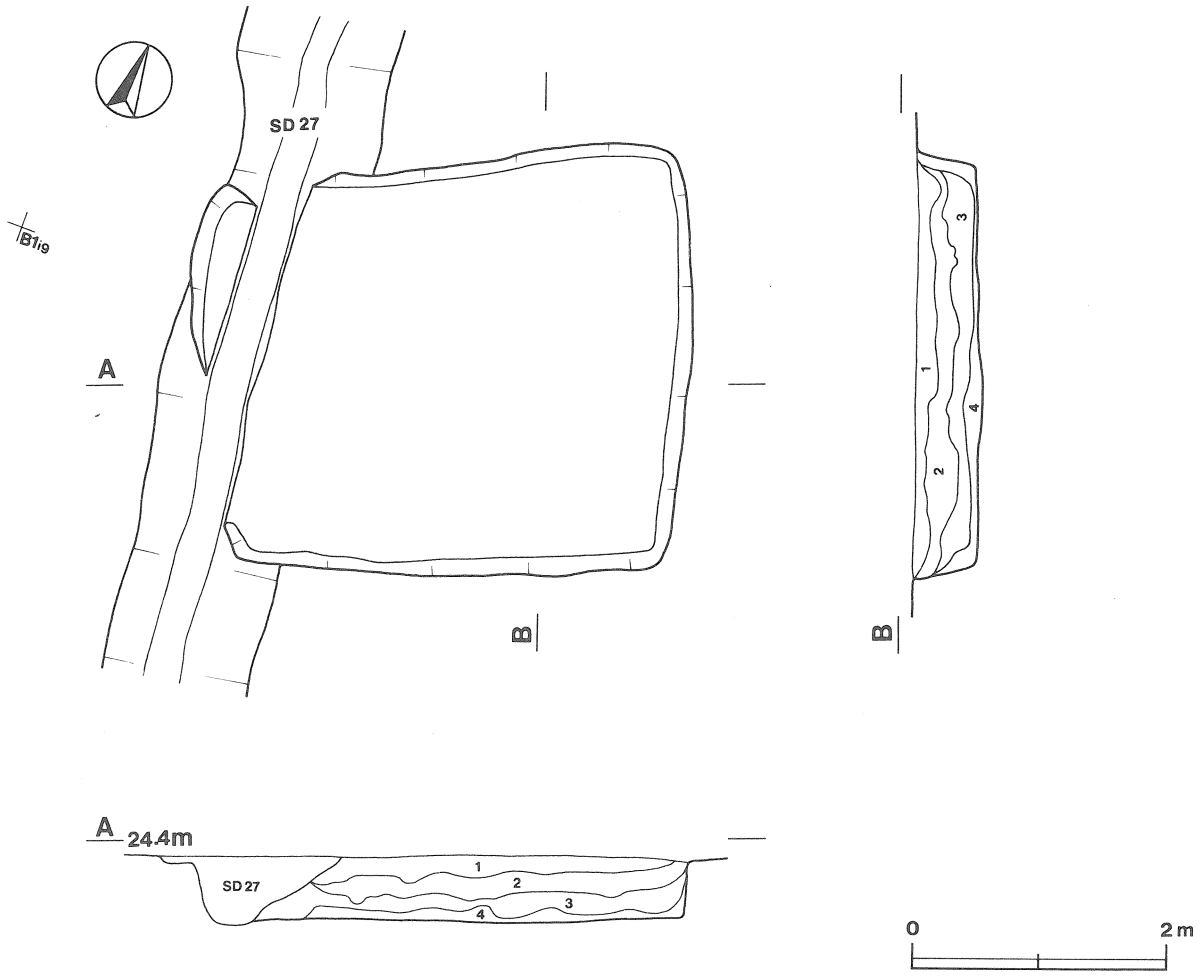
床　ローム質で，平坦である。踏み固められた痕跡はなく，軟弱である。

覆土　4層からなる。ロームブロックを含み，均質な堆積状況を示していることから，人為堆積と思われる。

土層解説

1　黒褐色　ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量
2　灰褐色　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・同中ブロック少量，しまり弱
3　褐　色　ローム大ブロック中量，ローム中ブロック・同小ブロック少量
4　暗褐色　ローム大ブロック・同中ブロック少量

所見　炉，柱穴等を確認できず，床面も軟弱であることから，長期間は使用されなかったと思われる。本跡の時期を求めるのは困難だが，主軸方向が隣接する第67号住居跡と一致することから，これに近い時期であろう。



第27図　第65号住居跡実測図

第67号住居跡（第28・29図）

位置　調査区域の北西部，Ｂ１j0区。

重複関係　第27号溝と第28号溝が本跡の覆土を掘込んで構築されていることから，本跡が古い。

規模と平面形　北東及び南西コーナーを溝によって破壊されているが，長軸6.84ｍ，短軸6.36ｍの隅丸方形である。

主軸方向　Ｎ－20°－Ｗ

壁　壁高は38～43cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　壁際を巡り，断面はＵ字形である。上幅14～32cm，下幅４～12cm，深さは８～12cmである。

床　ローム質で，ほぼ平坦である。中央部は踏み固められている。

炉　Ｐ１とＰ４の中間，Ｐ８の西側に位置する。長径71cm，短径51cmの楕円形で，深さ12cmの地床炉である。炉の長軸は，住居跡の主軸とほぼ並行している。炉の底部は，火を受けて硬化している。

炉土層解説

1　暗 褐 色　　焼土粒子･炭化粒子中量
2　明 褐 色　　焼土粒子･炭化粒子多量，粘性･しまり強

ピット　９か所（Ｐ１～Ｐ９）。Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４は各コーナーに寄って位置し，主柱穴と思われる。直径32～62cmの円形で，深さは40～64cmである。南東側の主柱穴は，第28号溝跡に破壊されたと思われる。Ｐ２・

Ｐ５・Ｐ７は長径34～40cm，短径24～30cmの楕円形で，深さは62～70cmである。規模は小さいが，掘り込みがしっかりしており，補助的な柱穴と考えられる。Ｐ８・Ｐ９は，それぞれ南北に対になる形で，壁寄りに位置する。長径38～43cm，短径30～35cmの楕円形で，深さは８～12cmである。掘り込みは浅いが，ほぼ主柱穴を結ぶ線上に位置するため，補助的な柱穴と推定される。Ｐ６は南壁際，住居跡の中心より西側に位置する。直径31cm，深さ30cmの円形のピットで，出入り口施設に伴うものである。

覆土　17層からなる。レンズ状に堆積するため，自然堆積と思われる。

土層解説

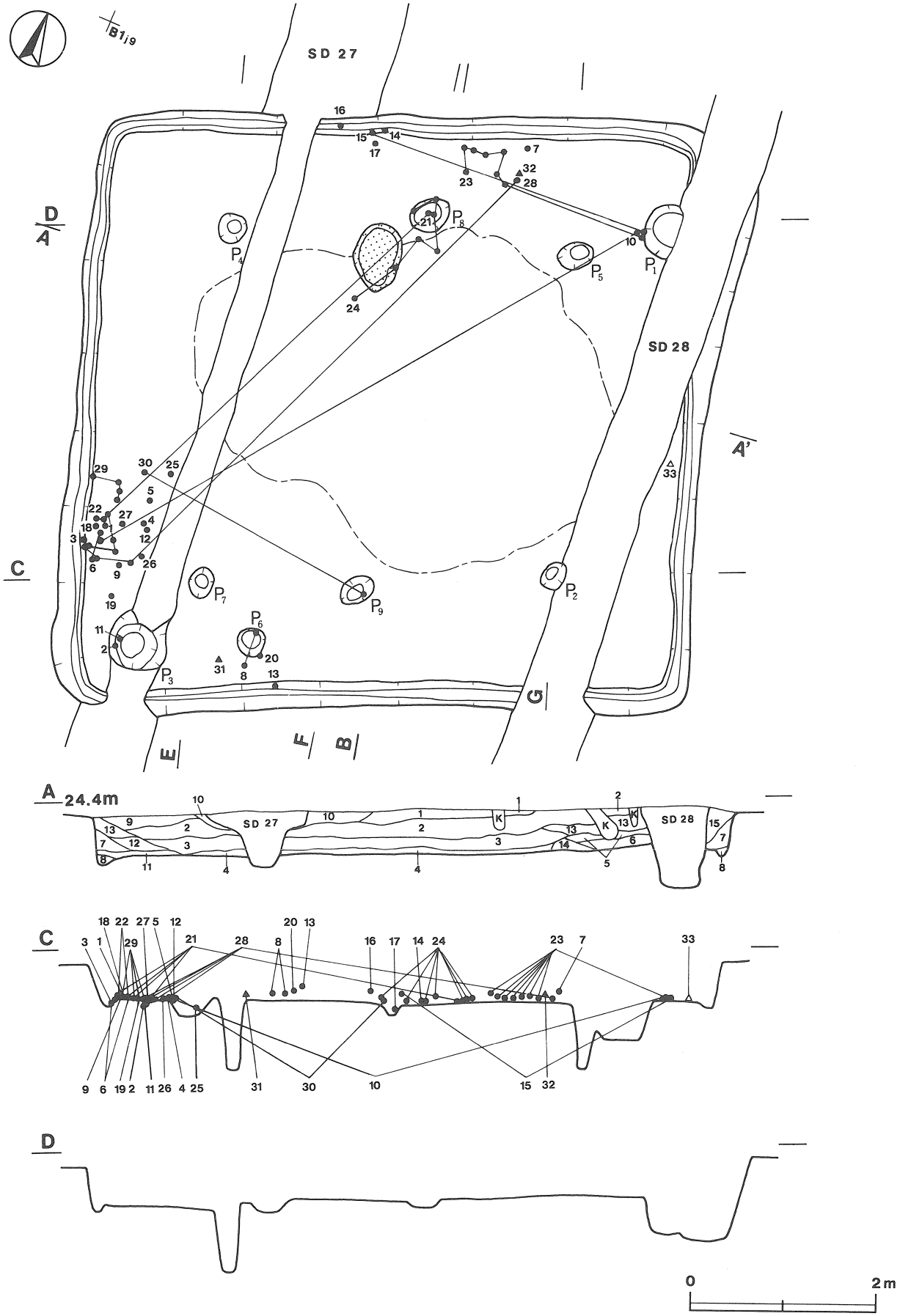
1　黒褐色　ローム粒子･赤色粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子少量,白色粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子少量,ローム小ブロック微量
4　極暗褐色　ローム粒子･焼土粒子少量，炭化粒子微量
5　黒褐色　ローム粒子･白色粒子少量
6　暗褐色　ローム粒子中量,赤色粒子微量,粘性･しまり強
7　褐色　ローム粒子多量,赤色粒子微量
8　褐色　ローム粒子多量
9　暗褐色　ローム粒子･炭化物少量,しまり弱
10　暗褐色　ローム粒子中量,しまり弱
11　褐色　ローム粒子･焼土小ブロック･焼土粒子少量,粘性強
12　黒褐色　焼土粒子少量
13　暗褐色　ローム粒子中量
14　黒色　ローム大ブロック多量,炭化粒子少量,粘性強
15　褐色　赤色粒子少量
16　暗褐色　ローム粒子中量
17　褐色　赤色粒子微量

遺物　土師器片965点，土製品２点（土錘），鉄片１点，須恵器片12点，陶器片１点が出土している。第30～33図１・３～６・９・10・12・18・19・21・22・25～30は，南コーナー付近の床面上から覆土下層にかけて集中して出土している。１～４は，土師器椀である。１・３・４は，床面上から正位の状態で出土している。２は，Ｐ３の覆土中から横位の状態で出土している。14～16は，土師器器台である。北西壁際の床面上２～12cmの位置から，14・15は横位の状態で，17は正位の状態で出土している。脚部の特徴から，同じ器形と考えられる。17～22は，土師器坩である。17は，14の南側，同じ層位から横位の状態で出土している。口縁部は，折返し口縁を模した作りとなっている。20は，Ｐ６付近から横位の状態で出土している。底部に「×」の線刻が焼成前に施されている。23～25は，土師器の壺である。23・24は，破片の状態で，炉と北西壁の間の床面上から出土している。３個体とも折返し口縁である。

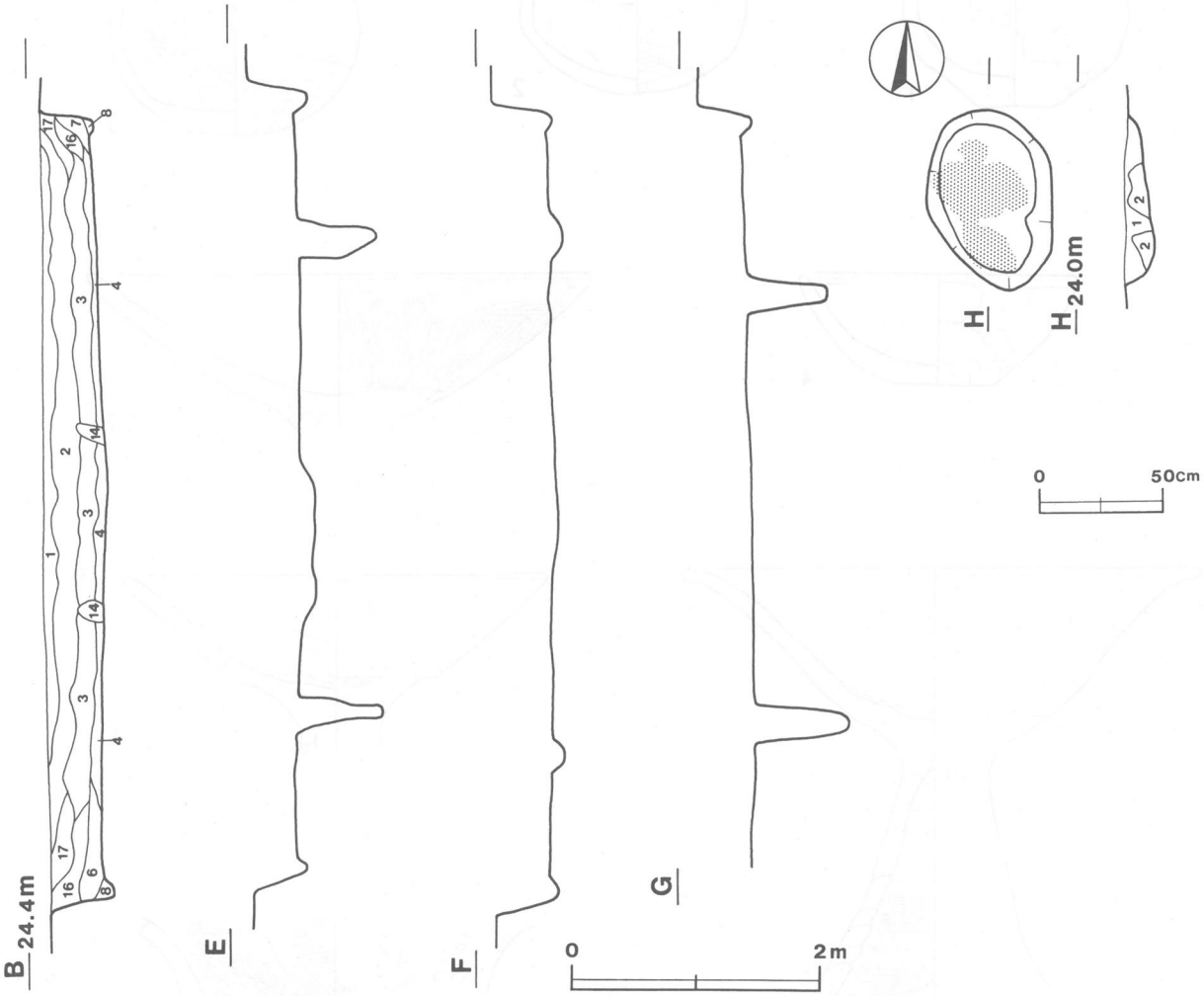
所見　遺物は２か所に集中的にみられ，特に南コーナー付近では甕，高坏，坩などを一括して投棄したような出土状況である。時期は，出土した土器から５世紀前半と考えられる。

第67号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第30図 1	椀 土師器	A 9.0 B 6.0 C 3.0	口縁部一部欠損。平底。体部は横長の球形で，中位に最大径を持つ。口縁部は外反して短く立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半ナデ。体部外面下半ヘラ削り。体部内面ヘラ削り。	砂粒・白色粒子 にぶい黄褐色 良	P87 95% PL42 床面
2	椀 土師器	A 9.3 B 5.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は横長の球形である。口縁部は外反して短く立ち上がる。口縁部に最大径を持つ。	口縁部内・外面ナデ。体部外面上半ナデ。体部外面下半ヘラ削り。体部内面ヘラ削り後，ナデ。	砂粒 橙色 普通 外面黒斑有	P88 95% PL42
3	椀 土師器	A (8.7) B 7.2	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，中位に最大径を持つ。口縁部は短くほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラ削り後，磨き。底部内面付近ナデ。	砂粒・白色粒子 にぶい黄褐色 良	P89 80% PL42 床面
4	椀 土師器	A 11.1 B 4.5 C 4.0	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部へ緩やかに内彎して立ち上がる。	口縁端部ナデ。体部外面ヘラ削り後，一部にナデ。体部内面ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・スコリア・雲母・長石 にぶい褐色　良	P90 80% PL42 床面
5	高坏 土師器	A 20.8 B 15.8 D 14.5	坏部一部欠損。口縁部は外傾して立ち上がり，端部付近で緩やかに外反する。脚部はハの字状に外反して広がる。	口縁部内面横ナデ。坏部外面ヘラ削り後，磨き。脚部外面ヘラ削り。脚端部横ナデ。坏部内面は器面が荒れ調整不明。脚部内面に輪積み痕を残し，ハケ目調整を施す。	砂粒・スコリア・石英・雲母 にぶい赤褐色 良	P91 75% PL42 床面

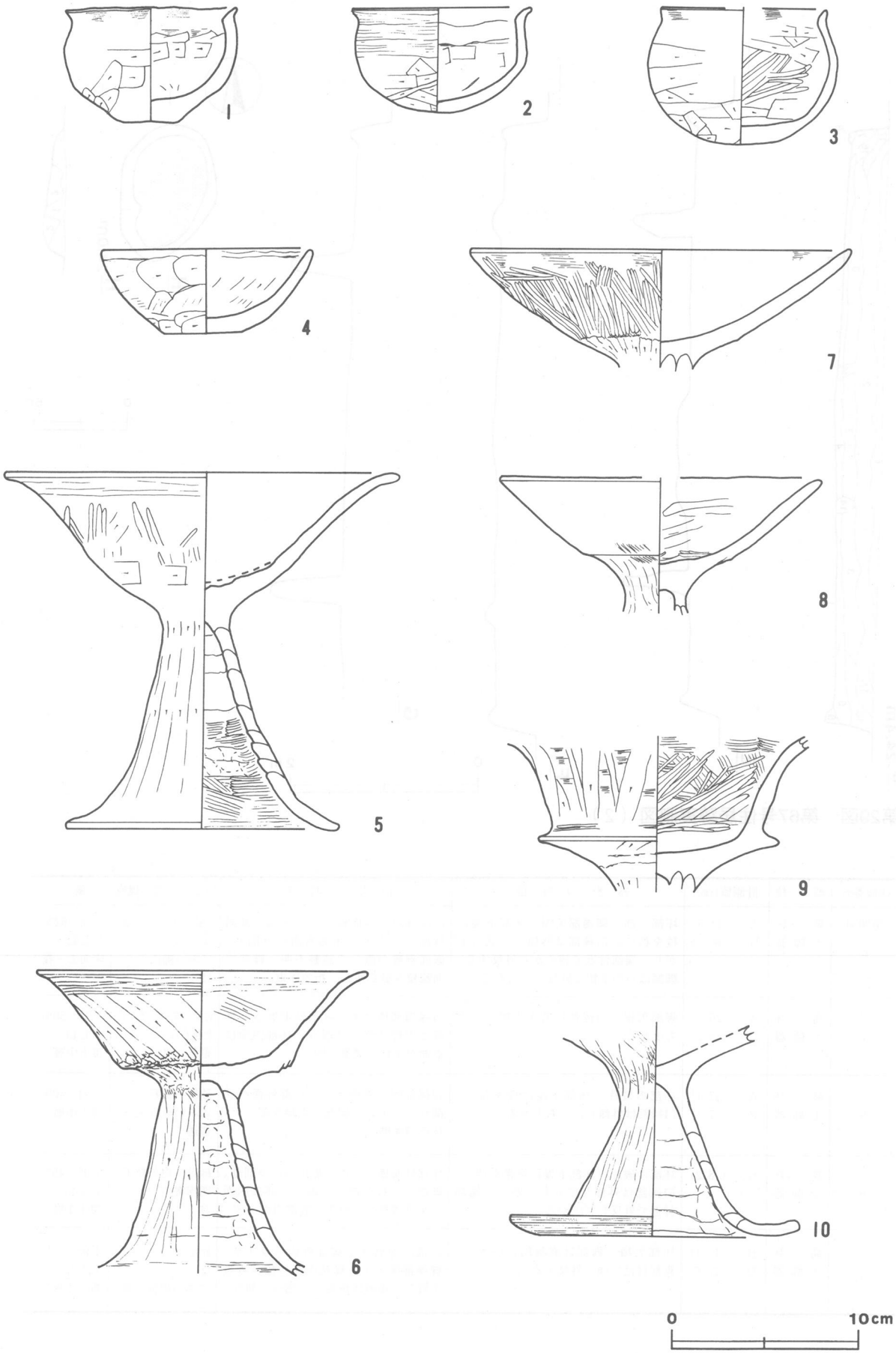


第28図　第67号住居跡実測図（1）

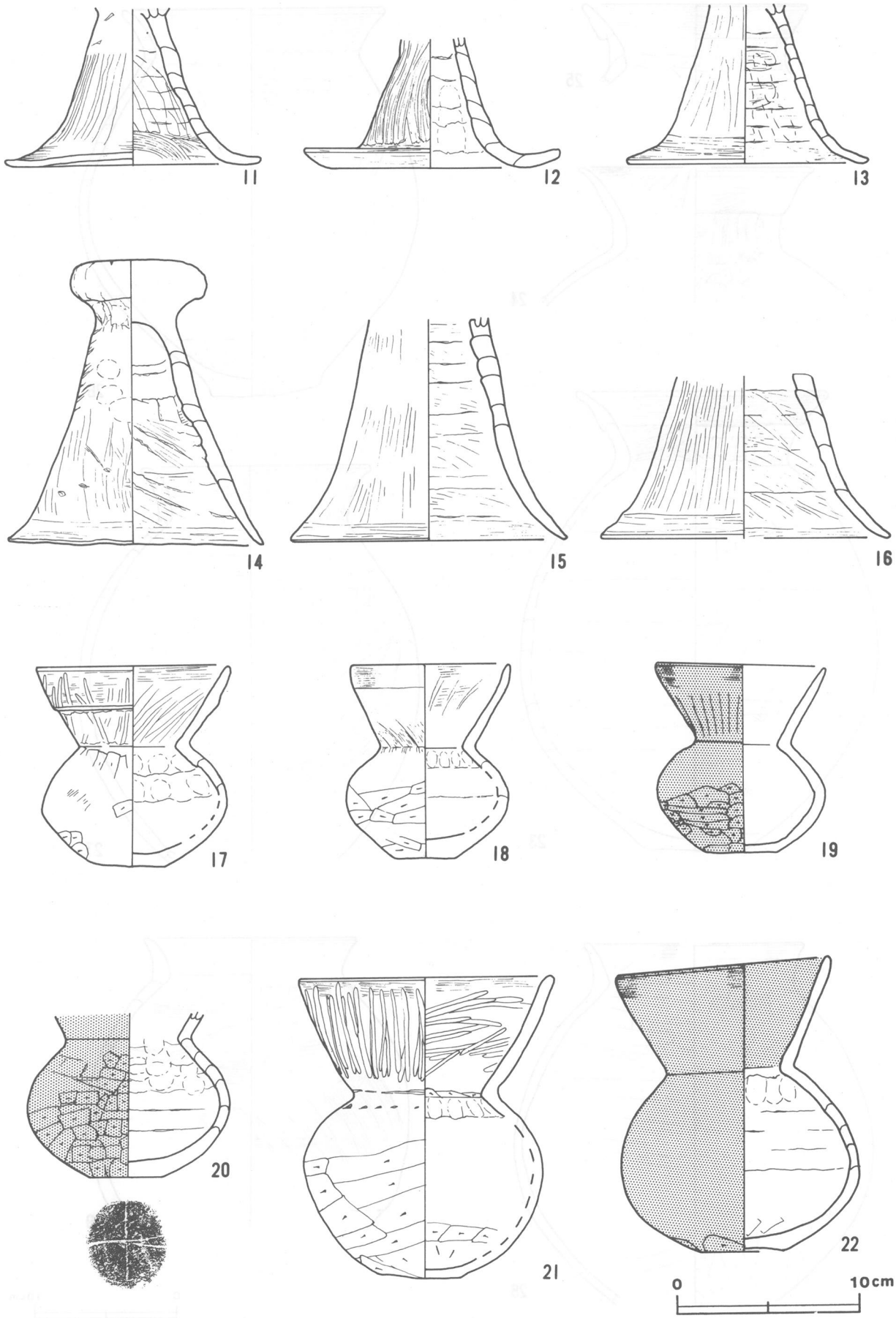


第29図　第67号住居跡実測図（2）

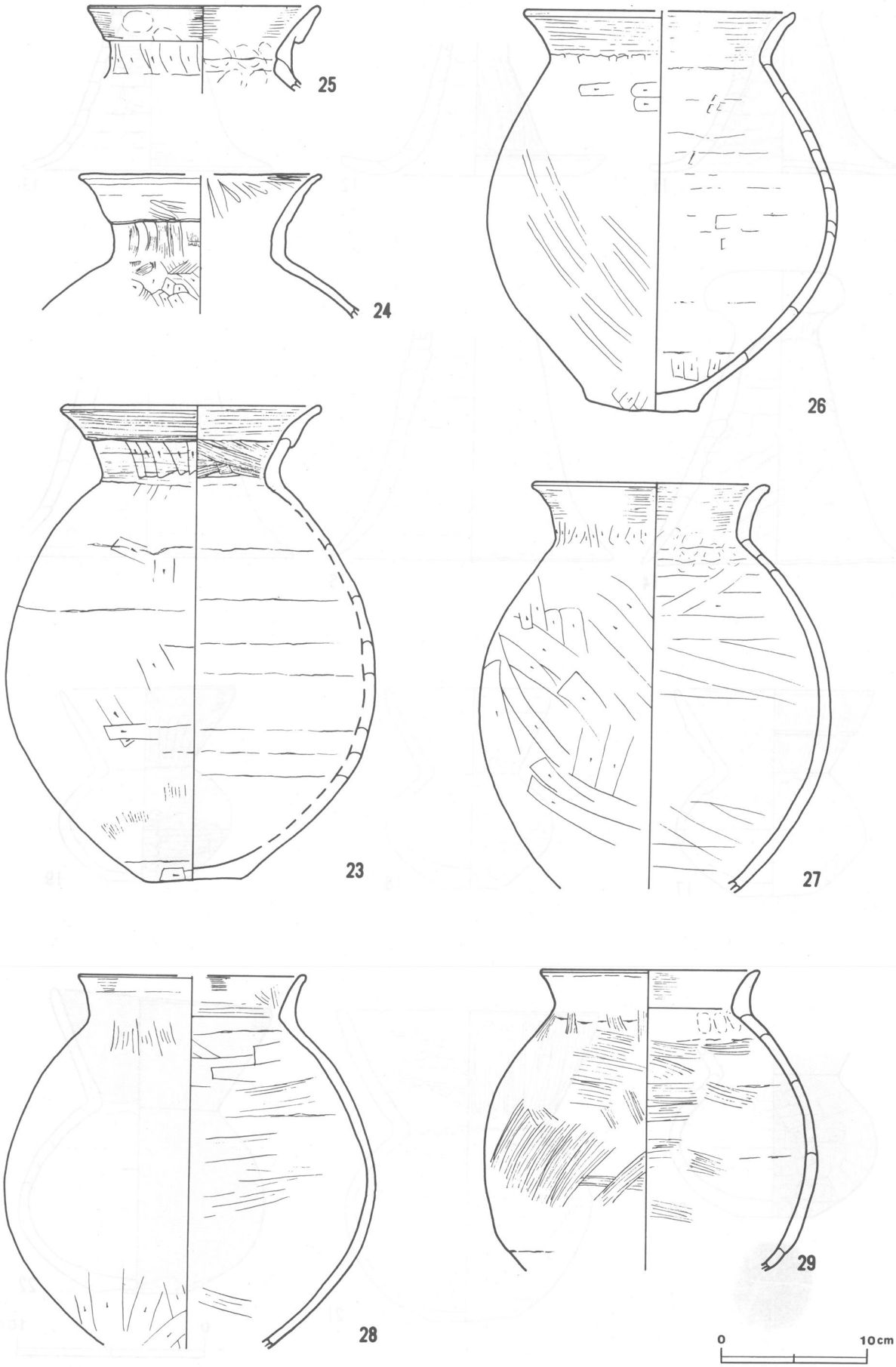
図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第30図 6	高　坏 土師器	A　17.5 B　(16.0)	坏部一部・脚端部欠損。坏部下端に稜を持つ。口縁部は外傾して立ち上がり，端部付近で緩やかに外反する。脚部はハの字状に外反して広がる。	口縁部内・外面横ナデ。坏部・脚部外面ヘラナデ。坏部内面ヘラ削り。底面剥離が激しく調整不明。脚部内面輪積み痕を残し，指頭圧痕。	砂粒・スコリア・雲母 にぶい褐色 良	P92　62% PL42 床面上～覆土下層
7	高　坏 土師器	A　20.2 B　(6.2)	脚部欠損。口縁部は若干内彎して立ち上がる。	口縁端部横ナデ。坏部外面磨き。脚部との接合部ヘラ削り。坏部内面は器面が荒れ，調整不明。	砂粒・スコリア・白色粒子 橙色　良	P93　50% PL43 覆土中層
8	高　坏 土師器	A　[17.1] B　(7.1)	坏部の破片。坏部下端に稜を持つ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。坏部外面ヘラ削り後，ナデ。脚部との接合部ナデ。坏部内面磨き。	砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通	P94　40% 覆土中層
9	高　坏 土師器	B　(8.2)	坏部の破片。坏部下端に突帯を持つ。口縁部は外傾して立ち上がり，端部付近で外反して広がる。	坏部外面横ナデ後，縦位のヘラ削り。脚部との接合部ヘラ削り。坏部内面ハケ目調整後，磨き。底部内面ナデ。	砂粒・白色粒子 明赤褐色 良	P95　45% PL43 覆土下層
10	高　坏 土師器	B　(11.1) D　[15.5]	坏部欠損。脚部は直線的に広がり，裾部付近で強く外反する。	坏部底面磨き。脚部外面ヘラナデ。脚端部横ナデ。脚部内面に輪積み痕を残し，指頭圧痕後，一部ヘラ削り。	砂粒・スコリア・雲母 にぶい褐色　良	P96　55% PL43 覆土下層



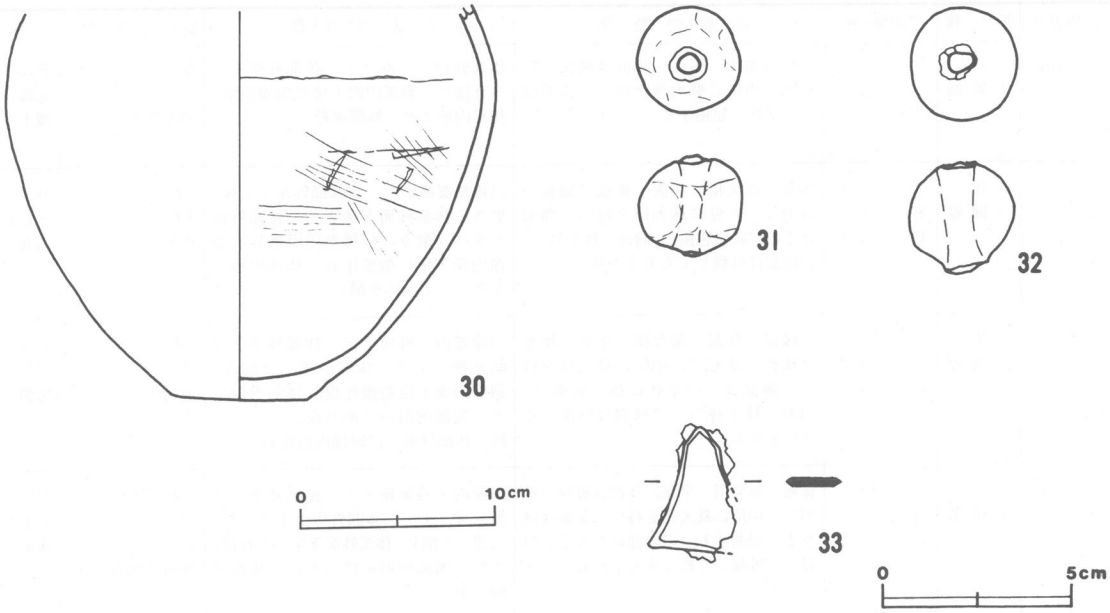
第30図　第67号住居跡出土遺物実測図（1）



第31図　第67号住居跡出土遺物実測図（２）



第32図　第67号住居跡出土遺物実測図（3）



第33図　第67号住居跡出土遺物実測図（4）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第31図 11	高　坏 土師器	B　(8.5) D　13.9	坏部欠損。脚部はハの字状に外反しながら広がる。	脚部内・外面ヘラナデ。脚端部横ナデ。	砂粒・長石 明赤褐色　普通	P97　50% 覆土中層
12	高　坏 土師器	B　(7.1) D　13.9	坏部欠損。脚部は直線的に広がり，脚端部付近で強く外反する。	脚部外面ヘラナデ。脚端部横ナデ。脚部内面輪積み痕を残し，指頭圧痕。	砂粒・雲母・白色粒子 にぶい褐色　良	P98　45% 床面
13	高　坏 土師器	B　(8.6) D　12.8	坏部欠損。脚部はハの字状に外反して広がる。	脚部外面ヘラナデ。脚端部横ナデ。脚部内面指頭圧痕。	砂粒・スコリア 橙色　良	P99　40% PL43 覆土中層
14	器　台 土師器	A　7.4 B　15.6 D　13.8	完形。受部は開口せず，上面が平坦な拳状を呈す。脚部はハの字状に若干外反しながら広がる。	受部は指頭圧痕及びヘラナデ。脚部との接合部指頭圧痕。脚部内・外面ヘラナデ。脚端部横ナデ。	砂粒・石英・雲母・白色粒子 にぶい褐色　良	P100　100% PL43 覆土下層
15	器　台 土師器	B　(12.0) D　14.3	脚部の破片。脚部はハの字状に若干外反して広がる。	脚外面ヘラナデ。脚端部横ナデ。脚内面ヘラナデ。	砂粒・スコリア にぶい褐色　良	P101　45% 覆土下層
16	器　台 土師器	B　(8.8) D　[15.4]	脚部の破片。脚部はハの字状に若干外反しながら広がる。	脚外面ヘラナデ。脚端部横ナデ。脚内面ヘラナデ。	砂粒・スコリア にぶい褐色　良	P102　40% 覆土中層
17	坩 土師器	A　10.5 B　10.8 C　3.7	完形。平底。体部は算盤玉状で，中位に最大径を持つ。頸部はくの字状に強く屈曲する。口縁部は折り返し口縁で，外傾して立ち上がる。	口縁端部面横ナデ。口縁部外面ナデ後，磨き。体部外面ヘラ削り後，ナデ。口縁部内面磨き。体部内面上半指頭圧痕。体部内面下半ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・雲母 にぶい褐色 良	P103　100% PL43 覆土下層
18	坩 土師器	A　8.5 B　10.4 C　3.3	完形。平底。体部は横長の球形で，中位に最大径を持つ。頸部はくの字状に強く屈曲し，内面に稜を持つ。口縁部は外傾し，端部付近で若干内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面，体部外面上半ナデ。体部外面下半ヘラ削り。頸部内面下位に指頭圧痕。体部内面ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・スコリア・白色粒子 橙色 良	P104　100% PL43 覆土下層
19	坩 土師器	A　9.3 B　10.9 C　4.0	口縁部一部欠損。平底。体部は横長の球形で，中位に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲し，内面に稜を持つ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面，体部外面上半・体部内面ナデ。体部外面下半ヘラナデ。外面赤彩。	砂粒・石英・長石 赤褐色 普通	P105　95% PL43 覆土中層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第31図 20	坩 土師器	B　(8.8) C　4.2	口縁部欠損。平底。体部は横長の球形で，中位に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲する。	体部外面上半部ナデ。体部外面下半ヘラ削り。頸部内面下位に指頭圧痕。体部内面ナデ。外面赤彩。	砂粒・スコリア・雲母 明赤褐色　良	P106　45% 底部に線刻 覆土中層
21	坩 土師器	A　13.9 B　16.2 C　4.0	体部一部欠損。平底。体部は縦長の球形で，上位に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲し，内面に稜を持つ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁端部横ナデ。口縁部外面ナデ後，磨き。体部外面上半ナデ。体部外面下半ヘラ削り。口縁部内面磨き。頸部内面下位に指頭圧痕。体部内面上半ナデ，下半ヘラ削り。	砂粒・スコリア・白色粒子 橙色 良	P107　70% PL43 床面～覆土下層
22	坩 土師器	A　11.7 B　15.9 C　4.3	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は横長の球形で，中位に最大径を持つ。頸部はくの字状に強く屈曲し，内面に稜を持つ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。体部下端ヘラ削り。頸部内面下位指頭圧痕。体部内面ナデ。底部内面ヘラ削り後，ナデ。口縁～体部外面・口縁部内面赤彩。	砂粒・スコリア・長石 赤褐色 良	P108　65% PL43 床面
第32図 23	壺 土師器	A　18.5 B　32.7 C　6.7	体部一部欠損。平底。体部は縦長の球形で，中位に最大径を持つ。頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は折り返し口縁で，外傾して短く立ち上がる。	口縁内・外面横ナデ。頸部外面ヘラ削り後，ナデ。体部外面上半ナデ後，一部ヘラ削り。体部外面下半ハケ目後，ナデ。頸部内面上位ハケ目。体部内面ナデ。	砂粒・雲母 にぶい褐色 良 外面黒斑有	P109　70% PL44 床面
24	壺 土師器	A　[16.8] B　(9.7)	口縁部から底部の破片。頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は折り返し口縁で，緩やかに外反して立ち上がる。	口縁端部ナデ。口縁折り返し部ナデ。頸部外面以下ヘラ削り後，一部ハケ目調整。口縁部内面磨き。頸部以下内面ナデ。	砂粒・長石 にぶい赤褐色 普通	P110　20% 床面
25	壺 土師器	A　15.4 B　(5.8)	体部欠損。頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は折り返し口縁で，外反して短く立ち上がる。	口縁端部ナデ。口縁折り返し部指頭圧痕後，ナデ。頸部外面ヘラ削り。口縁部内面ナデ。頸部内面指頭圧痕後，ナデ。	砂粒・スコリア・長石 にぶい橙色 良	P111　80% 床面
26	甕 土師器	A　18.6 B　27.5 C　7.5	口縁部一部欠損。平底。体部は縦長の球形で，中位に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は若干外反して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ後，一部にヘラ削り・磨き。体部下端ヘラ削り。体部内面ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・石英・スコリア・雲母 にぶい褐色 良	P112　80% PL44 床面
27	甕 土師器	A　15.7 B　(28.1)	底部欠損。体部は縦長の球形で，中位に最大径を持つ。頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面以下ヘラ削り。頸部内面指頭圧痕。体部内面ヘラナデ，一部ヘラ削りが残る。	砂粒・スコリア・長石 橙色 良	P113　75% PL44 床面
28	甕 土師器	A　[15.8] B　(25.8)	口縁部一部・底部欠損。体部は縦長の球形で，中位に最大径を持つ。頸部は緩やかに屈曲し，内面に稜を持つ。口縁部はほぼ直立し，端部付近で若干外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半ナデ後，一部ヘラ削り。体部外面下半ヘラ削り。頸部内面下位ヘラ削り。体部内面ヘラナデ後，一部ヘラ削り。	砂粒・スコリア・白色粒子 明黄褐色 良	P114　60% PL44 床面～覆土下層
29	甕 土師器	A　15.2 B　(20.7)	底部欠損。体部は縦長の球形で，体部外面下位に輪積み痕を残す。頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は若干外反して短く立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。頸部内面下位指頭圧痕。体部内面ヘラナデ。	砂粒・スコリア・白色粒子 橙色 良	P115　60% PL44 床面
第33図 30	甕 土師器	B　(20.6) C　7.2	口縁部～頸部欠損。平底。体部は縦長の球形で，中位に最大径を持つと考えられる。	体部外面ヘラ削り後，ナデ。体部内面ヘラ削り後，ヘラナデ。	砂粒・スコリア・雲母 にぶい赤褐色 良　外面黒斑有	P116　60% 床面～覆土下層

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第33図31	球状土錘	2.7	2.6	1.0	15.4	南壁寄り覆土下層	DP10
32	球状土錘	3.0	3.0	1.1	21.5	北壁寄り覆土下層	DP11

図版番号	種　別	計　測　値				出　土　地　点	備　　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第33図33	不明鉄器	3.5	2.3	0.22	2.7	東壁際覆土下層	M3　鉄鏃？PL54

第71号住居跡（第34図）

位置　調査区域の北西部，C2d3区。

規模と平面形　南部が調査区域の外になる。規模は，長軸（5.23）m，短軸（3.54）mで，方形または長方形と推定される。

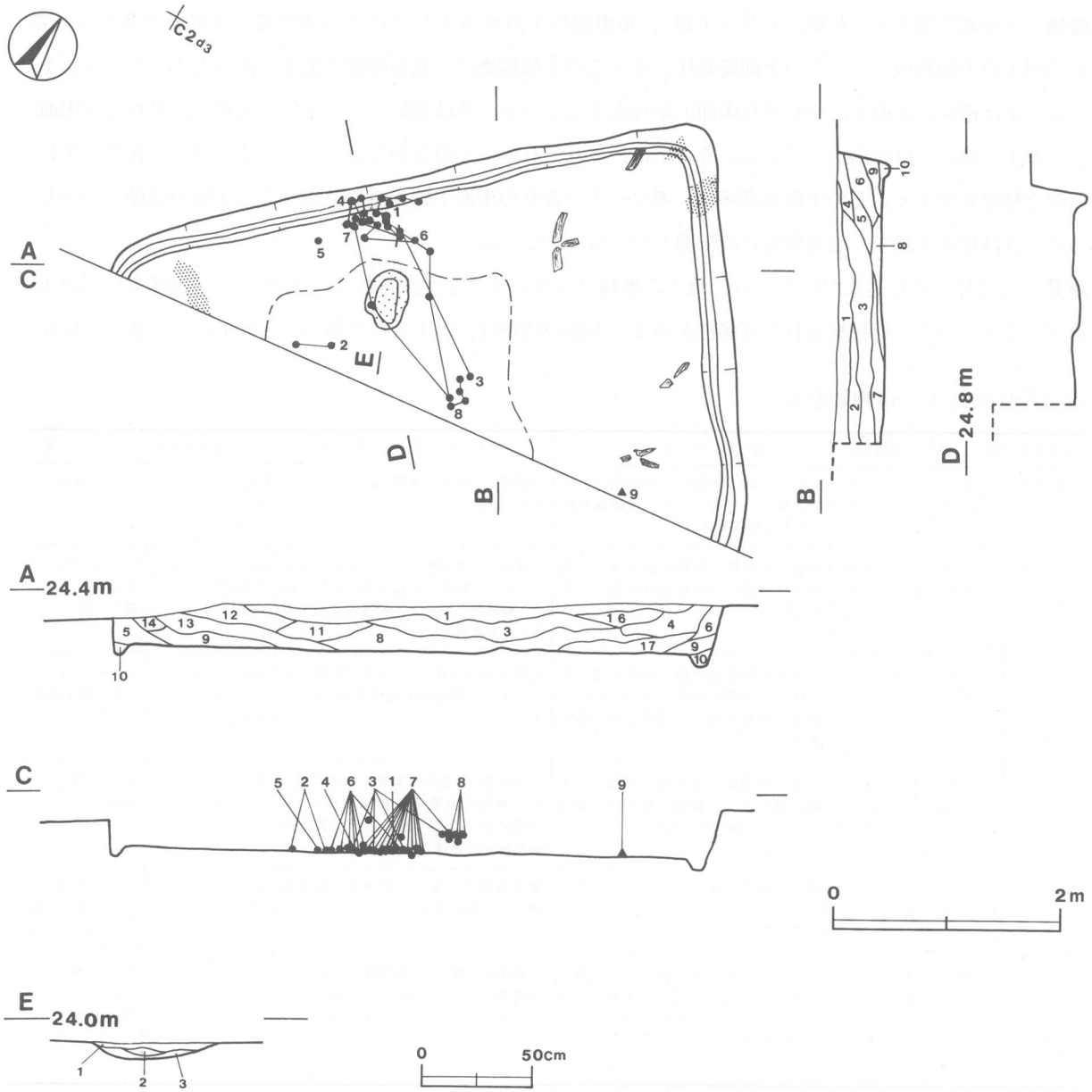
主軸方向　N－41°－W

壁　壁高は24～43cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　壁際を巡り，断面はU字形である。上幅16～30cm，下幅5～9cm，深さ8～14cmである。

床　ローム質で，平坦である。炉から南側は踏み固められている。

炉　北西壁寄りに位置する。長径52cm，短径33cmの不整楕円形で，深さ7cmの地床炉である。炉床部は，火



第34図　第71号住居跡実測図

を受けて硬化している。

炉土層解説

1　暗褐色　炭化物中量,焼土粒子少量
2　褐　色　焼土粒子中量,粘性弱
3　褐　色　焼土粒子少量

ピット　床面を精査したが，確認されなかった。

覆土　17層からなる。第1～3・16層は，レンズ状に堆積するため自然堆積と思われる。第4層以下はロームブロック，炭化物を含む層が多く，人為堆積と考えられる。炭化材が住居の内側に向かって倒れ込んだ様子が確認できる。

土層解説

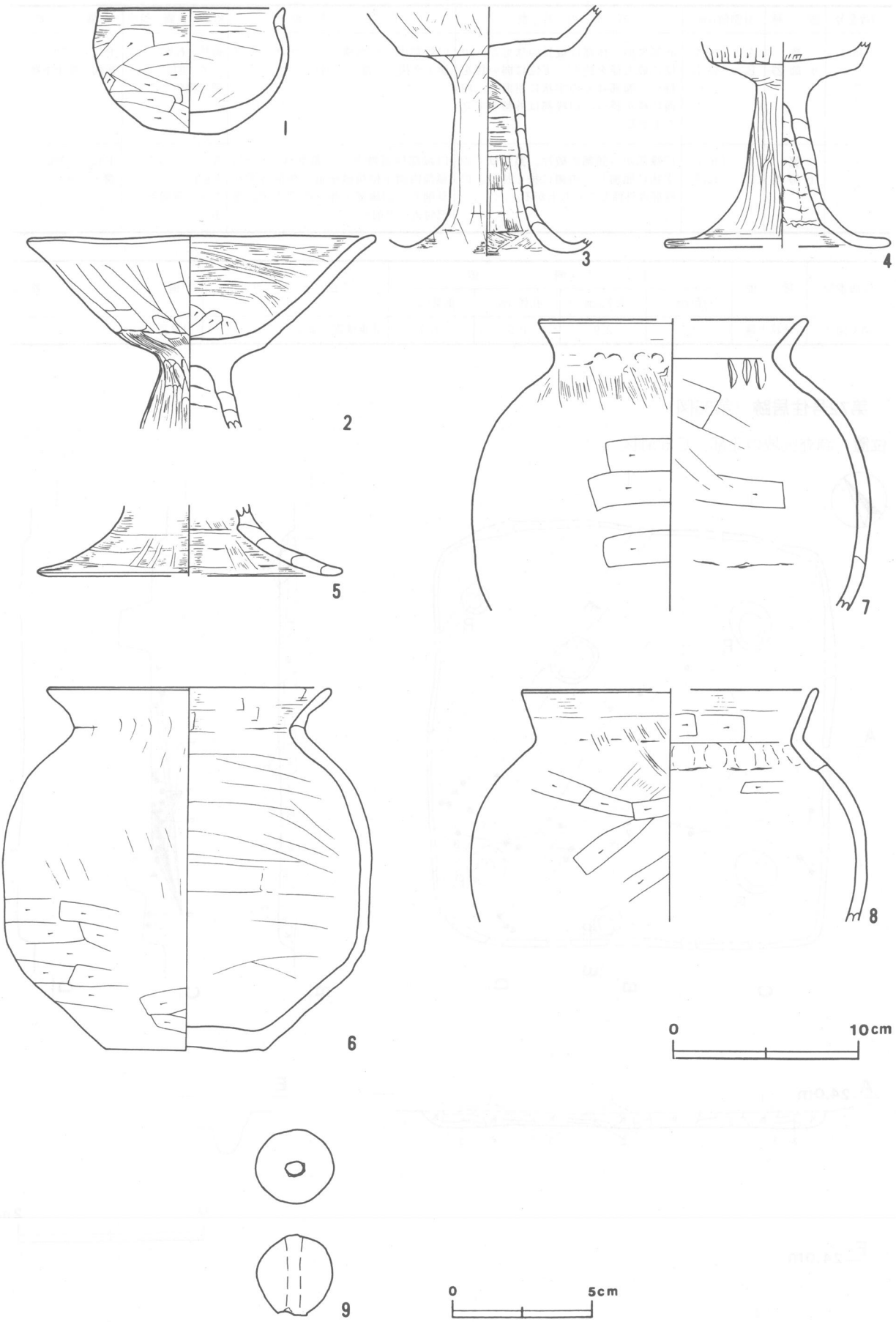
1　暗褐色　ローム粒子少量
2　黒褐色　ローム粒子少量
3　黒　色　ローム粒子少量,ローム小ブロック微量
4　暗褐色　ローム粒子中量,ローム小ブロック少量,砂粒微量
5　暗褐色　ローム粒子中量
6　褐　色　ローム粒子多量,ローム中ブロック中量
7　暗褐色　ローム粒子少量,ローム大ブロック・炭化粒子微量
8　暗褐色　ローム粒子多量
9　褐　色　ローム粒子多量,ローム小ブロック中量
10　褐　色　ローム小ブロック・同粒子多量,粘性強
11　黒　色　炭化物中量,ローム中ブロック微量
12　暗褐色　ローム粒子中量,ローム小ブロック・炭化粒子少量
13　褐　色　ローム中ブロック・同粒子多量,粘性強
14　暗褐色　ローム粒子多量,炭化粒子微量，粘性・しまり弱
15　暗褐色　ローム大ブロック・同粒子中量,炭化物微量
16　黒褐色　ローム粒子中量,ローム中ブロック微量
17　褐　色　ローム粒子多量,ローム小ブロック中量,ローム中ブロック微量

遺物　土師器片211点，土製品1点（土錘），須恵器片1点が出土している。須恵器片は混入と考えられる。第35図1の土師器椀，3～5の土師器高坏，6・7の土師器甕は，北西壁際中央付近から出土している。1は正位，4は横位の状態で，それぞれ床面上から出土している。3は逆位，5は正位の状態で，それぞれ床面上から覆土下層にかけて出土している。6・7は，それぞれ1・4の上から出土している。共に，体部下半に不明瞭な稜線を有する。2の土師器高坏は，西コーナー寄りの床面上約4㎝の位置から，正位の状態で出土している。9は球状土錘で，北東壁寄りの床面上から出土している。

所見　炭化材の倒れ込んだ状況から，焼土の堆積は少ないものの焼失住居と思われる。北西壁中央部の土器群は，1を除いて一括投棄された可能性がある。本跡の時期は，出土した土器から5世紀前半と考えられる。

第71号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第35図 1	椀 土師器	A 9.9 B 6.8 C 3.5	完形。平底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がり，口縁端部付近で若干外反する。	口縁部内・外面・体部内面ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒 明赤褐色 普通	P117　98% PL44 床面
2	高坏 土師器	A 18.9 B (10.4)	脚部下半欠損。坏部外面下端に不明瞭な稜を持つ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面ヘラナデ。脚部との接合部付近ヘラ削り。脚外面ヘラナデ。脚部内面指頭圧痕。坏部底面ヘラ削り。	砂粒・石英・長石 明赤褐色 普通	P118　55% PL44 覆土下層
3	高坏 土師器	B (13.3)	口縁部・脚端部欠損。坏部下端に稜を持ち,口縁部は外傾して立ち上がる。脚部は柱状に作り，端部は強く外反する。	坏部底面ヘラ削り。坏部～脚部外面ヘラナデ。脚部内面輪積み痕を残し，ナデ。	砂粒・スコリア にぶい橙色 普通	P119　50% 床面～覆土中層
4	高坏 土師器	B (11.2) D [12.3]	坏部，脚端部一部欠損。坏部外面下端に稜を持つ。脚部は柱状で，端部に向かって緩やかに外反する。	坏部外面ヘラ削り。脚部との接合部ナデ。脚部外面磨き。脚端部横ナデ。坏部底面ヘラ削り後，ナデ。脚部内面輪積み痕を残し，指頭圧痕。	砂粒・雲母 にぶい橙色 良	P120　50% 床面
5	高坏 土師器	B (3.8) D 16.4	脚部の破片。脚部はハの字状に外反して広がる。	脚部外面ナデ後，一部磨き。脚端部横ナデ。脚内面横ナデ。	砂粒・スコリア 橙色　良	P121　25% 床面～覆土下層
6	甕 土師器	A 14.8 B 19.6 C 8.4	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は球形で，中位に最大径を持つ。体部下位に弱い稜を持つ。頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部外面横ナデ。体部外面上半ナデ。体部外面下半ヘラ削り。口縁部内面ヘラ削り後，横ナデ。体部内面ヘラナデ。	砂粒・スコリア 明赤褐色 普通	P122　80% PL44 覆土下層



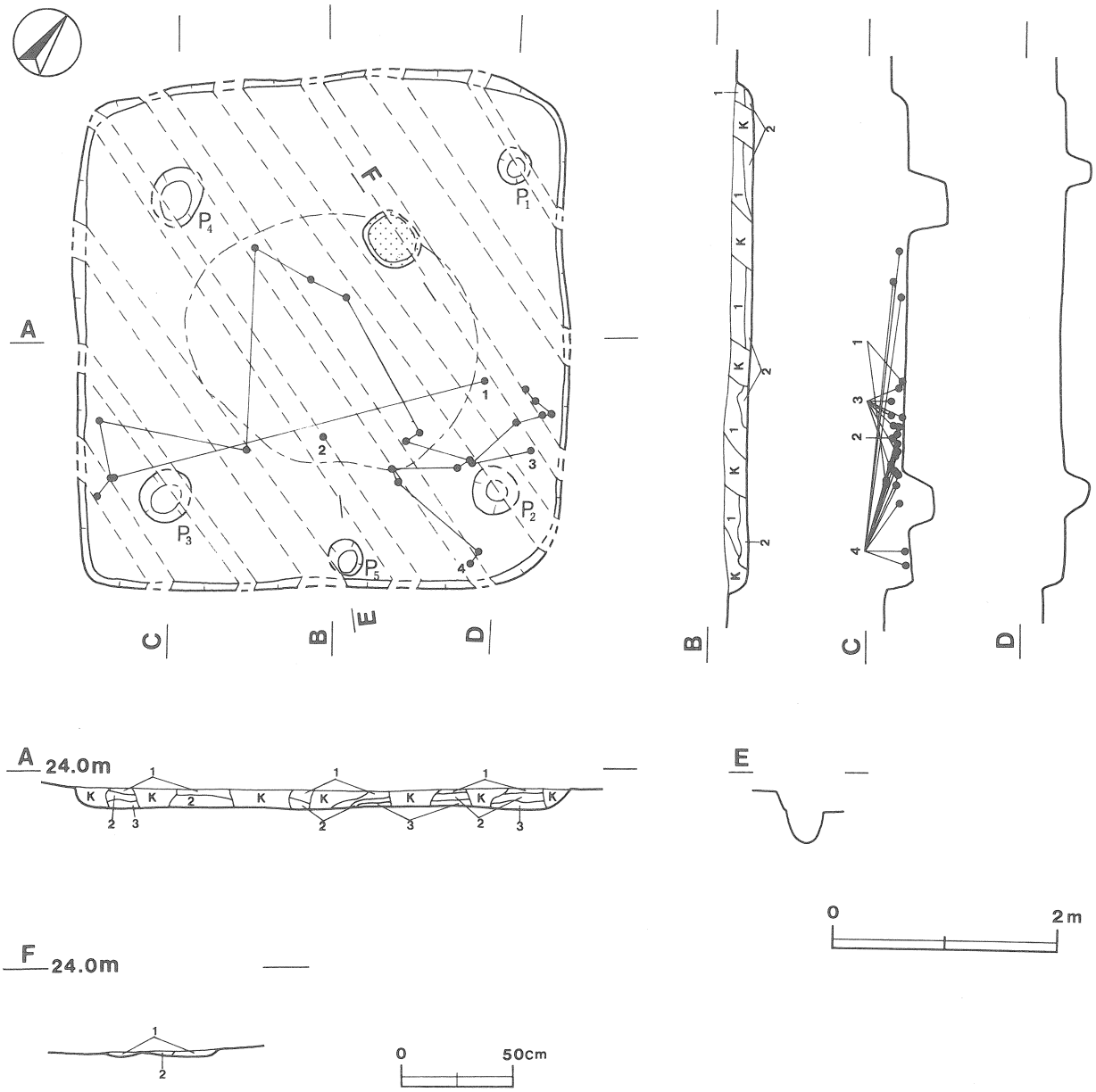
第35図　第71号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第35図 7	甕 土師器	A　[14.4] B　(15.7)	底部欠損。体部は縦長の球形で，中位に最大径を持ち，下位に弱い稜を持つ。頸部はくの字状に屈曲し，内面に稜を持つ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ後，一部ヘラ削り。	砂粒・石英・スコリア・雲母 暗赤褐色　良	P123　65% 床面～覆土下層
8	甕 土師器	A　[16.0] B　(12.5)	口縁部から頸部の破片。頸部はくの字状に屈曲し，内側に稜を持つ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部外面横ナデ。頸部外面ナデ。頸部内面下位指頭圧痕。体部外面ヘラ削り。口縁部・体部内面ナデ，頸部付近ヘラ削り。	砂粒・スコリア・白色粒子 にぶい黄褐色 良	P124　35% 覆土中層

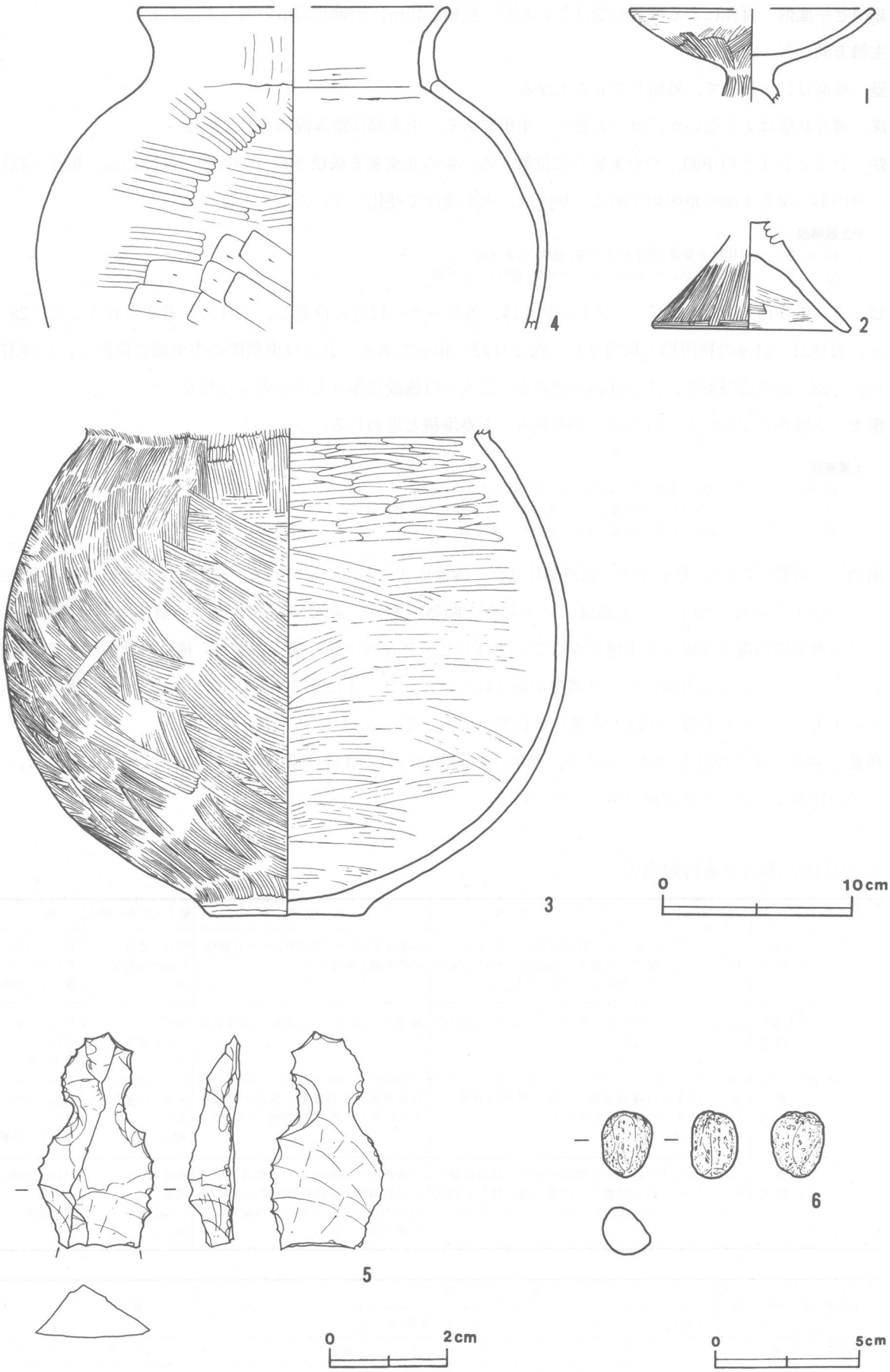
図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第35図9	球状土錘	2.7	2.9	0.5	16.1	北東壁寄り床面	DP12

第72号住居跡（第36図）

位置　調査区域の北部，C5a1区。



第36図　第72号住居跡実測図



第37図　第72号住居跡出土遺物実測図

規模と平面形　耕作による撹乱を受けているが，長軸4.45m，短軸4.33mの隅丸方形である。

主軸方向　N－21°－W

壁　壁高は11～16cmで，外傾して立ち上がる。

床　遺存状態はよくないが，ローム質で，平坦である。中央部は踏み固められている。

炉　Ｐ１とＰ４との中間，やや東寄りに位置する。炉の北東側を破壊されているが，長径49cm，短径［42］cmの楕円形，深さ４cmの地床炉である。炉床は，火を受けて硬化している。

炉土層解説

1　暗 褐 色　　炭化粒子多量，焼土粒子少量，粘性・しまり弱
2　褐　　色　　焼土大ブロック・同中ブロック中量，粘性・しまり弱

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ１～Ｐ４は，各コーナー付近に位置し，主柱穴と考えられる。長径28～50cm，短径24～41cmの楕円形と推定され，深さは22～40cmである。Ｐ５は南壁際の中央部に位置し，長径37cm，短径［28］cmの楕円形で，深さは26cmである。出入り口施設に伴うものと考えられる。

覆土　３層からなる。ロームブロックを含み，人為堆積と思われる。

土層解説

1　灰 褐 色　　ローム粒子中量，ローム中ブロック・同小ブロック少量
2　褐　　色　　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・同中ブロック少量
3　褐　　色　　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量

遺物　土師器片172点，軽石１点，須恵器片２点，陶器片２点が出土している。須恵器片・陶器片は，撹乱土層からの出土である。図示した土器は，いずれも土師器である。第37図１・２は，別個体の小形高坏である。１は南西壁際の覆土下層から中層にかけて，２はＰ２・Ｐ３の中間の覆土中層から横位の状態で，それぞれ出土している。両者とも外面にハケ目調整が施されている。３・４は甕である。３は東コーナー付近の，４は住居跡中央の，いずれも覆土中層から破片の状態で出土している。

所見　耕作による撹乱を受けているが，図示した遺物についてはほぼ原位置からの出土である。時期は，小形高坏の特徴などから４世紀前半頃と考えられる。

第72号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第37図 1	小形高坏 土師器	A　[12.7] B　(5.0)	坏部一部・脚部欠損。坏部は大きく開き，体部から口縁部にかけて緩やかに内彎して立ち上がる。	口縁端部横ナデ。体部外面ハケ目調整。坏部内面丁寧なナデ。	砂粒・雲母 にぶい赤褐色 良	Ｐ125　40% ＰＬ45 覆土下～中層
2	小形高坏 土師器	B　(5.7) D　10.2	坏部欠損。脚部はハの字状に直線的に広がる。	脚部内・外面ハケ目調整。脚端部横ナデ。	砂粒 にぶい橙色 良	Ｐ126　45% ＰＬ45 覆土中層
3	甕 土師器	B　(25.3) C　8.9	口縁部欠損。平底。体部は球形で，中位に最大径を持つ。	体部外面ハケ目調整。頸部下位棒状工具によるナデ。体部内面ヘラナデ。	石英・白色粒子・長石 褐色　良	Ｐ127　60% ＰＬ45 覆土下～中層
4	甕 土師器	A　[16.0] B　(16.8)	口縁部から頸部の破片。頸部は緩やかに屈曲し，内面に稜を持つ。口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。体部外面上半ハケ目調整。体部外面中位ヘラ削り。頸部内面上位ヘラ削り。体部内面ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・スコリア・雲母 にぶい褐色 良	Ｐ128　40% ＰＬ45 覆土中層

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第37図5	剥　片	3.7	2.0	0.8	4.92	覆土中	Ｑ５　チャート　ＰＬ54
6	軽　石	2.3	1.7	1.7	4.02	覆土中	Ｑ６　軽石

表２　六十目遺跡住居跡（古墳時代）一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向（長軸）	平面形	規模(m)（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	内部施設 壁溝	主柱穴	出入口ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古～新)
1	A1i1	N-43°-E	[方　形]	5.61×(3.50)	6～11	平坦	有	2	1	1	炉1	－	自然	土師器片366	本跡→ＳＤ-1
3	B4f6	N-53°-W	隅丸方形	6.71×6.65	14～30	平坦	有	4	1	－	炉2	－	人為	土師器片289,土製品5	
4	B3g5	N-31°-W	隅丸長方形	6.33×5.45	38～44	平坦	有	4	1	2	炉2	1	自然	土師器片360,弥生土器片1,土製品1	
5	B2g8	N-20°-W	[隅丸方形]	4.26×(1.73)	26～39	平坦	有	1	－	1	－	－	自然	土師器片84，鉄製品1	本跡→ＳＤ-24
6	B3j3	N-45°-W	長方形	4.60×4.15	19～30	平坦	有	4	1	1	炉1	1	自然	土師器片379，土製品1点	
7	C2a7	N-40°-W	[長方形]	3.72×(3.17)	37～48	平坦	有	3	1	－	炉1	－	自然	土師器片170	南西部区域外
8	C4b1	N-25°-W	隅丸方形	5.41×5.08	17～26	平坦	有	4	1	1	炉1	1	人為	土師器片440,弥生土器片9,土製品1	
9	C3d7	N-39°-W	隅丸長方形	6.60×5.69	17～45	平坦	有	4	1	－	炉2	1	人為	土師器片487,弥生土器片34,土製品1,ガラス玉1	本跡→ＳＤ-19
65	B1h9	N-21°-E	隅丸方形	(3.42)×3.20	45～50	平坦	無	－	－	－	－	－	人為		本跡→ＳＤ-27
67	B1j0	N-20°-W	隅丸方形	6.84×6.36	38～43	平坦	有	4	1	4	炉1	－	自然	土師器片965，鉄製品1，土製品2	本跡→ＳＤ-27,28
71	C2a1	N-41°-W	[方　形]	(5.23×3.54)	24～43	平坦	有	－	－	－	炉1	－	人為	土師器片211，土製品1	
72	C5a1	N-21°-E	隅丸方形	4.45×4.33	11～16	平坦	無	4	1		炉1	－	人為	土師器片172，軽石1	

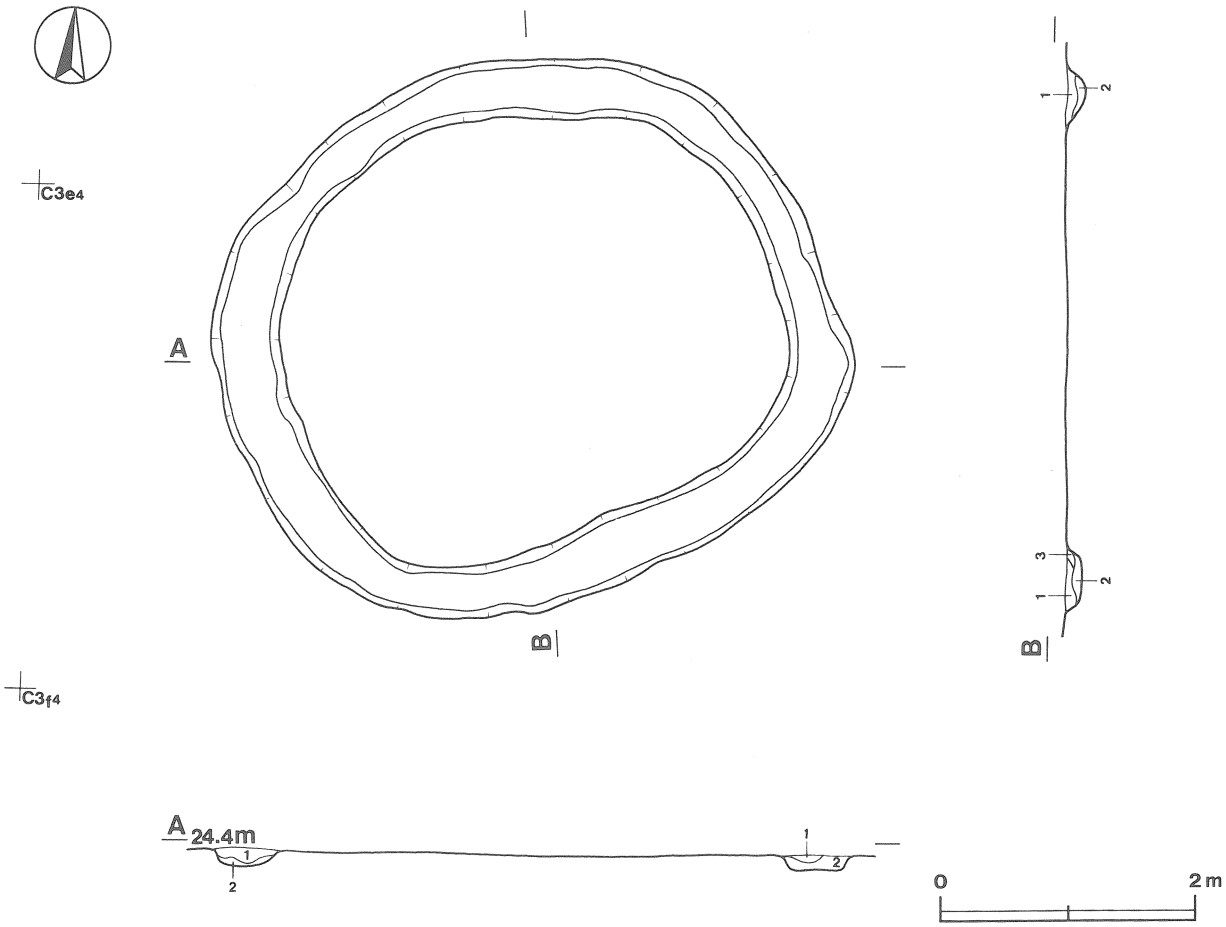
（２）方形周溝状遺構

第１号方形周溝状遺構　（第38図）

位置　調査区域の北部，Ｃ３e4区。第９号住居跡西側に位置している。

規模と平面形　隅丸方形に溝が巡る。規模は，外縁で長軸4.8m，短軸4.4m，内縁で長軸3.9m，短軸3.4mである。盛土は認められなかった。

方位　Ｎ－27°－Ｗ



第38図　第１号方形周溝状遺構実測図

周溝　周溝の幅は，上端で35～55cm，底面で19～39cm，深さは９～19cmである。断面形は，北側の一部がU字形である以外は逆台形である。

覆土　３層からなり，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　　色　　ローム粒子少量
2　褐　　色　　ローム粒子中量
3　褐　　色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，粘性弱

所見　平面形が若干不整であるが，溝が方形にめぐることから方形周溝状遺構とした。本跡の外縁と，第２号方形周溝状遺構の内縁は，ほぼ同じ長さとなっている。また本跡の時期は，方位が古墳時代の住居跡とほぼ同じ方向を向くことから，古墳時代と推定される。

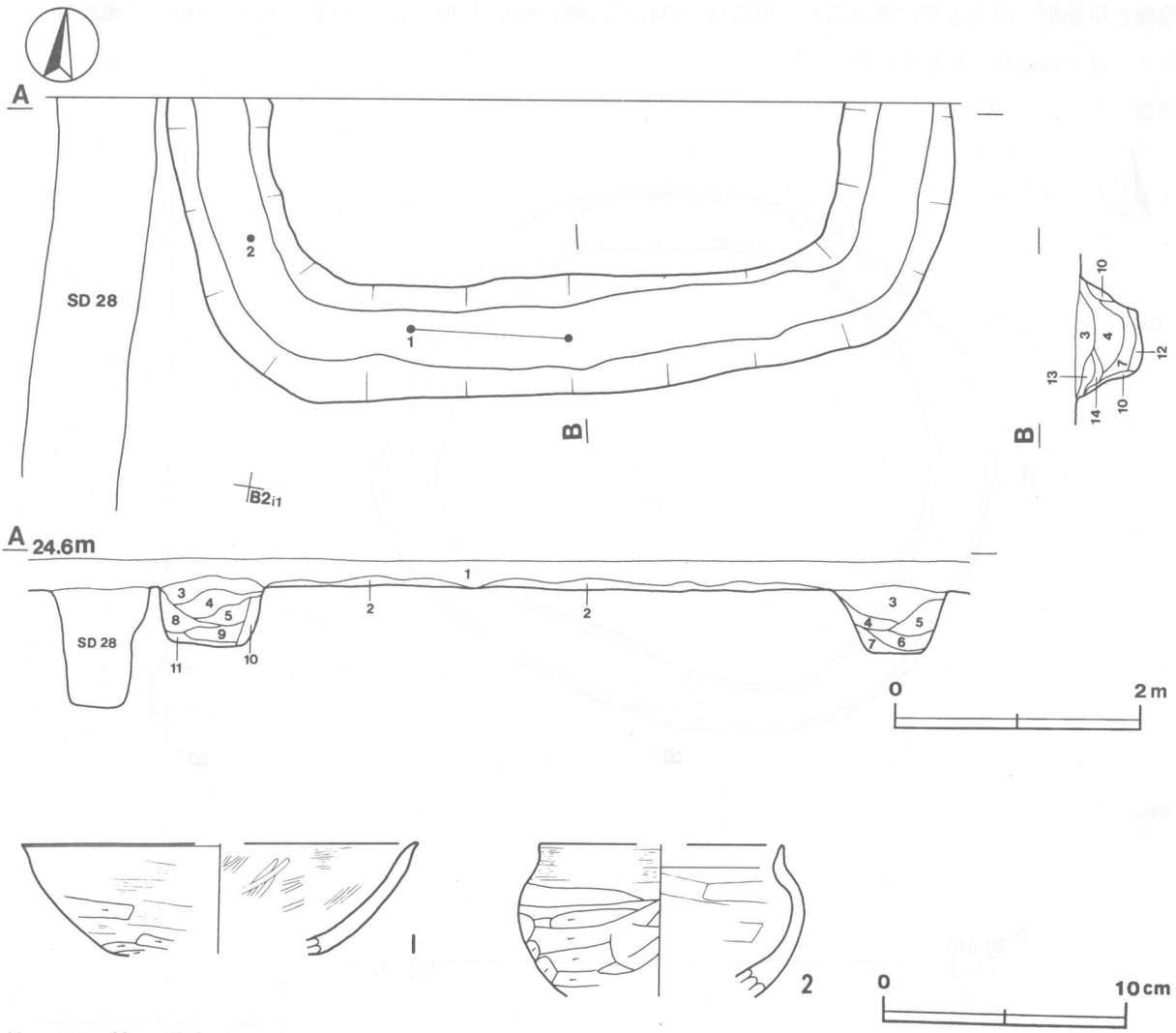
第２号方形周溝状遺構（第39図）

位置　調査区域の北西部，Ｂ２h1区。第65・67号住居跡の北東に位置する。

規模と平面形　遺構の大半が調査区域外に位置している。調査しえた範囲では，外縁で東西6.25m，南北（2.5）m，内縁で東西4.6m，南北（1.5）mで，方形と推定される。

方位　N－12°－W

周溝　周溝の幅は，上端で80～105cm，底面で35～55cm，深さは46～50cmである。断面形は，逆台形である。



第39図　第２号方形周溝状遺構・出土遺物実測図

覆土　13層からなる。7層から上位の層位は自然堆積と思われる。7層は粘性・しまりが強く，溝を掘ってまもなく人為的に埋めた可能性がある。12層は，溝構築時に溝底にたまった土砂であろう。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量
3　黒褐色　ローム粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子・赤色粒子少量
5　褐　色　ローム粒子中量，しまり強
6　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，粘性・しまり弱
7　褐　色　ローム粒子微量，粘性・しまり強
8　暗褐色　ローム粒子中量
9　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
10　暗褐色　ローム小ブロック中量
11　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
12　暗褐色　ローム粒子中量
13　暗褐色　ローム粒子中量，赤色粒子微量

遺物　土師器片4点が周溝覆土中から出土している。復元しえたのは第39図1・2の2点で，いずれも椀である。西側のコーナー付近の覆土上層から出土している。

所見　遺構の一部を調査したのみであるが，小形の方形周溝墓となる可能性がある。時期については，出土した土器が方台部からの流れ込みと考えるなら，4世紀中頃と思われる。

第2号方形周溝状遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第39図 1	椀 土師器	A　[16.1] B　(4.5)	口縁部から体部の破片。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がり，口縁端部は軽くつまみ上げられて外反する。	口縁部外面・体部外面ナデ。体部下端ヘラ削り。体部内面ナデ後，一部磨き。	砂粒・白色粒子・スコリア・雲母 にぶい褐色 普通	P390　30% 覆土上層
2	椀 土師器	A　[9.9] B　(6.2)	口縁部から体部の破片。体部から口縁部にかけて内湾し，端部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P391　35% 覆土上層

表3　六十目遺跡　方形周溝状遺構一覧

遺構番号	位置	方向	平面形・規模(m)			周溝形態・規模(cm)				覆土	主な遺物	備考 新旧関係(古→新) その他
			平面形	外縁(長軸×短軸)	内縁(長軸×短軸)	断面形	上幅	下幅	深さ			
1	C3e4	N-27°-W	隅丸方形	4.8×4.4	3.9×3.4	逆台形	35～ 55	19～39	9～19	自然		
2	B2h1	[N-12°-W]	(方　形)	(6.3×2.5)	(4.6×1.5)	逆台形	80～105	35～55	46～50	自然	土師器片4	

（3）土坑

第52号土坑（第40図）

位置　調査区域の北部，B2j7区。第5号住居跡の南側に位置する。

方向　N—3°—E

規模と形状　上縁部で長軸2.14m，短軸1.87m，底面で長軸1.83m，短軸1.62mの隅丸長方形で，深さは82cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

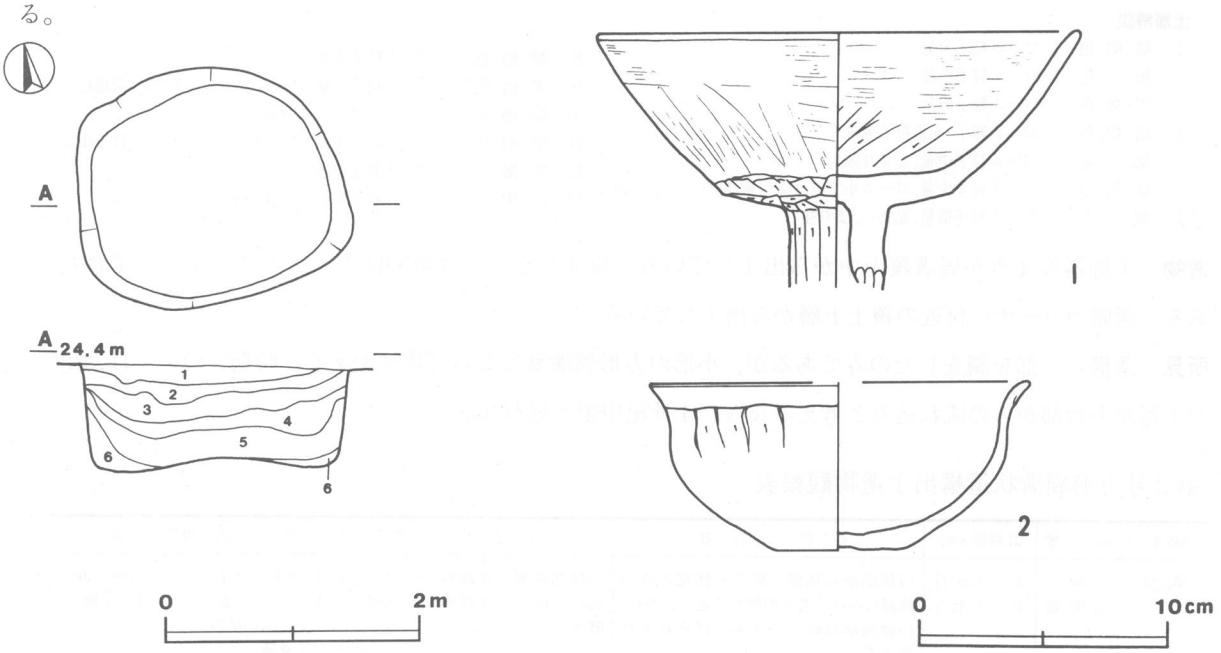
覆土　6層からなる。比較的多量のローム粒子を含む層が多く，人為堆積の可能性がある。

土層解説

1　暗褐色　赤色粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量，
5　にぶい褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，粘性強
6　にぶい褐色　ローム粒子多量，粘性強

遺物　土師器片20点が出土している。第40図1の高坏は正位の状態で，また2の椀は破片の状態でそれぞれ出土している。1は，一部の口縁部片が第5号住居跡の覆土中層から出土している。

所見　1は出土状況から，流れ込みである可能性は低いと考えられる。性格は明らかではないが，隣接している第5号住居跡と関連が深い遺構と思われる。本跡の時期は，出土した遺物から5世紀前半頃と推定される。



第40図　第52号土坑・出土遺物実測図

第52号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第40図 1	高　坏 土師器	A　18.7 B　(10.3)	坏部の破片。坏部下端に稜を持つ。口縁部は外傾して立ち上がる。脚部は柱状を呈している。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面下半～脚部外面ヘラ削り。坏部内面ヘラ削り。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通 外面黒斑有	P397　45% PL44 覆土上層
2	椀 土師器	A　[14.8] B　6.6 C　5.0	口縁部から体部の破片。平底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がり，口縁端部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部上半ヘラ削り。下半部ナデ。体部内面剥離が激しく調整不明。	砂粒・スコリア 明赤褐色 普通	P399　40% 覆土上層

2　奈良・平安時代の遺構と遺物

今回の調査では，竪穴住居跡41軒，掘立柱建物跡6棟，竪穴状遺構2基が確認された。以下，確認された遺構の特徴や遺物について記載する。

(1) 竪穴住居跡

第2号住居跡（第41図）

位置　調査区域の北部，C5a5区。

規模と平面形　長軸3.0m，短軸2.9mの方形である。

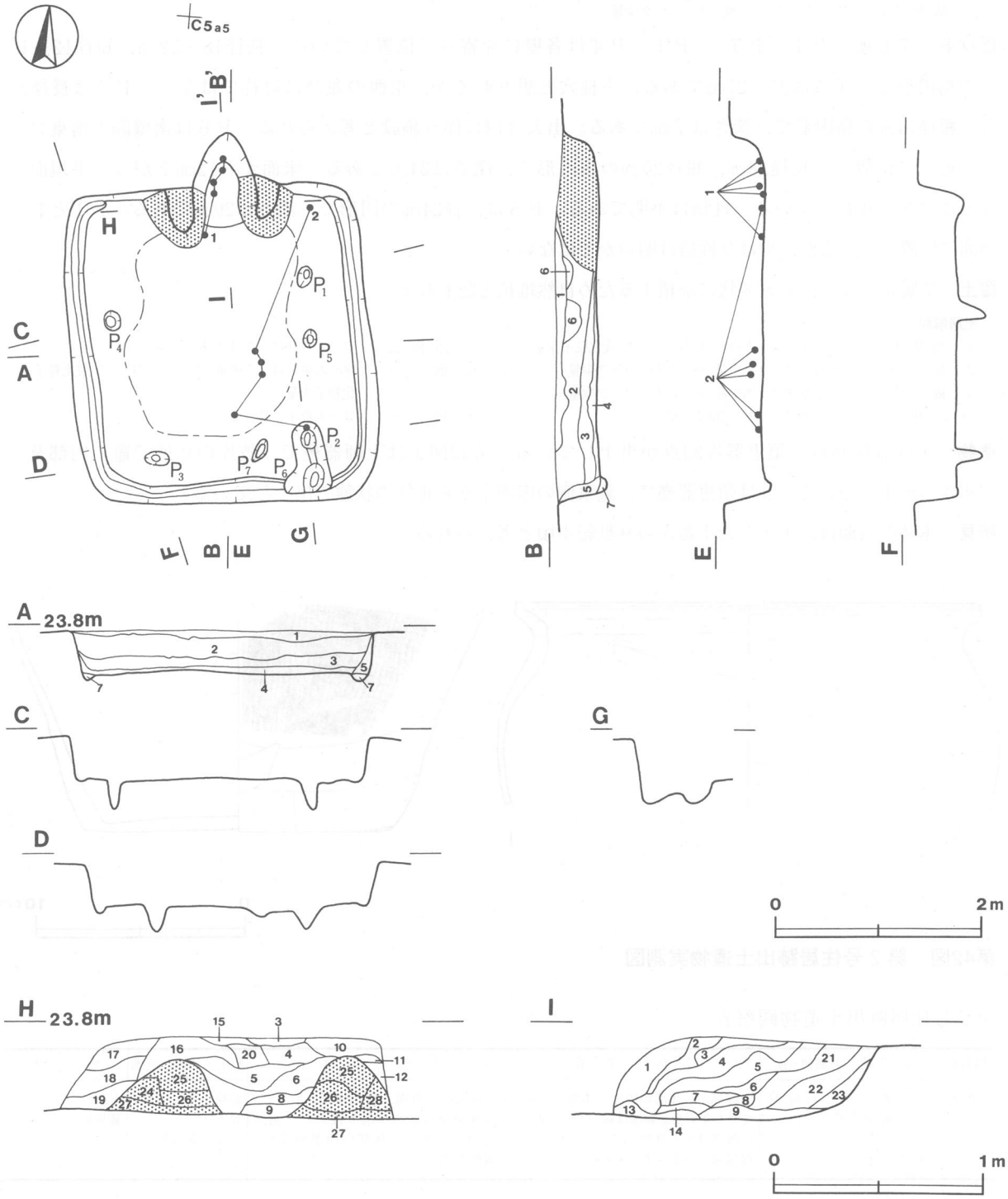
主軸方向　N－7°－W

壁　壁高は37～40cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　竈の袖部付近で途切れる。断面はU字形で，上幅16～24cm，下幅５～10cm，床面からの深さは４～８cmである。

床　全体にローム質で，平坦である。中央部がよく踏み固められている。

竈　北壁中央部に構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，煙道部上端から焚き口部まで87cm，両袖部幅140cmである。煙道部は壁外へ51cm掘り込んでおり，煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。24～28層は袖部の土層で，ロームを主として構築されている。４～７層は粘土粒子が混じり，竈の天井部の崩落土層と推定される。火床部の掘り込みは極めて浅く，ほぼ床面と同じ高さである。火床部には焼土（９層）が堆積し，火床面は火熱を受けて赤変している。



第41図　第２号住居跡実測図

竈土層解説

1	暗赤褐色	ローム大ブロック・同中ブロック・同粒子少量
2	灰赤色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
3	暗赤褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量
4	暗赤褐色	ローム中ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
5	灰赤色	ローム中ブロック中量,焼土粒子・粘土粒子少量
6	赤褐色	ローム中ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量
7	暗赤褐色	焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量
8	灰赤色	焼土小ブロック少量,しまり弱
9	にぶい赤褐色	焼土小ブロック中量,粘性普通,しまり弱
10	暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
11	褐色	ローム中ブロック・同粒子中量
12	暗褐色	ローム大ブロック・同粒子少量
13	灰赤色	焼土粒子・砂粒・粘土粒子少量,粘性弱
14	灰赤色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
15	暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
16	暗赤褐色	ローム中ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
17	暗褐色	ローム大ブロック・同中ブロック少量
18	灰赤色	ローム中ブロック中量,焼土小ブロック・粘土粒子少量
19	暗褐色	ローム大ブロック・同小ブロック少量
20	灰赤色	ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
21	灰褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量
22	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・粘土粒子少量
23	暗褐色	ローム小ブロック中量,焼土粒子・炭化物・粘土粒子少量
24	明褐色	ローム粒子多量,ローム中ブロック中量
25	褐色	ローム粒子多量,ローム中ブロック中量,粘土粒子少量
26	褐色	ローム小ブロック・同粒子中量
27	暗褐色	ローム粒子中量,炭化粒子少量
28	褐色	ローム粒子・炭化粒子中量

ピット　7か所（P1～P7）。P1～P4は各壁に片寄って位置している。長径18～22cm，短径12～15cmの楕円形で，深さは21～27cmである。主柱穴と思われるが，東西の並びは対称ではない。P7は長径24cm，短径14cmの楕円形で，深さは7cmである。出入り口に伴う施設と考えられる。P6は南壁際の南東コーナー近くに位置し，長径28cm，短径20cmの楕円形で，深さは24cmである。床面から12cm下がった平坦面を介してP2と連結している。性格は不明である。P5は，径24cmの円形で，深さは29cmである。P1とP2の間に位置しているが，やはり性格は明らかではない。

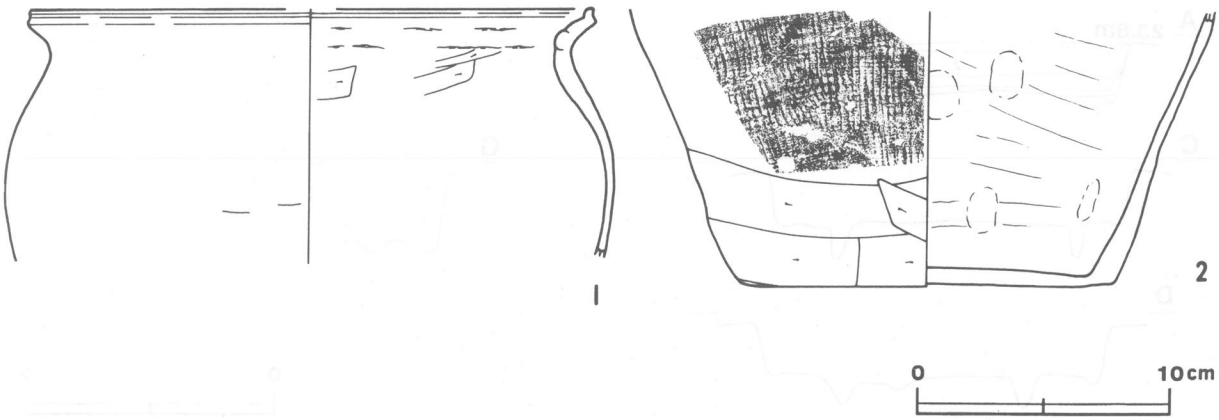
覆土　7層からなり，レンズ状に堆積するため自然堆積と思われる。

土層解説

1	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
2	褐色	ローム大ブロック中量,ローム小ブロック少量
3	褐色	ローム中ブロック中量,ローム大ブロック少量
4	暗褐色	ローム大ブロック・同粒子少量
5	暗褐色	ローム中ブロック・炭化粒子少量
6	褐色	ローム中ブロック中量,ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
7	褐色	ローム粒子中量

遺物　土師器片38点，須恵器片23点が出土している。第42図1は土師器甕で，破片の状態で竈の内部及び周辺から出土している。2は須恵器甕で，竈東側の床面上から正位の状態で出土している。

所見　本跡の時期は，出土した土器から9世紀中頃と考えられる。



第42図　第2号住居跡出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第42図 1	甕 土師器	A [30.2] B (13.1)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。頸部は緩やかに屈曲し，口縁部は短く外傾して立ち上がる。口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面，体部外面上半ナデ。体部中位以下ヘラ削り後ナデ。頸部内面ヘラ削り。体部内面器面荒れ，調整不明。	砂粒・雲母・白色粒子 にぶい黄橙色 良	P129　20% 竈底面

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第42図 2	甕 須恵器	B　(14.6) C　19.7	体部から底部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面縦位の平行叩き。体部下端ヘラ削り。内面ナデ，一部に指頭圧痕を残す。	砂粒・石英・雲母 灰黄褐色 普通	P130　30% 床面

第10号住居跡（第43図）

位置　調査区域の中部，D３c3区。

重複関係　本跡の覆土と床面が第14号溝に掘り込まれているので，本跡の方が古い。

規模と平面形　長軸3.77m，短軸3.69mの方形である。

主軸方向　N－11°－E

壁　北東コーナー付近及び西壁が第14号溝によって破壊されている。壁高は38～44cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　壁際を全周する。断面はU字形で，上幅19～30cm，下幅４～16cm，深さは５～11cmである。

床　ローム質で平坦である。出入り口部と竈の間が硬く踏みしめられている。

竈　北壁中央部に構築され，天井部の一部と袖部が残存している。竈の規模は，煙道上端から焚き口部上端まで100cm，幅は両袖部外側の基部で116cm，壁外への掘り込みは約40cm，床面を３cmほど掘り込んでいる。２・５・６層が天井部の土層で，粘土混じりのロームを主とした土層からなる。15～24層は袖部の土層で，灰褐色粘土を芯材として構築されている。煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。火床部は浅くくぼみ，若干の焼土が堆積している。火床面は火熱を受けて硬化している。

竈土層解説

1	暗褐色	白色粒子少量
2	暗褐色	粘土粒子微量
3	暗褐色	白色粒子少量，粘土粒子微量
4	褐色	焼土粒子・粘土粒子微量
5	褐色	ローム粒子・粘土粒子少量
6	褐色	ローム粒子・粘土粒子少量，しまり強
7	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
8	褐色	ローム粒子微量
9	褐色	ローム粒子・白色粒子少量
10	灰褐色	粘土粒子中量，焼土粒子少量
11	灰褐色	粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
12	明褐色	ローム大ブロック多量，ローム小ブロック少量
13	にぶい褐色	ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
14	にぶい褐色	ローム大ブロック中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子少量
15	灰褐色	粘土中ブロック・粘土粒子中量，粘性・しまり強
16	褐色	ローム粒子・炭化粒子中量
17	褐色	ローム粒子中量，粘性強

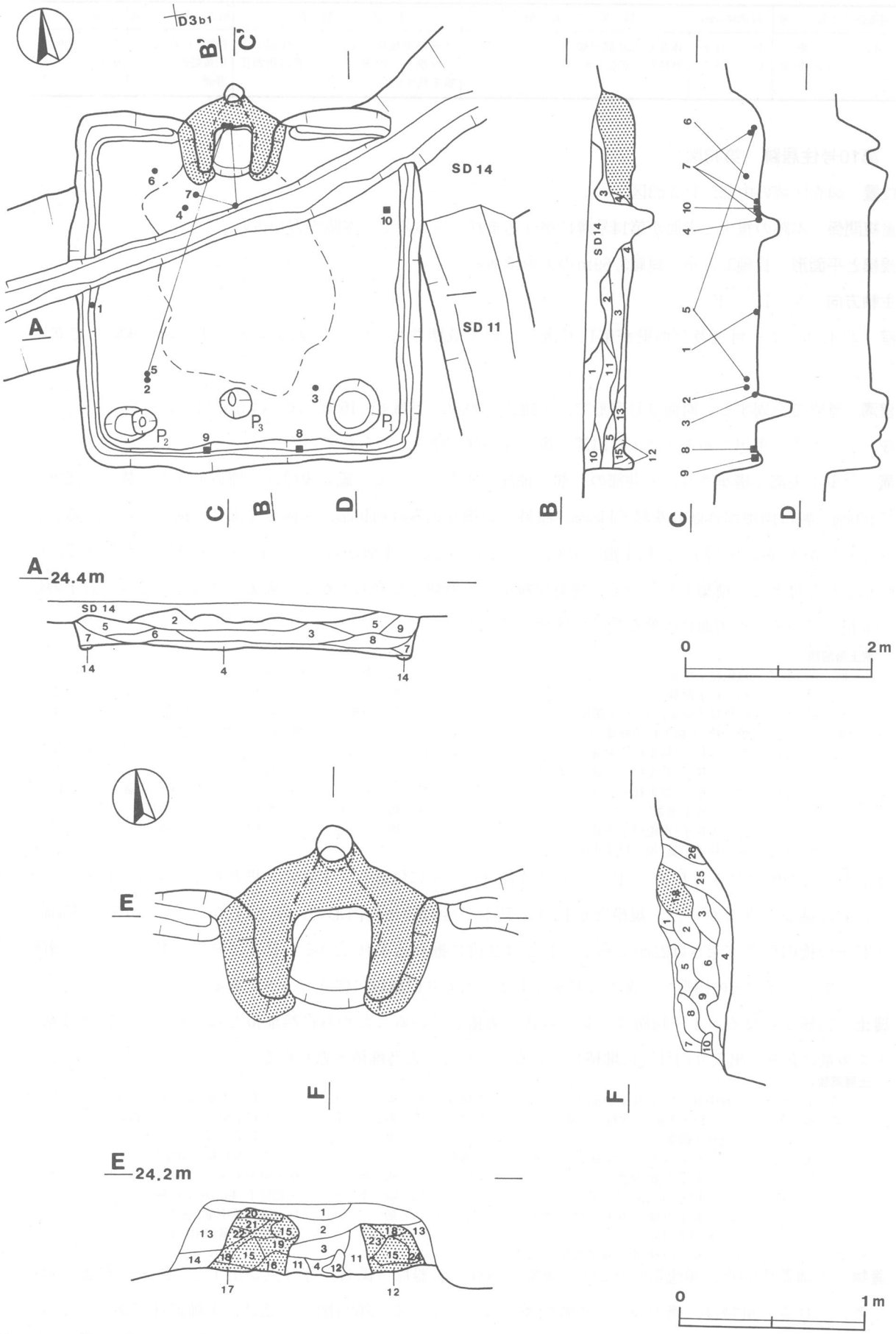
ピット　３か所（Ｐ１～Ｐ３）。Ｐ１・Ｐ２は各コーナーに位置し，主柱穴と思われる。これに対応する北側の柱穴は確認できなかった。規模と形状は，Ｐ１が径約60cmの円形で，深さは20cm，Ｐ２が長径55cm，短径37cmの楕円形で，深さは21cmである。Ｐ２は２段に掘り込まれている。Ｐ３はＰ１とＰ２の中間，南壁寄りに位置し，径32cmの円形で，深さは35cmである。出入り口施設に伴うピットである。

覆土　15層からなる。１～14層は，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。15層は粘土粒子を多量に含み，出入り口付近に堆積していることから，人為堆積と思われる。

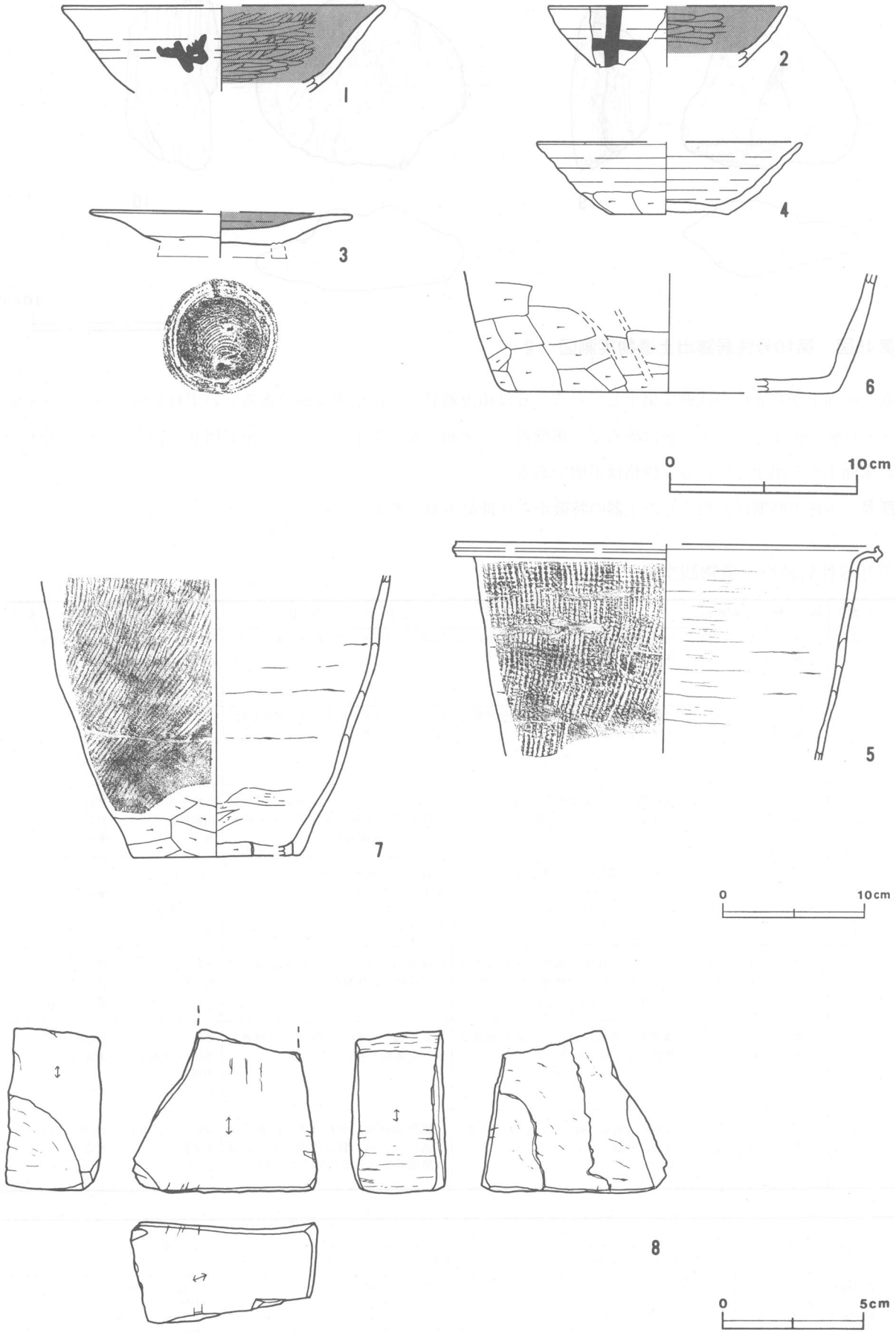
土層解説

1	暗褐色	砂粒中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2	暗褐色	ローム粒子中量，炭化粒子少量，ローム中ブロック・白色粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
4	黒褐色	ローム粒子少量，粘性強
5	褐色	ローム粒子・赤色粒子少量
6	褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量，粘性強
7	褐色	ローム粒子中量
8	褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量，しまり強
9	褐色	ローム粒子中量，炭化粒子少量，粘性・しまり弱
10	褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
11	褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
12	灰褐色	粘土粒子中量
13	暗褐色	炭化粒子・粘土粒子微量
14	褐色	ローム粒子中量，粘性強
15	灰褐色	粘土粒子多量，粘性強

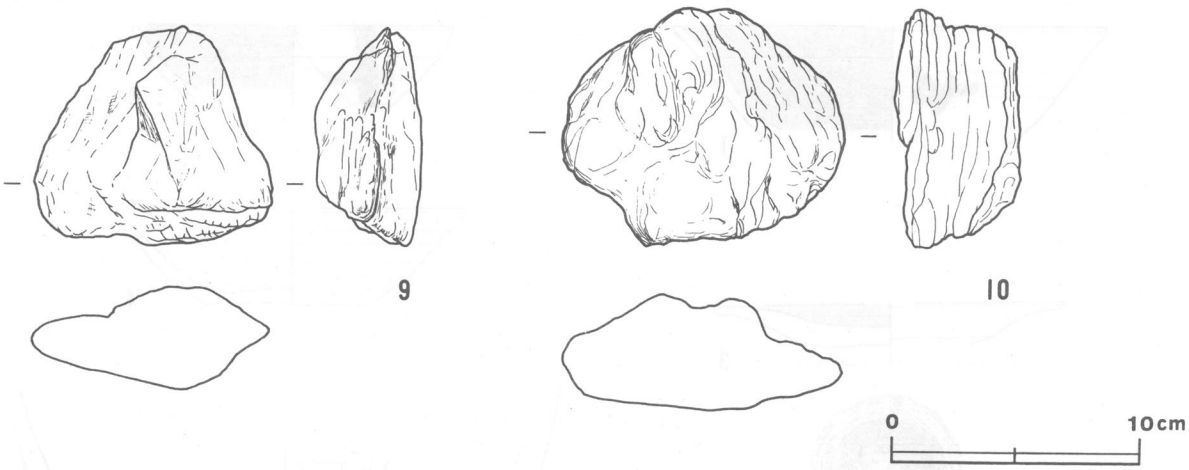
遺物　土師器片98点，須恵器片103点，陶器片18点，石器片（砥石）等３点が出土している。陶器片は混入と考えられる。遺物は，竈周辺から比較的多く出土している。第44図１・２は，土師器坏である。１は，西壁際の床面上から出土している。２は，南西コーナー寄りの覆土下層から出土しいる。４は須恵器坏で，竈前



第43図　第10号住居跡実測図



第44図　第10号住居跡出土遺物実測図（1）



第45図　第10号住居跡出土遺物実測図（２）

面の床面上から正位の状態で出土している。６は須恵器甕，７は須恵器甑である。いずれも竈の内外部から破片の状態で出土している。８は砥石で，南壁近くの床面上から出土している。第45図９・10は石片で，それぞれ床面上から出土している。性格は不明である。

所見　本跡の時期は，出土した土器の特徴から９世紀中頃と考えられる。

第10号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第44図 1	坏 土師器	A　[17.2] B　(4.6)	口縁部から体部の破片。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	外面ロクロナデ。内面磨き，黒色処理。	砂粒・スコリア・白色粒子 にぶい褐色　良	P131　30% 墨書「長」 床面
2	坏 土師器	A　[12.8] B　(3.3)	口縁部の破片。口縁部は若干内彎して立ち上がる。	外面ロクロナデ。内面磨き，黒色処理。	砂粒・石英・スコリア・長石 にぶい褐色　良	P133　15% 墨書「十カ」 覆土下層
3	高台付皿 土師器	A　[14.0] B　(1.7)	高台部欠損。体部から口縁部にかけて外反しながら大きく開く。	内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。内面黒色処理。底部回転糸切り。高台部貼付。	砂粒・スコリア 明赤褐色 良	P135　60% PL45 床面
4	坏 須恵器	A　[14.1] B　3.9 C　6.4	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・スコリア・長石 にぶい黄褐色 良	P134　50% 床面
5	甕 須恵器	A　[30.5] B　(13.5)	口縁部から体部の破片。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は強く屈曲し，口縁端部を上下に突出する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面縦位の平行叩き。体部内面ナデ。	砂粒 褐灰色 良	P137　25% PL45 竈覆土下層
6	甕 須恵器	B　(6.3) C　[18.0]	体部から底部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部下端ヘラ削り。体部内面剥離が激しく調整不明。	砂粒・スコリア・雲母・白色粒子 黒褐色 良	P136　25% 床面
7	甑 須恵器	B　(20.0) C　[12.0]	体部から底部の破片。平底。孔数不明。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面縦位の平行叩き。体部外面下端ヘラ削り。体部内面ナデ。底部は焼成前にヘラ状工具により穿孔。	砂粒・石英・雲母 明赤褐色 良	P138　25% 竈底面

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第44図８	砥　石	(5.8)	(6.6)	3.5	(173)	床面	Q７　凝灰岩　PL53
第45図９	石　片	9.7	9.3	4.2	331	床面	Q８　ホルンフェルス
10	石　片	9.5	11.0	5.0	629	床面	Q９　ホルンフェルス

第12号住居跡（第46図）

位置　調査区域の中部，Ｄ３d2区。

重複関係　第144号土坑及び第12号溝が本跡の覆土を掘り込んで構築されているため，本跡が古い。

規模と平面形　長軸3.05m，短軸2.95mの方形である。

主軸方向　Ｎ－22°－Ｅ

壁　壁高は18～39cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　竈の北西側の壁の下から南東壁の下まで巡る。断面はＵ字形で，幅は竈の西側で広く上幅40cm，下幅22cmである。その他は上幅17～30cm，下幅７～14cm，深さは６～８cmである。

床　ローム質で，平坦である。竈の前面は若干踏み固められているが，全体的に軟弱である。

竈　北壁に構築され，両袖部だけが残存している。規模は，煙道部上端から焚き口部まで116cm，両袖部幅は117cmである。煙道部は壁外へ約45cm掘り込んでおり，煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。火床部の掘り込みは浅く，３cm程度である。３・８・９層は天井部の崩落土と思われ，ロームを主体とした粘土混じりの土である。15・18～24層は袖部の土層である。西側の袖は粘土を芯とし，その上に17層を積み上げて形成している。火床面は，床面と同じ高さで続き，竈中央部では３cmほど浅く円形に掘りくぼめている。火床部から煙道部にかけて，火熱を受け硬化している。

竈土層解説

1	黒褐色	赤色粒子中量，ローム粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子微量
3	褐色	ローム粒子・粘土粒子微量
4	暗褐色	ローム小ブロック・同粒子微量
5	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
6	暗褐色	粘土粒子微量
7	褐色	ローム粒子・赤色粒子微量
8	灰褐色	粘土粒子少量，ローム粒子微量
9	褐灰色	焼土小ブロック中量，焼土中ブロック・炭化粒子少量
10	赤褐色	焼土大ブロック多量，粘性弱
11	にぶい赤褐色	焼土大ブロック中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，粘性・しまり弱
12	灰赤色	焼土中ブロック中量，焼土大ブロック・焼土小ブロック少量
13	褐色	焼土小ブロック微量
14	褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
15	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
16	黒褐色	焼土大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量，しまり弱
17	暗赤褐色	焼土中ブロック多量，焼土大ブロック・焼土粒子少量，粘性弱
18	黒褐色	炭化粒子・粘土粒子少量，しまり弱
19	灰褐色	粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
20	にぶい赤褐色	焼土大ブロック・粘土粒子中量，粘性・しまり強
21	にぶい赤褐色	ローム小ブロック・同粒子中量
22	黒褐色	ローム中ブロック，焼土粒子少量
23	暗赤褐色	焼土中ブロック中量，ローム中ブロック・焼土大ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
24	褐色	ローム中ブロック中量，粘土粒子少量，しまり強

ピット　１か所。南壁寄りの中央に位置する。長径21cm，短径15cmの楕円形で，深さは22cmである。出入り口施設に伴うピットと思われる。主柱穴に当たるピットは，床面を精査したものの確認できなかった。

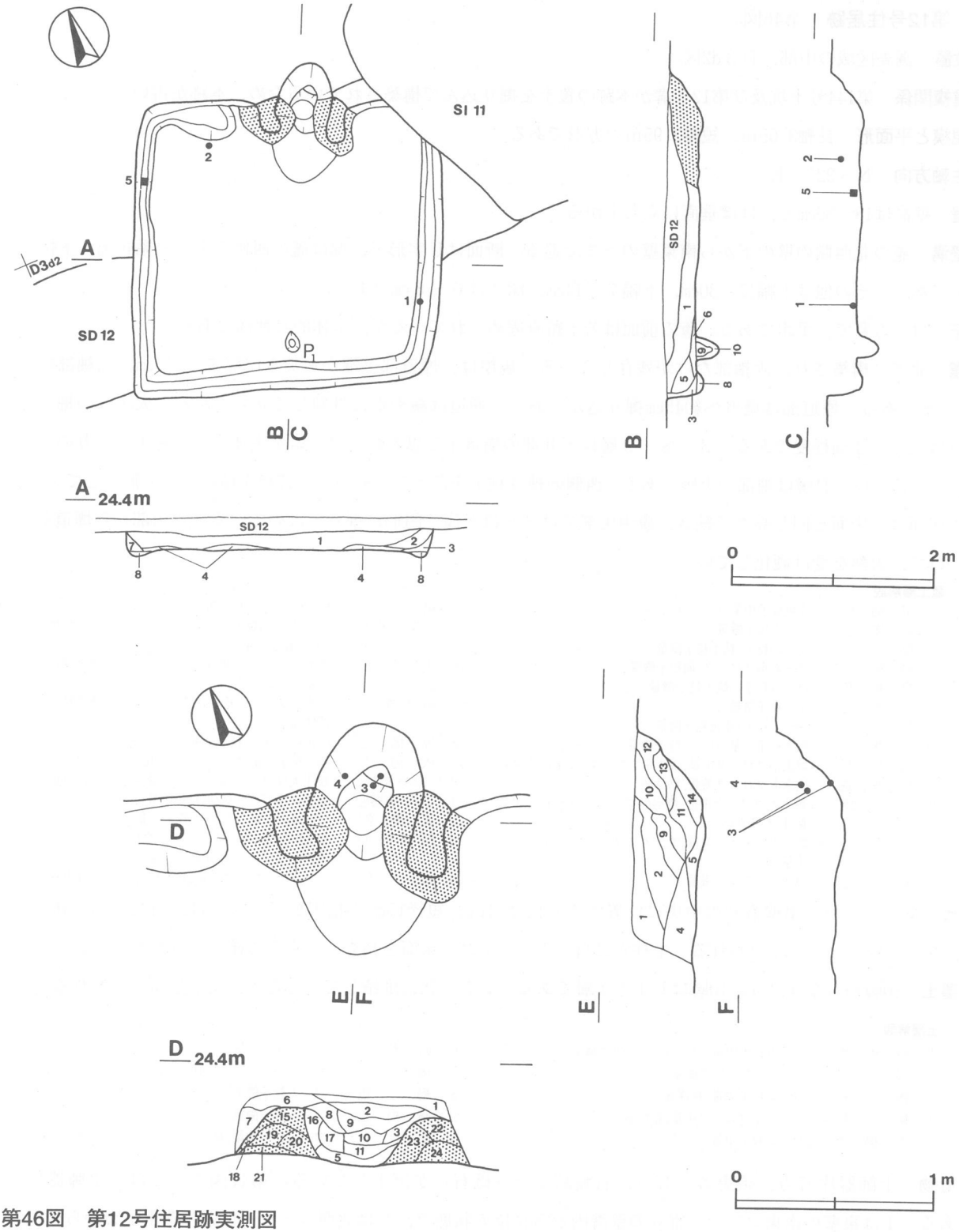
覆土　10層からなり，９～10層はＰ１の土層である。レンズ状に堆積しているため，自然堆積と思われる。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
2	褐色	ローム小ブロック微量
3	褐色	ローム粒子少量，粘性強
4	褐色	ローム小ブロック中量，粘性強
5	黒褐色	ローム粒子中量
6	暗褐色	ローム粒子中量
7	褐色	ローム小ブロック・同粒子微量
8	褐色	ローム粒子微量
9	暗褐色	ローム粒子微量
10	褐色	ローム粒子中量，粘性強

遺物　土師器片97点，須恵器片37点，石製品１点（砥石）が出土している。第47図１・２は，土師器坏である。１は東壁の南東コーナー寄りの壁溝内から正位の状態で，２は北西コーナー付近の覆土上層から破片の状態で，それぞれ出土している。３は土師器小形甕で，竈煙道部の底面上から逆位の状態で出土している。支脚として転用されたと考えられる。５の砥石は，西壁際北西コーナー寄りの覆土中層から出土している。

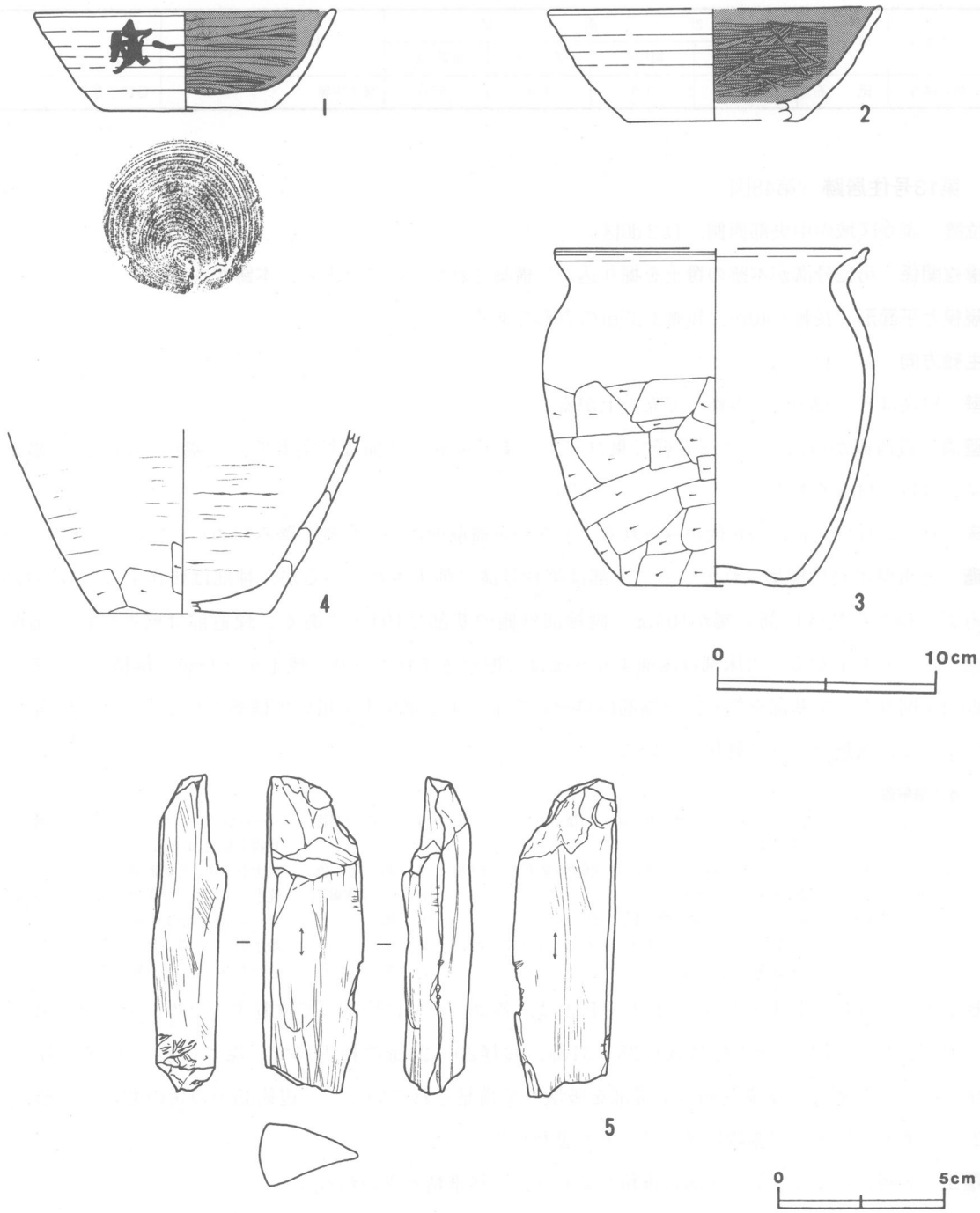
所見　本跡の時期は，出土した土器から９世紀後半と考えられる。



第46図　第12号住居跡実測図

第12号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第47図 1	坏 土師器	A　13.6 B　4.5 C　7.5	完形。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁端部ナデ。体部外面ロクロナデ。体部内面磨き，黒色処理。底部回転糸切り。	砂粒・石英・雲母・長石 にぶい褐色 良	P139　100% PL45 墨書「成」 床面



第47図　第12号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第47図 2	坏 土師器	A　[14.8] B　5.1 C　[7.8]	口縁部から底部の破片。平底。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がる。	口縁端部横ナデ。体部外面ロクロナデ。体部内面磨き，黒色処理。底部糸切り。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P140　35% 覆土上層
3	小形甕 土師器	A　[14.2] B　15.1 C　8.0	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は緩やかに屈曲して立ち上がり，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面，体部外面上半ナデ。体部外面下半ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・スコリア・雲母・白色粒子 にぶい黄褐色 普通	P141　65% PL45 竈煙道部
4	甕 土師器	B　(8.2) C　[7.5]	体部から底部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ナデ。体部下端ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・スコリア にぶい橙色　良	P142　35% 竈覆土中層

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第47図5	砥　石	(9.5)	3.0	1.9	(679)	覆土中層	Q10　頁岩

第13号住居跡（第48図）

位置　調査区域の中央部西側，D2d0区。

重複関係　第12号溝が本跡の覆土を掘り込んで構築されていることから，本跡が古い。

規模と平面形　長軸3.40m，短軸3.37mの方形である。

主軸方向　N－44°－E

壁　壁高は6～22cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　竈西側から南コーナーを経て東コーナーまで巡る。断面はU字形で，上幅16～38cm，下幅4～16cm，深さは11～14cmである。

床　ローム質で，若干の起伏がみられる。P5から竈前面にかけて硬く踏みしめられている。

竈　北東壁中央に構築されている。上部は第12号溝に削平されているが，袖部は残存する。竈の規模は，煙道部上端から焚き口部上端が103cm，両袖部外側の基部で104cmである。煙道部は壁外へ約35cm掘り込み，緩やかに立ち上がる。火床部は床面より5cmほど掘り込まれており，焼土を含む層が堆積している。袖部は，地山を削りだして基部を作り，先端部はロームを主とする褐色土を用いて構築されている。火床面から煙道部にかけて，火熱を受けて硬化している。

竈土層解説

1	赤黒色	ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
2	にぶい赤褐色	焼土大ブロック中量，焼土小ブロック・炭化物少量，粘性・しまり弱
3	赤褐色	焼土大ブロック多量
4	にぶい赤褐色	焼土大ブロック・炭化物少量，しまり弱
5	暗赤褐色	ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量，しまり弱
6	にぶい赤褐色	ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量，しまり弱
7	赤褐色	焼土小ブロック多量，焼土中ブロック少量，粘性弱
8	にぶい赤褐色	焼土小ブロック中量，焼土中ブロック少量
9	褐色	ローム小ブロック少量
10	褐色	焼土中ブロック・同小ブロック少量
11	褐色	ローム小ブロック多量，粘性強

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は，各コーナーに片寄って位置するため，主柱穴と思われる。P3は径20cmの円形，その他は長径25～31cm，短径20～24cmの楕円形で，深さは21～29cmである。P5は南壁寄りに位置し，壁溝内側の上端部を破壊して構築されている。一辺約35cmの角の丸い三角形で，深さは21cmである。出入り口施設に伴うピットと思われる。

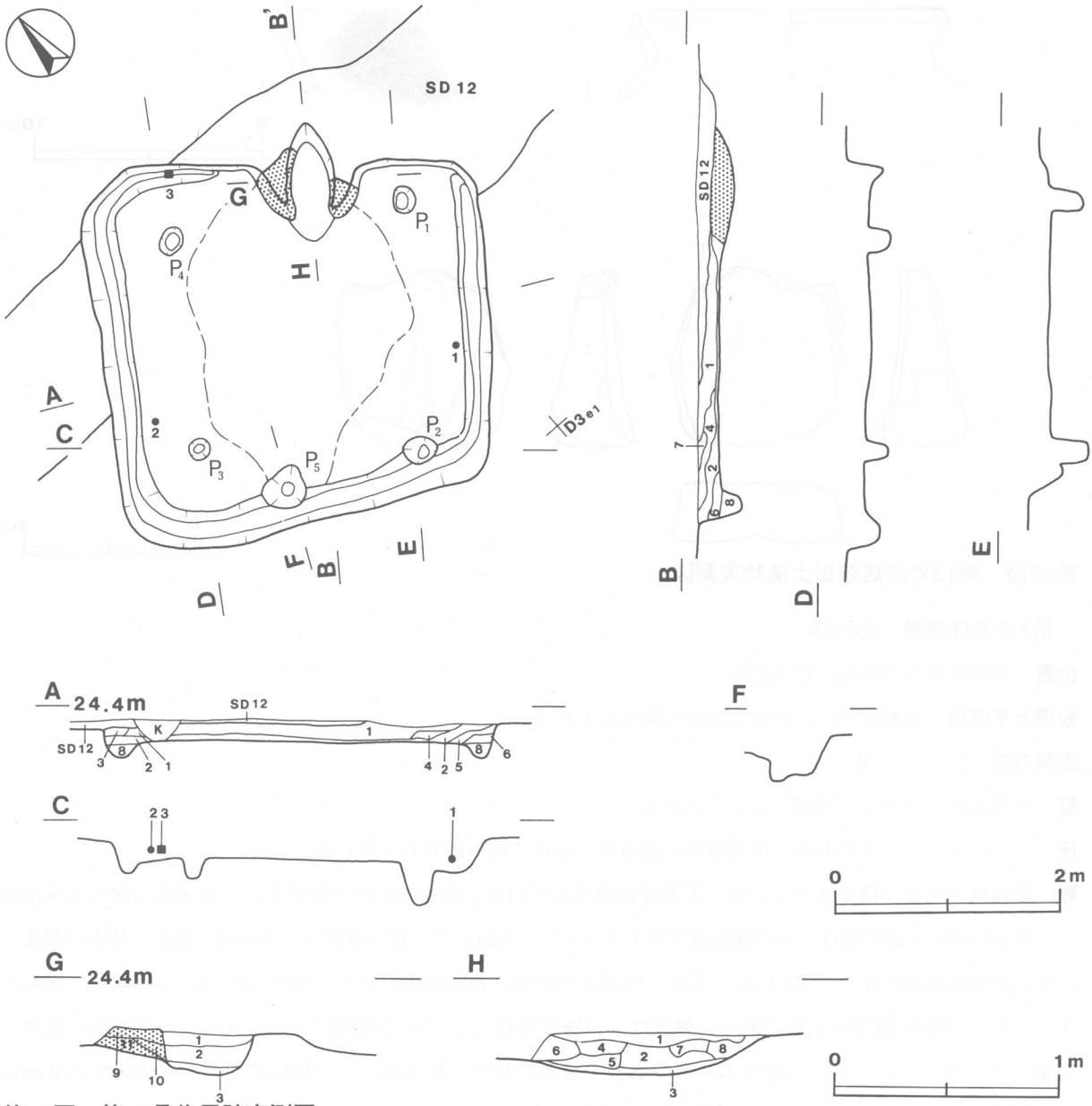
覆土　8層からなる。レンズ状に堆積しており，自然堆積と思われる。

土層解説

1	黒褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物少量
2	暗褐色	ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量
3	褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
4	暗褐色	ローム中ブロック少量
5	褐色	ローム大ブロック中量，ローム中ブロック少量
6	褐色	ローム大ブロック中量
7	暗褐色	ローム中ブロック・炭化物少量
8	褐色	ローム小ブロック・同粒子少量

遺物　土師器片163点，須恵器片17点，石器1点（砥石）が出土している。いずれも小片であり，接合できた遺物はほとんどない。第49図1は土師器甕で，南東壁寄りの覆土下層から破片の状態で出土している。2は土師器坏で，北西壁寄りの覆土中層から出土している。3の砥石片は，北東壁際の覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土した土器から9世紀後半と推定される。

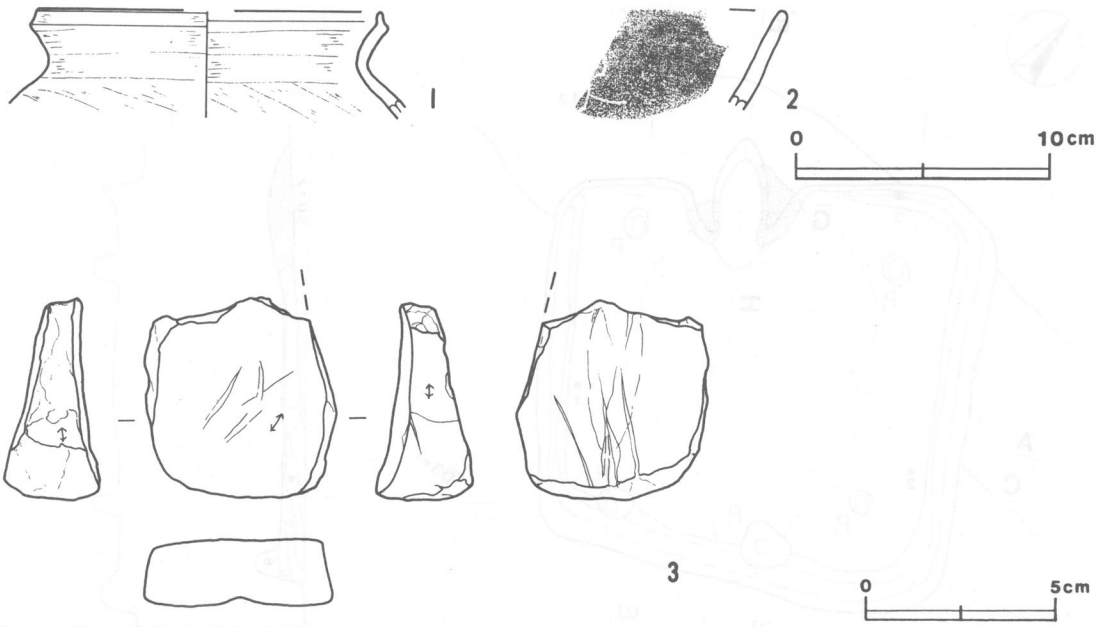


第48図　第13号住居跡実測図

第13号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第49図 1	甕 土師器	A　[13.4] B　4.5	口縁部の破片。口縁部は緩やかに屈曲して立ち上がり，口縁端部は若干内傾し，つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・スコリア・雲母 にぶい褐色　良	P143　10% 覆土下層
2	坏 土師器	B　4.6	口縁部の破片。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部外面ロクロナデ。口縁部内面磨き，黒色処理。	砂粒・スコリア にぶい褐色 良	TP14　10% 刻書「○人カ」 覆土中層

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第49図3	砥　石	(5.2)	5.2	2.5	(67)	覆土中層	Q11　凝灰岩



第49図　第13号住居跡出土遺物実測図

第14号住居跡（第50図）

位置　調査区域の中央部，C 3g2区。

規模と平面形　長軸2.70m，短軸2.36mの隅丸長方形である。

主軸方向　N－60°－W

壁　壁高は28～30cmで，外傾して立ち上がる。

床　ローム質で，平坦である。中央部から竈前面にかけて踏み固められている。

竈　北西壁の中央に構築されている。天井部は崩落しており，両袖部だけが残存する。火床部の掘り込みは浅く，焚き口部と床面の境は，床の硬化面が消えるラインと判断した。竈の規模は，煙道部上端から焚き口部まで67cm，両袖部外側の基部で幅115cmである。煙道部は壁外に約30cm掘り込み，煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。14～19層は袖部の土層である。袖部は，14層を芯材とし，その周囲にローム混じりの土を貼り付けて構築されている。8・9・12層は天井部の崩落土層と思われ，粘土混じりの褐色土である。火床部は2cmほど，皿状に掘り込まれている。中央部付近は，火熱を受けて硬化している。

竈土層解説

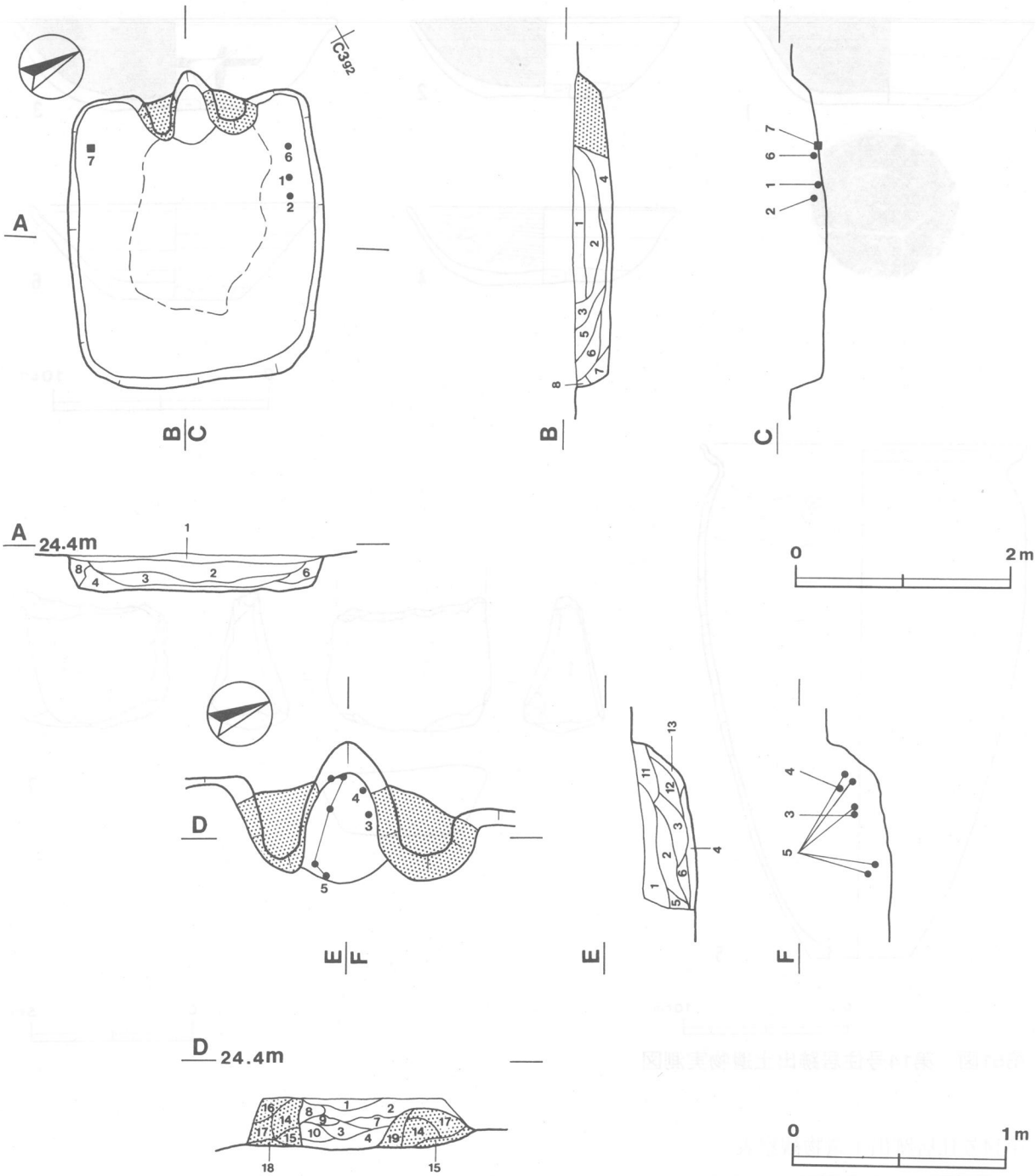
1	褐　色	赤色粒子中量
2	褐　色	焼土粒子少量，ローム粒子微量
3	灰褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	焼土粒子少量，炭化粒子微量
5	褐　色	赤色粒子少量，炭化粒子微量
6	褐　色	焼土粒子・炭化粒子中量
7	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
8	褐　色	焼土粒子・粘土粒子微量
9	褐　色	粘土粒子微量
10	褐　色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量
11	にぶい褐色	焼土小ブロック・同粒子微量
12	褐　色	焼土小ブロック・粘土粒子少量
13	褐　色	粘土粒子微量
14	灰褐色	粘土粒子少量，焼土粒子微量
15	暗褐色	白色粒子微量
16	褐　色	ローム小ブロック・白色粒子微量
17	褐　色	ローム粒子中量，白色粒子少量
18	にぶい褐色	ローム粒子多量，粘性強
19	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量

ピット　床面を精査したが，ピットは確認できなかった。

覆土　8層からなる。ロームブロックを含む層が多く，人為堆積と思われる。

土層解説

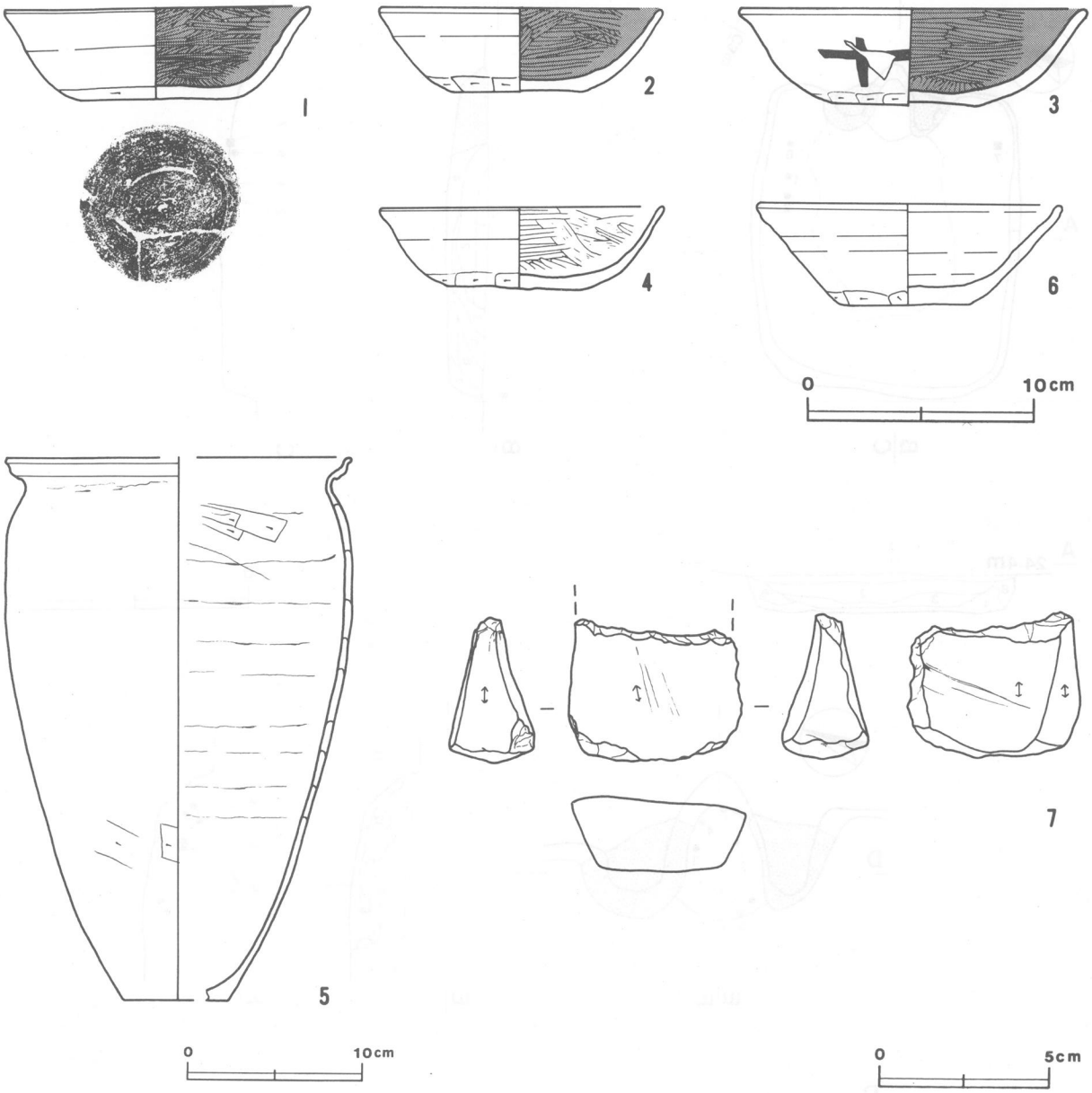
1	黒褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
2	にぶい褐色	ローム大ブロック多量，ローム中ブロック少量
3	暗褐色	ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量
4	にぶい褐色	ローム中ブロック多量，ローム小ブロック少量
5	暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
6	にぶい褐色	ローム大ブロック中量，ローム中ブロック少量
7	黒褐色	ローム小ブロック・同粒子少量
8	明褐色	ローム粒子多量



第50図　第14号住居跡実測図

遺物　土師器片78点，須恵器片６点，石製品１点（砥石）が出土している。第51図１～４は土師器坏である。１は逆位の，２は正位の状態で，それぞれ北西コーナーの床面上から覆土下層にかけて出土している。３は正位の状態で，４は逆位の状態で，それぞれ竈内から出土している。５は土師器甕で，竈内から横位の状態で出土している。底部を欠いており，甑として転用された可能性がある。６は須恵器坏で，北西コーナーの覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土した土器の特徴から，９世紀中頃と考えられる。



第51図　第14号住居跡出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第51図 1	坏 土師器	A 13.6 B 4.0 C 6.9	完形。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がり，端部は若干外反する。	体部外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。体部内面磨き，黒色処理。底部回転ヘラ削り。	砂粒・白色粒子 暗褐色 良	P144　100% PL46 床面
2	坏 土師器	A 12.4 B 2.8 C 5.7	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。体部内面磨き，黒色処理。底部一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・スコリア にぶい橙色 普通	P145　85% PL45 覆土下層
3	坏 土師器	A 15.5 B 4.5 C 6.4	口縁から底部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がり，端部は若干外反する。	体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。体部内面磨き，黒色処理。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	P146　50% PL45 墨書「十カ」 竈内
4	坏 土師器	A 12.4 B 3.6 C 5.9	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部外面弱いロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。体部内面磨き。底部回転ヘラ切り痕を残す。一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒 橙色 普通	P147　50% PL45 竈内

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第51図 5	甕 土師器	A [20.3] B 32.4 C [6.2]	口縁部から底部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は緩やかに外反して立ち上がり，端部は外反してつまみ上げられている。底部は焼成後穿孔。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ，一部ヘラ削り。	砂粒・雲母 にぶい褐色 良	P150　50% PL46 外面炭化物付着 竈内
6	坏 須恵器	A 13.5 B 4.6 C 5.5	完形。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰黄褐色 普通	P148　100% PL46 覆土下層

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第51図7	砥　石	(5.2)	4.2	2.6	(53)	北コーナー床面	Q12　凝灰岩

第15号住居跡（第52図）

位置　調査区域の中央部，D3c0区。

規模と平面形　南北3.11m，東西（1.00）mで，方形または長方形と推定される。住居跡の大半は，調査区域外に位置する。

主軸方向　N－18°－E

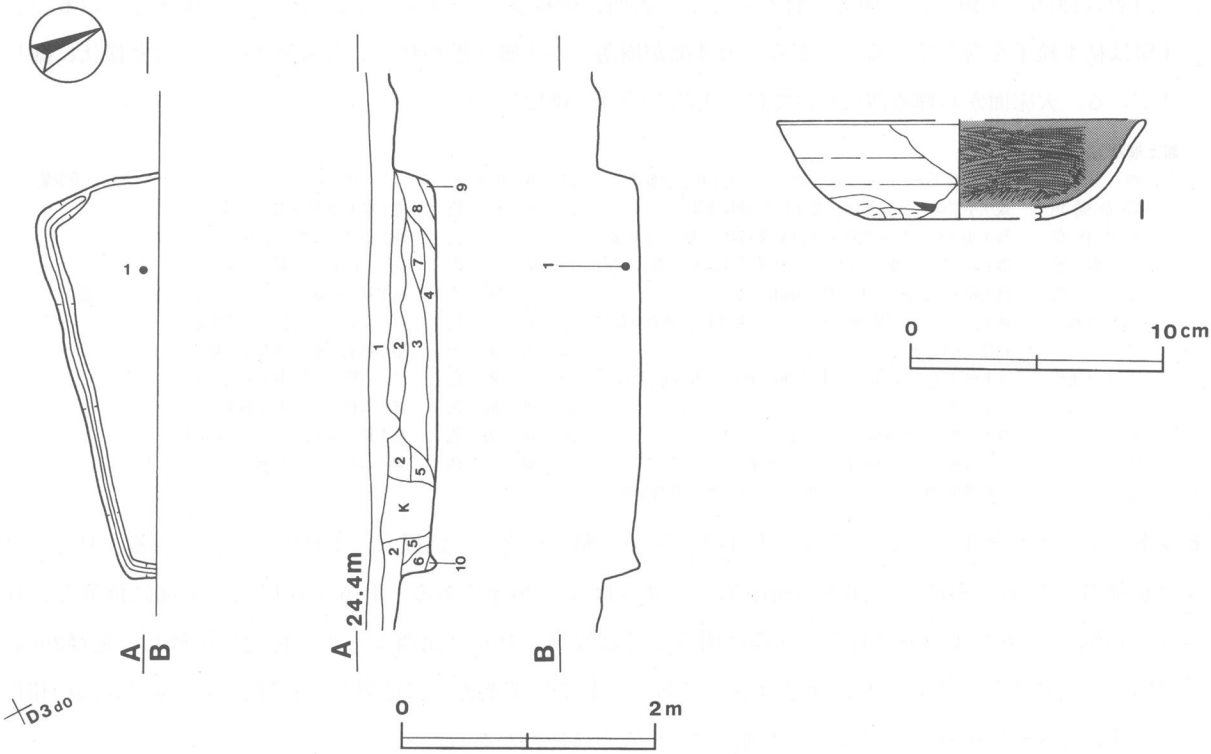
壁　壁高は22～30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北西コーナーから南西コーナーの壁際を巡っている。上幅12～17cm，下幅4～7cm，深さは6～9cmである。

床　ローム質で，平坦である。あまり踏み固められた形跡は認められない。

ピット　床面を精査したが，確認できなかった。

覆土　10層からなる。レンズ状に堆積しており，自然堆積と考えられる。1層は表土で，2層以下が住居跡の覆土である。



第52図　第15号住居跡・出土遺物実測図

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・赤色粒子少量，粘性・しまり弱
2	極暗褐色	ローム粒子少量
3	褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
4	褐色	ローム粒子・赤色粒子微量，粘性強
5	褐色	ローム小ブロック・同粒子微量
6	褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，粘性強
7	褐色	ローム粒子少量，粘土粒子微量
8	暗褐色	ローム粒子・赤色粒子微量
9	褐色	粘土粒子少量
10	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片２点，須恵器片２点が出土している。第52図１は土師器坏で，北部の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は出土した遺物から，９世紀中頃と推定される。

第15号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第52図 1	坏 土師器	A ［14.4］ B 3.9 C ［7.1］	口縁部から体部の破片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。体部内面磨き，黒色処理。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・スコリア・雲母 にぶい橙色　普通	P151　30% 墨書有り 覆土下層

第16号住居跡（第53図）

位置　調査区域の中央部西側，Ｄ３h2区。

規模と平面形　長軸3.22m，短軸3.14mの方形である。

主軸方向　N－22°－E

壁　壁高は32～41cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　壁際を全周する。断面はU字形で，上幅23～46cm，下幅７～18cm，深さは８～12cmである。

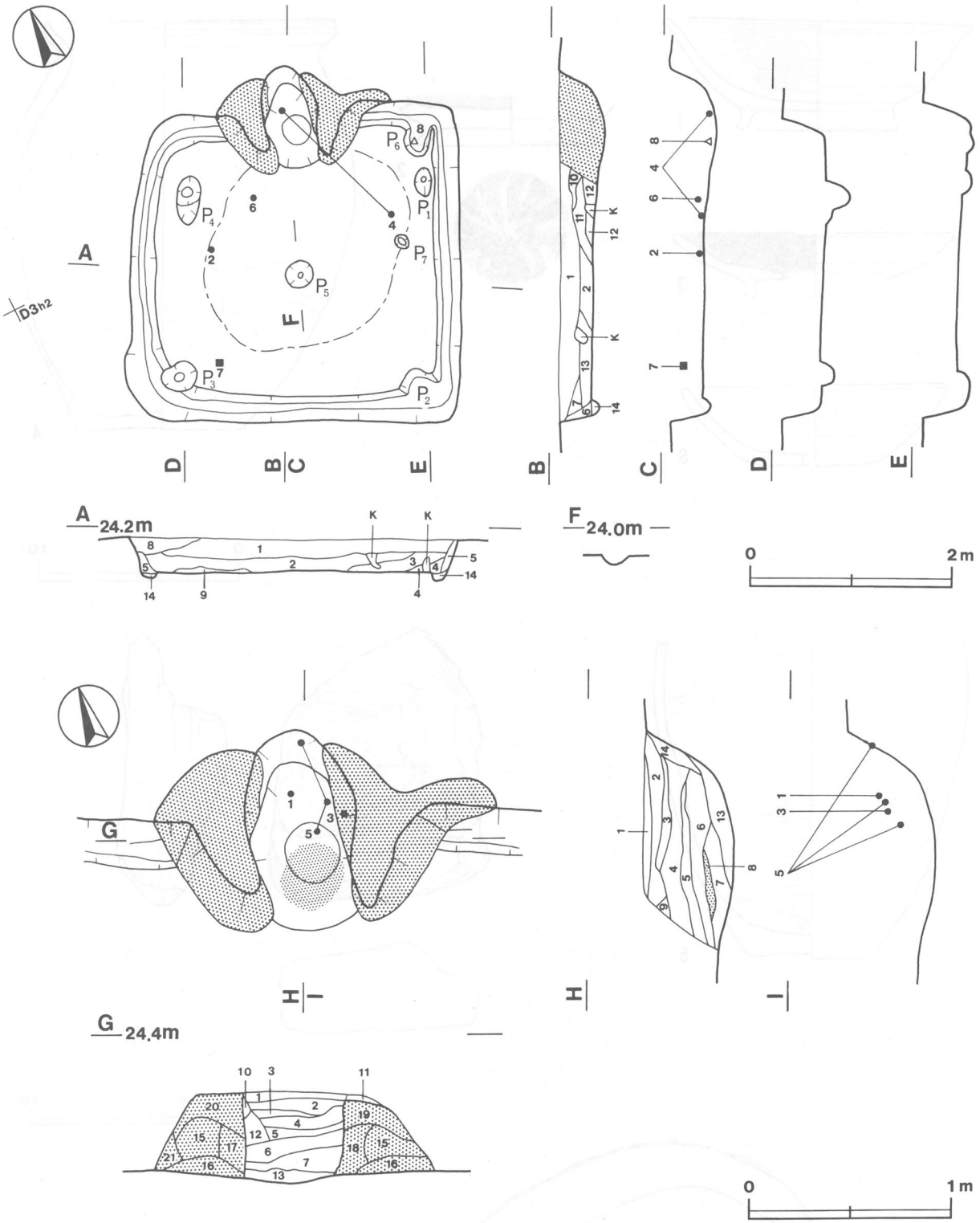
床　ローム質で，平坦である。中央部が踏み固められている。

竈　西壁中央に構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，煙道部の上端から焚き口部まで101cm，両袖部幅は140cmである。煙道部は壁外に約44cm掘り込み，煙道は外傾して立ち上がる。15～21層は袖部の土層で，15層を芯材としてその周囲に砂粒混じりのロームを貼り付けて構築している。２～４層は粘土粒子を含んでいることから，天井部が崩落した土層と思われる。火床部は約７cmほど皿状に掘り下げている。火床面から煙道部にかけては，火熱を受けて硬化している。

竈土層解説

1	赤黒色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量
2	暗赤褐色	焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
3	暗赤褐色	焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，しまり強
4	灰赤色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
5	赤灰色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
6	にぶい赤褐色	焼土中ブロック中量，焼土大ブロック・粘土粒子・砂粒少量，粘性・しまり弱
7	にぶい赤褐色	焼土中ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，粘性・しまり弱
8	赤褐色	焼土中ブロック多量，粘性・しまり弱
9	灰赤色	ローム中ブロック・同小ブロック少量
10	赤灰色	砂粒多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
11	暗赤灰色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
12	灰赤色	焼土粒子・砂粒中量，粘土粒子少量
13	褐色	焼土小ブロック・炭化粒子中量
14	褐色	ローム粒子・焼土粒子中量
15	灰褐色	粘土粒子多量，ローム粒子中量，粘性・しまり弱
16	褐色	ローム小ブロック・同粒子中量
17	灰褐色	粘土粒子中量，白色粒子少量
18	灰褐色	ローム粒子中量，粘土粒子少量
19	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子微量
20	暗褐色	粘土粒子少量，ローム粒子微量
21	褐色	ローム小ブロック中量

ピット　７か所（Ｐ１～Ｐ７）。Ｐ１～Ｐ４はコーナー側に片寄って位置し，主柱穴と考えられる。Ｐ１～Ｐ４は長径27～36cm，短径18～26cmの楕円形で，深さは10～26cmである。Ｐ５は住居の中央部に位置し，径30cmの円形で，深さは10cmである。性格は明らかではない。Ｐ６は北西コーナー付近に位置し，長径26cm，短径24cmで，楕円形と推定され，深さは９cmである。Ｐ７は東壁寄りに位置し，長径17cm，短径14cmの楕円形で，深さは５cmである。Ｐ６・Ｐ７は補助的な柱穴の可能性がある。

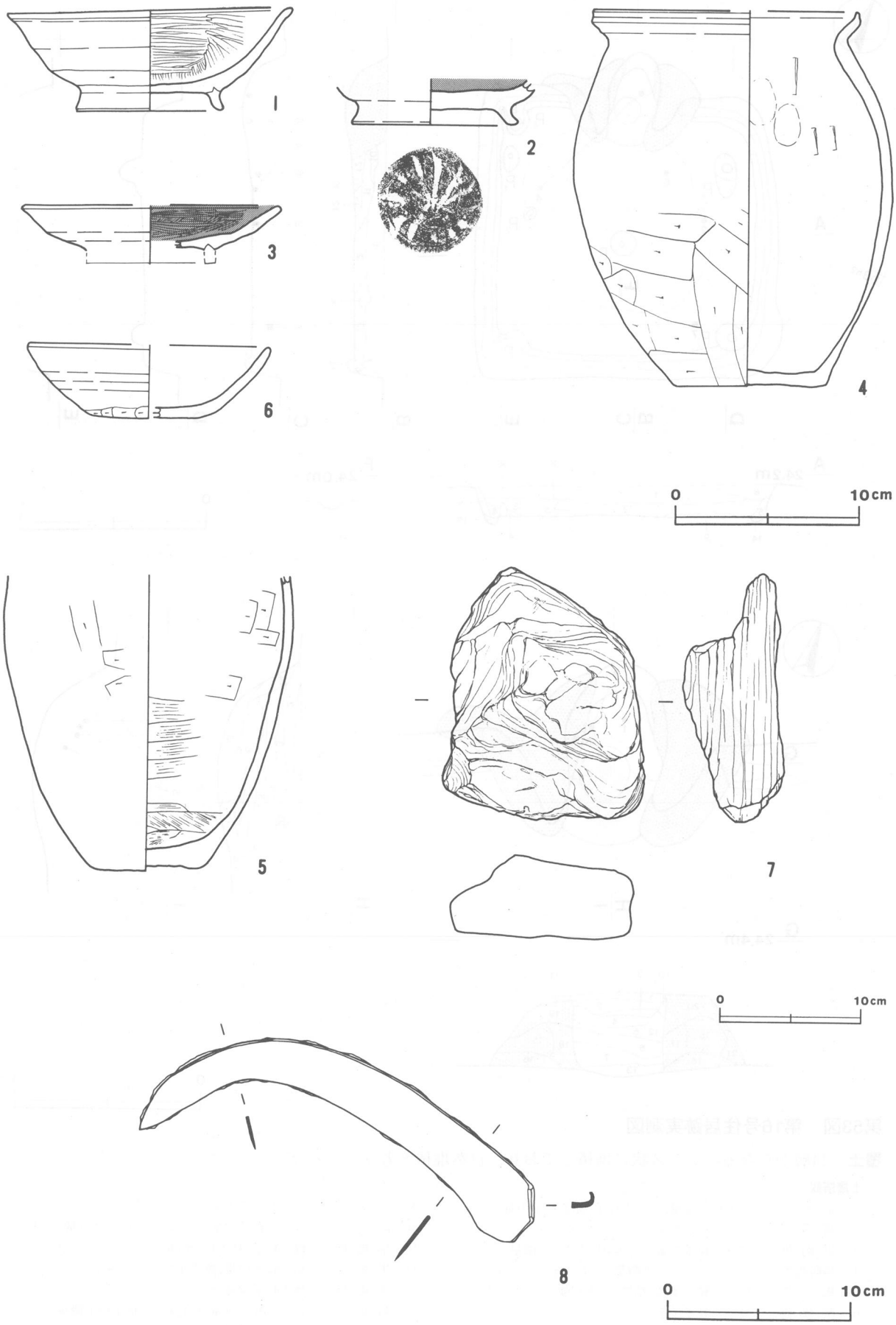


第53図　第16号住居跡実測図

覆土　14層からなる。レンズ状に堆積しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	白色粒子多量，ローム粒子・赤色粒子中量
2	暗褐色	ローム粒子中量
3	黒褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック微量
4	極暗褐色	ローム小ブロック微量，しまり強
5	褐色	ローム粒子多量，粘性・しまり強
6	暗褐色	ローム粒子多量
7	極暗褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
8	黒褐色	ローム粒子中量
9	暗褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，しまり強
10	黒褐色	焼土粒子・粘土粒子少量
11	黒褐色	粘土粒子中量，焼土小ブロック少量
12	黒褐色	焼土粒子少量
13	暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
14	暗褐色	ローム粒子微量



第54図　第16号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片441点，須恵器片109点，石片１点，鉄製品１点（鎌）が出土している。遺物は，竈内部から多く出土している。第54図１は土師器高台付坏，４は土師器小形甕である。４を逆位とし，底部の上に１を伏せた状態で煙道部底面から出土している。二次的な焼成を受けており，支脚として転用された可能性がある。２は土師器高台付坏，６は須恵器坏で，西壁寄りの覆土下層から出土している。３は土師器高台付皿，５は土師器甕である。それぞれ竈煙道部の底面から逆位の状態で出土している。７の石片は南西コーナー寄りの覆土下層中から，８の鎌は竈東側の床面上から，それぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，出土した土器から９世紀後半と考えられる。

第16号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第54図 1	高台付坏 土師器	A 15.1 B 5.6 D 7.9 E 1.1	口縁部・高台部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がり，口縁端部は若干外反する。高台部はハの字状に開く。	体部外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。高台部内・外面ナデ。体部内面磨き。底部回転ヘラ削り後，ナデ。	砂粒 橙色 普通	P154 75% PL46 竈煙道部
2	高台付坏 土師器	B (2.5) D 9.0 E 0.8	底部の破片。高台部はハの字状に開く。	高台部内・外面ナデ。底部内面磨き，黒色処理。底部ヘラ削り。	砂粒・石英・長石 にぶい赤褐色 普通	P155 35% 覆土下層
3	高台付皿 土師器	A [13.5] B (2.3)	口縁部から体部の破片。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部内面磨き，黒色処理。底部回転ヘラ削り。	砂粒・白色粒子 にぶい橙色 普通	P156 40% 竈煙道部
4	小形甕 土師器	A [14.5] B 20.1 C 9.1	口縁部から底部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外傾して立ち上がり，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半ヘラ削り後，ナデ。体部外面下半ヘラ削り。体部内面上半ヘラ削り後，ナデ，一部指頭圧痕を残す。下半剥離激しく調整不明。	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P157 55% 竈煙道部
5	甕 土師器	B (21.2) C 8.0	体部から底部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面上半ヘラ削り。体部下半不明。体部内面下半ナデ。	砂粒・スコリア・ 白色粒子 橙色　普通	P158 40% 竈煙道部
6	坏 須恵器	A [13.0] B 3.9 C [5.6]	口縁部から底部の破片。平底。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母 黄灰色 普通	P153 35% 覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第54図7	石片	17.9	10.1	7.2	1780	覆土下層	Q13　ホルンフェルス

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第54図8	鎌	20.5	3.8	0.2	62.5	竈東側床面	M4　PL54

第17号住居跡（第55図）

位置　調査区域の中央部，D３g1区。

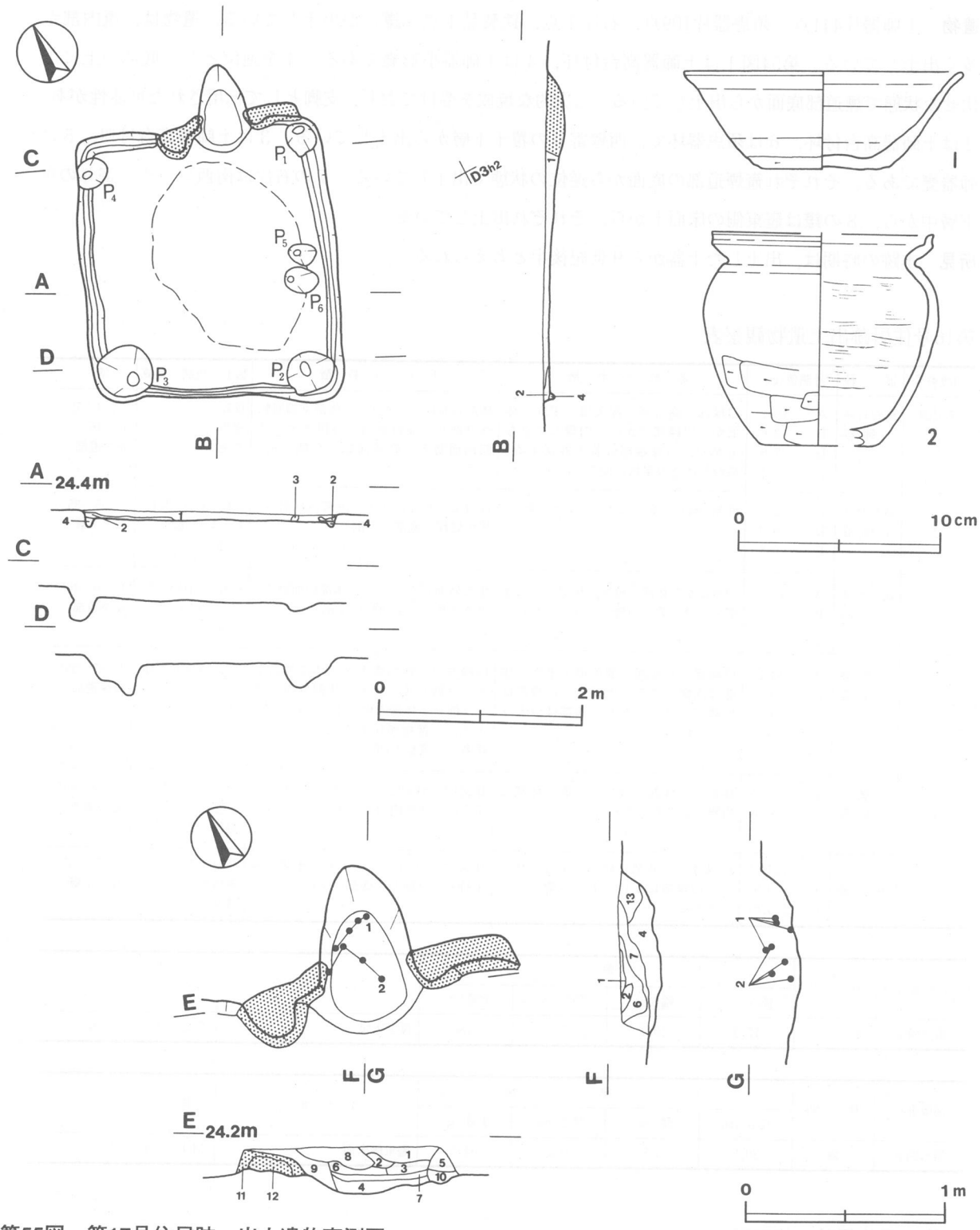
規模と平面形　長軸2.73m，短軸2.5mの方形である。

主軸方向　N－30°－E

壁　壁高は７～13cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　壁際を全周する。断面はU字形で，上幅８～21cm，下幅３～21cm，深さは６～10cmである。

床　ローム質で，平坦である。中央部が踏み固められている。



第55図　第17号住居跡・出土遺物実測図

竈　北壁中央やや西側に位置する。天井部は削平されている。規模は，煙道部上端から焚き口部まで85cm，両袖部幅109cmである。煙道部は壁外へ約45cm掘り込んで構築され，煙道は緩やかに立ち上がる。10～12層は袖部の土層である。袖部は，灰褐色粘土を芯材として砂質粘土を外側に貼り付けている。また，基部は壁外へ20cm掘り込んで構築されている。火床部は約８cm掘り込まれ，平坦である。火床部は，火を受けて硬化している。

竈土層解説

1	褐灰色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量	8	黒褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
2	にぶい赤褐色	ローム粒子中量,焼土小ブロック少量	9	にぶい赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量,しまり強
3	暗赤褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子少量	10	暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
4	にぶい赤褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量,しまり強	11	灰褐色	ローム粒子・粘土粒子少量
5	灰褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量	12	灰褐色	ローム粒子・粘土粒子中量
6	暗赤褐色	焼土大ブロック・同粒子少量,しまり強	13	褐色	焼土粒子少量
7	褐灰色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量			

ピット　6か所（P1～P6）。P1～P4は，各コーナーに位置しており，主柱穴と考えれる。径30～48cmの円形で，深さは8～30cmである。P5・P6は，P1とP2の中間に位置し，長径28～34cm，短径22～25cmの楕円形で，深さは20～24cmである。外側の壁の立ち上がりが緩やかなので，出入り口施設に伴うピットと推定される。

覆土　2層からなる。レンズ状に堆積しており，自然堆積と思われる。

土層解説

1	黒褐色	ローム中ブロック・炭化物少量	3	明褐色	ローム粒子中量
2	明褐色	ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量	4	明褐色	ローム中ブロック中量

遺物　土師器片86点が出土している。第55図1は土師器坏，2は土師器小形甕である。1は破片の状態で，2は横位の状態で，それぞれ竈の覆土下層から上層にかけて出土している。

所見　本跡の時期は，出土した土器の特徴から9世紀中頃と考えられる。

第17号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第55図 1	坏 土師器	A [13.7] B 4.8 C 6.1	口縁部から底部の破片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がり，口縁端部を若干外反させる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	スコリア・雲母・長石 褐色　良	P161　40% PL46 竈覆土下～上層
2	小形甕 土師器	A [11.0] B 10.5 C [5.8]	口縁部から底部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は強く外反して立ち上がり，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半ナデ。体部外面下半ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・白色粒子 にぶい赤褐色 普通	P163　40% PL46 竈覆土下～上層

第18号住居跡（第56図）

位置　調査区域の中央部，D3i3区。

重複関係　第10号溝が本跡の覆土を掘り込んでいるので，本跡の方が古い。

規模と平面形　長軸2.74m，短軸2.40mの長方形である。

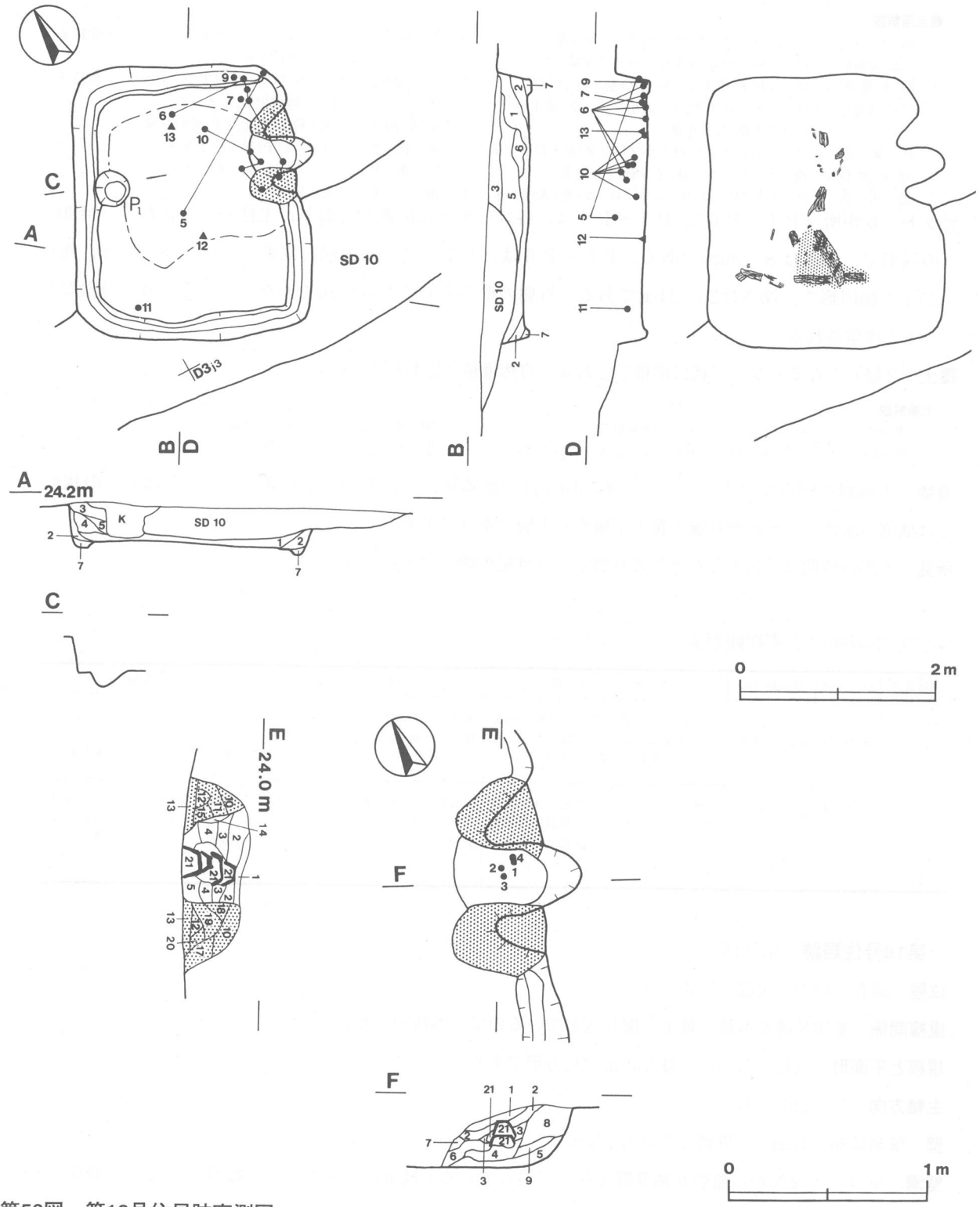
主軸方向　N－116°－E

壁　壁高は30～41cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　東コーナー部から竈の北袖部際を除いて巡っている。断面はU字形で，上幅17～33cm，下幅6～16cm，深さは6～10cmである。

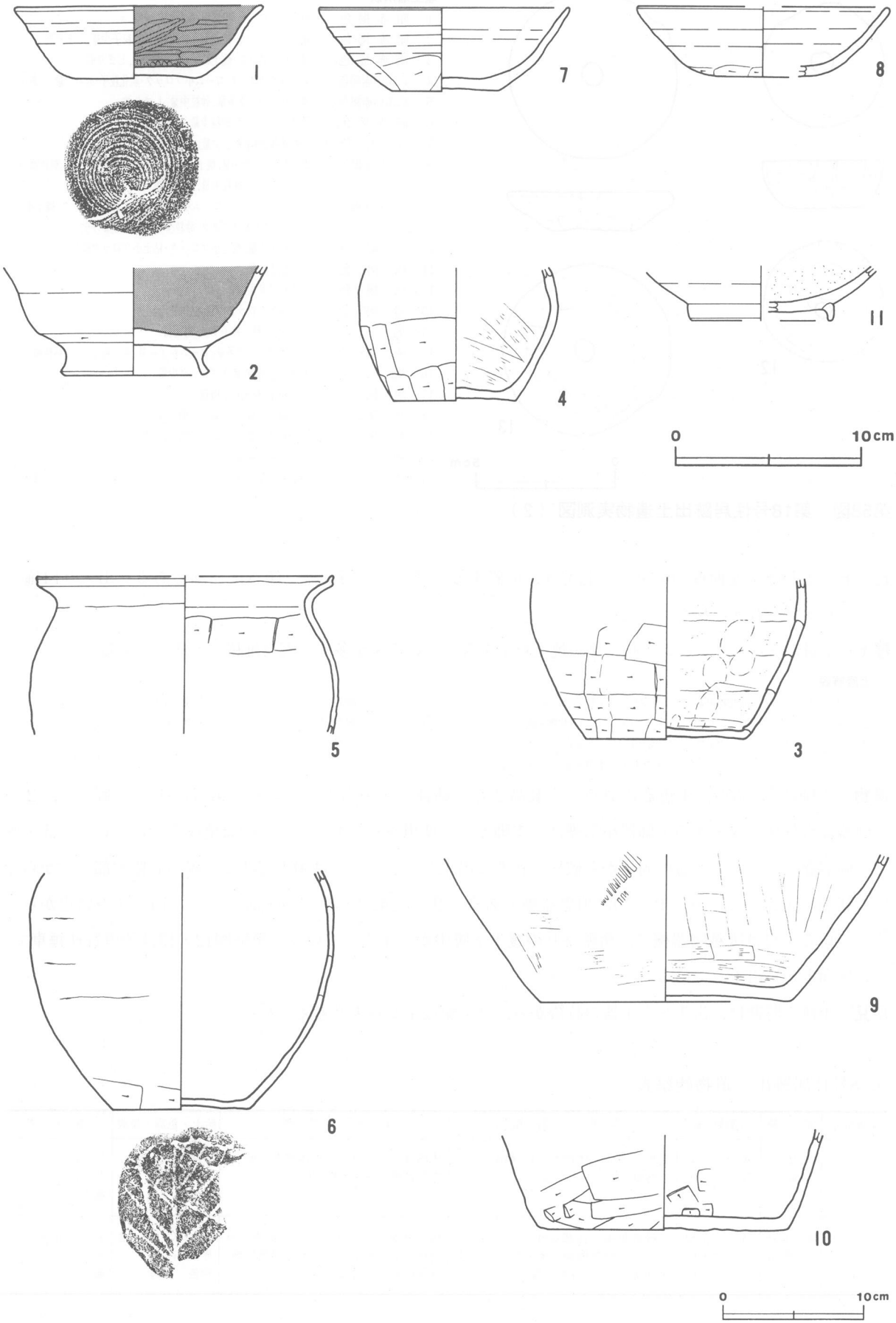
床　ローム質で，若干の起伏がある。P1から竈前面にかけて踏み固められている。中央部から南壁寄りの床面から覆土下層にかけて，炭化物が出土している。

竈　南東壁の中央部から東コーナー寄りに位置する。天井部は崩落し両袖部が残っている。規模は，煙道部上端から焚き口部まで68cm，両袖部幅99cmである。煙道部は，壁外へ約24cm掘り込んで構築され，煙道は外傾して立ち上がる。10～13・15・18～20層は袖部の土層である。灰褐色粘土を芯材に，砂粒混じりの粘土を貼り付けて構築されている。4・7・8層は砂粒を含み，天井部を構成していた層と考えられる。火床部の掘

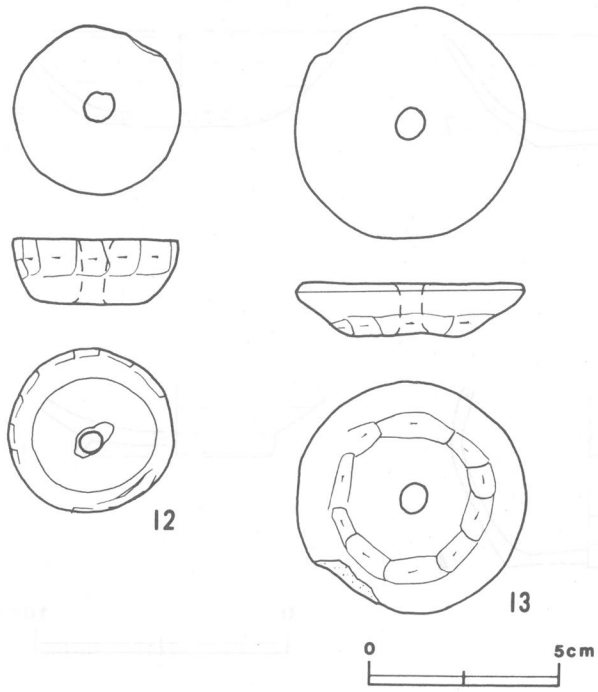


第56図　第18号住居跡実測図

り込みは極めて浅く，床面とほぼ同じレベルで続いている。火床面には焼土が堆積しており，煙道部にかけては火熱を受けて硬化している。両袖部の中間には，底面から第57図３・２・１・４の順で，それぞれ逆位に積み重ね，周囲を粘土で補強して支脚としている。



第57図　第18号住居跡出土遺物実測図（1）



竈土層解説

1	暗赤褐色	焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
2	暗赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量，しまり弱
3	暗赤褐色	焼土中ブロック・焼土粒子・炭化物少量，しまり弱
4	にぶい赤褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子・砂粒少量，しまり弱
5	にぶい赤褐色	焼土中ブロック多量，砂粒中量，しまり強
6	暗赤褐色	焼土小ブロック・砂粒少量，しまり弱
7	赤灰色	砂粒多量，焼土粒子少量，しまり弱
8	にぶい赤褐色	焼土小ブロック中量，焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化物・粘土大ブロック・砂粒少量，しまり弱
9	にぶい赤褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土大ブロック・焼土小ブロック・粘土大ブロック・砂粒少量，粘性・しまり弱
10	灰褐色	粘土粒子少量，焼土小ブロック・粘土小ブロック微量
11	灰褐色	粘土粒子中量
12	灰褐色	粘土粒子多量，粘性・しまり強
13	暗褐色	ローム中ブロック中量，粘性強
14	褐色	焼土粒子・粘土粒子少量，粘性弱
15	灰褐色	粘土大ブロック多量，ローム粒子中量，焼土粒子少量，粘性強
16	褐色	粘土粒子中量，焼土ブロック少量
17	黒褐色	炭化粒子・粘土粒子微量
18	暗褐色	粘土粒子中量，ローム粒子微量，粘性強
19	褐灰色	粘土粒子中量，ローム粒子微量，粘性強
20	褐色	ローム粒子中量
21	灰褐色	粘土粒子多量，粘土中ブロック中量，焼土粒子少量，粘性・しまり強

第58図　第18号住居跡出土遺物実測図（2）

ピット　1か所。北西壁の中央やや北寄りに位置する。径34cmの円形で，深さは18cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　7層からなる。ロームブロック・焼土粒子を含んでいる層が多く，人為堆積の可能性がある。

土層解説

1	黒褐色	炭化物中量，ローム小ブロック少量，しまり弱
2	褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化物少量，しまり弱
3	黒褐色	ローム小ブロック・焼土中ブロック少量
4	黒褐色	ローム大ブロック・焼土粒子・炭化物少量，しまり弱
5	にぶい褐色	ローム中ブロック中量，焼土粒子少量
6	にぶい褐色	ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子少量
7	暗褐色	ローム粒子少量

遺物　土師器片156点，須恵器片31点，土製品2点（紡錘車）が出土している。第57図1の土師器坏，2の土師器高台付坏，3・4の土師器小形甕は，支脚として使用されており，二次的な焼成を受けている。5・6は土師器甕で，それぞれ竈の周辺から破片の状態で出土している。7は須恵器坏で，竈の北側袖部付近から正位の状態で出土している。9・10は須恵器甕である。9は北東コーナーの床面上から，10は竈の周辺から出土している。11は灰釉陶器椀で，南壁寄りの覆土下層中から出土している。第58図12・13は須恵質紡錘車で，共に床面上から出土している。

所見　本跡の時期は，出土した土器の特徴から，9世紀後半から末と考えられる。

第18号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第57図 1	坏 土師器	A 13.4 B 3.9 C 6.5	完形。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部内面磨き，黒色処理。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 良	P164　100% PL46 竈内
2	高台付坏 土師器	B (5.8) D 8.0 E 1.6	口縁部欠損。体部は外傾して立ち上がる。高台部断面は細身で高く，若干外反してハの字状に開く。	体部外面ロクロナデ。高台部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，黒色処理。底部回転糸切り後，ナデ。	砂粒・スコリア・雲母・長石 橙色　普通	P168　60% PL46 竈内

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第57図 3	小形甕 土師器	B　(8.5) C　 8.6	体部から底部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面中位ナデ。体部外面下半ヘラ削り。体部内面ナデの後，一部指頭圧痕。	砂粒・石英・スコリア・雲母 外面にぶい赤褐色 内面明赤褐色　良	P172　30% 竈中
4	小形甕 土師器	B　(7.2) C　 6.4	体部から底部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面中位ナデ。体部外面下半ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。	砂粒・石英・雲母 灰黄褐色 良	P173　40% PL46 竈内
5	甕 土師器	A　[21.6] B　(11.4)	口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外傾して立ち上がり，端部は上方につまみ上げる。	口縁部内・外面ナデ。体部外面調整不明。頸部内面ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P170　25% 覆土中層
6	甕 土師器	B　(17.1) C　(10.0)	体部から底部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ナデ。体部下端ヘラ削り。体部内面磨滅のため調整不明。底部木葉痕。	砂粒・白色粒子 黒褐色 普通	P171　35% 覆土下～中層
7	坏 須恵器	A　 13.4 B　 4.5 C　 5.8	完形。平底。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・白色粒子 にぶい黄橙色 普通	P166　100% PL46 覆土下層
8	坏 須恵器	A　[13.6] B　 3.8 C　(5.6)	口縁部から底部の破片。平底。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・雲母・長石 灰黄褐色　普通	P167　35% 覆土中
9	甕 須恵器	B　(10.6) C　 18.2	体部から底部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面縦位の平行叩き。体部下端ナデ。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石 褐灰色 普通	P174　35% PL46 床面
10	甕 須恵器	B　(7.3) C　 17.9	体部から底部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ，底部内面ヘラ削り。	砂粒・石英・スコリア・長石 灰黄褐色　普通	P175　30% 覆土中層
11	椀 灰釉陶器	B　(2.9) D　[7.8] E　 0.9	体部から底部の破片。体部は内彎して立ち上がる。高台部は三日月状を呈している。	体部内・外面，高台部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒 素地灰黄色，釉調灰黄褐色　普通	P169　30% 黒笹90窯式 覆土下層

図版番号	種　別	計測値				材　質	出土地点	備　考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第58図12	紡錘車	4.4	1.8	0.8	33.1	須恵質	中央部床面	DP13　PL53
13	紡錘車	6.0	1.4	0.7	49.0	須恵質	竈前面床面	DP14　PL53

第19号住居跡（第59図）

位置　調査区域の中央部，C4J4区。

規模と平面形　長軸3.5m，短軸3.3mの方形である。

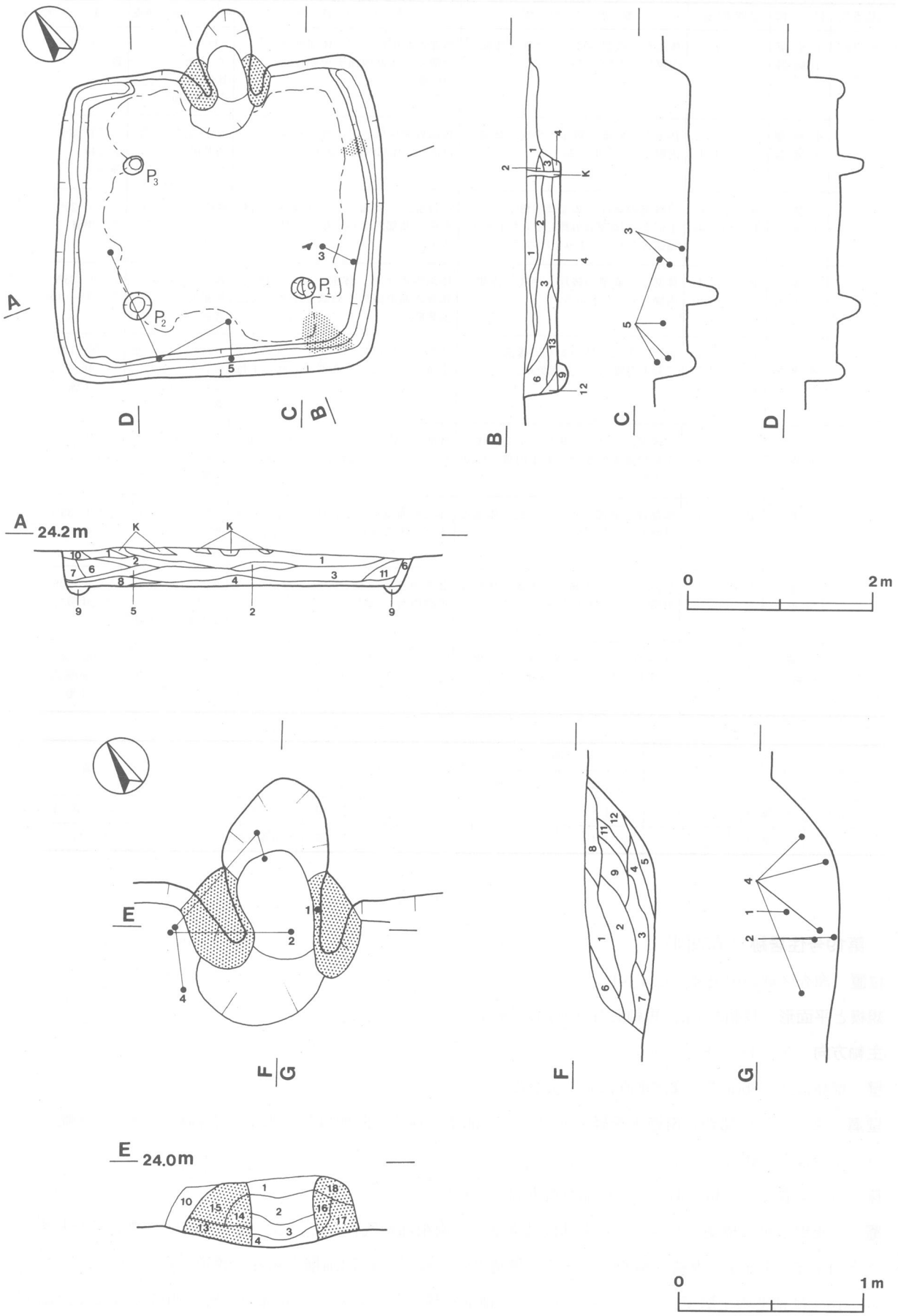
主軸方向　N－35°－E

壁　壁高は28～36cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　東コーナー部から南壁下を経て北コーナー部まで巡る。断面はU字形で，上幅17～35cm，下幅5～12cm，深さは7～10cmである。

床　ローム質で，平坦である。中央部が踏み固められている。

竈　北東壁中央に構築されている。天井部は崩落し，両袖部が残存している。竈の規模は，煙道部の上端から焚き口部まで134cm，両袖部幅99cmである。煙道部は，壁外へ約73cm掘り込み，煙道は緩やかに立ち上がる。13～18層は袖部の土層で，ローム混じりの土で袖部を構築している。天井部の土層は明確ではなく，流出している可能性がある。火床部は皿状に5cmほど掘り込まれている。焼土の堆積は少ないが，火床面は火熱を受



第59図　第19号住居跡実測図

け硬化している。

竈土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量,ローム中ブロック微量,粘性強
2	褐色	ローム粒子中量,ローム小ブロック・炭化粒子微量
3	褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
4	暗褐色	焼土粒子少量
5	褐色	ローム粒子中量,粘性強
6	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・赤色粒子少量
7	褐色	ローム粒子中量,ローム小ブロック・炭化粒子微量
8	褐色	焼土粒子少量,炭化粒子微量
9	暗褐色	焼土粒子少量,ローム粒子微量,粘性強
10	暗褐色	焼土粒子微量
11	褐色	焼土粒子微量,しまり強
12	褐色	焼土粒子微量
13	暗褐色	焼土小ブロック・炭化物少量
14	褐色	焼土粒子中量
15	褐色	焼土小ブロック・焼土粒子微量
16	暗褐色	ローム粒子微量
17	褐色	ローム粒子多量,粘性強
18	褐色	ローム粒子微量

ピット　3か所（P1～P3）。P1～P3は，径21～30cmの円形で，深さは23～36cmである。それぞれコーナーに片寄った位置にあり，主柱穴と考えられる。東コーナー付近の柱穴は，床面を精査したが確認できなかった。

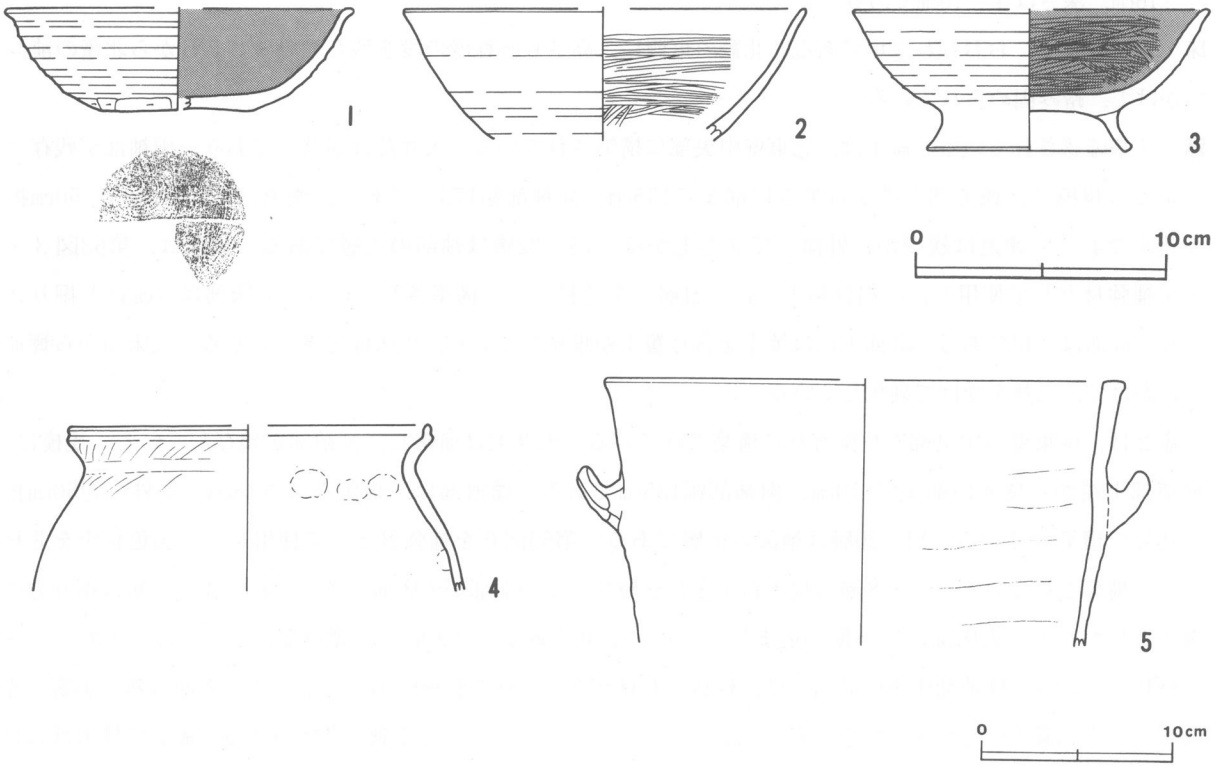
覆土　13層からなる。レンズ状に堆積しており，自然堆積と考えられる。また，南コーナー付近の床面上には，厚さ約30cmほどの焼土が堆積している。

土層解説

1	黒褐色	赤色粒子少量,ローム粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・赤色粒子少量
3	暗褐色	ローム大ブロック・同粒子中量,粘土粒子微量
4	黒褐色	ローム粒子中量,炭化粒子少量,焼土粒子微量
5	暗褐色	ローム小ブロック・炭化粒子微量
6	褐色	ローム小ブロック・赤色粒子微量,しまり強
7	褐色	ローム大ブロック・赤色粒子微量,しまり強
8	暗褐色	ローム粒子・赤色粒子少量,炭化粒子微量
9	暗褐色	ローム粒子少量
10	褐色	ローム粒子中量
11	暗褐色	ローム粒子・炭化物・焼土粒子少量
12	極暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
13	暗褐色	ローム中ブロック・同粒子微量

遺物　土師器片184点，須恵器片2点，陶器片2点が出土している。陶器片は，本跡が埋没する過程で流れ込んだものである。第60図1の土師器坏は竈内から逆位の状態で，2の土師器坏，4の土師器甕は竈の内部及びその周辺から破片の状態で出土している。3の土師器高台付坏は，北西壁寄りの覆土下層から出土している。5の須恵器甑は，西コーナー寄りの覆土中層から上層にかけて出土しており，流れ込んだものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土した土器から10世紀前半と考えられる。



第60図　第19号住居跡出土遺物実測図

第19号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第60図 1	坏 土師器	A　[13.6] B　4.0 C　[6.0]	口縁部から底部の破片。平底。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り。体部内面ロクロナデ，黒色処理。底面磨き。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 灰黄色 良	P176　45% PL46 竈覆土中層
2	坏 土師器	A　[15.8] B　(5.2)	口縁部の破片。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部内面磨き。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P177　30% 床面～覆土下層
3	高台付坏 土師器	A　[14.2] B　5.6 D　8.2 E　1.5	口縁部一部欠損。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。高台は若干外反してハの字状に開く。	体部外面ロクロナデ。体部内面磨き，黒色処理。高台部内・外面ナデ。底部ナデ。	砂粒・雲母・白色粒子 にぶい黄橙色 普通	P178　55% PL46 覆土下層
4	甕 土師器	A　[19.2] B　(8.8)	口縁部から体部の破片。口縁部は外傾して立ち上がり，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面上半ナデ。頸部内面指頭圧痕。	砂粒・スコリア・雲母 明褐色　良	P179　25% 床面～覆土下層
5	甑 土師器	A　[27.0] B　(14.1)	口縁部から体部の破片。体部から口縁部にかけてほぼ直立して立ち上がり，口縁端部に面取りを施す。体部に把手を持つ。	口縁端部，体部内・外面ナデ。把手はヘラ状工具による圧痕。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P180　20% 覆土中～上層

第21号住居跡（第61・62図）

位置　調査区域の中央部，D4c2区。

規模と平面形　長軸4.15m，短軸4.0mの方形である。北西壁の一部が，調査区域外にかかっている。

主軸方向　N－32°－E

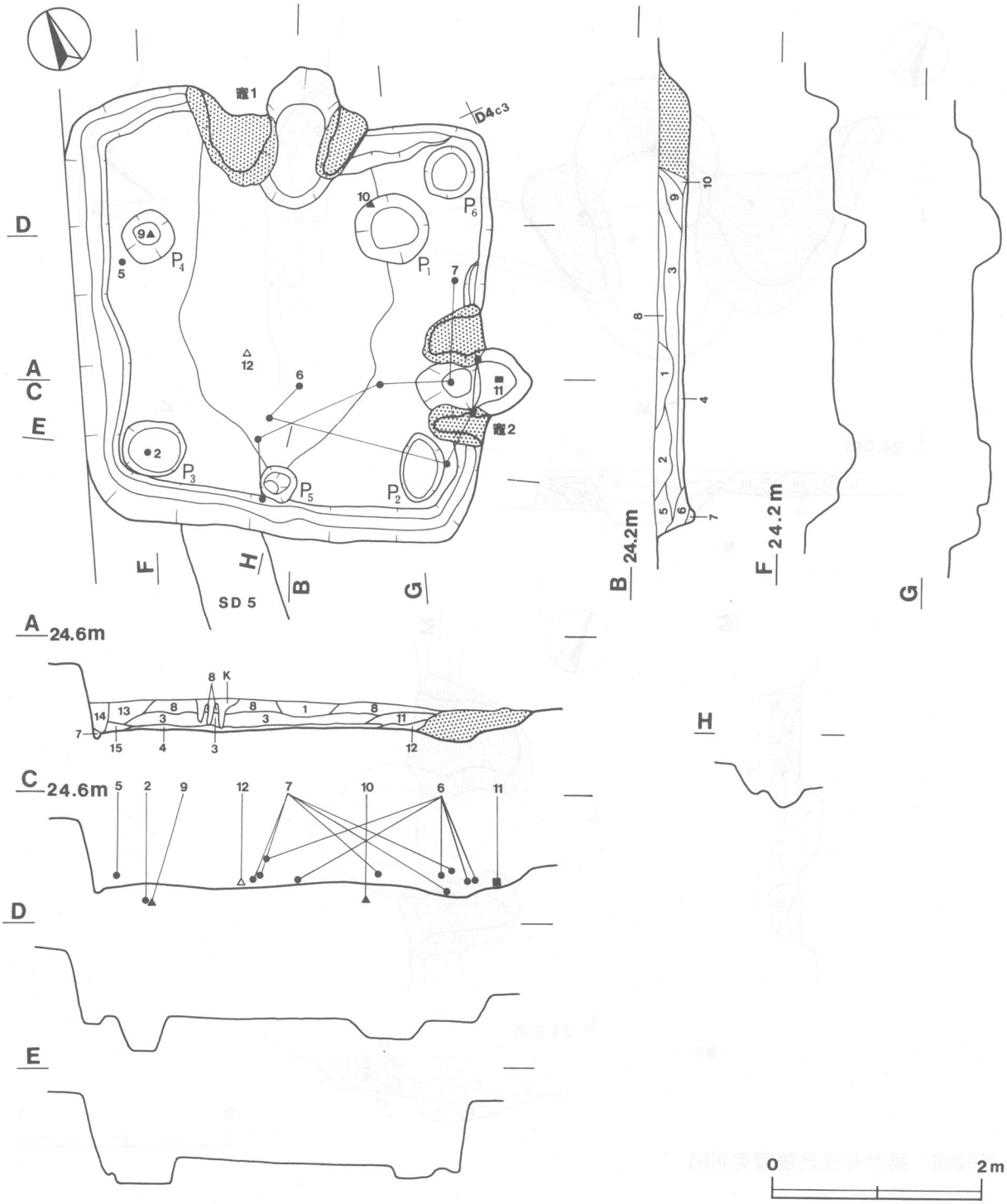
壁　壁高は18～32cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北コーナーから，西コーナーを経て東竈付近まで巡っている。断面はU字形で，上幅20～44cm，下幅6～16cm，深さは4～10cmである。

床　ローム質で，おおむね平坦である。北竈の東側に，高さ6cm程度の段を残している。P5から北竈の前面にかけて，踏み固められている。

竈　2基確認されている。竈1は，北東壁中央部に構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，煙道部上端から焚き口部まで135cm，両袖部幅173cmである。煙道部は，壁外へ約50cm掘り込んでおり，煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。15～22層は袖部の土層である。袖部は，第63図3・8を補強材として使用し，灰褐色粘土（16・21層）を芯材にして構築されている。火床部は5cmほど掘り込まれ，底面は平坦である。底面上には焼土を含む覆土が堆積しており，火床面と考えられる。火床面から煙道部にかけて，火熱を受けて硬化している。

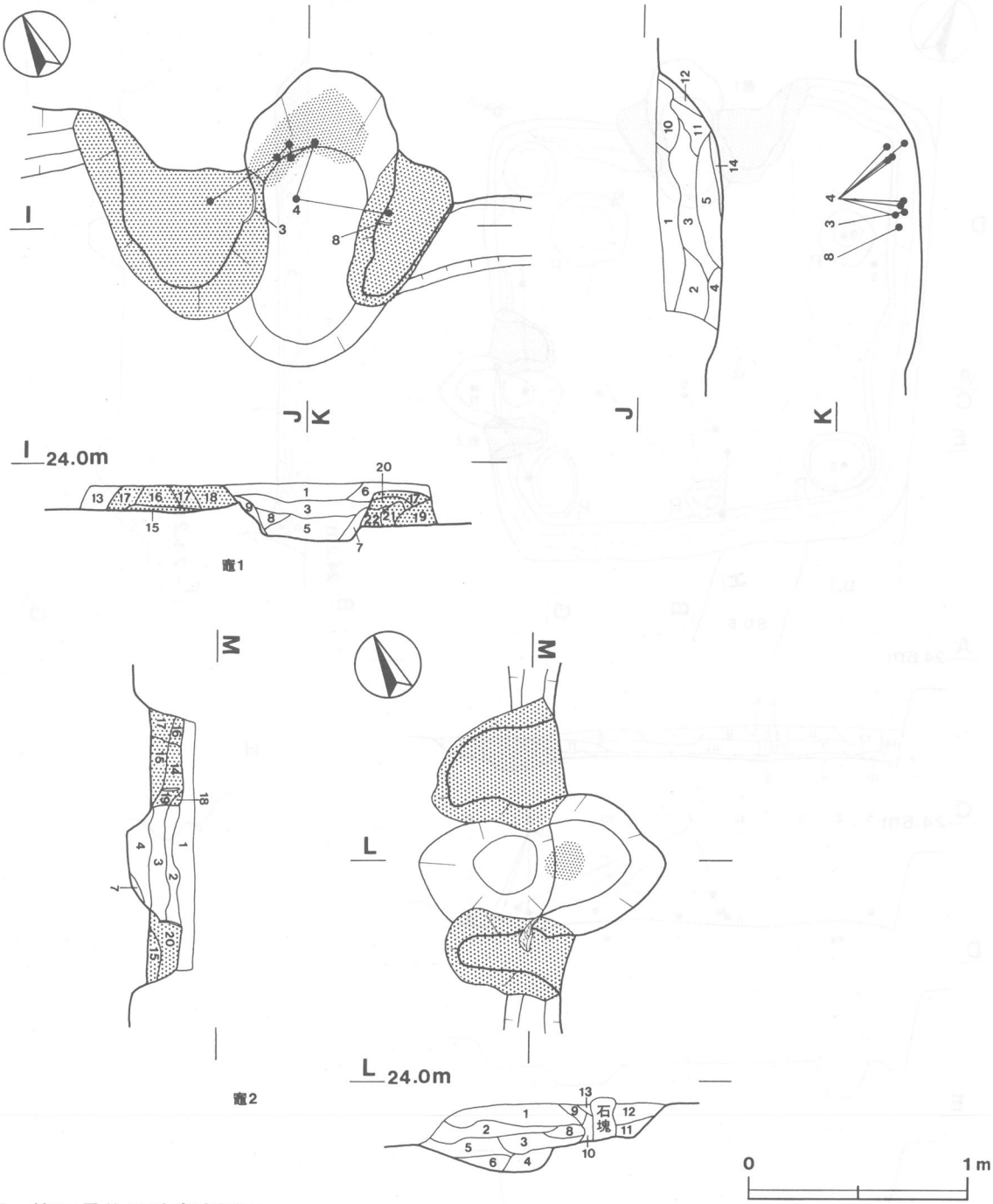
竈2は，南東壁の中央部やや南寄りに構築されている。天井部は崩落し，両袖部が残存している。規模は，煙道部上端から焚き口部まで110cm，両袖部幅135cmである。煙道部は，地山を深さ18cm，壁外へ約50cm掘り込んで構築している。14～20層は袖部の土層である。第63図6を補強材として使用し，灰褐色粘土を芯材として構築されている。3・8層は焼土粒子を含む層で，この下部が火床面と考えられ，4～6層は掘り方の覆土と思われる。火床部は10cm掘り込まれており，平坦である。火床面から煙道部にかけては，火熱をうけて硬化している。煙道部中央の底面には，柱状の石材が立てられた状態で出土している。表面は熱の影響で赤変している。竈1の方が大形で作りもしっかりしており，こちらが主たる竈と考えられる。竈2の煙道部には柱状の石材が立てられていたが，位置から判断して支脚とみるには検討の余地があると思われる。



第61図　第21号住居跡実測図

竈1土層解説

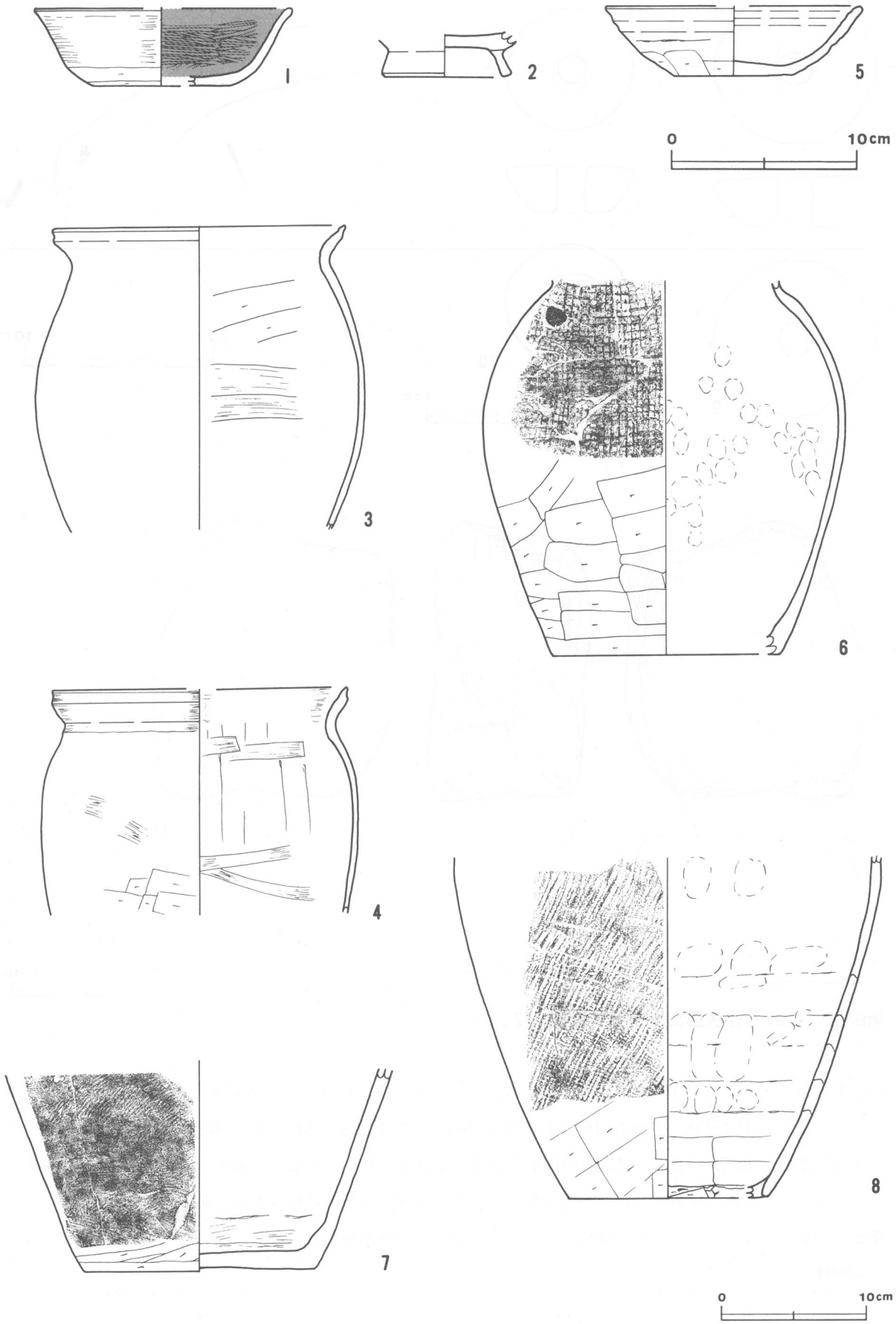
1	暗褐色	ローム粒子・焼土小ブロック中量
2	暗褐色	焼土粒子少量
3	褐色	焼土粒子少量，炭化粒子微量
4	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
5	褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック微量
6	暗褐色	焼土粒子中量，ローム粒子少量
7	褐色	焼土粒子微量
8	暗褐色	焼土粒子微量
9	褐色	焼土小ブロック微量
10	褐色	焼土粒子少量
11	明褐色	焼土中ブロック・同粒子中量
12	褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
13	褐色	ローム粒子・粘土粒子微量
14	暗褐色	焼土粒子少量
15	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量
16	灰褐色	焼土粒子・粘土粒子中量，粘性強
17	灰褐色	焼土粒子・粘土粒子少量
18	褐色	ローム粒子中量，粘土粒子少量
19	暗褐色	焼土粒子中量
20	灰褐色	ローム粒子・粘土粒子少量
21	灰褐色	粘土粒子少量，ローム小ブロック微量
22	褐色	粘土粒子少量，ローム粒子微量



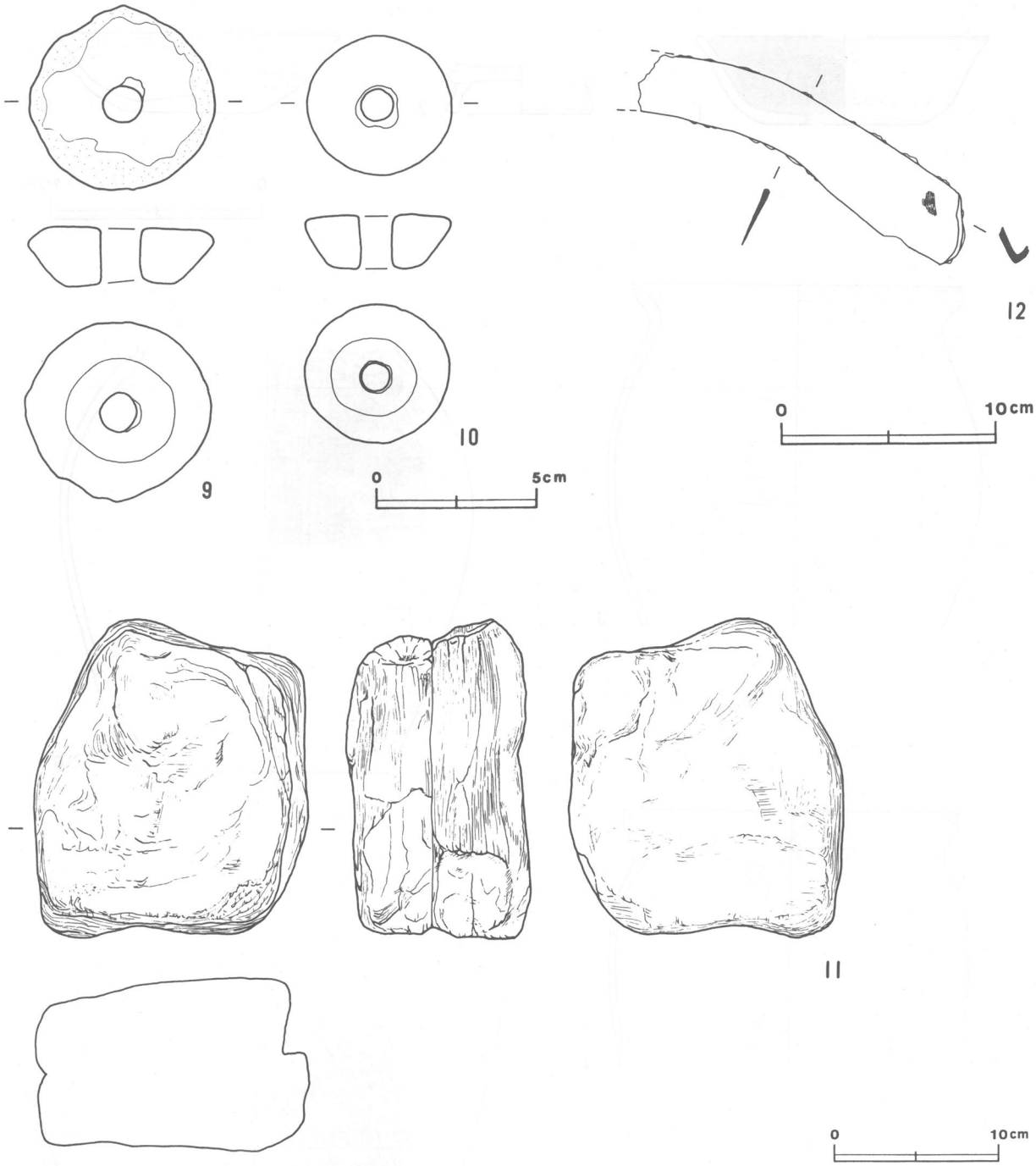
第62図　第21号住居跡竈実測図

竈２土層解説

1	黒褐色	砂粒中量，ローム粒子少量，粘性弱
2	黒褐色	ローム粒子中量
3	暗褐色	焼土小ブロック中量
4	褐色	灰中量，炭化粒子微量，粘性強
5	黒褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
6	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量，しまり弱
7	褐色	ローム粒子・焼土小ブロック微量
8	褐色	焼土粒子多量，炭化粒子少量
9	暗褐色	焼土粒子少量
10	黒褐色	焼土粒子微量
11	褐色	炭化粒子・粘土粒子少量，焼土小ブロック微量
12	褐色	ローム粒子少量
13	黒褐色	焼土粒子少量，炭化粒子微量
14	灰褐色	粘土粒子多量，ローム粒子微量，粘性強
15	褐色	ローム粒子中量，炭化粒子少量
16	灰褐色	粘土粒子中量，焼土粒子少量
17	暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
18	灰褐色	粘土粒子少量
19	暗褐色	ローム粒子少量
20	褐色	ローム粒子中量



第63図　第21号住居跡出土遺物実測図（1）



第64図　第21号住居跡出土遺物実測図（２）

ピット　６か所（Ｐ１～Ｐ６）。Ｐ１～Ｐ４は，各コーナー側に片寄った位置にあり，主柱穴と考えられる。Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４は径48～60cmの円形，Ｐ２は長径64cm，短径42cmの楕円形で，深さは12～29cmである。Ｐ５は南西壁際の中央部に位置し，径34cmの円形で，深さは14cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６は東コーナー部に位置し，径48cmの円形で，深さは16cmである。性格は不明である。

覆土　15層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1	極暗褐色	ローム粒子微量	4	暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子微量
2	暗褐色	ローム小ブロック・同粒子微量	5	褐色	ローム粒子中量
3	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量	6	暗褐色	ローム粒子中量，赤色粒子微量

7　褐　　色　ローム粒子中量，粘性強
8　黒　　色　ローム粒子微量
9　暗　褐　色　焼土小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
10　暗　褐　色　焼土粒子少量
11　暗　褐　色　粘土粒子少量，焼土粒子微量
12　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子少量
13　黒　褐　色　ローム粒子微量，粘性・しまり弱
14　黒　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
15　褐　　色　ローム中ブロック・同小ブロック中量

遺物　土師器片610点，須恵器片310点，灰釉陶器片２点，石片１点，土製品２点（紡錘車），鉄製品１点（鎌）が出土している。２基の竈付近から比較的多くの遺物が出土している。第63図１の土師器坏，４の土師器甕は，それぞれ竈１の覆土中層から出土している。２の土師器高台付坏は，Ｐ３の底部から逆位の状態で出土している。３の土師器甕は竈１西袖部から，８の須恵器甑は同じく東袖部からそれぞれ逆位の状態で出土している。６の須恵器甕は，竈２南袖部から逆位の状態で出土している。これらは，竈の補強材として使用されたと考えられる。５は須恵器で，西壁寄りの覆土中層から正位の状態で出土している。７の須恵器甕は，竈２及び住居南側の床面上から覆土下層にかけて，破片の状態で出土している。第64図９の土師質紡錘車はＰ４内から，10の須恵質紡錘車はＰ１内からそれぞれ出土している。12の鎌は，中央部付近の覆土下層中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土した土器から９世紀中頃と考えられる。

第21号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第63図 1	坏 土師器	A　[13.5] B　4.2 C　[7.4]	口縁部から底部の破片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	底部～体部下端回転ヘラ削り。体部外面ロクロナデ。体部内面磨き，黒色処理。	砂粒 灰褐色 普通	Ｐ181　45% ＰＬ47 竈１覆土中
2	高台付坏 土師器	B　(2.3) D　6.5 E　1.5	底部の破片。高台はハの字状に開く。	高台部内・外面ロクロナデ。底部内面磨き，黒色処理。底部回転ヘラ削り後，ナデ。高台部貼り付け。	砂粒・石英 にぶい橙色 普通	Ｐ185　30% Ｐ３底面
3	甕 土師器	A　21.0 B　(21.5)	体部下半以下欠損。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外傾して立ち上がり，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ヘラ削り。体部外面ナデ。体部内面上半ヘラ削り。体部内面中位ナデ。	砂粒・スコリア・雲母 にぶい褐色　良	Ｐ186　50% ＰＬ47 竈１袖部内
4	甕 土師器	A　[21.2] B　(16.2)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外傾して立ち上がり，端部はつまみ上げるられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半ナデ。体部外面中位以下ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・スコリア 橙色 普通	Ｐ187　35% ＰＬ47 竈１覆土中層
5	坏 須恵器	A　[13.8] B　3.7 C　6.5	口縁部一部欠損。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・雲母・長石 灰黄色　普通	Ｐ184　55% ＰＬ47 覆土中層
6	甕 須恵器	B　(25.2) C　16.0	体部から底部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面上半格子目叩き。体部外面下半ヘラ削り。体部内面ナデ後，指頭圧痕。	砂粒・石英・雲母・長石 にぶい褐色 普通	Ｐ189　40% ＰＬ47 竈２袖部内
7	甕 須恵器	B　(14.2) C　[16.6]	体部から底部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面斜位の平行叩き。体部下端ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・白色粒子 褐灰色 普通	Ｐ190　30% 床面
8	甑 須恵器	B　(24.4) C　[14.2]	体部から底部の破片。平底。孔数不明。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面縦位の平行叩き。体部下端ヘラ削り。体部内面ナデ，指頭圧痕を残す。底部はヘラ状工具により穿孔。	砂粒・石英・雲母 黄灰色 良	Ｐ191　35% ＰＬ47 竈１袖部内

図版番号	種　別	計測値				材　質	出土地点	備　考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第64図９	紡錘車	5.8	1.9	1.2	55.0	土師質	Ｐ４覆土中	ＤＰ15　ＰＬ53
10	紡錘車	4.5	1.7	1.0	29.6	須恵質	Ｐ１覆土中	ＤＰ16　ＰＬ53

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第64図11	石　片	19.6	16.7	11.3	5610	竈煙道部	Q14　ホルンフェルス

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第64図12	鎌	(16.4)	3.3	0.25	(65.9)	中央部付近下層	M5　有機物付着

第22号住居跡（第65図）

位置　調査区域の中央部，D4d3区。

規模と平面形　長軸3.5m，短軸3.3mの方形である。

主軸方向　N－31°－E

壁　壁高は28～36cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　壁際を全周する。断面はU字形で，上幅18～34cm，下幅6～14cm，深さは5～10cmである。

床　ローム質で，平坦である。ピットの内側は，踏み固められている。

竈　北東壁の中央付近に構築されている。天井部は崩落し，両袖部が残存している。規模は，煙道部上端から西側袖部の先端まで108cm，両袖部幅158cmである。煙道部は壁外へ約60cm掘り込まれ，煙道は若干角度を変えながら緩やかに外傾して立ち上がる。10～19層は，袖部の土層である。袖部は，灰褐色粘土を使用して構築されている。3層は粘土粒子を含んでおり，天井部の崩落土層と考えられる。火床部は，竈中央部を径30cmの円形に，深さ約6cmほど掘りくぼめている。火床部から煙道部にかけて，火熱を受けて赤変している。

竈土層解説

1	黒褐色	炭化粒子・赤色粒子少量
2	暗褐色	焼土粒子微量
3	褐灰色	炭化粒子・粘土粒子中量，焼土粒子微量
4	褐　色	焼土粒子中量，粘土粒子微量
5	灰褐色	焼土粒子・粘土粒子微量，粘性強
6	褐　色	焼土粒子少量，ローム粒子微量
7	褐　色	粘土粒子少量，焼土粒子微量
8	灰褐色	粘土粒子少量
9	褐　色	ローム小ブロック中量
10	灰褐色	粘土粒子多量，粘土小ブロック中量，粘性強
11	灰褐色	粘土粒子中量
12	灰褐色	焼土粒子・粘土粒子中量
13	褐　色	ローム粒子中量
14	灰褐色	粘土粒子少量
15	褐　色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
16	灰褐色	粘土粒子中量，焼土粒子少量
17	暗褐色	粘土粒子少量，焼土粒子微量
18	灰褐色	粘土粒子少量，焼土粒子微量
19	暗褐色	焼土粒子・粘土粒子微量

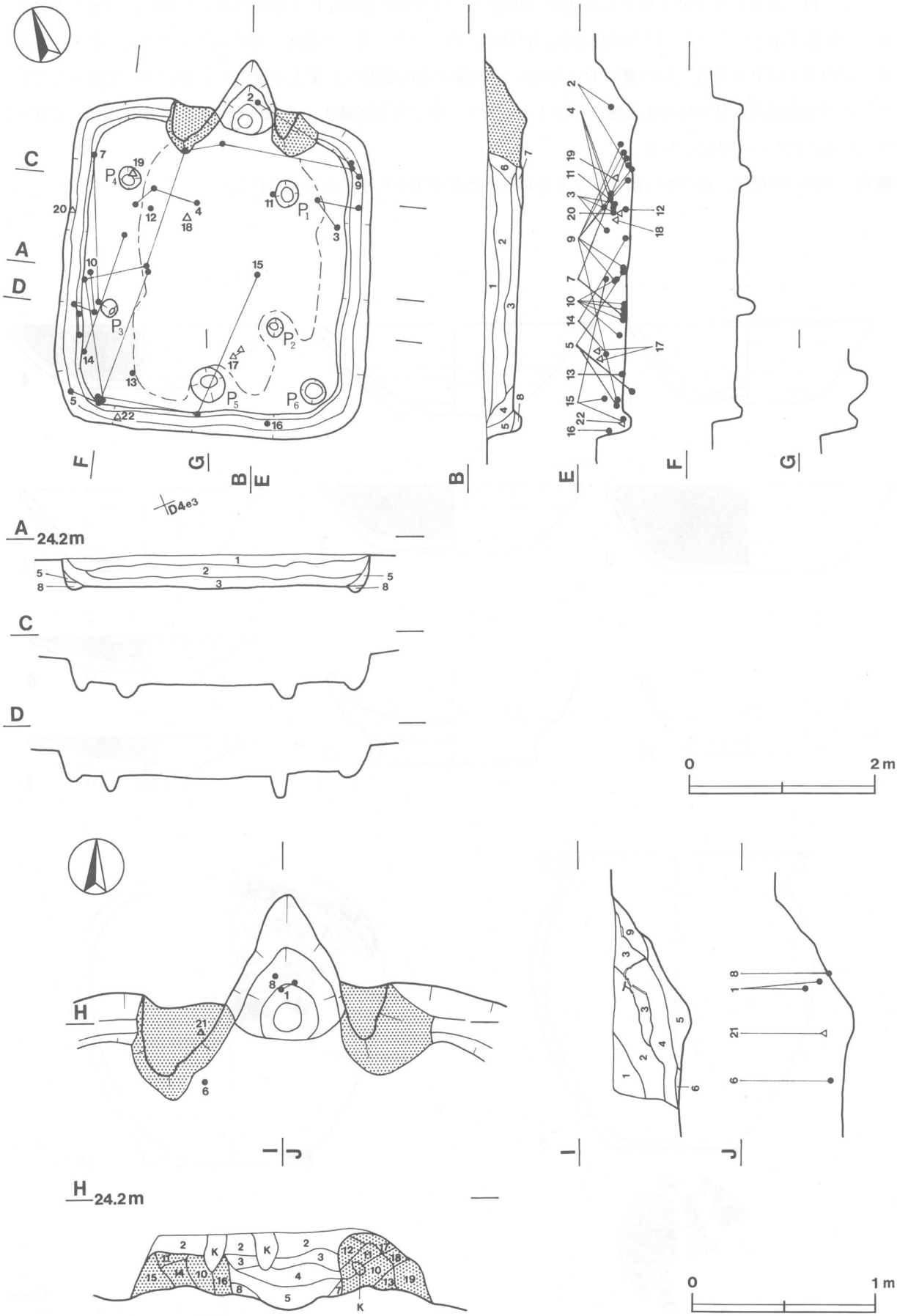
ピット　6か所（P1～P6）。P1～P4は，それぞれコーナー寄りに位置しており，主柱穴と考えられる。P1～P3は長径20～28cm，短径16～23cmの楕円形，P4は径24cmの卜形で，深さは14～24cmである。P5は南西壁際の中央部に位置し，出入り口施設に伴うピットである。径26cmの円形で，深さは24cmである。P6は南コーナー部に位置し，径26cmの円形で，深さは10cmである。補助的な柱穴の可能性がある。

覆土　8層からなる。レンズ状に堆積しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
3	黒褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量，粘性・しまり強
4	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
5	褐　色	ローム粒子中量
6	暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・粘土粒子少量
7	黒　色	炭化粒子中量，焼土粒子少量
8	褐　色	ローム粒子多量，炭化粒子微量

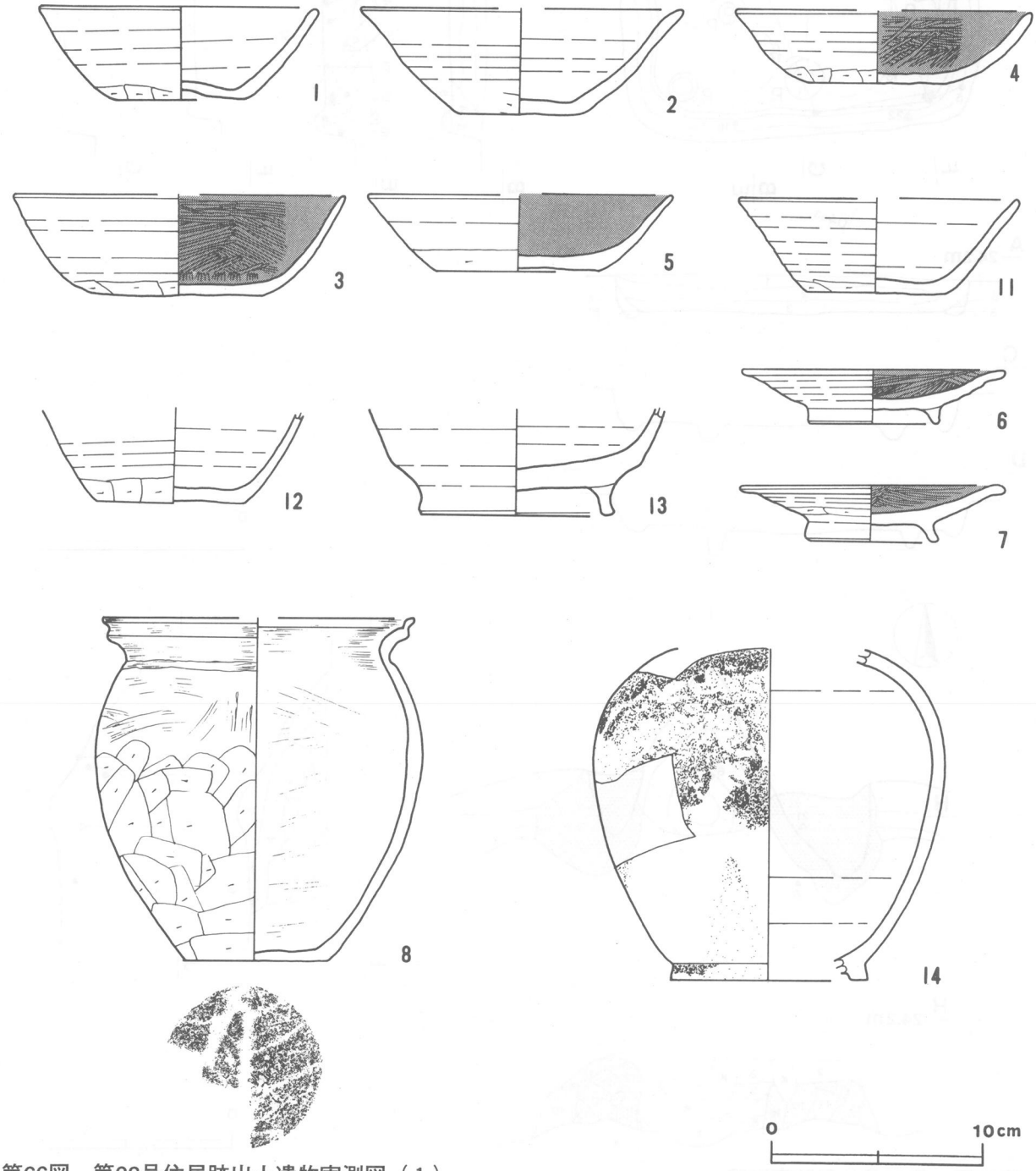
遺物　土師器片302点，須恵器片66点，鉄製品5点（刀子片2，鎌2，その他1）が出土している。第66図3～5は，土師器坏である。それぞれ，覆土の下層から中層にかけて出土している。8の土師器小形甕は，竈の煙道部中央付近から，底部に2の土師器坏をかぶせて，逆位の状態で出土している。6・7は土師器高台付皿である。6は竈前面から逆位の状態で，7は北コーナー付近から正位の状態で，それぞれ覆土中層から出土している。第67図10の土師器甕は北西壁際から，15の須恵器甕は南西壁際から，それぞれ破片の状態で出土し



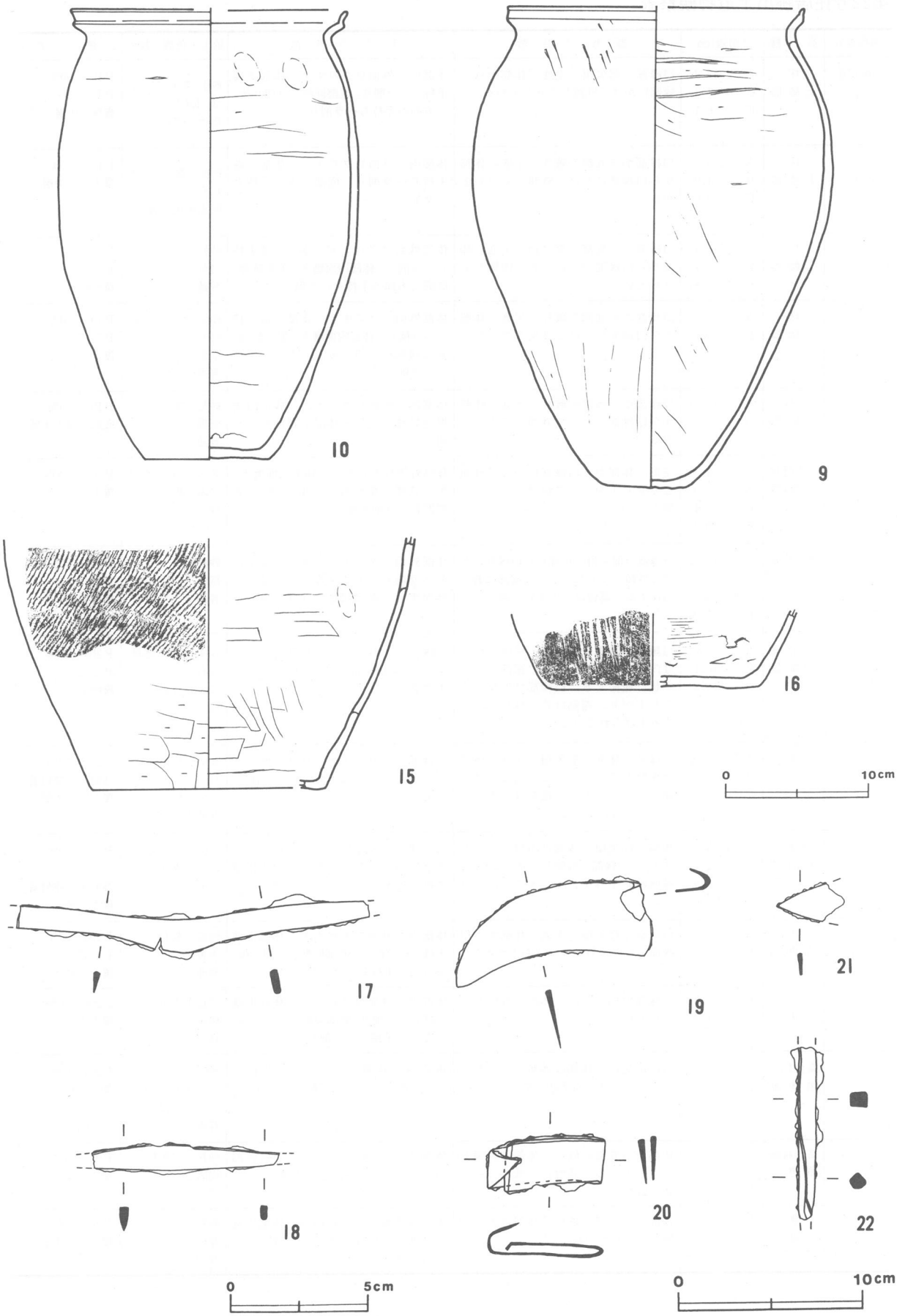
第65図　第22号住居跡実測図

ている。11の須恵器坏はＰ１付近から逆位の状態で，12の須恵器坏はＰ４付近の覆土下層から中層にかけて正位の状態で出土している。13の須恵器高台付坏は，西コーナー寄りの覆土下層から正位の状態で出土している。17の刀子はＰ２付近，19の鎌はＰ４付近，20の鎌は北西壁際の，覆土中層から下層にかけて出土している。15の須恵器高台付壺は覆土上層から出土しており，第23号住居跡出土の破片と接合し，本跡の埋没に伴って流れ込んだものと推定される。

所見　本跡の時期は，竈内から出土した土器から９世紀中頃から後半と考えられる。



第66図　第22号住居跡出土遺物実測図（１）



第67図　第22号住居跡出土遺物実測図（2）

第22号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第66図 1	坏 土師器	A　12.9 B　4.5 C　6.1	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・スコリア・雲母・長石 橙色　普通	P192　90% PL47 竈覆土中層
2	坏 土師器	A　[15.2] B　4.9 C　5.6	口縁部から底部の破片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・白色粒子 暗赤褐色　普通	P193　40% 覆土下～中層
3	坏 土師器	A　[15.4] B　4.7 C　[7.8]	口縁部から底部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。体部内面磨き，黒色処理。底部二方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P194　55% PL47 覆土中層
4	坏 土師器	A　[14.0] B　3.4 C　6.4	口縁部から底部の破片。平底。体部から口縁部にかけて外反して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。体部内面磨き，黒色処理。底部回転ヘラ切り後，一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・白色粒子 橙色 普通	P195　40% PL47 覆土中層
5	坏 土師器	A　[14.3] B　3.6 C　7.6	口縁部から体部の破片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部内面黒色処理。底部～体部下端回転ヘラ削り。	砂粒・雲母 灰褐色 普通	P196　40% 底面～覆土下層
6	高台付皿 土師器	A　12.3 B　3.0 D　6.1 E　0.9	完形。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。高台はハの字状に開く。	体部外面ロクロナデ。体部内面磨き，黒色処理。高台部内・外面ナデ。底部回転ヘラ削り後，ナデ。	スコリア・雲母 にぶい橙色 良	P202　100% 覆土中層
7	高台付皿 土師器	A　12.4 B　2.3 D　6.1 E　1.0	口縁部一部欠損。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。端部は若干外反する。高台はハの字状に開く。	体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り，黒色処理。高台部内・外面ナデ。底部回転ヘラ削り後，ナデ。	砂粒 橙色 普通	P203　70% PL47 覆土中層
8	小形甕 土師器	A　[14.7] B　16.1 C　[6.8]	口縁部・底部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外反して立ち上がり，端部は若干外反してつまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。体部外面上半ナデ。体部外面下半ヘラ削り。底部木葉痕。	砂粒・石英・雲母 長石 にぶい赤褐色 良	P208　85% PL47 竈煙道部
9	甕 土師器	A　[21.0] B　34.2 C　5.6	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外傾して立ち上がり，端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。体部内面上半ヘラ削り，下半ナデ。	砂粒・スコリア・石英 にぶい橙色 普通	P206　50% 外面炭化物付着 覆土下～中層
10	甕 土師器	A　19.7 B　32.0 C　8.9	体部一部欠損。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外傾して立ち上がり，端部は若干外反してつまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。体部外面ナデ。体部内面上半部ヘラ削り，一部指頭圧痕。体部内面下半ナデ。	砂粒・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P207　50% PL47 外面炭化物付着 覆土中層
11	坏 須恵器	A　[12.9] B　4.4 C　6.6	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，多方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・長石 灰黄色 普通	P199　60% PL47 覆土中層
12	坏 須恵器	B　(4.3) C　7.0	口縁部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母 橙色 良	P200　60% 覆土中層
13	高台付坏 須恵器	B　(5.0) D　9.2 E　1.3	口縁部欠損。体部は外傾して立ち上がる。高台はハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。高台部内・外面ナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・スコリア・雲母・白色粒子 にぶい黄褐色 普通	P201　60% 覆土下層
14	高台付壺 須恵器	B　(15.5) D　[9.2] E　0.8	体部から底部の破片。体部は内彎して立ち上がる。高台は，低くハの字状に広がる。	体部内・外面ロクロナデ。高台部内・外面ナデ。外面に自然釉。	砂粒・白色粒子 褐灰色 普通	P205　35% 覆土上層
15	甕 土師器	B　(17.9) C　[16.6]	体部から底部の破片。体部は若干内彎して立ち上がる。	体部外面縦位の平行叩き。体部下端ヘラ削り。体部内面ナデの後，一部指頭圧痕。	砂粒 黄灰色 普通	P209　30% 覆土中～上層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第66図 16	甕 須恵器	B　(5.4) C　[15.2]	体部から底部の破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後，縦位の平行叩き。体部内面ナデ。	砂粒・白色粒子 黒褐色 普通	P201　25% 覆土上層

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第67図17	刀　子	(12.8)	1.2	0.3	(13.8)	中央部付近覆土上層	M7
18	刀　子	(6.8)	0.9	0.3	(6.4)	竈前面覆土中層	M9
19	鎌	11.1	3.3	0.3	37.7	竈前面覆土中層	M6　有機物付着　PL54
20	鎌	[14.3]	2.5	0.3	33.8	北西壁際覆土下層	M8　PL54
21	鎌	(3.6)	(2.1)	0.2	(3.0)	竈覆土中層	M11
22	棒状鉄器	(9.4)	(0.9)	0.8	(31.4)	西コーナー付近覆土下層	M10

第23号住居跡（第68図）

位置　調査区域の中央部，D4d4区。

規模と平面形　長軸3.35m，短軸3.07mの方形である。後述するように，竈西側の壁の外側に棚状施設を有していた可能性がある。

主軸方向　N－8°－W

壁　壁高は32～38cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　断面はU字形で，上幅10～24cm，下幅2～10cm，深さは4～6cmである。

床　ローム質で，ほぼ平坦である。中央部が踏み固められている。

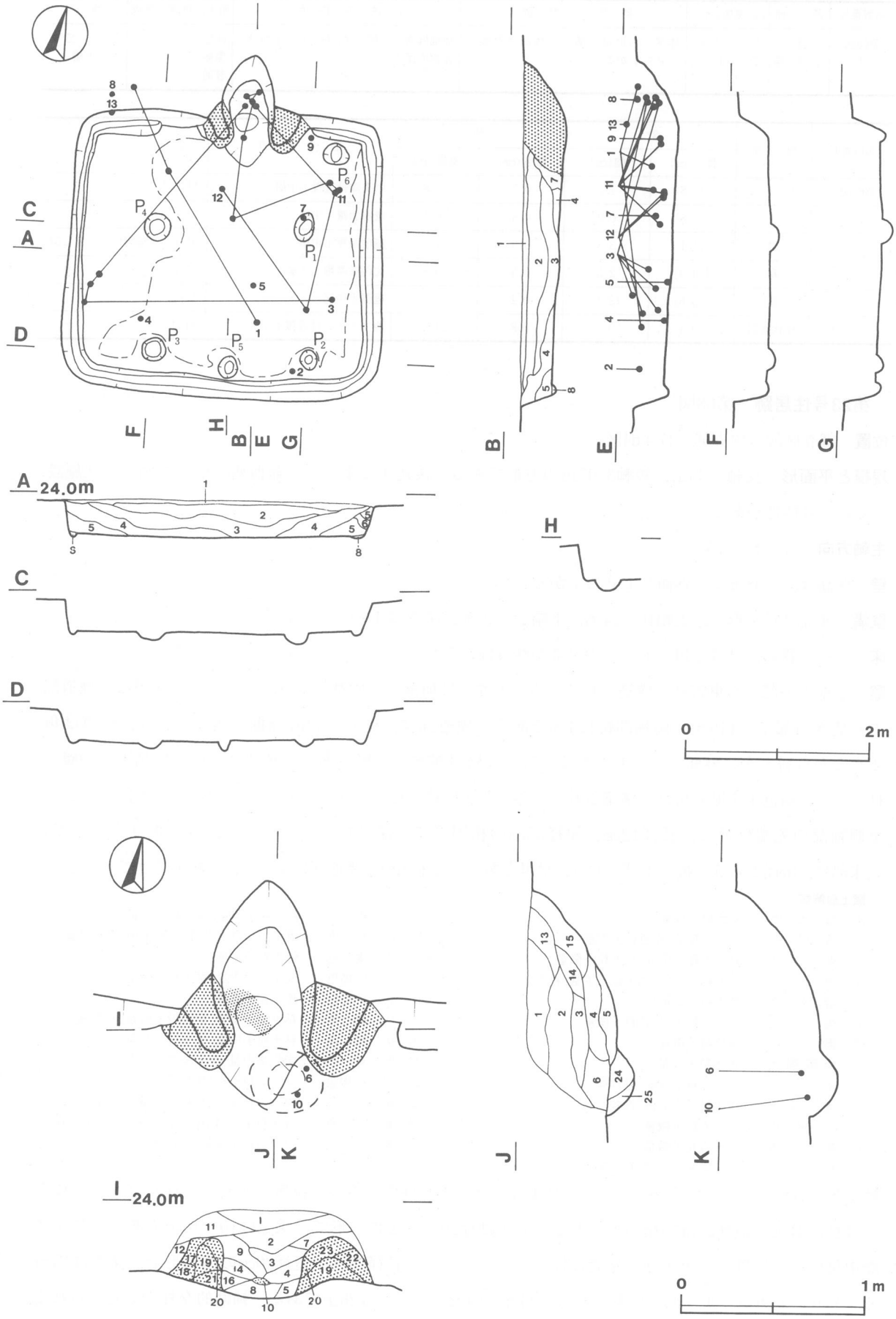
竈　北壁中央部やや東寄りに構築されている。天井部は崩落し，両袖部が残存している。規模は，煙道部上端より焚き口部まで119cm，両袖部幅114cmである。煙道部は，壁外へ約67cm掘り込んでおり，煙道は角度を変えながら緩やかに外傾して立ち上がる。17～23層は袖部の土層である。袖部は，灰褐色粘土（19層）を芯材として，褐色土を貼り付けて構築されている。3層は粘土粒子を含んでおり，天井部の崩落土と考えられる。東側袖部の先端付近に，長径42cm，短径35cmの楕円形で，深さ13cmのピットを設けて掘り方としている。火床部は，床面から5cm掘り下げており，平坦である。火床部から煙道部にかけて，火熱を受けて赤変している。

竈土層解説

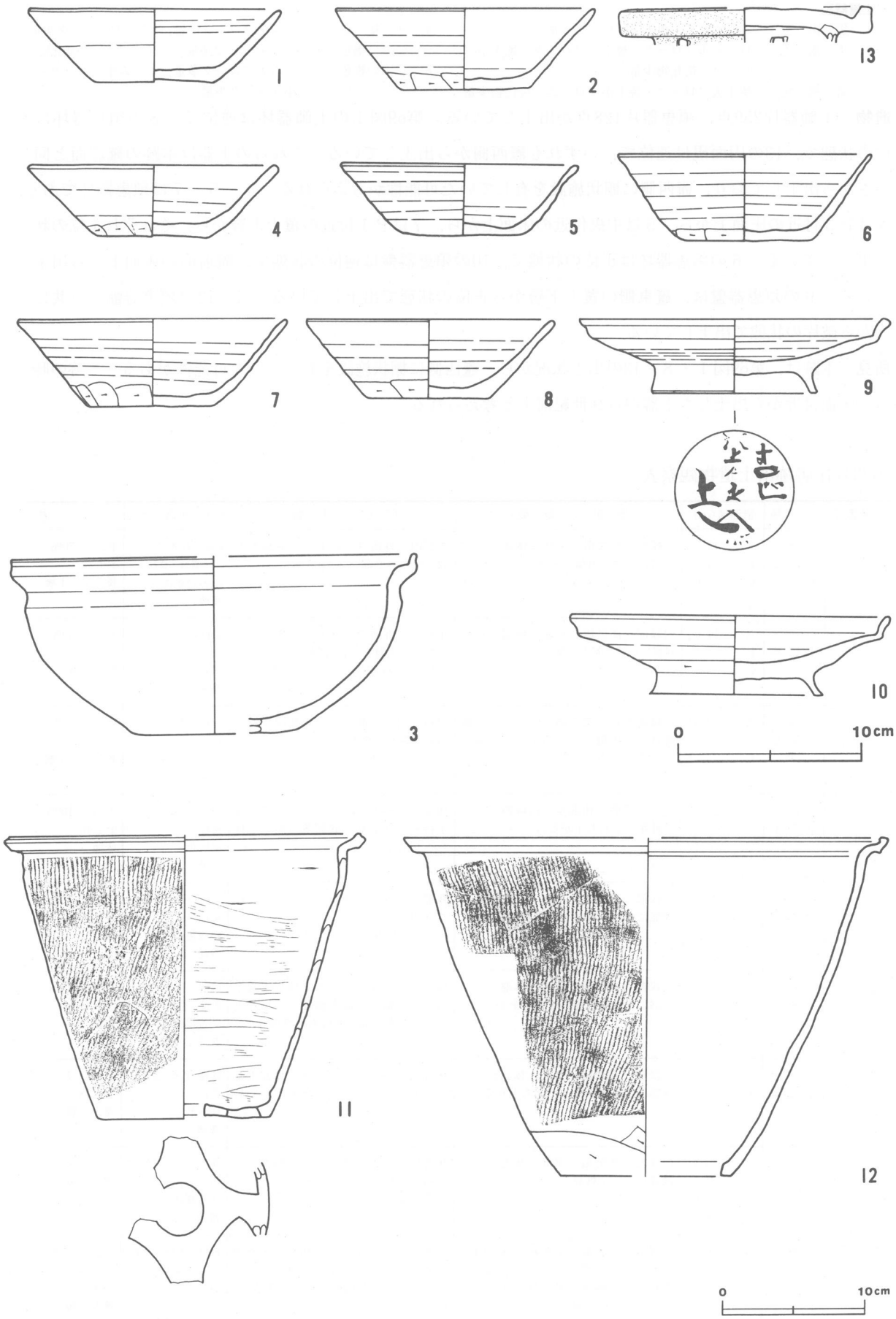
1	暗褐色	赤色粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子・赤色粒子少量
3	褐色	ローム粒子中量，粘土粒子微量
4	褐色	焼土粒子中量，粘土粒子少量，粘性強
5	暗褐色	焼土粒子少量
6	褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
7	褐色	炭化粒子微量
8	極暗褐色	焼土粒子中量
9	褐色	ローム粒子少量，粘性強
10	褐色	焼土粒子中量，粘性強
11	黒褐色	ローム粒子微量
12	褐色	ローム粒子微量
13	褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
14	灰褐色	粘土粒子中量，焼土粒子少量
15	灰褐色	焼土小ブロック・粘土粒子中量，粘性強
16	黒褐色	焼土粒子少量
17	にぶい褐色	焼土粒子少量，粘土粒子微量
18	にぶい褐色	焼土粒子微量
19	灰褐色	粘土粒子多量，焼土粒子微量，粘性強
20	灰褐色	粘土粒子中量，焼土粒子少量
21	暗褐色	炭化物中量，焼土小ブロック少量
22	にぶい褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
23	褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
24	褐色	焼土粒子・炭化粒子中量，粘性・しまり強
25	褐色	ローム粒子少量，粘性強

ピット　6か所（P1～P6）。P1～P4は，それぞれ壁際へ寄った位置にあり，主柱穴と考えられる。P1は長径34cm，短径23cmの楕円形，P2～P4は径20～30cmの円形で，深さは10～15cmである。P5は南壁際中央付近に位置し，出入り口施設に伴うピットである。長径26cm，短径20cmの楕円形で，深さは15cmである。P6は北東コーナー部に位置する。径26cmの円形で，深さは26cmである。補助的な柱穴と考えられる。

覆土　6層からなる。レンズ状に堆積しており，自然堆積と思われる。



第68図　第23号住居跡実測図



第69図　第23号住居跡出土遺物実測図

土層解説

1　黒　褐　色　　ローム粒子・焼土小ブロック少量
2　黒　褐　色　　ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
3　暗　褐　色　　焼土大ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
4　灰　褐　色　　ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量
5　にぶい褐色　　ローム小ブロック多量，ローム中ブロック・炭化物少量
6　にぶい橙色　　ローム大ブロック多量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量

遺物　土師器片259点，須恵器片128点が出土している。第69図１の土師器坏は逆位で，８の須恵器坏は破片の状態で，13の円面硯は逆位で，いずれも竈西側から出土している。これらの土器は本跡の確認面と同じ高さから出土しており，竈西側に棚状施設を有していた可能性が考えられる。４・５・７は須恵器坏である。４はＰ３付近の床面上から，５は中央付近の床面上から，７はＰ１付近の覆土下層から，それぞれ正位の状態で出土している。６の須恵器坏は正位の状態で，10の須恵器盤は逆位の状態で，竈前面の床面上から出土している。９の須恵器盤は，竈東側の覆土下層から正位の状態で出土している。11・12の須恵器甑は，共に竈内から破片の状態で出土している。

所見　本跡は，第69図１・８・13の出土状況から，竈西側に棚状施設を有していた可能性がある。本跡の時期は，床面付近から出土した土器から９世紀前半と考えられる。

第23号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第69図 1	坏 土師器	A　13.7 B　4.1 C　6.6	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部多方向手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・スコリア・雲母・長石 にぶい赤褐色 普通	P212　70% PL48 覆土下～上層
2	坏 土師器	A　14.0 B　4.4 C　7.0	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて若干外反して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・白色粒子 灰黄褐色 普通	P213　60% PL48 覆土中層
3	鉢 土師器	A　[22.0] B　9.6 C　[9.0]	口縁部から底部の破片。平底。口縁部は若干内彎して立ち上がり，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。体部内・外面器面が荒れ，調整不明。	砂粒・雲母・白色粒子 にぶい褐色 普通	P222　45% PL48 覆土下～上層
4	坏 須恵器	A　13.5 B　4.0 C　6.1	完形。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・雲母・長石 褐灰色 普通	P214　100% PL48 床面
5	坏 須恵器	A　12.7 B　4.0 C　6.6	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・石英・雲母・長石 褐灰色 普通	P215　75% PL48 床面
6	坏 須恵器	A　13.8 B　4.7 C　7.0	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り痕を残し，多方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・スコリア・雲母・白色粒子 灰黄褐色 普通	P216　75% PL48 床面
7	坏 須恵器	A　13.5 B　4.5 C　6.1	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外反して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・雲母・長石 灰黄色 普通	P217　70% PL48 覆土下層
8	坏 須恵器	A　[13.4] B　4.3 C　6.6	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・スコリア・白色粒子 灰黄褐色 普通	P218　60% 覆土上層
9	盤 須恵器	A　16.8 B　4.0 D　8.8 E　1.2	口縁部・高台部一部欠損。体部は外傾して立ち上がり，口縁部下端に稜を持つ。口縁部は若干外反する。高台はハの字状に開く。	口縁部内・外面ナデ。体部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け後，内・外面ナデ。底部回転ヘラ削痕を残し，ナデ。	砂粒・雲母・石英 にぶい黄褐色 良	P220　75% PL48 墨書「上□」 覆土下層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第69図 10	盤 須恵器	A [17.1] B 4.3 D 9.3 E 0.8	口縁部一部欠損。体部は外傾して立ち上がり，口縁部下端に稜を持つ。口縁部は若干外反する。高台はハの字状に開く。	口縁部内・外面ナデ。体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，内・外面ナデ。	砂粒・石英・スコリア・雲母・長石 褐色 普通	P221　70% PL48 床面
11	甑 須恵器	A [24.8] B 20.2 C [12.2]	体部から底部の破片。5孔。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は強く外反する。口縁端部は軽くつまみ上げられ，端部下端に面取りを施されている。	口縁部内・外面ナデ。体部外面縦位の平行叩き。体部内面ヘラナデ。底部はヘラ状工具により穿孔。	砂粒・石英・長石 灰白色 良	P224　40% PL48 竈覆土中層
12	甑 須恵器	A [34.1] B 24.1 C [12.0]	体部から底部の破片。孔数不明。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は強く外反し，口縁端部に面取りを施されている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位の平行叩き，下端ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。底部はヘラ状工具により穿孔。	砂粒・雲母 黄灰色 良	P225　30% 竈覆土中層
13	円面硯 須恵器	A [13.8] B (1.9) E (0.7)	硯面部の破片。堤部は断面四角形を呈し，陸部は凸レンズ状に膨らむ。脚部は幅7～8㎜の透かしを6方向に持つ。	硯面部内・外面ロクロナデ。硯面部外面に自然釉がかかる。	砂粒・スコリア 灰黄色 良	P211　40% 覆土上層

第27号住居跡（第70図）

位置　調査区域の中南部，D3g9区。

規模と平面形　長軸3.41m，短軸3.27mの方形である。

主軸方向　N－7°－E

壁　壁高は54～58cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

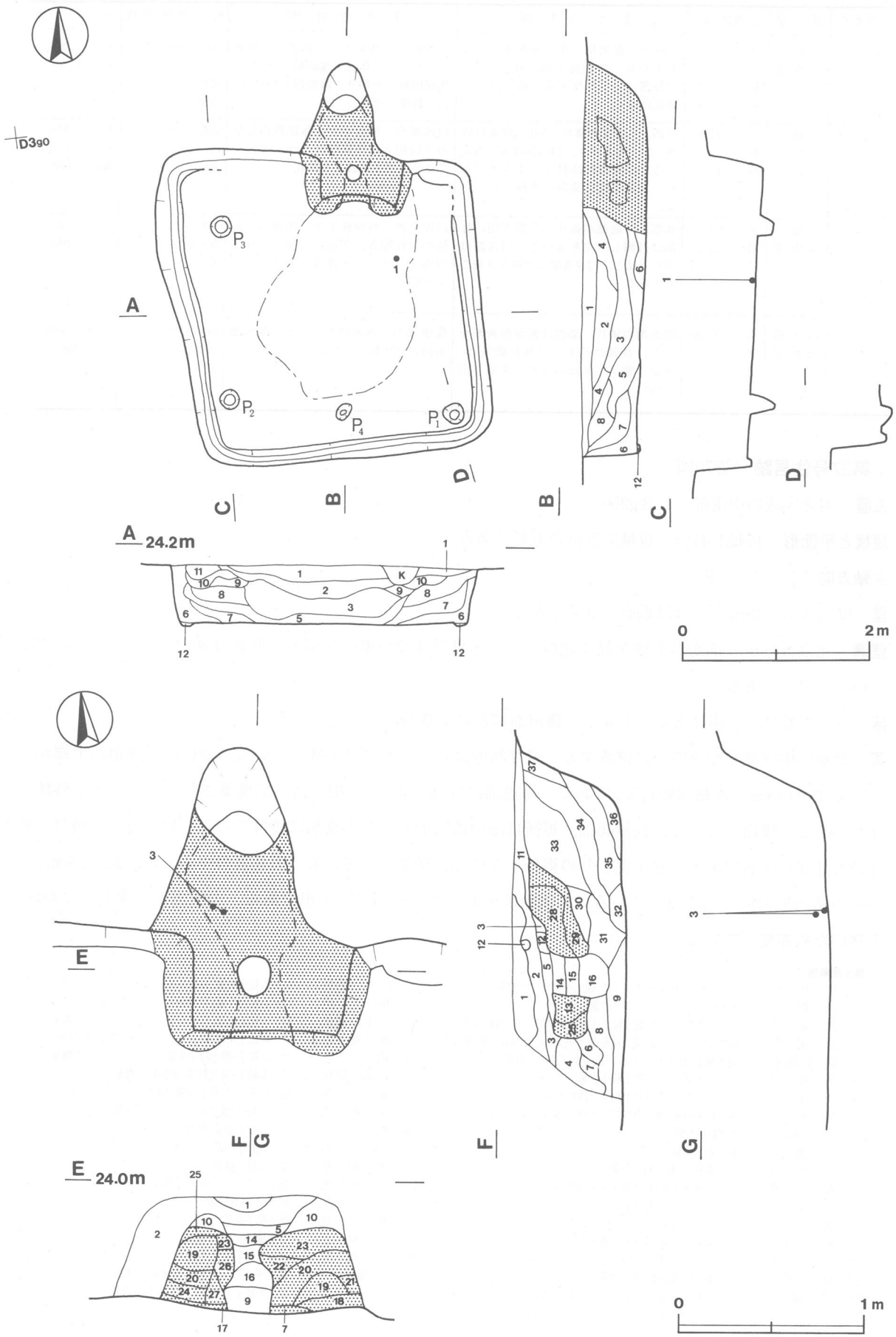
壁溝　北東コーナー部から南壁を経て北西コーナー付近までの壁際を巡る。断面は逆台形で，上幅17～27cm，下幅6～13cmである。

床　ローム質で，平坦である。P4から竈前面にかけて踏み固められている。

竈　北壁の中央部やや東寄りに位置する。遺存状態は良く，天井部が残っている。規模は，煙道部上端から焚き口部まで155cm，両袖部幅115cmである。煙道部は壁外へ約102cm掘り込んで構築されており，壁は外傾して立ち上がる。煙出しとして，長径46cm，短径41cmの楕円形の穴を上端部に設けている。13・18～29層は，袖部及び天井部の土層である。粘土混じりの褐色土を中心に構築されている。天井部の中心には，長径23cm，短径19cmの楕円形の掛け口を設けている。火床面は床面と同じ高さで，平坦である。火床面から煙道部にかけて，火熱のため赤変している。

竈土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量
2	灰褐色	焼土粒子・粘土中ブロック少量
3	黒褐色	ローム中ブロック・焼土粒子・粘土中ブロック・砂粒少量
4	黒褐色	粘土大ブロック中量，焼土粒子・粘土中ブロック・砂粒少量，粘性強
5	暗赤褐色	焼土粒子・粘土大ブロック・粘土小ブロック少量
6	黒褐色	ローム小ブロック・粘土粒子少量
7	黒褐色	ローム小ブロック・粘土粒子・砂粒少量
8	黒褐色	焼土粒子中量，焼土中ブロック・粘土粒子少量，粘性・しまり弱
9	にぶい赤褐色	粘土粒子少量
10	灰褐色	粘土粒子中量
11	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量
12	褐色	ローム粒子中量・粘土粒子少量，粘性強，しまり弱
13	灰褐色	ローム粒子少量，粘性強
14	褐色	ローム粒子少量
15	褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
16	褐色	焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
17	極暗褐色	炭化粒子少量，焼土粒子微量
18	暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・粘土粒子微量
19	にぶい褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
20	にぶい褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック微量，粘性強
21	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
22	にぶい褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
23	明褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック微量，粘性強
24	褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック微量
25	にぶい褐色	ローム粒子・炭化粒子・赤色粒子微量
26	褐色	焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
27	灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
28	褐色	ローム粒子中量，粘性強
29	褐色	ローム粒子中量
30	灰褐色	ローム粒子微量
31	暗褐色	焼土小ブロック・同粒子微量
32	褐色	焼土粒子・灰微量
33	褐色	焼土粒子微量
34	灰褐色	灰少量，粘土粒子微量
35	暗褐色	ローム粒子微量，粘性強
36	極暗褐色	焼土小ブロック少量，焼土粒子微量，粘性弱
37	灰褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量



第70図　第27号住居跡実測図

ピット　4か所（P1～P4）。P1～P3は，各コーナーに片寄って位置しており，主柱穴と考えられる。径22cmの円形で，深さは18～28cmである。P3に対応する東側のピットは，床面を精査したものの確認されなかった。

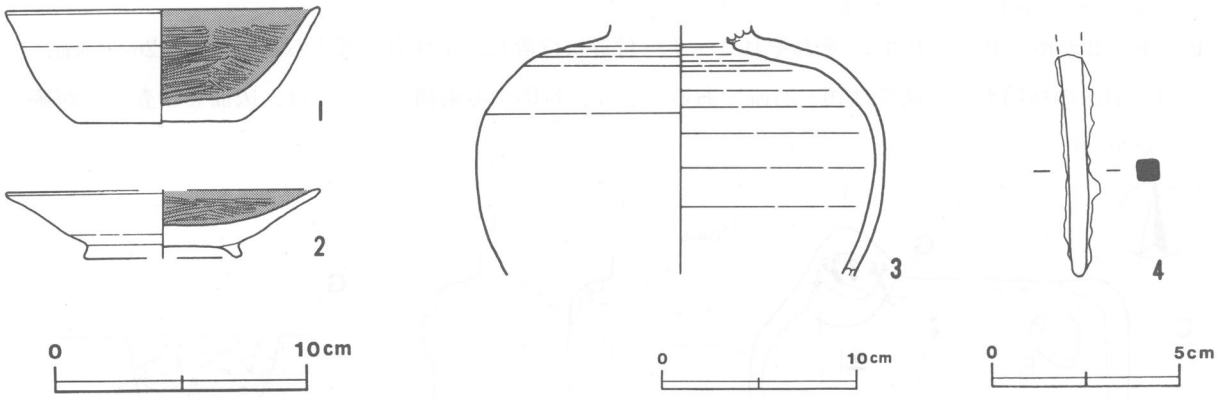
覆土　12層からなる。レンズ状に堆積しており，自然堆積と思われる。

土層解説

1	黒　褐　色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量	7	にぶい褐色	ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量
2	暗　褐　色	ローム大ブロック中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量	8	にぶい褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
3	灰　褐　色	ローム大ブロック中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量	9	黒　褐　色	ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量
4	黒　褐　色	ローム小ブロック少量，焼土中ブロック微量	10	灰　褐　色	ローム小ブロック多量，ローム大ブロック少量
5	暗　褐　色	ローム中ブロック中量，炭化物・粘土粒子・砂粒少量	11	暗　褐　色	ローム小ブロック・同粒子少量
6	暗　褐　色	ローム大ブロック・同小ブロック少量	12	褐　　色	ローム粒子中量

遺物　土師器片161点，須恵器片58点，鉄片1点（不明鉄器）が出土している。第71図1の土師器坏は，竈前面から正位の状態で出土している。3の須恵器壺は，破片の状態で竈煙道部の底面から出土している。2の土師器高台付皿，4の不明鉄器は，覆土中から出土している。

所見　竈は天井部も残っており，全体の構造がよく分かる例である。本跡の時期は，出土した土器から8世紀後半から9世紀初め頃と考えられる。



第71図　第27号住居跡出土遺物実測図

第27号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第71図 1	坏 土師器	A　12.5 B　4.5 C　6.4	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部内面磨き，黒色処理。底部二方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・スコリア・白色粒子 橙色　普通	P226　80% PL48 床面
2	高台付皿 土師器	A　[12.4] B　2.7 D　[6.2] E　0.5	口縁部・高台部一部欠損。体部から口縁部にかけて大きく開く。高台は短くハの字状に開く。	体部外面ロクロナデ。高台貼り付け後，内・外面ナデ。体部内面磨き，黒色処理。底部回転ヘラ削り。	砂粒・スコリア・雲母・白色粒子 にぶい黄橙色 普通	P228　65% 覆土中
3	壺 須恵器	B　(13.0)	体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・砂礫 褐灰色 良	P229　30% 竈煙道部底面

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第71図4	不明鉄器	(5.8)	0.7	0.5	(7.3)	覆土中	M12

第28号住居跡（第72図）

位置　調査区域の中南部，Ｄ４ｉ4区。

規模と平面形　長軸3.01ｍ，短軸2.71ｍの長方形である。

主軸方向　Ｎ－７°－Ｅ

壁　壁高は20～34cmで，外傾して立ち上がる。

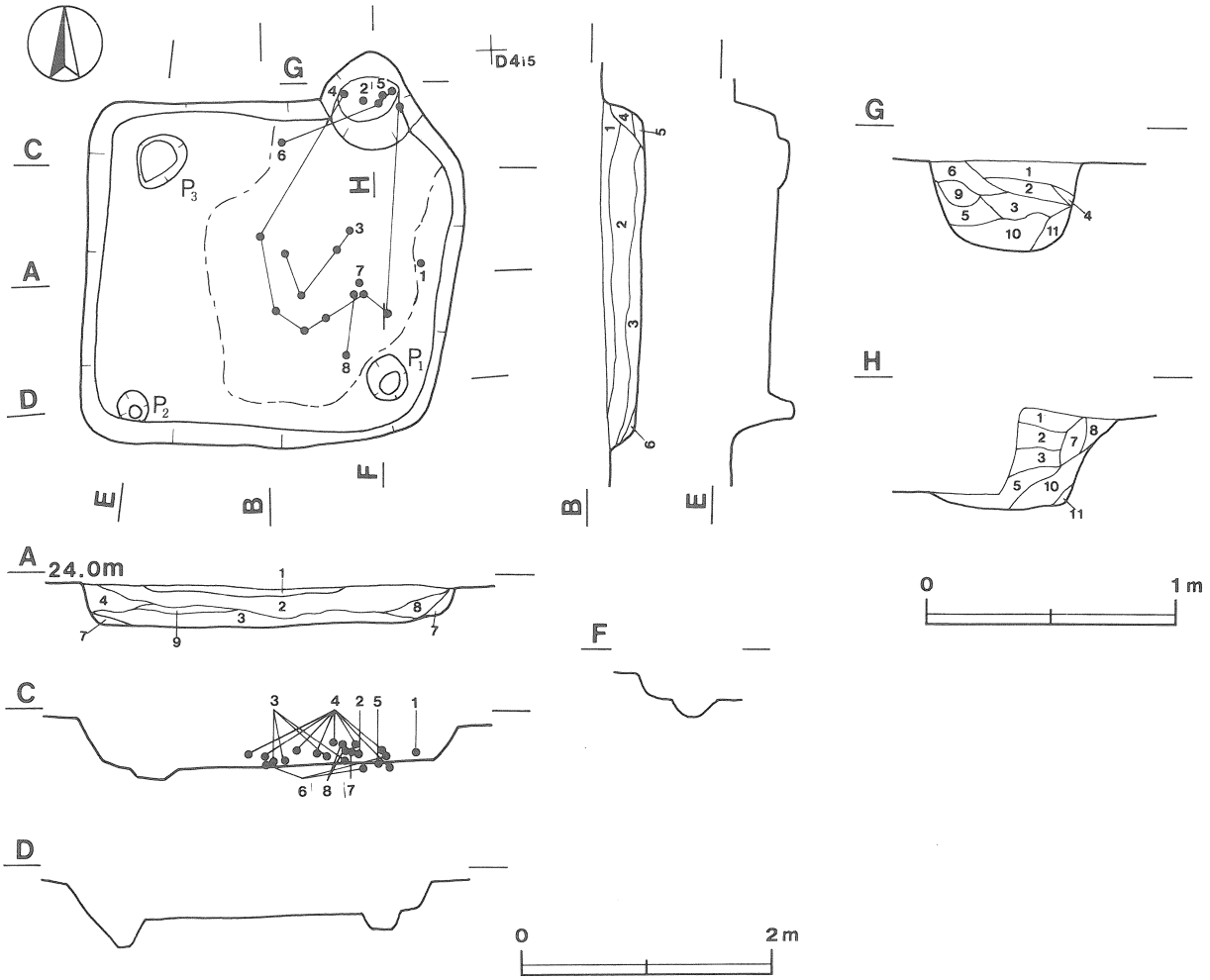
床　ローム質で，若干起伏がある。東部が踏み固められている。

竈　北壁の北東コーナー付近に位置する。天井部及び袖部は残存していない。規模は，煙道部上端から焚き口部まで76cm，最大幅83cmである。煙道部は壁面を屋外へ約43cm掘り込んでおり，煙道は外傾して立ち上がる。袖部は確認できなかったが，３層は灰褐色で粘土粒子を含むので，天井部の崩落土層と考えられる。火床部は床面から５cm掘り下げられ，底面は平坦である。火床部から煙道部にかけては，火熱を受け硬化している。

竈土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量，粘土粒子微量
2	褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
3	灰褐色	焼土粒子・粘土粒子微量
4	暗褐色	焼土粒子少量
5	極暗褐色	焼土小ブロック少量
6	褐色	焼土粒子・炭化粒子少量
7	暗褐色	焼土粒子少量，炭化粒子微量
8	褐色	焼土粒子少量
9	褐色	焼土小ブロック・炭化物微量
10	黒褐色	焼土小ブロック少量，焼土粒子微量
11	暗褐色	ローム小ブロック少量

ピット　３か所（Ｐ１～Ｐ３）。それぞれコーナー付近に位置し，主柱穴と考えられる。長径26～48cm，短径24～34cmの楕円形で，深さは10～21cmである。Ｐ３に対応する東側のピットは，床面を精査したが確認されなかった。



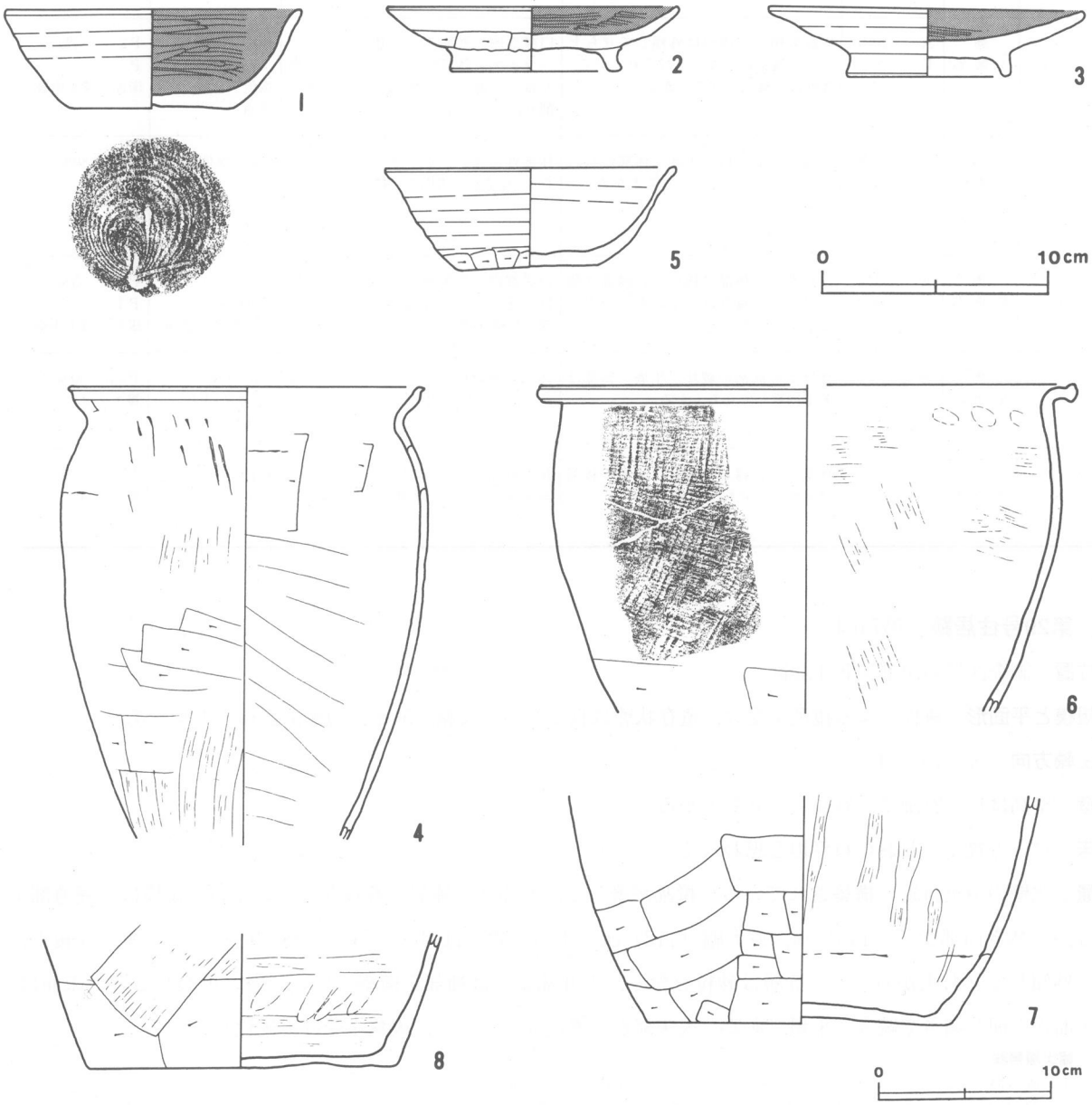
第72図　第28号住居跡実測図

覆土　9層からなる。レンズ状に堆積しており，自然堆積と考えられる。

竈土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量，赤色粒子微量，しまり弱
2	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3	黒　色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4	褐　色	ローム粒子中量
5	極暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量
6	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
7	褐　色	ローム粒子少量，粘性強
8	暗褐色	焼土粒子少量，ローム中ブロック微量
9	褐　色	ローム粒子中量，赤色粒子少量

遺物　土師器片202点，須恵器片37点，陶器片１点が出土している。陶器片は撹乱により混入したものと思われる。第73図１の土師器坏は，東壁寄りの覆土下層から，正位の状態で出土している。２の土師器高台付皿，４の土師器甕，５の須恵器坏，６の須恵器甕は，主に竈の内部及びその周辺から出土している。２は正位で，４は横位で，５は逆位で，６は破片の状態で，それぞれ出土している。５は，両面に二次的な焼成を受けている。３の土師器高台付皿，７・８の須恵器甕は，Ｐ１の北側の覆土下層から，それぞれ逆位の状態で出土している。



第73図　第28号住居跡出土遺物実測図

所見　Ｐ１北側から出土した遺物は，一括して投棄された可能性がある。本跡の時期は，出土した土器から９世紀前半頃と考えられる。

第28号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第73図 1	坏 土師器	A　12.8 B　4.4 C　7.0	完形。平底。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部内面磨き，黒色処理。底部回転糸切り。	砂粒・スコリア・雲母 にぶい橙色 普通	Ｐ230　100% ＰＬ48 覆土下層
2	高台付皿 土師器	A　12.8 B　2.9 D　7.4 E　1.1	完形。体部から口縁部にかけて若干内彎して開く。高台は若干外反してハの字状に開く。	体部外面ナデ。体部下端手持ちヘラ削り。高台部内・外面ナデ。体部内面磨き，黒色処理，一部指頭圧痕を残す。底部回転ヘラ削り。	砂粒・スコリア・雲母 にぶい褐色 良	Ｐ233　100% ＰＬ48 覆土下層
3	高台付皿 土師器	A　14.0 B　3.1 D　7.3 E　0.8	口縁部欠損。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。高台はハの字状に開く。	体部外面ロクロナデ。高台部内・外面ナデ。体部内面磨き，黒色処理。底部回転ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・石英・雲母・長石 にぶい橙色 普通	Ｐ234　80% ＰＬ48 覆土下層
4	甕 土師器	A　20.0 B　(26.6)	底部欠損。口縁部は外傾して立ち上がり，端部はつまみ上げられている。体部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。体部外面上半ヘラナデ。体部内・外面下半ヘラ削り後，一部ナデ。体部内面上半ヘラ削り。	砂粒・石英・スコリア・長石 橙色 普通	Ｐ235　80% ＰＬ49 床面～覆土中層
5	坏 須恵器	A　12.8 B　4.5 C　6.3	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部外面強いロクロナデ。内面ロクロナデ。底部二方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・白色粒子 にぶい黄橙色 普通	Ｐ232　80% 竈底面
6	甕 須恵器	A　[31.2] B　(19.2)	口縁部から体部の破片。口縁部は強く外反し，端部は上下に若干つまみ出されている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位の平行叩き。体部内面ナデ後，一部に指頭圧痕。	砂粒・スコリア・白色粒子 灰黄褐色　普通	Ｐ236　35% ＰＬ49 床面～覆土中層
7	甕 須恵器	B　(13.3) C　17.4	体部から底部の破片。平底。体部は若干内彎して立ち上がる。	体部外面縦位の平行叩き。体部下端ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・スコリア・雲母・長石 灰褐色　普通	Ｐ237　30% 覆土下層
8	甕 須恵器	B　(7.7) C　17.9	体部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面上位ヘラ削り後，ナデ。体部下端ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・スコリア にぶい褐色　良	Ｐ238　25% 覆土下層

第29号住居跡（第74図）

位置　調査区域の中部，Ｅ４a9区。

規模と平面形　耕作による撹乱を受け，遺存状態は良くない。長軸3.54m，短軸3.25mの方形である。

主軸方向　Ｎ－15°－Ｅ

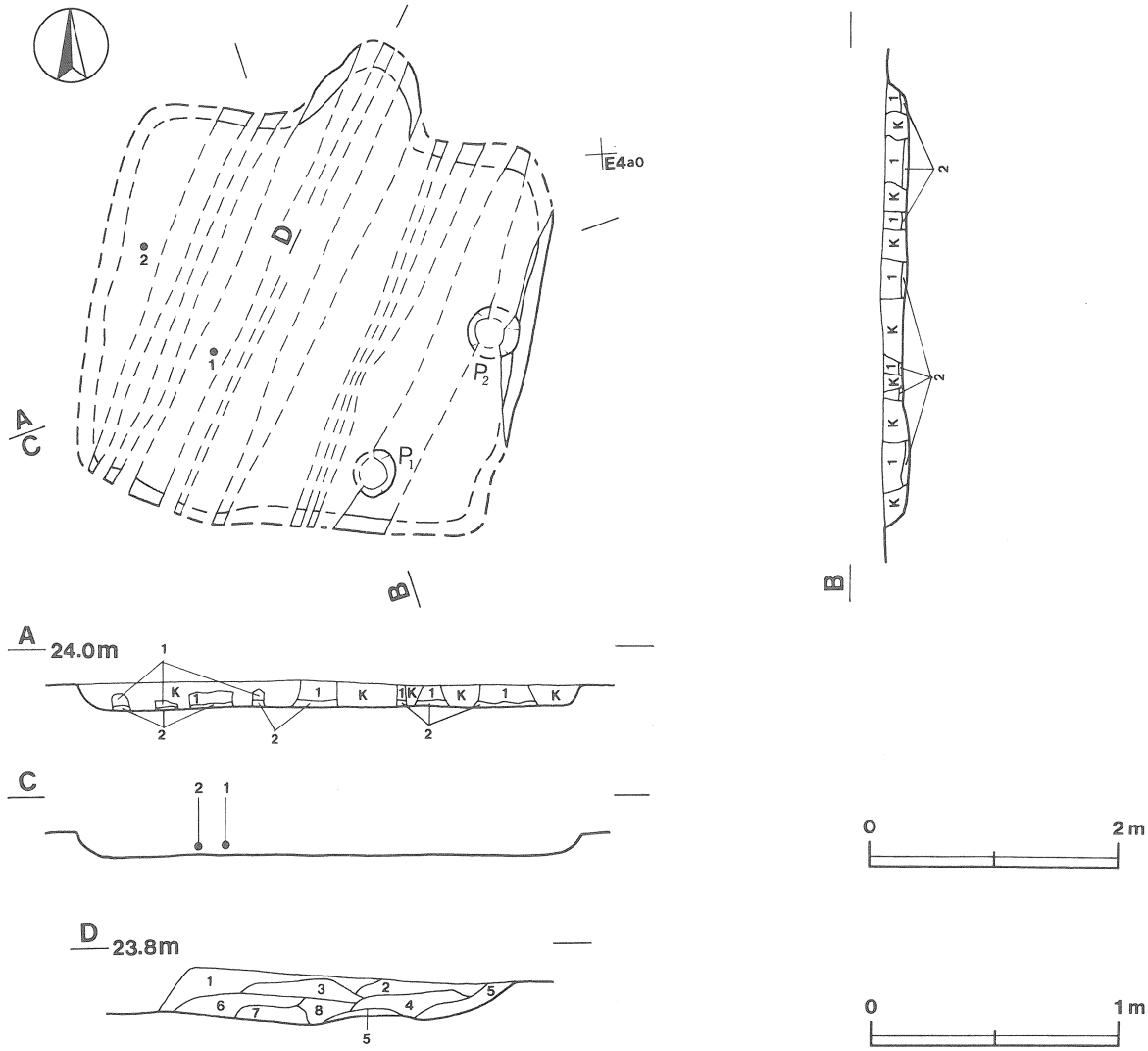
壁　壁高は15～21cmで，外傾して立ち上がる。

床　ローム質で，おおむね平坦と思われる。

竈　北壁の中央付近に構築されている。撹乱が著しく，天井部・袖部とも残存していない。規模は，煙道部上端から焚き口部まで［145］cm，最大幅［112］cmである。煙道部は，壁外へ約48cm掘り込み，煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。１～５層は砂粒を含み，天井部または袖部を構築していた層と思われる。火床面は，床面から同じ高さで続き，平坦である。火床部から煙道部にかけて，火熱を受けて硬化している。

竈土層解説

1　灰　褐　色　　ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子・砂粒少量
2　暗 赤 褐 色　　焼土大ブロック・同中ブロック中量，砂粒少量，しまり弱



第74図　第29号住居跡実測図

3	褐　灰　色	ローム小ブロック・焼土中ブロック・砂粒少量，しまり弱	6	暗 赤 褐 色	焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム大ブロック微量，しまり弱
4	暗 赤 褐 色	ローム粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック・砂粒少量，しまり弱	7	明　褐　色	ローム粒子多量，粘性・しまり強
5	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・砂粒少量，しまり弱	8	暗 赤 褐 色	焼土粒子・炭化粒子少量，しまり弱

ピット　2か所（P1・P2）。P1は南東コーナー付近に，P2は東壁際の中央付近に位置する。径35～41cmの円形で，深さは11～14cmである。

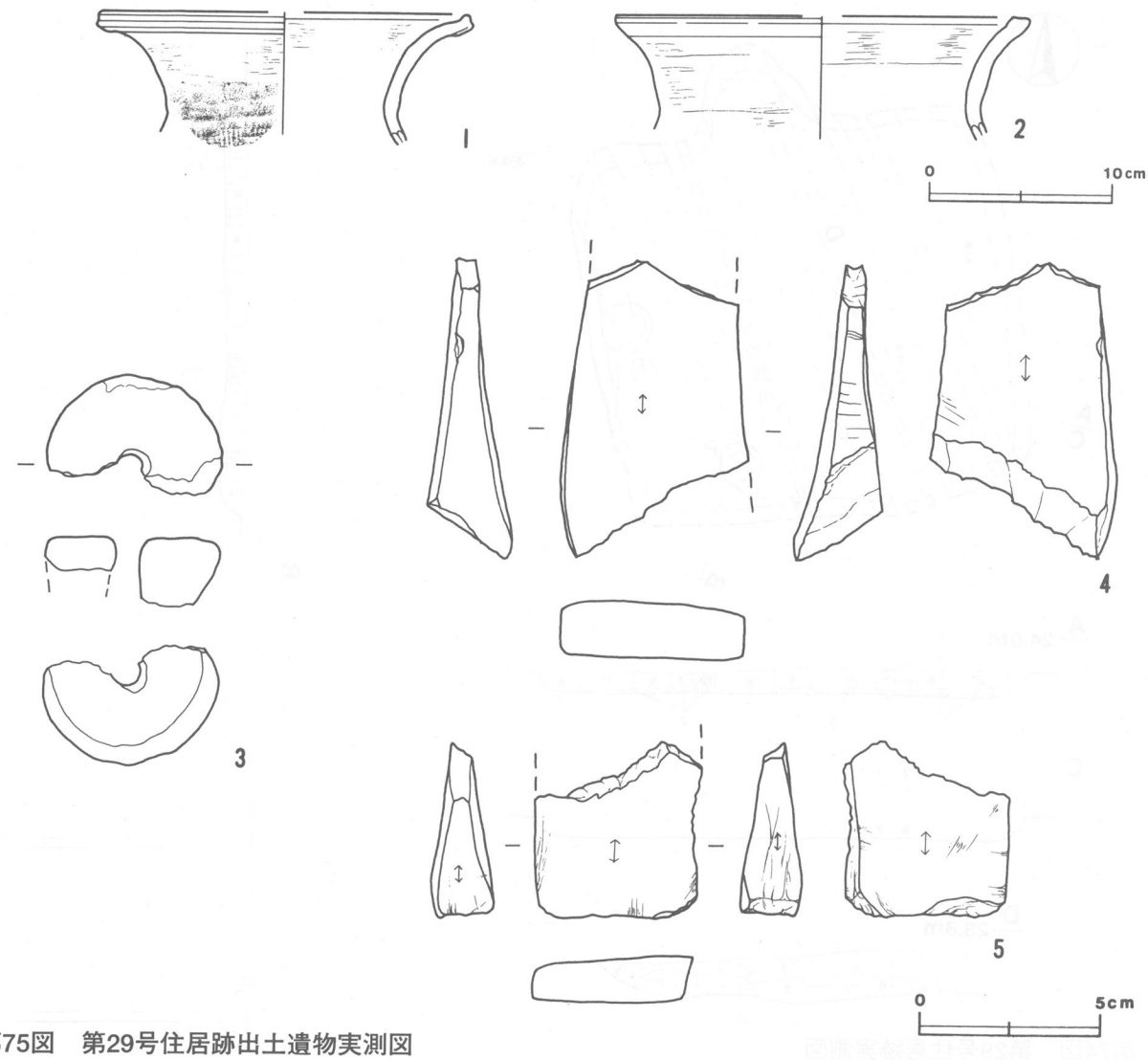
覆土　2層からなる。レンズ状に堆積しており，自然堆積と思われる。

竈土層解説

1	暗　褐　色	ローム小ブロック・焼土粒子少量
2	黒　　色	ローム中ブロック・ローム粒子・砂粒少量

遺物　土師器片125点，須恵器片11点，土製品1点（紡錘車），礫2点，撹乱の混入と思われる陶器片1点が出土している。第75図1の須恵器甕は中央付近の覆土中層から，2の須恵器甕は西壁寄りの覆土下層から，それぞれ出土している。3の紡錘車は，覆土中から出土している。

所見　本跡は撹乱を受けており，遺存状態が良くないが，遺物は覆土中から出土している。本跡の時期は，出土した土器の特徴から9世紀頃と思われる。



第75図　第29号住居跡出土遺物実測図

第29号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第75図 1	甕 須恵器	A　[19.6] B　(7.1)	口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がる。口縁部は折り返し口縁状に粘土帯を貼り付ける。口縁端部は軽くつまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ，頸部外面縦位の平行叩き。	砂粒・石英・スコリア にぶい褐色 普通	P239　15% 覆土中層
2	甕 須恵器	A　[22.5] B　(6.7)	口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がり，端部に面取りを施す。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・スコリア・雲母 灰黄褐色　普通	P240　25% 覆土下層

図版番号	種　別	計測値				材　質	出土地点	備　考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第75図3	紡錘車	4.8	1.9	0.7	(25.8)	須恵質	覆土中	DP17

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第75図4	砥　石	(8.2)	5.3	2.5	(71)	覆土中	Q16　凝灰岩
5	砥　石	(4.8)	4.5	1.2	(43)	覆土中	Q17　凝灰岩

第31号住居跡（第76図）

位置　調査区域の中部，Ｅ３c7区。

規模と平面形　長軸3.81ｍ，短軸3.56ｍの方形である。

主軸方向　Ｎ－14°－Ｅ

壁　壁高は30～38cmで，西壁は外傾して，その他の壁はほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　北壁の東半部分を除いて巡っている。断面はＵ字形で，上幅10～40cm，下幅４～13cm，深さは６～10cmである。

床　ローム質で，若干の起伏がある。中央部が踏み固められている。

竈　北壁中央部に構築されている。天井部は崩落し，両袖部が残存している。規模は，煙道部上端から袖部先端まで92cm，両袖部幅152cmである。煙道部は，壁外へ約18cm掘り込み，煙道は緩やかに湾曲しながら立ち上がる。14～18層は袖部の土層である。袖部は，地山を削り出して基部をつくり，褐色土を貼り付けて構築している。東袖部では，須恵器甕が補強材として用いられている。３層は粘土粒子を含み，天井部の崩落土と考えられる。底面は４cmほど掘り下げ，火床部としている。火床部から煙道部にかけて，火熱を受けて硬化している。

竈土層解説

1	灰褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
2	褐色	焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量
3	灰褐色	粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量，粘性強
4	褐色	焼土粒子少量，ローム粒子微量
5	暗褐色	焼土小ブロック・炭化物少量
6	にぶい褐色	焼土粒子中量，炭化物微量
7	暗褐色	焼土粒子微量
8	黒褐色	焼土粒子中量
9	灰褐色	ローム粒子・焼土粒子中量
10	褐色	焼土粒子微量
11	明褐色	ローム粒子・焼土粒子中量，粘性強
12	褐色	焼土粒子微量
13	にぶい褐色	焼土粒子・粘土粒子中量
14	にぶい褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
15	明褐色	ローム粒子中量，粘土粒子微量
16	灰褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
17	にぶい褐色	ローム粒子中量，炭化粒子・粘土粒子微量
18	褐色	ローム粒子微量

ピット　３か所（Ｐ１～Ｐ３）。すべて南壁寄りに位置している。床面を精査したが，北壁寄りにピットは確認できなかった。Ｐ１・Ｐ２は，それぞれコーナー寄りに位置し，主柱穴と考えられる。Ｐ１は径28cmの円形，Ｐ２は長径28cm，短径21cmの楕円形で，深さは８～12cmである。Ｐ３は，中央部付近に位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。径28cmの円形で，深さは26cmである。

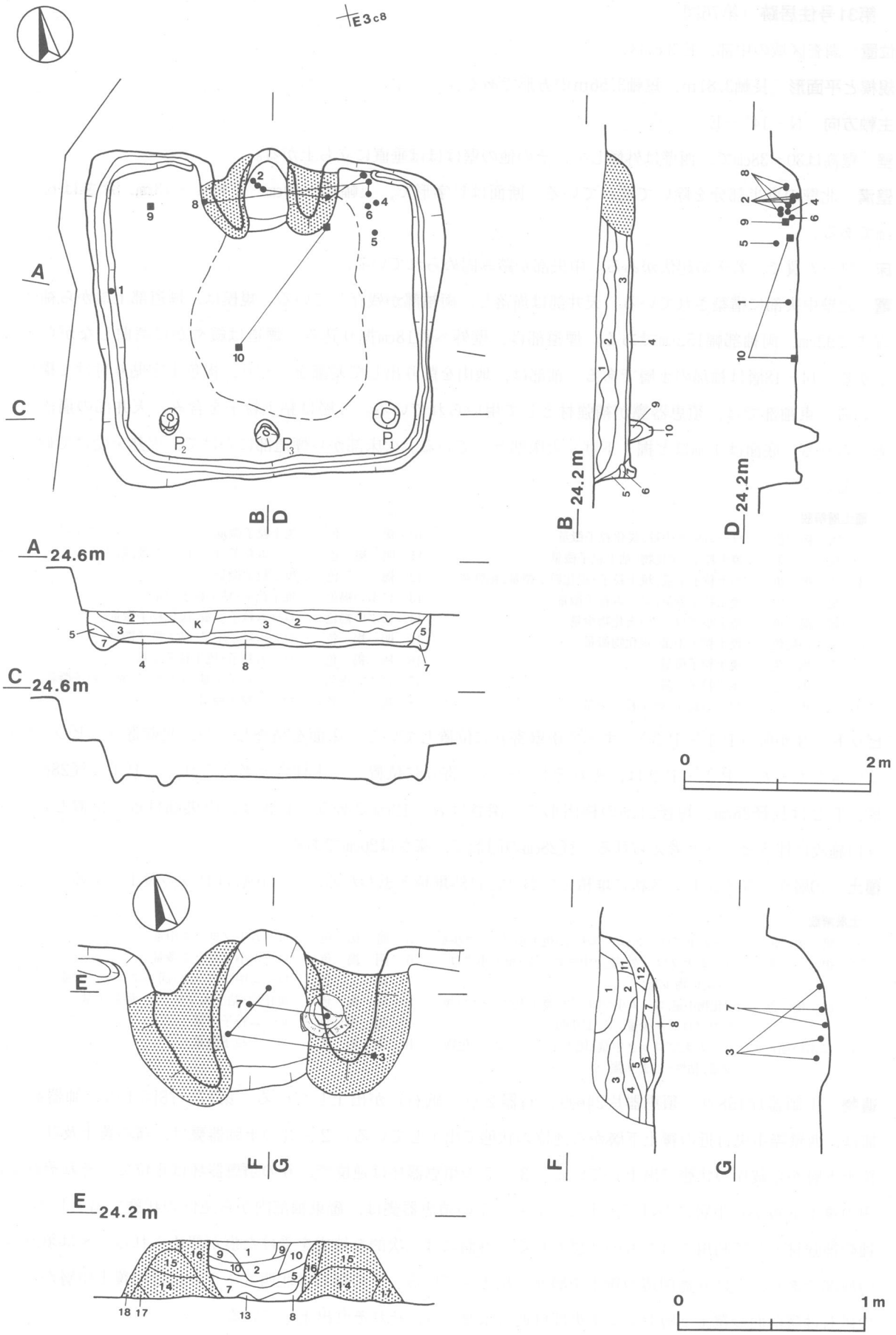
覆土　10層からなる。レンズ状に堆積しており，自然堆積と思われる。９・10層はＰ３の覆土である。

土層解説

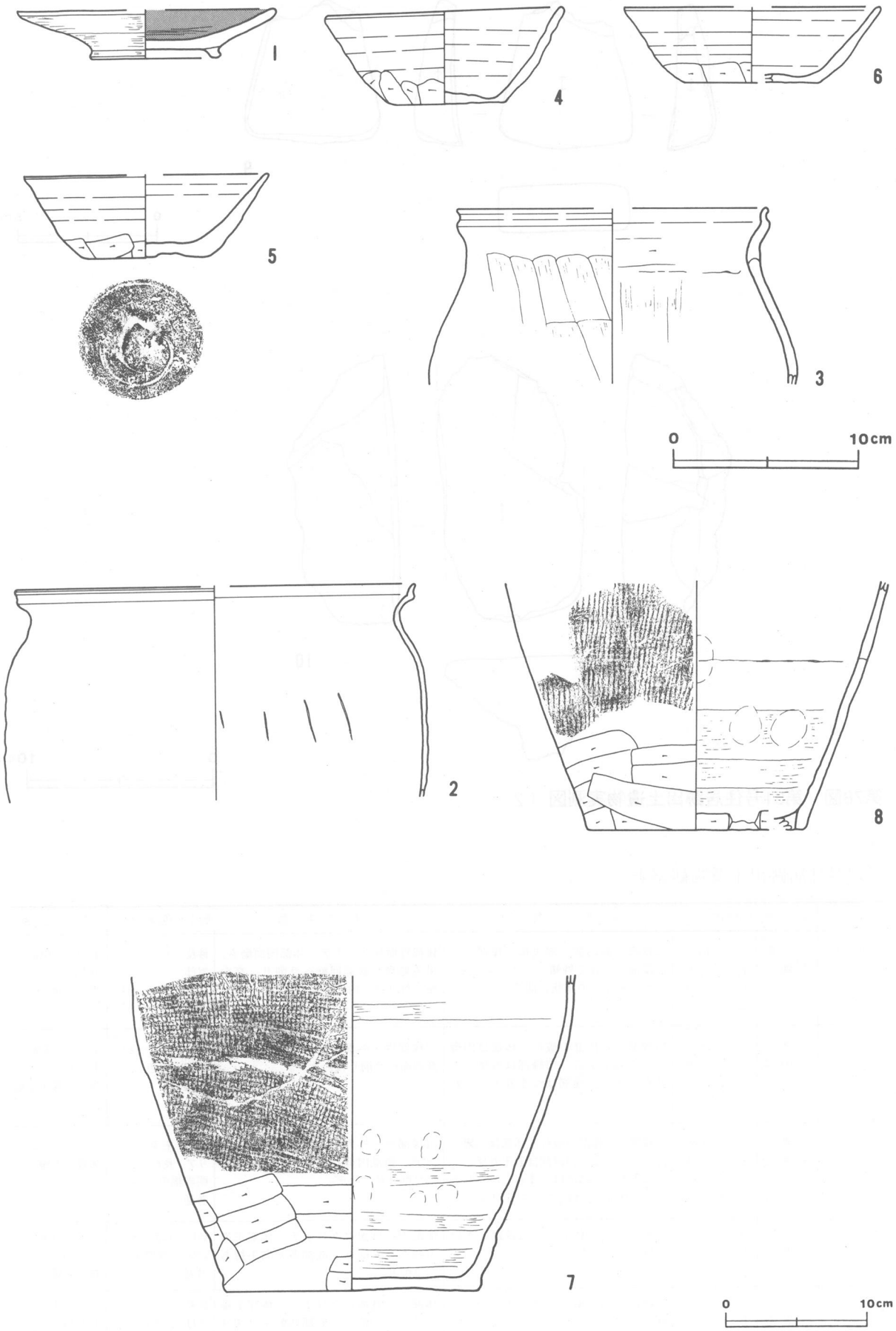
1	暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量
2	褐色	ローム大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
3	暗褐色	炭化物中量，ローム小ブロック・焼土大ブロック・焼土中ブロック少量，しまり弱
4	にぶい褐色	ローム大ブロック中量・焼土小ブロック・炭化物少量，粘性・しまり強
5	暗褐色	ローム中ブロック中量
6	明褐色	ローム小ブロック多量
7	褐色	ローム中ブロック・同小ブロック少量
8	灰褐色	炭化物・粘土大ブロック・砂粒少量
9	黒褐色	ローム粒子中量
10	黒褐色	ローム粒子微量

遺物　土師器片458点，須恵器片246点，石器２点（砥石）が出土している。第77・78図１の土師器高台付皿は，西壁際中央付近の覆土下層から逆位の状態で出土している。２・３の土師器甕は，竈の覆土及び周辺の覆土下層から破片の状態で出土している。３・５の須恵器坏は逆位で，６の須恵器坏は正位で，それぞれ竈東側の覆土下層から中層にかけて出土している。７の須恵器甕は，竈東袖部内から逆位の状態で出土しており，袖の補強材として利用されたものと思われる。外面には二次的な焼成を受けた痕が認められる。８は須恵器甑の底部であり，やはり竈周辺の覆土中層から出土している。９の砥石は北西コーナー付近の覆土中層から，10の砥石は竈前面の覆土下層および中央部付近の床面から，それぞれ出土している。

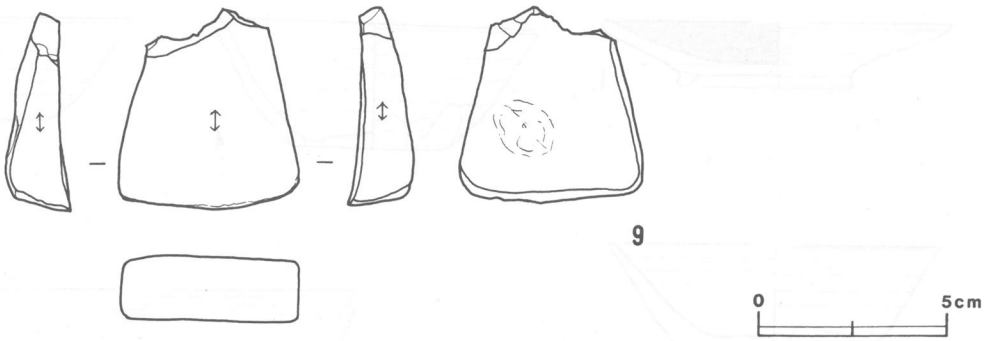
所見　本跡の時期は，出土した土器の特徴から，９世紀前半と考えられる。

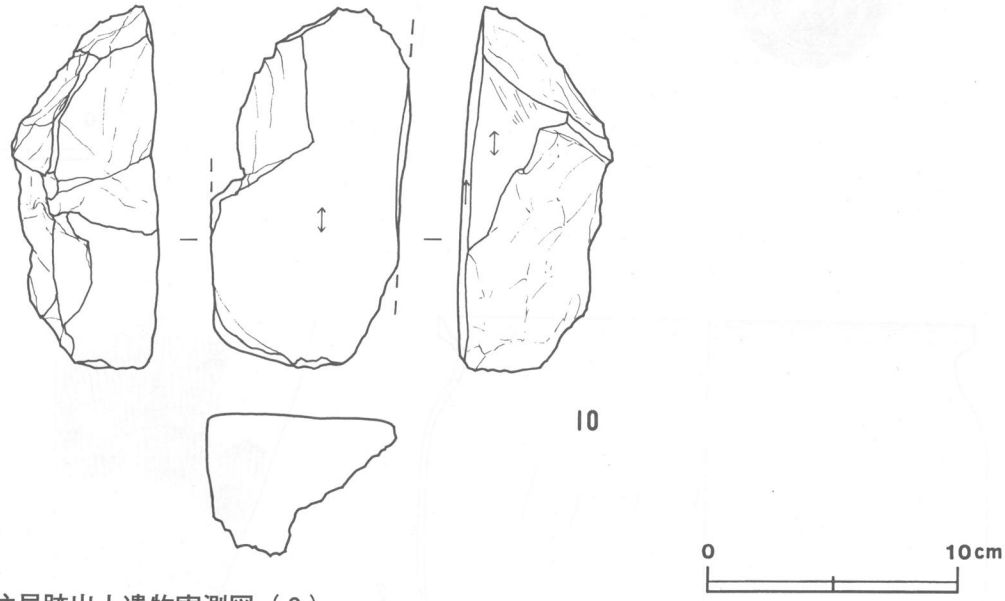


第76図　第31号住居跡実測図



第77図　第31号住居跡出土遺物実測図（1）





第78図　第31号住居跡出土遺物実測図（２）

第31号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第77図 1	高台付皿 土師器	A [13.9] B 2.6 C 6.9 E 0.7	口縁部・高台部一部欠損。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。高台は短くハの字状に開く。	体部外面ロクロナデ。体部内面磨き，黒色処理。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，内・外面ロクロナデ。	砂粒・スコリア・雲母 にぶい褐色　良	P245　50% PL49 覆土下層
2	甕 土師器	A [28.2] B (15.0)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反して立ち上がり，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面，体部外面ナデ。体部内面ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・石英・長石 にぶい褐色 普通	P246　35% PL49 竈内・覆土下層
3	甕 土師器	A [16.8] B (9.4)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は若干外反して立ち上がり，端部はつまみ上げられている。体部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。体部外面ヘラナデ。頸部内面ヘラ削り。体部内面ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・石英・スコリア・長石 明赤褐色 普通	P247　25% 竈覆土下層
4	坏 須恵器	A 12.8 B 5.1 C 6.2	完形。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P243　100% PL49 覆土中層
5	坏 須恵器	A [13.2] B 4.5 C 6.6	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り痕を残し，手持ちヘラ削り。	砂粒・スコリア・雲母・白色粒子 橙色　普通	P244　65% PL49 覆土中層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第77図 6	坏 須恵器	A　[13.9] B　4.1 C　[7.4]	口縁部から底部の破片。平底。体部から口縁部にかけて外反して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・スコリア・雲母 明赤褐色　良	P241　45% 覆土下層
7	甕 須恵器	B　(22.3) C　17.8	口縁部から体部上半欠損。平底。体部は若干内彎して立ち上がる。	体部外面縦位の平行叩き。体部下端ヘラ削り。体部内面ナデ後，一部指頭圧痕。	砂粒・スコリア・雲母・白色粒子 にぶい橙色 普通	P248　45% 竈袖部内
8	甑 須恵器	B　(17.4) C　[15.0]	体部から底部の破片。孔数不明。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面縦位の平行叩き。体部下端ヘラ削り。体部内面ナデ，一部指頭圧痕を残す。底部はヘラ状工具により穿孔。	砂粒・石英・スコリア・雲母 にぶい黄褐色 良	P249　25% 覆土中層

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第78図 9	砥　石	(4.9)	(4.9)	1.8	(49)	覆土中層	Q18　凝灰岩　　PL53
10	砥　石	(14.4)	7.5	(5.9)	(550)	床面～覆土下層	Q20　溶結凝灰岩

第32号住居跡（第79図）

位置　調査区域の中部，E3c0区。

規模と平面形　長軸4.06m，短軸3.68mの長方形である。南東コーナー付近が，撹乱により破壊されている。

主軸方向　N－15°－E

壁　壁高は24～28cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　断面はU字形で，上幅18～35cm，下幅6～14cmで，深さは8～14cmである。

床　ローム質で，平坦である。ピットの内側が踏み固められている。

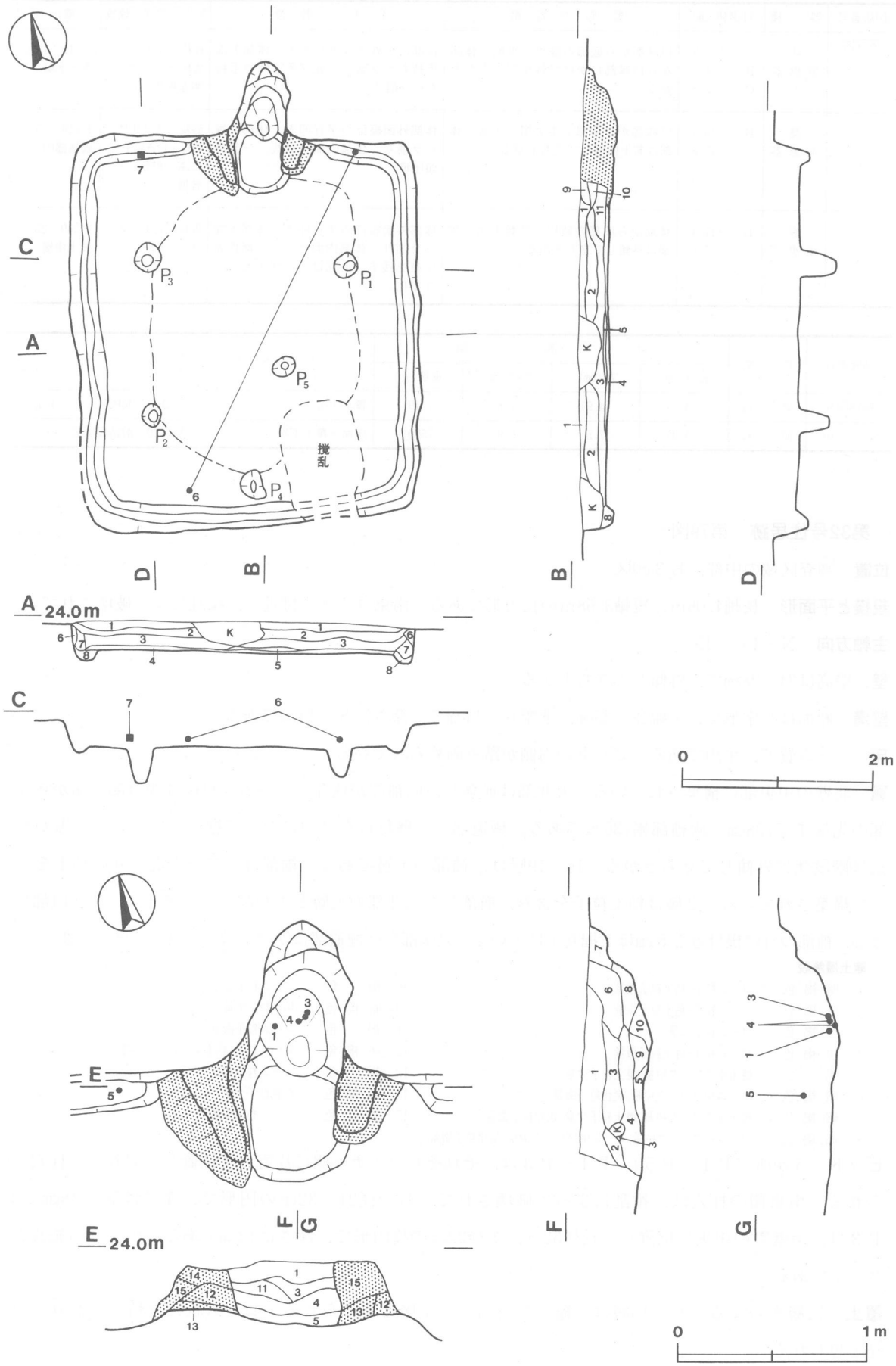
竈　北壁の中央部に構築されている。天井部は崩落し，両袖部が残存している。規模は煙道部上端から西側袖部の先端まで138cm，両袖部幅130cmである。煙道部は，壁付近を2回に分けて掘り込んでいると思われ，煙道は階段状に外傾して立ち上がる。16～19層は，袖部の土層である。袖部は，ローム混じりの粘土を芯材にして構築されている。2層は粘土粒子を含み，崩落した天井部の土層と思われる。火床部は，焚き口部付近を3cm，袖部の付け根付近を5cmほど掘り下げている。火床部から煙道部にかけては，火熱を受けて赤変している。

竈土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子微量	9	褐　色	ローム粒子少量
2	灰褐色	ローム粒子・粘土粒子少量	10	暗褐色	粘土粒子少量
3	黒褐色	ローム粒子少量	11	褐　色	ローム粒子微量
4	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	12	灰褐色	ローム粒子・粘土中ブロック中量
5	黒　色	焼土小ブロック中量,焼土粒子少量	13	褐　色	ローム粒子中量
6	暗褐色	ローム中ブロック中量,炭化粒子微量	14	黒褐色	白色粒子少量
7	暗褐色	焼土小ブロック中量,焼土粒子少量,炭化粒子微量	15	褐　色	ローム粒子少量
8	暗褐色	ローム小ブロック中量,ローム中ブロック少量,炭化粒子微量			

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P3は，それぞれコーナー側に片寄って位置しており，主柱穴と考えられる。南東側の柱穴は，撹乱によって破壊されている。径21～32cmの円形で，深さは30～38cmである。P3は，南壁際の中央に位置し，長径32cm，短径22cmの楕円形で，深さは12cmである。出入り口施設に伴うピットである。

覆土　11層からなる。9～10層は，竈から流出した土層と考えられる。レンズ状に堆積しており，自然堆積と思われる。



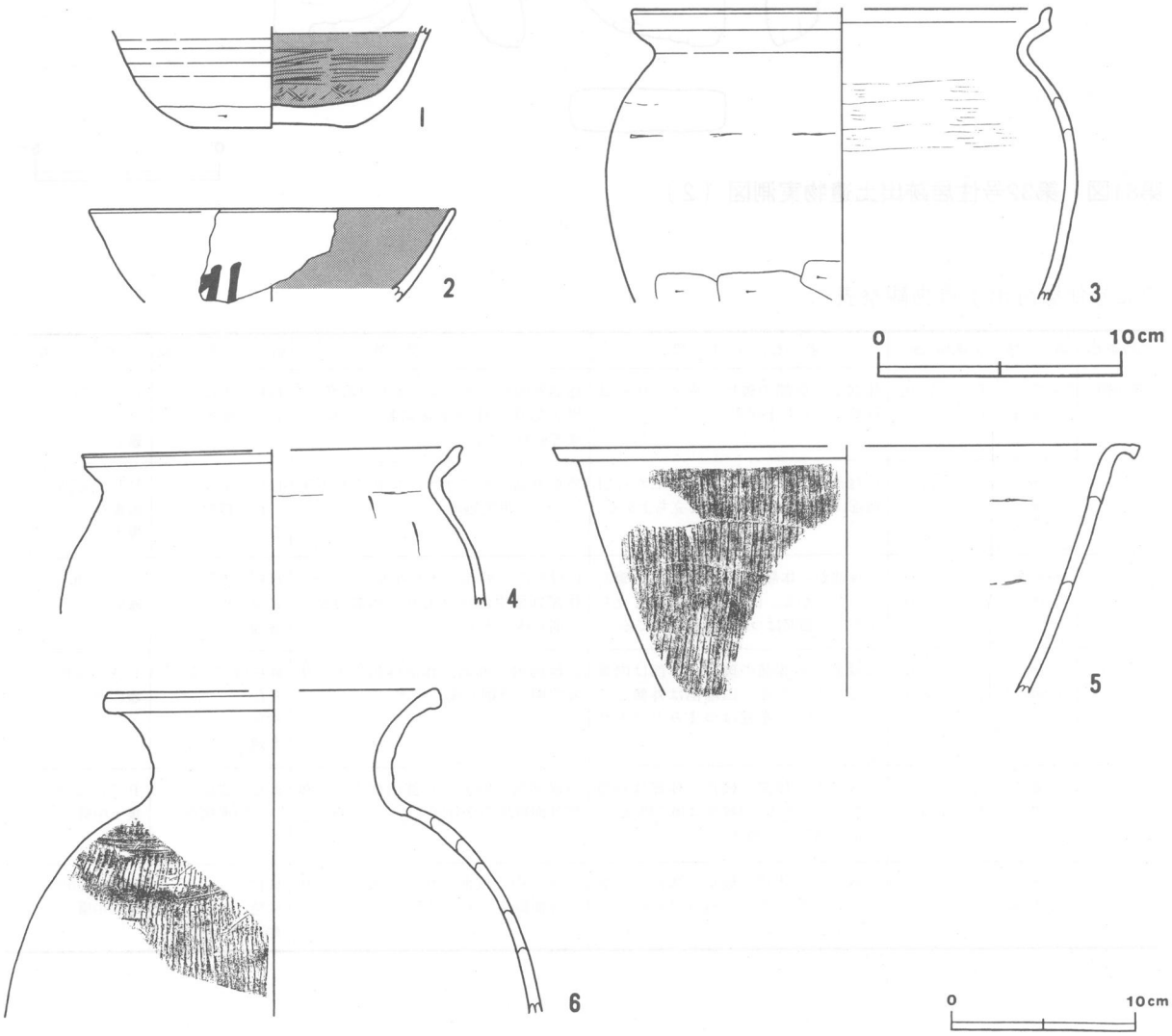
第79図　第32号住居跡実測図

土層解説

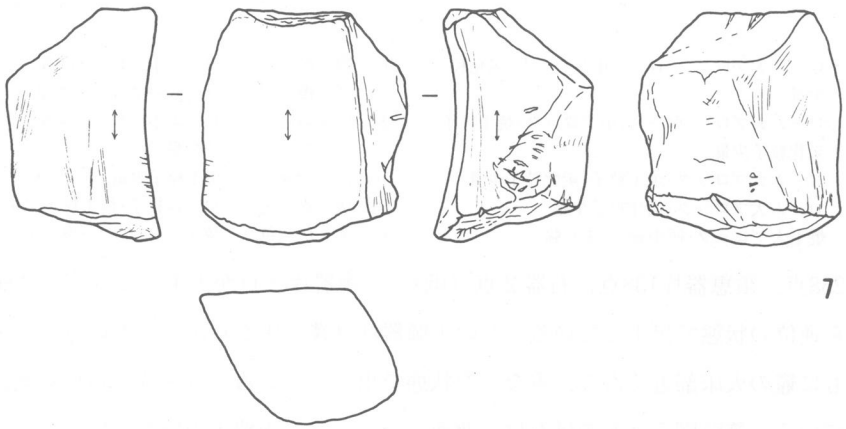
1	黒　褐　色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量	6	明　褐　色	ローム小ブロック中量
2	暗　褐　色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	7	黒　褐　色	ローム中ブロック少量
3	灰　褐　色	ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	8	にぶい褐色	ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・同粒子少量
4	黒　褐　色	ローム大ブロック・炭化粒子少量	9	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
5	にぶい赤褐色	焼土大ブロック・灰中量，しまり強	10	灰　赤　色	ローム粒子・焼土粒子少量
			11	赤　灰　色	焼土大ブロック・焼土小ブロック・砂粒少量

遺物　土師器片258点，須恵器片138点，石器２点（砥石），陶器片２点が出土している。第80図１の土師器坏は，竈の底面から逆位の状態で出土している。２の土師器坏は覆土中から出土している。３・４は土師器甕の口縁部片で，ともに竈の火床部近くから，重なった状態で出土している。５・６の須恵器甕は，竈周辺の覆土中層から出土している。第81図７・８の砥石は，北西コーナー寄りの覆土中層から出土している。陶器片は撹乱による混入と思われる。

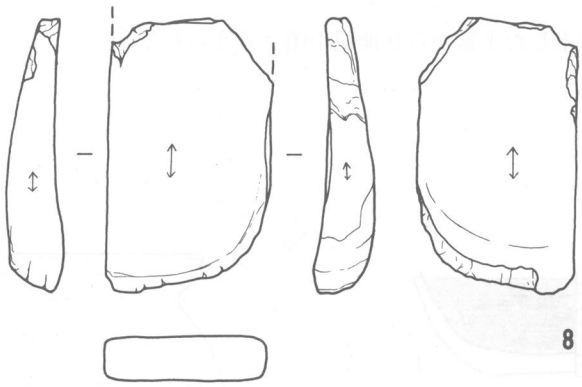
所見　本跡の時期は，出土した土器から９世紀中頃と考えられる。



第80図　第32号住居跡出土遺物実測図（１）



7



8

0　5cm

第81図　第32号住居跡出土遺物実測図（2）

第32号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第80図 1	坏 土師器	B　(4.0) C　6.9	体部から底部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部内面磨き，黒色処理。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母 にぶい褐色 良	P250　50% PL49 竈底面
2	坏 土師器	A　[14.0] B　(3.9)	口縁部から体部の破片。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部内面丁寧なナデ，黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 良	P251　25% 墨書有り 覆土中
3	小形甕 土師器	A　[17.2] B　(12.0)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外傾して立ち上がり，端部はつまみ上げられてる。	口縁部内・外面，体部外面上半ナデ。体部外面中位ヘラ削り。体部内面ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P252　30% 竈底面
4	甕 土師器	A　[20.6] B　(8.6)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外傾して立ち上がり，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面，体部外面ナデ。体部内面ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・石英・雲母・長石 橙色 普通	P253　30% 竈底面
5	甕 須恵器	A　[15.9] B　(13.5)	口縁部から体部の破片。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は強く外反し，端部に面取りを施す。	口縁部内・外面，体部内面ナデ。体部外面縦位の平行叩き。	砂粒・雲母 にぶい赤褐色 良	P254　15% 覆土中層
6	甕 須恵器	A　[17.5] B　(17.7)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面，体部内面ナデ。体部外面縦位の平行叩き。	砂粒 灰色　普通 焼成時の歪みが著しい。	P255　20% 覆土中層

図版番号	種　別	計　測　値				出　土　地　点	備　　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第81図7	砥　石	(6.1)	5.4	3.6	(137)	覆土中層	Q21　凝灰岩
8	砥　石	(7.3)	4.3	1.6	(60)	覆土中層	Q22　凝灰岩

第34号住居跡（第82図）

位置　調査区域の南部，Ｅ３d0区。

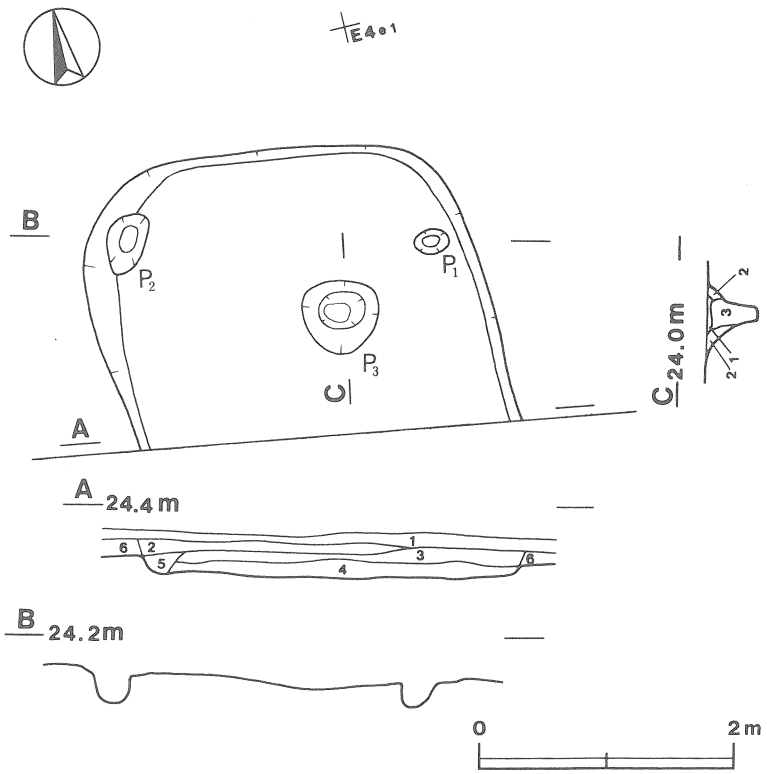
規模と平面形　本跡の南部は調査区域外に位置しており，全容は不明であるが東西2.98m，南北（2.3）mの隅丸方形または隅丸長方形と思われる。

方向　本跡の東西の壁はＮ－４°－Ｗを指している。

壁　壁高は10～26cmで，外傾して立ち上がる。

床　ローム質で，若干起伏がある。やや軟弱である。

ピット　３か所（Ｐ１～Ｐ３）。Ｐ１・Ｐ２は，コーナー付近に位置し，主柱穴と考えられる。長径29～48cm，短径22～30cmの楕円形で，深さは22～25cmである。Ｐ３は，やや東壁寄りに位置し，径58cmの円形で，深さは38cmである。性格は不明である。



第82図　第34号住居跡実測図

覆土　６層からなる。レンズ状に堆積しており，自然堆積と思われる。

土層解説

1	黒　褐　色	赤色粒子微量，粘性・しまり弱	4	黒　褐　色	ローム粒子多量
2	黒　褐　色	赤色粒子中量	5	暗　褐　色	ローム粒子中量
3	黒　褐　色	ローム粒子少量	6	黒　褐　色	赤色粒子中量，ローム粒子少量，粘性強

遺物　出土していない。

所見　本跡の時期は，不明である。

第35号住居跡（第83図）

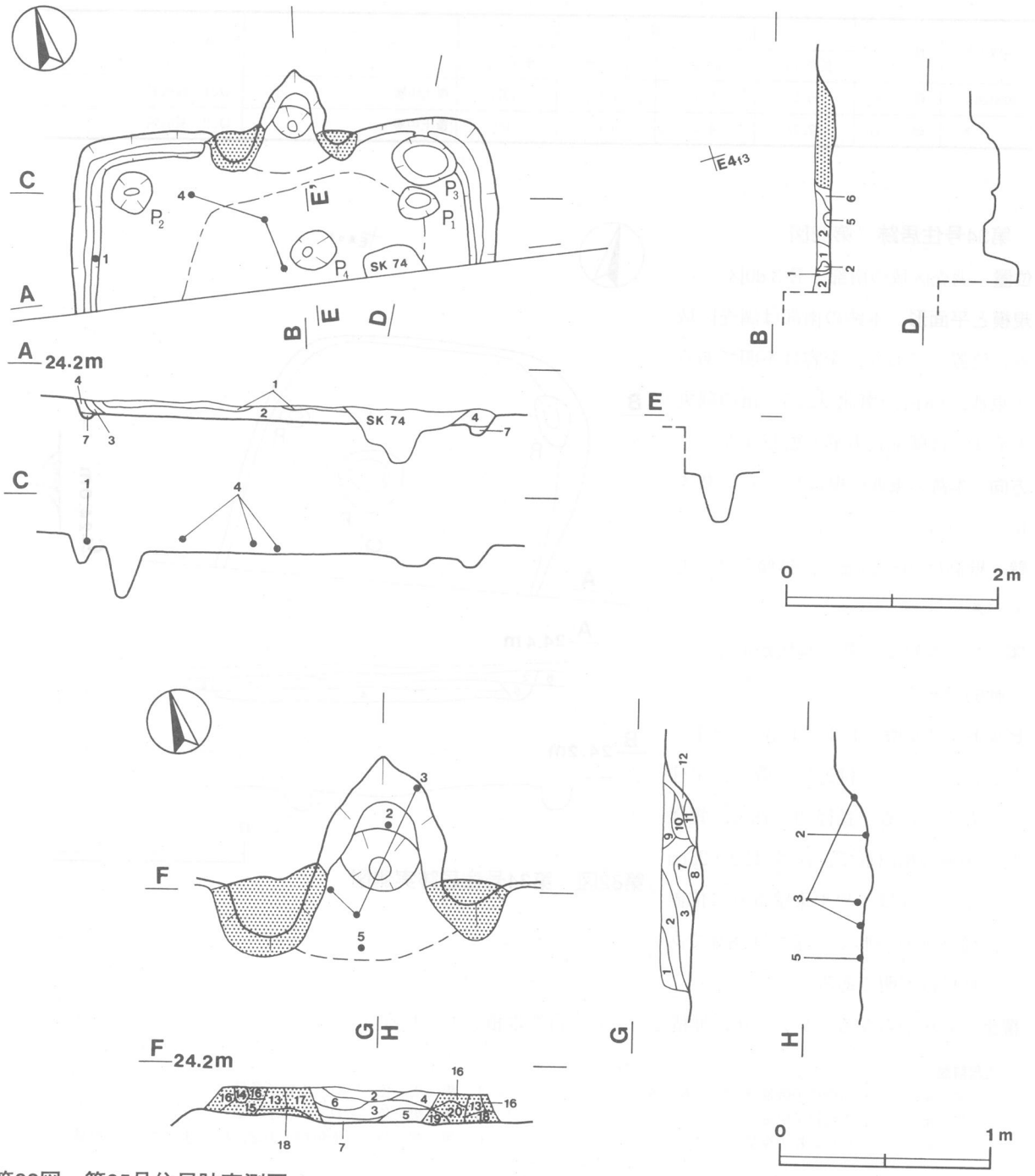
位置　調査区域の南部，Ｅ４e2区。

重複関係　第74号土坑が本跡の覆土を掘り込んで構築されているので，本跡の方が古い。

規模と平面形　南部が調査区域外に位置しており，全容は不明であるが東西3.89m，南北（1.62）mの方形または長方形と推定される。

主軸方向　Ｎ－17°－Ｗ

壁　壁高は10～13cmで，外傾して立ち上がる。



第83図　第35号住居跡実測図

壁溝　東壁及び竈西側の北壁から西壁にかけて巡っている。断面はU字形で，上幅18～31cm，下幅6～14cm，深さは6～18cmである。

床　ローム質で，平坦である。中央付近が，踏み固められている。

竈　北壁中央部に構築されている。天井部は崩落し，両袖部が残存している。規模は，煙道部上端から焚き口部まで98cm，両袖部幅38cmである。煙道部は，壁外へ約62cm掘り込まれ，煙道は若干角度を変えながら緩やかに外傾して立ち上がる。13～20層は袖部の土層である。袖は，灰褐色粘土（13層）を芯材として構築されている。火床面は，床面と同じ高さで続き，平坦である。煙道部の入り口付近に，竈の長軸と直交するように，長径36cm，短径29cm，深さ4cmの浅い楕円形の掘り込みを設けている。この掘り込みから煙道部にかけては，

火熱を受けて硬化している。

竈土層解説

1	黒褐色	ローム粒子微量，粘性弱
2	暗褐色	ローム粒子少量，白色粒子微量
3	褐色	ローム小ブロック・焼土粒子微量
4	褐色	焼土粒子中量
5	褐色	焼土粒子少量
6	灰褐色	焼土粒子微量
7	暗赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
8	赤黒色	焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子少量
9	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量
10	赤黒色	ローム小ブロック・焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
11	灰褐色	粘土粒子少量，粘性強
12	褐色	粘土粒子少量
13	灰褐色	粘土粒子中量，粘性強
14	褐色	粘土粒子微量
15	褐色	粘土粒子少量
16	褐色	ローム粒子・粘土粒子微量
17	褐色	焼土粒子少量
18	にぶい褐色	ローム粒子中量，炭化粒子少量
19	にぶい褐色	焼土粒子中量，粘土粒子少量
20	にぶい褐色	焼土粒子微量

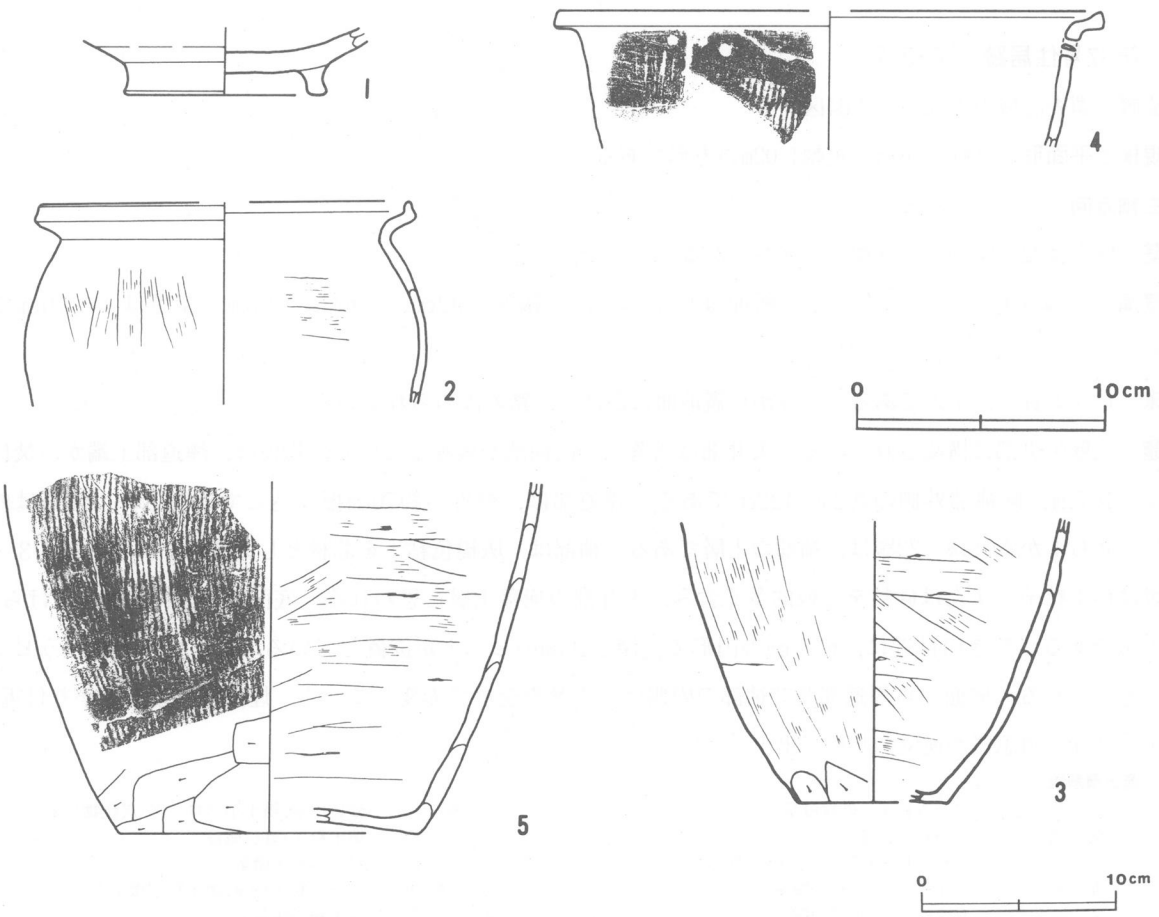
ピット　4か所（P1～P4）。P2は北西コーナー付近に位置し，主柱穴と考えられる。径36cmの円形で，深さは48cmである。P1・P3は，北東コーナー付近に位置している。長径38～58cm，短径28～44cmの楕円形で，深さは12～16cmである。P1・P3のいずれかがP2と対応する主柱穴と思われる。P4はほぼ中央部に位置し，長径44cm，短径32cmの楕円形で，深さは46cmである。性格は不明である。

覆土　7層からなる。レンズ状に堆積しており，自然堆積と思われる。

土層解説

1	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
2	暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
3	灰褐色	ローム大ブロック・同小ブロック・同粒子少量
4	にぶい褐色	ローム小ブロック多量，ローム大ブロック中量
5	にぶい褐色	ローム大ブロック多量
6	にぶい褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
7	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片91点，須恵器片27点が出土している。第84図1の土師器高台付坏は，覆土中層から正位の状態で出土している。2の土師器甕は竈煙道部の底面上から逆位の状態で，3の土師器甕は，竈の底面から破



第84図　第35号住居跡出土遺物実測図

片の状態で出土している。3の外面には，二次的な焼成を受けた跡が認められる。4の須恵器甕は竈の南側の覆土中層から破片の状態で，5の須恵器甕は焚き口部の床面上から横位で，それぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，出土した土器から9世紀後半と推定される。

第35号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第84図 1	高台付坏 土師器	B　(2.7) D　7.8 E　1.3	底部の破片。高台はハの字状に開く。	底部内面ロクロナデ。高台部内・外面ナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・石英・雲母 にぶい黄褐色 良	P257　50% 覆土中層
2	小形甕 土師器	A　[14.6] B　(8.0)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は強く外反し，端部は若干内傾してつまみ上げられている。	口縁部内・外面，体部内・外面ナデ。	砂粒・スコリア・雲母 明赤褐色 普通	P258　30% 竈煙道部
3	甕 土師器	B　(14.8) C　[7.8]	体部から底部の破片。平底。体部は若干内彎して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。体部下端ヘラ削り。底部木葉痕。	砂粒・スコリア・雲母・長石 にぶい褐色　普通	P259　40% 竈底面
4	甕 須恵器	A　[28.8] B　(7.1)	口縁部から体部の破片。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は強く外反し，端部に面取りを施す。	口縁部内・外面，体部内面ナデ。体部外面縦位の平行叩き。	砂粒・石英・雲母・長石 褐灰色 普通	P260　15% PL49 体部に補修孔 覆土中層
5	甕 須恵器	B　(18.4) C　[15.6]	体部から底部の破片。平底。体部は若干内湾して立ち上がる。	体部外面縦位の平行叩き。体部下端ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・スコリア・雲母 黄橙色 普通	P261　30% 床面

第37号住居跡（第85図）

位置　調査区域の中部，E4d4区。

規模と平面形　長軸4.16m，短軸4.02mの方形である。

主軸方向　N－0°－E

壁　壁高は22～26cmで，外傾して立ち上がる。

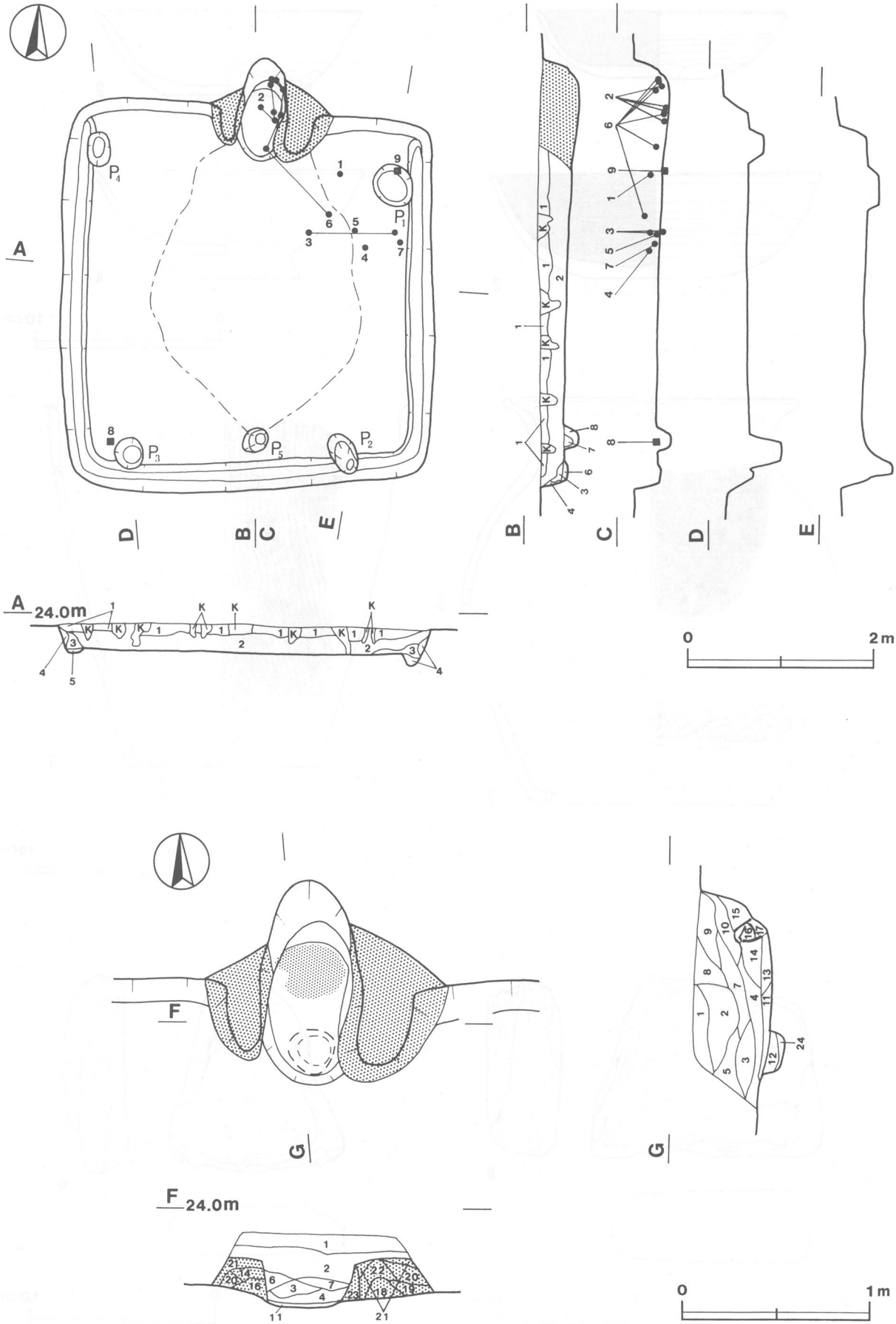
壁溝　北壁を除く壁の下を巡る。断面はU字形で，上幅20～32cm，下幅10～14cm，深さは4～10cmである。

床　ローム質で，平坦である。P5から竈前面にかけて，踏み固められている。

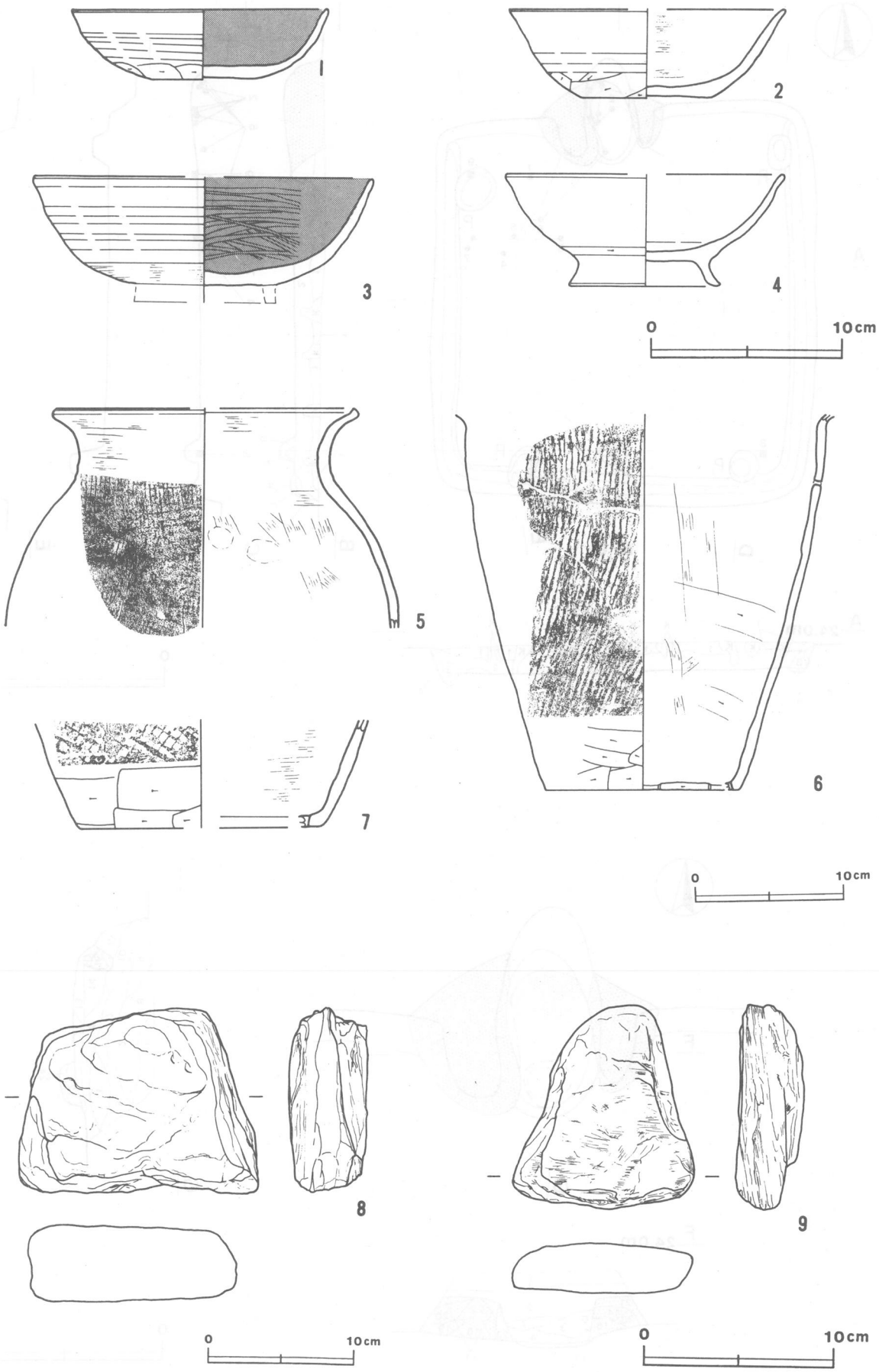
竈　北壁中央部に構築されている。天井部は崩落し，両袖部が残存している。規模は，煙道部上端から焚口部まで107cm，両袖部外側の基部で122cmである。煙道部は，壁外へ約70cm掘り込んで構築され，煙道は外傾して立ち上がる。18～22層は，袖部の土層である。袖部は，灰褐色粘土を芯材として構築されている。3・7層は粘土粒子，または砂粒を比較的多く含み，天井部の崩落土層と思われる。底面は3cmほど掘り下げられ，平坦である。焚き口付近に，径25cmの円形で，深さ10cmのピットが位置している。竈の掘り方に伴うピットと考えられる。底面から煙道部及び袖部の内側は，火熱を受けて赤変している。煙道部の立ち上がり付近に，第86図6の須恵器が逆位の状態で出土している。

竈土層解説

1　黒褐色　ローム粒子・砂粒微量
2　暗褐色　赤色粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子・粘土粒子少量，砂粒微量
4　暗褐色　焼土粒子・粘土粒子微量
5　褐　色　粘土粒子・赤色粒子微量
6　黒褐色　焼土粒子・粘土粒子微量
7　灰褐色　砂粒中量，焼土小ブロック・炭化物少量
8　暗褐色　焼土粒子・砂粒微量
9　褐　色　ローム粒子微量
10　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
11　褐　色　焼土粒子少量
12　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量



第85図　第37号住居跡実測図



第86図　第37号住居跡出土遺物実測図

13 褐　　色　炭化粒子少量,焼土粒子微量
14 暗 褐 色　焼土小ブロック中量,焼土粒子少量
15 暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子微量
16 黒 褐 色　焼土粒子少量
17 極暗褐色　焼土粒子少量,ローム粒子微量
18 灰 褐 色　粘土粒子多量,ローム粒子中量，粘性強
19 灰 褐 色　ローム粒子・粘土粒子中量
20 灰 褐 色　ローム粒子・粘土粒子少量
21 褐　　色　粘土粒子少量
22 灰 褐 色　ローム粒子・粘土粒子中量,炭化粒子少量
23 灰 褐 色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量
24 暗 褐 色　焼土小ブロック微量

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は，各コーナー付近の壁際に位置し，主柱穴と考えられる。長径32～50cm，短径24～40cmの楕円形で，深さは13～35cmである。P5は南壁際中央付近に位置し，出入り口施設に伴うピットである。長径33cm，短径22cmの楕円形で，深さは16cmである。

覆土　8層からなる。レンズ状に堆積しており，自然堆積と思われる。7・8層はP5の土層である。

土層解説

1 黒 褐 色　ローム粒子少量,ローム大ブロック微量
2 灰 褐 色　ローム中ブロック・同小ブロック少量
3 褐　　色　ローム小ブロック・同粒子少量
4 にぶい褐色　ローム小ブロック多量
5 褐　　色　ローム小ブロック多量
6 暗 褐 色　ローム粒子中量
7 暗 褐 色　ローム粒子微量
8 灰 褐 色　ローム粒子微量

遺物　土師器片220点，須恵器片147点，石片2点が出土している。第86図1の土師器坏は，竈東側から正位の状態で出土している。2の土師器坏は，竈煙道部の底面付近から正位の状態で，6の須恵器甕は同じく逆位の状態で出土している。3の土師器坏は，東壁寄りの床面上から正位の状態で出土している。4の須恵器高台付坏は覆土中層から破片の状態で，5の須恵器甕は覆土下層から横位の状態で，それぞれ出土している。8はP3付近の床面上から，9はP1付近の床面上から，それぞれ出土している。雲母片岩の石片と思われるが，用途・性格は不明である。

所見　本跡の時期は，出土した土器から9世紀後半から末頃と考えられる。

第37号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第86図 1	坏 土師器	A 13.4 B 3.7 C 5.4	口縁部欠損。平底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。体部内面ナデ，黒色処理。底部一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・スコリア・雲母・長石 橙色　普通	P262　80% PL49 覆土中層
2	坏 土師器	A [14.4] B 4.6 C 6.8	口縁部から底部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。外面下端手持ちヘラ削り。体部内面ロクロナデ。底部一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・白色粒子 橙色 普通	P263　60% 竈底面
3	高台付坏 土師器	A [17.4] B (5.7)	高台部欠損。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。外面下端ヘラ削り後，ナデ。体部内面磨き，黒色処理。底部回転ヘラ削り。	砂粒・スコリア・雲母 にぶい橙色　普通	P264　60% 床面
4	高台付坏 須恵器	A [14.5] B 6.8 D 7.9 E 1.0	口縁部一部欠損。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がる。高台はハの字状に若干外反して開く。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰黄色 普通	P265　55% 覆土中層
5	甕 須恵器	A [21.0] B (15.0)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。体部から口縁部は緩やかに外反して立ち上がり，端部は若干つまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。体部外面縦位叩き。体部内面ナデ，一部に指頭圧痕を残す。	砂粒・雲母・白色粒子 黒褐色 普通	P266　25% 覆土下層
6	甑 須恵器	B (25.8) C 13.2	体部から底部の破片。孔数不明。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面縦位の平行叩き。体部下端ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。底部は焼成前ヘラ状工具により穿孔。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P267　40% 補修孔有り 竈内
7	甑 須恵器	B (7.4) C [15.2]	体部から底部の破片。孔数不明。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面格子目叩き。体部下端ヘラ削り。体部内面ナデ。体部は焼成前にヘラ状工具により穿孔。	砂粒・雲母・長石 灰黄褐色 普通	P268　25% 覆土中層

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第86図8	石　片	(9.6)	(12.3)	4.0	780	床面	Q24　ホルンフェルス
9	石　片	10.5	9.3	2.6	831	床面	Q25　ホルンフェルス

第38A号住居跡（第87図）

位置　調査区域の南部，E4g4区。

重複関係　本跡が第38B号住居跡の竈を破壊して構築されているので，本跡の方が新しい。

規模と平面形　長軸4.1m，短軸3.7mの長方形である。

主軸方向　N－93°－W

壁　壁高は12～14cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　東壁の南半と南壁の下を巡る。断面はU字形で，上幅10～26cm，下幅4～9cm，深さは4～8cmである。

床　ローム質で，おおむね平坦である。中央部が，踏み固められている。

竈　西壁中央付近に構築されている。天井部は崩落し，両袖部が残存している。規模は，煙道部から焚き口部まで117cm，両袖部幅137cmである。煙道部は，壁外へ83cm掘り込んでおり，煙道は外傾して立ち上がる。16～23層は袖部の土層である。粘土混じりの褐色土を中心に構築され，南側袖部には土師器甕が補強材として使用されている。1層は粘土粒子・砂粒を含み，天井部の崩落土層と考えられる。火床部は7cmほど掘り込まれており，底面は平坦である。煙道部の中央付近からは，土師器甕が石塊の上にかぶせられた状態で出土しており，支脚として使用されたものと思われる。

竈土層解説

1	極暗褐色	焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量
2	暗赤褐色	焼土中ブロック中量，焼土小ブロック・砂粒少量
3	暗赤褐色	焼土大ブロック中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
4	暗赤灰色	焼土中ブロック・砂粒少量
5	極暗赤褐色	焼土小ブロック・炭化粒子少量
6	にぶい褐色	焼土中ブロック・同粒子中量
7	褐　色	焼土粒子中量
8	にぶい褐色	焼土小ブロック中量
9	褐　色	焼土小ブロック中量
10	暗褐色	ローム粒子中量
11	暗褐色	ローム粒子微量
12	赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量，焼土大ブロック微量，しまり強
13	にぶい褐色	焼土粒子中量，炭化粒子少量
14	にぶい褐色	焼土小ブロック・粘土大ブロック中量
15	褐　色	焼土小ブロック中量，粘土粒子微量
16	暗褐色	粘土粒子・赤色粒子微量
17	灰褐色	粘土粒子中量
18	褐　色	ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
19	灰褐色	ローム小ブロック・粘土粒子中量
20	灰褐色	ローム小ブロック・粘土粒子中量，しまり強
21	灰褐色	粘土粒子多量・ローム粒子少量
22	灰褐色	粘土粒子中量，炭化粒子微量
23	暗褐色	粘土粒子少量，焼土粒子微量

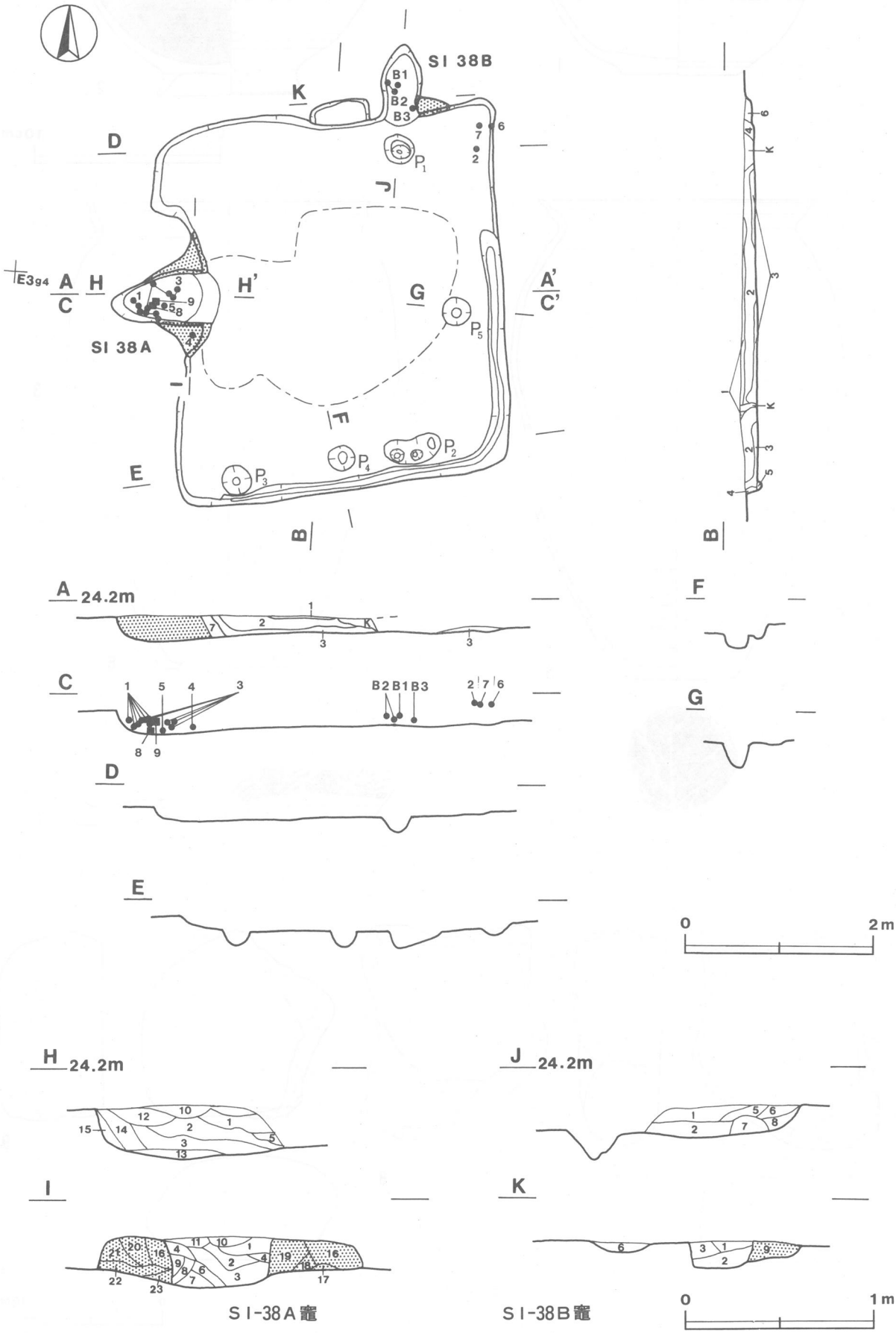
ピット　5か所（P1～P5）。P4は位置的に第38B号住居跡に伴うものと考えられる。P1～P3は，コーナー寄りに位置しており，主柱穴と考えられる。P1・P3は径32cmの円形，P2は長径62cm，短径22cmの長円形で，深さは17～18cmである。P5は径約30cmの円形で，深さは25cmである。東壁寄り中央付近に位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　7層からなる。レンズ状に堆積しており，自然堆積と思われる。

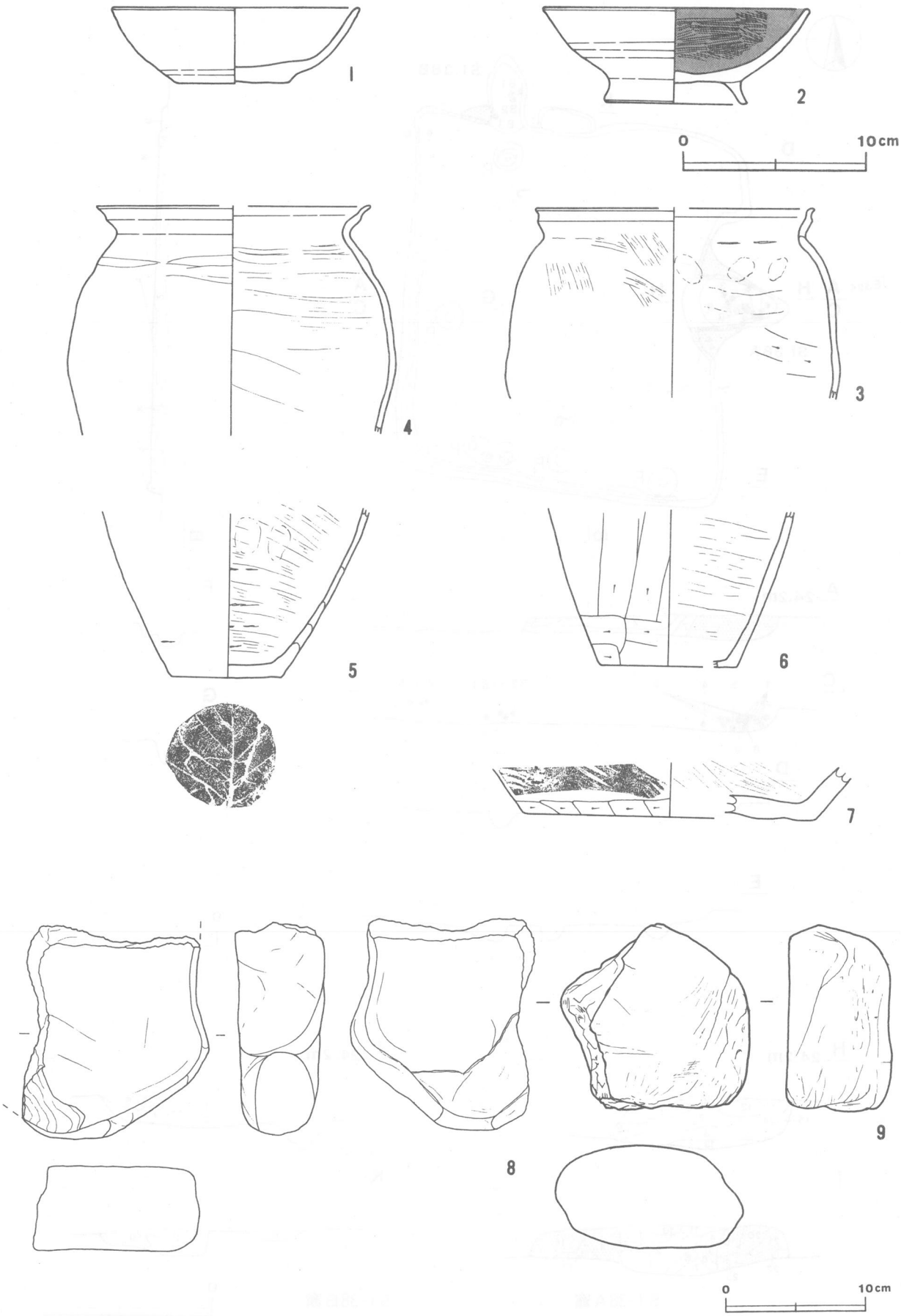
土層解説

1	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
2	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物少量
3	灰褐色	ローム大ブロック・焼土粒子・砂粒少量
4	明褐色	ローム中ブロック中量
5	褐　色	ローム中ブロック中量
6	明褐色	ローム粒子多量
7	黒褐色	焼土大ブロック・同小ブロック少量

遺物　土師器片68点，須恵器片28点，石製品2点（支脚）が出土している。第88図1の土師器坏，3の土師器甕は，竈の覆土中層から破片の状態で出土している。2の土師器高台付坏・6の土師器甕・7の須恵器甕は北東コーナー付近の覆土中層から上層にかけて出土している。4の土師器甕は，竈の南側袖部から出土している。竈の補強材として使用されたものである。5の土師器甕は，煙道部底面に置かれた雲母片岩（9）の上



第87図　第38A・B号住居跡実測図



第88図　第38A号住居跡出土遺物実測図

から，逆位の状態で出土している。8の花崗岩の石塊は，煙道部の底面から出土している。8・9は外面に火熱を受けた痕があり，支脚として使用されたものと思われる。

所見　本跡と第38B号住居跡との関係は，第38B号住居跡の竈が破壊されていることから，本跡が新しいと考えられる。なお，平面及び土層断面で第38B号住居跡の掘り込みを確認できなかったことから，本跡は第38B号住居跡のプランを再利用した可能性が想定される。本跡の時期は，重複関係及び出土土器から，第38B号住居跡より新しい9世紀後半と考えられる。

第38A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第88図 1	坏 土師器	A 13.4 B 4.1 C 6.2	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部内面丁寧なナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・スコリア・雲母 橙色　普通	P272　90% PL49 竈覆土中層
2	高台付坏 土師器	A 14.4 B 5.2 D 7.7 E 1.2	口縁部一部欠損。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がる。高台はハの字状に外反して開く。	体部外面ロクロナデ。体部内面磨き，黒色処理。高台部貼り付け後，高台内・外面ナデ。	砂粒・雲母・白色粒子 橙色 普通	P276　70% PL50 覆土上層
3	甕 土師器	A [19.4] B (13.4)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は若干外傾して立ち上がり，口縁端部は外反してつまみ上げられている。	口縁部内・外面，体部外面ナデ。体部内面ナデ，一部ヘラ削り・指頭押捺を残す。	砂粒・石英・スコリア にぶい褐色 普通	P273　30% PL50 竈覆土中層
4	甕 土師器	A [19.6] B (16.3)	口縁部から体部の破片。内彎して立ち上がる。口縁部は外反して立ち上がり，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。体部外面ナデ，内面ヘラナデ。	砂粒・石英・長石 灰黄褐色 普通	P274　30% 竈袖部内
5	甕 土師器	B (12.2) C 7.7	体部下半から底部の破片。平底。体部は若干内彎して立ち上がる。	体部外面器面荒れ調整不明。体部内面ヘラナデ。底部木葉痕。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P275　35% 竈覆土中
6	甕 土師器	B (11.2) C [9.9]	体部下半から底部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。	砂粒・石英・スコリア・雲母 にぶい赤褐色　良	P277　35% 覆土中層
7	甕 須恵器	B (3.9) C [20.6]	底部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面横位の平行叩き。体部下端ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英 灰色 普通	P278　30% 覆土中層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第88図8	石塊	(15.4)	13.0	6.2	(2000)	竈底面	Q26　花崗岩　PL53
9	石塊	(13.1)	13.5	7.1	(1820)	竈底面	Q27　ホルンフェルス　PL53

第38B号住居跡（第87図）

位置　調査区域の南部，E3g4区。

重複関係　本跡の竈が第38A号住居によって破壊されているため，本跡の方が古い。

規模と平面形　本跡の規模・平面形とも不明である。

主軸方向　N－2°－W

壁　壁高は4～18cmで，外傾して立ち上がる。

竈　北壁の北東コーナー寄りに位置している。天井部は崩落し，袖部も破壊されて遺存状態は良くない。規模は，煙道部の上端から焚き口部まで74cm，両袖部幅89cmである。煙道部は，壁外へ75cm掘り込まれ，煙道

は外傾して立ち上がる。9層は袖部の土層である。東側袖部は粘土混じりの褐色土で構築されているが，西側袖部は貼り付けた部分は残存せず，地山削り出しで構築された基部が残っている。火床部は平坦で，床面とほぼ同じ高さである。焚き口部から煙道部にかけては火熱を受けて赤変しており，上面には焼土を含む層が堆積している。

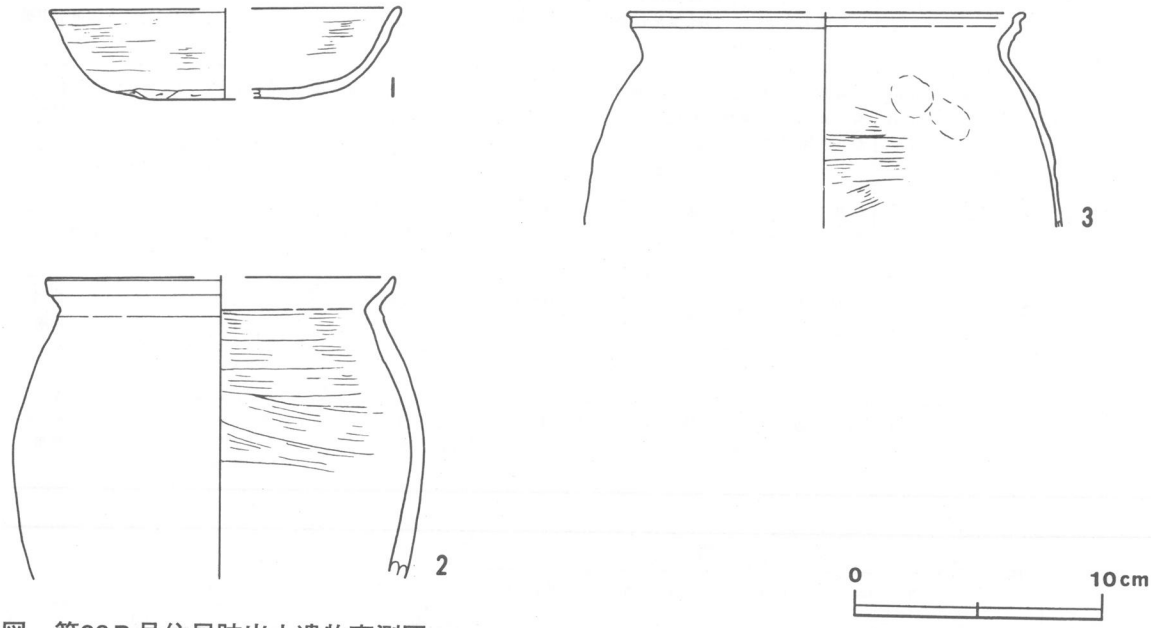
竈土層解説

1	褐　色	焼土粒子中量	6	暗赤褐色	ローム大ブロック・同小ブロック少量
2	褐　色	焼土粒子中量，焼土中ブロック微量	7	褐　色	ローム粒子・焼土粒子微量
3	褐　色	焼土粒子少量，炭化粒子微量	8	褐　色	焼土粒子少量
4	褐　色	ローム粒子中量	9	褐　色	ローム粒子・粘土粒子中量
5	暗赤褐色	焼土大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量			

ピット　P 4は径約26cmの円形で，深さは14cmである。南壁寄り中央付近に位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

遺物　土師器片74点，須恵器片7点が出土している。第89図1の土師器坏は，竈の覆土中層から正位の状態で，2の土師器小形甕は1の下から横位の状態で，それぞれ出土している。3の土師器甕は，竈の東袖部内から出土している。

所見　本跡の時期は，第38A号住居跡との重複関係及び出土土器から，第38A号住居跡に先行する9世紀後半と考えられる。



第89図　第38B号住居跡出土遺物実測図

第38B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第89図 1	坏 土師器	A [14.0] B 3.6 C [6.0]	口縁部から底部の破片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・白色粒子 にぶい黄褐色 普通	P269 40% 竈覆土中層
2	小形甕 土師器	A [13.7] B (12.0)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は若干外反して立ち上がる。	口縁部，外部内・外面ナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	P270 40% 竈覆土中層
3	甕 土師器	A [20.6] B (11.3)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外傾して立ち上がり，端部はつまみ上げられている。	口縁部，体部内・外面ナデ。体部内面に一部指頭圧痕。	砂粒・スコリア にぶい橙色 普通	P271 40% 竈袖部内

第40A号住居跡（第90図）

位置　調査区域の南部，E３f5区。

重複関係　本跡が第40B住居跡の覆土を掘り込んで構築されているので，本跡が新しい。

規模と平面形　長軸3.35m，短軸2.95mの長方形である。

主軸方向　N－84°－W

壁　壁高は，12～16cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北西コーナー付近及び，南東コーナーから南西コーナー付近にかけて巡る。断面はU字形で，上幅19～30cm，下幅５～12cm，深さは４～８cmである。

床　ローム質で，平坦である。中央部付近には貼床が施され，踏み固められている。

竈　西壁中央部に構築されている。天井部は崩落し，両袖部が残存している。規模は，煙道部上端から焚き口部まで135cm，両袖部幅115cmである。煙道部は壁外へ87cm掘り込んでおり，煙道は緩やかに立ち上がる。19層は袖部の土層である。袖部は，ローム混じりの褐色土で構築されている。火床部は，中央部付近が床面から10cmほど掘り込まれている。火床面から煙道部にかけては，火熱のため硬化している。

竈土層解説

1	黒褐色	赤色粒子微量，粘性・しまり弱
2	暗褐色	ローム粒子少量
3	暗褐色	焼土粒子少量
4	暗褐色	粘土粒子微量
5	暗褐色	焼土粒子・粘土粒子微量
6	褐色	焼土粒子多量
7	極暗褐色	ローム粒子少量
8	黒褐色	ローム粒子・粘土粒子微量
9	暗褐色	焼土粒子中量
10	黒褐色	ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
11	橙色	焼土小ブロック多量，焼土大ブロック・炭化粒子少量
12	暗赤灰色	ローム小ブロック・焼土粒子少量，しまり弱
13	暗赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量
14	灰赤色	粘土粒子多量，焼土中ブロック少量，粘性強
15	暗赤灰色	焼土粒子・粘土粒子中量，粘性強
16	暗赤灰色	焼土粒子少量，粘性強
17	橙色	焼土粒子多量
18	にぶい褐色	ローム粒子多量，焼土小ブロック少量，粘性普通，しまり強
19	褐色	ローム粒子中量

ピット　１か所（Ｐ１）。南壁際中央付近に位置し，径23cmの円形で，深さは11cmである。性格は不明である。

覆土　８層からなる。４・５層は粘性・しまり共に強く，貼床の土層と考えられる。１～３層はレンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説

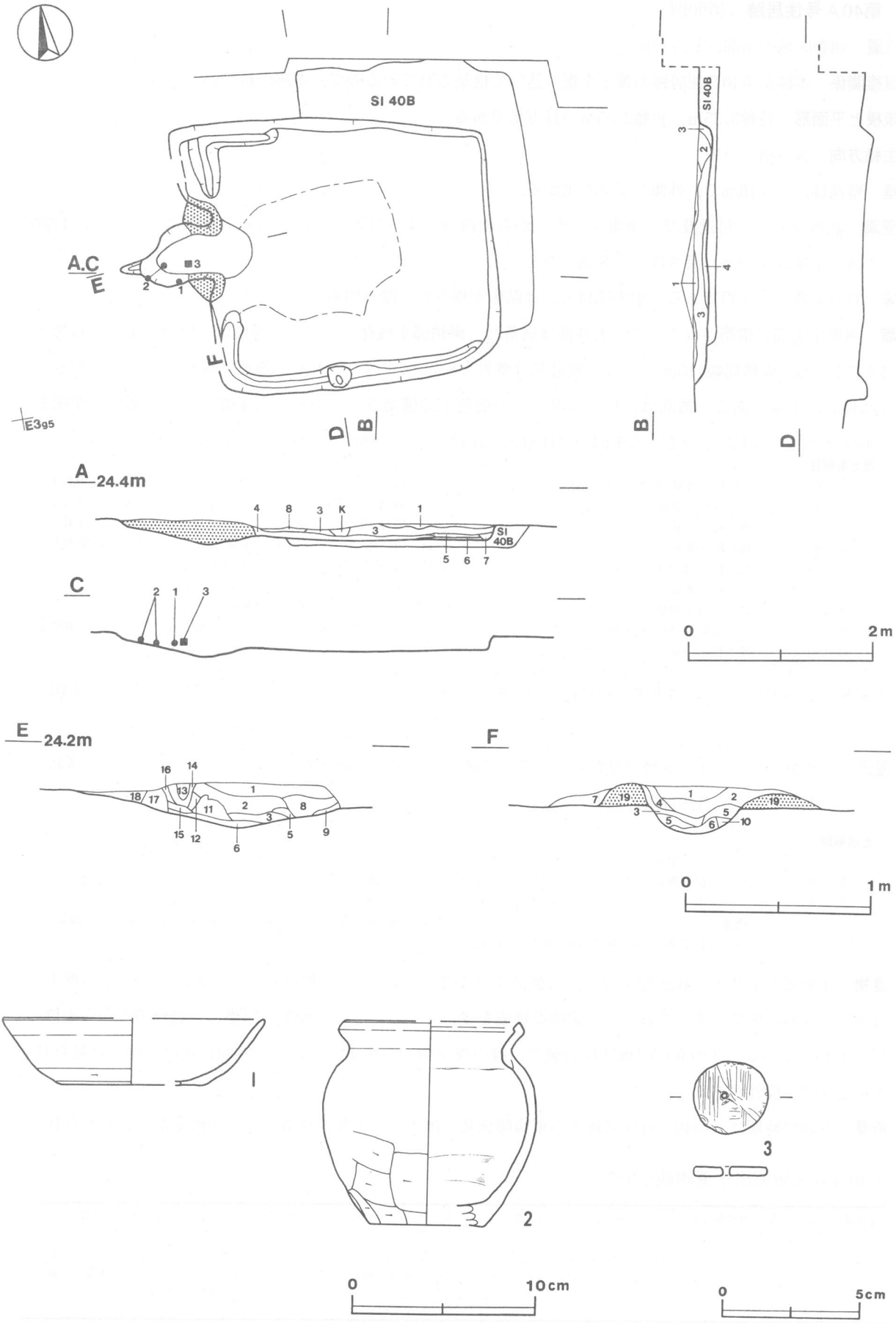
1	黒褐色	ローム粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子微量
3	暗褐色	ローム中ブロック・同小ブロック少量，炭化粒子微量
4	褐色	ローム粒子多量，炭化粒子少量，粘性・しまり強
5	褐色	ローム粒子多量，粘性・しまり強
6	暗褐色	ローム粒子微量
7	黒褐色	ローム中ブロック微量
8	暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量

遺物　土師器片132点，須恵器片22点，石製品１点が出土している。第90図１の土師器坏は，竈の覆土下層中から破片の状態で出土しており，二次的な焼成を受けている。２の土師器小形甕は，竈煙道部から逆位の状態で出土している。３の有孔円板は頁岩製で，竈の覆土中から出土している。外面に焼けた様子は見られず，流れ込みの可能性がある。

所見　本跡の時期は，第40B号住居跡との重複関係及び出土した土器の特徴から，10世紀前半と考えられる。

第40A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第90図 1	坏 土師器	A [14.2] B 3.6 C [7.4]	体部から底部の破片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。体部内面ナデ。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・雲母・長石 橙色　普通	P279　30% 竈覆土下層



第90図　第40A号住居跡・出土遺物実測図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第90図 2	小形甕 土師器	A　[10.0] B　11.1 C　[6.2]	口縁部から底部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外傾して立ち上がり，端部は内傾して，面取りを施す。	口縁部内・外面，体部外面上半・体部内面ナデ。体部外面下半ヘラ削り。	砂粒・石英・雲母・長石 橙色 普通	P282　45% PL50 竈煙道部

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第90図3	有孔円板	2.7	2.7	0.2	4.72	竈下層	Q28　頁岩　PL54

第40B号住居跡（第91図）

位置　調査区域の南部，E3f6区。竈の北端が調査区域外に位置する。

重複関係　第40A号住居が本跡の覆土を掘り込んで構築されているので，本跡の方が古い。

規模と平面形　長軸2.94m，短軸2.48mの長方形である。

主軸方向　N－10°－E

壁　壁高は6～18cmで，外傾して立ち上がる。

床　ローム質で，平坦である。全体的にやや軟弱である。

竈　北壁中央部に構築されている。天井部は崩落し，両袖部が残存している。規模は，袖部先端から調査区域際まで（57）cm，両袖部幅125cmである。煙道部は先端が調査区域外に位置しており，規模・形状とも不明である。7～11層・13層・14層は袖部の土層である。袖部は，灰褐色粘土を芯材として構築されている。火床部は床面と同じ高さで続き，平坦である。火床面は，火熱を受けて硬化している。

竈土層解説

1　褐　色　ローム粒子微量
2　暗褐色　焼土粒子微量
3　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4　褐　色　ローム粒子少量
5　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
7　灰褐色　粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量，粘性強
8　にぶい褐色　ローム粒子中量，粘土粒子微量
9　褐　色　焼土粒子・粘土粒子微量
10　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
11　褐　色　ローム粒子微量
12　暗褐色　焼土粒子少量
13　にぶい褐色　粘土粒子少量，ローム粒子微量
14　褐　色　焼土粒子・粘土小ブロック微量

ピット　3か所（P1～P3）。それぞれ壁側に寄って位置しており，主柱穴と考えらる。P1・P3は径20～26cmの円形，P2は長径32cm，短径21cmの不整円形で，深さは6～16cmである。

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

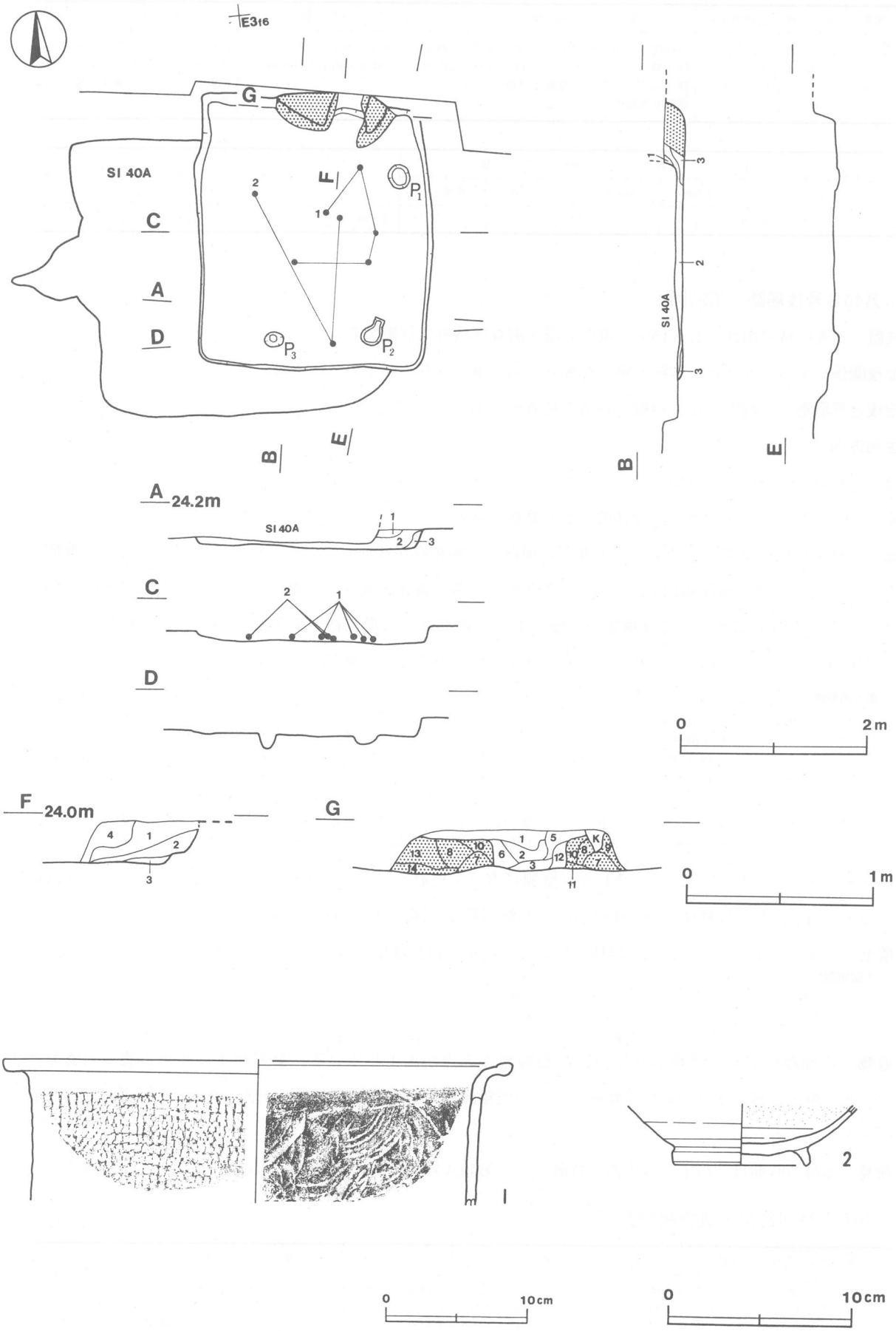
1　にぶい褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
2　灰褐色　ローム中ブロック・同小ブロック少量
3　明褐色　ローム中ブロック中量

遺物　土師器片63点，須恵器片10点，灰釉陶器片3点が出土している。第91図1の須恵器甕は東寄りの床面上から覆土下層にかけて破片の状態で，2の灰釉陶器は中央部付近の覆土下層中から逆位の状態で，それぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，出土した土器の特徴から，第40A号住居跡に先攻する。10世紀前半と考えられる。

第40B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第91図 1	甕 須恵器	A　[36.0] B　(10.0)	口縁部から体部の破片。体部は若干外傾して立ち上がる。口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面格子目叩き。体部内面に同心円状の当て具痕有り。	砂粒・雲母・スコリア・白色粒子 にぶい黄橙色 普通	P283　25% PL50 床面～覆土下層



第91図　第40B号住居跡・出土遺物実測図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第91図 2	椀 灰釉陶器	B　(8.2) D　7.1 E　1.0	体部から高台部の破片。体部は外傾して立ち上がる。高台は断面三日月状を呈する。	体部，高台部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け。底部回転ヘラ削り。	砂粒・白色粒子 素地灰黄褐色，釉調褐灰色　良	P280　40% PL49　覆土下層 大原2号窯式

第43号住居跡（第92図）

位置　調査区域の南部，E2j0区。

規模と平面形　住居跡の大半が調査区域外に位置する。南北3.5m，東西（0.43）mで，方形または長方形と考えられる。

方向　東壁はN－4°－Wを向いている。

壁　壁高は32～47cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　東壁の南東コーナーから南壁にかけて巡る。断面はU字形で，上幅11～18cm，下幅3～6cm，深さは10cmである。

床　ローム質で，平坦である。全体的に若干軟弱である。

ピット　床面を精査したが，確認できなかった。

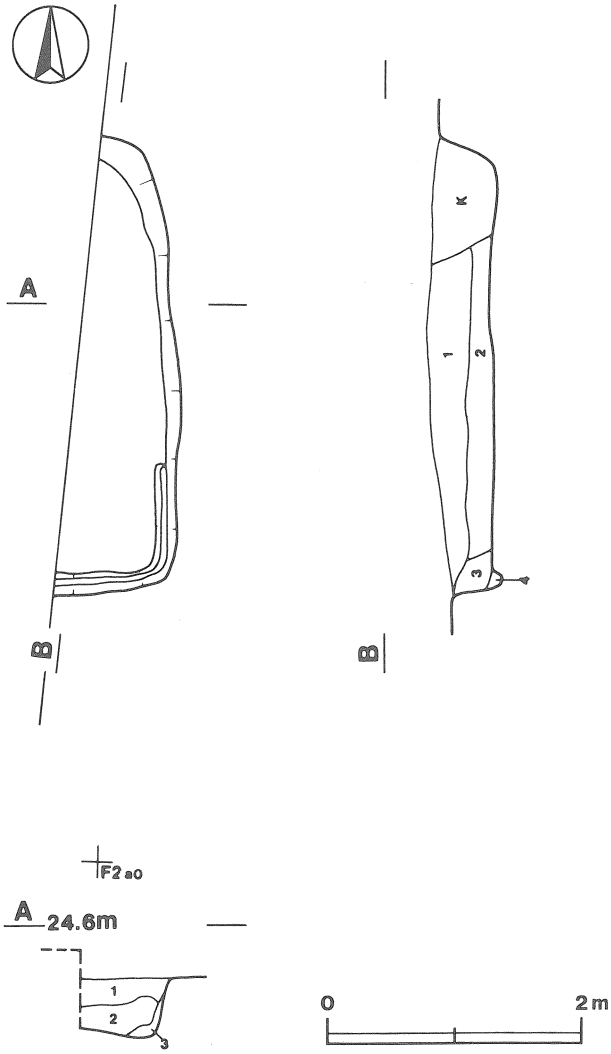
覆土　4層からなる。レンズ状に堆積し，自然堆積と思われる。

土層解説

1	黒褐色	ローム大ブロック中量，ローム小ブロック・同粒子少量，しまり強
2	灰褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
3	褐　色	ローム粒子多量，ローム大ブロック少量，炭化粒子少量
4	暗褐色	ローム小ブロック中量，粘性・しまり強

遺物　土師器片28点，須恵器片9点が出土している。いずれも小片で，図化できなかった。

所見　本跡は出土した遺物が少なく，時期は不明である。



第92図　第43号住居跡実測図

第45号住居跡（第93・94図）

位置　調査区域の南部，E3j3区。

重複関係　第1・2号土坑が本跡の床面を掘り込んでいることから，本跡が古い。

規模と平面形　長軸3.84m，短軸3.70mの方形である。

主軸方向　N－0°－W

壁　壁高は24～36cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　東壁際及び，南西コーナー付近から西側袖部付近にかけて巡る。断面はU字形で，上幅16～31cm，下幅6～13cmで，深さは3～10cmである。

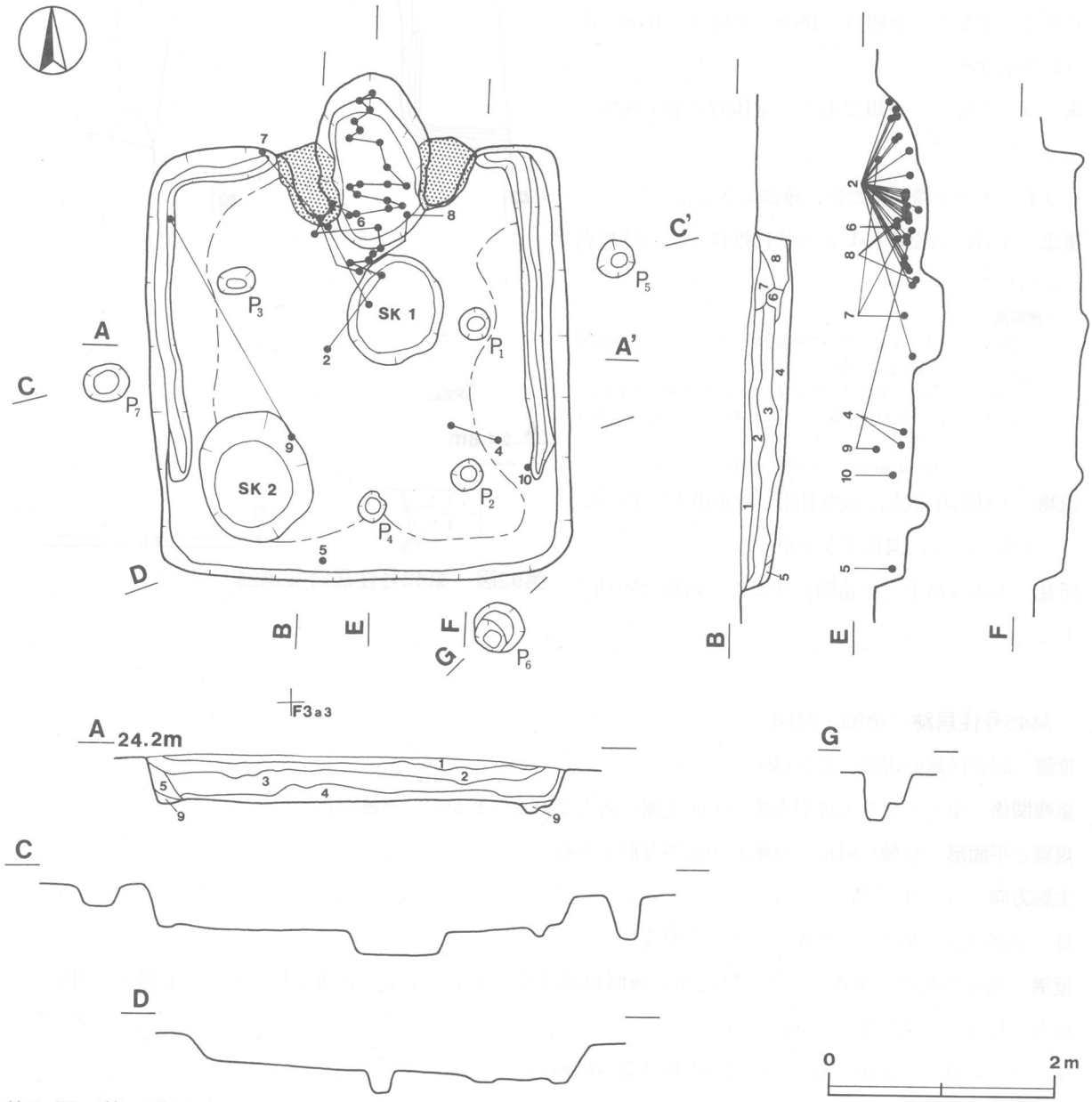
床　ローム質で，平坦である。柱穴の内側は踏み固められている。

竈　北壁中央部やや東寄りに構築されている。天井部は崩落し，両袖部が残る。規模は，煙道部上端から焚き

口部まで154cm，最大幅171cmである。煙道部は壁外へ74cm掘り込んでおり，煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。17～20層は，袖部の土層である。袖部は，灰褐色粘土を用いて構築されている。5層は，粘土粒子を含み，天井部を構築していた層と考えられる。火床部面は，皿状に床面から9cm掘り下げられている。火床面から煙道部にかけて，火熱を受けて硬化している。

竈土層解説

1	黒　　色	ローム粒子微量
2	極暗褐色	焼土粒子少量，粘土粒子微量
3	極暗褐色	粘土粒子中量，焼土粒子少量
4	暗　褐　色	焼土粒子少量，粘性・しまり弱
5	灰　褐　色	粘土粒子中量，焼土粒子少量，粘性・しまり強
6	黒　　色	焼土粒子微量
7	黒　褐　色	焼土粒子中量
8	暗　褐　色	焼土粒子・粘土粒子少量
9	黒　　色	砂粒微量，粘性・しまり弱
10	暗　褐　色	砂粒少量，粘性・しまり弱
11	黒　褐　色	焼土粒子少量
12	黒　褐　色	焼土小ブロック微量
13	暗　褐　色	ローム小ブロック・焼土粒子微量
14	極暗褐色	焼土粒子少量，炭化粒子微量
15	褐　灰　色	粘土粒子中量，焼土粒子少量
16	褐　　色	焼土粒子・灰中量，粘性・しまり弱
17	褐　　色	焼土粒子・粘土粒子少量
18	黒　褐　色	ローム粒子少量，粘性・しまり弱
19	暗　褐　色	ローム粒子微量
20	暗　褐　色	焼土粒子・炭化粒子少量
21	褐　　色	焼土粒子中量
22	褐　　色	ローム粒子多量
23	にぶい褐色	焼土粒子・炭化粒子少量



第93図　第45号住居跡実測図

ピット　7か所（P1～P7）。P1～P3は壁寄りに位置しており，主柱穴と考えられる。P1・P2は径28～30cmの円形，P3は長径34cm，短径23cmの楕円形で，深さは10～17cmである。P4は南壁寄り中央付近に位置しており，出入り口施設に伴うピットと考えられる。径27cmの円形で，深さは22cmである。P5～P7は，壁から18～24cm外側に位置する。P5・P6は径32～42cmの円形，P7は長径42cm，短径33cmの楕円形で，深さは18～42cmである。本跡の補助的な柱穴の可能性がある。

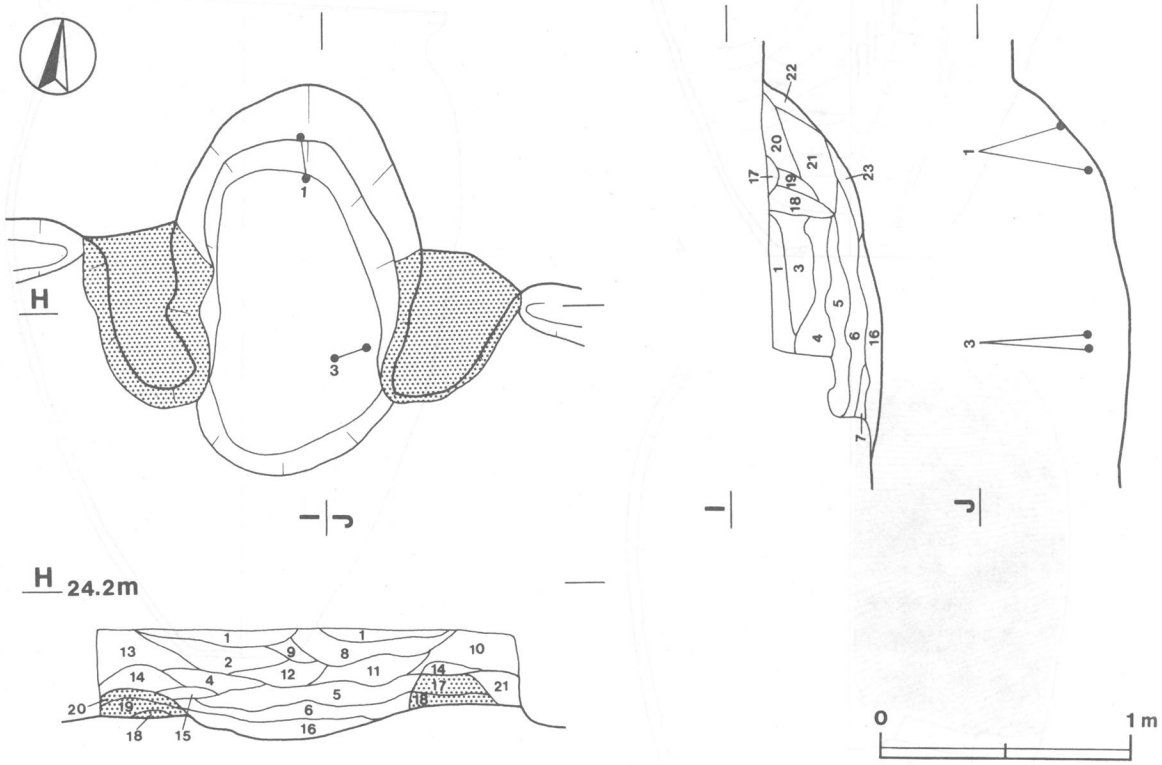
覆土　9層からなる。レンズ状に堆積するため，自然堆積と考えられる。

土層解説

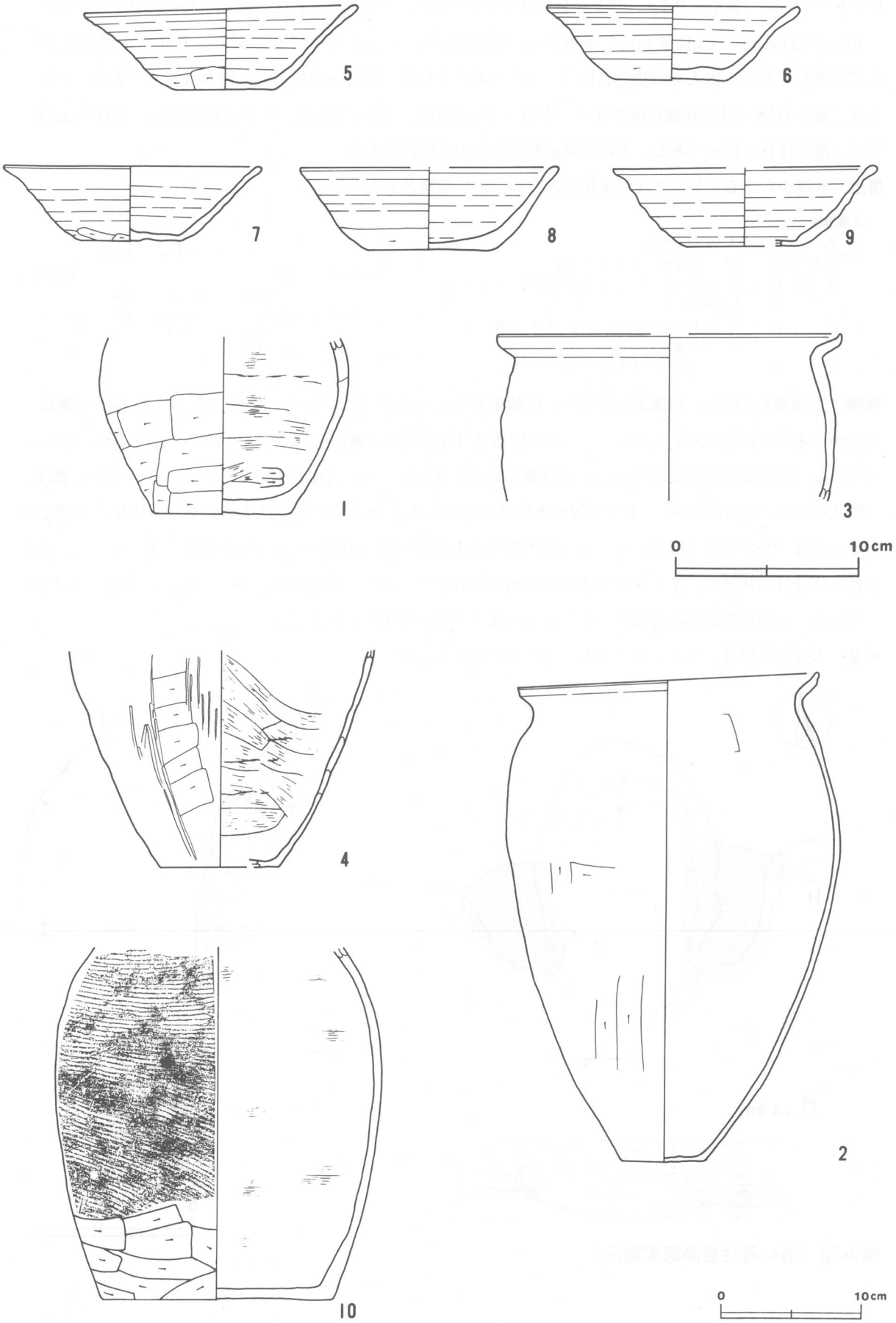
1	黒　色	ローム粒子少量
2	極暗褐色	ローム小ブロック・同粒子少量
3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
4	黒　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
5	褐　色	ローム小ブロック多量
6	橙　色	ローム大ブロック多量，しまり強
7	にぶい赤褐色	焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化物・粘土粒子少量，ローム大ブロック微量
8	にぶい赤褐色	焼土大ブロック・焼土粒子・粘土大ブロック・粘土粒子少量
9	褐　色	ローム粒子少量，粘性強

遺物　土師器片646点，須恵器片290点，灰釉陶器片1点が出土している。第95図1の土師器小形甕は，煙道部から逆位の状態で出土している。2の土師器甕は煙道部から竈前面にかけて，破片の状態で出土している。双方とも二次的な焼成を受けており，2は竈天井部の補強材である可能性が考えられる。3の土師器甕は，竈の覆土中からの出土である。4の土師器甕はP2寄りから，10の須恵器甕は東壁際から，横位の状態で覆土中から上層にかけて出土している。5の須恵器坏は南壁際の覆土中層から正位の状態で出土している。6の須恵器坏は逆位の状態で，7・8の須恵器坏は破片の状態で，それぞれ竈前面の覆土下層から中層にかけて出土している。9の須恵器坏は北東コーナー付近の覆土上層から破片の状態で出土している。

所見　本跡の時期は，出土した土器などから9世紀後半と考えられる。



第94図　第45号住居跡竈実測図



第95図　第45号住居跡出土遺物実測図

第45号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第95図 1	小形甕 土師器	B　(9.4) C　7.4	口縁部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面上半ナデ。体部外面下半ヘラ削り。体部内面ナデの後，一部ヘラ削り。	砂粒・雲母・白色粒子 にぶい黄橙色 普通	P294　60% 竈煙道部
2	甕 土師器	A　21.0 B　37.4 C　5.8	体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外傾して立ち上がり，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデの後，一部ヘラ削り。	砂粒・スコリア・石英 橙色 普通	P291　70% PL50 竈煙道部
3	甕 土師器	A　[18.6] B　(8.9)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は強く外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面，体部内面ナデ。体部外面は器面荒れ調整不明。	砂粒・石英・スコリア・雲母 明赤褐色　普通	P292　25% 竈覆土中層
4	甕 土師器	B　(15.4) C　[8.4]	体部から底部の破片。平底。体部は若干内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削りの後，一部棒状工具で縦位のナデ。体部内面ヘラナデ。	砂粒・石英・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P293　30% 覆土中層
5	坏 須恵器	A　14.5 B　4.6 C　5.4	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて若干外反して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・スコリア 暗灰色 普通	P284　60% PL50 覆土中層
6	坏 須恵器	A　13.3 B　4.0 C　6.0	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。口縁端部付近で若干外反する。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・雲母 灰黄色 普通	P286　80% PL50 覆土中層
7	坏 須恵器	A　13.9 B　4.0 C　5.3	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。口縁端部付近で若干外反する。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・雲母・長石 黄灰色 普通	P287　75% PL50 覆土下～中層
8	坏 須恵器	A　13.9 B　4.5 C　6.6	口縁部から体部の破片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・白色粒子 黄灰色 普通	P288　50% 覆土下層
9	坏 須恵器	A　[14.1] B　4.3 C　[6.2]	口縁部から底部の破片。平底。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がる。口縁端部付近で若干外反する。	体部外面強いロクロナデ。体部内面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・雲母・白色粒子・礫 にぶい赤褐色 良	P285　40% 覆土上層
10	甕 須恵器	B　(25.0) C　[16.4]	体部から底部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面横位の平行叩き。体部下端ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・石英・雲母 灰黄褐色　普通	P295　50% 覆土中～上層

第46号住居跡（第96図）

位置　調査区域の南部，F３a2区。第45号住居跡の南に位置する。

重複関係　第３号土坑と重複している。第３号土坑が本住居跡の床面を掘り込んでいることから，本跡が古いと思われるが，土層断面では第３号土坑の掘り込みを確認できなかった。

規模と平面形　長軸4.03m，短軸4.00mの方形である。

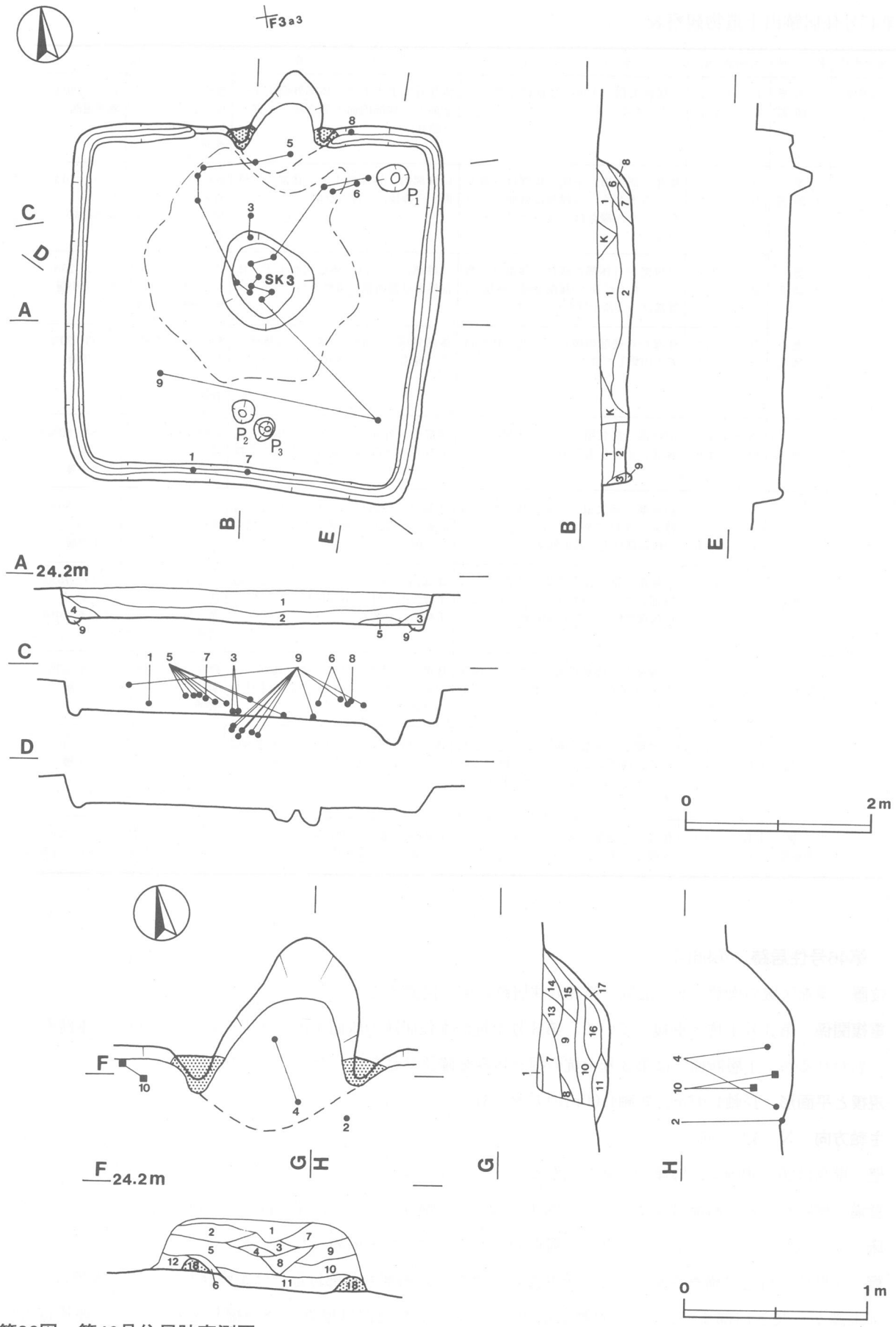
主軸方向　N－12°－E

壁　壁高は26～40cmで，外傾して立ち上がる。

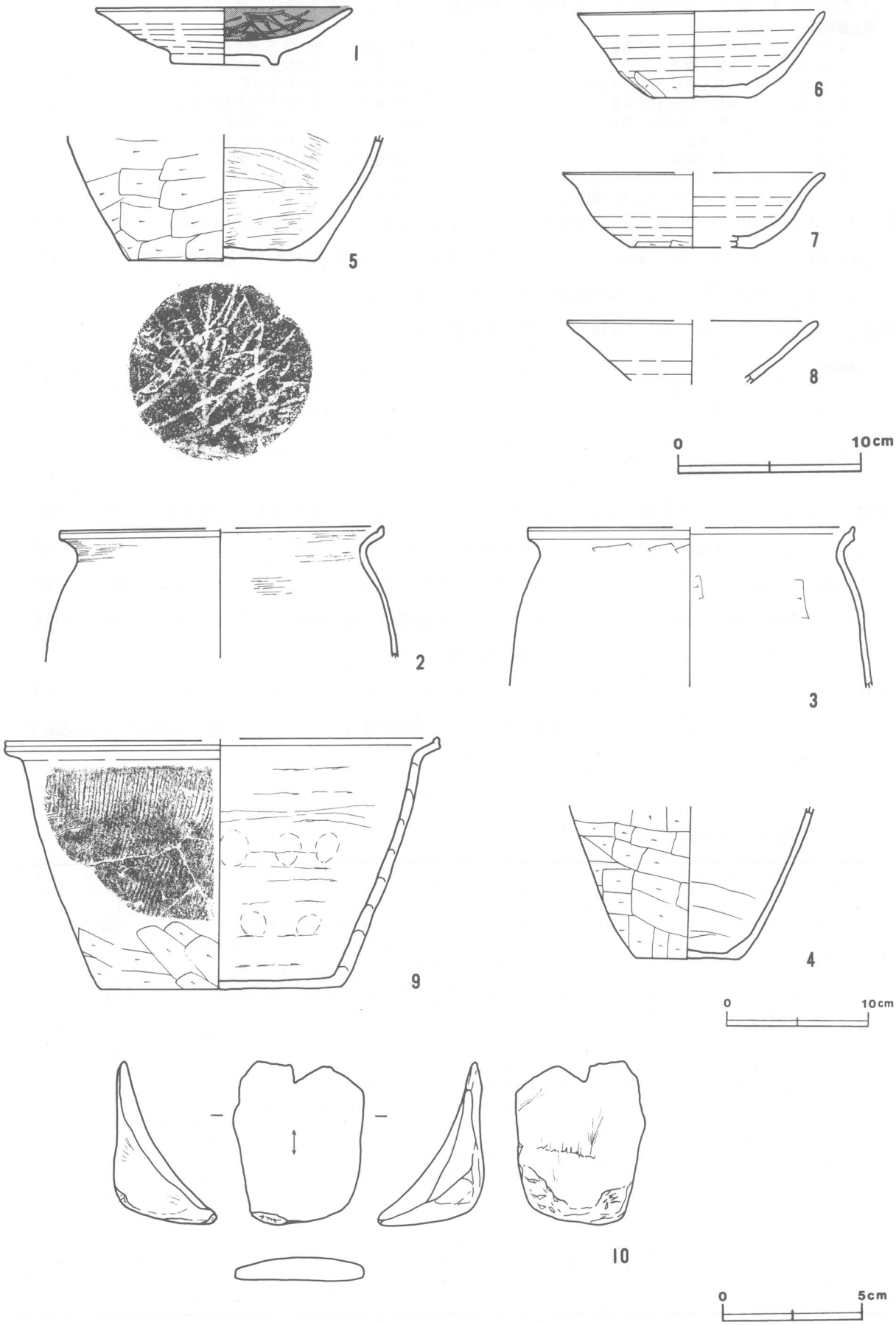
壁溝　壁際を巡る。断面はU字形で，上幅16～24cm，下幅６～12cmで，深さは４～８cmである。

床　ローム質で，平坦である。P２から竈前面にかけては，踏み固められている。

竈　北壁中央付近に構築されている。天井部は崩落し，両袖部も基部付近だけが残存している。規模は，煙道部上端から焚き口部まで105cm，両袖部幅106cmである。煙道部は壁外へ68cm掘り込んでおり，煙道は外傾して立ち上がる。18層は袖部の土層である。袖部は，灰褐色粘土を使用して構築されている。火床部は床面



第96図　第46号住居跡実測図



第97図　第46号住居跡出土遺物実測図

とほぼ同じ高さで続き，平坦である。火床面から煙道部にかけて，火熱を受けて硬化している。

竈土層解説

1　暗褐色　ローム粒子･赤色粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子少量,粘土粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子･粘土粒子少量
5　黒褐色　ローム粒子･炭化粒子微量
6　褐灰色　粘土粒子多量
7　黒褐色　ローム粒子微量
8　黒褐色　焼土粒子･粘土粒子･砂粒少量
9　黒　色　ローム粒子少量，粘土粒子微量
10　極暗褐色　焼土粒子･粘土粒子微量
11　暗褐色　焼土粒子･砂粒少量
12　褐灰色　粘土粒子中量
13　暗褐色　焼土粒子･炭化粒子少量
14　褐　色　ローム粒子微量
15　暗褐色　粘土粒子少量,粘性･しまり弱
16　暗褐色　ローム粒子微量
17　褐　色　ローム粒子中量
18　灰褐色　粘土粒子中量

ピット　3か所（P1～P3）。P1は北東コーナー付近に位置し，主柱穴と考えられる。長径36cm，短径31cmの楕円形で，深さは27cmである。P2・P3は，南壁よりの中央部付近に位置する。径24～26cmの円形で，深さは14～20cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　9層からなる。レンズ状に堆積し，自然堆積と思われる。

土層解説

1　黒褐色　ローム粒子少量
2　黒褐色　ローム粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック少量
4　暗褐色　ローム小ブロック少量
5　暗褐色　ローム粒子中量
6　褐　色　ローム中ブロック･ローム粒子･焼土中ブロック少量
7　褐　色　ローム粒子少量
8　灰褐色　ローム小ブロック･ローム粒子･焼土小ブロック少量
9　褐　色　ローム粒子少量,粘性強

遺物　土師器片553点，須恵器片334点，石片2点が出土している。第97図1の土師器高台付皿は正位の状態で，7の須恵器坏は逆位の状態で，それぞれ南壁際中央付近の覆土中層から出土している。2～5の土師器甕は，竈内から竈前面にかけて出土している。6の須恵器坏は逆位の状態で，8の須恵器坏は破片の状態で，それぞれ竈東側の覆土中層から出土している。9の須恵器甕は，竈東側の床面上から覆土中層及び第34号土坑内から破片の状態で出土している。10は，竈西側の覆土下層から出土している。

所見　第3号土坑と本住居跡との関係は，第97図9が第3号土坑内と竈東側床面上の破片同士で接合することから，第3号土坑は本跡に伴う遺構の可能性がある。本跡の時期は，出土した土器の特徴から9世紀後半と考えられる。

第46号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第97図 1	高台付皿 土師器	A 13.8 B 3.2 D 5.9 E 0.5	口縁部一部欠損。体部から口縁部にかけて大きく開く。高台はほぼ垂下する。	体部外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。体部内面磨き，黒色処理。高台貼り付け後，内・外面ナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・石英・長石 にぶい橙色 普通	P300　70% 覆土中層
2	甕 土師器	A [22.8] B (9.1)	口縁部から体部の破片。口縁部は外反して立ち上がり，端部はつまみ上げられている。体部は内彎して立ち上がる。	口縁部，体部内・外面器面荒れ調整不明。	砂粒・雲母・白色粒子 橙色 普通	P301　30% 床面
3	甕 土師器	A [23.0] B (11.2)	口縁部から体部の破片。体部は若干内彎して立ち上がる。口縁部は弱く外反して立ち上がり，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。体部内面ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・石英・スコリア にぶい赤褐色 普通	P302　30% 覆土下層
4	甕 土師器	B (10.7) C 7.3	体部から底部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・石英・スコリア にぶい赤褐色 普通	P303　30% 覆土下～中層
5	甕 土師器	B (6.8) C 9.9	体部から底部の破片。平底。体部は若干内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り，内面ナデ。底部木葉痕。	砂粒・スコリア にぶい赤褐色 普通	P304　30% 覆土下～中層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第97図 6	坏 須恵器	A　13.4 B　4.8 C　5.4	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部下端手持ちヘラ削り。体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り痕を残し，一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・スコリア・長石 黄灰色　普通	P297　80% PL50 覆土中層
7	坏 須恵器	A　[14.2] B　4.1 C　[6.8]	口縁部から底部の破片。平底。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がり，口縁端部付近で若干外反する。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部手持ちヘラ削り。	砂粒・スコリア・雲母・白色粒子 にぶい黄褐色 普通	P298　40% 覆土中層
8	坏 須恵器	A　[13.4] B　(3.3)	口縁部から体部の破片。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	内・外面ロクロナデ。	砂粒 黄灰色 普通	P299　40% 覆土中層
9	甕 須恵器	A　[30.4] B　17.8 C　17.1	口縁部から底部の破片。平底。口縁部は外傾して立ち上がり，端部はつまみ上げられ，内側には面取りを施す。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位の平行叩き。体部下端ヘラ削り。体部内面ナデの後，一部指頭圧痕。	砂粒 黄灰色 普通	P306　50% 床面～覆土下層

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第97図10	砥　石	(5.8)	5.7	0.9	(59.1)	覆土下層	Q29　凝灰岩　PL53

第47号住居跡（第98・99図）

位置　調査区域の南部，F2a0区。

重複関係　第2号掘立柱建物が本跡の覆土を掘り込んで構築されているので，本跡の方が古い。

規模と平面形　長軸5.25m，短軸4.87mの方形である。

主軸方向　N－1°－W

壁　壁高は18～24cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　壁際を巡る。断面はU字形で，上幅8～22cm，下幅4～10cmで，深さは4～7cmである。

床　ローム質で，平坦である。ピットの内側が踏み固められている。

竈　2基確認されている。竈1は，北壁中央付近に構築されている。天井部は崩落しており，第2号掘立柱建物の掘り方によって袖部が破壊されている。規模は，煙道部上端から西側袖部の先端まで109cm，両袖部幅で149cmである。煙道部は壁外へ56cm掘り込んでおり，煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。袖部は，砂粒混じりの灰褐色粘土を中心に構築されている。1層及び8層は，天井部の土層と考えられる。火床部は平坦で，床面とほぼ同じ高さである。火床面から煙道部にかけて，火熱を受けて硬化している。

竈2は東壁の南東コーナー付近に構築されている。天井部は崩落し，両袖部が残存している。規模は，煙道部上端から南側袖部の先端まで70cm，両袖部幅124cmである。煙道部は壁外へ20cmほど掘り込んでおり，煙道は外傾して立ち上がる。袖部は，砂粒混じりの灰褐色粘土を中心に構築されている。1～4層は砂粒または粘土粒子を含んでおり，天井部の土層と考えられる。火床部は床面から同じ高さで続き，竈中央付近を円形に深さ5cmほど掘り込んでいる。火床面から煙道部にかけて，火熱を受けて硬化している。

竈1土層解説

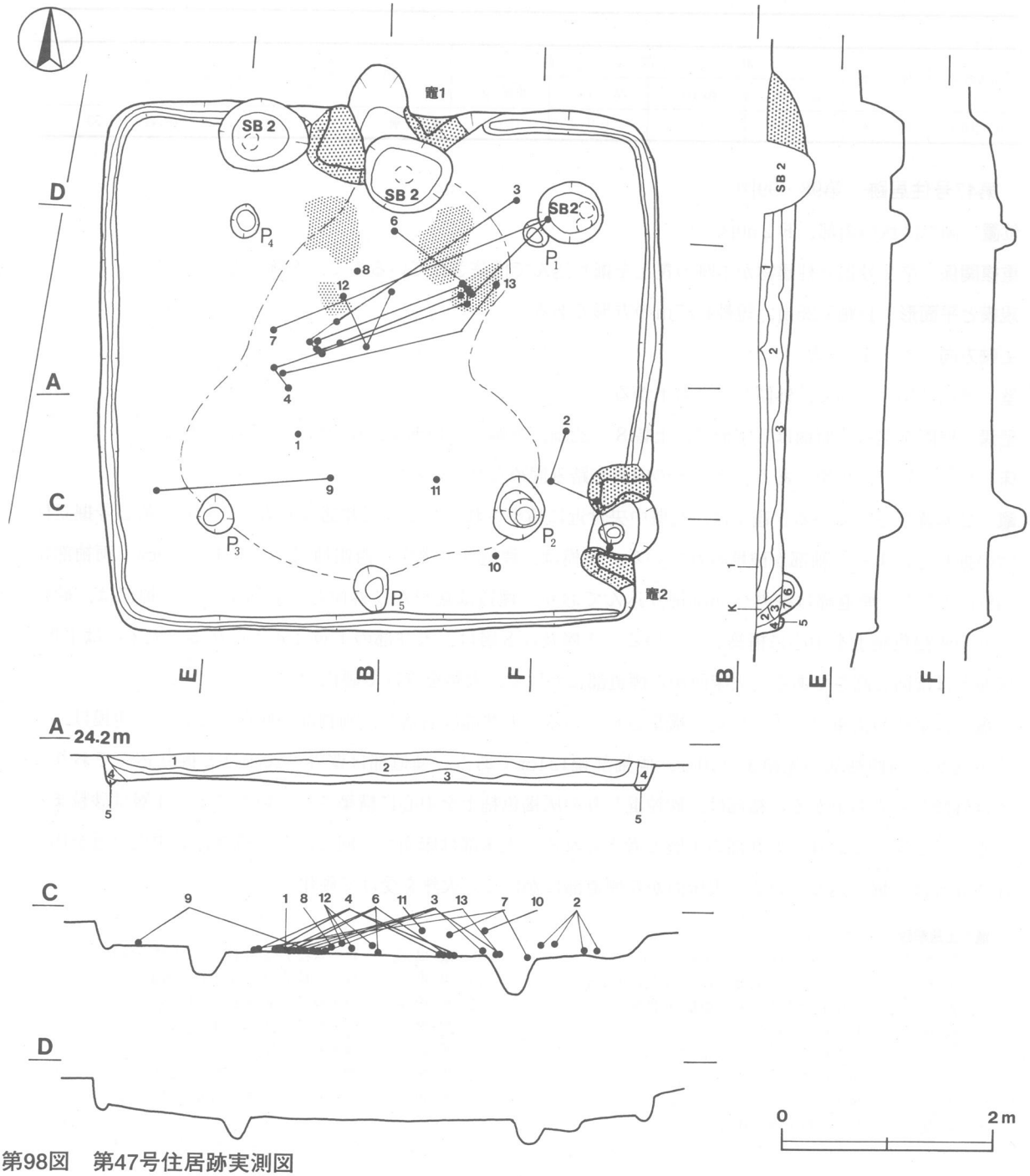
1　暗褐色　ローム粒子・粘土粒子少量
2　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　褐　色　灰粒子少量，粘土粒子微量，粘性強
4　暗褐色　粘土粒子少量
5　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量
6　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子少量
7　黒褐色　焼土小ブロック・同粒子少量
8　暗褐色　ローム粒子・粘土粒子微量
9　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
10　黒褐色　ローム粒子少量，粘土粒子微量
11　暗褐色　焼土粒子中量，粘性・しまり弱
12　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子少量
13　暗褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量
14　黒褐色　焼土小ブロック，粘性・しまり弱
15　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子少量

竈２土層解説

1	暗　褐　色	ローム小ブロック・焼土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック微量	5	極暗赤褐色	焼土小ブロック・同粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量，しまり弱
2	暗赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	6	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量，しまり弱
3	灰　褐　色	ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量	7	明赤褐色	焼土大ブロック多量，しまり強
4	極暗赤褐色	焼土中ブロック・同小ブロック・同粒子中量，炭化粒子少量，砂粒微量	8	暗赤褐色	ローム粒子中量，炭化粒子少量

ピット　５か所（Ｐ１～Ｐ５）。Ｐ１～Ｐ４は，それぞれコーナー側に片寄って位置し，主柱穴と考えられる。Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４は径26～38cmの円形，Ｐ２は長径57cm，短径46cmの楕円形で，深さは22～36cmである。Ｐ５は南壁際中央付近に位置し，出入り口施設に伴うピットである。長径43cm，短径34cmの楕円形で，深さは18cmである。

覆土　７層からなる。５・６層はＰ５の土層である。竈前面の床面上には，焼土が薄く堆積している。レンズ



第98図　第47号住居跡実測図

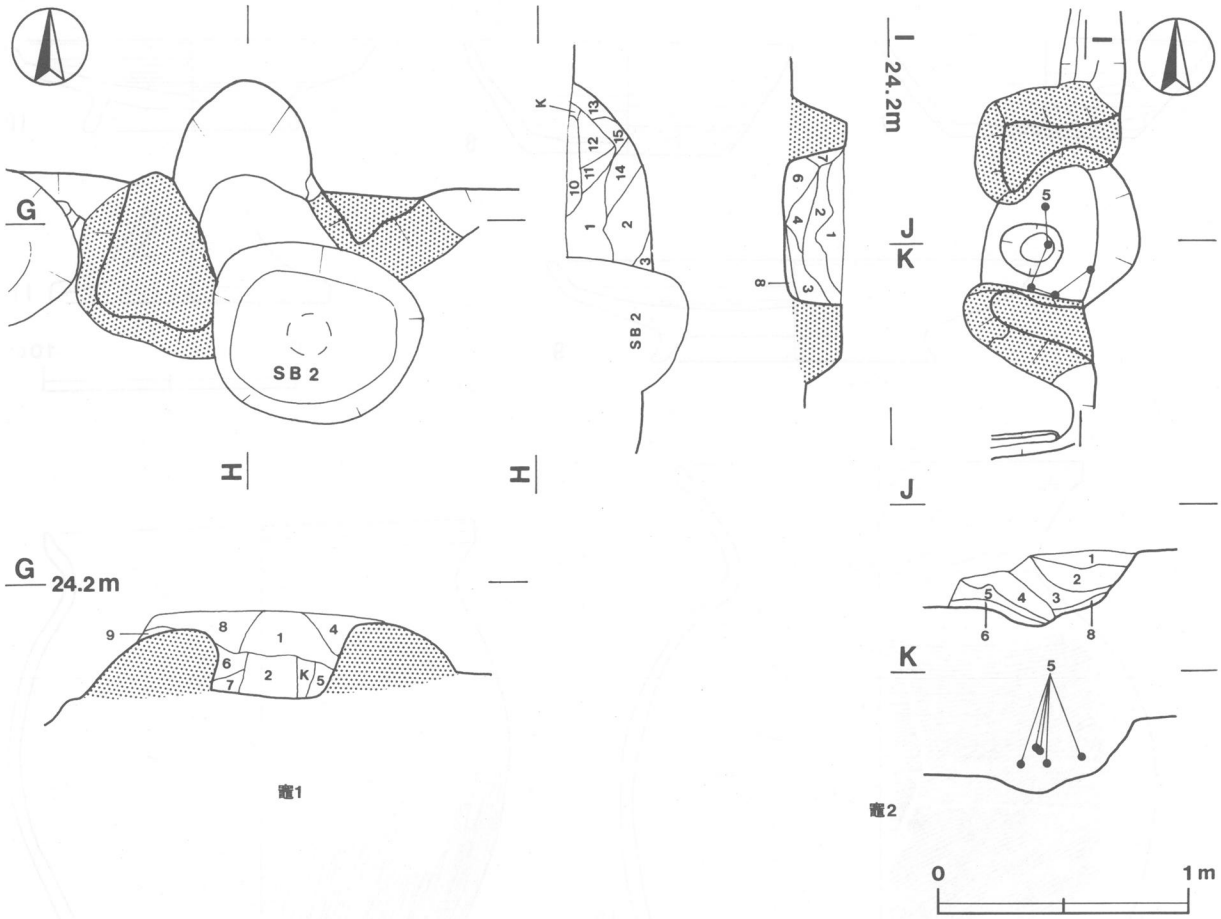
状に堆積し，自然堆積と思われる。

土層解説

1　黒　　色　ローム粒子少量
2　灰 褐 色　ローム小ブロック少量，焼土小ブロック微量
3　褐　　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
4　明 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，しまり強
5　褐　　色　ローム小ブロック中量
6　暗 褐 色　ローム粒子微量
7　褐　　色　ローム粒子少量

遺物　土師器片444点，須恵器片154点，陶器片１点が出土している。第100図１の土師器甕は覆土下層から正位の状態で，２の土師器甕は竈２前面の覆土下層から破片の状態で，それぞれ出土している。３・４・６～８の須恵器坏は，住居跡中央付近の床面上から覆土下層にかけて，破片の状態で出土している。５の須恵器坏は竈２の覆土中層から出土している。９の須恵器盤は正位の状態で南壁寄りの床面上から，10の須恵器盤は逆位の状態でＰ２の南側の覆土中層から，それぞれ出土している。11の須恵器高坏は，Ｐ２の西側の覆土上層から出土している。12・13の須恵器甕は，中央部付近の床面上から破片の状態で出土している。

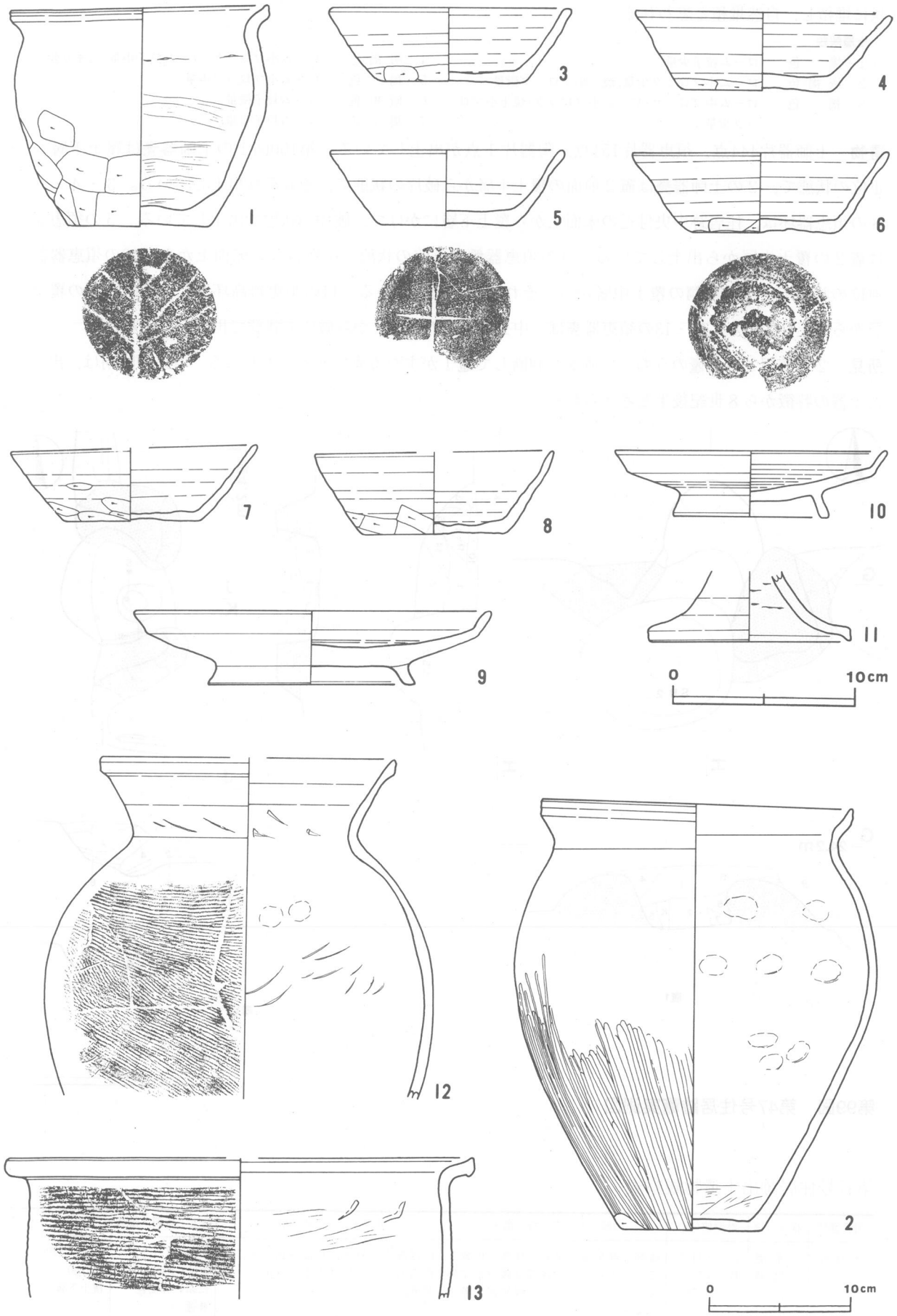
所見　２基確認された竈のうち，位置から判断して竈１が主たる竈であると思われる。本跡の時期は，出土した土器の特徴から８世紀後半と考えられる。



第99図　第47号住居跡竈実測図

第47号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第100図 1	小形甕 土師器	A　14.1 B　12.1 C　7.7	体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は緩やかに外反して立ち上がり，口縁端部は若干つまみ上げられている。	口縁部内・外面，体部外面上半，体部内面ナデ。体部下半ヘラ削り。木葉痕。	砂粒・スコリア・雲母・長石 にぶい赤褐色 普通	P322　90% PL50 覆土下層



第100図　第47号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第100図 2	甕 土師器	A　22.6 B　30.6 C　10.2	体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。	口縁部内・外面，体部外面上半ナデ。体部外面下半縦位の磨き。体部内面ナデ，一部指頭圧痕を残す。	砂粒・雲母・白色粒子 にぶい赤褐色 普通	P318　70% PL50 覆土下層
3	坏 須恵器	A　13.2 B　4.1 C　7.6	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部下端手持ちヘラ削り。体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り痕を残し，一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 暗灰黄色 普通	P310　80% PL51 床面
4	坏 須恵器	A　14.0 B　4.2 C　8.2	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り痕を残し，一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・スコリア・雲母 にぶい赤褐色 普通	P309　70% 床面
5	坏 須恵器	A　12.7 B　4.1 C　7.2	体部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・雲母・長石 黄灰色 普通	P311　70% PL50 ヘラ記号「×」 竈2覆土中層
6	坏 須恵器	A　13.7 B　4.4 C　7.7	口縁部から体部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り痕を残し，手持ちヘラ削り。	砂粒 灰色 普通	P312　60% PL51 床面
7	坏 須恵器	A　[13.4] B　4.2 C　7.2	口縁部から体部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・雲母・長石 黄灰色 普通	P313　55% 床面～覆土下層
8	坏 須恵器	A　[13.0] B　4.4 C　[7.7]	口縁部から底部の破片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母 黄灰色 普通	P314　45% 覆土下層
9	盤 須恵器	A　19.4 B　4.0 D　11.2 E　1.0	口縁部一部欠損。体部は外傾して立ち上がり，口縁部との境界に稜を持つ。口縁部は外傾して立ち上がる。高台はハの字状に開く。	口縁部内，外面・体部外面ナデ。体部内面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，内・外面ナデ。	砂粒・雲母・白色粒子 黒褐色　普通	P315　90% PL51 床面
10	盤 須恵器	A　14.7 B　3.6 D　8.5 E　1.4	口縁部から体部一部欠損。体部は大きく開き，口縁部との境界に稜を持つ。口縁部は外傾して立ち上がる。高台はハの字状に開く。	口縁部～体部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け後，ナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母 灰黄褐色 普通	P316　70% 覆土中層
11	高　坏 須恵器	B　(3.9) D　[11.0]	脚部の破片。脚は外反して広がり，脚端部は下方につまみ出される。	脚部内・外面ロクロナデ。	砂粒・石英・長石 灰色 普通	P317　90% 覆土上層
12	甕 須恵器	A　[20.9] B　(24.3)	口縁部一部・底部欠損。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は緩やかに外傾して立ち上がる。口縁端部は断面台形を呈す。	口縁端部ナデ。口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き。体部内面ナデ，同心円状の当て具痕有り。	砂粒・雲母 灰色 良	P320　60% PL51 床面
13	甕 須恵器	A　[33.0] B　(10.1)	口縁部から体部の破片。体部は若干内彎して立ち上がる。口縁部は強く外反し，端部を若干つまみ上げる。	口縁部内・外面ナデ。体部外面横位の平行叩き。体部内面ナデ，同心円状の当て具痕有り。	砂粒・スコリア・雲母 橙色　普通	P321　25% 床面

第48号住居跡（第101図）

位置　調査区域の南部，F2d9区。

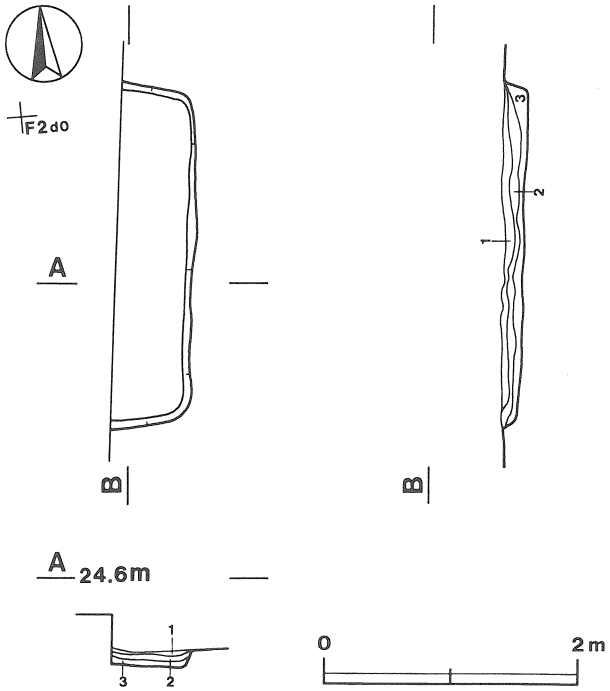
規模と平面形　住居の西側が調査区域外に位置している。南北2.66m，東西（0.6）mの方形または長方形と推定される。

方向　東壁はN－6°－Eを向く。

壁　壁高は12～16cmで，外傾して立ち上がる。

床　ローム質で，平坦である。

ピット　床面を精査したが，確認できなかった。



第101図　第48号住居跡実測図

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積し，自然堆積と思われる。

土層解説

1	にぶい褐色	ローム小ブロック中量
2	にぶい褐色	ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量
3	暗　褐　色	ローム大ブロック・同小ブロック少量

遺物　土師器片4点，須恵器片4点が出土している。いずれも小片であり，図示し得なかった。

所見　本跡の時期は，明らかではない。

第50号住居跡（第102図）

位置　調査区域の南部，E3g6区。

規模と平面形　長軸3.94m，短軸3.47mの長方形である。

主軸方向　N－22°－E

壁　壁高は8～14cmで，外傾して立ち上がる。

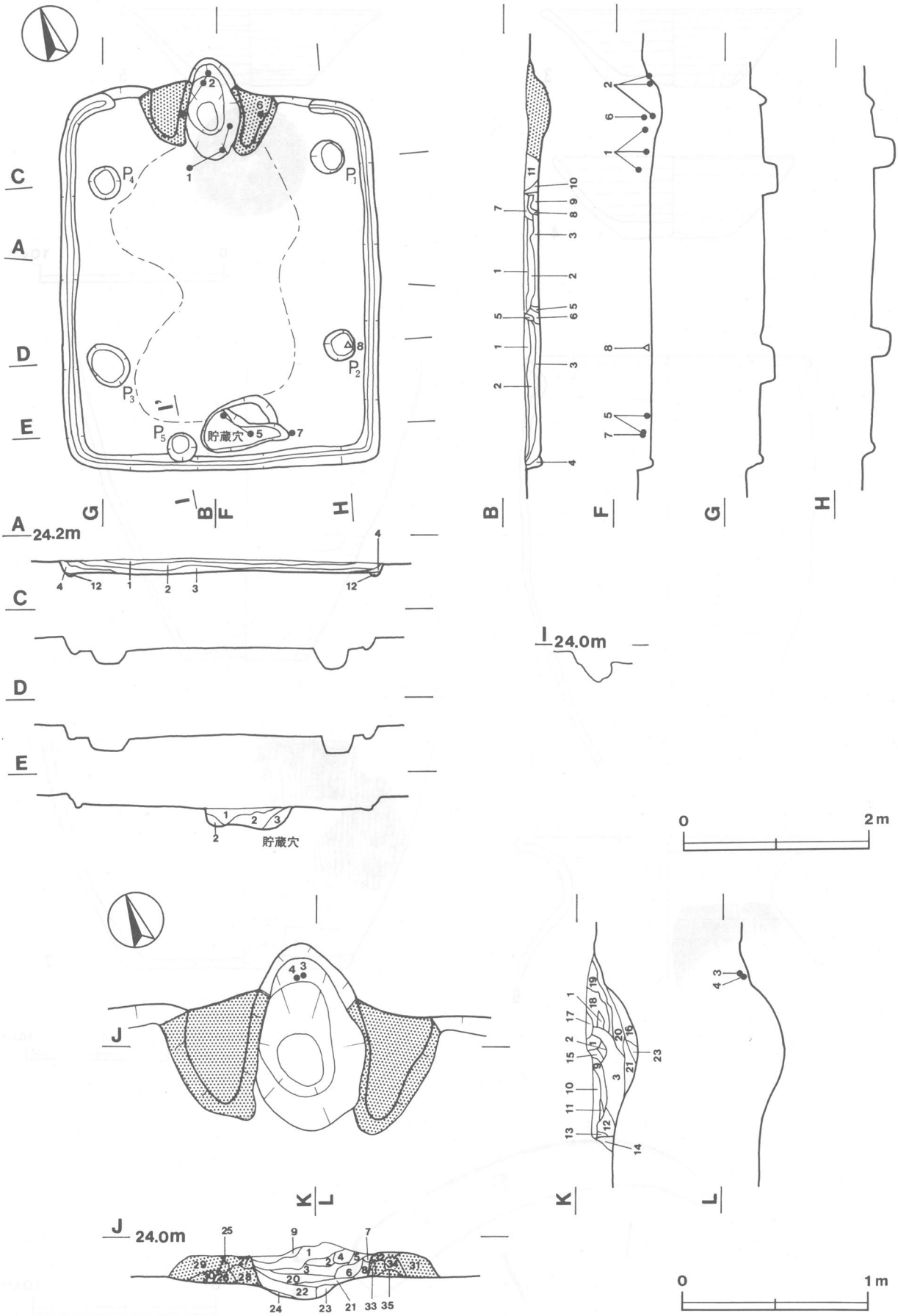
壁溝　壁際を巡る。断面はU字形で，上幅11～22cm，下幅3～8cm，深さは4～6cmである。

床　ローム質で，平坦である。ピットの内側は踏み固められている。

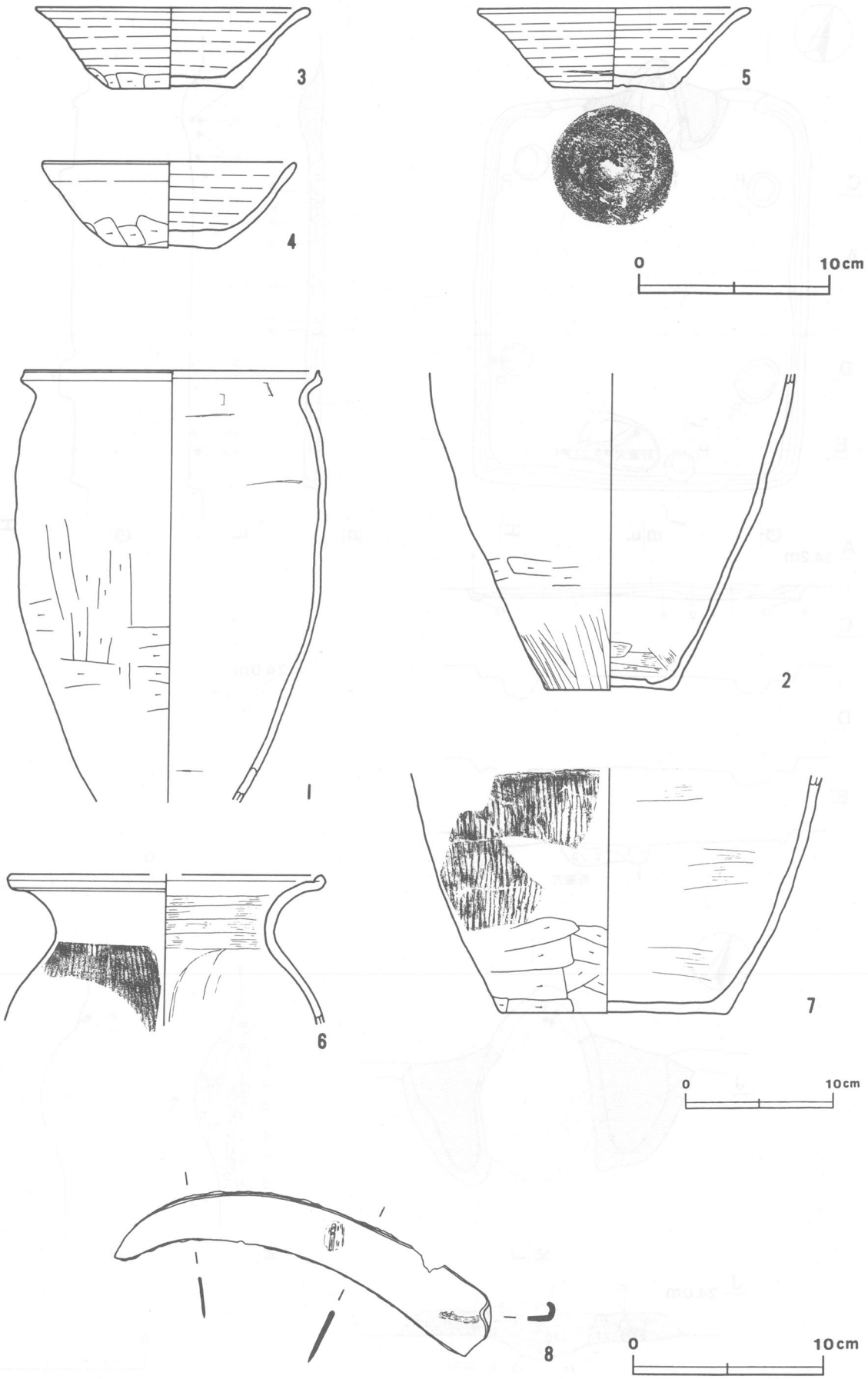
竈　北壁中央部に構築されている。天井部は崩落し，両袖部が残存している。規模は，煙道部上端から焚き口部まで100cm，両袖部外側の基部で152cmである。煙道部は壁外へ30cm掘り込んでおり，煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。25～35層は袖部の土層である。袖部は，灰褐色粘土を芯材として構築されている。10・11層は粘土粒子・砂粒を含み，崩落した天井部の土層と思われる。火床部は，長径60cm，短径40cmの楕円形で，床面から深さ9cmほど掘り込まれている。火床面から煙道部にかけて，火熱を受けて硬化している。

竈土層解説

1	灰　褐　色	粘土中ブロック・同小ブロック中量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量，しまり強
2	灰　褐　色	粘土粒子多量，焼土粒子・炭化物・砂粒少量，焼土大ブロック微量，しまり強
3	暗赤褐色	炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
4	にぶい赤褐色	焼土粒子・炭化物・砂粒少量，しまり強
5	灰　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量，しまり強
6	暗赤褐色	焼土粒子・粘土小ブロック・砂粒少量，しまり強
7	灰　褐　色	ローム小ブロック・砂粒中量，しまり強
8	灰　褐　色	粘土中ブロック中量，焼土粒子少量，しまり強
9	にぶい赤褐色	粘土小ブロック中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂粒少量
10	灰　褐　色	ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子・砂粒少量
11	灰　褐　色	粘土小ブロック多量，粘性・しまり強
12	暗赤褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
13	灰　褐　色	粘土小ブロック中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂粒少量
14	黒　褐　色	ローム粒子・炭化粒子少量
15	黒　褐　色	ローム小ブロック・同粒子少量
16	黒　褐　色	ローム小ブロック・焼土中ブロック少量
17	暗赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
18	灰　褐　色	粘土小ブロック・粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，粘性強
19	暗赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量，粘性・しまり強
20	暗赤褐色	焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，しまり強



第102図　第50号住居跡実測図



第103図　第50号住居跡出土遺物実測図

21　褐　灰　色　砂粒中量,ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
22　にぶい赤褐色　ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
23　にぶい褐色　ローム大ブロック中量,ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
24　にぶい褐色　ローム小ブロック中量,ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
25　にぶい褐色　粘土粒子多量,ローム粒子少量,粘性強
26　明　褐　色　ローム粒子多量,粘性強
27　明灰褐色　粘土粒子多量,粘性強
28　灰　褐　色　粘土粒子多量,焼土粒子少量,粘性強
29　灰　褐　色　粘土粒子中量,焼土粒子少量
30　暗　褐　色　ローム中ブロック少量
31　褐　　色　ローム小ブロック中量
32　灰　褐　色　粘土粒子多量,ローム粒子中量
33　灰　褐　色　粘土粒子多量
34　明　褐　色　ローム粒子多量,粘土粒子中量,粘性強
35　にぶい褐色　ローム粒子多量

貯蔵穴　南壁際中央付近に位置する。長軸86cm，短軸52cmの不整長方形で，深さは22cmである。底面は若干起伏があり，壁はほぼ垂直に立ち上がる。

貯蔵穴土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子微量,粘性強

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は，それぞれ壁寄りに位置し，主柱穴と考えられる。P1・P2・P4は径26～28cmの円形，P3は長径48cm，短径40cmの楕円形で，深さは15～26cmである。P5は南壁際に位置し，径30cmの円形で，深さは22cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　10層からなる。レンズ状に堆積するため，自然堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム小ブロック中量
3　暗　褐　色　ローム小ブロック・同粒子中量
4　黒　褐　色　ローム中ブロック微量
5　暗　褐　色　ローム粒子多量
6　褐　　色　ローム粒子多量,粘性・しまり強
7　暗　褐　色　ローム粒子多量,炭化粒子少量
8　黒　褐　色　ローム粒子中量
9　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
10　黒　褐　色　粘土粒子少量,炭化粒子微量

遺物　土師器片76点，須恵器片157点，鉄製品1点（鎌）が出土している。第103図1・2の土師器甕は，竈内から出土している。1は焚き口部寄りの覆土中層から，2は煙道部寄りの底面から覆土下層にかけて，それぞれ破片の状態で出土している。3・4の須恵器坏は，竈煙道部の底面上に，下から4・3と重なって逆位の状態で出土している。2点とも外面には二次焼成を受けた痕跡が認められ，支脚として転用されていたと思われる。5の須恵器坏は，貯蔵穴付近の覆土下層から逆位の状態で出土している。6の須恵器甕は，竈東側袖部の上面から横位の状態で出土している。7の須恵器甕は南壁際東寄りの，8の鎌は東壁際南寄りの，それぞれ覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物の特徴から9世紀後半と考えられる。

第50号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第103図 1	甕 土師器	A　20.1 B　(29.1)	口縁部から底部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は緩やかに外反し，端部を若干つまみ上げる。	口縁部内・外面ナデ。体部外面上半部・下端ナデ。中位ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・スコリア 橙色　普通	P326　50% PL51 竈覆土中層
2	甕 土師器	B　(21.6) C　8.4	体部下半から底部の破片。平底。体部は若干内彎して立ち上がる。	体部外面ナデ，一部ヘラ削り。体部下端縦位の磨き。体部内面は器面荒れ，調整不明。	砂粒・石英・雲母 明赤褐色 普通	P327　40% 竈煙道部
3	坏 須恵器	A　14.2 B　4.1 C　6.4	完形。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。口縁端部付近は若干外反する。	体部外面強いロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。体部内面ロクロナデ。底部一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・雲母・長石 にぶい黄褐色 良	P324　100% PL51 竈煙道部
4	坏 須恵器	A　12.9 B　4.5 C　5.3	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。体部内面ロクロナデ。底部一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 良	P323　80% PL51 竈煙道部

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第5図 5	坏 須恵器	A　14.0 B　4.3 C　6.0	口縁部一部欠損。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がり，端部付近は若干外反する。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り痕を残し，一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・雲母・白色粒子 暗灰黄色 普通	P325　75% PL51 覆土下層
6	甕 須恵器	A　[21.0] B　(10.2)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は緩やかに外反する。口縁端部は若干つまみ上げられ，断面三角形を呈している。	口縁部内・外面，体部内面ナデ。体部外面縦位の平行叩き。	砂粒・石英・スコリア・雲母・白色粒子 黒褐色 良	P328　30% 竈袖部
7	甕 須恵器	B　(16.2) C　[16.4]	体部から底部の破片。平底。体部は若干内彎して立ち上がる。	体部外面縦位の平行叩き，内面ナデ。	砂粒・雲母・白色粒子 にぶい褐色　普通	P329　30% 覆土中層

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第103図8	鎌	19.0	3.3	0.2	(43.4)	東壁寄り覆土中層	M13　有機物付着　PL54

第51号住居跡（第104図）

位置　調査区域の南部，E3i7区。

重複関係　第52号住居跡の覆土を掘り込んで構築されているので，本跡の方が新しい。

規模と平面形　長軸3.79m，短軸3.52mの方形である。

主軸方向　N－10°－E

壁　壁高は26～32cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　東壁及び，南壁南東コーナー付近から北西コーナー付近にかけて巡る。断面はU字形で，上幅14～28cm，下幅8～17cm，深さは5～10cmである。

床　ローム質で，ほぼ平坦である。中央部が踏み固められている。

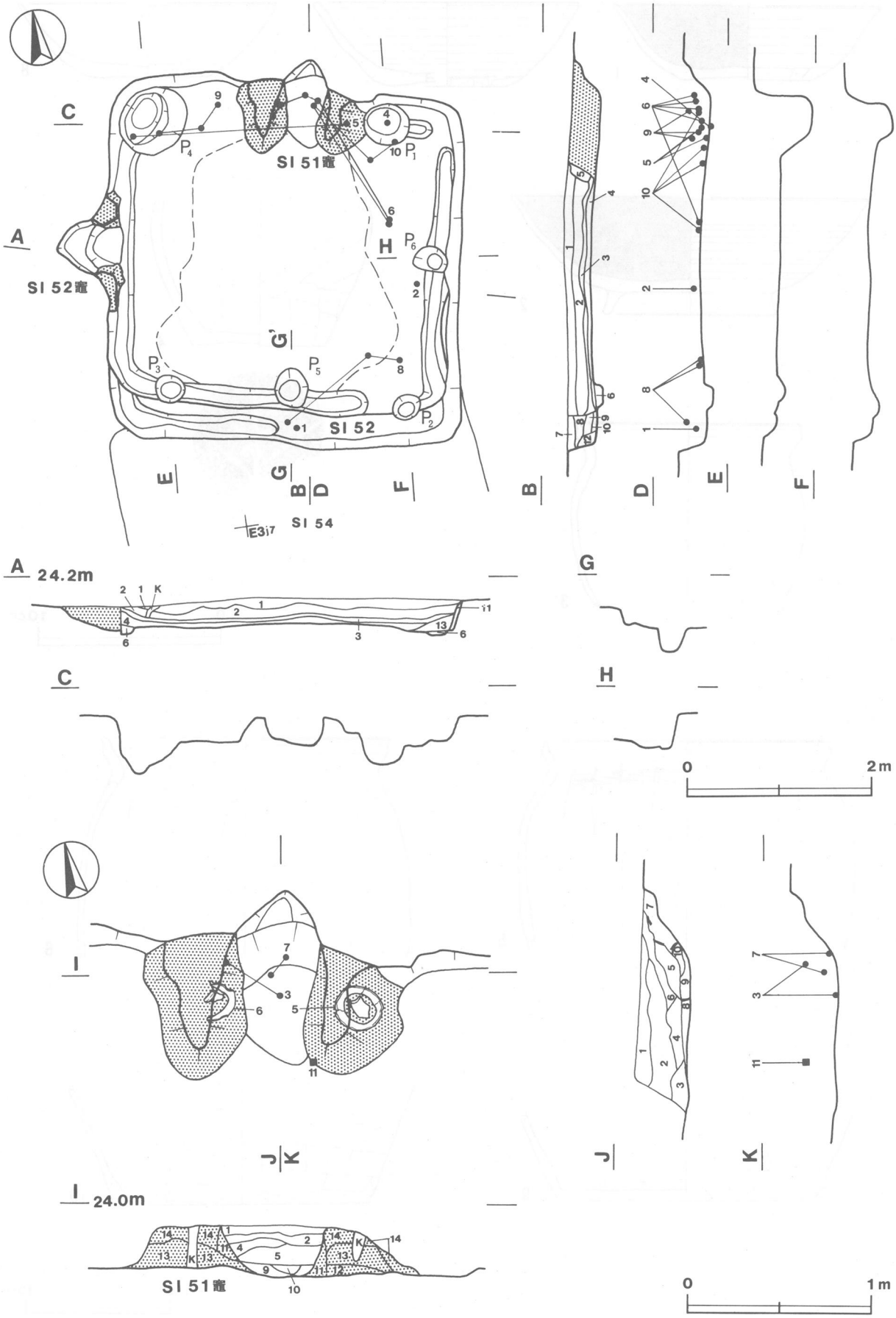
竈　北壁中央に構築されている。天井部は崩落し，両袖部が残存している。規模は，煙道部上端から焚き口部まで90cm，両袖部幅138cmである。煙道部は，壁外へ42cm掘り込んで構築されている。煙道は，外傾して立ち上がる。11～14層は袖部の土層である。袖部は，第105図5・6の土師器甕を補強材として，粘土及びローム混じりの褐色土を用いて構築されている。6層は粘土粒子を含み，天井部の一部と思われる。火床部は床面よりなだらかに続き，平坦である。火床面から煙道部・袖部の内側にかけては，火熱を受けて赤変している。

竈土層解説

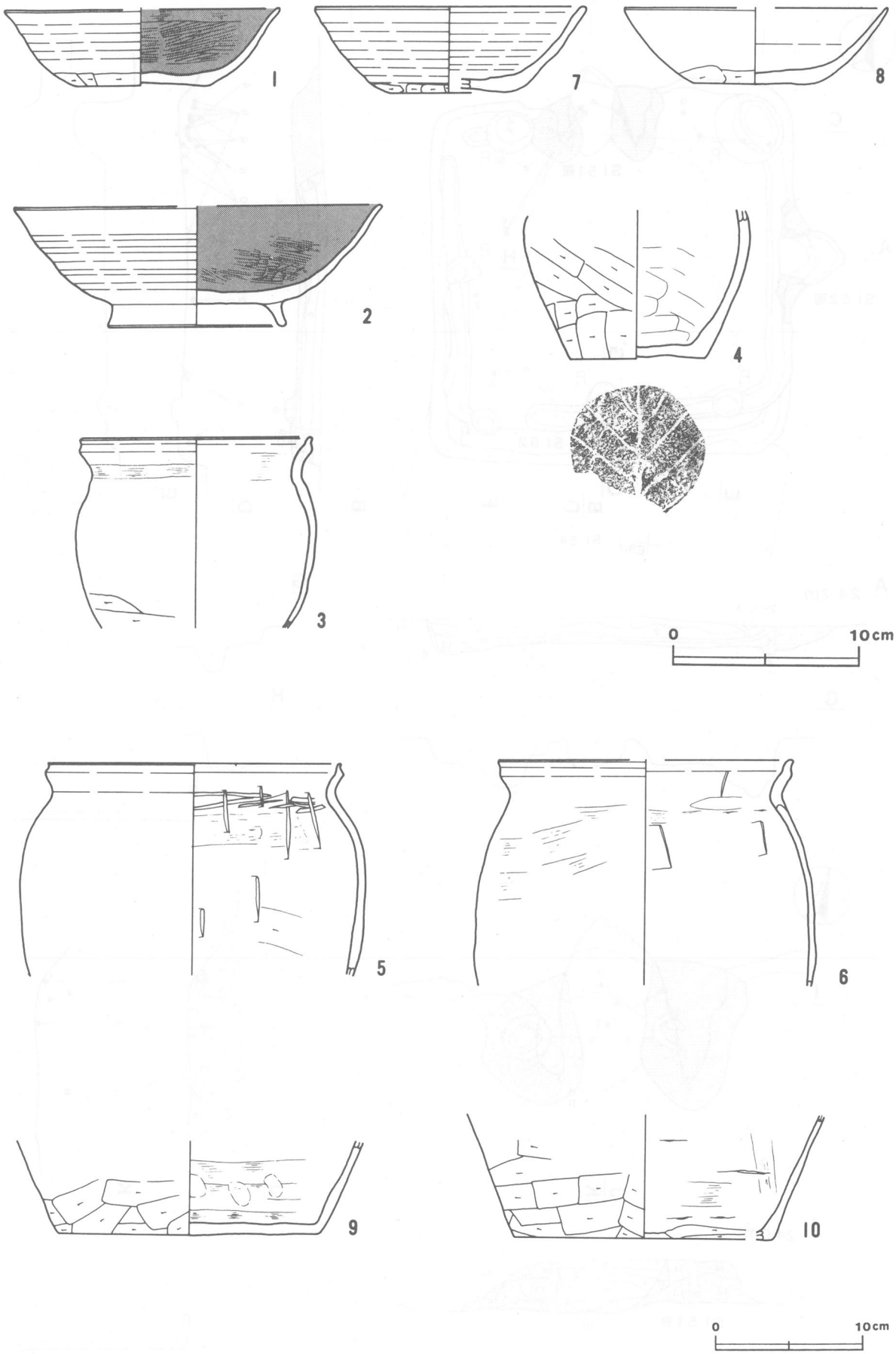
1	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量
3	褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
4	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子少量
5	褐色	焼土粒子中量
6	褐色	焼土粒子・粘土粒子微量
7	褐色	焼土粒子・粘土粒子微量
8	褐色	ローム粒子中量
9	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子少量
10	灰褐色	粘土粒子中量，焼土粒子少量
11	灰褐色	焼土粒子中量，ローム粒子少量
12	にぶい褐色	ローム粒子中量
13	明褐色	ローム粒子中量，粘土粒子微量
14	褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は，それぞれコーナー付近に位置し，主柱穴と考えられる。これらは，第52号住居跡の柱穴を再利用している可能性がある。P1～P3は径30～42cmの円形，P4は長径74cm，短径65cmの楕円形で，深さは12～36cmである。P5は南壁中央付近に位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。長径42cm，短径36cmの楕円形で，深さは16cmである。

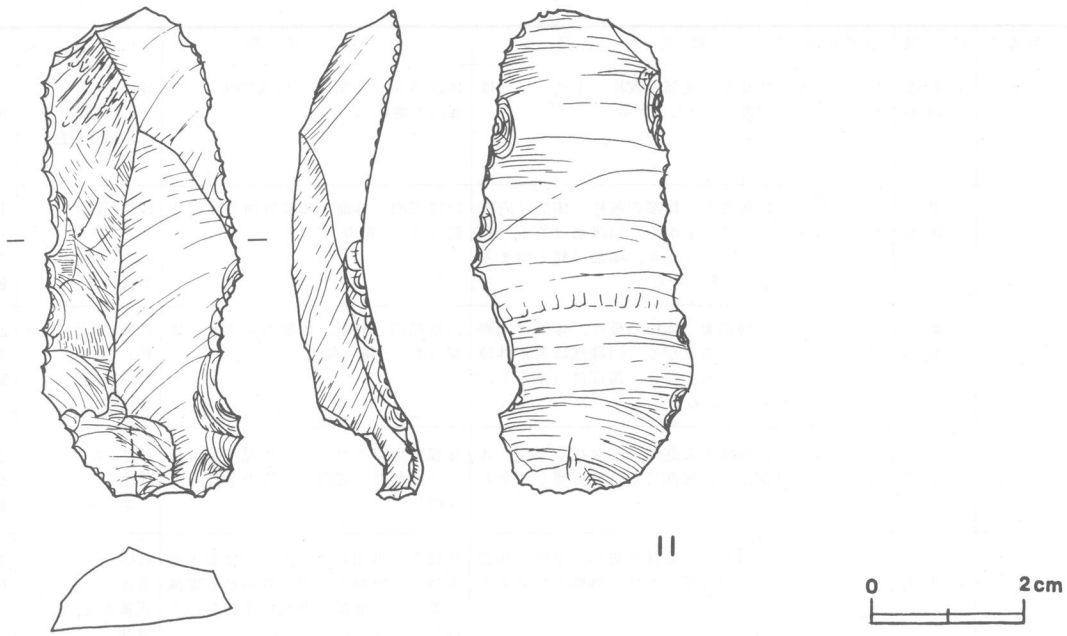
覆土　1～6層は第51号住居跡の覆土である。レンズ状に堆積し，自然堆積と思われる。



第104図　第51・52号住居跡実測図



第105図　第51号住居跡出土遺物実測図（1）



第106図　第51号住居跡出土遺物実測図（２）

第51・52号住居跡土層解説

1	黒褐色	ローム中ブロック・同小ブロック少量，焼土中ブロック微量
2	黒褐色	ローム小ブロック・炭化物少量
3	灰褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土大ブロック・粘土粒子・砂粒少量，粘性・しまり強
4	褐色	炭化物・粘土粒子・砂粒少量
5	灰褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
6	褐色	ローム粒子少量，粘性強
7	黒色	焼土中ブロック・炭化物微量
8	黒色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量
9	黒色	焼土小ブロック・砂粒少量
10	極暗褐色	ローム中ブロック中量
11	暗褐色	ローム小ブロック・砂粒少量，焼土粒子微量
12	灰褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子少量
13	黒色	砂粒少量

遺物　土師器片491点，須恵器片241点，灰釉陶器片２点，陶器片２点，剥片１点が出土している。陶器片・剥片は混入と思われる。第105図１の土師器坏・２の土師器高台付坏・８の須恵器坏は南東コーナー寄りの床面上から覆土中層にかけて，それぞれ破片の状態で出土している。３の土師器小形甕は，竈中央部の底面上から逆位の状態で出土しており，転用支脚と考えられる。４の土師器小形甕は，竈東側の床面上から逆位の状態で出土している。５の土師器甕は竈東側袖部内から，６の土師器甕は同じく西側袖部内から，それぞれ逆位の状態で出土している。７の須恵器坏は竈の底面上から破片の状態で，９の須恵器甕は竈西側の覆土中層から正位の状態で，それぞれ出土している。10の須恵器甑は，竈東側の床面上から覆土下層にかけて，破片の状態で出土している。

所見　本跡の時期は，第52号住居跡との重複関係及び出土した土器から，９世紀末～10世紀前半と考えられる。

第51号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第105図 1	坏 土師器	A [14.4] B 4.0 C 6.8	口縁部から体部の破片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がり，端部付近は若干外反する。	体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。体部内面磨き，黒色処理。底部一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・スコリア・雲母・白色粒子 橙色　普通	P331　50% PL51 覆土中層
2	高台付坏 土師器	A [19.4] B 6.4 D 9.4 E 1.2	口縁部一部欠損。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がる。高台は直線的にハの字状に開く。	体部外面ロクロナデ。体部内面磨き，黒色処理。高台貼り付け後，内・外面ナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・白色粒子 にぶい橙色 普通	P333　50% 覆土中層
3	小形甕 土師器	A 12.2 B (10.0)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は緩やかに外反して立ち上がり，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面，体部内面ナデ。体部外面ナデ，下位ヘラ削り。	砂粒・雲母・白色粒子 赤褐色 普通	P337　30% PL52 竈底面

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第105図 4	小形甕 土師器	B　(7.8) C　7.2	体部から底部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ。底部木葉痕。	砂粒・石英・スコリア・雲母 にぶい赤褐色 普通	P338　40% 床面
5	甕 土師器	A　20.1 B　(14.8)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は若干外傾して立ち上がり，端部は軽くつまみ上げられている。	口縁部内・外面，体部外面ナデ。体部内面ヘラ削り。	砂粒・石英・スコリア にぶい褐色 普通	P334　40% PL52 外面炭化物付着 竈袖部
6	甕 土師器	A　20.4 B　(15.7)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は若干外傾して立ち上がり，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面，体部外面ナデ。体部内面ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・雲母・白色粒子 にぶい橙色 普通	P335　40% PL52 竈袖部
7	坏 須恵器	A　14.2 B　4.5 C　[6.1]	口縁部から底部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・スコリア・雲母 にぶい褐色　良	P330　70% PL51 竈底面
8	坏 須恵器	A　[13.9] B　4.0 C　6.3	口縁部から底部の破片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。内・外面とも摩滅が著しい。底部一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・スコリア・雲母 灰黄褐色 普通	P332　50% 床面
9	甕 須恵器	B　(6.4) C　18.0	体部から底部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ，一部指頭圧痕。	砂粒・雲母 にぶい黄褐色 普通	P340　30% 覆土中層
10	甑 須恵器	B　(8.6) C　[17.8]	体部から底部の破片。孔数不明。体部は外傾して立ち上がる。底部は焼成前にヘラ状工具により穿孔。	体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・スコリア・雲母・白色粒子 にぶい褐色 普通	P341　25% 床面～覆土下層

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第106図11	剥　片	6.4	2.7	1.0	19.0	覆土中層	Q31　黒曜石　PL54

第52号住居跡（第104・107図）

位置　調査区域の南部，E3i7区。

重複関係　第51・54号住居跡と重複している。新旧関係は，土層断面から，第54号住居跡→第52号住居跡→第51号住居跡の順である。

規模と平面形　長軸3.80m，短軸［3.51］mの方形と推定される。

主軸方向　N－81°－W

壁　壁高は29～32cmで，外傾して立ち上がる。

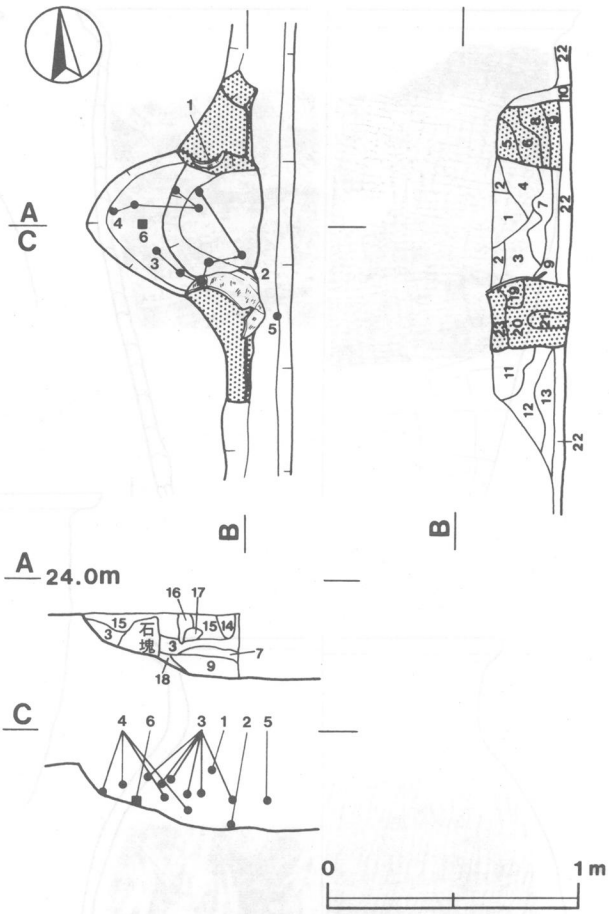
壁溝　南壁中央付近から南西コーナーにかけて巡る。その他は，第51号住居に掘り込まれており不明である。断面はU字形で，上幅22～30cm，下幅8～17cm，深さは4～8cmである。

床　南壁寄りに幅12～30cmで残存している。ローム質で，やや軟弱である。

竈　西壁中央付近に構築されている。天井部は崩落し，袖部も第51号住居によって破壊されている。規模は，煙道部上端から第51号住居跡の壁溝外縁まで68cm，両袖部外側の基部で131cmである。煙道部は，壁外へ約60cmほど掘り込んでおり，煙道は火床部側は緩やかな傾斜面となっているが，屋外へ向かって外傾して立ち上がる。緩斜面には板石（第108図6）が支脚状に立てられている。5・6・8～10・19～21・23層は，袖部の土層である。袖部は，第108図1・2の須恵器甕を補強材とし，灰褐色粘土を中心に構築されている。火床部は，残存部で見ると平坦であり，6cmの段差をもって煙道部の緩斜面に続いている。火床面から煙道部にかけて，火熱のため硬化している。

竈土層解説

1	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2	黒　　色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
3	黒　褐　色	焼土大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
4	暗赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・砂粒少量
5	にぶい赤褐色	砂粒中量,焼土中ブロック少量
6	黒　褐　色	焼土小ブロック・炭化物少量
7	暗赤褐色	焼土大ブロック中量,炭化物・砂粒少量
8	にぶい橙色	ローム大ブロック中量,砂粒少量
9	褐　灰　色	焼土中ブロック中量,ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
10	にぶい褐色	ローム中ブロック中量,炭化物・砂粒少量,しまり強
11	にぶい赤褐色	砂粒多量,焼土粒子・炭化粒子少量
12	明褐灰色	ローム大ブロック・炭化粒子・砂粒少量
13	灰　褐　色	ローム大ブロック・同中ブロック中量



第107図　第52号住居跡竈実測図

ピット　5か所（P1～P4・P6）。P1～P4は，第51号住居に再利用されている可能性がある。P6は，東壁際中央部に位置する。長径36cm，短径27cmの楕円形で，深さは10cmである。出入り口施設に伴うピットと思われる。

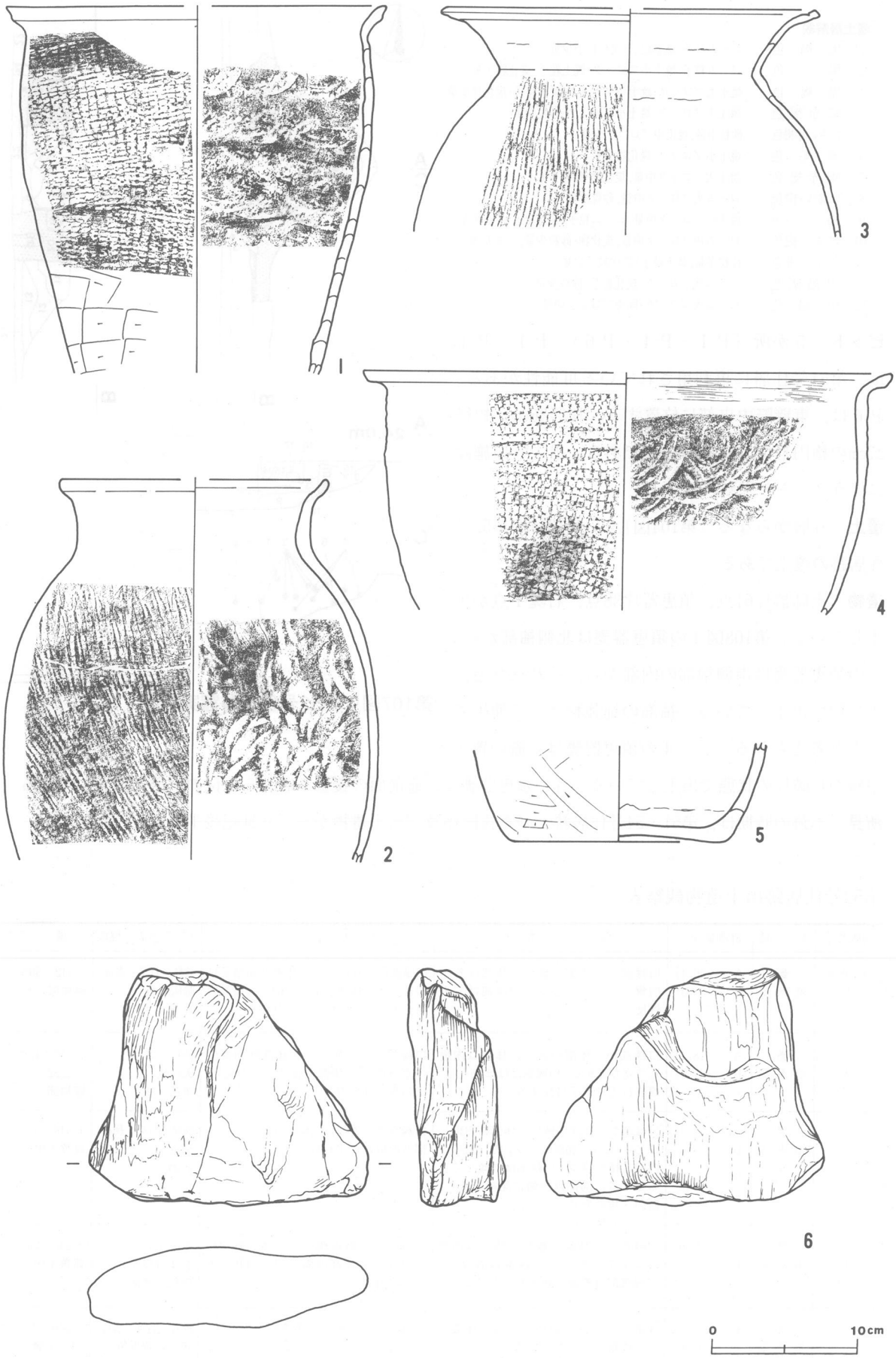
覆土　6層からなる（第104図）。7～13層が第52号住居跡の覆土である。

遺物　土師器片61点，須恵器片38点，石塊1点が出土している。第108図1の須恵器甕は北側袖部から，2の須恵器甕は南側袖部の内部から，それぞれ逆位の状態で出土している。袖部の補強材として使用されたと考えられる。3・4の須恵器甕は，竈の覆土中層から破片の状態で出土している。5の須恵器甕は，竈前面の覆土下層から正位の状態で出土している。

所見　本跡の時期は，第51・54号住居跡との重複関係及び出土遺物から，9世紀後半と考えられる。

第52号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第108図 1	甕 須恵器	A　[26.4] B　(25.3)	口縁部から体部の破片。体部は若干内彎して立ち上がる。口縁部は若干外反して立ち上がる。	口縁部内・外面ナデ。体部外面格子目叩き。体部外面下半ヘラ削り。体部内面ナデ，同心円状の当て具痕有り。	砂粒・石英・雲母 暗灰黄色 普通	P342　50% 竈袖部
2	甕 須恵器	A　[18.1] B　(27.0)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部はほぼ直立し，端部付近で若干外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面縦位の平行叩き。体部内面ナデ，同心円状の当て具痕有り。	砂粒・雲母 灰白色 普通	P343　45% PL52 竈袖部
3	甕 須恵器	A　[25.4] B　(15.7)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。頸部はくの字状に屈曲し，内面に稜を持つ。口縁部は外傾して立ち上がる。端部は内側に沈線を持ち，断面三角形を呈している。	口縁部内・外面，体部内面ナデ。体部外面縦位の平行叩き。	砂粒・石英・長石 橙色 普通	P344　30% 竈覆土中
4	甕 須恵器	A　[36.6] B　16.6	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し，口縁端部は断面三角形を呈している。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面格子目叩き。体部内面に同心円状の当て具痕有り。	砂粒・スコリア・雲母・白色粒子 橙色　普通	P345　25% 竈覆土中
5	甕 須恵器	B　(6.7) C　[14.6]	体部から底部の破片。平底。体部は若干内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P346　25% 覆土下層



第108図　第52号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種　別	計　測　値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第108図6	石　塊	16.2	19.2	5.6	2070	竈内	Q32　ホルンフェルス

第53号住居跡（第109図）

位置　調査区域の南部，Ｆ３a5区。

重複関係　第４号掘立柱建物と重複している。第４号掘立柱建物の掘り方が，本跡の覆土を掘り込んで構築されているので，本跡の方が古い。

規模と平面形　長軸2.47ｍ，短軸2.22ｍの長方形である。

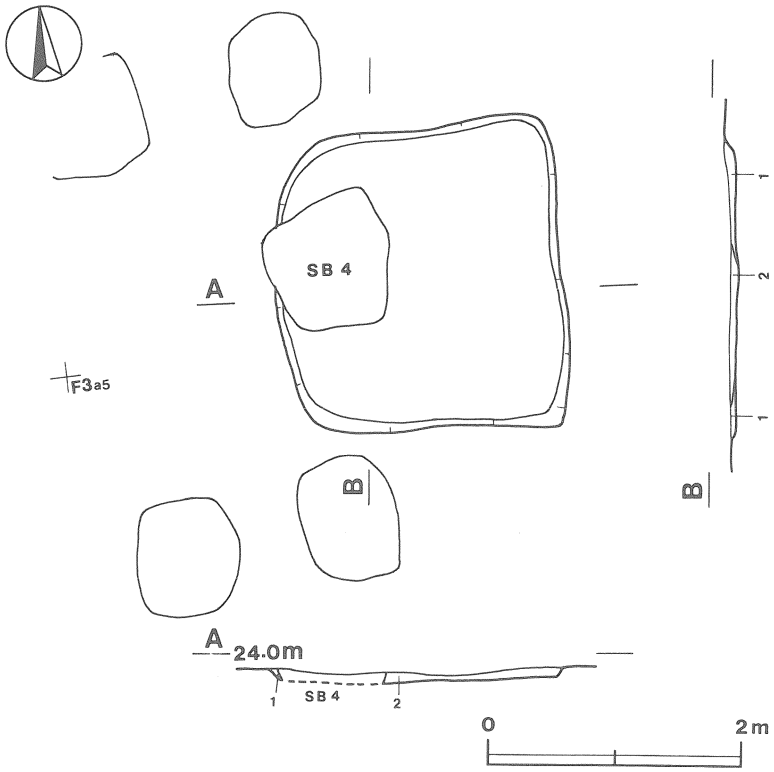
主軸方向　Ｎ－４°－Ｅ

壁　壁高は４～10cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。

床　ローム質で，若干起伏がある。全体的にやや軟弱である。

ピット　床面を精査したが，確認できなかった。

覆土　２層からなる。ロームブロックを多く含み，人為堆積の可能性がある。



第109図　第53号住居跡実測図

土層解説

1　褐　色　　ローム小ブロック多量
2　褐　色　　ローム大ブロック多量

遺物　土師器片21点，須恵器片６点が出土している。いずれも小片であり，接合した資料はなかった。

所見　本跡の時期は，手がかりが少ないため明らかではない。第４号掘立柱建物との重複関係から，これより古い時期と考えられる。

第54号住居跡（第110図）

位置　調査区域の南部，Ｅ３j7区。

重複関係　第51・52号住居によって本跡の北壁が破壊されているため，本跡が最も古い。

規模と平面形　長軸4.15ｍ，短軸3.87ｍの長方形である。

主軸方向　Ｎ－６°－Ｗ

壁　壁高は22～30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　破壊されている北壁側を除いて全周する。断面はＵ字形で，上幅15～25cm，下幅４～13cm，深さは４～８cmである。

床　ローム質で，平坦である。Ｐ１～Ｐ４の内側は，踏み固められて硬化している。

竈　北壁中央やや西側に構築されている。大半は第52号住居跡の掘り込みによって破壊されており，袖部の先端部が残存している。規模は，残存部で長軸方向に79cm，袖部の幅98cmである。袖部は，ローム混じりの褐色

土で構築されている。火床部は床面から同じ高さで続き，若干起伏がある。火床面は，火熱を受けて硬化している。

竈土層解説

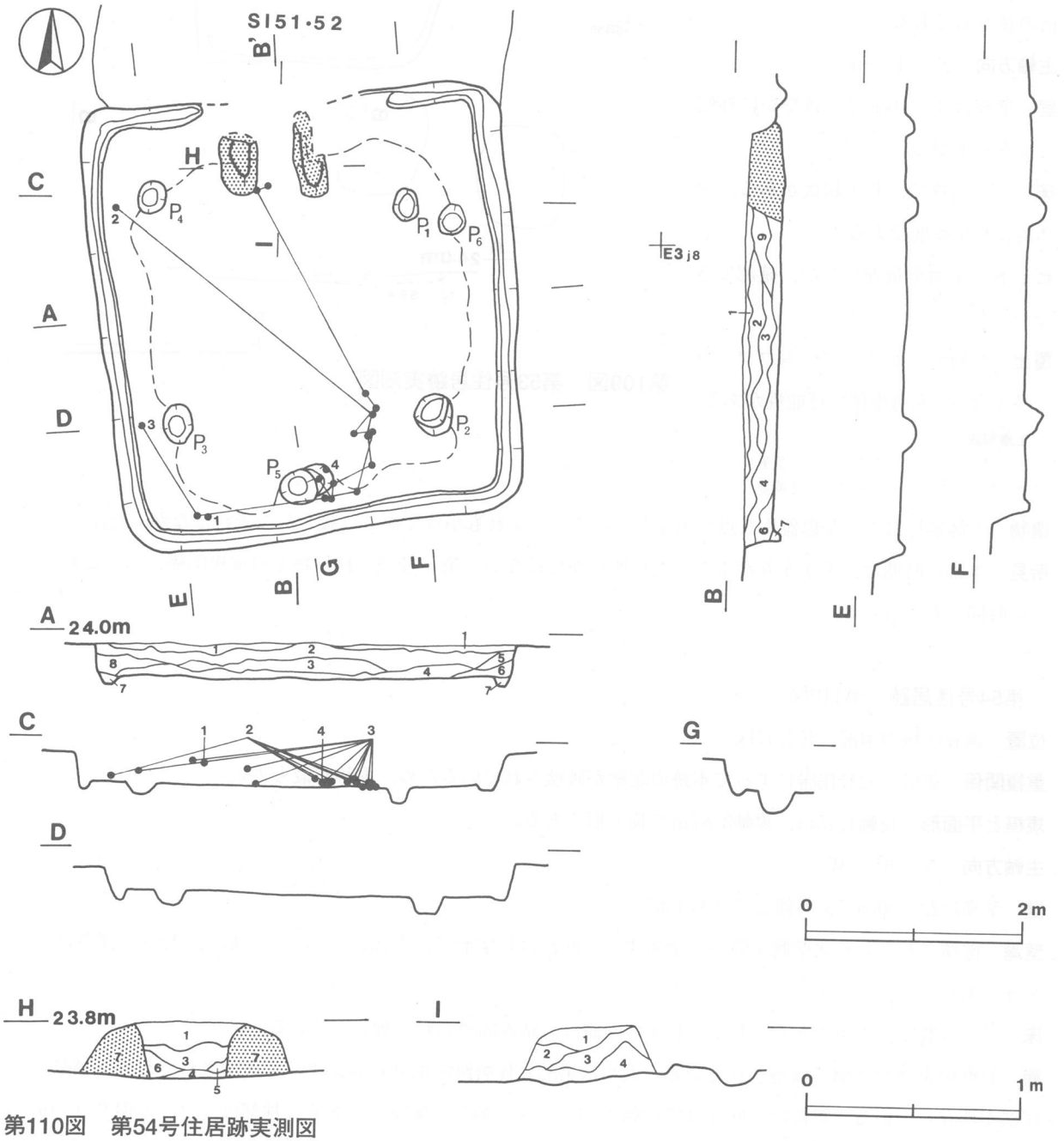
1	褐　色	ローム粒子少量，粘土粒子微量	5	暗褐色	焼土粒子少量，ローム粒子微量
2	褐　色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量	6	褐　色	ローム粒子・焼土粒子微量
3	褐　色	ローム粒子・粘土粒子少量	7	褐　色	ローム粒子中量
4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量			

ピット　6か所（P1～P6）。P1～P4は，それぞれ壁寄りに位置し，主柱穴と考えられる。長径29～38cm，短径20～32cm，深さは13～18cmである。P5は南壁際中央付近に位置し，出入り口施設に伴うピットである。長径48cm，短径38cmの楕円形で，深さは22cmである。P6は，P1と東壁との間に位置する。径24cmの円形で，深さは12cmである。補助的な柱穴と思われる。

覆土　9層からなる。ローム粒子を含む層が多く，人為堆積の可能性がある。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・赤色粒子微量	3	暗褐色	ローム粒子微量
2	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック微量	4	褐　色	ローム粒子少量，炭化粒子微量，粘性強

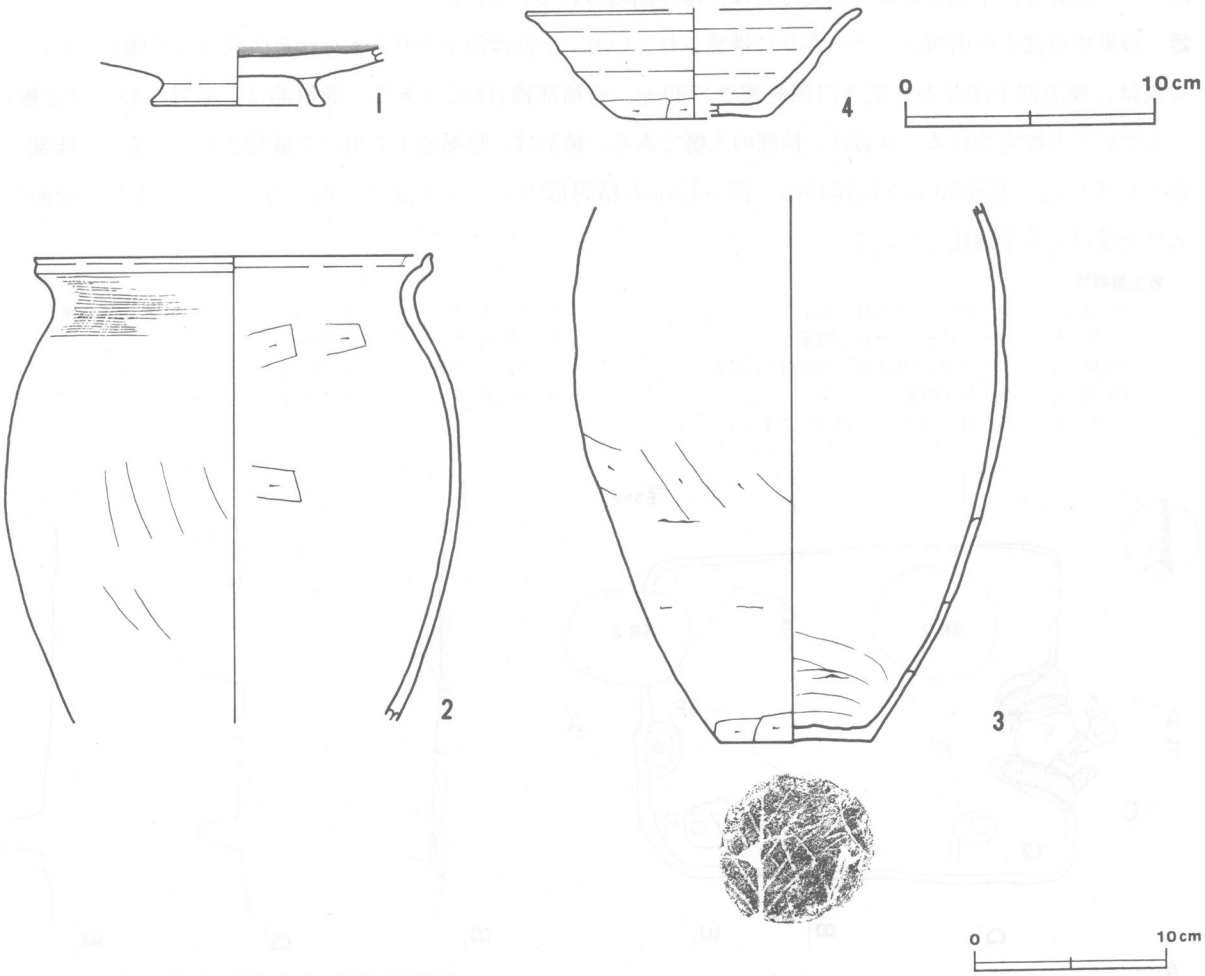


第110図　第54号住居跡実測図

5　褐　　色　ローム粒子中量
6　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
7　褐　　色　ローム粒子中量，粘性強
8　暗　褐　色　ローム中ブロック・同粒子中量
9　にぶい褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック微量

遺物　土師器片122点，須恵器片27点が出土している。第111図１の土師器高台付坏は南西コーナー付近から逆位の状態で，覆土中層から出土している。２・３の土師器甕，４の須恵器坏は，Ｐ５付近から破片の状態で，覆土下層から中層にかけて出土している。

所見　本跡の時期は，第51・52号住居跡の重複関係及び出土した土器から９世紀前半と考えられる。



第111図　第54号住居跡出土遺物実測図

第54号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第111図 1	高台付坏 土師器	B　(2.3) D　[6.7] E　 1.1	底部から高台部の破片。高台はハの字状に外反して開く。	底部内面磨き，黒色処理。高台部内・外面ナデ。底部回転ヘラ削り。	雲母・長石 にぶい橙色 普通	P349　30% 覆土中層
2	甕 土師器	A　 20.6 B　(24.3)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は緩やかに外反して立ち上がり，端部はつまみあげられている。	体部内・外面ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。体部内面ナデ，一部ヘラ削り。	砂粒・雲母・白色粒子 橙色 普通	P350　40% PL52 覆土下～中層
3	甕 土師器	B　(27.6) C　 7.7	体部から底部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後，ナデ。体部内面器面荒れ，調整不明。	砂粒・スコリア 明赤褐色 普通	P351　45% 覆土下～中層
4	坏 須恵器	A　[13.0] B　 4.3 C　[6.2]	口縁部から底部の破片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部外面強いロクロナデ。体部内面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母 黄灰色 普通	P347　30% 覆土下層

第56号住居跡（第112図）

位置　調査区域の南部，Ｅ３h9区。

重複関係　第２号掘立柱建物が本跡の覆土を掘り込んで構築されているので，本跡の方が古い。

規模と平面形　長軸3.25m，短軸2.17mの長方形である。

主軸方向　N－83°－W

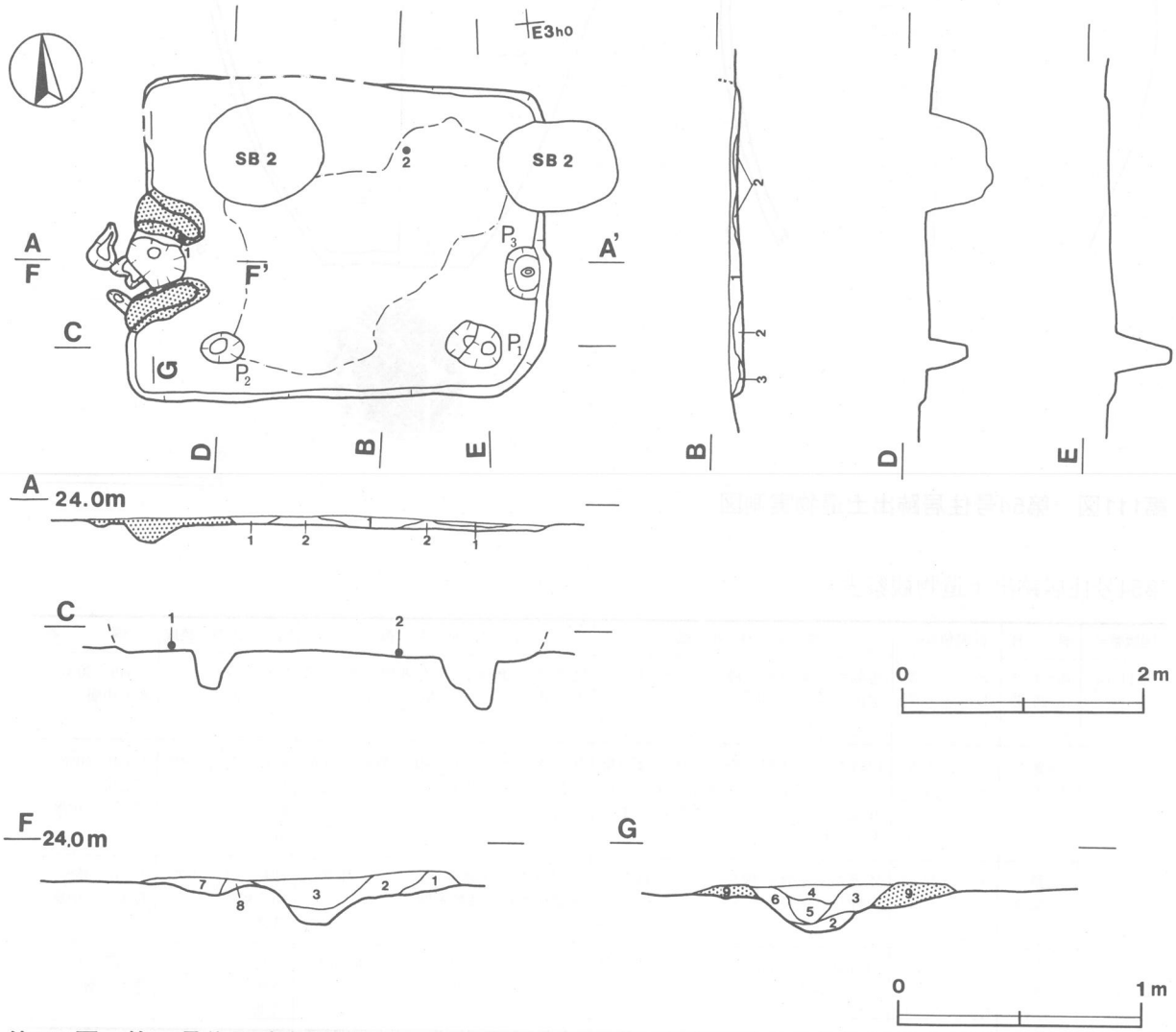
壁　かなり削平を受け，北壁は一部消失している。壁高は，４～６cmで，外傾して立ち上がる。

床　ローム質で，平坦である。中央付近は，踏み固められている。

竈　西壁中央部やや南西コーナー寄りに構築されている。上部は削平されており，基底部付近が残存している。規模は，煙道部上端部から焚き口部先端まで99cm，両袖部幅118cmである。煙道部は，壁外へ48cmほど掘り込んでいると推定される。９層は，袖部の土層である。袖部は，暗褐色土を用いて構築されている。火床部は，竈の中央付近に長径50cm，短径40cm，深さ12cmの楕円形のピットを設け，掘り方としている。火床面は，火熱を受けて若干硬化している。

竈土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
2	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
3	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	焼土粒子微量
5	黒褐色	焼土粒子・砂粒少量，粘性・しまり弱
6	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，粘性・しまり強
7	暗褐色	赤色粒子微量
8	褐色	ローム粒子中量
9	暗褐色	ローム粒子中量



第112図　第56号住居跡実測図

ピット　3か所（P1～P3）。P1・P2は，南壁寄りに位置し，主柱穴と考えられる。長径34～46cm，短径24～34cmの楕円形で，深さは31～46cmである。P3は，東壁中央やや南寄りに位置する。長軸42cm，短軸35cmの隅丸方形で，深さ14cmである。底面中央部に長径10cm，短径6cmの楕円形で，深さ4cmのピットが確認されている。P3は，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

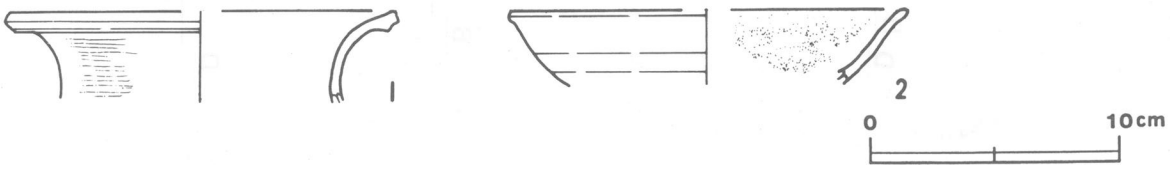
覆土　5層からなる。レンズ状に堆積し，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子中量
3　褐　色　ローム粒子多量，粘性弱
4　褐　色　ローム粒子少量
5　暗褐色　焼土粒子少量

遺物　土師器片29点，須恵器片32点が出土している。第113図1の須恵器甕は竈北側袖の上面から，2の灰釉陶器椀は北壁寄りの床面上から，それぞれ出土している。

所見　2は折戸53窯式に比定される。本跡の時期は，第2号掘立柱建物に先行し，9世紀後半から10世紀前半を中心とした時期と推定される。



第113図　第56号住居跡出土遺物実測図

第56号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第113図 1	甕 須恵器	A　[20.4] B　(4.8)	口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がる。口縁端部は面取りを施し，断面台形を呈している。	口縁部外面ナデ。口縁部内面摩滅のため調整不明。	砂粒・石英・白色粒子・長石 黒褐色　普通	P353　15% 竈袖部
2	椀 灰釉陶器	A　[15.6] B　(2.9)	口縁部の破片。口縁部は若干内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・微小白色粒子 素地黄灰色，釉調黄褐色　良	P352　20% 折戸56号窯式 床面

第58号住居跡（第114図）

位置　調査区域の南部，E4j1区。

規模と平面形　長軸3.54m，短軸3.35mの方形である。

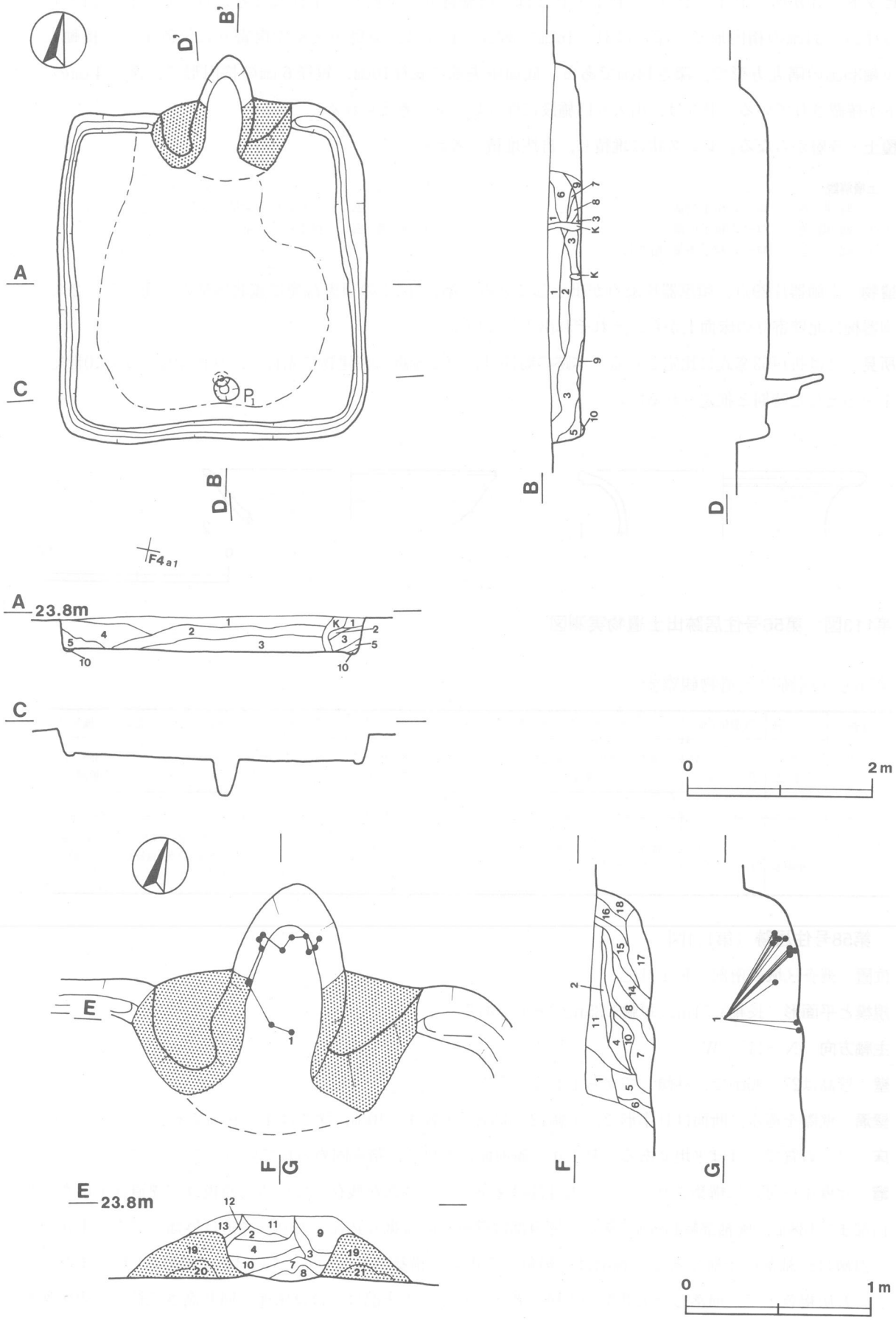
主軸方向　N－11°－W

壁　壁高は27～36cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　壁際を巡る。断面はU字形で，上幅12～33cm，下幅4～10cm，深さは4～6cmである。

床　ローム質で，ほぼ平坦である。P1から竈前面にかけて，踏み固められている。

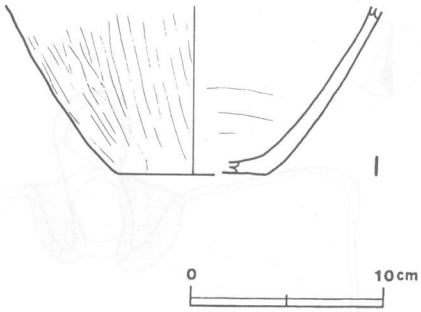
竈　北壁中央付近に構築されている。天井部は崩落し，両袖部が残存している。規模は，煙道部上端から焚き口部まで138cm，両袖部幅149cmである。煙道部は壁外へ67cm掘り込んでおり，煙道は外傾して立ち上がる。19～21層は，袖部の土層である。袖部は，褐色土を用いて構築されている。13・14・16層は，粘土または砂粒を含む灰褐色土で，崩落した天井部の土層と考えられる。火床部は，ほぼ床面と同じ高さで続く。火床面から煙道部にかけて，火熱のため硬化している。



第114図　第58号住居跡実測図

竈土層解説

1	灰　褐　色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
2	にぶい赤褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
3	灰　褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量
4	褐　灰　色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
5	褐　灰　色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
6	にぶい赤褐色	ローム粒子・粘土小ブロック少量
7	赤　褐　色	ローム大ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
8	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，しまり弱
9	灰　褐　色	ローム大ブロック・同小ブロック少量
10	暗赤褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
11	暗赤褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量
12	暗赤褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
13	灰　褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック少量
14	灰　褐　色	砂粒中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・粘土粒子少量
15	暗赤褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物少量
16	灰　褐　色	ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
17	暗赤褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
18	黒　褐　色	焼土小ブロック・粘土粒子少量
19	暗　褐　色	ローム粒子中量
20	暗　褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
21	褐　　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量，粘性強



第115図　第58号住居跡出土遺物実測図

ピット　1か所（P1）。P1は南壁寄り中央部に位置しており，径28cmの円形で，深さは64cmである。ピットの断面は，南壁側に傾いており，出入り口施設に伴うピットと考えられる。他のピットは，床面を精査したが確認できなかった。

覆土　10層からなる。6～8層は粘土粒子を含み，竈から流出した土層と考えられる。覆土はレンズ状に堆積しており，自然堆積と思われる。

土層解説

1	黒　　色	ローム大ブロック・同粒子少量
2	褐　　色	ローム中ブロック中量，ローム大ブロック・同粒子少量
3	暗　褐　色	ローム中ブロック・同粒子少量
4	暗　褐　色	ローム粒子少量
5	褐　　色	ローム粒子中量
6	暗　褐　色	ローム粒子・粘土中ブロック少量
7	黒　褐　色	粘土大ブロック・同粒子少量
8	暗　褐　色	ローム粒子中量，粘土大ブロック・同粒子少量
9	黒　　色	ローム大ブロック・同粒子少量，粘性強，しまり弱
10	褐　　色	ローム粒子中量，しまり強

遺物　土師器片44点，須恵器片17点，陶器片2点，石片1点が出土している。第115図1の土師器甕は，竈内の覆土下層から中層にかけて，破片の状態で出土している。

所見　本跡の時期は，出土した土器の特徴から8世紀後半頃と考えられる。

第58号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第115図 1	甕 土師器	B　(8.9) C　[7.6]	体部から底部の破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面縦位の磨き。体部内面ナデ。	砂粒・スコリア・雲母・長石 明赤褐色　普通	P354　20% 竈覆土中

第59号住居跡（第116図）

位置　調査区域の南部，F3a0区。

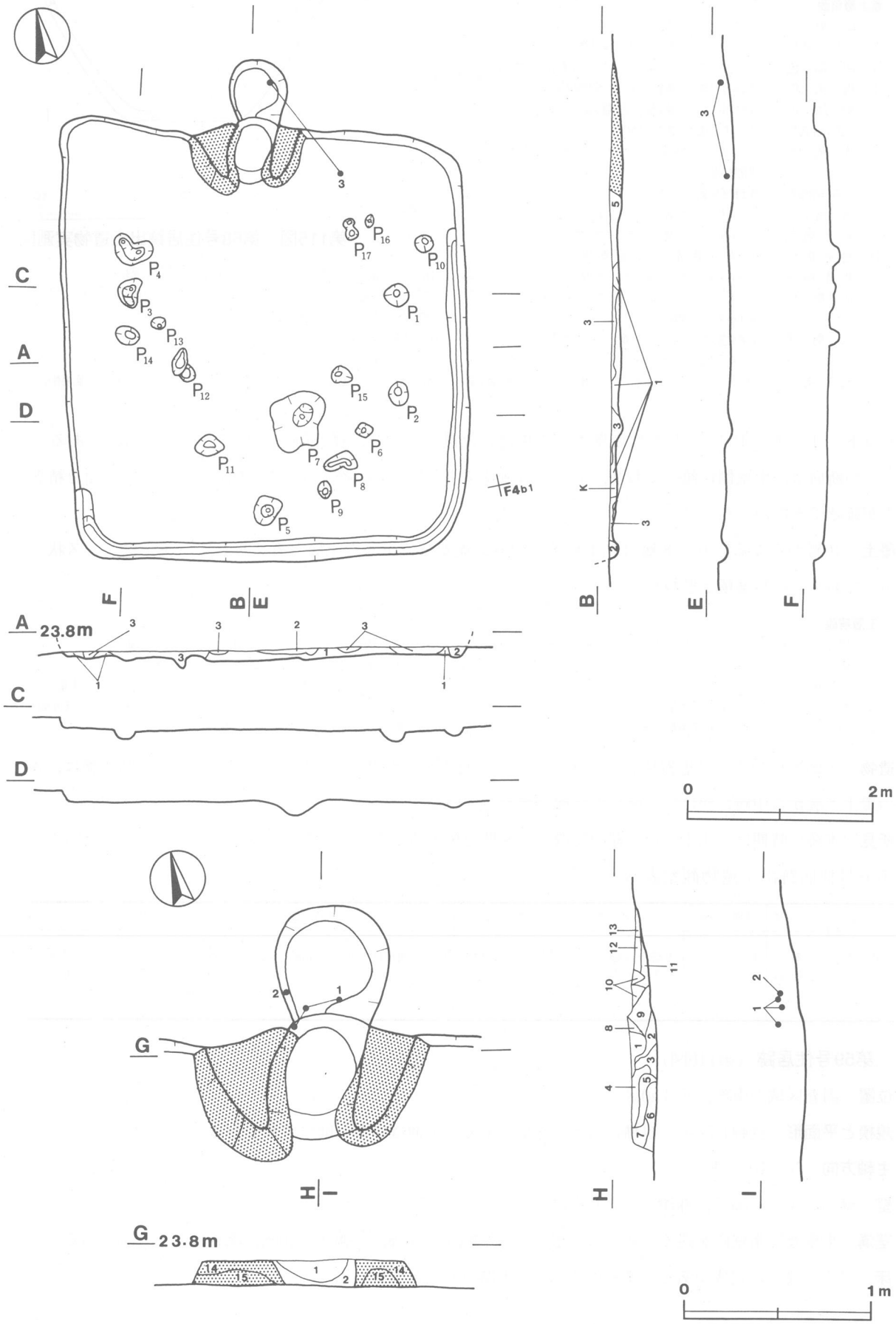
規模と平面形　長軸4.50m，短軸4.33mの方形である。上面はかなり削平されている。

主軸方向　N－10°－E

壁　壁高は4～6cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　東壁及び南壁際を巡る。断面はU字形で，上幅16～26cm，下幅4～10cm，深さは4～6cmである。

床　ローム質で，起伏がある。踏み固められた形跡は見られなかった。



第116図　第59号住居跡実測図

竈　北壁中央付近に構築されている。天井部は崩落し，両袖部が残存している。規模は，煙道部上端から焚き口部まで135cm，両袖部幅124cmである。煙道部は，壁外に長径67cm，短径60cmの楕円形で，深さ８cmほど掘り込んで設けており，煙道は緩やかに外傾して立ち上がると推定される。14・15層は袖部の土層である。袖部は，粘土混じりの褐色土を用いて構築されている。１・８・９層は粘土粒子を含み，崩落した天井部の土層と考えられる。火床部は皿状に床面から２cmほど掘り下げられており，５cmの段差をもって煙道部へ続いている。火床面から煙道部にかけて，火熱をうけて硬化している。

竈土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
2	にぶい赤褐色	ローム小ブロック中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
3	灰褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4	灰褐色	ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5	にぶい赤褐色	ローム中ブロック少量
6	黒褐色	ローム中ブロック中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
7	暗赤褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
8	暗赤褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量
9	暗赤褐色	焼土中ブロック中量，焼土大ブロック・粘土粒子少量
10	暗褐色	焼土小ブロック少量
11	褐色	焼土小ブロック・炭化粒子少量
12	明褐色	粘土粒子中量，粘性・しまり強
13	褐色	ローム小ブロック中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
14	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子中量，粘性・しまり強
15	褐色	ローム粒子中量，粘性・しまり強

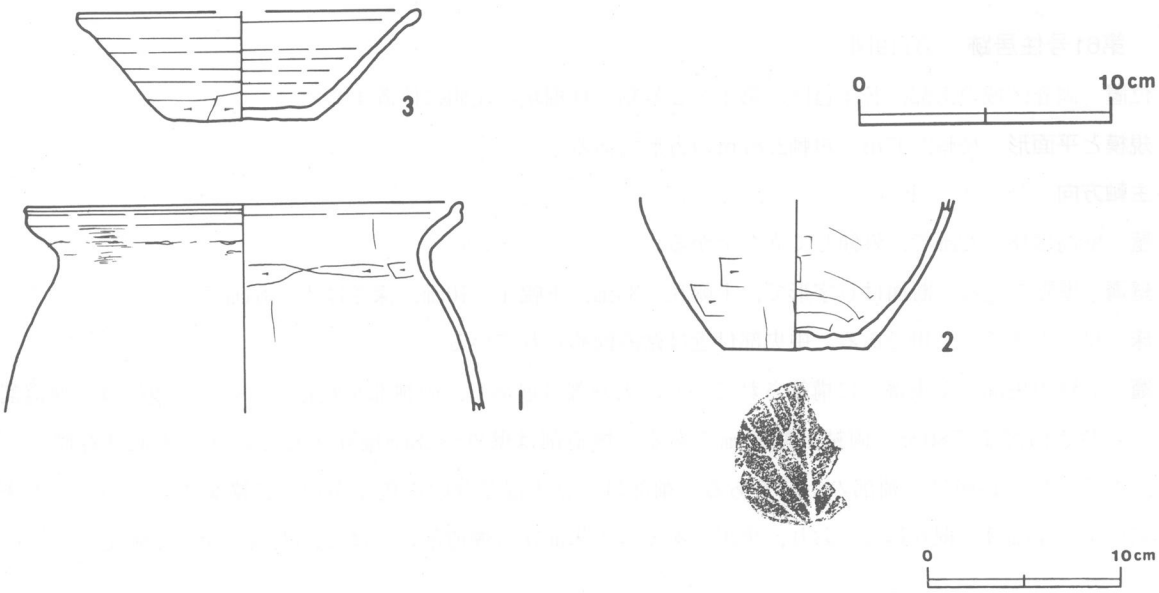
ピット　17か所（Ｐ１～Ｐ17）。Ｐ１・Ｐ２は東壁寄りに位置し，主柱穴と考えられる。Ｐ１は径24cm，Ｐ２は長径24cm，短径20cmの楕円形で，深さは10～13cmである。Ｐ３・Ｐ４は西壁寄りに位置し，柱穴の可能性がある。Ｐ３は長軸40cm，短軸38cm，Ｐ４は長軸30cm，短軸25cmの不整形で，深さは10～15cmである。Ｐ５は南壁より中央部に位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。長径32cm，短径23cmの楕円形で，深さは12cmである。その他のピットは掘り込みの浅いものが多く，性格は不明である。

覆土　５層からなる。ロームブロックまたはローム粒子を含む層が多く，堆積状況が不自然であるため，人為堆積の可能性がある。

土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量，粘性・しまり強
2	暗褐色	ローム粒子少量
3	黒褐色	ローム粒子微量
4	褐色	ローム粒子多量，粘性・しまり強
5	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量

遺物　土師器片44点，須恵器片17点，陶器片２点が出土している。第117図１・２は，土師器の甕である。１は逆位の状態で，２は破片の状態で，それぞれ竈の覆土中層から出土している。３の須恵器坏は，竈煙道部の底面付近より横位の状態で出土している。



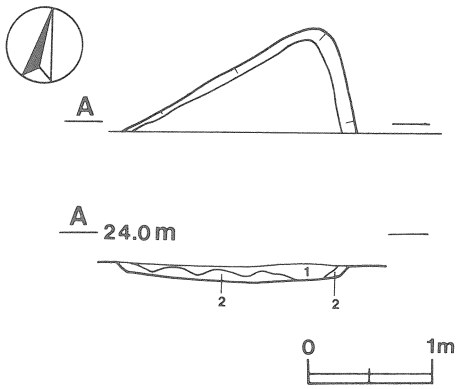
第117図　第59号住居跡出土遺物実測図

所見　本跡は上面がかなり削平されており，掘り方部だけが残存していた可能性がある。時期は，出土した土器から９世紀後半頃と考えられる。

第59号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第117図 1	甕 土師器	A　22.6 B　(10.8)	口縁部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外傾して立ち上がり，端部はつまみ上げられている。	体部内・外面，口縁部外面ナデ。体部内面ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・石英・白色粒子・雲母 赤褐色 普通	P356　30% 竈覆土中
2	甕 土師器	B　(7.9) C　7.5	体部から底部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ヘラ削り。底部木葉痕。	砂粒・石英・スコリア・長石 にぶい赤褐色 普通	P358　20% 竈覆土中
3	坏 須恵器	A　[13.1] B　4.3 C　5.5	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切りを残し，一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・スコリア・雲母 にぶい赤褐色 普通	P355　55% PL51 竈煙道部

第60号住居跡（第118図）



第118図　第60号住居跡実測図

位置　調査区域の南部，Ｆ３c0区。

規模と平面形　東西1.59m，南北0.86m。コーナー部分の調査であるため，平面形は不明である。

壁　壁高は８～10cmで，外傾して立ち上がる。

床　ローム質で，平坦である。若干踏み固められている。

覆土　２層からなる。ロームブロック・ローム粒子を多く含むため，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　　ローム大ブロック･ローム中ブロック･炭化物少量，粘性･しまり弱
2　にぶい褐色　　ローム粒子多量，しまり弱

遺物　遺物は，確認できなかった。

所見　本跡の時期は，ごく限られた調査であり出土した遺物もないため明らかではない。

第61号住居跡（第119図）

位置　調査区域の南部，Ｅ４i4区。第１・２号粘土採掘坑の北側に位置する。

規模と平面形　長軸2.97m，短軸2.87mの方形である。

主軸方向　Ｎ－２°－Ｅ

壁　壁高は18～22cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　壁際を巡る。断面はＵ字形で，上幅16～30cm，下幅４～10cm，深さは４～６cmである。

床　ローム質で，平坦である。中央部付近は踏み固められている。

竈　北壁中央部やや東寄りに構築されている。天井部は崩落し，両袖部が残存している。規模は，煙道部上端から焚き口部まで80cm，両袖部幅90cmである。煙道部は壁外へ28cm掘り込んでおり，煙道は外傾して立ち上がる。13～18層は，袖部の土層である。袖部は，粘土混じりの褐色土を中心に構築されている。火床部は床面より４cmほど掘り込んでおり，平坦である。火床面から煙道部にかけて，火熱を受けて硬化している。

竈土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子微量
3	黒色	焼土粒子・炭化粒子微量
4	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5	暗褐色	焼土粒中量,炭化粒子・粘土粒子微量
6	黒褐色	焼土粒子微量
7	暗褐色	ローム粒子微量
8	暗褐色	炭化粒子少量,ローム粒子少量
9	暗褐色	焼土粒子少量
10	極暗褐色	焼土粒子微量
11	暗褐色	焼土粒子・粘土粒子少量
12	明赤褐色	焼土大ブロック多量
13	褐色	ローム粒子少量
14	黒褐色	焼土粒子微量
15	灰褐色	ローム粒子・粘土粒子中量
16	褐色	粘土粒子少量,焼土粒子微量
17	暗褐色	ローム粒子微量
18	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量
19	黒褐色	炭化粒子中量,焼土粒子少量

ピット　2か所（P1・P2）。P1は東壁寄り中央付近に位置する。長径26cm，短径18cmの楕円形で，深さは22cmである。性格は不明である。P2は南壁寄り中央付近に位置するため，出入り口施設に伴うピットと考えられる。径18cmの円形で，深さは16cmである。

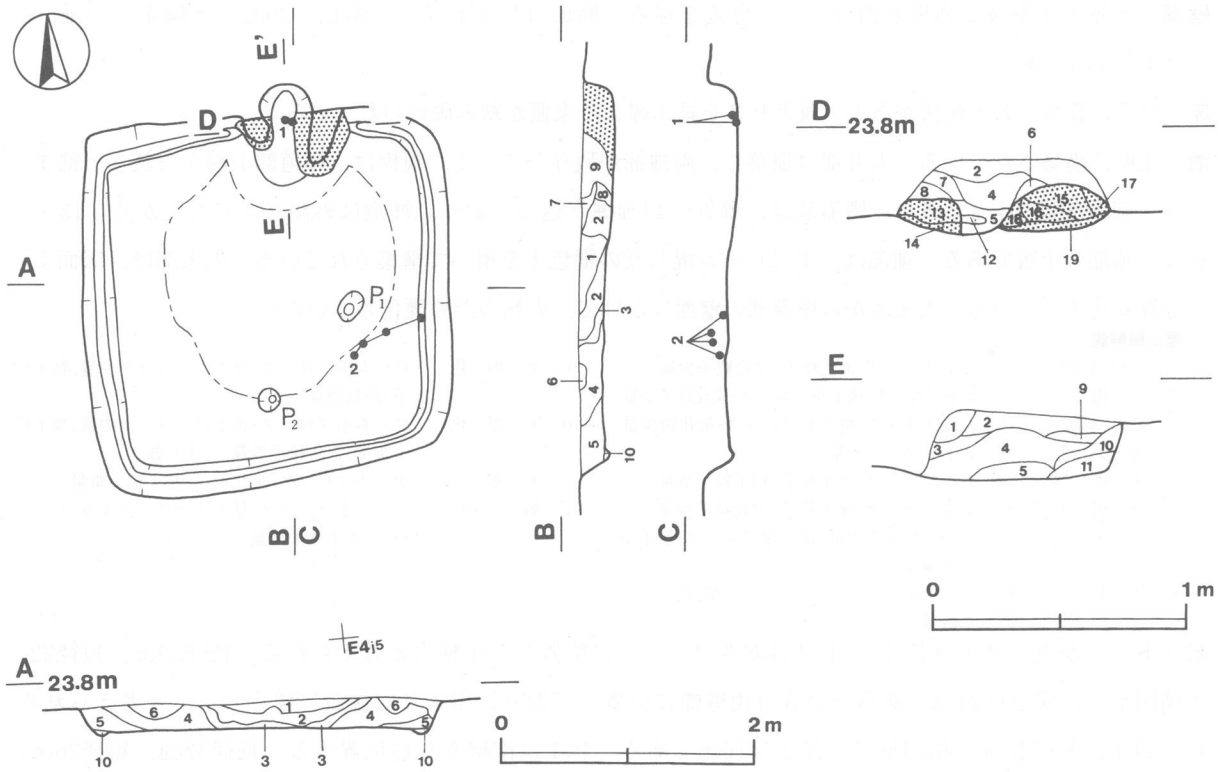
覆土　10層からなる。ロームブロックを多く含み，不自然な堆積状況を示しているため，人為堆積と考えられる。

土層解説

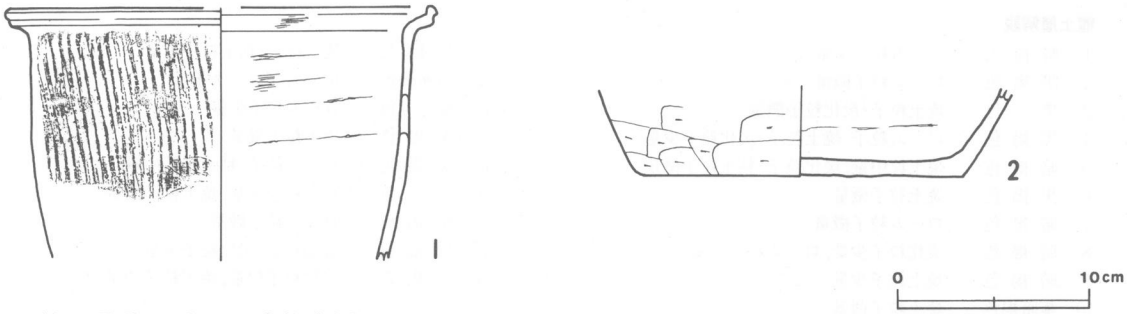
1	暗褐色	ローム小ブロック少量
2	黒褐色	ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・粘土粒子少量
3	黒褐色	ローム小ブロック・同粒子少量
4	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土中ブロック少量
5	暗褐色	ローム中ブロック中量,ローム小ブロック少量
6	黒褐色	焼土小ブロック少量
7	黒褐色	焼土粒子・粘土中ブロック・砂粒少量
8	黒褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック少量
9	褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
10	褐色	ローム粒子中量

遺物　土師器片51点，須恵器片71点が出土している。第120図1の須恵器甕は，竈底面から破片が重なった状態で出土している。外面には二次的な焼成を受けた痕跡が認められる。2の須恵器甕は，東壁寄りの覆土上層から正位の状態で出土している。

所見　本跡の時期は，出土した土器の特徴から9世紀後半頃と考えられる。



第119図　第61号住居跡実測図



第120図　第61号住居跡出土遺物実測図

第61号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第120図 1	甕 須恵器	A　[20.4] B　(13.1)	口縁部から体部の破片。口縁部は強く外反する。口縁端部は内側に若干折り返して面取りを施し，内面に稜を持つ。	口縁部内外面・体部内面ナデ。体部外面縦位の平行叩き。	砂粒・白色粒子 褐灰色 良	P359　30% PL52 竈底面
2	甕 須恵器	B　(4.6) C　17.0	体部から底部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・石英 灰褐色　普通	P360　25% 覆土上層

第64号住居跡（第121図）

位置　調査区域の南部，E4i5区。

規模と平面形　住居東側が調査区域外に位置する。南北2.93m，東西（2.54）mの方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－12°－E

壁　壁高は8～14cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北壁・南壁及び西壁北西コーナー付近を巡る。断面はU字形で，上幅12～26cm，下幅4～10cm，深さは4～7cmである。

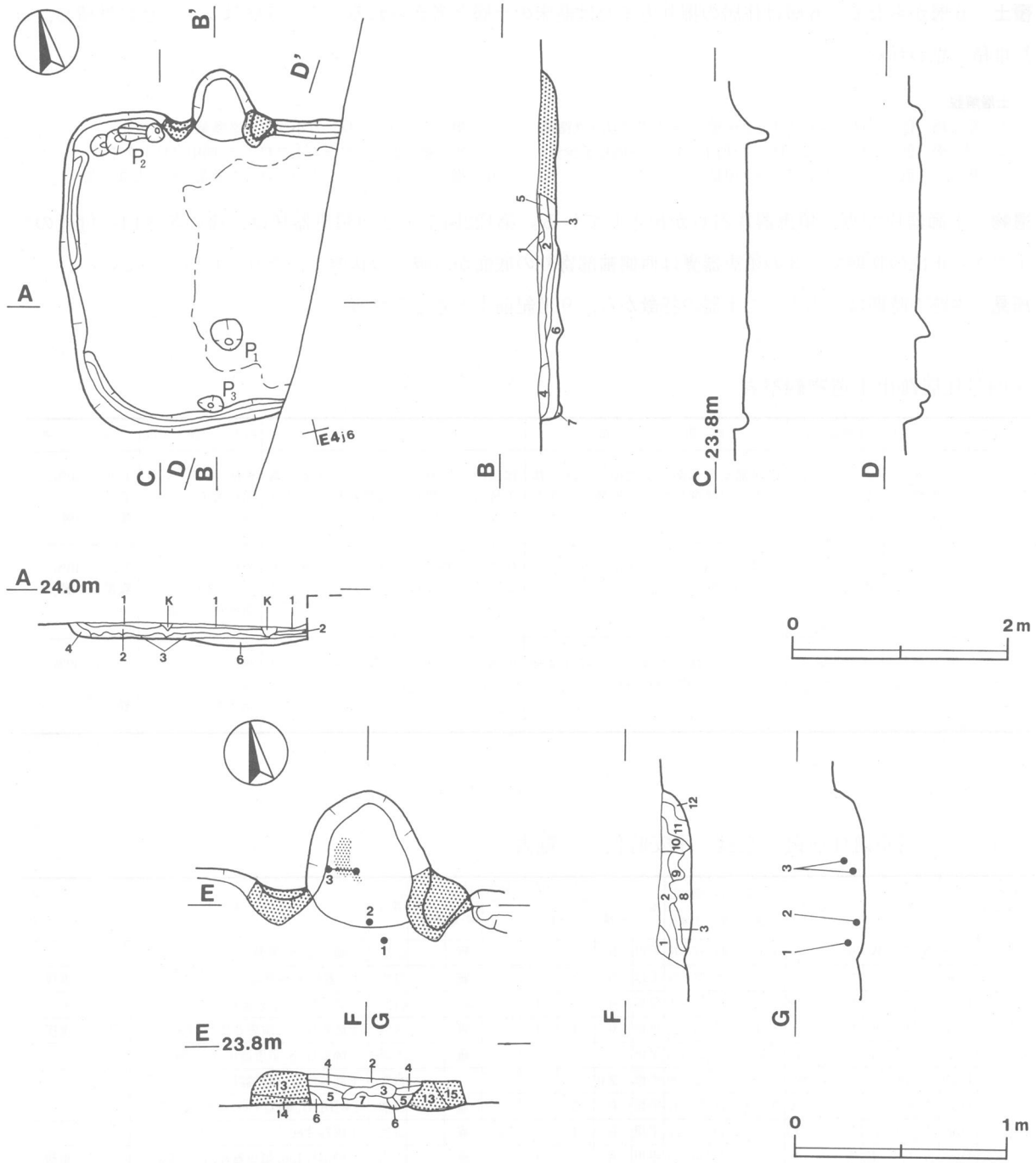
床　ローム質で，若干起伏がある。竈とP3を結ぶ線より東側が踏み固められている。

竈　北壁に構築されている。天井部は崩落し，両袖部が残存している。規模は，煙道部上端から焚き口部まで65cm，両袖部幅104cmである。煙道部は，壁外へ43cm掘り込んでおり，煙道は外傾して立ち上がる。13～15層は，袖部の土層である。袖部は，主にローム混じりの褐色土を用いて構築されている。火床部は，床面より3cm掘り込まれている。火床面から煙道部の壁面にかけて，火熱のため硬化している。

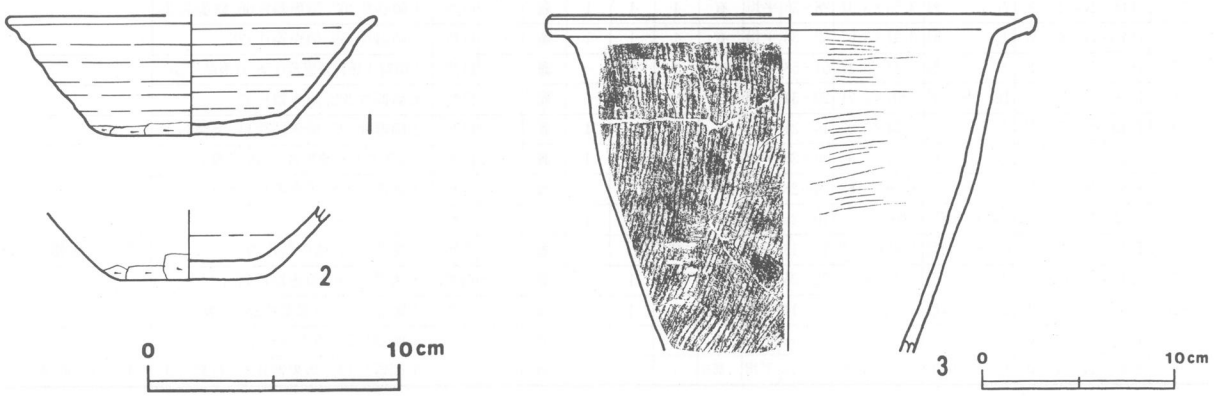
竈土層解説

1	にぶい赤褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2	灰褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
3	にぶい赤褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
4	褐灰色	ローム小ブロック少量
5	灰褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
6	黒褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
7	赤褐色	ローム小ブロック中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック少量
8	黒褐色	粘土粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土小ブロック微量
9	黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，粘土粒子・砂粒微量
10	黒褐色	ローム小ブロック・粘土中ブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量，しまり強
11	黒褐色	焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
12	褐色	ローム小ブロック・粘土小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量

ピット　3か所（P1～P3）。P2は北西コーナーに位置し，主柱穴と考えられる。長径26cm，短径22cmの楕円形で，深さは21cmである。P3は南壁際に位置しており，出入り口施設に伴うピットと考えられる。長径24cm，短径16cmの楕円形で，深さは16cmである。P1は南壁寄りに位置する。長径32cm，短径26cmの楕円形で，深さは14cmである。性格は不明である。



第121図　第64号住居跡実測図



第122図　第64号住居跡出土遺物実測図

覆土　6層からなる。6層は住居の掘り方または貼床の土層と考えられる。1～5層はレンズ状に堆積し，自然堆積と思われる。

土層解説

1　暗　褐　色　　ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量
2　黒　褐　色　　ローム大ブロック・同小ブロック・同粒子少量
3　褐　　色　　ローム小ブロック中量
4　褐　　色　　ローム小ブロック多量
5　灰　褐　色　　ローム大ブロック・同中ブロック中量
6　褐　　色　　ローム小ブロック多量，粘性・しまり強

遺物　土師器片22点，須恵器片21点が出土している。第122図1・2の須恵器坏は，竈の焚き口部付近の覆土中から正位の状態で，3の須恵器甕は西側袖部寄りの底面から破片の状態で，それぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，出土した土器の特徴から，9世紀前半と考えられる。

第64号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第122図 1	坏 須恵器	A　[14.4] B　4.7 C　6.9	口縁部から体部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切りを残し，一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・雲母 暗灰黄色 普通	P361　60% PL52 竈覆土中層
2	坏 須恵器	B　(2.8) C　6.0	口縁部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・スコリア・雲母 黄灰色　普通	P362　40% 竈覆土中層
3	甕 須恵器	A　[25.3] B　(17.5)	口縁部から体部の破片。口縁部は強く外反し，内面に稜を持つ。	口縁部内・外面，体部内面ナデ。体部外面縦位の平行叩き。	砂粒・白色粒子・雲母 灰黄褐色　普通	P363　30% PL52 竈底面

表4　六十目遺跡住居跡（奈良・平安時代）一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m)(長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考(新旧関係古～新)
							壁溝	主柱穴	出入口ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴			
2	C5a5	N-7°-W	方形	3.00×2.90	37～40	平坦	有	4	1	3	竈	－	自然	土師器片38，須恵器片23	
10	D3b6	N-11°-E	方形	3.81×3.78	38～44	平坦	有	2	1	－	竈	－	自然	土師器片98，須恵器片103，石製品片3	SD-14と重複
12	D3d2	N-22°-E	方形	3.77×3.69	18～39	平坦	有	－	1	－	竈	－	自然	土師器片97，須恵器片37，石製品1	
13	D2d0	N-44°-E	方形	3.40×3.36	6～22	平坦	有	4	1	－	竈	－	自然	土師器片163，須恵器片17，石製品1	SD-13と重複
14	C3g2	N-60°-W	長方形	2.70×2.35	28～30	平坦	－	－	－	－	竈	－	人為	土師器片78，須恵器片6，石製品1	
15	D3c0	N-18°-E	[方形]	(3.11×1.00)	22～30	平坦	一部有	－	－	－	－	－	自然	土師器片2，須恵器片2	
16	D3h2	N-22°-E	方形	3.22×3.14	32～41	平坦	有	5	－	－	竈	－	自然	土師器片441，須恵器片109，石製品1，鉄製品1	
17	D3g1	N-30°-E	方形	2.73×2.50	7～13	平坦	有	4	－	2	竈	－	自然	土師器片86	
18	D3i3	N-116°-E	長方形	2.74×2.40	30～41	平坦	有	－	1	－	竈	－	人為	土師器片156，須恵器片31，土製品2	SD-10と重複
19	C4j4	N-35°-E	方形	3.50×3.30	28～36	平坦	有	3	－	－	竈	－	自然	土師器片184，須恵器片2	
21	D4c2	N-32°-E	方形	4.15×4.00	18～32	平坦	有	4	1	1	竈2	－	自然	土師器片610，須恵器片310，石製品2，土製品2	SD-5と重複
22	D4d3	N-31°-E	方形	3.50×3.31	28～36	平坦	有	4	1	1	竈	－	自然	土師器片302，須恵器片66，鉄製品3	
23	D4d4	N-8°-W	方形	3.31×3.07	32～38	平坦	有	4	1	1	竈	－	自然	土師器片259，須恵器片128	
27	D3g0	N-7°-E	方形	3.41×3.27	54～58	平坦	有	3	1	－	竈	－	自然	土師器片161，須恵器片58，鉄製品片3	
28	D4i4	N-7°-E	長方形	3.01×2.71	20～34	平坦	－	3	－	－	竈	－	自然	土師器片202，須恵器片37	
29	E4a9	N-15°-E	方形	3.54×3.25	15～21	平坦	－	1	－	1	竈	－	自然	土師器片125，須恵器片11，土製品1	
31	E3c7	N-14°-E	方形	3.81×3.56	30～38	平坦	有	2	1	1	竈	－	自然	土師器片458，須恵器片246，石製品2	
32	E3c0	N-15°-E	長方形	4.06×3.68	24～28	平坦	有	3	1	1	竈	－	自然	土師器片258，須恵器片138，石片2	
34	E4d0	N-4°-W	[隅丸方形]	2.98×(2.30)	10～26	平坦	－	2	－	1	－	－	自然		
35	E4e2	N-17°-W	[方形]	3.89×(1.62)	10～13	平坦	有	2	－	2	竈	－	自然	土師器片91，須恵器片27	SK-74と重複
37	E4d4	N-0°	方形	4.16×4.02	22～26	平坦	有	4	1	－	竈	－	自然	土師器片220，須恵器片147，石片2	
38A	E3g4	N-2°-W	長方形	[4.30×3.20]	12～14	平坦	有	3	1	－	竈	－	自然	土師器片68，須恵器片28，石製品2	
38B	E3g4	N-93°-W	－	－ × －	4～18	平坦	－	1	－	－	竈	－	自然	土師器片74，須恵器片7	
40A	E3f5	N-84°-W	長方形	3.35×2.95	12～16	平坦	一部有	1	－	－	竈	－	自然	土師器片132，須恵器片22，石製品1	SI-40Bと重複

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m)(長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古～新)
							壁溝	主柱穴	出入口ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴			
40B	E3f6	N-10°-E	長方形	2.94×2.48	6～18	平坦	無	3	－	－	竈	－	自然	土師器片63,須恵器片10,灰釉陶器片3	SI-40Aと重複
43	E2j0	N-4°-W	[方形]	3.50×(0.43)	32～47	平坦	一部有	－	－	－	－	－	自然	土師器片28,須恵器片9	
45	E3j3	N-0°	方形	3.80×3.70	24～36	平坦	有	3	1	3	竈	－	自然	土師器片646,須恵器片290,灰釉陶器片1	SK-1,SK-2と重複
46	F3a2	N-12°-E	方形	4.03×4.00	26～40	平坦	有	1	1	1	竈	－	自然	土師器片553,須恵器片299,石片2	SK-34と重複
47	F2a0	N-1°-W	方形	5.25×4.87	18～24	平坦	有	4	1	－	竈2	－	自然	土師器片444,須恵器片154	SB-2と重複 竈A・Bあり
48	F2d9	N-6°-E	[方形]	2.66×(0.60)	12～16	平坦	－	－	－	－	－	－	自然	土師器片4,須恵器片4	SI-52と重複
50	E3g6	N-22°-E	長方形	3.94×3.47	8～14	平坦	有	4	1	－	竈	1	自然	土師器片76,須恵器片157,鉄製品1	
51	E3i7	N-10°-E	方形	3.79×3.52	26～32	平坦	有	4	1	1	竈	－	自然	土師器片491,須恵器片241,灰釉陶器片1	
52	E3i6	N-81°-W	[方形]	3.80×[3.51]	29～32	平坦	有	－	－	－	竈	－	人為	土師器片61,須恵器片38,石塊1	SI-51,SI-54と重複
53	F3a5	N-4°-E	長方形	2.47×2.22	4～10	平坦	無	－	－	－	－	－	人為	土師器片21,須恵器片6	SB-4と重複
54	E3g7	N-6°-W	長方形	4.15×3.87	22～30	平坦	有	4	1	－	竈	－	人為	土師器片122,須恵器片27	SI-51,SI-52と重複
56	E3h9	N-83°-W	長方形	3.25×2.17	4～6	平坦	無	2	1	－	竈	－	自然	土師器片29,須恵器片32,灰釉陶器片1	
58	E4j1	N-11°-W	方形	3.54×3.35	27～36	平坦	有	－	1	－	竈	－	自然	土師器片44,須恵器片17	SB-3と重複
59	F3a0	N-10°-E	方形	4.50×4.33	4～6	平坦	一部有	2	1	13	竈	2	人為	土師器片44,須恵器片17	
60	F3c0	－	－	(1.59×0.86)	8～10	平坦	－	－	－	－	－	－	人為		
61	E4i4	N-20°-E	方形	2.97×2.87	18～22	平坦	有	－	1	1	竈	－	人為	土師器片51,須恵器片71	
64	E4i5	N-12°-E	[方形]	2.93×(2.54)	8～14	平坦	有	－	1	2	竈	－	自然	土師器片22,須恵器片21	

（２）掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は，調査区域の南部を中心に６棟確認されている。以下，その特徴と遺物について記述する。

第１号掘立柱建物跡（第123図）

位置　調査区域の南部，Ｅ３h3区。

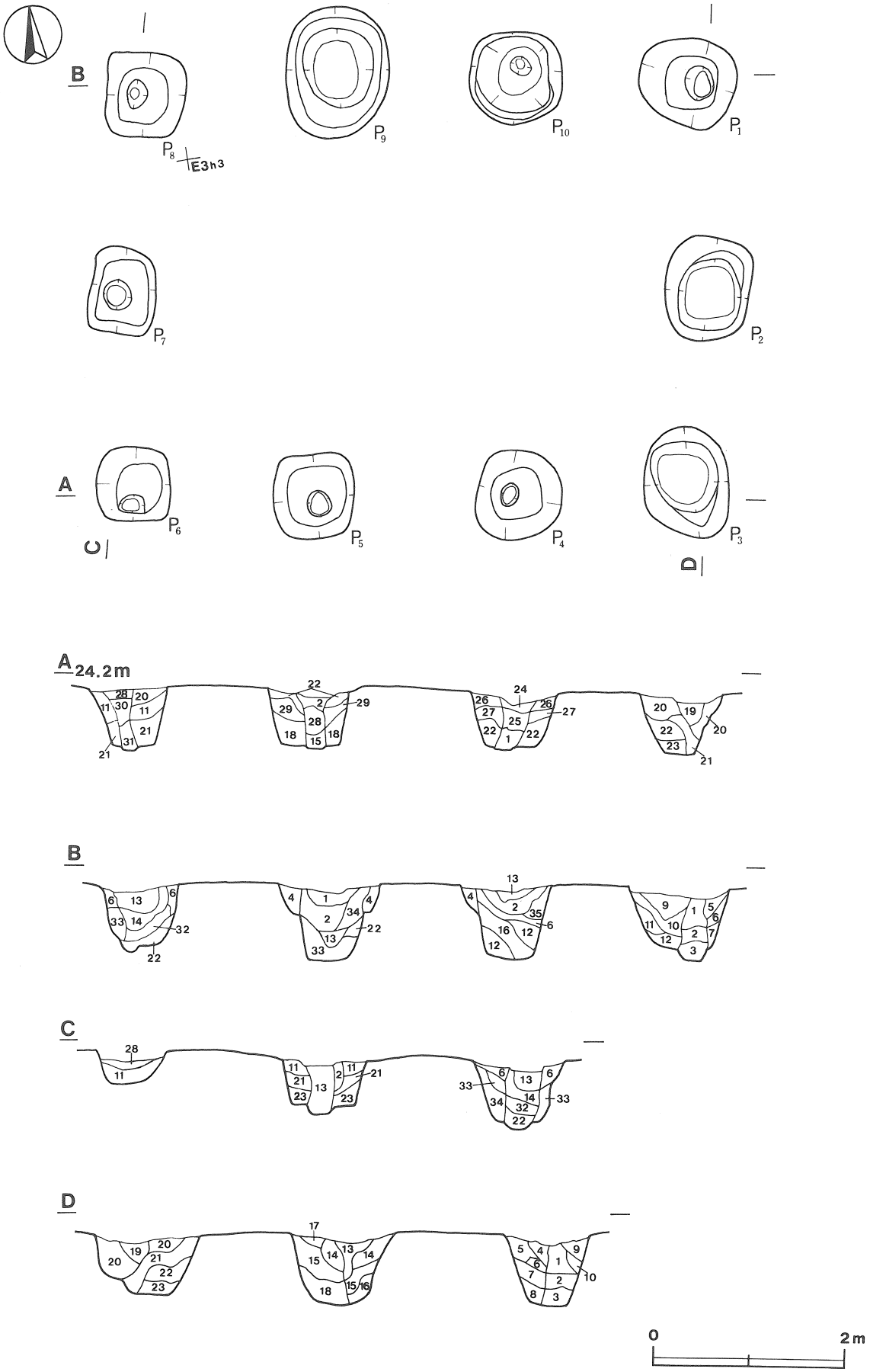
規模　桁行３間（平均5.93m），梁行２間（平均4.4m）の側柱構造の建物跡である。柱穴は10か所（Ｐ１～Ｐ10）で，柱間寸法は芯々間で桁行1.9～2.0m，梁行2.1～2.2m，面積は約26.09㎡である。柱穴の掘り方は，Ｐ２・Ｐ３・Ｐ７・Ｐ９が長軸0.9～1.34m，短軸0.72～1.04mの長方形，Ｐ１・Ｐ４～６・Ｐ８が一辺0.75～0.96mの方形である。断面は逆台形で，深さ0.56～0.8mである。柱痕また柱抜き取り痕はＰ１・Ｐ４～Ｐ８・Ｐ10で認められ，復元される柱の径は20～36cmである。

桁行方向　N―81°―E

覆土　１～３・13・14・24・25・28・32層は，柱痕または柱抜き取り痕の土層と考えられる。その他の層は，水平に版築状の堆積状況が認められることから，埋土と考えられる。

土層解説

1　にぶい褐色　ローム大ブロック・同小ブロック中量，ローム中ブロック少量
2　褐色　ローム中ブロック・同小ブロック中量
3　暗褐色　ローム大ブロック・同中ブロック中量
4　灰褐色　ローム小ブロック・同粒子中量
5　にぶい褐色　ローム大ブロック・同小ブロック中量
6　にぶい褐色　ローム中ブロック・同小ブロック中量
7　灰褐色　ローム大ブロック・同中ブロック中量
8　暗褐色　ローム大ブロック多量，しまり弱
9　褐灰色　ローム大ブロック中量
10　にぶい褐色　ローム大ブロック中量，ローム粒子中量
11　褐色　ローム中ブロック・同小ブロック中量
12　暗褐色　ローム小ブロック・同粒子中量
13　灰褐色　ローム大ブロック中量，ローム中ブロック・同小ブロック少量
14　褐色　ローム中ブロック中量，ローム大ブロック・同小ブロック少量
15　明褐色　ローム大ブロック・同中ブロック少量
16　暗褐色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量
17　褐色　ローム大ブロック少量
18　暗褐色　ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量
19　褐色　ローム小ブロック多量，ローム大ブロック・同中ブロック少量
20　褐色　ローム中ブロック・同小ブロック中量，ローム大ブロック少量
21　褐色　ローム大ブロック・同中ブロック中量，ローム小ブロック少量
22　褐色　ローム中ブロック多量
23　灰褐色　ローム小ブロック多量
24　褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
25　黒褐色　ローム大ブロック中量，ローム小ブロック少量
26　褐色　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量
27　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量
28　黒褐色　ローム小ブロック多量，ローム大ブロック少量，しまり弱
29　暗褐色　ローム大ブロック・同小ブロック中量，ローム中ブロック少量
30　黒色　ローム中ブロック中量，ローム大ブロック・同小ブロック少量
31　暗褐色　ローム小ブロック多量，ローム大ブロック少量，しまり弱
32　褐色　ローム中ブロック多量，ローム大ブロック・同小ブロック少量
33　褐色　ローム小ブロック多量，ローム中ブロック中量
34　褐色　ローム小ブロック多量
35　暗褐色　ローム大ブロック・同小ブロック中量



第123図　第１号掘立柱建物跡実測図

遺物　遺物は出土していない。

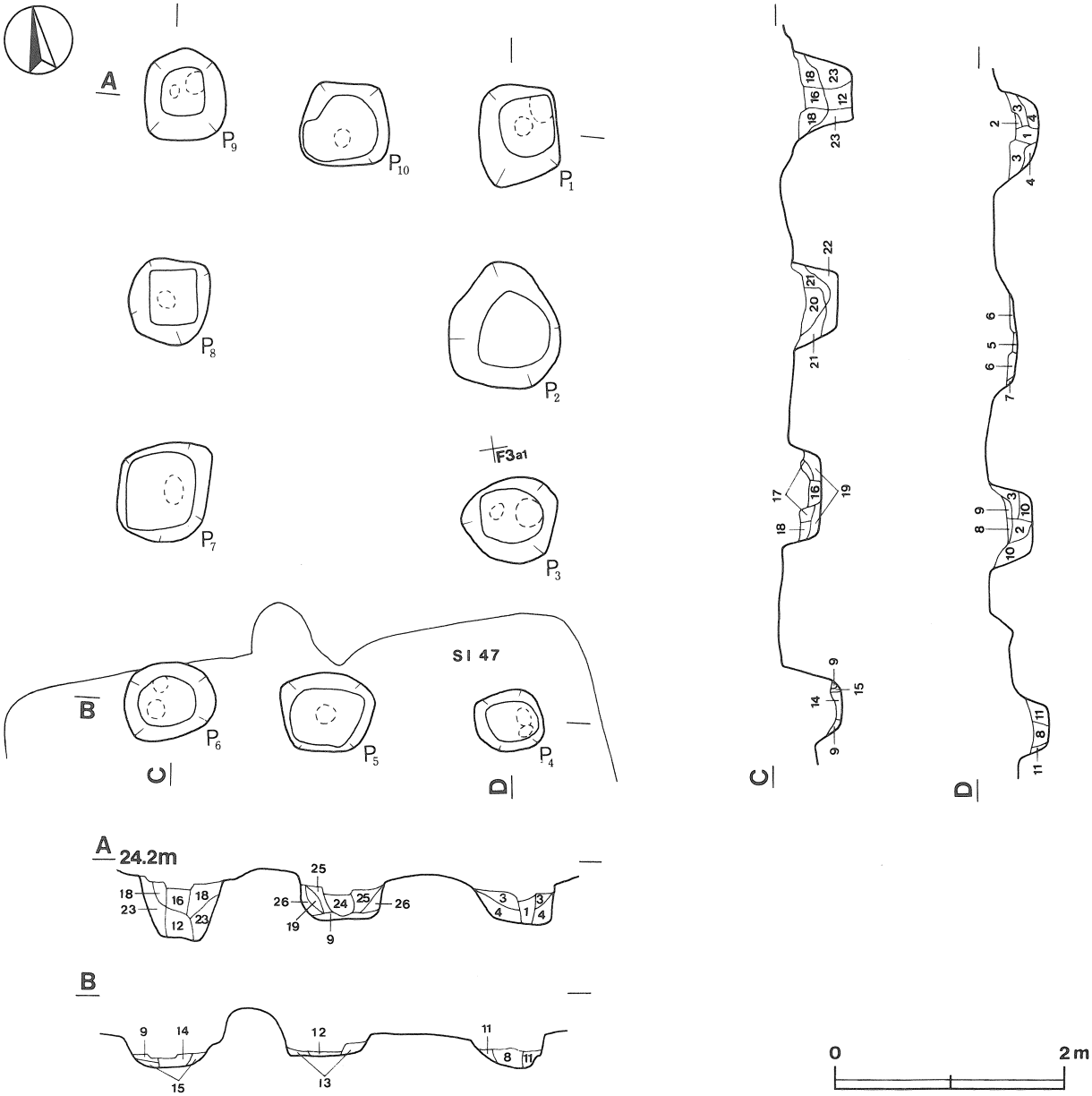
所見　本跡の桁行方向は，第２号掘立柱建物跡の桁行方向と直交し，第３号掘立柱建物跡とほぼ平行である。このことから，これらの掘立柱建物跡は一連の企画の下で構築されたと思われる。このことから，本跡の時期は，第２号掘立柱建物跡とほぼ同時期と考えられる。

第２号掘立柱建物跡（第124図）

位置　調査区域の南部，Ｅ２ｊ0区。

重複関係　本跡が，第47号住居跡の覆土を掘り込んで構築されていることから，本跡の方が新しい。

規模　桁行３間（平均5.4m），梁行２間（平均3.18m）の側柱構造の建物跡である。柱穴は10か所（Ｐ１～Ｐ10）で，柱間寸法は芯々間で桁行1.75～1.85m，梁行1.45～1.65m，面積は約17.17㎡である。柱穴の掘り方は，Ｐ１・Ｐ３～Ｐ７・Ｐ９は長軸0.58～0.9m，短軸0.54～0.8mの長方形，Ｐ２は長径1.06m，短径1.0mの不整円形，Ｐ８・Ｐ10は一辺0.74～0.76mの方形である。断面形は逆台形で，深さは0.2～0.64mである。柱痕または柱抜き取り痕はＰ１～Ｐ７・Ｐ９・Ｐ10で認められ，復元される柱の径は，15～24cmである。



第124図　第２号掘立柱建物跡実測図

桁行方向　N—9°—E

覆土　1・2・4・8・12・16・24層は，粘性・しまりが弱い層が多く，柱痕または柱抜き取り痕の土層と考えられる。その他の層は，ローム・黒色土互層や版築状の堆積が認められることから，埋土と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ローム大ブロック多量,しまり弱
2	暗褐色	ローム大ブロック中量,ローム粒子少量,しまり弱
3	暗褐色	ローム大ブロック中量,ローム中ブロック・同小ブロック少量
4	黒褐色	ローム小ブロック中量,ローム大ブロック・同中ブロック少量
5	灰褐色	ローム粒子多量
6	褐色	ローム中ブロック・同小ブロック中量,粘性・しまり強
7	褐色	ローム小ブロック多量,粘性・しまり強
8	黒褐色	ローム小ブロック中量,ローム中ブロック少量,粘性弱
9	灰褐色	ローム中ブロック中量
10	褐色	ローム大ブロック・同小ブロック中量
11	暗褐色	ローム中ブロック中量,ローム大ブロック少量
12	暗褐色	ローム中ブロック・同小ブロック少量
13	黒褐色	ローム大ブロック・同小ブロック少量,しまり強
14	黒褐色	ローム小ブロック少量,しまり弱
15	褐色	ローム小ブロック中量,ローム大ブロック少量
16	黒褐色	ローム大ブロック少量,しまり弱
17	黒褐色	ローム小ブロック中量
18	褐色	ローム小ブロック多量
19	にぶい褐色	ローム大ブロック多量
20	褐色	ローム大ブロック中量,ローム中ブロック・同小ブロック少量,しまり弱
21	にぶい褐色	ローム中ブロック中量,ローム大ブロック・同小ブロック少量
22	にぶい褐色	ローム大ブロック中量,ローム中ブロック・同小ブロック少量
23	暗褐色	ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量
24	褐色	ローム大ブロック・同中ブロック少量,ローム小ブロック微量,しまり弱
25	暗褐色	ローム大ブロック・同中ブロック少量
26	暗褐色	ローム中ブロック・同小ブロック少量

遺物　土師器片５点，須恵器片２点が出土している。いずれも小片であり，図示できなかった。

所見　第２号掘立柱建物跡の桁行方向は，第１・３号掘立柱建物跡の桁行方向とほぼ直交しており，これらの建物を意識した配置である。本跡は，８世紀後半と考えられる第47号住居跡の覆土を掘り込んでいることから，これよりも後出する。９世紀後半から10世紀初め頃と考えられる第50・51号住居跡の主軸と本跡の桁行方向がほぼ同じ方向であるため，これと近い時期に構築されたと推定される。

第３号掘立柱建物跡（第125図）

位置　調査区域の南部，Ｅ３g9区。

重複関係　本跡が，第56号住居跡の覆土を掘り込んで構築されているので，本跡の方が新しい。

規模　桁行２間（平均5.2m），梁行２間（平均3.6m）の側柱構造の建物跡である。柱穴は８か所（Ｐ１～Ｐ８）で，柱間寸法は芯々間で桁行2.45～2.55m，梁行1.77～1.88mで，面積は約18.72m²である。柱穴の掘り方は，長軸0.76～1.15m，短軸0.7～0.85mの長方形である。断面形は逆台形で，深さは0.38～0.5mである。柱痕または柱抜き取り痕はＰ１～Ｐ８で確認され，復元される柱の径は19～23cmである。

桁行方向　N—80°—W

覆土　1・6・10・15・22・23・26層は，粘性あるいはしまりが弱い層位が多く，柱痕または柱抜き取り痕の土層と考えられる。その他の層は，版築状の堆積が認められることから，埋土と考えられる。

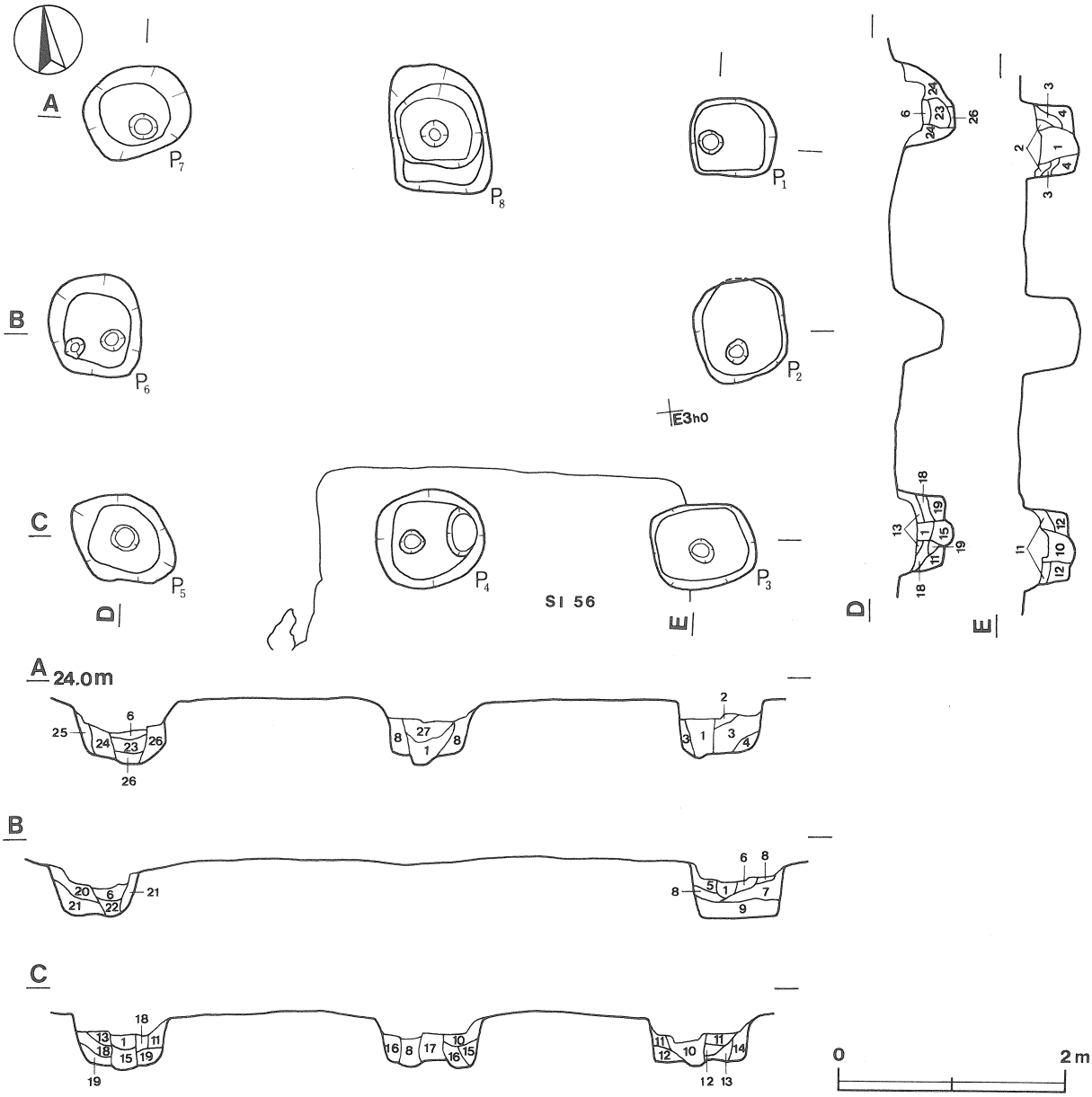
土層解説

1	黒褐色	ローム大ブロック中量,しまり弱
2	灰褐色	ローム中ブロック少量,しまり弱
3	褐色	ローム大ブロック中量,ローム中ブロック・同小ブロック少量
4	褐色	ローム小ブロック多量
5	黒褐色	ローム小ブロック少量
6	灰褐色	ローム大ブロック中量
7	褐色	ローム大ブロック中量,ローム小ブロック少量,しまり弱
8	灰褐色	ローム小ブロック多量
9	黒褐色	ローム大ブロック・同中ブロック少量
10	黒褐色	ローム中ブロック少量
11	褐色	ローム中ブロック中量,ローム小ブロック少量
12	褐色	ローム中ブロック多量
13	黒褐色	ローム小ブロック少量,しまり弱
14	褐色	ローム大ブロック中量
15	極暗褐色	ローム小ブロック,しまり弱
16	暗褐色	ローム大ブロック中量,ローム小ブロック少量
17	褐色	ローム大ブロック・同中ブロック中量,粘性・しまり強
18	暗褐色	ローム小ブロック中量,ローム中ブロック少量
19	暗褐色	ローム中ブロック・同小ブロック少量
20	にぶい褐色	ローム大ブロック多量
21	褐色	ローム大ブロック中量
22	暗褐色	ローム大ブロック中量
23	暗褐色	ローム大ブロック多量,しまり弱

24　暗　褐　色　　ローム小ブロック少量，粘性・しまり弱
25　暗　褐　色　　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量
26　暗　褐　色　　ローム中ブロック多量，しまり弱
27　暗　褐　色　　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量，しまり弱

遺物　遺物は，出土していない。

所見　本跡の桁行方向は，第１号掘立柱建物跡の桁行と平行し，第２号掘立柱建物跡桁行とほぼ直交する。本跡の時期は，これらの建物跡と同じ時期と考えられる。



第125図　第３号掘立柱建物跡実測図

第４号掘立柱建物跡（第126図）

位置　調査区域の南部，Ｆ３a5区。

重複関係　本跡は，第53号住居跡の覆土を掘り込んで構築されているので，本跡の方が新しい。

規模　桁行２間（平均3.37m），梁行２間（平均3.18m）の側柱構造の建物跡である。柱穴は８か所（Ｐ１～Ｐ８）で，柱間寸法は芯々間で桁行1.6～1.7m，梁行1.35～1.92m，面積は約10.72m²である。柱穴の掘り方は，長軸0.82～1.03m，短軸0.75～0.98mの方形である。断面形は逆台形で　深さは0.26～0.56mである。

柱痕または柱抜き取り痕はＰ３～Ｐ５・Ｐ７・Ｐ８で認められ，Ｐ１・Ｐ６では平面的には確認できなかったものの，土層断面から確認された。復元される柱の径は20～28cmである。

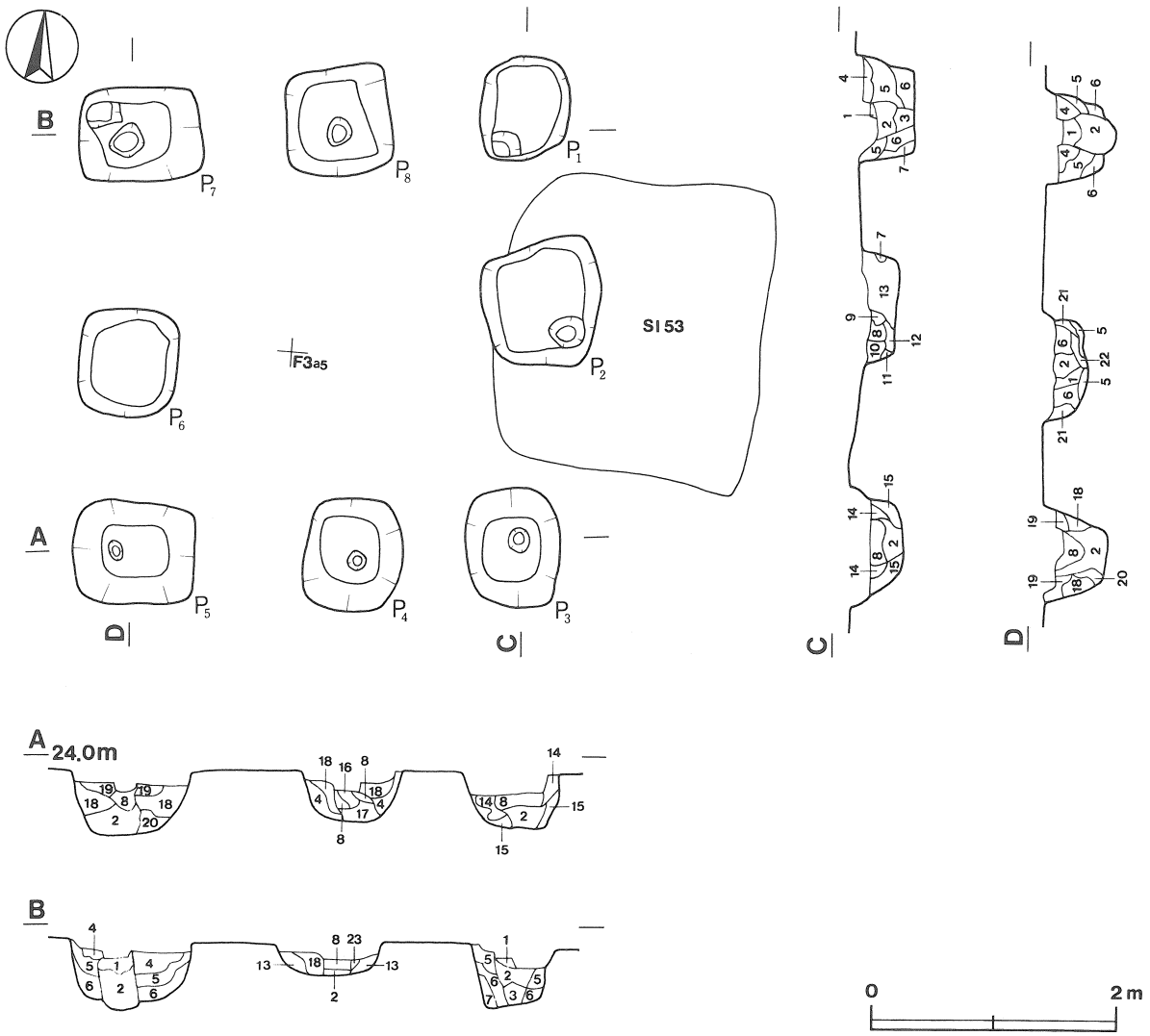
桁行方向　N―3°―W

覆土　１～３・８・16層はしまりが弱く，柱痕または柱抜き取り痕の土層と思われる。その他の層は，版築状の堆積が認められることから，埋土と考えられる。

土層解説

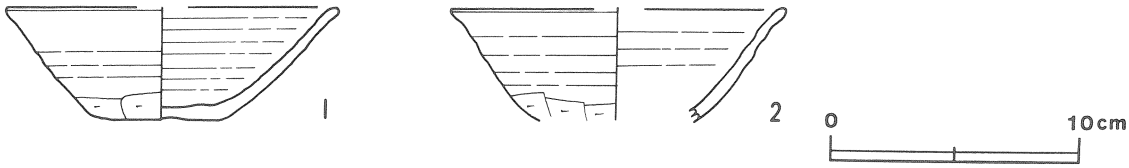
1	にぶい褐色	ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・同粒子少量
2	灰　褐　色	ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量，しまり弱
3	褐　灰　色	ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量，しまり弱
4	灰　褐　色	ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量
5	褐　灰　色	ローム中ブロック中量，ローム大ブロック・同小ブロック少量
6	褐　　色	ローム大ブロック中量，ローム中ブロック・同小ブロック少量
7	にぶい褐色	ローム小ブロック多量
8	褐　　色	ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量，しまり弱
9	明　褐　色	ローム大ブロック中量，ローム中ブロック・同小ブロック少量
10	褐　　色	ローム小ブロック少量
11	明　褐　色	ローム中ブロック・同小ブロック中量
12	明　褐　色	ローム大ブロック多量
13	褐　　色	ローム小ブロック・同粒子中量
14	黒　褐　色	ローム大ブロック・同中ブロック少量
15	暗　褐　色	ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量
16	にぶい褐色	ローム大ブロック多量，粘性・しまり弱
17	黒　褐　色	ローム中ブロック中量
18	褐　　色	ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量
19	にぶい褐色	ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量
20	暗　褐　色	ローム大ブロック少量
21	褐　　色	ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量
22	灰　褐　色	ローム大ブロック中量，ローム中ブロック・同小ブロック少量
23	褐　　色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量

遺物　土師器片11点，須恵器片12点が出土している。第127図１・２は，須恵器の坏で，Ｐ８の埋土中から出土している。



第126図　第４号掘立柱建物跡実測図

所見　本跡の桁行方向は，第１～３号掘立柱建物跡の桁行方向より西側を指し，別の企画によって構築されたと考えられる。本跡の時期は，Ｐ８の埋土から出土した土器から，９世紀以降の平安時代と考えられる。



第127図　第４号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第４号堀立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第127図 1	坏 須恵器	A　[12.7] B　4.4 C　5.4	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	底部回転ヘラ切り痕を残し，手持ちヘラ削り。体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母 橙色 普通	Ｐ364　60% ＰＬ52 Ｐ８覆土中
2	坏 須恵器	A　[13.2] B　(4.5)	口縁部から体部の破片。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がり，端部付近で若干外反する。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	砂粒・スコリア・雲母・白色粒子 黄褐色　普通	Ｐ365　35% Ｐ８覆土中

第５号掘立柱建物跡（第128図）

位置　調査区域の中南部，Ｆ３d8区。

規模　桁行３間（平均5.32m），梁行２間（平均3.38m）の側柱構造の建物跡である。柱穴は10か所（Ｐ１～Ｐ10）で，柱間寸法は芯々間で桁行1.5～1.88m，梁行1.32～1.98m，面積は約17.98m²である。柱穴の掘り方は，Ｐ２～Ｐ４・Ｐ８・Ｐ10が一辺0.68～0.82mの方形，Ｐ１・Ｐ５～Ｐ７・Ｐ９が長軸0.84～1.0m，短軸0.7～0.82mの長方形である。断面形はおおむね逆台形で，深さは0.46～0.66mである。柱痕または柱抜き取り痕はＰ２～Ｐ８で認められ，復元される柱の径は24～38cmである。

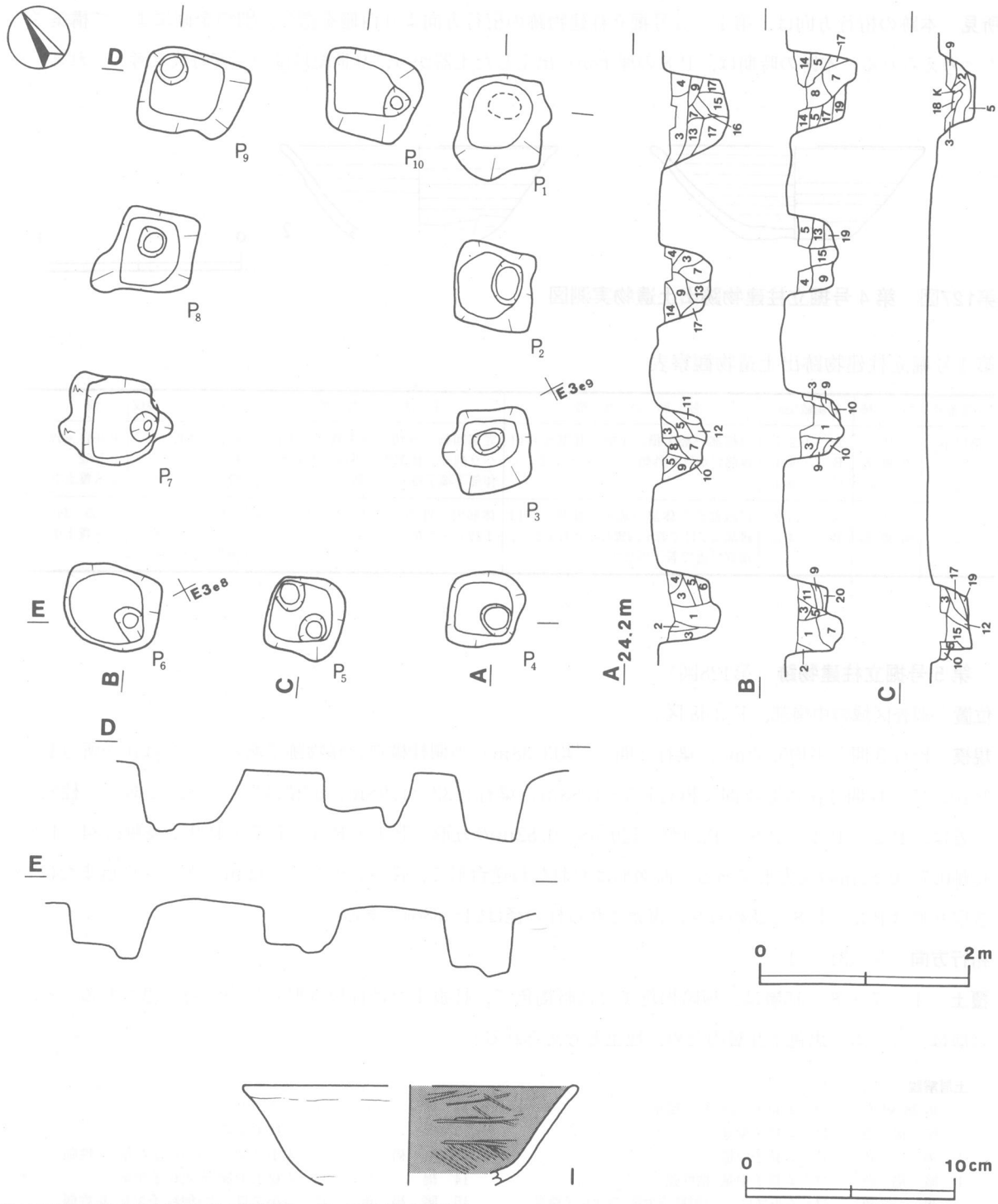
桁行方向　N―31°―E

覆土　１・７・８・15層は，極暗褐色または暗褐色で，柱痕または柱抜き取り痕の土層と思われる。その他の層は，ローム・黒色土互層のため，埋土と考えられる。

土層解説

1	極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量
3	褐色	ローム粒子中量
4	暗褐色	ローム粒子中量，粘性強
5	褐色	ローム小ブロック・同粒子少量，炭化粒子微量
6	褐色	ローム中ブロック・同粒子中量
7	暗褐色	ローム粒子・赤色粒子微量
8	暗褐色	ローム粒子少量
9	褐色	ローム粒子中量，赤色粒子少量
10	褐色	ローム粒子中量，粘性強
11	褐色	ローム粒子中量
12	褐色	ローム粒子少量
13	暗褐色	ローム小ブロック・同粒子少量，粘性強
14	褐色	ローム粒子中量，赤色粒子少量
15	暗褐色	ローム小ブロック・同粒子少量，粘性弱
16	褐色	ローム粒子少量
17	にぶい褐色	ローム粒子少量，砂粒微量，粘性強
18	褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
19	暗褐色	赤色粒子少量，ローム粒子微量
20	暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子・赤色粒子微量

遺物　土師器片12点，須恵器片７点が出土している。第128図１は土師器の坏で，Ｐ３の埋土中から出土している。



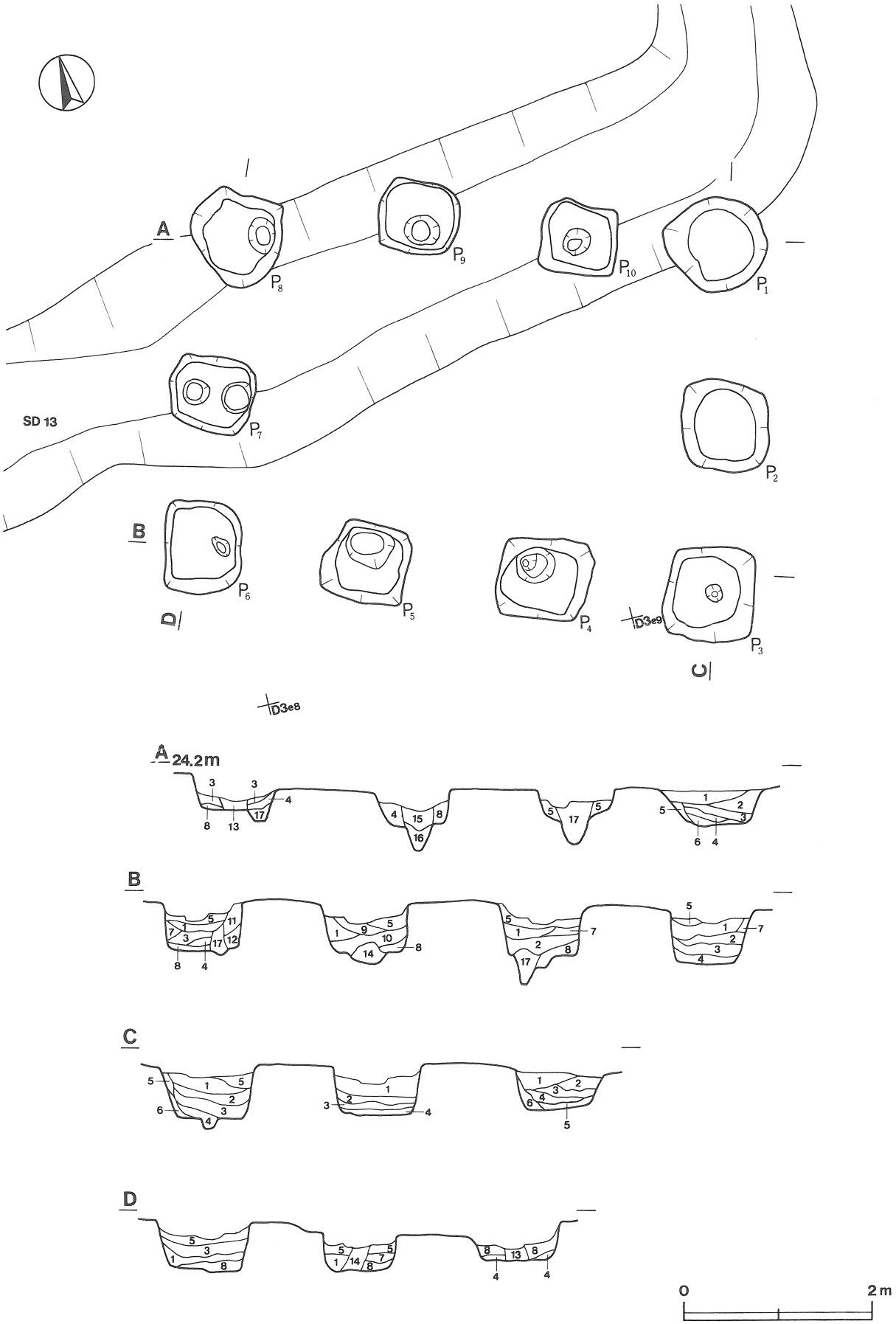
第128図　第５号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第５号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第128図 1	坏 土師器	A　[15.9] B　(4.9)	口縁部から体部の破片。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部内面磨き・黒色処理。	砂粒・スコリア・雲母 黄橙色　普通	P366　25% P３覆土中

第６号掘立柱建物跡（第129図）

位置　調査区域の中部，Ｄ３d8区。



第129図　第６号掘立柱建物跡実測図

重複関係　第13号溝跡によって覆土を破壊されているので，本跡の方が古い。

規模　桁行３間（平均5.17m），梁行２間（平均3.4m）の側柱構造の建物である。柱穴は10か所（Ｐ１～Ｐ10）で，柱間寸法は芯々間で桁行1.58～1.98m，梁行1.6～1.84m，面積は約17.58㎡である。柱穴の掘り方は，Ｐ１～Ｐ３・Ｐ５・Ｐ８～Ｐ10は，一辺0.74～1.0mの方形，Ｐ４・Ｐ６・Ｐ７は長軸0.92～1.0m，短軸0.82～0.9mの長方形である。断面形は逆台形で，深さは0.38～0.54mである。柱痕または柱抜き取り痕はＰ４・Ｐ５・Ｐ７～Ｐ10で認められ，復元される柱の径は28～40cmである。

桁行方向　N―77°―W

覆土　14～16層は，暗褐色または粘性の弱い層位であり，柱痕または柱抜き取り痕の土層と思われる。その他の層は水平に版築状の堆積が見られることから，埋土と考えられる。

土層解説

1	明褐色	ローム粒子多量，炭化粒子・赤色粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量
3	にぶい褐色	ローム粒子中量，粘性強
4	暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，粘性強
5	褐色	ローム粒子・赤色粒子少量
6	褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
7	褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
8	褐色	ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量，粘性強
9	にぶい褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
10	にぶい褐色	ローム粒子中量，炭化粒子少量
11	黒褐色	ローム粒子・赤色粒子少量
12	暗褐色	ローム粒子中量
13	明褐色	ローム粒子多量
14	暗褐色	ローム粒子中量，炭化粒子少量
15	暗褐色	ローム粒子少量，粘性弱
16	褐色	ローム粒子・赤色粒子少量，粘性弱
17	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量

遺物　遺物は，出土していない。

所見　本建物跡は，桁行方向が第１号掘立柱建物跡の桁行方向とほぼ同一方向を指向しており，共通した企画の下で構築された可能性がある。時期は，第１～３号掘立柱建物跡と同じ時期と考えられる。

表５　六十目遺跡掘立柱建物跡一覧表

掘立柱建物跡番号	位置	桁行方向	規模（長さの単位はすべてm）						柱穴（長さの単位はすべてcm）							覆土	主な遺物	備考 遺構番号 新旧関係(古→新) 時代 その他
			桁間	平均距離	桁行柱間	梁間	平均距離	梁行柱間	面積(m²)	構造	柱穴	平面形	長径(軸)	短径(軸)	深さ	柱寸法			
1	E3h3	N-81°-E	3	4.4	2.1～2.2	2	5.39	1.9～2.0	26.09	側柱	10	方・長方	75～139	72～104	56～80	20～36	人為		SB-1，平安
2	E2j0	N-9°-E	3	5.4	1.75～1.85	2	3.18	1.45～1.65	17.17	側柱	10	方・長方	58～106	54～100	20～64	15～24	人為		SB-2，SI-47→本跡，平安
3	E3g9	N-80°-W	2	5.2	2.45～2.55	2	3.6	1.77～1.88	18.72	側柱	8	長方	76～115	70～85	38～50	19～23	人為		SB-3，平安
4	F3a5	N-3°-W	2	3.37	1.6～1.7	2	3.18	1.35～1.92	10.72	側柱	8	長方	82～103	75～98	26～56	10～28	人為	土師器片11，須恵器片12	SB-4，SI-53→本跡，平安
5	F3d8	N-31°-E	3	5.32	1.5～1.88	2	3.38	1.32～1.98	17.98	側柱	10	方・長方	68～100	70～82	46～66	24～38	人為	土師器片12，須恵器片７	SB-5，平安
6	D3d8	N-77°-W	3	5.17	1.58～1.98	2	3.4	1.6～1.84	17.58	側柱	10	方・長方	74～100	74～90	38～54	24～46	人為		SB-6，本跡→SD-13，平安

（３）竪穴状遺構

調査区の中部から，規模・形状は異なるものの，底面を２段に掘り込んだ竪穴状の遺構を２基確認した。以下，その特徴と遺物について記載する。

第１号竪穴状遺構（第130図）

位置　調査区域の中部，Ｄ３h9区。

形状と規模　本跡の北西部が一部調査区域外にかかる。断面は円筒状で，底面に一段の掘り込みを持っている。底面は擂鉢状に緩やかに傾斜し，掘り込み面に至る。規模は，上端で長径2.61m，短径（2.02）mの不整円形，底面は長径2.3m，短径（1.70）mの同じく不整円形である。壁高は1.05～1.1mで，ほぼ垂直に立ち上がる。底面の掘り込みは長軸1.45m，短軸0.85mの長方形で，深さは0.2mである。底面はほぼ平坦で，掘り込み面の壁は外傾して立ち上がる。遺構上端から掘り込み面の底部までの深さは，1.88mである。

長径方向　N—26°—E

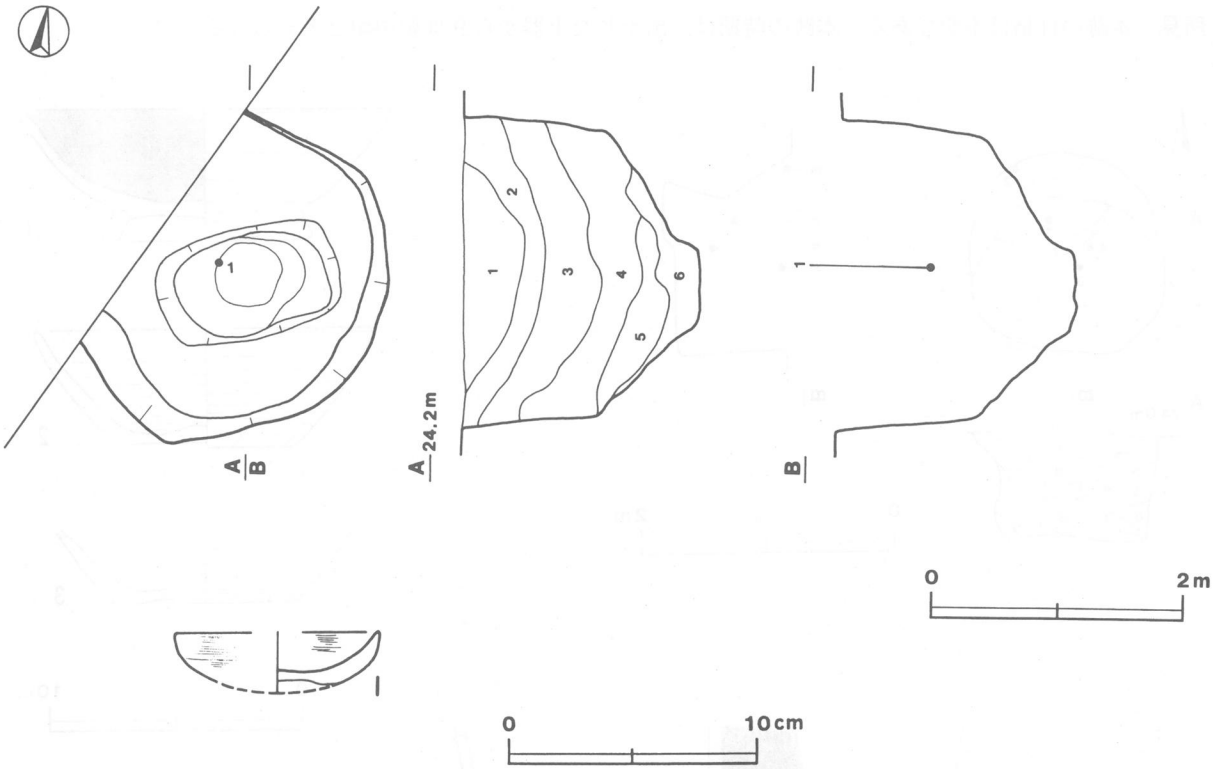
覆土　6層からなる。ロームブロックを含む層が多いことから人為堆積と考えられる。

土層解説

1	明褐色	ローム大ブロック多量，しまり強	4	にぶい褐色	ローム大ブロック多量
2	黒褐色	粘土大ブロック多量，ローム小ブロック少量	5	極暗褐色	ローム小ブロック・同粒子少量
3	暗褐色	粘土大ブロック中量，ローム大ブロック少量，粘性・しまり強	6	褐色	ローム粒子中量，粘性強

遺物　土師器片5点，須恵器片6点が出土している。第130図1は土師器小皿で，覆土中層から出土している。

所見　本跡の性格は明らかではない。時期は，出土した土器から11世紀前後と推定される。



第130図　第1号竪穴状遺構・出土遺物実測図

第1号竪穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第130図 1	小皿 土師質土器	A ［8.0］ B （2.1）	口縁部一部欠損。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	砂粒・スコリア 橙色　普通	P406　60% 覆土中層

第2号竪穴状遺構（第131図）

位置　調査区域の中部，D4f5区。

規模と形状　断面は南北方向で若干袋状を呈し，北壁側が一段深く掘り込まれている。底面は平坦である。上端部は径約1.55mの円形，底面は長径1.7m，短径1.25mの楕円形である。壁高は0.85～0.95mで，南壁側は内傾して，北壁側は外傾して立ち上がる。底面の掘り込みは長径0.95m，短径［0.57］mの楕円形で，深さは0.1mである。掘り込み面の底面は平坦である。遺構上端から掘り込み面の底部までの深さは，1.01mである。

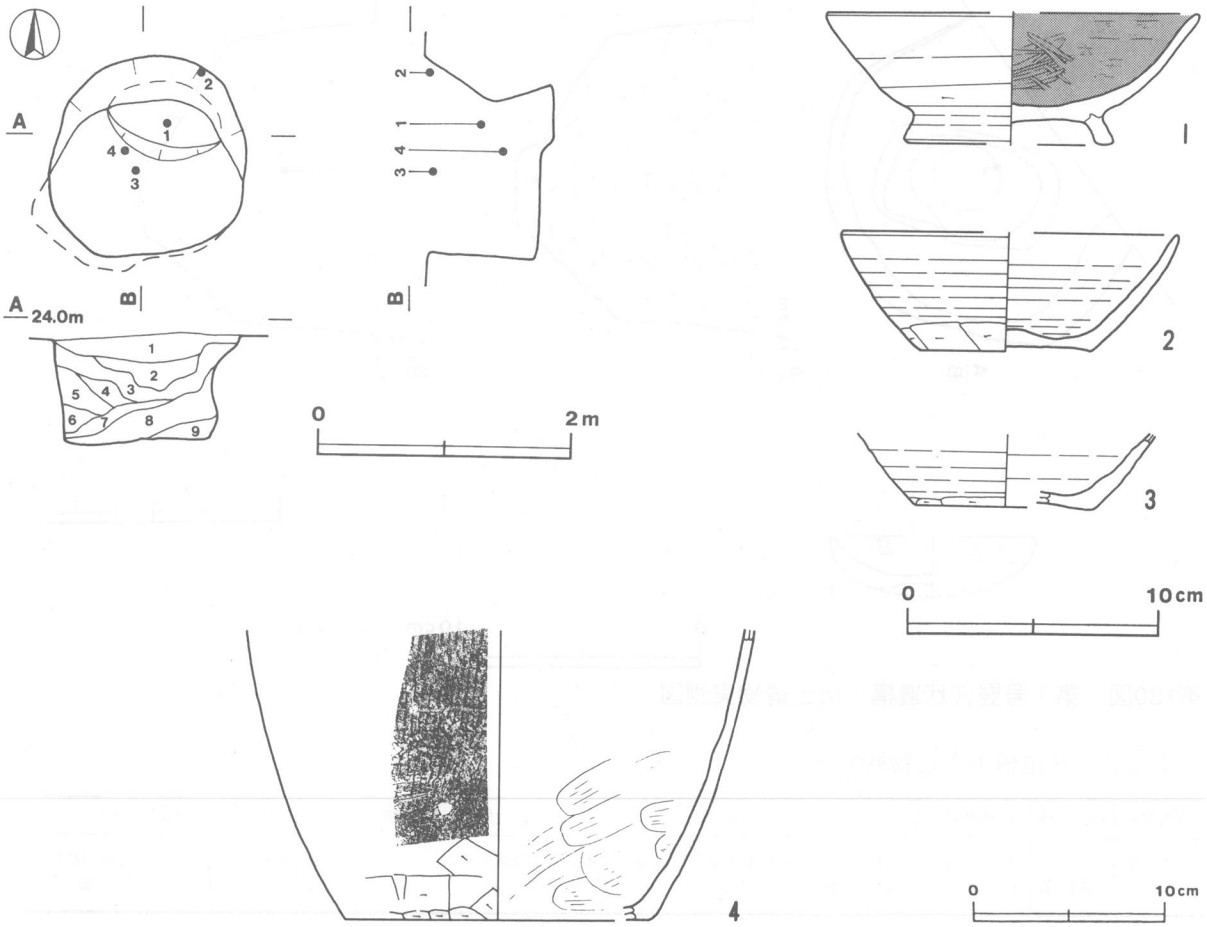
覆土　9層からなる。ロームブロック・粘土ブロックを含む層が多く，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	褐灰色	粘土粒子中量，ローム中ブロック・同小ブロック少量，粘性・しまり強	5	褐色	ローム粒子中量
2	黒褐色	ローム小ブロック・同粒子少量	6	にぶい褐色	ローム粒子中量，粘性強
3	褐色	ローム大ブロック中量，ローム中ブロック・同小ブロック少量，粘土大ブロック微量	7	褐色	粘土小ブロック中量，ローム粒子少量
4	暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量	8	褐色	ローム粒子中量，炭化粒子少量
			9	にぶい褐色	ローム粒子中量，粘性強

遺物　土師器片36点，須恵器片37点が出土している。第131図1の土師器高台付坏は，覆土中層から横位の状態で出土している。2・3は須恵器の坏である。2は覆土上層から破片の状態で，3は覆土上層から逆位の状態でそれぞれ出土している。4の須恵器甕は，覆土中層から破片の状態で出土している。

所見　本跡の性格は不明である。本跡の時期は，出土した土器から9世紀中頃と考えられる。



第131図　第2号竪穴状遺構・出土遺物実測図

第2号竪穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第131図 1	高台付坏 土師器	A 14.5 B 5.3 D [4.3] E 1.2	口縁部一部欠損。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	底部回転ヘラ削り。口縁部から体部上半外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。体部内面磨き，黒色処理。	砂粒・スコリア・雲母 にぶい橙色 普通	P404 70% 覆土中層
2	坏 須恵器	A [13.3] B 5.7 C [6.8]	口縁部から底部の破片。平底。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がる。	底部一方向の手持ちヘラ削り。体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	スコリア・雲母 明赤褐色 普通	P402 50% 覆土上層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第131図 3	坏 須恵器	B　(3.0) C　[7.0]	体部から底部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転ヘラ削り。体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・白色粒子 青灰色　普通	P403　30% 覆土上層
4	甕 須恵器	B　(15.3) C　[16.0]	体部から底部の破片。平底。体部は若干内彎して立ち上がる。	体部外面縦位の平行叩き。体部下端ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・雲母 橙色　普通	P405　25% 覆土中層

表6　六十目遺跡竪穴状遺構一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 遺構番号・新旧関係（古→新） 時代　その他
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(m)					
1	D8c2	N-86°-E	不整円形	2.61×(2.02)	1.88	垂直	擂鉢状	人為	土師器片5，須恵器片6	平安時代
2	D4f5	－	円形	1.55× 1.55	1.1	内傾	平坦	人為	土師器片36，須恵器片37	平安時代　北壁側が一段掘り込まれている。

3　その他の時代の遺構と遺物

当遺跡からは，古墳時代及び奈良・平安時代の遺構のほか，中・近世または年代が明らかではない遺構として，溝跡29条・火葬施設2基・粘土採掘坑2基・地下式壙4基・井戸跡1基・土坑144基が確認されている。以下，これらの遺構について記述する。

（1）溝跡

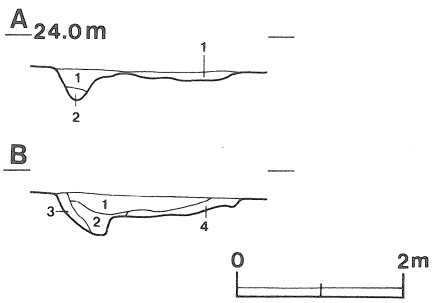
当遺跡からは29条の溝跡が確認されている。一部は薬研堀状に掘り込まれており，これらは奈良・平安時代の遺構や地下式壙を破壊して構築されていることから，当遺跡の西方に存在したとされる苅間城跡に関連するものと考えられる。代表的な遺構について記述し，それ以外の遺構の特徴や遺物については，一覧表で掲載する。

第1号溝跡（第132図）

位置　調査区域の北部，A5・B5区。

重複関係　本跡が第1号住居跡を掘り込んでいることから，本跡の方が新しい。

規模と形状　断面は逆台形で，東壁は一度段を形成して，西壁は外傾して立ち上がる。規模は，上幅0.55～1.65m，下幅0.05～0.75m，深さ0.17～0.32mである。確認できた長さは26.0mで，北側はさらに調査区域外に延びる。東側の段は幅0.4～1.2m，上端からの深さ0.5～0.8mで，上面が硬化している。



第132図　第1号溝跡土層断面図

方向　N－38°－E

覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，赤色粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
3　褐　色　ローム粒子中量，赤色粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子中量

遺物　遺物は出土していない。

所見　本跡の東側の段はかなり硬化しており，道路として使用された可能性がある。本跡の時期は，４世紀前半と考えられる第１号住居跡を掘り込んでいることから，それ以降と考えられる。

第14号溝跡（第133図）

位置　調査区域の中央部，Ｄ３区。

重複関係　第10号住居跡，第10・16～18号溝跡と重複している。第10号住居跡を掘り込んでいることから，本跡の方が新しい。第10・16～18号溝跡との新旧関係は，土層断面の観察からは確認できなかった。同時代に存在していた可能性がある。

規模と形状　断面は逆台形で，薬研堀状に掘り込まれている。壁は１～２か所段を作りながら外傾して立ち上がる。上幅0.7～2.8m，下幅0.08～0.4m，深さは0.7～0.78mである。長さは，調査された範囲では36mである。Ｄ３a8区付近でほぼ90度屈曲し，逆Ｌ字状を呈する。北部は第19号溝跡につながり，西側は調査区域外へ延びる。

方向　N―80°―E，N―10°―W

覆土　15層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

1	灰褐色	ローム大ブロック･同中ブロック･同小ブロック少量，しまり弱
2	褐色	ローム大ブロック中量，ローム小ブロック少量，しまり弱
3	褐灰色	ローム中ブロック少量，しまり弱
4	暗褐色	ローム大ブロック･同中ブロック･同小ブロック少量，しまり弱
5	褐灰色	ローム中ブロック中量，ローム大ブロック･同小ブロック少量，しまり弱
6	褐色	ローム大ブロック中量，ローム小ブロック少量
7	褐色	ローム大ブロック･同中ブロック中量
8	極暗褐色	ローム粒子微量
9	暗褐色	ローム粒子微量
10	褐色	ローム粒子中量
11	褐色	ローム粒子中量，粘性強
12	暗褐色	ローム粒子少量
13	暗褐色	ローム粒子少量，しまり弱
14	暗褐色	ローム小ブロック･同粒子微量
15	にぶい褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック微量

遺物　土師器片51点，須恵器片４点，陶器片６点が出土している。いずれも小片で，図化できるものはない。本跡が埋没する過程で流れ込んだものと考えられる。

所見　本跡の時期は，遺物が少なく判断する材料が乏しい。深さが約0.7mと比較的深く，薬研堀状に掘り込まれていることから，当遺跡の西方に存在した苅間城跡との関連が想定される。

第27号溝跡（第134図）

位置　調査区域の北西部，Ｂ１・Ｃ１区。

重複関係　本跡が第65・67号住居跡を掘り込んでいるので，本跡の方が新しい。

規模と形状　断面は逆台形である。壁は，北側では角度を変えて，南側では直線的に，それぞれ外傾して立ち上がる。上幅0.59～1.31m，下幅0.22～0.46m，深さ0.83～0.93mである。長さは，調査された範囲では27.6mで，直線的に延びており，さらに南北に向かって調査区域外へ延びる。

方向　N―５°―W

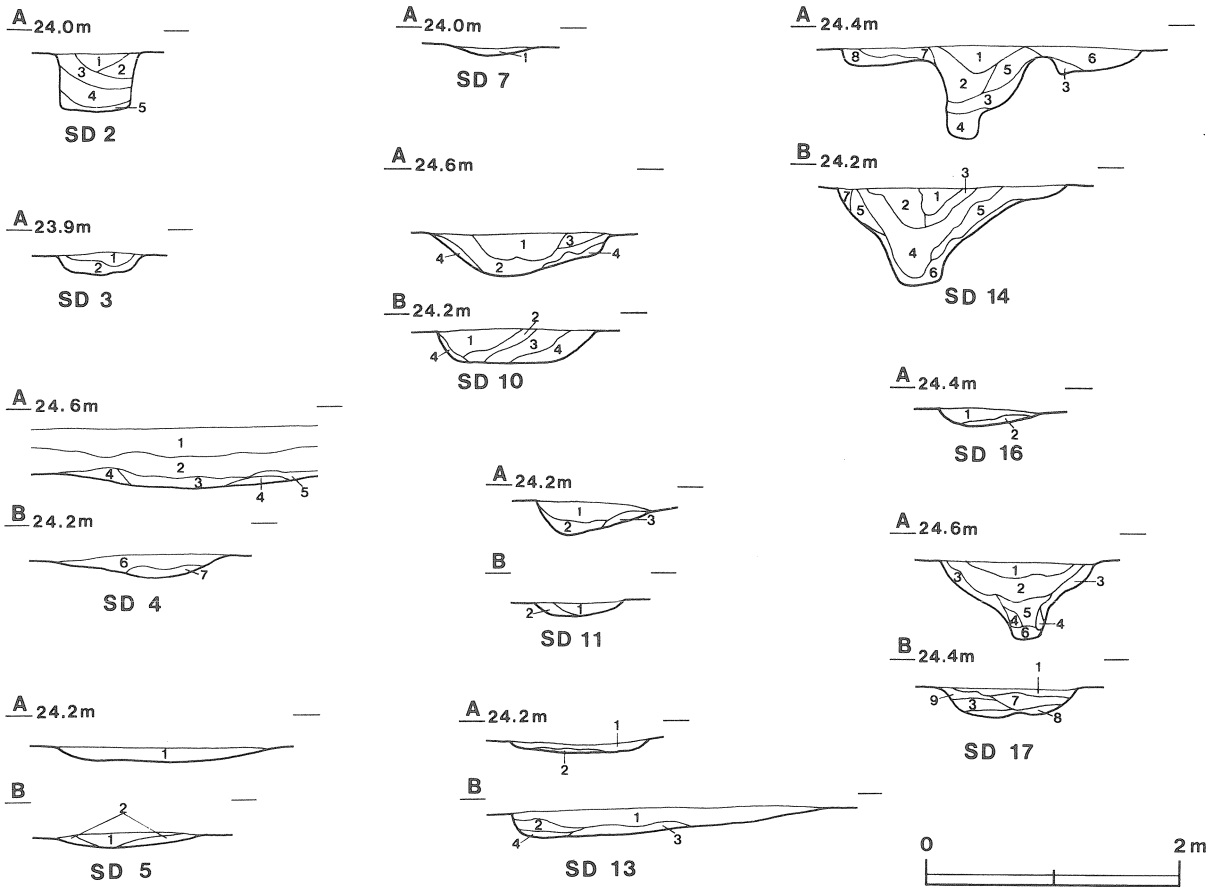
覆土　５層からなる。レンズ状に堆積しているが，ロームブロックを比較的多く含み，またしまりの弱い層が多いため，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	灰褐色	ローム小ブロック･焼土小ブロック･炭化物少量，しまり弱
2	明褐色	ローム中ブロック多量，ローム大ブロック少量，しまり弱
3	褐色	ローム小ブロック中量，しまり弱
4	褐色	ローム大ブロック･同中ブロック･同小ブロック少量，しまり弱
5	明褐色	ローム中ブロック多量

遺物　土師器片43点，須恵器片３点，陶器片31点が出土している。本跡を埋める際に廃棄されたものか，埋土に混入していたものと考えられる。第135図１は陶器の鉢，２・３は陶器の茶碗，４は陶器の湯飲みである。いずれも覆土中から破片の状態で出土している。

所見　掘り込みが0.9m前後と深いことから，苅間城跡との関連が想定される。本跡は，近世のものと思われる陶器が出土していることから，ある程度の期間存続し，近世に至って廃棄されたと考えられる。



第133図　第２～５・７・10・11・13・14・16・17号溝跡土層断面図

以下に，上述した遺構を除く溝跡の土層解説を記載する。

第２号溝跡土層解説

1　にぶい褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
2　褐　　色　ローム中ブロック・同粒子微量
3　明　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・同小ブロック少量
4　明　褐　色　ローム小ブロック・同粒子中量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

第３号溝跡土層解説

1　褐　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　褐　　色　ローム粒子中量

第４号溝跡土層解説

1　暗　褐　色　白色粒子少量，ローム粒子微量，粘性弱
2　褐　　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子中量
5　褐　　色　ローム粒子少量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，赤色粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子微量

第５号溝跡土層解説

1　褐　　色　ローム小ブロック・同粒子少量，炭化粒子微量
2　明　褐　色　ローム粒子中量

第７号溝跡土層解説

1　褐　　色　ローム粒子少量

第10号溝跡土層解説

1　暗　褐　色　ローム大ブロック・同中ブロック少量
2　暗　褐　色　ローム中ブロック・同小ブロック少量
3　灰　褐　色　ローム中ブロック中量，炭化物少量，しまり強
4　にぶい褐色　ローム大ブロック多量

第11号溝跡土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，赤色粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量
3　にぶい褐色　ローム粒子少量

第12号溝跡土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・赤色粒子少量

第13号溝跡土層解説

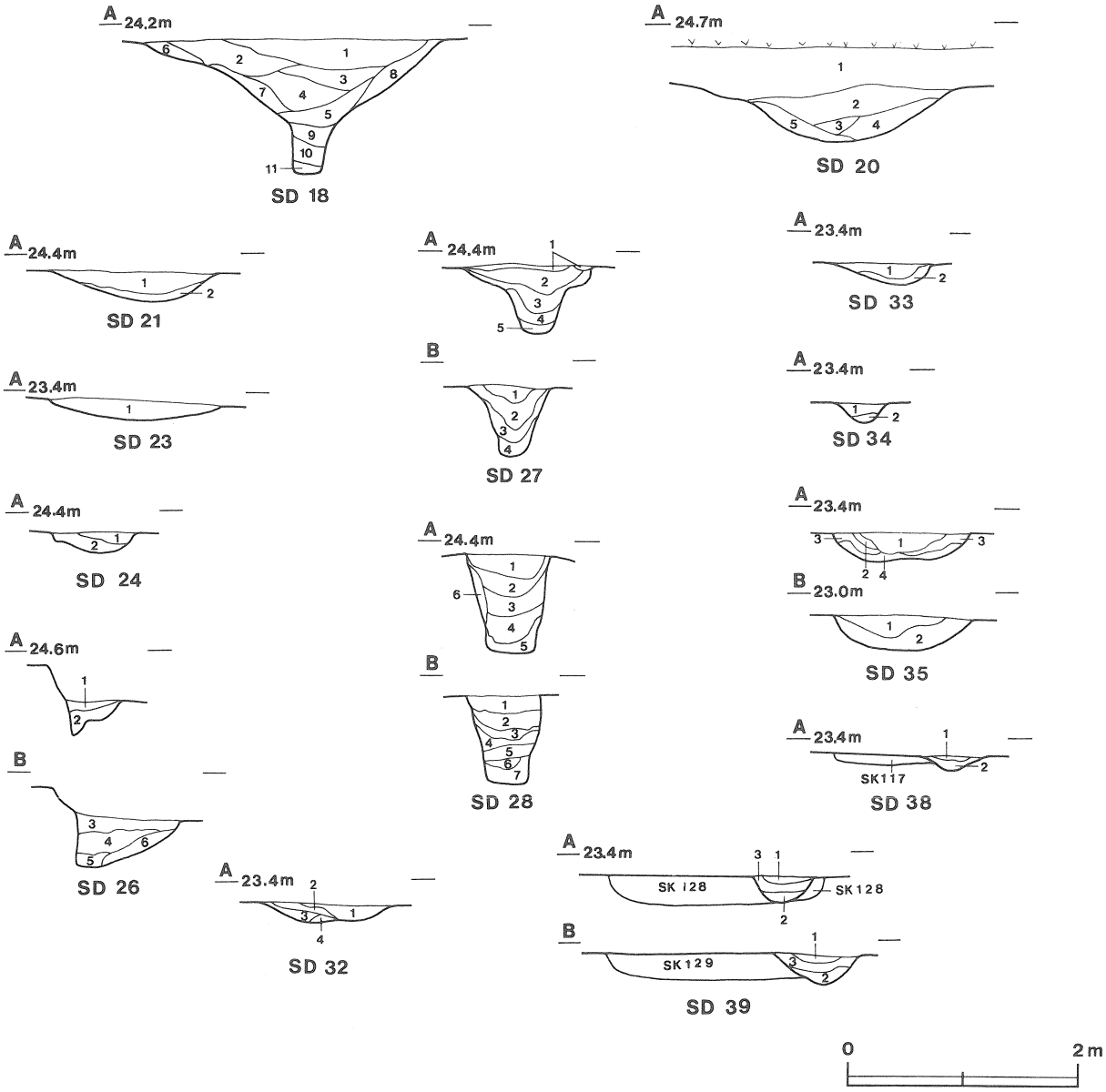
1　暗　褐　色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
2　褐　　色　　ローム粒子少量
3　褐　　色　　ローム粒子中量
4　褐　　色　　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量

第16号溝跡土層解説

1　暗　褐　色　　ローム粒子微量
2　褐　　色　　ローム粒子少量

第17号溝跡土層解説

1　褐　　色　　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
2　褐　　色　　ローム小ブロック多量，ローム粒子少量
3　褐　　色　　ローム小ブロック・同粒子中量
4　褐　　色　　ローム中ブロック・同小ブロック少量
5　暗　褐　色　　ローム大ブロック・同中ブロック中量，しまり弱
6　黒　褐　色　　ローム大ブロック多量，しまり弱
7　褐　　色　　ローム粒子中量，ローム中ブロック・同小ブロック少量
8　にぶい褐色　　ローム大ブロック・同小ブロック中量
9　にぶい褐色　　ローム中ブロック・同小ブロック中量



第134図　第18・20・21・23・24・26～28・32～35・38・39号溝跡土層断面図

第18号溝跡土層解説

1　褐　　色　　ローム粒子少量，赤色粒子微量，粘性弱
2　褐　　色　　ローム粒子・赤色粒子少量，ローム小ブロック微量
3　暗　褐　色　　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・赤色粒子微量
4　暗　褐　色　　ローム粒子微量，粘性弱
5　暗　褐　色　　ローム粒子少量，赤色粒子微量，しまり弱
6　にぶい褐色　　ローム粒子中量，ロームブロック少量
7　褐　　色　　ローム粒子少量
8　褐　　色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，粘性・しまり弱
9　褐　　色　　ローム小ブロック・同粒子微量，粘性弱
10　暗　褐　色　　ローム小ブロック・同粒子微量，粘性弱
11　暗　褐　色　　粘土ブロック少量，ローム粒子微量

第20号溝跡土層解説

1　暗　褐　色　　ローム粒子・赤色粒子微量
2　褐　　色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，しまり弱
3　褐　　色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
4　褐　　色　　ローム粒子・赤色粒子少量
5　にぶい褐色　　ローム粒子少量，粘性強

第21号溝跡土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量,ローム小ブロック微量
2　褐　　色　ローム小ブロック・同粒子少量

第23号溝跡土層解説
1　褐　　色　ローム大ブロック・同中ブロック中量

第24号溝跡土層解説
1　極暗褐色　赤色粒子少量,ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量

第26号溝跡土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量,粘性強
3　暗　褐　色　ローム粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量
5　極暗褐色　赤色粒子中量,ローム粒子少量,粘性強
6　褐　　色　ローム粒子多量,しまり強

第28号溝跡土層解説
1　褐　　色　ローム大ブロック・同小ブロック中量
2　灰　褐　色　ローム大ブロック・同中ブロック中量,しまり弱
3　黒　褐　色　ローム大ブロック・炭化物少量,しまり弱
4　灰　褐　色　ローム小ブロック多量,ローム大ブロック少量,しまり弱
5　褐　灰　色　ローム小ブロック多量,しまり弱
6　褐　　色　ローム粒子多量
7　褐　灰　色　ローム小ブロック多量,しまり弱

第32号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・赤色粒子少量
2　褐　　色　ローム中ブロック・同粒子中量
3　にぶい褐色　ローム粒子中量
4　明　褐　色　ローム粒子中量

第33号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ローム小ブロック・同粒子少量
2　明　褐　色　ローム粒子多量,ローム小ブロック中量

第34号溝跡土層解説
1　褐　　色　ローム小ブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子少量,ローム大ブロック微量

第35号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ローム小ブロック・同粒子少量
2　明　褐　色　ローム粒子多量,ローム小ブロック中量
3　褐　　色　ローム粒子中量,ローム小ブロック少量
4　明　褐　色　ローム粒子中量

第38号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム小ブロック少量

第39号溝跡土層解説
1　灰　褐　色　ローム大ブロック・同小ブロック少量
2　黒　褐　色　ローム中ブロック・同小ブロック少量
3　暗　褐　色　ローム中ブロック・同小ブロック少量

第14号溝跡出土遺物観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第135図11	鉄　滓	5.5	6.7	3.1	106.3	第14号溝跡覆土中	M14

第18号溝跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	器　質	計測値(cm)				残存率	色　調	絵付 釉　薬	文　様 特　徴	出　土 備　考
			A	B	D	E					
第135図 1	碗	磁　器	11.4	5.1	4.2	0.7	80%	灰白色	染付 透明釉	平行及び星	P373
2	小碗	磁　器	[8.4]	4.1	[3.2]	[0.7]	40%	灰白色	銘有り 透明釉	無文	P374

第19号溝跡出土遺物観察表

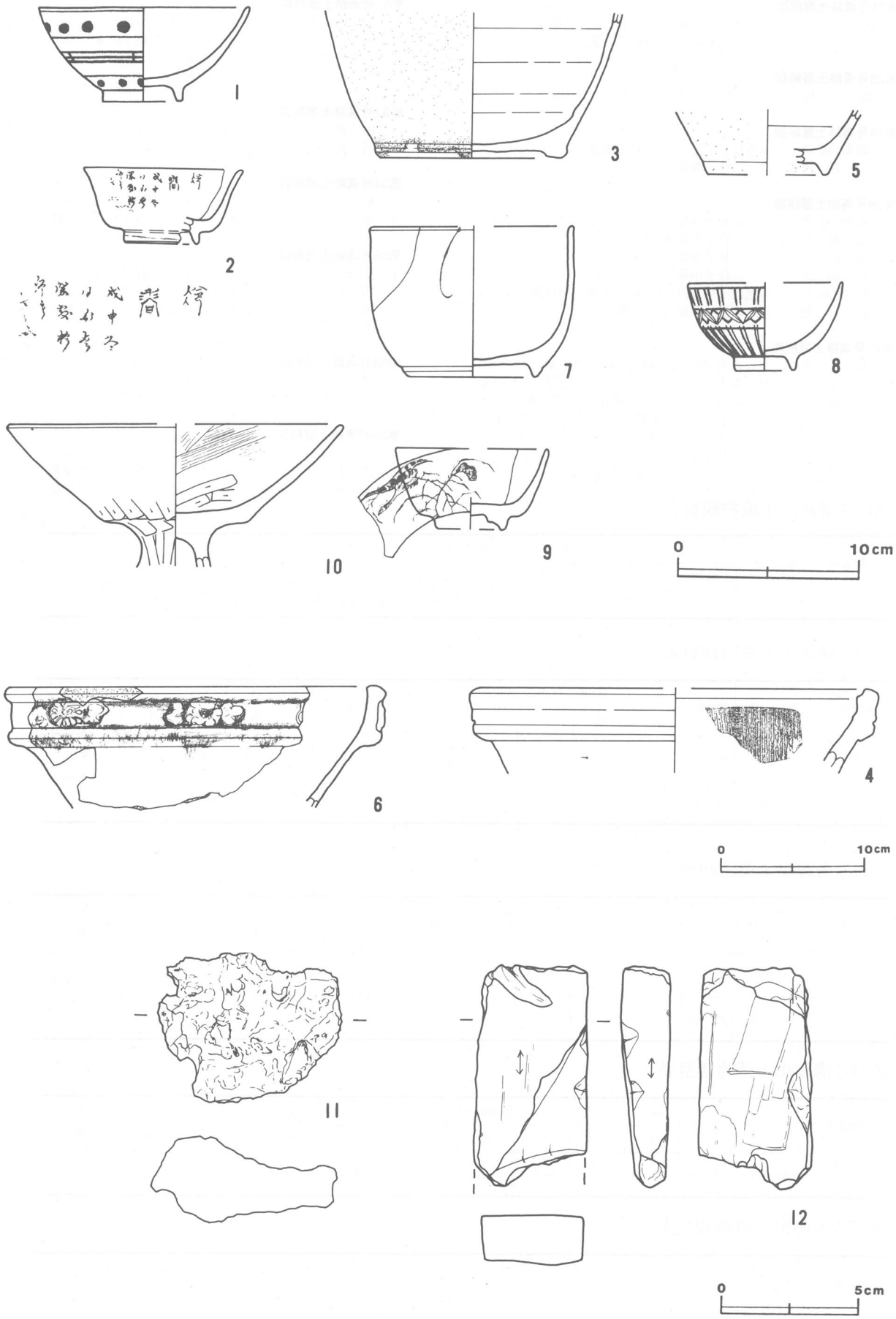
図版番号	器　種	器　質	計測値(cm)				残存率	色　調	絵付 釉　薬	文　様 特　徴	出　土 備　考
			A	B	D	E					
第135図 3	鉢	陶　器	−	(7.9)	9.7	0.3	30%	浅黄色	透明釉	内面ロクロ目 高台部底面露胎	P376 瀬戸・美濃系
4	擂　鉢	陶　器	[27.3]	(6.0)	−	−	5%	にぶい赤褐色	鉄釉	一単位10本以上の擂り目。	P377

第23号溝跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	器　質	計測値(cm)				残存率	色　調	絵付 釉　薬	文　様 特　徴	出　土 備　考
			A	B	D	E					
第135図 5	高台付壺	陶　器	−	(3.6)	[6.6]	0.7	10%	にぶい橙色	白色釉	内面ロクロ目	P378

第27号溝跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	器　質	計測値(cm)				残存率	色　調	絵付 釉　薬	文　様 特　徴	出　土 備　考
			A	B	D	E					
第135図 6	鉢	陶　器	[26.0]	(8.7)	−	−	20%	にぶい黄褐色	透明釉 白色釉	外面に花の浮彫り	P379



第135図　第14・18・19・23・27・28号溝跡出土遺物実測図

図版番号	器種	器質	計測値(cm) A	B	D	E	残存率	色調	絵付釉薬	文様特徴	出土備考
第135図 7	碗	磁器	[10.1]	8.2	6.6	0.7	40%	灰白色	染付 透明釉	草木？	P383
第135図 8	小碗	磁器	[8.4]	4.8	4.3	0.7	50%	灰白色	染付 透明釉	笹・縦格子	P385
第135図 9	小碗	磁器	[8.0]	4.4	3.8	0.7	50%	灰白色	染付 透明釉	草木・鳥	P387

第28号溝跡出土遺物（土師器）観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第135図 10	高坏 土師器	A [18.2] B (7.7)	坏部の破片。坏部外面下端に稜を持つ。口縁部は外傾して立ち上がり，端部に面取りを施す。	口縁部内面ナデ。口縁部から坏部外面ヘラ削り後，ナデ。坏部底面ヘラ削り。	砂粒・石英・スコリア・白色粒子 にぶい褐色 普通	P388 30% 覆土中

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第135図12	砥石	(8.0)	4.1	1.8	86	覆土中	Q33 アプライト PL○

表7 六十目遺跡溝跡一覧表

溝番号	位置	主軸方向	断面	規模(m) 長さ	上幅	下幅	深さ	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
1	A5・B4	N-38°-E	逆台形	(26)	0.55~1.65	0.05~0.75	0.17~0.32	傾斜	平坦	自然		S1-1と重複
2	C4	N-0°	逆台形	(18)	0.7 ~0.78	0.45~0.6	0.51~0.6	垂直	平坦	自然	土師器片9，須恵器片4，陶器片3	
3	C4	N-65°-E	逆台形	(16.6)	0.5 ~0.85	0.25~0.47	0.3 ~0.45	傾斜	平坦	自然		
4	E3・E4	N-83°-E	Ⅲ状	(18)	0.95~1.55	0.25~0.5	0.2 ~0.3	緩斜	平坦	自然		第4号地下式壙と重複
5	D4	N-12°-E	Ⅲ状	27	0.5 ~2	0.2 ~1.13	0.2 ~0.3	緩斜	平坦	自然	陶器片3	
7	C4	N-40°-W	Ⅲ状	8.51	0.6 ~1.3	0.19~0.44	0.05~0.1	緩斜	平坦	自然		底面は踏み固められている
10	D3	N-87°-W	Ⅲ状	(21)	0.65~1.6	0.21~0.7	0.28~0.33	緩斜	Ⅲ状	自然	土師器片13，須恵器片3，陶器片1	S1-18と重複
11	D3	N-4°-E	Ⅲ状	26	0.5 ~1	0.25~0.4	0.1 ~0.25	緩斜	Ⅲ状	自然		
12	D3	N-90°-E	Ⅲ状	(26.4)	0.24~0.77	0.2 ~0.5	0.06~0.15	緩斜	Ⅲ状	自然		S1-12・S1-13号住居跡と重複
13	D3	N-82°-E	Ⅲ状	(16.5)	0.38~0.86	0.25~0.4	0.12~0.21	緩斜	平坦	自然		SB-6と重複
14	D3	N-80°-E	逆台形	(30)	0.7 ~2.8	0.08~0.4	0.7 ~0.78	外傾	平坦	自然	土師器片51，須恵器片4・陶器6	S1-10重複
16	D3	N-6°-W	Ⅲ状	10.4	0.21~0.45	0.08~0.4	0.18~0.2	緩斜	Ⅲ状	自然		
17	D3	N-86°-	逆台形	(36)	0.95~1.25	0.15~0.6	0.35~0.95	外傾	平坦	自然	土師器片6，須恵器片3，陶器片3	
18	C3	N-83°-E	逆台形	(15.8)	2.25~2.75	0.25~1.8	0.7 ~1.17	外傾	平坦	自然	土師器片1，陶器片4	
19	C3	N-9°-W	逆台形	(80)	0.4 ~0.9	0.2 ~0.35	0.18~0.2	外傾	平坦	自然	土師器片7，須恵器片1，陶器片1	S1-9と重複
20	C4	N-14°-E	Ⅲ状	(17.8)	1.1 ~2.3	0.3 ~1.8	0.3 ~0.43	緩斜	Ⅲ状	自然	陶器片2	
21	C3	N-79°-E	Ⅲ状	(15.6)	1.15~1.4	0.55~0.65	0.25~0.4	緩斜	Ⅲ状	自然	土師器片6，陶器片1，灰釉陶器片1	
23	C4	N-12°-W	Ⅲ状	(37.9)	0.8 ~1.65	0.3 ~1.05	0.17~0.25	緩斜	Ⅲ状	自然	土師器片13，陶器10	
24	B2	N-68°-E	Ⅲ状	(9)	0.54~0.75	0.16~0.53	0.17~0.3	緩斜	Ⅲ状	自然	土師器片9，陶器片1	S1-5と重複
26	C1	N-79°-W	V字状	(37.2)	(0.6 ~1.2)	0.35~0.95	0.2 ~0.4	外傾	Ⅲ状	自然	陶器片7	
27	B1・C1	N-5°-W	逆台形	(27.6)	0.59~1.31	0.22~0.46	0.83~0.93	外傾	平坦	人為	土師器片43，須恵器片3，陶器片31	S1-65・S1-67と重複
28	B1・C1	N-3°-W	逆台形	(27.8)	0.56~0.86	0.22~0.46	0.83~0.93	外傾	平坦	人為	土師器片34，陶器片4	S1-67と重複
31	F4	N-62°-W	Ⅲ状	(2.75)	0.94~1.03	0.5 ~0.55	0.18~0.2	緩斜	Ⅲ状	自然		第1号地下式壙と重複
32	C5・C6	N-45°-E	Ⅲ状	(23.5)	0.59~1.12	0.2 ~0.5	0.14~0.19	緩斜	Ⅲ状	自然	土師器片2	
33	D7・D8	N-75°-E	Ⅲ状	8.9	0.5 ~0.7	0.3 ~0.5	0.19~0.25	緩斜	Ⅲ状	自然		
34	D7・D8	N-80°-E	Ⅲ状	(12.2)	0.4 ~0.8	0.2 ~0.5	0.18~0.21	緩斜	Ⅲ状	自然		
35	C7・C8・D7	N-3°-E	逆台形	(37.9)	0.75~1.35	0.45~0.85	0.2 ~0.4	緩斜	平坦	自然		
38	D7	N-78°-E	V字状	(27.0)	0.25~0.8	0.05~0.4	0.15~0.2	外傾	平坦	自然		
39	D7	N-82°-E	V字状	20.5	0.4 ~0.8	0.05~0.45	0.15~0.25	外傾	平坦	自然		

（2）火葬施設

第1号火葬施設（第136図）

位置　調査区域の南部，E3i8区。

規模と形状　上面をかなり削平されており，燃焼部及び通気溝の基底部が残存している。i字状を呈しており，長さは1.5mである。燃焼部は長径43cm，短径33cmの楕円形である。深さは4cmである。長径方向は主軸と平行している。壁面は緩やかに立ち上がる。通気溝は断面U字形で，長さ55cm，幅は上端で27～33cm，底面で10～19cm，深さ4～6cmである。壁面は外傾して立ち上がる。

主軸方向　N—59°—E

底面　燃焼部は皿状で，火熱を受けて赤変している。通気溝は平坦である。

覆土　2層からなる。ロームブロック・骨片を含んでいるため，人為堆積と思われる。

土層解説

1　暗　褐　色　　ローム中ブロック中量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・炭化物少量
2　黒　　色　　炭化物・骨片多量，ローム大ブロック少量，粘性・しまり弱

所見　本跡は，燃焼部底面が火熱を受けて赤変しており，骨片・炭化物が出土していることから，火葬施設と考えられる。時期は，形状から中世と推定される。

第2号火葬施設（第136図）

位置　調査区域の南部，F4b1区。

規模と形状　T字状を呈しており，長さは1.8mである。燃焼部は主軸と直交し，長軸76cm，短軸50cmの長方形で，深さは17cmである。断面は逆台形で，壁面は外傾して立ち上がる。開口部は主軸と平行し，長軸115cm，短軸70cmの長方形で，深さは17～25cmである。断面は逆台形で，壁面は外傾して立ち上がる。通気溝は燃焼部のほぼ中央に穿たれ，断面はU字形である。規模は，長さ95cm，幅は上端で47cm，底面で20cm，深さは35～40cmである。壁面は，開口部側は緩やかに外傾して立ち上がり，燃焼部側は外傾して立ち上がる。

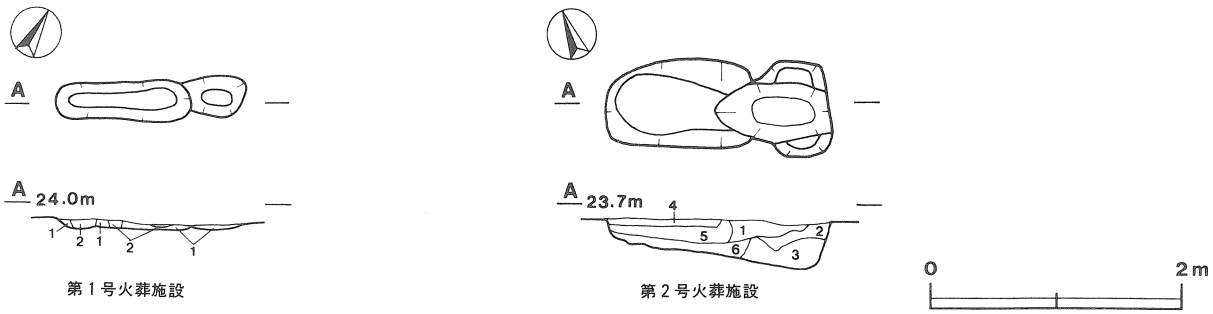
主軸方向　N—66°—E

底面　開口部から燃焼部へ緩やかに下がっている。燃焼部及び通気溝の底面は，火熱を受けて赤変している。

覆土　6層からなる。ロームブロック・骨片を含んでいるため人為堆積と思われる。

土層解説

1　にぶい赤褐色　　ローム中ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量
2　暗　褐　色　　ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・骨片少量，しまり弱
3　赤　黒　色　　ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・骨片少量，粘性・しまり弱
4　褐　　色　　ローム大ブロック多量，ローム小ブロック少量
5　黒　褐　色　　ローム大ブロック中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
6　赤　黒　色　　ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量，粘性弱



第136図　第1・2号火葬施設実測図

所見　本跡は，燃焼部及び通気溝底面が火熱を受けて赤変しており，骨片・炭化物が出土していることから，火葬施設と考えられる。本跡の時期は，形状から中世と推定される。

表８　六十目遺跡火葬施設一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模										覆土	出土遺物	備考
				燃焼部			開口部			通気溝						
				長径(軸)×短径(軸)(cm)	深さ(cm)	平面形	長径(軸)×短径(軸)(cm)	深さ(cm)	平面形	長さ(cm)	深さ(cm)	断面				
1	E3i8	N-59°-E	i 字形	43 × 33	4	楕円形	－ × －	－	－	55	4～6	U字	人為		
2	C3i1	N-88°-W	T 字形	76 × 50	17	長方形	115 × 70	17～25	長方形	95	35～40	U字	人為		

（３）粘土採掘坑

第１号粘土採掘坑（第137図）

位置　調査区域の南部，Ｅ４i4区。

重複関係　本跡が第２号粘土採掘坑を掘り込んでいることから，本跡の方が新しい。

規模と形状　長径3.3m，短径2.45mの楕円形で，深さは1.15mである。壁はほぼ垂直に立ち上がり，底面は平坦である。底面は黄灰色粘土層を掘り込んでいる。

主軸　N―39°―W

覆土　19層からなる。２・４・６・７・９～12・18・19層は本跡の，13～17層は第２号粘土採掘坑の覆土である。１・３・５・８層は，双方に見られる。ロームブロック・粘土ブロックを含む土層があるため，人為堆積と考えられる。

第１・２号粘土採掘坑土層解説

1	明褐灰色	粘土粒子多量，粘性・しまり強
2	暗褐色	ローム粒子中量，粘土粒子・赤色粒子少量
3	明褐灰色	粘土粒子多量，粘土中ブロック少量，粘性・しまり強
4	褐色	ローム大ブロック・同小ブロック中量，粘土粒子少量
5	褐色	ローム粒子多量，粘土粒子微量，粘性・しまり強
6	灰褐色	粘土大ブロック多量，粘性強
7	褐色	ローム粒子多量，粘性・しまり強
8	褐色	ローム粒子多量，赤色粒子中量，粘性・しまり強
9	にぶい褐色	ローム粒子多量，粘性・しまり強
10	暗褐色	ローム粒子・粘土小ブロック中量，粘性強
11	明褐色	ローム粒子・粘土粒子中量，ローム中ブロック少量
12	褐色	ローム中ブロック・ローム粒子・粘土大ブロック中量
13	褐色	ローム粒子多量，粘土小ブロック微量，しまり弱
14	暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・粘土大ブロック中量
15	橙色	粘土粒子多量，粘性・しまり強
16	暗褐色	ローム大ブロック・粘土中ブロック中量，粘性・しまり強
17	にぶい褐色	ローム大ブロック・同粒子多量，粘性・しまり強
18	明褐色	ローム中ブロック・同粒子中量，粘性強
19	暗褐色	ローム粒子少量

遺物　土師器片９点，須恵器片11点が出土している。第137図１は土師器高台付皿，２は須恵器甕で覆土中から破片の状態で出土している。埋土に混入したものと考えられる。

所見　黄灰色粘土層を掘り込み，覆土に粘土ブロックを含むことから粘土採掘坑と考えられる。第２号粘土採掘坑と共通する土層があり，両者にはそれほど時間的な差はないと思われる。本跡の時期は，出土した土器から９世紀後半以降と考えられる。

第２号粘土採掘坑（第137図）

位置　調査区域の南部，Ｅ４j5区。

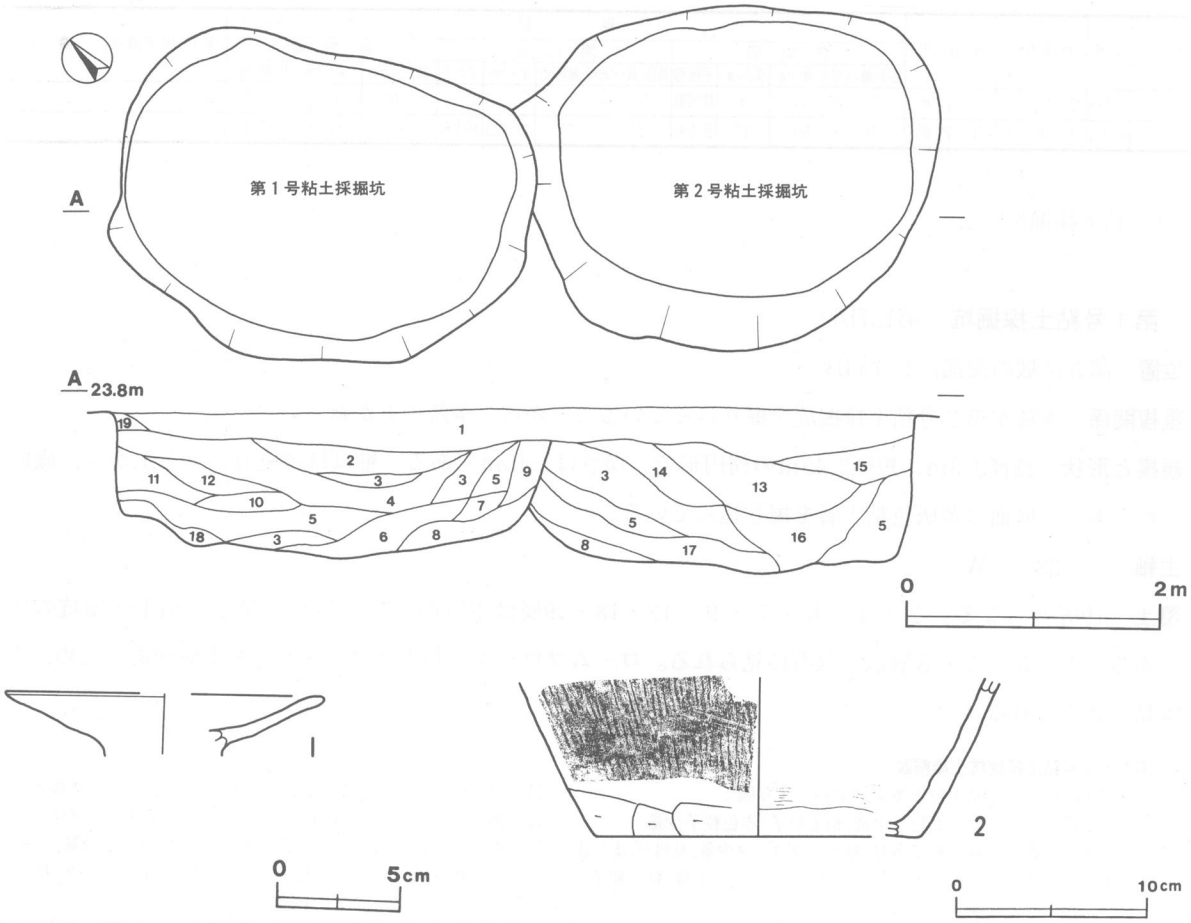
重複関係　第１号粘土採掘坑が本跡を掘り込んで構築していることから，本跡の方が古い。

規模と形状　長径（3.4）m，短径2.75mの楕円形で，深さは1.3mである。壁はほぼ垂直に立ち上がり，底面は平坦である。底面は黄灰色粘土層を掘り込んでいる。

主軸　N—47°—W

遺物　出土した遺物は見られなかった。

所見　黄灰色粘土層を掘り込み，覆土に粘土ブロックを含むことから粘土採掘坑と考えられる。本跡の時期は，明らかではないが，第１号粘土採掘坑に若干先行すると考えられる。



第137図　第１・２号粘土採掘坑・出土遺物実測図

第１号粘土採掘坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第137図 1	高台付皿 土師器	A　[12.6] B　(2.4)	口縁部から体部の破片。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	内・外面横ナデ。	砂粒・スコリア・雲母 橙色　普通	P393　40% 覆土中
2	甕 土師器	B　(8.3) C　[16.9]	体部から底部の破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面縦位の平行叩き。体部下端ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・雲母 黄灰色　普通	P395　10% 覆土中

表９　六十目遺跡粘土採掘坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 遺構番号・新旧関係（古→新） 時代　その他
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(m)					
1	D4i4	N-39°-W	楕円形	3.3　×　2.45	1.15	垂直	平坦	人為	土師器片９，須恵器片11	第２号粘土採掘坑→第１号粘土採掘坑
2	E4j5	N-45°-W	楕円形	(3.4)　×　2.75	1.3	垂直	平坦	人為		第２号粘土採掘坑→第１号粘土採掘坑

（4）地下式壙

第1号地下式壙（第138図）

位置　調査区域の南部，Ｆ４a2区。

重複関係　第31号溝跡と重複している。第31号溝跡との新旧関係は，土層断面では確認できなかった。

主軸　N—70°—W

竪坑　崩落しているため，上面の形状は不明である。底面は長軸1.1m，短軸0.3mで，長軸が主軸と直交する長方形と推定される。底面は平坦で，主室と同じ高さで続く。確認面からの深さは，約１mである。

主室　崩落しているため，上面または天井部の形状は不明である。底面は長軸1.68m，短軸1.20m，長軸が主軸と直交する隅丸長方形である。底面は平坦で，確認面からの深さは102cmである。

壁　壁面は若干内傾して立ち上がり，壁高は50～60cmである。

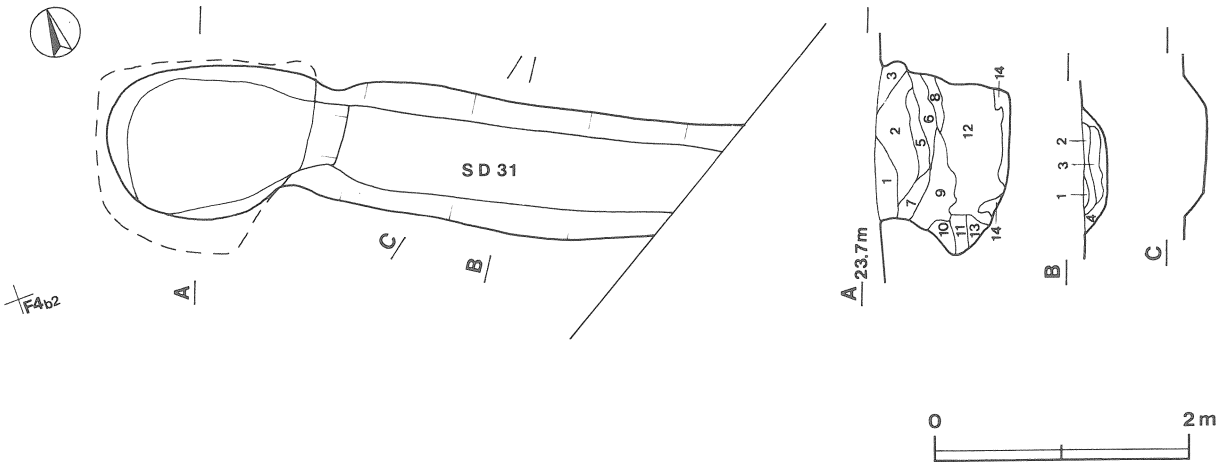
覆土　14層からなる。レンズ状に堆積しているため，自然堆積と考えられる。９～13層は天井又は壁が崩落した土層と思われる。

土層解説

1	黒褐色	ローム大ブロック・粘土中ブロック少量
2	黒褐色	粘土大ブロック中量，粘土中ブロック少量，粘性・しまり強
3	黒褐色	ローム小ブロック・粘土中ブロック少量，しまり弱
4	灰黄褐色	ローム大ブロック・同粒子中量・粘土大ブロック少量，しまり弱
5	黒褐色	粘土中ブロック中量，粘性強
6	黒褐色	粘土大ブロック中量，粘性・しまり強
7	にぶい黄褐色	ローム粒子多量
8	褐色	ローム粒子中量，粘土粒子少量，粘性強
9	暗灰黄色	ローム粒子中量，粘性・しまり強
10	明黄褐色	ローム粒子多量，しまり強
11	オリーブ褐色	ローム中ブロック中量，粘土大ブロック少量，粘性強
12	明黄褐色	ローム粒子多量，粘土粒子中量，粘性強
13	明黄褐色	ローム粒子多量，しまり強
14	黒褐色	粘土大ブロック少量，粘性強

遺物　遺物は確認できなかった。

所見　本跡の時期は，形状から中世と推定される。



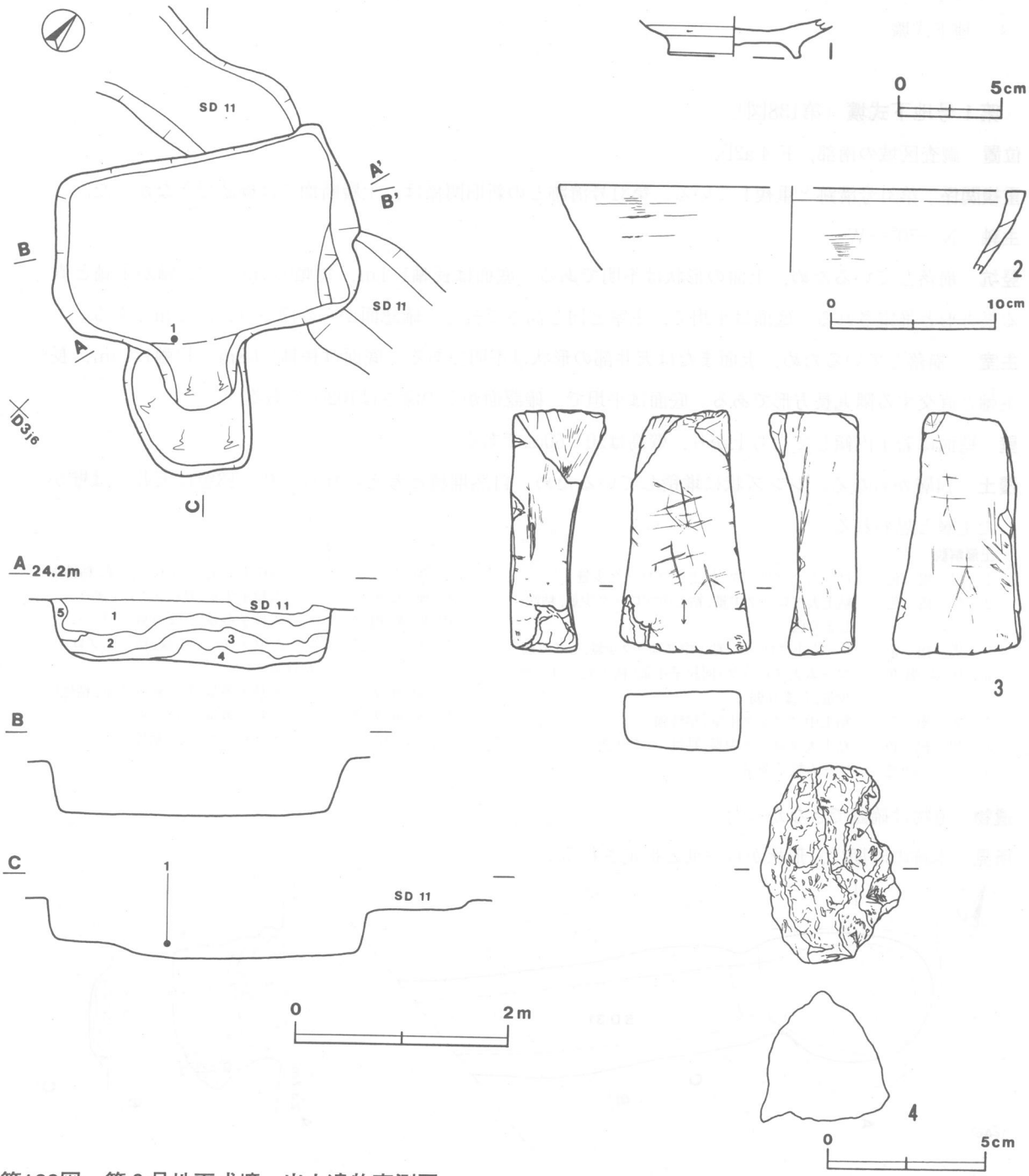
第138図　第１号地下式壙実測図

第２号地下式壙（第139図）

位置　調査区域の中部，Ｄ３i6区。

重複関係　第11号溝跡が本跡を掘り込んで構築していることから，本跡の方が古い。

竪坑　天井部は崩落しており，上面の形状は不明である。規模は，確認面で長軸1.25m，短軸1.15m，底面で長軸1.05m，短軸1.0m，長軸が主軸と一致する方形である。確認面からの深さは42cmで，主室底面から14cm高い。底面は平坦であるが，主室底面側だけがスロープ状に緩やかに傾斜する。



第139図　第２号地下式壙・出土遺物実測図

主室　削平された可能性があり，天井部の形状は不明である。規模は，確認面で長軸2.85m，短軸1.78m，底面で長軸2.49m，短軸1.64m，長軸が主軸と直交する長方形である。底面は平坦で，確認面からの深さは56cmである。

壁　竪坑・主室ともにほぼ垂直に立ち上がる。

主軸方向　N—44°—W

覆土　５層からなる。レンズ状に堆積しているため，自然堆積と思われる。５層はローム粒子を多く含んでおり，崩落した天井部または壁面の土層と考えられる。

土層解説

1	褐　　色	赤色粒子中量，ローム中ブロック・同粒子少量	4	黒　褐　色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・同小ブロック少量
2	暗　褐　色	ローム粒子中量，赤色粒子少量			
3	褐　　色	ローム粒子多量，ローム中ブロック少量	5	にぶい褐色	ローム粒子多量

遺物　土師器片16点，須恵器片20点，土師質土器片１点，石製品１点（砥石），鉄滓１点が出土している。第139図１の高台付坏，３の砥石などが出土している。これらの遺物は，本跡が埋没する過程で流れ込んだものと考えられる。

所見　本跡の時期は，形状から中世と推定される。

第２号地下式壙出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第139図 1	高台付坏 須恵器	B　(1.9) D　[6.2] E　0.9	体部下端から高台部の破片。体部は外傾して立ち上がる。高台はハの字状に開く。	底部内面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け後，内・外面ナデ。	砂粒・スコリア にぶい黄橙色 普通	P401　40% 覆土下層
2	焙　烙 土師質土器	A　[28.8] B　(5.2)	口縁部の破片。口縁部は内湾して立ち上がる。口縁端部は面取りを施される。	口縁部内・外面ナデ。	砂粒・雲母 黒褐色 良	P400　10% 外面煤付着 覆土中

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第139図３	砥　石	7.5	4.1	1.8	91	覆土中	Q34　溶結凝灰岩　線刻有り　PL53

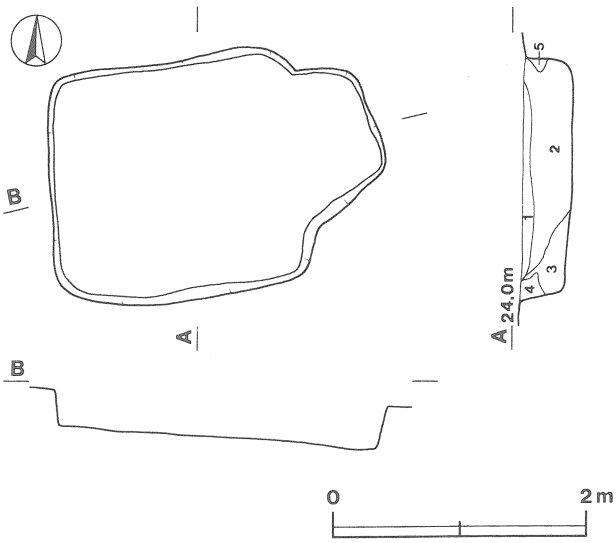
図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第139図４	鉄　滓	6.2	4.4	4.1	128.4	覆土中	M15

第３号地下式壙（第140図）

位置　調査区域の中南部，Ｄ３i0区。

竪坑　削平を受け，上面の形状は不明である。規模は，確認面で長軸1.2m，短軸0.65m，底面で長軸1.1m，短軸0.55m，長軸が主軸と直交する長方形である。底面は平坦で，主室底面と同じ高さで続いている。確認面からの深さは34cmである。

主室　削平を受け，天井部の形状は不明である。規模は，確認面で長軸2.07m，短軸1.89m，底面で長軸1.95m，短軸1.82m，長軸が主軸と一致する方形である。底面は平坦で，確認面からの深さは30～35cmである。



第140図　第３号地下式壙実測図

壁　竪坑・主室ともにほぼ垂直に立ち上がる。

主軸　N―79°―E

覆土　５層からなる。１～３層に粘土ブロックを多く含んでいるため，人為堆積と思われる。４・５層は壁の崩落土と考えられる。

土層解説

1	暗 褐 色	粘土大ブロック中量，ローム粒子微量，粘性・しまり強	3	黒 褐 色	赤色粒子少量，粘土小ブロック微量
2	極暗褐色	粘土大ブロック多量，ローム中ブロック・粘土粒子少量，粘性・しまり強	4	褐 色	ローム粒子多量
			5	褐 色	ローム粒子中量，粘性・しまり強

遺物　遺物は出土していない。

所見　本跡の時期は明らかではないが，形状などから中世と推定される。

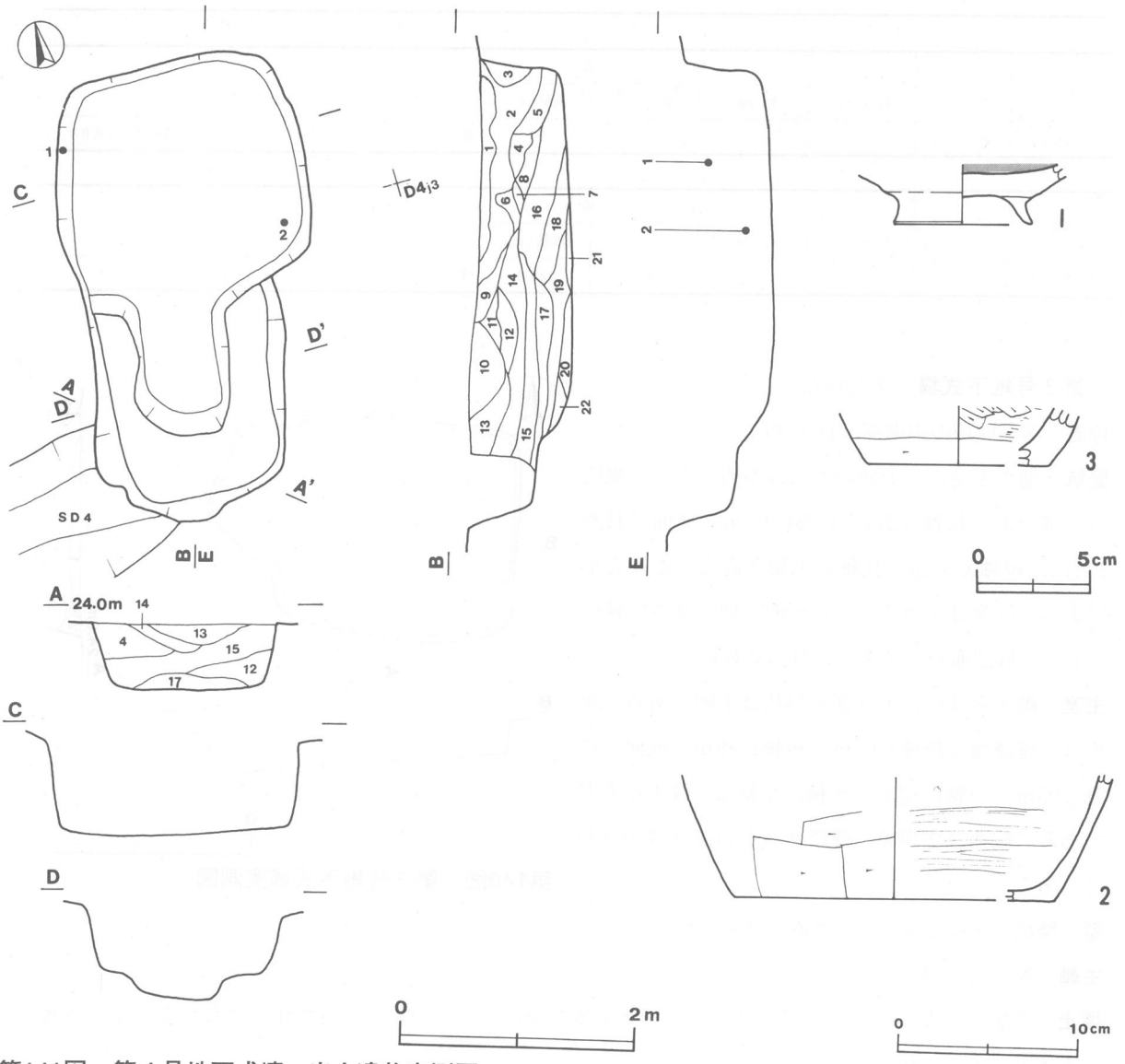
第４号地下式壙（第141図）

位置　調査区域の中部，Ｄ４ｊ2区。

重複関係　第４号溝が本跡を掘り込んでいるため，本跡の方が古い。

竪坑　崩落しており，上面の形状は不明である。規模は，確認面で長軸2.0m，短軸1.62m，底面で長軸1.85m，短軸1.45m，長軸が主軸と一致する長方形である。底面は平坦で，確認面からの深さは60cmである。主室底面より20～22cm高く，階段状となっている。

主室　崩落しており，天井部の形状は不明である。規模は，確認面で長軸2.15m，短軸2.0m，底面で長軸1.94m，短軸1.82m，主軸が長軸と一致する方形である。底面は平坦で，確認面からの深さは80cmである。



第141図　第４号地下式壙・出土遺物実測図

壁　竪坑は外傾して，主室はほぼ垂直に立ち上がる。

主軸方向　N—11°—E

覆土　22層からなる。10・13層は第４号溝跡の覆土である。16層はローム粒子を多量に含んでいることから，天井部の崩落土層と考えられる。これより下位の土層は，ロームブロックを多く含むことから天井部・壁の崩落土層の可能性がある。１～９・11層は，天井部崩落後のくぼみに自然に堆積した土層と考えられる。

土層解説

1	極暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
2	黒褐色	赤色粒子中量，ローム小ブロック・同粒子微量
3	にぶい褐色	ローム粒子多量
4	褐色	ローム粒子少量
5	褐色	ローム粒子中量
6	暗褐色	ローム粒子中量
7	暗褐色	赤色粒子中量，ローム粒子少量
8	褐色	ローム粒子多量，粘性弱
9	褐色	ローム粒子・白色粒子少量
10	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・赤色粒子微量
11	褐色	ローム粒子微量，粘性強
12	にぶい褐色	ローム小ブロック・同粒子少量
13	にぶい褐色	ローム小ブロック・同粒子中量
14	にぶい褐色	ローム小ブロック中量，赤色粒子少量，粘性強
15	にぶい褐色	ローム小ブロック・同粒子中量，ローム大ブロック微量，粘性強
16	明褐色	ローム粒子多量
17	にぶい褐色	ローム小ブロック・同粒子中量，粘性強
18	にぶい褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・赤色粒子中量，粘土粒子微量
19	褐色	ローム中ブロック・ローム粒子・赤色粒子中量，粘土粒子微量，粘性強
20	褐色	ローム粒子・粘土粒子少量，粘性強
21	黒褐色	ローム粒子少量
22	明褐色	ローム小ブロック・同粒子中量，炭化粒子少量，粘性強

遺物　土師器片13点，須恵器片16点，陶器片１点が出土している。第141図１は土師器高台付坏，２は須恵器甕の底部，３は瀬戸産の壺の底部である。いずれも本跡の埋没する過程で流れ込んだものと思われる。

所見　本跡の時期は，形状から中世と推定される。

第４号地下式壙出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第141図 1	高台付坏 土師器	B (2.6) D [6.0] E 1.2	底部から高台部の破片。体部は外傾して立ち上がる。高台は外反してハの字状に開く。	体部外面から高台部内・外面ナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，内外面ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 橙色 普通	P408 40% 覆土中層
2	甕 須恵器	B (7.0) C [18.2]	体部から底部の破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・石英・長石 にぶい黄橙色 普通	P409 15% 覆土下層
3	壺 陶器	B (2.5) C [7.8]	体部から底部の破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面ヘラ削り。体部外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。	砂粒 明褐灰色 良	P410 5% 覆土中 古瀬戸

表10　六十目遺跡地下式壙一覧表

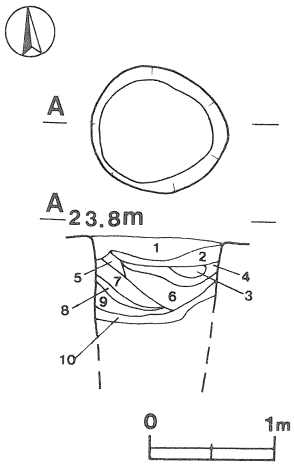
番号	位置	長径方向	規模 竪坑 長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(m)	平面形	主室 長径(軸)×短径(軸)(cm)	深さ(m)	平面形	覆土	出土遺物	備考 遺構番号・新旧関係（古→新）時代・その他
1	F4a2	N-70°-E	1.1 × 0.3	1.0	長方形	1.68 × 1.2	1.02	長方形	自然		SD-31と重複
2	D3i6	N-44°-W	1.25 × 1.15	0.4	方形	2.85 × 1.78	0.56	長方形	自然	土師器片16，須恵器片20，石製品１	本跡→SD-11　土師質土器片１出土
3	D3i0	N-79°-E	1.2 × 0.65	0.34	長方形	2.07 × 1.89	0.35	方形	人為		
4	D4j2	N-11°-E	2.0 × 1.85	0.6	長方形	2.15 × 2.0	0.8	方形	自然	土師器片12，須恵器片16，陶器片１	本跡→SD-4

（５）井戸跡

第１号井戸跡（第142図）

位置　調査区域の南部，Ｅ４i3区。

規模と形状　径１ｍの円筒形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。深さ約１ｍまで掘り込んだところで湧水が著しくなり，それ以下の調査を打ち切った。



第142図　第1号井戸跡実測図

覆土　10層からなる。粘土ブロックを多く含むことから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	暗オリーブ褐色	粘土大ブロック・同粒子少量，しまり強
2	黄　灰　色	粘土大ブロック中量，粘性・しまり強
3	にぶい黄色	粘土ブロック多量，粘性・しまり強
4	黒　褐　色	粘土大ブロック少量，しまり弱
5	黄　灰　色	粘土大ブロック・同中ブロック少量
6	オリーブ褐色	粘土大ブロック中量，粘性強
7	オリーブ褐色	粘土粒子中量，粘性強
8	にぶい黄色	粘土小ブロック中量，粘土大ブロック少量，粘性強
9	オリーブ褐色	粘土粒子中量，粘性・しまり強
10	にぶい黄色	粘土小ブロック多量，粘性強

所見　本跡の時期は，遺物が出土していないため，明らかではない。

表11　六十目遺跡井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	形態	規模 径(m)	規模 深さ(m)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 遺構番号・新旧関係（古→新） 時代　その他
1	E4i3	－	円筒形	1	1以上	垂直	－	人為		

（6）土坑

今回の調査の結果，当遺跡では144基の土坑が確認された。調査区域の東部及び南部に多く分布しており，内訳は，方形及び長方形のもの56基，円形及び楕円形のもの73基，不整円形のもの15基である。この内，第52号土坑は古墳時代の遺物が出土していることから，遺構・遺物の概要を古墳時代の項で取り上げている。その他の土坑は，遺物が出土したものが少ないため，時代・性格とも不明なものが多い。調査区域の東部に分布する一群については，規模・形状がほぼ等しく，覆土の堆積状況が不自然なものであることから，墓壙の可能性が考えられる。

ここでは，代表的な遺構をいくつか取り上げ，それ以外については一覧表及び実測図を掲載する。

第92号土坑（第143図）

位置　調査区域の東部，Ｃ６c4区。

規模と形状　径1.28mほどの円形で，深さは13cmである。壁は外傾して立ち上がり，底部は平坦である。

覆土　３層からなる。ロームブロックを多く含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	褐　色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・同小ブロック微量
2	暗褐色	ローム粒子中量，赤色粒子微量
3	黒褐色	ローム小ブロック・同粒子微量

遺物　遺物は出土していない。

所見　本跡及び以下に記載する第93～98号土坑は，台地平坦面から谷部に下る傾斜変換点付近に位置しており，ほぼ標高23.5mの等高線に沿って並んで構築されている。覆土にロームブロックを含む層が多いことから，人為堆積と考えられる。直径がほぼ１m前後であり，埋め戻した形跡が認められるので，墓壙の可能性が考えられる。時期は，遺物が出土していないため明らかではない。

第93号土坑（第143図）

位置　調査区域の東部，Ｃ６c4区。第92号土坑の南西側に位置している。

規模と形状　長径1.15m，短径1.07mの円形で，深さは12cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がり，底部は平坦である。

覆土　２層からなる。ロームブロックを含むことから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗 褐 色　　ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
2　褐　　色　　ローム粒子中量，ローム大ブロック微量

遺物　遺物は出土していない。

第94号土坑（第143図）

位置　調査区域の東部，Ｃ６d4区。第93号土坑の南側に位置している。

規模と形状　長径1.07m，短径0.94mの不整円形で，深さは５cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がり，北壁には長径45cm，短径30cmの楕円形で，深さ３cmのピットがある。底面は平坦である。

覆土　２層からなる。不自然な堆積状況をしていることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗 褐 色　　ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
2　暗 褐 色　　ローム粒子少量

遺物　遺物は出土していない。

第95号土坑（第143図）

位置　調査区域の東部，Ｃ６d4区。第94号土坑の南側に位置している。

規模と形状　長径0.85m，短径0.75mの楕円形で，深さは６cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がり，西壁に長径37cm，短径30cmの楕円形で，深さ25cmのピットがある。底面は平坦である。

長径方向　N―50°―W

覆土　２層からなる。不自然な堆積状況をしていることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗 褐 色　　ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
2　明 褐 色　　ローム粒子中量，粘性強

遺物　遺物は出土していない。

第96号土坑（第143図）

位置　調査区域の東部，Ｃ６d3区。第95号土坑の南西側に位置している。

規模と形状　長径0.92m，短径0.8mの楕円形で，深さは７cmである。壁は緩やかに立ち上がり，底面は平坦である。西壁及び底部に長径40～45cm，短径25～29cmの楕円形で，深さ14～21cmのピットがある。

主軸　N―17°―E

覆土　３層からなる。ロームブロックを含むことから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗 褐 色　　ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
2　褐　　色　　ローム粒子中量，ローム大ブロック微量
3　明 褐 色　　ローム粒子中量，粘性強

遺物　遺物は出土していない。

第97号土坑（第143図）

位置　調査区域の東部，Ｃ６d3区。第96号土坑の南西側に位置する。

規模と形状　長径1.27m，短径1.18mの円形で，深さは10cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がり，底面は平坦である。

覆土　２層からなる。ロームブロックを含むことから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　褐　　色　　ローム粒子少量，ローム中ブロック・同小ブロック微量
2　暗 褐 色　　ローム粒子中量，赤色粒子微量

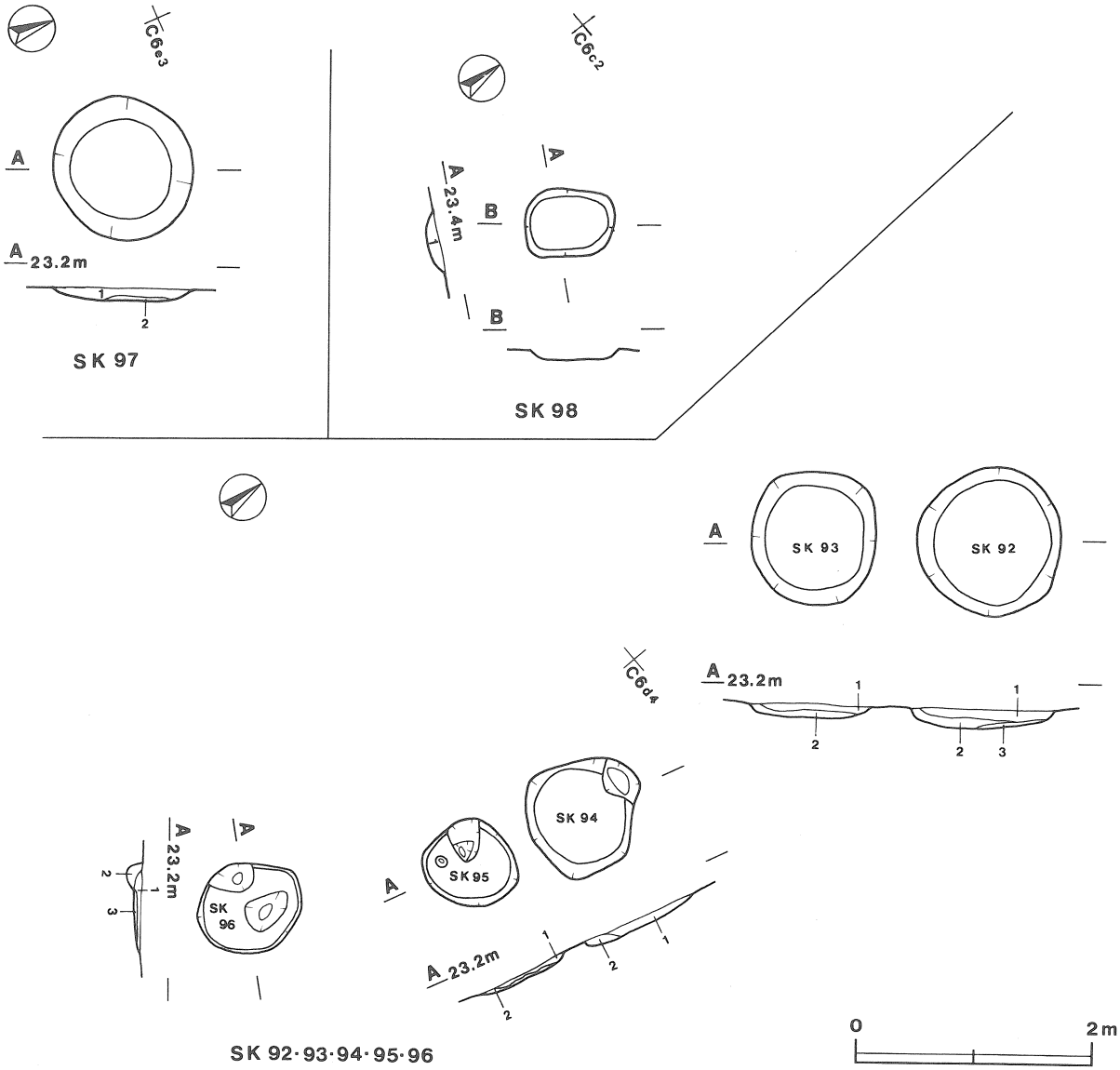
遺物　遺物は出土していない。

第98号土坑（第143図）

位置　調査区域の東部，Ｃ６c2区。第92～97号土坑の西側に位置する。

規模と形状　長軸0.75m，短軸0.57mの長方形で，深さは10cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がり，底面は皿状である。

長軸方向　N―40°―E



第143図　第92～98号土坑実測図

覆土　単一層である。ロームブロックを含むことから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　　色　　ローム粒子少量，ローム中ブロック・同小ブロック微量

遺物　遺物は出土していない。

第121号土坑（第144図）

位置　調査区域の東部，Ｄ７b9区。

重複関係　第38号溝が本跡の覆土を掘り込んでいるので，本跡の方が古い。

規模と形状　径1.14mほどの円形で，深さは12cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がり，底面は平坦である。

覆土　２層からなり，ロームブロックを含んでいることから人為堆積と考えられる。３層は第38号溝跡の土層である。

土層解説
1　褐　　色　　ローム粒子少量，赤色粒子微量
2　暗 褐 色　　ローム粒子少量，ローム中ブロック・同小ブロック微量
3　暗 褐 色　　ローム粒子・赤色粒子微量

遺物　遺物は出土していない。

所見　本跡は第92～98号土坑と規模・形態が類似しており，円形の墓壙と推定される。時期については，遺物が出土していないため，不明である。

第126号土坑（第144図）

位置　調査区域の東部，Ｄ７c9区。第117号土坑の南側に位置している。

重複関係　本跡が第39号溝跡・第127号土坑の覆土を掘り込んでいるので，本跡の方が新しい。

規模と形状　長軸1.89m，短軸0.86mの隅丸長方形で，深さは18cmである。壁は外傾して立ち上がり，底面は平坦である。

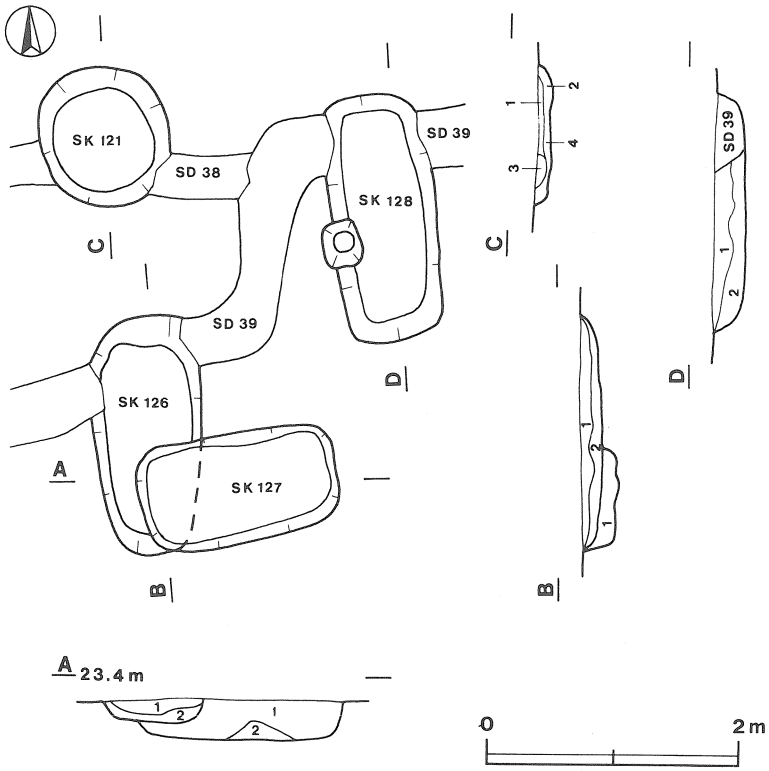
長軸方向　N―3°―W

覆土　２層からなる。ロームブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗 褐 色　　ローム中ブロック・同小ブロック少量
2　黒 褐 色　　ローム中ブロック・同粒子少量

遺物　遺物は出土していない。

所見　本跡及び以下に記載する第127・128号土坑は，長軸1.55～1.92m，短軸0.82～0.88mの長方形を呈している。規模・形態に共通性が認められ，覆土も人為堆積と考えられることから，墓壙の可能性が考えられる。時期については，遺物が出土していないた



第144図　第121・126～128号土坑実測図

め明らかではない。

第127号土坑（第144図）

位置　調査区域の東部，Ｄ７c9区。

重複関係　第126号土坑が本跡の覆土を掘り込んでいることから，本跡の方が古い。

規模と形状　長軸1.55m，短軸0.88mの長方形で，深さは31cmである。壁は外傾して立ち上がり，底面は平坦である。

長軸方向　N―78°―E

覆土　２層からなる。ロームブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗 褐 色　ローム中ブロック中量，ローム大ブロック・同小ブロック少量
2　灰 褐 色　ローム大ブロック中量，ローム中ブロック・同小ブロック少量，粘性強

遺物　遺物は出土していない。

第128号土坑（第144図）

位置　調査区域の東部，Ｄ７b9区。第121号土坑の東側に位置する。

重複関係　第39号溝が本跡の覆土を掘り込んでいることから，本跡の方が古い。

規模と形状　長軸1.92m，短軸0.82mの長方形で，深さは24cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がり，底面は平坦である。

長軸方向　N―６°―W

覆土　２層からなる。ロームブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗 褐 色　ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量
2　黒 褐 色　ローム中ブロック・同小ブロック少量

遺物　遺物は出土していない。

以下に，上述した遺構を除く土坑の土層解説を記載する。

第１号土坑土層解説

1　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，粘性強
2　暗 褐 色　ローム中ブロック・同小ブロック・同粒子微量
3　褐　色　ローム小ブロック・同粒子中量，ローム中ブロック少量，粘性強
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック微量

第２号土坑土層解説

1　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，粘性強
2　褐　色　ローム粒子中量
3　褐　色　ローム大ブロック多量，粘性強
4　暗 褐 色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量，粘性強

第３号土坑土層解説

1　褐　色　ローム大ブロック・粘土粒子・焼土粒子微量
2　褐　色　ローム粒子微量，粘性強
3　褐　色　ローム粒子少量，赤色粒子微量

第４号土坑土層解説

1　暗 褐 色　ローム粒子・赤色粒子微量，粘性弱
2　暗 褐 色　赤色粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子微量
4　黒 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　褐　色　ローム粒子少量

第５号土坑土層解説

1　黒 褐 色　ローム大ブロック・同小ブロック中量，しまり強
2　黒 褐 色　ローム中ブロック中量

第６号土坑土層解説

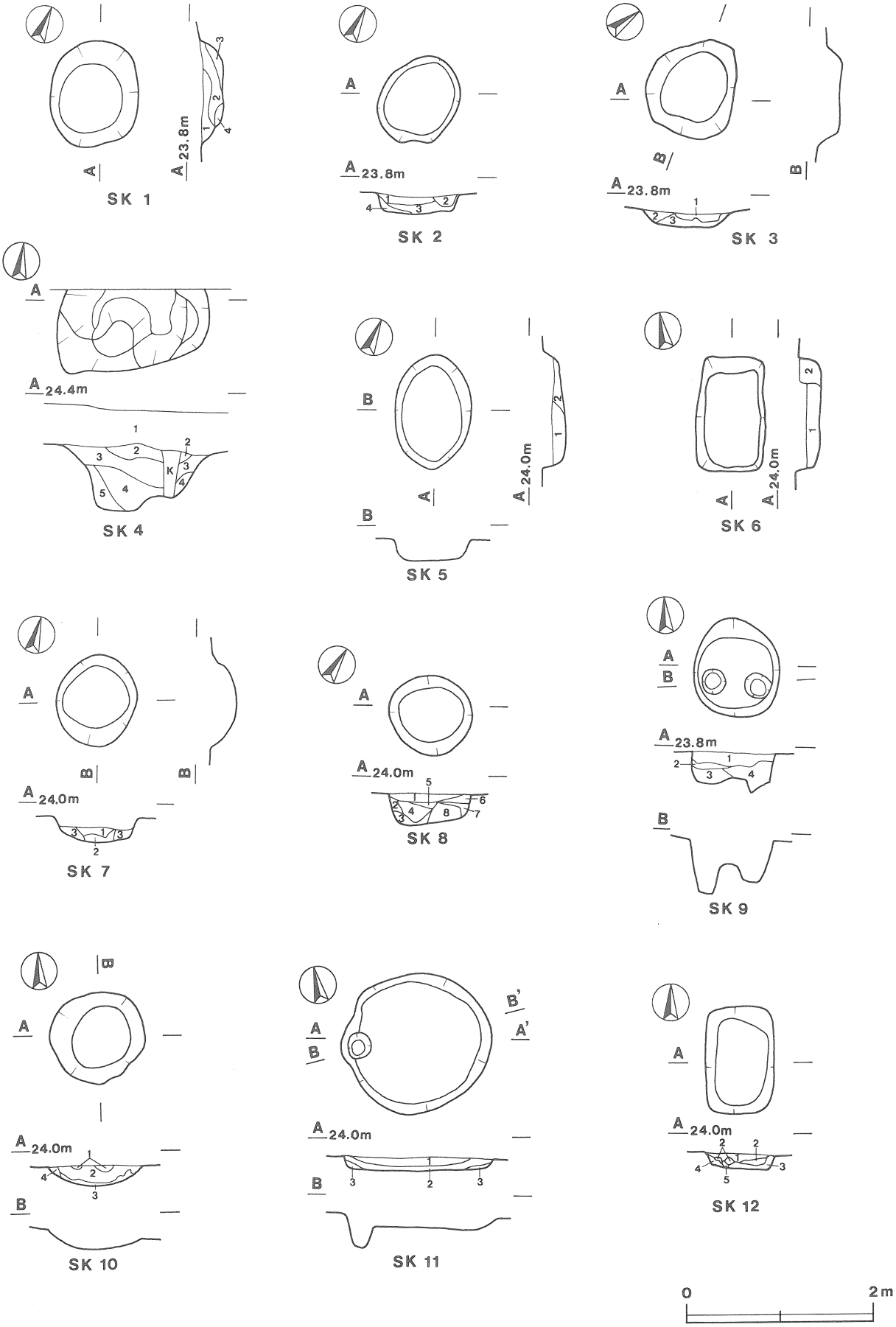
1　暗 褐 色　ローム大ブロック中量，ローム小ブロック少量，しまり強
2　暗 褐 色　ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量，しまり強

第７号土坑土層解説

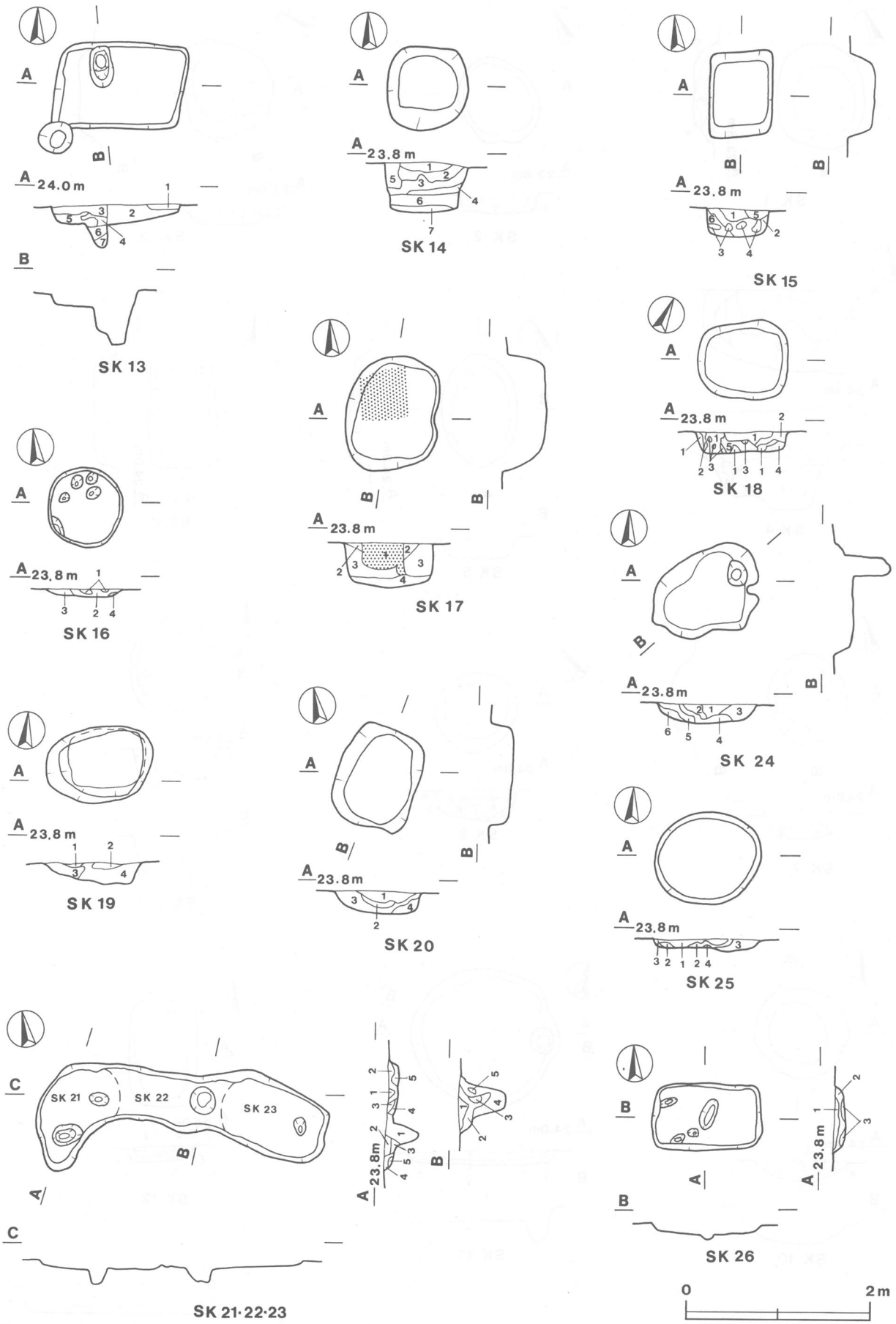
1　暗 褐 色　ローム小ブロック・粘土粒子少量
2　暗 褐 色　ローム中ブロック・焼土粒子少量，粘性・しまり弱
3　灰 褐 色　ローム粒子少量，しまり強

第８号土坑土層解説

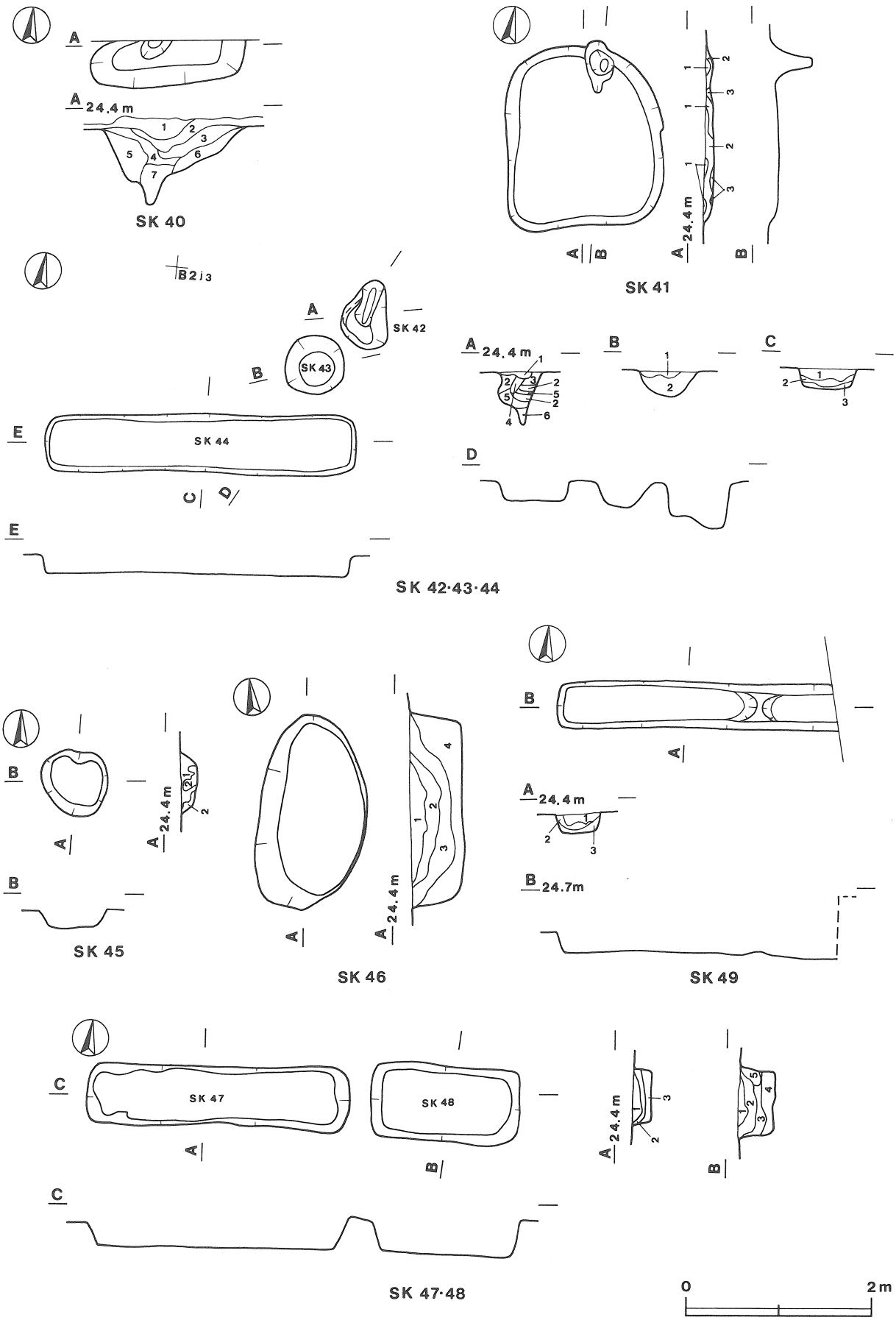
1　黒 褐 色　ローム小ブロック少量，しまり強
2　褐　色　ローム中ブロック中量，しまり弱
3　褐　色　ローム小ブロック多量
4　暗 褐 色　ローム小ブロック・焼土大ブロック少量
5　暗 褐 色　粘土小ブロック中量，粘性強
6　にぶい橙色　ローム大ブロック多量，しまり強
7　褐　色　ローム大ブロック中量
8　灰 褐 色　粘土大ブロック多量，粘性・しまり強



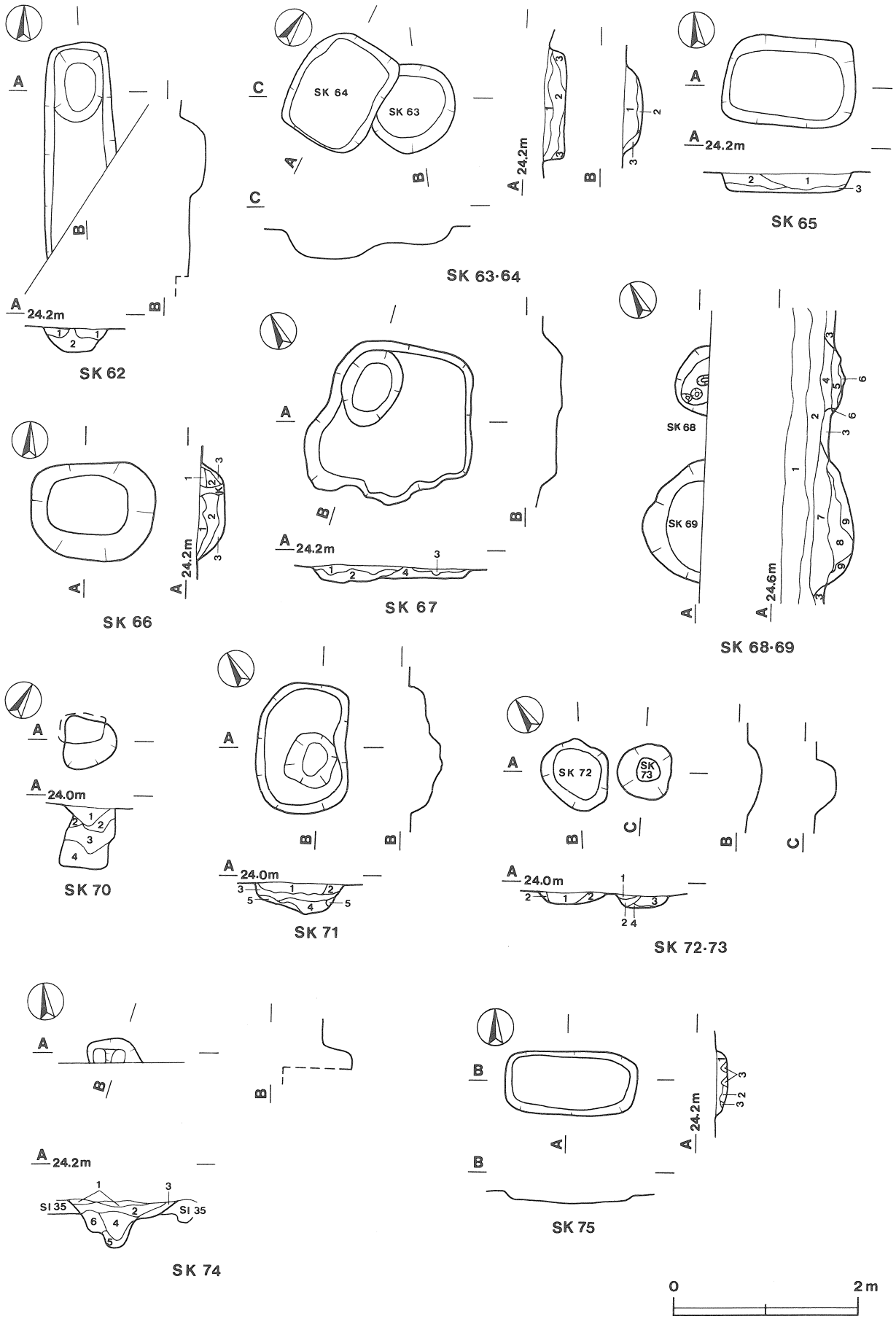
第145図　その他の土坑実測図（1）



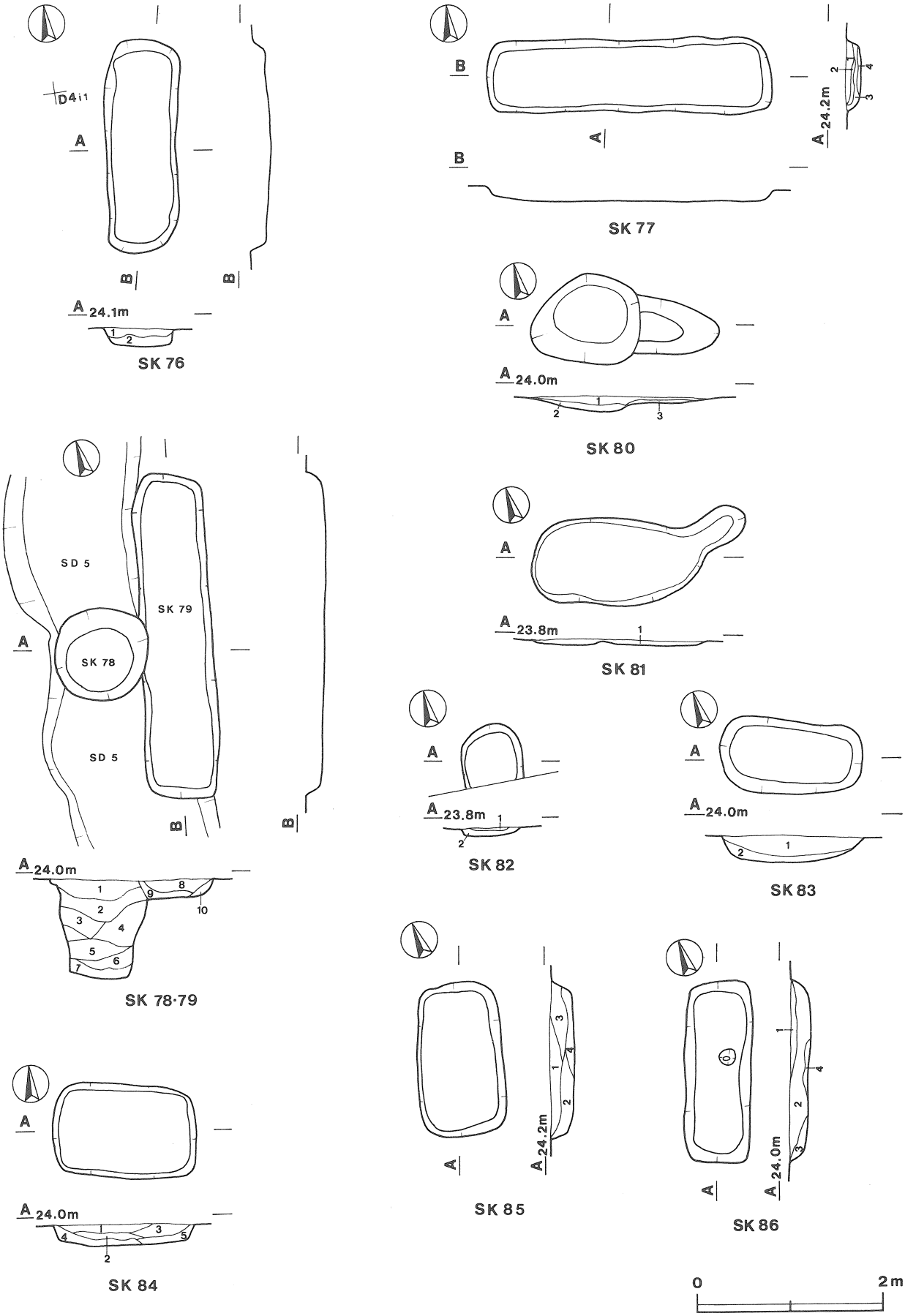
第146図　その他の土坑実測図（２）



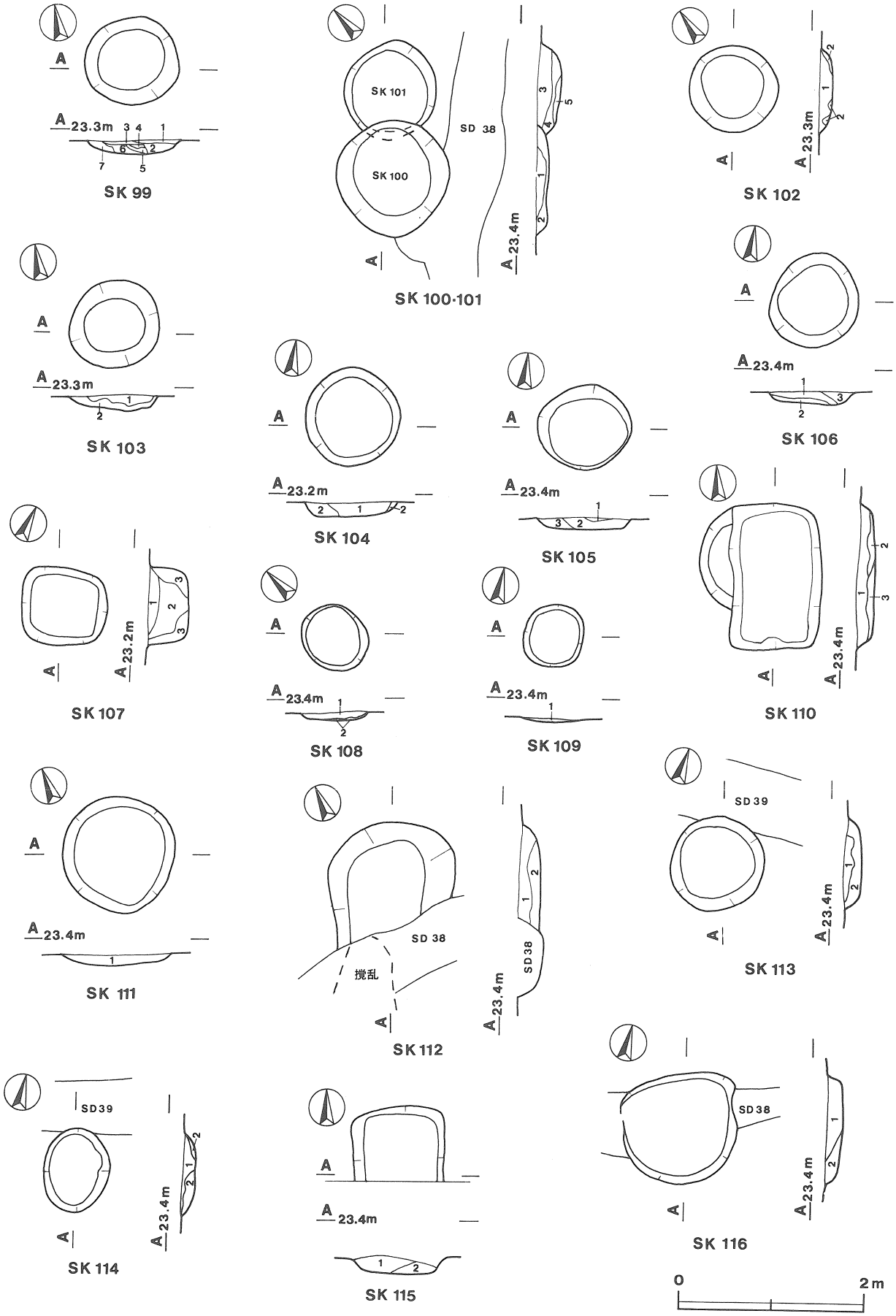
第147図　その他の土坑実測図（3）



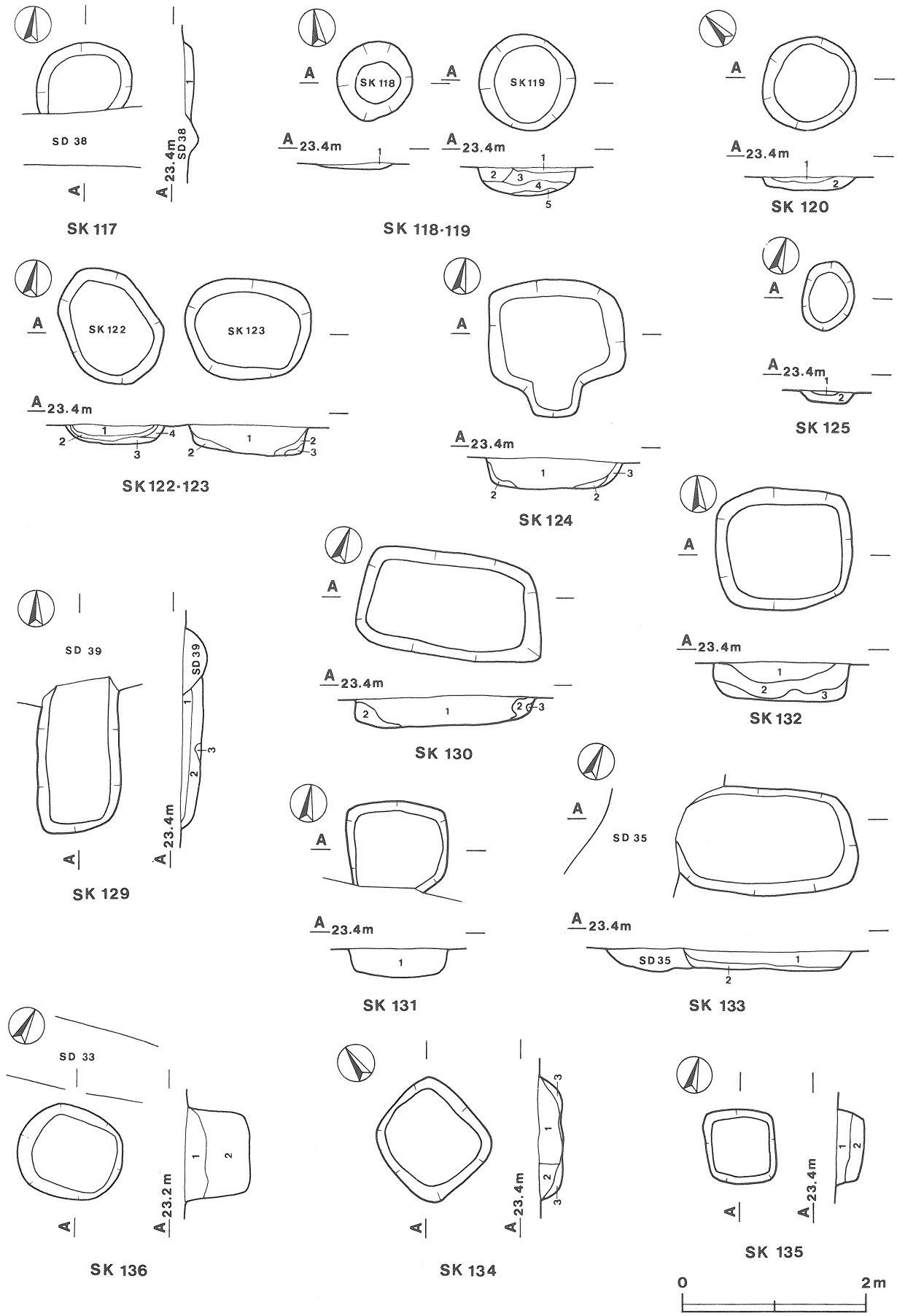
第148図　その他の土坑実測図（4）



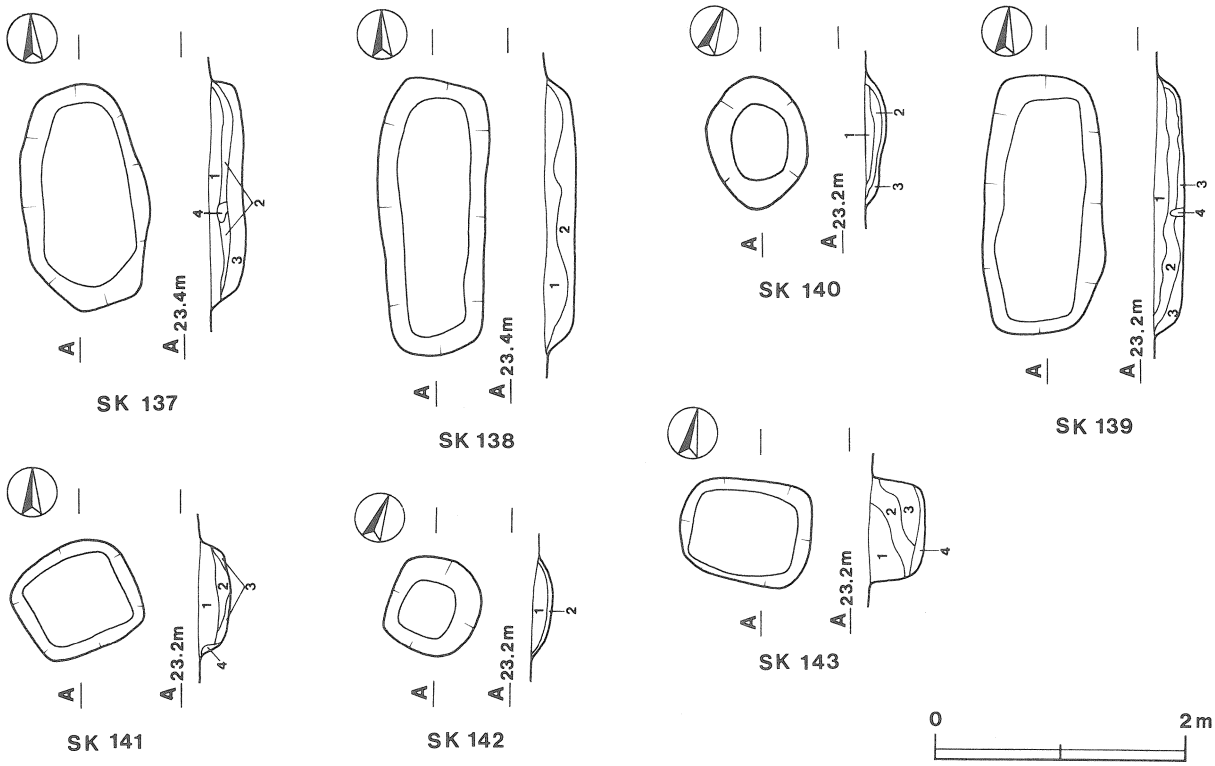
第149図　その他の土坑実測図（５）



第150図　その他の土坑実測図（6）



第151図　その他の土坑実測図（7）



第152図　その他の土坑実測図（8）

第９号土坑土層解説

1　明　褐　色　　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量，粘性強
2　暗　褐　色　　ローム中ブロック・同小ブロック少量
3　褐　　色　　ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
4　暗　褐　色　　ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子少量

第10号土坑土層解説

1　暗　褐　色　　ローム大ブロック・同小ブロック少量，しまり強
2　黒　褐　色　　ローム大ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量
3　灰　褐　色　　ローム大ブロック中量
4　褐　　色　　ローム小ブロック多量

第11号土坑土層解説

1　暗　褐　色　　ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量
2　褐　　色　　ローム大ブロック中量，しまり強
3　黒　褐　色　　ローム粒子・炭化粒子少量

第12号土坑土層解説

1　褐　　色　　ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量
2　橙　　色　　ローム大ブロック多量
3　褐　　色　　ローム中ブロック中量
4　明　褐　色　　ローム小ブロック少量

第13号土坑土層解説

1　灰　褐　色　　ローム粒子中量
2　にぶい褐色　　ローム粒子多量
3　褐　　色　　ローム粒子中量，ローム大ブロック・同中ブロック少量
4　褐　　色　　ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量
5　にぶい褐色　　ローム中ブロック中量，ローム粒子少量
6　にぶい褐色　　ローム中ブロック中量
7　褐　　色　　ローム小ブロック多量

第14号土坑土層解説

1　灰　褐　色　　ローム大ブロック・同中ブロック少量
2　黒　褐　色　　ローム大ブロック・炭化粒子少量，しまり弱
3　にぶい褐色　　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量
4　褐　　色　　ローム中ブロック中量
5　灰　褐　色　　ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量
6　黒　褐　色　　ローム粒子少量
7　にぶい褐色　　ローム粒子多量

第15号土坑土層解説

1　褐　　色　　ローム小ブロック中量，炭化粒子少量，粘性強
2　褐　　色　　ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量，粘性強
3　明　褐　色　　ローム小ブロック多量
4　黒　褐　色　　赤色粒子微量
5　灰　褐　色　　ローム小ブロック中量，粘性強
6　暗　褐　色　　ローム粒子中量，粘性強

第16号土坑土層解説

1　褐　　色　　ローム小ブロック多量
2　黒　褐　色　　ローム小ブロック中量
3　灰　褐　色　　ローム粒子中量
4　明　褐　色　　ローム中ブロック中量，しまり強

第17号土坑土層解説

1　浅黄橙色　　粘土大ブロック・同粒子多量，粘性強
2　暗　褐　色　　ローム大ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
3　褐　　色　　ローム大ブロック中量
4　灰　褐　色　　ローム粒子中量，しまり弱

第18号土坑土層解説

1　暗　褐　色　　ローム大ブロック中量
2　橙　　色　　ローム大ブロック多量
3　黒　褐　色　　赤色粒子微量，しまり弱
4　灰　褐　色　　ローム小ブロック多量
5　にぶい褐色　　ローム中ブロック多量

第19号土坑土層解説

1　褐　　色　　ローム粒子多量
2　にぶい褐色　　ローム大ブロック・粘土大ブロック中量，粘性強
3　にぶい褐色　　ローム粒子中量
4　黒　褐　色　　ローム粒子少量，ローム大ブロック微量

第20号土坑土層解説

1　褐　　色　　ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量
2　黒　褐　色　　ローム小ブロック少量
3　灰　褐　色　　ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量
4　褐　　色　　ローム中ブロック中量

第21号土坑土層解説

1　灰　褐　色　　ローム中ブロック・同小ブロック少量
2　褐　　色　　ローム大ブロック中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物少量
3　褐　灰　色　　ローム小ブロック・炭化粒子少量
4　暗　褐　色　　ローム中ブロック・同小ブロック少量，しまり弱
5　にぶい褐色　　ローム小ブロック多量

第22号土坑土層解説

1　黒　褐　色　　ローム大ブロック・同中ブロック少量，焼土大ブロック微量，粘性・しまり弱
2　灰　褐　色　　ローム小ブロック中量，粘性・しまり弱
3　褐　　色　　ローム粒子多量，粘性・しまり弱
4　黒　褐　色　　ローム中ブロック・同小ブロック少量，粘性・しまり弱
5　褐　　色　　ローム中ブロック中量，ローム粒子少量，粘性・しまり弱

第23号土坑土層解説

1　黒　褐　色　　ローム中ブロック少量，粘性・しまり弱
2　灰　褐　色　　ローム中ブロック中量，粘性・しまり弱
3　黒　褐　色　　ローム中ブロック・同小ブロック少量，粘性・しまり弱
4　黒　褐　色　　ローム小ブロック少量，粘性・しまり弱
5　暗　褐　色　　ローム大ブロック・同中ブロック・同粒子少量，粘性・しまり弱

第24号土坑土層解説

1　黒　褐　色　　ローム小ブロック・同粒子中量，ローム中ブロック・粘土粒子微量
2　黒　褐　色　　ローム小ブロック・同粒子中量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　　ローム小ブロック・同粒子多量
5　暗　褐　色　　ローム小ブロック・同粒子多量，粘性強
6　明　褐　色　　ローム粒子多量，粘性強

第25号土坑土層解説

1　褐　　色　　ローム粒子中量
2　褐　　色　　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
3　灰　褐　色　　ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
4　橙　　色　　ローム小ブロック多量

第26号土坑土層解説

1　黒　褐　色　　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
2　灰　褐　色　　ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量
3　明　褐　色　　ローム小ブロック多量

第40号土坑土層解説

1　灰　褐　色　　ローム大ブロック中量
2　にぶい褐色　　ローム中ブロック中量
3　褐　灰　色　　ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物少量
4　灰　褐　色　　ローム大ブロック中量，ローム中ブロック・炭化物少量
5　にぶい褐色　　ローム大ブロック多量
6　黒　褐　色　　ローム大ブロック・炭化物少量
7　にぶい褐色　　ローム中ブロック少量，ローム大ブロック微量

第41号土坑土層解説

1　にぶい橙色　　ローム大ブロック中量，炭化物少量，しまり弱
2　灰　褐　色　　ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子少量，しまり弱
3　にぶい褐色　　ローム小ブロック多量

第42号土坑土層解説

1　極暗褐色　　ローム粒子少量
2　褐　　色　　ローム粒子多量
3　暗　褐　色　　ローム粒子中量
4　暗　褐　色　　ローム粒子少量，粘性強
5　褐　　色　　ローム粒子中量，粘性・しまり強
6　褐　　色　　ローム小ブロック・同粒子中量，粘性・しまり強

第43号土坑土層解説

1　極暗褐色　　ローム粒子少量
2　褐　　色　　ローム粒子多量

第44号土坑土層解説

1　にぶい褐色　　ローム小ブロック多量
2　灰　褐　色　　ローム大ブロック・同中ブロック少量
3　明　褐　色　　ローム中ブロック多量

第45号土坑土層解説

1　灰　褐　色　　ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量
2　明　褐　色　　ローム大ブロック多量

第46号土坑土層解説

1　灰　褐　色　　ローム小ブロック中量，炭化物少量
2　にぶい褐色　　ローム小ブロック多量，ローム大ブロック少量
3　にぶい褐色　　ローム小ブロック多量，ローム中ブロック少量
4　明　褐　色　　ローム中ブロック多量
5　にぶい褐色　　ローム中ブロック・同小ブロック中量

第47号土坑土層解説

1　褐　灰　色　　ローム大ブロック・同小ブロック少量
2　にぶい褐色　　ローム大ブロック中量，ローム小ブロック少量，しまり弱
3　褐　灰　色　　ローム小ブロック少量，しまり弱

第48号土坑土層解説

1　にぶい褐色　　ローム大ブロック多量，炭化物少量，しまり弱
2　黒　褐　色　　ローム小ブロック・炭化物少量，しまり弱
3　にぶい褐色　　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量，しまり弱
4　灰　褐　色　　ローム大ブロック・同中ブロック少量，しまり弱
5　灰　褐　色　　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・同中ブロック少量，しまり弱

第49号土坑土層解説

1　灰　褐　色　　ローム中ブロック・同粒子中量，炭化物少量
2　暗　褐　色　　ローム中ブロック・炭化物少量
3　暗　褐　色　　ローム小ブロック中量

第62号土坑土層解説

1　黒　　色　　ローム中ブロック・同小ブロック少量
2　褐　　色　　ローム大ブロック中量，ローム中ブロック・同小ブロック少量

第63号土坑土層解説

1　褐　　色　　ローム粒子・炭化粒子少量，炭化物微量
2　暗　褐　色　　炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
3　にぶい褐色　　ローム粒子中量，炭化粒子少量

第64号土坑土層解説

1　褐　　色　　ローム粒子微量
2　にぶい褐色　　ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子微量
3　褐　　色　　ローム粒子少量

第65号土坑土層解説

1　褐　　色　　ローム粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　　ローム粒子・炭化物少量
3　暗　褐　色　　炭化物・炭化粒子中量，ローム粒子少量

第66号土坑土層解説

1　黒　褐　色　　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
2　黒　褐　色　　ローム大ブロック・ローム小ブロック・炭化物少量
3　褐　　色　　ローム中ブロック中量，炭化物少量，しまり弱

第67号土坑土層解説

1　暗　褐　色　　赤色粒子中量，ローム粒子微量
2　褐　　色　　ローム粒子中量
3　褐　　色　　ローム粒子中量，白色粒子少量
4　にぶい褐色　　ローム粒子中量

第68・69号土坑土層解説（1・2層は表土層，4～6層は第68号土坑，7～9層は第69号土坑の土層）

1　黒　褐　色　　ローム粒子・赤色粒子微量，粘性弱
2　暗　褐　色　　白色粒子少量
3　褐　　色　　ローム粒子中量，粘性強
4　暗　褐　色　　ローム粒子微量
5　褐　　色　　ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　暗　褐　色　　ローム粒子少量，粘性強
7　暗　褐　色　　ローム小ブロック・同粒子微量
8　暗　褐　色　　赤色粒子中量，ローム粒子微量
9　褐　　色　　ローム小ブロック・同粒子中量

第70号土坑土層解説

1　暗　褐　色　　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・同中ブロック少量
2　暗　褐　色　　ローム大ブロック・同中ブロック中量
3　黒　褐　色　　ローム粒子中量，ローム大ブロック・同中ブロック中量

第71号土坑土層解説

1　灰　褐　色　ローム小ブロック・同粒子中量，炭化物少量
2　暗　褐　色　ローム中ブロック中量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・炭化物少量，しまり強
3　黒　　色　炭化物多量，ローム大ブロック・同中ブロック少量，粘性・しまり弱
4　褐　　色　ローム大ブロック・同小ブロック中量，炭化物少量
5　明　褐　色　ローム小ブロック多量

第72号土坑土層解説

1　黒　褐　色　ローム小ブロック・同粒子少量
2　明　褐　色　ローム大ブロック中量

第73号土坑土層解説

1　黒　褐　色　ローム大ブロック中量，炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
3　黒　褐　色　ローム小ブロック中量，炭化物少量
4　黒　褐　色　ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

第74号土坑土層解説

1　褐　　色　ローム大ブロック・同中ブロック少量
2　褐　　色　ローム大ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
3　褐　　色　ローム大ブロック中量，ローム中ブロック少量
4　暗　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・粘土粒子少量
5　にぶい褐色　粘土大ブロック中量，炭化粒子少量，粘性強
6　褐　　色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量

第75号土坑土層解説

1　黒　褐　色　ローム大ブロック・同中ブロック少量
2　褐　　色　ローム大ブロック中量
3　明　褐　色　ローム大ブロック多量，しまり強

第76号土坑土層解説

1　褐　　色　ローム中ブロック中量
2　褐　　色　ローム大ブロック中量，ローム中ブロック・同小ブロック少量

第77号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量
2　黒　褐　色　ローム中ブロック・同小ブロック少量
3　暗　褐　色　ローム大ブロック中量
4　黒　褐　色　ローム中ブロック・同小ブロック少量，しまり強

第78・79号土坑土層解説

1　褐　　色　ローム小ブロック・同粒子少量
2　暗　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・赤色粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　褐　　色　ローム大ブロック中量，ローム粒子少量，粘性強
5　褐　　色　ローム粒子中量，粘性弱
6　暗　褐　色　ローム粒子少量
7　暗　褐　色　ローム粒子中量
8　暗　褐　色　ローム粒子・赤色粒子少量
9　暗　褐　色　ローム粒子微量
10　褐　　色　ローム粒子中量

第80号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子中量

第81号土坑土層解説

1　褐　　色　ローム粒子少量，白色粒子微量

第82号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子少量，ローム中ブロック微量

第83号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量

第84号土坑土層解説

1　にぶい褐色　ローム粒子・白色粒子中量
2　褐　　色　ローム粒子・赤色粒子少量
3　にぶい褐色　ローム粒子中量
4　褐　　色　ローム粒子・白色粒子少量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量

第85号土坑土層解説

1　褐　　色　ローム小ブロック・同粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量
3　褐　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
4　褐　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，しまり強

第86号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
3　黒　褐　色　ローム粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子中量，粘性強

第99号土坑土層解説

1　黒　褐　色　ローム大ブロック少量，粘性・しまり弱
2　灰　褐　色　ローム大ブロック中量，ローム中ブロック・同小ブロック少量，しまり弱
3　暗　褐　色　ローム中ブロック少量，しまり弱
4　明　褐　色　ローム中ブロック多量，ローム大ブロック少量，しまり弱
5　黒　褐　色　ローム大ブロック中量，しまり弱
6　明　褐　色　ローム小ブロック多量，ローム大ブロック・同中ブロック少量，しまり弱
7　褐　　色　ローム中ブロック中量，しまり弱

第100・101号土坑土層解説（1・2層は第100号土坑，その他は第101号土坑の土層）

1　灰　褐　色　ローム中ブロック中量，ローム大ブロック・同小ブロック少量
2　黒　褐　色　ローム小ブロック・同粒子少量
3　褐　　色　ローム中ブロック・同粒子中量，ローム大ブロック少量
4　暗　褐　色　ローム小ブロック・同粒子中量
5　褐　　色　ローム粒子中量

第102号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ローム中ブロック中量，ローム大ブロック・同小ブロック少量，しまり弱
2　明　褐　色　ローム大ブロック多量

第103号土坑土層解説

1　明　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・同中ブロック少量，しまり弱
2　にぶい褐色　ローム大ブロック中量，ローム中ブロック・同小ブロック少量，しまり弱

第104号土坑土層解説

1　褐　　色　ローム大ブロック多量
2　褐　　色　ローム中ブロック多量

第105号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・同粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

第106号土坑土層解説

1　褐　　色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・同粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量

第107号土坑土層解説

1　黒　褐　色　ローム小ブロック少量
2　暗　褐　色　ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量
3　暗　褐　色　ローム中ブロック・同小ブロック少量

第108号土坑土層解説

1　黒　褐　色　ローム大ブロック中量，ローム中ブロック・同小ブロック少量，しまり弱
2　明　褐　色　ローム大ブロック多量

第109号土坑土層解説

1　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子・赤色粒子微量

第110号土坑土層解説

1　黒　褐　色　ローム大ブロック・同中ブロック少量
2　褐　　色　ローム大ブロック多量，ローム中ブロック少量
3　暗　褐　色　ローム大ブロック・同中ブロック少量

第111号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ローム大ブロック・同中ブロック中量

第112号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量,ローム中ブロック微量
2　褐　　色　ローム中ブロック・同粒子中量

第113号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム大ブロック・同中ブロック少量,しまり弱
2　にぶい褐色　ローム大ブロック中量,ローム中ブロック・同小ブロック少量,しまり弱

第114号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム小ブロック中量,ローム大ブロック・同中ブロック少量,しまり弱
2　褐　　色　ローム大ブロック多量,ローム中ブロック・同小ブロック少量,しまり弱

第115号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム中ブロック・同小ブロック少量,しまり弱
2　明　褐　色　ローム大ブロック中量

第116号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量
2　黒　褐　色　ローム大ブロック中量,ローム中ブロック・同小ブロック少量

第117号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム小ブロック中量,ローム大ブロック少量

第118号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム小ブロック中量,ローム大ブロック・同中ブロック少量

第119号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量,赤色粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量,赤色粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量,ローム中ブロック・同小ブロック微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量,ローム大ブロック・同中ブロック微量
5　暗　褐　色　ローム小ブロック少量,粘性強

第120号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム中ブロック中量
2　暗　褐　色　ローム大ブロック中量

第122号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム小ブロック中量,ローム大ブロック・同中ブロック少量
2　暗　褐　色　ローム大ブロック・同中ブロック少量,しまり弱
3　褐　　色　ローム小ブロック中量,ローム大ブロック・同中ブロック少量
4　褐　　色　ローム中ブロック中量

第123号土坑土層解説
1　灰　褐　色　ローム中ブロック中量,ローム大ブロック少量
2　黒　褐　色　ローム大ブロック少量,しまり弱
3　にぶい褐色　ローム大ブロック中量

第124号土坑土層解説
1　灰　褐　色　ローム中ブロック中量,ローム大ブロック少量
2　黒　褐　色　ローム大ブロック少量,しまり弱
3　にぶい褐色　ローム大ブロック多量

第125号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量,ローム小ブロック微量

第129号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量
2　黒　褐　色　ローム中ブロック・同小ブロック少量
3　明　褐　色　ローム小ブロック多量
4　暗　褐　色　ローム中ブロック・同小ブロック少量

第130号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量
2　暗　褐　色　ローム中ブロック・同小ブロック少量
3　明　褐　色　ローム小ブロック多量

第131号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム大ブロック中量,ローム中ブロック・同小ブロック少量,しまり弱

第132号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム大ブロック中量,ローム中ブロック・同小ブロック少量,しまり弱
2　暗　褐　色　ローム大ブロック多量,ローム中ブロック・同小ブロック少量,しまり弱
3　灰　褐　色　ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量,しまり弱

第133号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量,ローム小ブロック少量
2　褐　　色　ローム小ブロック・同粒子少量,ローム大ブロック微量
3　暗　褐　色　ローム小ブロック・同粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子中量,ローム小ブロック少量

第134号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム小ブロック少量,ローム中ブロック・炭化粒子微量,しまり強
2　暗　褐　色　ローム小ブロック少量
3　褐　　色　ローム小ブロック少量,ローム中ブロック微量

第135号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム中ブロック中量,ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量,ローム小ブロック少量

第136号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム大ブロック・同中ブロック少量
2　明　褐　色　ローム大ブロック・同中ブロック中量

第137号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム中ブロック・同小ブロック少量,しまり弱
2　黒　褐　色　ローム大ブロック・同中ブロック少量,しまり弱
3　褐　　色　ローム大ブロック中量,しまり弱
4　明　褐　色　ローム大ブロック多量

第138号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム大ブロック中量
2　暗　褐　色　ローム大ブロック中量,ローム中ブロック・同小ブロック少量

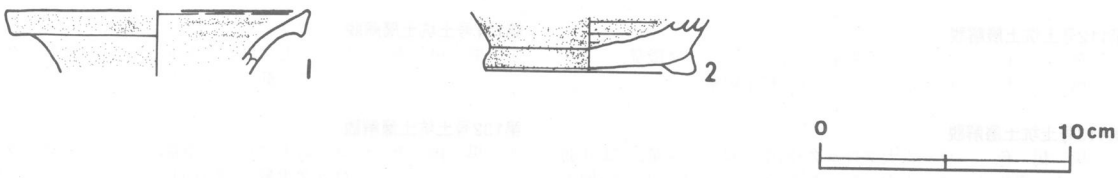
第139号土坑土層解説
1　灰　褐　色　ローム大ブロック・同中ブロック少量
2　暗　褐　色　ローム中ブロック・同小ブロック少量
3　黒　褐　色　ローム大ブロック・同小ブロック少量
4　にぶい褐色　ローム中ブロック多量

第140号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・赤色粒子少量
3　褐　　色　ローム小ブロック・同粒子少量

第141号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム大ブロック・同中ブロック・同小ブロック少量
2　黒　褐　色　ローム大ブロック・同中ブロック少量
3　黒　褐　色　ローム中ブロック・同小ブロック少量
4　明　褐　色　ローム小ブロック多量

第142号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム小ブロック少量,炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム小ブロック・同粒子少量

第143号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム小ブロック・同粒子少量
2　暗　褐　色　ローム中ブロック・同粒子少量
3　褐　　色　ローム中ブロック・同小ブロック少量
4　暗　褐　色　ローム粒子・赤色粒子少量



第153図　第16・78号土坑出土遺物実測図

第16号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第153図 1	長頸瓶 灰釉陶器	A　[12.0] B　(2.5)	口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がる。口縁端部は断面三角形を呈する。	内・外面ロクロナデ。	砂粒 素地黄灰色，釉調褐色　良	P392　5% 黒笹90窯式 覆土中

第78号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第153図 2	長頸瓶 灰釉陶器	B　(2.2) D　[8.3] E　1.0	体部から高台部の破片。体部は外傾して立ち上がり，高台はハの字状に大きく開く。	内面ロクロナデ。高台貼り付け後，内・外面ナデ。	砂粒 素地灰黄褐色，釉調褐灰色　良	P407　5% 覆土中

表12　六十目遺跡土坑一覧表

番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 遺構番号・新旧関係（古→新）時代　その他
1	E3j3	－	円形	0.98 × 0.82	21	緩斜	平坦	人為		S1-45内
2	F3j2	－	円形	1.13 × 0.96	18	外傾	平坦	自然		S1-45内
3	F3a2	N-7°-W	楕円形	1.12 × 1.04	19	緩斜	平坦	自然		S1-46内
4	F3c8	N-80°-E	[方形]	1.63 ×(0.79)	69	緩斜	平坦	自然		
5	E3i8	N-21°-W	楕円形	1.23 × 0.81	24	外傾	平坦	自然	土師器片6	
6	E3i8	N-16°-E	長方形	1.24 × 0.75	23	緩斜	平坦	自然		
7	E3j8	－	円形	0.97 × 0.88	27	緩斜	皿状	自然	土師器片6，須恵器片3	
8	F3a8	－	円形	0.88 × 0.85	34	外傾	皿状	自然		
9	F3b8	－	円形	1.05 × 0.90	34	外傾	凹凸	自然		
10	F3a7	－	円形	1.03 × 0.93	17	緩斜	皿状	自然		
11	E3h0	－	円形	1.54 × 1.48	16	緩斜	平坦	自然	土師器片5，須恵器片1	
12	E3i0	N-0°	長方形	1.12 × 0.75	16	外傾	平坦	自然		
13	E3j9	N-89°-W	長方形	1.40 × 0.94	14	外傾	平坦	自然		
14	F3b9	－	円形	0.91 × 0.88	55	垂直	平坦	自然		
15	F4b1	N-6°-E	長方形	0.91 × 0.67	28	垂直	平坦	自然	土師器片2，灰釉片1　P392	
16	E4h1	－	円形	0.85 × 0.80	14	緩斜	凹凸	自然		
17	E4h2	N-22°-E	楕円形	1.27 × 0.99	48	垂直	平坦	自然		
18	E4i2	N-64°-E	楕円形	0.98 × 0.81	23	外傾	平坦	自然		
19	E4h3	N-73°-E	楕円形	1.19 × 0.43	44	緩斜	平坦	自然	土師器片11，須恵器片9	
20	E4i2	N-29°-E	長方形	1.09 × 0.88	24	外傾	平坦	自然	土師器片6，須恵器片1	
21	E4j3	N-74°-W	[長方形]	(1.68)× 0.56	10	緩斜	平坦	自然		本跡→SK-22・SK-23
22	E4j3	N-74°-W	[長方形]	(1.13)× 0.82	12	緩斜	平坦	自然		SK-21→本跡
23	E4j3	N-12°-E	[楕円形]	1.15 ×(0.51)	8	外傾	平坦	自然	土師器片1	SK-21→本跡
24	F4a2	N-58°-E	不整楕円形	1.30 × 0.95	18	外傾	平坦	自然		
25	F4a1	－	円形	1.17 × 0.99	10	緩斜	凹凸	自然	土師器片3	
26	F4a2	N-5°-E	長方形	1.18 × 0.73	7	緩斜	平坦	自然		
27	F4a2	N-82°-W	長方形	2.23 × 0.71	2	緩斜	平坦	自然		
28	E4j3	N-43°-W	[長方形]	[1.32]× 0.75	11	緩斜	平坦	自然		本跡→SK-29
29	E4j3	N-35°-E	[長方形]	[1.27]× 0.62	10	緩斜	平坦	自然	土師器片1	SK-28→本跡
30	E3j3	N-82°-W	楕円形	1.20 × 0.95	33	緩斜	平坦	自然	土師器片4	
31	B0j7	N-73°-W	楕円形	1.81 × 0.75	13	緩斜	平坦	自然		
32	C1a8	N-55°-E	楕円形	1.70 × 1.46	39	緩斜	平坦	自然		
33	C1a8	N-36°-W	楕円形	1.69 × 0.92	15	緩斜	平坦	自然		

番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 遺構番号・新旧関係（古→新）時代 その他
34	C1b9	N-32°-E	長方形	1.22 × 0.72	35	緩斜	平坦	自然		
35	C1b9	－	円形	0.84 × 0.78	20	緩斜	皿状	自然		
36	C1c8	－	円形	0.85 × 0.80	31	段状	平坦	自然		
37	C1d7	－	円形	0.49 × 0.49	32	外傾	皿状	自然		
38	C1d7	－	円形	0.52 × 0.48	30	外傾	皿状	自然		
39	B2i1	N-0°	楕円形	1.74 × 1.17	34	緩斜	凹凸	自然		
40	B2g4	N-80°-E	不定形	1.65 ×(0.50)	85	緩斜	段状	自然		陥穴？
41	B2h4	N-13°-W	方形	1.95 × 1.68	11	緩斜	平坦	自然		
42	B2j3	N-9°-E	不整楕円形	0.74 × 0.49	48	垂直	ゆるやかな傾斜	人為		
43	B2j3	－	円形	0.67 × 0.65	28	外傾	皿状	自然		
44	B2j3	N-84°-E	長方形	3.34 × 0.62	21	外傾	平坦	自然		
45	C2a3	－	円形	0.75 × 0.69	18	緩斜	平坦	自然		
46	C2a3	N-7°-E	楕円形	2.10 × 1.14	53	外傾	平坦	自然	土師器片1,常滑片2	
47	C2a3	N-80°-E	長方形	2.81 × 0.66	35	外傾	平坦	自然		
48	C2a4	N-80°-E	長方形	1.60 × 0.82	40	外傾	平坦	人為	土師器片1	
49	C2b6	N-83°-E	長方形	3.00 × 0.50	31	外傾	平坦	自然		
50	C2d5	N-0°	[長方形]	1.48 ×(1.05)	12	緩斜	平坦	人為	土師器片2,須恵器片2	
51	C2d6	N-7°-E	[長方形]	1.97 ×(0.40)	16	緩斜	平坦	人為	土師器片4,須恵器片1	
52	B2i7	N-3°-E	長方形	2.31 × 1.97	82	垂直	平坦	人為	土師器片93　P397・399	
53	B2g9	N-26°-E	隅丸長方形	2.20 × 1.65	52	外傾	外傾	自然		
54	B2j8	N-90°	長方形	1.45 × 0.63	50	外傾	平坦	自然		
55	B3i2	N-90°-W	隅丸長方形	1.62 × 0.55	13	外傾	平坦	自然		
56	B3i3	N-1°-E	隅丸長方形	2.04 × 0.70	22	緩斜	平坦	自然		
57	C3d6	N-10°-W	隅丸長方形	1.51 × 0.48	34	緩斜	皿状	人為		
58	C3e1	N-22°-E	隅丸方形	1.18 × 1.16	23	緩斜	皿状	人為		
59	C3e6	N-2°-W	楕円形	1.19 × 0.77	47	緩斜	皿状	自然		
60	B3i1	N-6°-W	楕円形	1.71 × 1.32	30	外傾	平坦	自然		
61	D3f8	N-79°-W	[長方形]	(1.91)× 0.92	30	外傾	平坦	人為	土師器片1,須恵器片2	
62	D3f8	N-7°-W	[長方形]	(1.80)× 0.76	30	緩斜	平坦	人為		
63	D3j6	N-32°-W	[円形]	0.96 ×(0.84)	20	外傾	皿状	自然		本跡→SK-64
64	D3j6	N-3°-W	長方形	1.21 × 0.97	24	外傾	平坦	自然	土師器片2	SK-63→本跡
65	E3a5	N-78°-W	長方形	1.43 × 0.97	23	外傾	平坦	自然		
66	D3j1	N-89°-E	楕円形	1.33 × 1.01	28	緩斜	皿状	自然	土師器片1	
67	E3b3	N-30°-E	不整方形	1.82 × 1.72	21	外傾	平坦	自然		
68	E3d4	－	円形	(0.74)× －	25	緩斜	皿状	自然	須恵器片1	
69	E3d4	－	円形	(1.35)× －	33	緩斜	皿状	自然	土師器片1	
70	C4j8	N-64°-E	不整円形	0.56 × 0.55	62	袋状	平坦	人為		
71	D4a7	N-40°-E	楕円形	1.41 × 0.96	34	外傾	凹凸	人為	土師器片16,灰釉片1	
72	D4b7	N-2°-W	楕円形	0.80 × 0.68	15	緩斜	皿状	自然		
73	D4b7	－	円形	0.61 × 0.56	21	外傾	皿状	人為		
74	E4f2	N-1°-W	－	(0.52)×(0.25)	34	垂直	平坦	人為		SI-35→本跡
75	D3j0	N-90°	長方形	1.42 × 0.71	13	緩斜	平坦	自然		
76	D4i4	N-90°-E	長方形	2.32 × 0.80	22	緩斜	平坦	自然		
77	D3j9	N-83°-W	長方形	3.08 × 0.80	16	緩斜	平坦	人為		
78	D4i1	－	円形	0.97 × 0.96	106	垂直	平坦	人為	灰釉片1　P407	SD-5→本跡→SK-79
79	D4i1	N-17°-E	長方形	3.50 × 0.75	20	緩斜	平坦	自然		SD-5→SK-78→本跡
80	E4b4	N-74°-W	不整楕円形	2.02 × 0.96	14	緩斜	平坦	自然		
81	E4e4	N-72°-W	不整楕円形	1.86 × 0.93	6	緩斜	平坦	自然		
82	E4f4	N-20°-E	[長方形]	0.67 ×(0.64)	12	緩斜	平坦	自然		
83	E4e3	N-65°-W	楕円形	1.56 × 0.79	28	外傾	平坦	自然		
84	D4i2	N-82°-W	長方形	1.53 × 0.98	22	外傾	平坦	自然		
85	E4h2	N-20°-E	長方形	1.69 × 0.93	26	外傾	平坦	自然	土師器片1,須恵器片1	
86	E4c2	N-22°-E	長方形	1.97 × 0.69	20	緩斜	平坦	自然	土師器片2,須恵器片1	
87	E4d1	N-14°-E	不整方形	1.42 × 1.41	40	外傾	平坦	人為	土師器片1,須恵器片2	
88	C3i1	N-88°-W	楕円形	1.30 × 0.69	35	外傾	傾斜	人為		
89	C2i0	N-85°-E	不整楕円形	(1.79)× 1.63	58	外傾	段状	人為		
90	D3i0	－	円形	1.07 × 1.00	22	緩斜	皿状	人為		

番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 遺構番号・新旧関係（古→新）時代　その他
91	D3i0	N-0°	楕円形	0.84 × 0.69	13	緩斜	ゆるい起状	自然		
92	C6e4	－	円形	1.28 × 1.22	13	外傾	平坦	人為		
93	C6e4	－	円形	1.15 × 1.07	12	緩斜	平坦	人為		
94	C6d4	N-32°-W	不整円形	1.07 × 0.94	5	緩斜	平坦	人為		
95	C6d4	－	円形	0.85 × 0.75	6	外傾	凹凸	人為		
96	C6d3	N-17°-E	不整円形	0.92 × 0.80	7	緩斜	凹凸	人為		
97	C6d3	N-90°-E	円形	1.27 × 1.18	10	緩斜	平坦	人為		
98	C6c2	N-40°-E	長方形	0.75 × 0.57	10	緩斜	皿状	人為		
99	D7b4	－	円形	1.02 × 0.96	16	緩斜	皿状	人為		
100	D7c4	－	円形	1.25 × 1.22	14	緩斜	平坦	人為		SK-101→本跡
101	D7c4	N-40°-E	[円形]	1.10 × 1.00	14	緩斜	平坦	人為		本跡→SK-100
102	D7c4	－	円形	0.97 × 0.94	14	緩斜	皿状	人為		
103	D7b5	－	円形	1.02 × 0.93	16	緩斜	皿状	人為		
104	D7a6	－	円形	1.04 × 1.03	16	緩斜	皿状	人為		
105	D7a6	－	円形	1.01 × 0.92	13	外傾	平坦	人為		
106	D7a6	－	円形	1.04 × 0.94	15	緩斜	皿状	人為		
107	D8c3	N-69°-E	方形	0.93 × 0.87	43	垂直	平坦	人為		
108	D7b6	－	円形	0.74 × 0.65	9	緩斜	皿状	人為		
109	D7b5	－	円形	0.71 × 0.69	4	緩斜	皿状	人為		
110	D7b6	N-4°-E	不整長方形	1.57 × 1.29	20	緩斜	平坦	人為		
111	D7b6	－	円形	1.26 × 1.24	12	緩斜	皿状	人為		
112	D7c5	N-22°-E	[楕円形]	1.39 ×(1.15)	24	緩斜	平坦	人為		本跡→SD-38
113	D7c5	－	円形	1.04 × 0.99	16	外傾	皿状	人為		
114	D7c6	N-6°-W	楕円形	0.90 × 0.72	15	緩斜	平坦	人為		
115	D7d7	N-0°	不整形	(0.86)× 0.96	18	緩斜	平坦	人為		
116	D7c7	N-70°-E	不整楕円形	1.25 × 1.18	18	外傾	平坦	人為		
117	D7c7	－	円形	1.00 ×(0.76)	11	緩斜	平坦	人為		本跡→SD-38
118	D7b8	－	円形	0.88 × 0.80	7	緩斜	皿状	人為		
119	D7b8	－	円形	1.05 × 1.02	30	緩斜	皿状	人為		
120	D7a8	－	円形	1.05 × 1.03	14	緩斜	皿状	人為		
121	D7b9	－	円形	1.14 × 1.12	12	緩斜	平坦	人為		
122	D7d8	N-38°-W	楕円形	1.32 × 0.98	19	緩斜	平坦	人為		
123	D7c8	N-85°-E	楕円形	1.37 × 1.10	31	外傾	平坦	人為		
124	D7d8	N-81°-E	不整長方形	1.48 × 1.10	32	外傾	平坦	人為		
125	D7c9	N-13°-W	楕円形	0.75 × 0.56	12	緩斜	皿状	人為		
126	D7c9	N-3°-W	隅丸長方形	1.89 × 0.86	18	緩斜	平坦	人為		SK-127・SD-39→本跡
127	D7c9	N-78°-E	長方形	1.55 × 0.88	31	外傾	平坦	人為		本跡→SK-126
128	D7b9	N-6°-W	長方形	1.92 × 0.82	24	緩斜	平坦	人為		本跡→SD-39
129	D7c0	N-4°-W	長方形	(1.61)× 0.88	22	緩斜	平坦	人為		本跡→SD-39
130	D7c9	N-80°-E	長方形	1.93 × 1.13	22	外傾	平坦	人為		
131	D7d0	N-82°-E	[方形]	1.08 ×(0.93)	29	外傾	平坦	人為		南面エリア外
132	D8d1	N-86°-W	方形	1.48 × 1.32	41	垂直	平坦	人為		
133	D7c0	N-71°-E	長方形	1.92 × 1.17	20	緩斜	平坦	人為		本跡→SD-35
134	D8c1	N-3°-W	隅丸方形	1.14 × 1.06	24	緩斜	平坦	人為		
135	D8c1	N-9°-W	隅丸方形	0.80 × 0.76	20	外傾	平坦	人為		
136	D8b2	－	円形	1.13 × 1.01	70	垂直	平坦	人為		
137	D8c2	N-6°-W	楕円形	1.77 × 0.98	25	外傾	平坦	人為		
138	D8c2	N-5°-E	長方形	2.16 × 0.83	24	緩斜	平坦	人為		
139	D8c3	N-5°-W	長方形	2.05 × 0.93	24	緩斜	平坦	人為		
140	D8c3	N-31°-W	楕円形	1.05 × 0.76	15	緩斜	皿状	人為		
141	D8d3	N-60°-E	方形	0.95 × 0.86	24	緩斜	皿状	人為		
142	D8b3	－	円形	0.76 × 0.73	16	緩斜	皿状	人為		
143	D8c2	N-86°-E	長方形	1.06 × 0.81	44	外傾	平坦	人為		
144	D3c3	N-19°-W	隅丸長方形	3.09 × 1.97	55	外傾	平坦	人為		

4　遺構外出土遺物

今回の調査で，遺構に伴わない土器・土製品・石器・鉄製品・古銭・煙管などが出土している。ここでは，それらの中から縄文土器・土師器・石器について解説し，その他については実測図（第154・155図）及び観察表・一覧表で一括して報告する。

第154図４は縄文土器の胴部片である。外面に撚糸文を縦位に施しており，縄文時代早期の土器と考えられる。５・６は縄文土器の胴部片と考えられる。ＬＲの単節斜縄文を施し，沈線で区画した後，磨り消している。共に加曽利Ｅ式土器に比定される。７は縄文土器の口縁部片で，外反して立ち上がり，口縁端部を丸く処理している。口縁部は波状口縁を呈するようである。加曽利Ｂ式と考えられる。

第154図3は土師器小形器台である。受部は若干内彎して立ち上がり，端部に面取りを施している。受部中央部には径約1.4cmほどの穿孔を有している。古墳時代前期の土器と考えられる。

第155図14は剥片，第154図21・第155図20は石核である。石質は14・21がチャート，20が黒曜石である。第155図16～19は石鏃である。石質はすべて黒曜石である。第154図15は，刃部の大半が欠損しているが，磨製石斧の破片と考えられる。石質は溶結凝灰岩である。

遺構外出土遺物観察表（１）

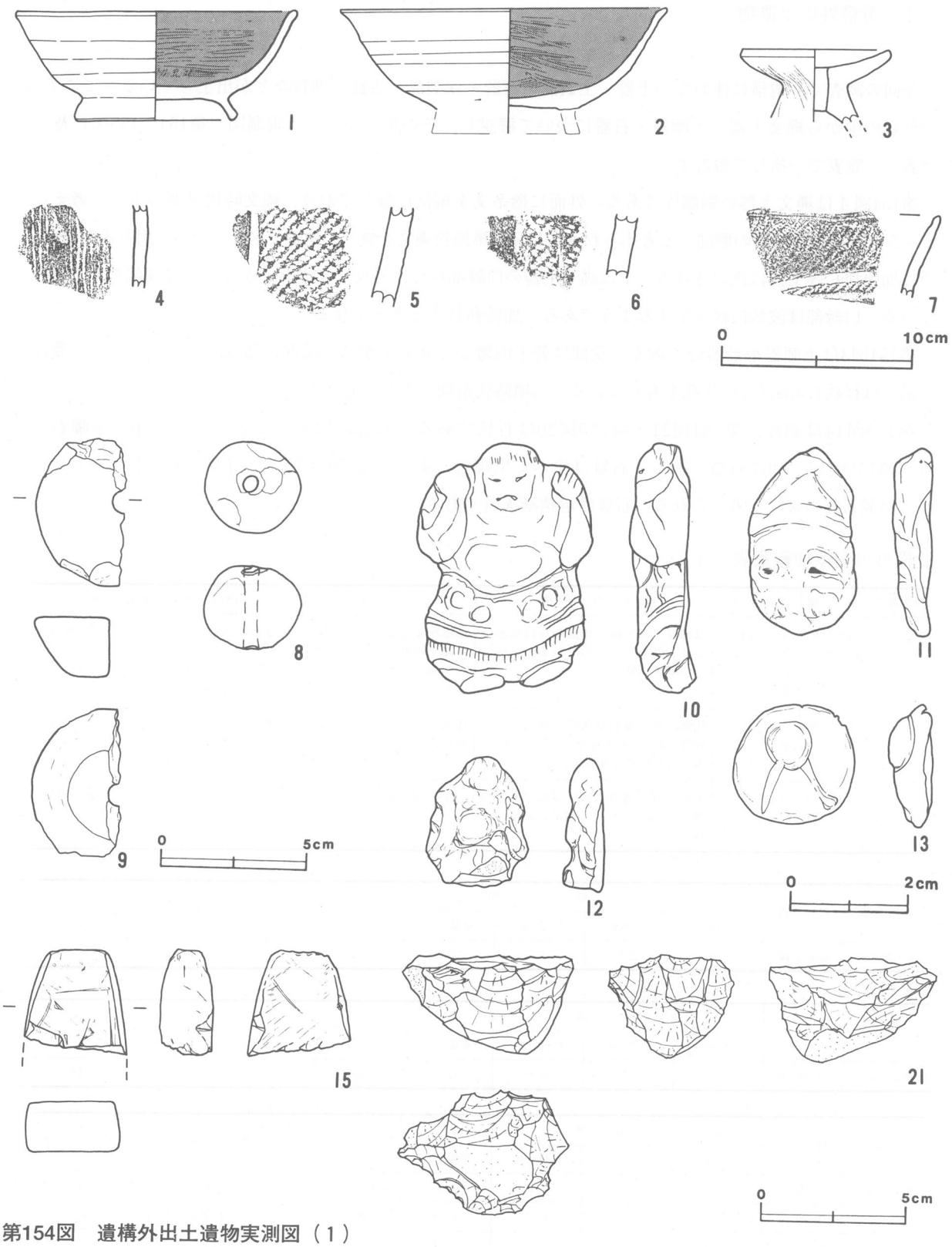
図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第154図 1	高台付坏 土師器	A　14.4 B　5.6 D　8.2 E　1.2	口縁部一部欠損。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。高台はハの字状に開く。	体部外面，高台部内・外面ロクロナデ。体部内面磨き，黒色処理。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，内外面ナデ。	砂粒・石英・スコリア・雲母 にぶい橙色 普通	P416　90% PL52 B区
2	高台付坏 土師器	A　16.6 B　(5.3)	体部一部・高台部欠損。体部から口縁部にかけて若干内彎して立ち上がり，端部付近で若干外反する。	体部外面ロクロナデ。体部内面磨き，黒色処理。底部回転ヘラ削り。	砂粒・スコリア・雲母 橙色　普通	P417　80% D区
3	小形器台 土師器	A　7.5 B　(3.7)	受部一部・脚部欠損。受部は若干内彎して立ち上がり，端部に面取りを施す。	受部内面器面荒れ調整不明。受部外面ナデ。	砂粒・石英 赤褐色 普通	P418　40% B区

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第154図８	球状土錘	3.4	2.9	0.5	25.3	表採	DP18

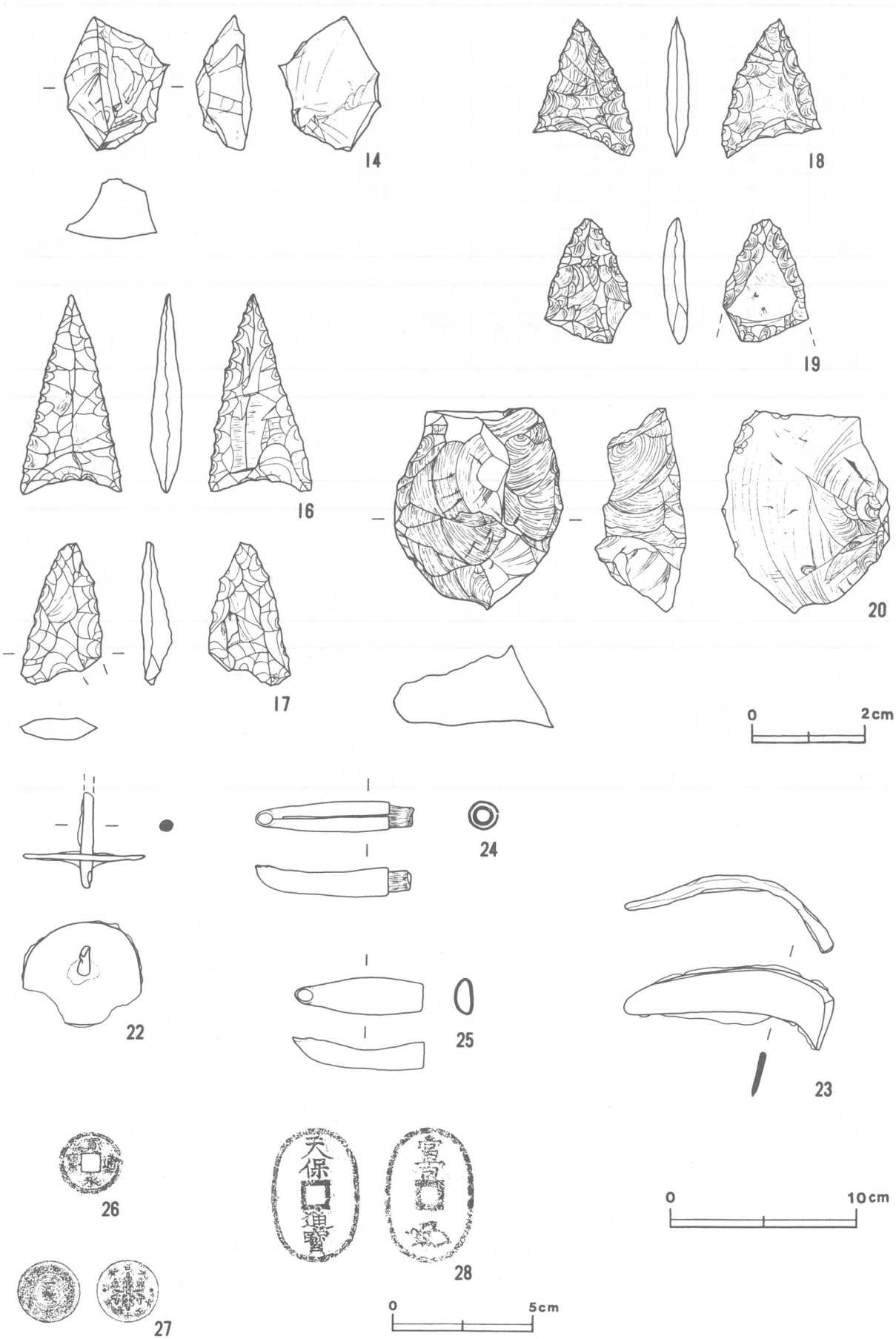
図版番号	種　別	計測値				材　質	出土地点	備　考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第154図９	紡錘車	(5.0)	2.1	(0.8)	(31.2)	土師質	E４区	DP19

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第154図10	泥面子	4.3	3.0	1.2	9.85	D４区	DP20　力士　PL53
11	泥面子	3.2	2.3	0.7	3.18	C４区	DP21　不明
12	泥面子	2.3	1.7	0.7	2.04	E４区	DP22　大黒？
13	不明土製品	2.1	2.1	0.8	2.00	E４区	DP23

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第155図14	剥　片	2.4	1.0	1.9	3.86	F３区	Q30　チャート



第154図　遺構外出土遺物実測図（1）



第155図　遺構外出土遺物実測図（２）

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第154図15	砥　石	(3.6)	(3.6)	1.8	(34.0)	表採	Q35　溶結凝灰岩　PL53
第155図16	石　鏃	3.5	1.8	0.6	2.6	D3区	Q37　黒曜石　PL54
17	石　鏃	2.6	1.4	0.4	1.42	表採	Q38　黒曜石
18	石　鏃	2.5	(1.8)	0.4	(1.46)	表採	Q39　黒曜石
19	石　鏃	(2.2)	(1.5)	0.4	(1.26)	表採	Q40　黒曜石
20	石　核	3.6	3.0	1.5	13.0	C3区	Q41　黒曜石
第154図21	石　核	3.5	5.9	4.6	75.0	C4区	Q42　チャート　PL54

図版番号	器　種	計測値					出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	軸径(cm)	軸長(cm)	重量(g)		
第155図22	紡錘車	(4.3)	0.2	0.4	(3.3)	(8.1)	D4区	M16

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第155図23	鎌	(7.5)	1.7	0.4	(16.9)	E4区	M18　PL54

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第155図24	煙　管	5.7	1.0	1.0	5.2	C区表採	M26　羅苧竹有り
25	煙　管	4.7	1.3	0.9	7.4	E区表採	M27

図版番号	銭　名	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	孔径(cm)	初鋳・鋳造年	鋳造地名	出土地点	備考
							和暦（西暦）			
第155図26	寛永通宝	2.4	—	0.35	2.3	0.65	寛永元年(1624)初鋳	日　本	B区	M28　PL54
第155図27	一　銭	2.1	—	0.30	3.5	—	大正13年(1923)鋳造	日　本	B区表採	M29
第155図28	天保通宝	8.3	1.6	1.70	20.1	—	天保6年(1835)初鋳	日　本	B区	M30

第4章　まとめ

今回の調査で確認された遺構は，竪穴住居跡53軒・掘立柱建物跡６棟・竪穴状遺構２基・溝跡29条・火葬施設２基・地下式壙４基・井戸跡１基・土坑144基である。

ここでは，時期別に各時代の主な遺構と遺物についての概要を述べ，まとめとする。

１　旧石器時代から縄文時代まで

旧石器時代の遺物としては，剥片・石核が表土及び後世の遺構の覆土から出土している。石質はチャート及び黒曜石である。石器が集中している地点や地層などは確認できなかった。

縄文時代の遺物としては，早期・中期・後期の土器片がごく少数と，この時代のものと考えられる石鏃が数点出土している。

２　古墳時代

当遺跡において，初めて集落が形成される時期である。この時代の遺構として，竪穴住居跡12軒・方形周溝状遺構２基・土坑１基が確認されている。遺構は調査区域北部を中心に分布しており，さらに北方へ集落が広がることが予想される。これらの遺構は，３世紀末から５世紀前半にかけてのもので，さらに四つの時期に区分できる。

Ⅰ期（３世紀末～４世紀初）

第３・８・９号住居跡。古墳時代初めの住居跡で，調査区域の北部に分布している。住居跡の平面形は，隅丸方形または隅丸長方形で，規模は長軸5.4～6.7m，短軸5.1～6.7mである。第３・９号住居跡は焼土が堆積しており，焼失住居と考えられる。

遺物は土師器（椀・壺・甕など）が大半を占めている。その他の遺物としては，第９号住居跡からガラス小玉が出土している。本県で住居跡から出土したものとしては，最も古い例の一つである。また，弥生時代末と考えられる十王台式土器の破片が第８・９号住居跡から，また南関東系の壺が第９号住居跡から出土している。床面付近の，土師器と同じ土層から出土していることから，供伴していたものと思われる。

十王台式土器は，そのほとんどが広口壺上半部の破片である。頸部に帯状の刺突文が施されていることから，十王台式土器の中でも新しい一群に位置づけられる（注1）。南関東系の壺は２個体（第24図２・３）で，双方とも複合口縁を有し，外面に赤彩が施されている。器形・文様ともに在地での系譜を追うことは難しく，東京湾周辺の土器の影響を色濃く受けている。こうした影響は，土器の移動によるものと土器制作者自体の移動によるものと二つのケースが想定されるが，いずれのケースにしても広範な交流の結果もたらされた土器であり，当遺跡の成立期は人的あるいは物的移動が盛んな時期であったといえる。

Ⅱ期（４世紀前半）

第１・４・72号住居跡。古墳時代前期の住居跡である。住居跡は調査区域の北部に分布し，Ⅰ期とほぼ同じ場所に構築されている。住居跡の平面形は，隅丸長方形を呈するものが２軒あり，これが基本となると思われる。第４号住居跡は，長軸6.33m，短軸5.45mである。第72号住居跡は長軸4.45m，短軸4.33mである。第１号住居跡は一部が後世の遺構と重複しているが，破壊を免れた主軸方向の長さは5.61mであり，ほぼ中間の値を示している。

遺物は土師器（壺・甕・高坏など）が中心で，土製品（球状土錘）も出土している。第１号住居跡からは折り返し口縁を持つ壺（第４図２・３）が，第４号住居跡からは単口縁の壺（第11図１）が出土している。第１号住居跡の壺は口縁部下端に円形刺突文をもつものと，何の施文を施さないものがある。第４号住居跡から出土した壺は無文で，体部下半に最大径がある。住居跡ごとに壺の器形は異なるものの，頸部の屈曲が弱く，ハケ目が施された甕を伴っていることが共通する。

Ⅲ期（４世紀中葉）

この時期の遺構は少なく，住居跡は調査区域内では確認されていない。遺物が遺構に伴うものであれば，第２号方形周溝状遺構がこの時期に属する唯一の遺構である。生活の痕跡が希薄な時期であり，居住の場が調査区域外に移動していたのであろう。

Ⅳ期（５世紀前半）

第５・６・７・65・67・71号住居跡，第52号土坑。古墳時代中期の遺構である。遺構は，Ⅰ～Ⅱ期では北部に散在しているのに対し，調査区域の北西寄りにややまとまって分布している。住居の平面形は，方形・長方形・隅丸長方形が認められ，長方形・隅丸長方形の平面形を持つ住居跡は，主軸方向に対して横長のプランを持っている。規模は，第67号住居跡が長軸6.84m，短軸6.36m，その他が長軸3.42～4.6m，短軸3.2～4.15mである。７軒確認された中で第７・71号住居跡は焼失家屋である。第67号住居跡は，当遺跡では第３号住居跡と共に大型住居の部類に属するものである。この住居跡は，第５・７・71号住居跡などの中規模の住居跡と一つのグループを構成している。出土した遺物からはその他の住居との相違は認められないが，中規模の住居から構成される集団の中で中心的な位置を占めていたと思われる。

遺物は，土師器（椀・坩・壺・甕・高坏など），土製品（球状土錘），鉄製品（鉄鏃？）が出土している。赤彩された坩・高坏が見られるのも，この時期の特徴である。第７・67・71号住居跡では，土器を投棄したような状況が確認できた。

このように古墳時代には，３世紀末から５世紀前半にかけて集落が営まれている。４世紀中葉にいったん途絶えるが，５世紀前半にいたって再び営まれる。この中断は集落が一時的に移動したことによると考えられる。５世紀中葉以降再び断絶し，以後８世紀まで集落は形成されていない。当遺跡の南西約800mに位置する神田遺跡では，５世紀以降も集落が継続している状況とは対照的である。

3　奈良・平安時代

当遺跡の中心となる時代である。この時代の遺構として，竪穴住居跡41軒・掘立柱建物跡６棟・竪穴状遺構２基が確認されている。遺構は調査区域の南部を中心に分布している。調査区南側の畑地には同時代の土器片が数多く散布していることから，この付近に遺構が集中していると考えられる。これらの遺構は，８世紀後半から10世紀前半にかけてのもので，さらに四つの時期に区分できる。

Ⅰ期（８世紀後半）

第47・58号住居跡。集落が再び形成される時期である。当該期の住居跡は２軒確認されており，調査区域の南部に位置している。平面形は長方形で，規模は長軸3.54～5.25m，短軸3.35～4.87mである。第47号住居跡は竈が２基併設されている。

遺物は，土師器（甕）・須恵器（坏・盤・甕）である。第47号住居跡では，土師器よりも須恵器の個体数が多く，須恵器の中でも坏の割合が高い。

Ⅱ期（９世紀前半）

第23・27・28・31・54・64号住居跡。遺構数が若干増加し，調査区域の中部から南部にかけて散在している。平面形は方形または長方形で，規模は長軸3.01～4.15m，短軸2.71～3.87mである。第23号住居跡は棚状施設を有していた可能性が考えられる。遺物は土師器（坏・高台付坏・甕），須恵器（坏・盤・甕・円面硯）石器（砥石）が出土している。当遺跡から出土した円面硯は，第23号住居跡の１例だけである。

Ⅲ期（９世紀中葉）

第２・10・14・15・17・21・32号住居跡。第２・14号住居跡が調査区域の北部に位置していることを除くと，調査区域の中部に遺構が分布している。住居跡の平面形は方形または長方形のものが認められるが，方形のものが多い。規模は，長軸2.73～4.15m，短軸2.35～4.0mであり，一辺が約３m前後（第２・14・17号住居跡）と約４m前後（第10・21・32号住居跡）のグループに分かれる。

遺物は，土師器（坏・高台付坏・甕，須恵器（坏・甕・甑），土製品（紡錘車），鉄製品（鎌），石製品（砥石など）が出土している。第21号住居跡は竈が２基確認されており，竈２の煙道部底面に雲母片岩の石塊が置かれている。石塊は柱状で，表面に火熱を受けている。支脚の可能性が考えられるものの，竈の奥まった所に位置しているため，なお検討する余地がある。当遺跡ではこのように，竈の火床面あるいは煙道部底面に石塊を置く住居跡があり，次のⅣ期でも第38Ａ・52号住居跡に同じような施設が確認されている。仮に支脚と想定すると，当遺跡では土器転用と石塊を使用した支脚があることになる。また，石塊が竈の補強材あるいは構築材の可能性も考えられるが，当遺跡周辺ではそのような使用例は知られていない。今後類例の増加をまって検討したい。

Ⅳ期（９世紀後半～10世紀前半）

第12・13・18・19・35・37・38Ａ・38Ｂ・40Ａ・40Ｂ・45・46・50・51・52号住居跡，第１～６号掘立柱建物跡。当遺跡の中心となる時期である。遺構は中部から南部にかけて分布しており，前代から集落が拡大した様相を示している。平面形は方形または長方形であり，前代と同じく方形の住居跡が卓越している。住居跡の規模は，長軸2.74～4.16m，短軸2.4～4.02mで，一辺2.5m前後と４m前後のグループに分かれる。これは，前代での住居の大小がそのまま引き続いていると見ることができる。前代までははっきりと認められなかったが，当該期の住居は大きく調査区域中部と南部のグループに分けられる。６棟確認されている掘立柱建物跡も，当該期以降に構築されたものである。

遺物は，土師器（坏・高台付坏・甕），須恵器（坏・高台付坏・甕・甑）のほか，土製品（紡錘車）や鉄製品（鎌・刀子）が出土している。土師器の坏は，内面に黒色処理が施されたものが多い。

奈良・平安時代は，初め少数の住居が形成された後，若干軒数を増やし，９世紀中頃には中部を中心に，９世紀後半には中部・南部に広がっている。北部には一部を除いて住居は構築されず，空白地域となっている。古墳時代は北部を中心に集落が展開しているため，住み難い環境であったとは考えられない。これは，当時の土地利用状況によるものか，あるいは居住空間に何らかの規制が働いていたことによるものと想定される。

４　中・近世

中・近世と考えられる遺構として，溝跡29条・火葬施設２基・地下式壙４基が確認されている。このほか，144基確認された土坑の中には，中・近世と推定されるものが存在する。溝跡の中で，調査区中部に位置している第14・18号溝跡，調査区北西部に位置している第27号溝跡は，掘り込みが深く断面が薬研堀状を呈していることから，苅間城跡と関連がある遺構であろう。苅間城跡は当遺跡から西方に約500mの所に位置し，小田氏家臣の野中瀬氏の居城とされている。主郭と思われる部分には，現在も土塁や堀の痕跡を認めることがで

きる。遺跡周辺を描いた貞享５年（1688）の判決絵図面(注2)では，当遺跡の西隣にあたる「本屋敷」に堀が方形に巡ることが確認でき，複数の郭で構成された城跡であることがうかがえる。神田遺跡からも城跡と関係のある遺構が確認されており，今回の調査で城域が東方へ広がることが明らかにされた。苅間城跡の縄張りは不明確であるが，地形的に見て東側が防御上の弱点であり，当遺跡の溝跡はそれを補強するために構築されたものであろう。なお苅間城跡は小田氏の没落と共に廃城となったが，溝跡からは近世の陶器片が出土し，溝は城が廃絶された後もしばらく存続していたのであろう。

埋葬に関係する遺構として，火葬施設２基・地下式壙４基が確認されている。火葬施設は，２基とも調査区南部に位置している。このうち第２号火葬施設は燃焼部・開口部が残存している。第２号火葬施設の東側に第１号地下式壙が位置しており，両者の関係が注目される。また，調査区の東部を中心に，土坑が分布している。土坑は径約１ｍほどの円形のものと，長軸1.5～1.9ｍ前後，短軸0.9ｍ前後の長方形の土坑に大別され，これに方形のものが加わる。形状を問わずほぼ同じ規模で，覆土が人為堆積であること，円形のものは座棺による埋葬が想定されること，神田遺跡でも同様な遺構が確認され，古銭等が出土していること等の理由から，墓壙の可能性がある。

今回の調査の結果，古墳時代及び奈良・平安時代を中心に，近世に至るまでの複合遺跡であることが確認された。旧石器時代・縄文時代に当遺跡周辺に人々が居住していた痕跡はうかがえるが，弥生時代には生活の跡をとらえることができなくなる。その後，古墳時代初頭に至って本格的に人々の生活が開始される。これは，人とものの広範な移動を伴った結果の出来事である。その後，古墳時代中期に至って集落がいったん途絶え，８世紀後半に再び形成される。中・近世の遺跡の一部は墓域として，また一部は城郭の外縁に取り込まれていることが明らかになった。

注１　ひたちなか市教育委員会・財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社「武田石高遺跡　旧石器・縄文・弥生時代編」『（財）ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告』第15集　1998年１月

注２　茨城県教育財団　「（仮称）　葛城地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ　神田遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第121集　1997年３月

参考文献

・茨城県教育財団　「主要地方道取手筑波線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書　境松遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第41集　1987年３月

・茨城県教育財団　「（仮称）　葛城地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ　神田遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第134集　1998年３月

・茨城県考古学協会・十王町教育委員会　『十王台式土器制定60周年記念シンポジウム　茨城県における弥生時代研究の到達点』　1999年11月

付章　六十目遺跡出土土師器の胎土分析

(株)第四紀地質研究所　井上　巖

Ｘ線回折試験及び化学分析試験

1　実験条件

1－1　試料

分析に供した試料は第１表胎土性状表に示す通りである。

Ｘ線回折試験に供する遺物試料は洗浄し、乾燥したのちに、メノウ乳鉢にて粉砕し、粉末試料として実験に供した。

化学分析は土器をダイヤモンドカッターで小片に切断し、表面を洗浄し、乾燥後、試料表面をコーテングしないで、直接電子顕微鏡の鏡筒内に挿入し、分析した。

1－2　Ｘ線回折試験

土器胎土に含まれる粘土鉱物及び造岩鉱物の同定はＸ線回折試験によった。測定には日本電子製ＪＤＸ－8020Ｘ線回折装置を用い、次の実験条件で実験した。

Target:Cu,Filter:Ni,Voltage:40kV,Current:30mA,ステップ角度：0.02°計数時間：0.5秒。

1－3　化学分析

元素分析は日本電子製5300ＬＶ型電子顕微鏡に2001型エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置をセットし、実験条件は加速電圧：15ｋＶ、分析法：スプリント法、分析倍率：200倍、分析有効時間：100秒、分析指定元素10元素で行った。

2　Ｘ線回折試験・蛍光Ｘ線分析結果の取扱い

実験結果は第１表胎土性状表に示す通りである。

第１表右側にはＸ線回折試験に基づく粘度鉱物及び造岩鉱物の組織が示してあり、左側には、各胎土に対する分類を行った結果を示している。

Ｘ線回折試験結果に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の各々に記載される数字はチャートの中に現れる各鉱物に特有のピークの強度を記載したものである。

電子顕微鏡によって得られたガラス量とＸ線回折試験で得られたムライト（Mullite)、クリストバライト(Cristobalite）等の組成上の組合せとによって焼成ランクを決定した。

2－1　組成分類

1）　Ｍｏｎｔ－Ｍｉｃａ－Ｈｂ三角ダイアグラム

三角ダイアグラムを１～１３に分割し、位置分類を各胎土について行い、各胎土の位置を数字で表した。

Mont、Mica、Hbの三成分の含まれない胎土は記載不能として１４にいれ、別に検討した。

三角ダイアグラムはモンモリロナイト（Mont)、雲母類（Mica)、角閃石（Hb）のＸ線回折試験におけるチャートのピーク強度をパーセント（％）で表示する。

モンモリロナイトはMont/Mont+Mica+Hb*100でパーセントとして求め、同様にMica、Hbも計算し、三角ダイヤグラムに記載する。

三角ダイヤグラム内の１～４はMont,Mica,Hbの３成分を含み、各辺は２成分、各頂点は１成分よりなっていることを表している。

2）　Ｍｏｎｔ－Ｃｈ，Ｍｉｃａ－Ｈｂ菱形ダイアグラム

モンモリロナイト（Mont)、雲母類（Mica)、角閃石（Hb)、緑泥石（Ch）の内、

ａ）３成分以上含まれない、ｂ）Mont,Chの２成分が含まれない、

ｃ）Mica,Hbの２成分が含まれない、の３例がある。

菱形ダイアグラムはMont-Ch,Mica-Hbの組合せを表示するものである。

Mont-Ch,Mica-Hbのそれぞれの X 線回折試験のチャートの強度を各々の組合せ毎にパーセントで表すもので、例えば、Mont/Mont+Ch*100と計算し、Mica,Hb,Chも各々同様に計算し、記載する。

菱形ダイアグラム内にある１～７はMont,Mica,Hb,Chの４成分を含み、各辺はMont,Mica,Hb,Chの内３成分、各頂点は２成分を含んでいることを示す。

３）　化学分析結果の取り扱い

化学分析結果は酸化物として、ノーマル法（１０元素全体で１００％になる）で計算し、化学分析表を作成した。化学分析表に基づいてＳｉＯ２－Ａｌ２Ｏ３図、Ｆｅ２Ｏ３－ＭｇＯ図、Ｋ２Ｏ－ＣａＯ図の各図を作成した。これらの図をもとに、土器類を元素の面から分類した。

３　Ｘ線回折試験結果

３－１　タイプ分類

表－１胎土性状表には、三反田遺跡、武田遺跡、六十目遺跡、鹿嶋遺跡の各遺跡から出土した土器が記載してある。

土器胎土はＡ～Ｅの５タイプに分類された。

Ａタイプ：Hb１成分を含み、Mont,Mica,Chの３成分に欠ける。

Ｂタイプ：Mica,Hbの２成分を含み、Mont,Chの２成分に欠ける。

Ｃタイプ：Mica,Chの２成分を含み、Mont,Hbの２成分に欠ける。組成的にはＢタイプと同じであるが検出強度が異なる。

Ｄタイプ：Mica１成分を含み、Mont,Hb,Chの３成分に欠ける。

Ｅタイプ：Mont,Mica,Hb,Chの４成分に欠ける。

主に、ｎＡｌ２Ｏ３・ｍＳｉＯ２・ｌＨ２Ｏ（アロフェン質ゲル）で構成される。

最も多いタイプはＥタイプで三反田遺跡、武田遺跡、六十目遺跡、鹿嶋遺跡の各遺跡から出土した土器に共通する。全体３２個のうち１８個が該当する。次いでＡタイプの９個で、三反田遺跡、武田遺跡の各遺跡から出土した土器に共通する。ＢとＤタイプは各２個、Ｃタイプは１個である。

六十目遺跡の土器はＥタイプが３個とＡとＤタイプ各１個で構成される。この傾向は三反田遺跡、武田遺跡の土器と胎土の共通性が高い。

３－２　石英（Ｑｔ）－斜長石（Ｐ１）の相関について

土器胎土中に含まれる砂の粘土に対する混合比は粘土の材質、土器の焼成温度と大きな関わりがある。土器を制作する過程で、ある粘土にある量の砂を混合して素地土を作るということは個々の集団が持つ土器制作上の固有の技術であると考えられる。

自然の状態における各地の砂は固有の石英と斜長石比を有している。この比は後背地の地質条件によって各々異なっていくものであり、言い換えれば、各地の砂はおのおの固有の石英と斜長石比を有していると言える。

三反田遺跡、武田遺跡、六十目遺跡、鹿嶋遺跡の各遺跡から出土した土器は，Ⅰ～Ⅲの３グループに分類さ

れた。

Ⅰグループ：Ｑｔ（石英）の強度が1000～2200、Ｐ１（斜長石）の強度が600～800の領域にあり、三反田遺跡の壺が集中する。

Ⅱグループ：Ｑｔ（石英）の強度が2800～4500、Ｐ１（斜長石）の強度が500～700の領域にあり、三反田遺跡と武田遺跡の壺が混在する。

Ⅲグループ：Ｑｔが2000～4200、Ｐ１が1000～400の領域に集中する。三反田、武田、六十目、鹿嶋遺跡の土器が共存する。

第５図Ｑｔ－Ｐ１図には六十目遺跡の土器が記載してある。

六十目遺跡の土器はⅢグループで三反田、武田、六十目、鹿嶋遺跡の土器が共存する。

４　化学分析結果

表－２化学分析表には三反田遺跡、武田遺跡、六十目遺跡、鹿嶋遺跡の各遺跡から出土した土器が記載してある。

また、六十目遺跡については分析結果に基づいて第６図ＳｉＯ２－Ａｌ２Ｏ３図、第７図Ｆｅ２Ｏ３－ＭｇＯ図、第８図Ｋ２Ｏ－ＣａＯ図を作成した。

４－１　ＳｉＯ２－Ａｌ２Ｏ３の相関について

ⅠとⅡの２グループと“その他”に分類された。ＳｉＯ２の値の低い領域にはⅠグループ、高い領域にⅡグループを形成する。

Ⅰグループ：ＳｉＯ２が４５～５５％、Ａｌ２Ｏ３のが20～40％の広い領域に分散する。とくに六十目遺跡の土器が集中する。

Ⅱグループ：ＳｉＯ２が５８～７４％、Ａｌ２Ｏ３のが15～30％の領域に集中する。三反田、武田、鹿嶋遺跡の各遺跡の土器が共存する。

“そ の 他”：三反田－７はどのグループにも属さず、異質である。

第６図ＳｉＯ２－Ａｌ２Ｏ３図に示すように六十目遺跡の土器はⅠグループに集中し、明らかに三反田、武田、鹿嶋遺跡の各遺跡の土器とは異なる組成を示す。

４－２　Ｆｅ２Ｏ３－ＭｇＯの相関について

Ⅰ～Ⅱの２グループと“その他”に分類された。

Ⅰグループ：ＭｇＯの値が０％の領域にあり、Ｆｅ２Ｏ３の値が２～10％の領域にあって、三反田、武田、鹿嶋遺跡の土器が混在する。

Ⅱグループ：六十目遺跡の土器はＦｅ２Ｏ３の値が６～17％の領域にある。

“そ の 他”：三反田－３、７はＭｇＯの値がいくぶん高く、異質である。

第７図Ｆｅ２Ｏ３－ＭｇＯ図に示すように、六十目遺跡の土器はⅡグループに集中し、三反田、武田、鹿嶋遺跡の土器と比較してＦｅ２Ｏ３の値が高く、異質である。

４－３　Ｋ２Ｏ－ＣａＯの相関について

三反田、武田遺跡、鹿嶋、六十目遺跡の土器はＩ～Ⅲの３ｸﾞﾙｰﾌﾟに分類される。

Ｉグループ：Ｋ２Ｏが0.5～1.4％、ＣａＯが０～0.5％の領域にあって、六十目遺跡の土器が集中する。

Ⅱグループ：Ｋ２Ｏが1.0～2.5％、ＣａＯが0.8～1.8％の領域にあって、三反田の壺、石高の壺、鹿嶋遺跡の土器が共存する。

Ⅲグループ：Ｋ２Ｏが0.8～2.2％、ＣａＯが0.1～0.7％の領域にあって、三反田、武田遺跡、鹿嶋遺跡の土器が共存する。

第８図Ｋ２Ｏ－ＣａＯ図に示すように、六十目遺跡の土器はＫ２ＯとＣａＯの値が低く、三反田、武田、鹿嶋遺跡の土器と比較して異質である。

５まとめ

１）三反田、武田遺跡、鹿嶋、六十目遺跡の土器胎土はＡ～Ｅの５タイプに分類され、ＡとＥタイプで全体の90％以上を占める。とくにＥタイプは三反田、武田、鹿嶋、六十目遺跡の土器に共通するものである。Ａタイプは三反田と武田遺跡の土器に共通する。

２）Ｘ線回折試験に基づくＱｔ－Ｐ１相関ではＩ～Ⅲの３グループに分類され、Ｉグループの三反田の壺はＱｔの強度が低く異質である。Ⅱグループは三反田の壺と石高の壺が共存する。Ⅲグループは三反田、武田、鹿嶋、六十目遺跡の土器が共存する。

３）化学分析結果による分類では六十目遺跡の土器はＳｉＯ２値が小さく、Ａ１２Ｏ３とＦｅ２Ｏ３値が大きく、Ｋ２Ｏの値が低いことで特徴があり、明瞭に三反田、武田、鹿嶋遺跡の土器とは化学組成が異なる。三反田、武田、鹿嶋遺跡の土器は化学組成が同じ領域にあり、類似性が高い。

４）鉱物分析と化学分析では鹿嶋遺跡の土器は鉱物分析ではＥタイプに属し、三反田、武田、六十目遺跡の土器と共通する。化学組成では三反田と武田遺跡の土器と成分が近く、この両者の関係からすると、鹿嶋遺跡の土器は三反田と武田遺跡の土器と関連性が深い。

５）六十目遺跡の土器は胎土の鉱物組成としては三反田、武田、鹿嶋遺跡の土器と類似するが化学組成が異なる。

表―1　胎土性状表

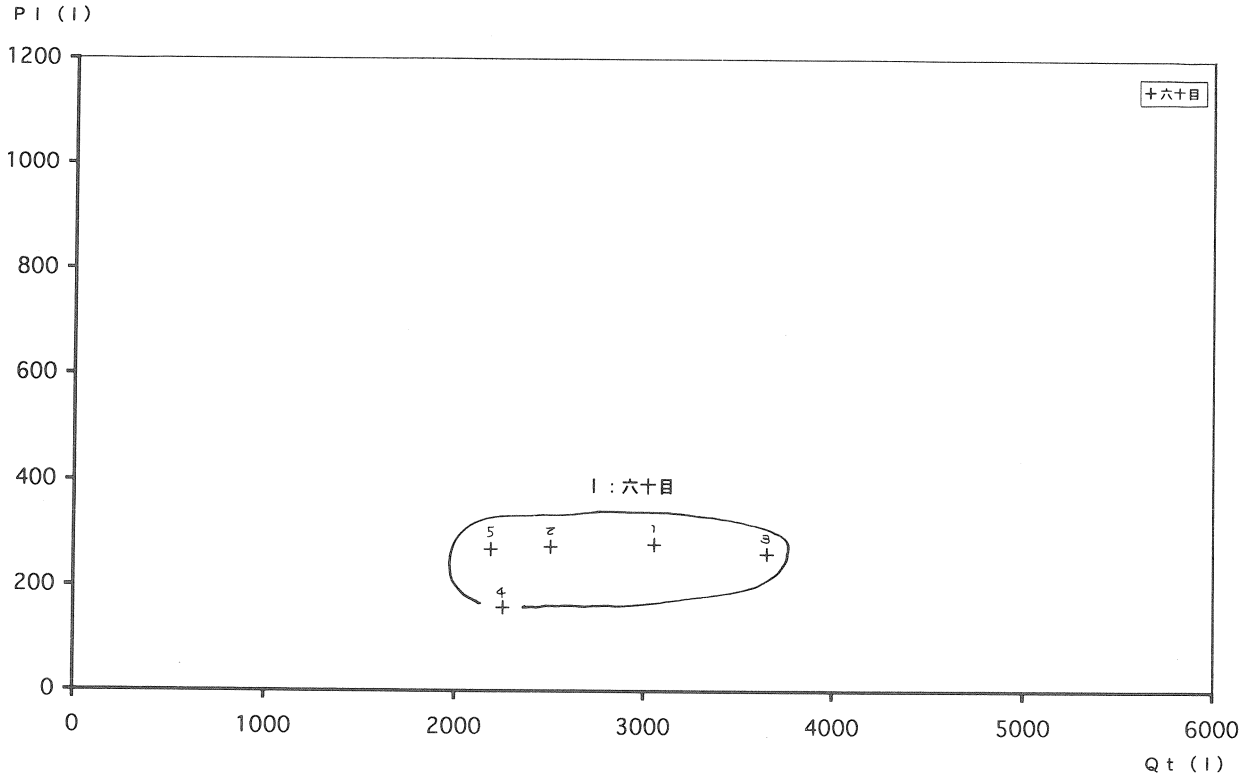
試料	タイプ	組成分類		粘土鉱物および造岩鉱物														備考		
No	分類	Mo-Mi-Hb	Mo-Ch,Mi-Hb	Mont	Mica	Hb	Ch(Fe)	Ch(Mg)	Qt	Pl	Crist	Mullite	K-fels	Halloy	Kaol	Pyrite	Au			
三反田－1	D	8	20		117				3297	293	134		199					土師器S字甕	3～4C	
三反田－2	A	5	20			99			3671	335	134							土師器壺	3～4C	網目
三反田－3	B	6	20		118	197			2138	747			342					土師器壺	3～4C	ナデ
三反田－4	E	14	20						4392	549								土師器壺	3～4C	ナデ
三反田－5	E	14	20						3388	668								土師器壺	3～4C	
三反田－6	E	14	20						3358	243			159					土師器S字甕	3～4C	
三反田－7	E	14	20						1160	665	141							土師器壺	3～4C	大廓
三反田－8	A	5	20			80			3445	390	176							土師器S字甕	3～4C	
三反田－9	A	5	20			115			4013	290	136							土師器壺	3～4C	
三反田－10	E	14	20						2891	347	127							土師器壺	3～4C	内面施文
三反田－11	A	5	20			107			3520	381	150							土師器大型甕	3～4C	
三反田－12	A	5	20			149			2957	585	123							土師器壺	3～4C	内面施文
武　田－1	A	5	20			100			3217	416								土師器甕	4C	布留1(小)　石高
武　田－2	A	5	20			114			2547	297	191							土師器甕	4C	布留2(精)　石高
武　田－3	E	14	20						2445	348	136							土師器甕	4C	布留3(粗)　石高
武　田－4	E	14	20						3024	517								土師器壺	4C	山陰系？　石高
武　田－5	E	14	20						3323	289								土師器甕	4C	石高
武　田－6	A	5	20			93			4159	550			322					土師器壺	4C	石高
武　田－7	E	14	20						2789	223	135		157					土師器甕	4C	布留1　原前
武　田－8	E	14	20						3935	364								土師器甕	4C	布留2　原前
武　田－9	E	14	20						3906	392	120		178					土師器甕	4C	原前
武　田－10	B	6	20		135	183			4067	559			221					土師器壺	4C	原前
武　田－11	A	5	20			85			3657	337	142							土師器壺	4C	原前
六十目－1	E	14	20						3054	280	206							土師器壺	4CE	第1号住居跡P2
六十目－2	E	14	20						2505	275	201					82		土師器甕	4CE	第1号住居跡P5
六十目－3	A	5	20			101			3652	261	151							土師器鉢	4CE	第3号住居跡P8
六十目－4	E	14	20						2254	158	158		177					土師器鉢	4CE	第3号住居跡P14
六十目－5	D	8	20		167				2189	270								土師器異形器台	4CE	第3号住居跡P19
鹿　嶋－1	E	14	20						2815	252	186							土師器壺	4C	
鹿　嶋－2	E	14	20						3919	456	137							土師器壺	4C	
鹿　嶋－3	C	7	20		136	94			2974	372								土師器壺	4C	
鹿　嶋－4	E	14	20						2711	236								土師器壺	4C	
鹿　嶋－5	E	14	20						2460	365	266							土師器壺	4C	

Mont：モンモリロナイト　Mica：雲母類　Hb ：角閃石 Ch：緑泥石（Ch:Fe　一次反射、Ch:Mg　二次反射）　Qt ：石英 Pl：斜長石　Crist：クリストバライト
Mullite：ムライト　K-fels：カリ長石　Halloy ：ハロイサイト Kaol：カオリナイト　Pyrite:黄鉄鉱 Au：普通輝石 Py:紫蘇輝石

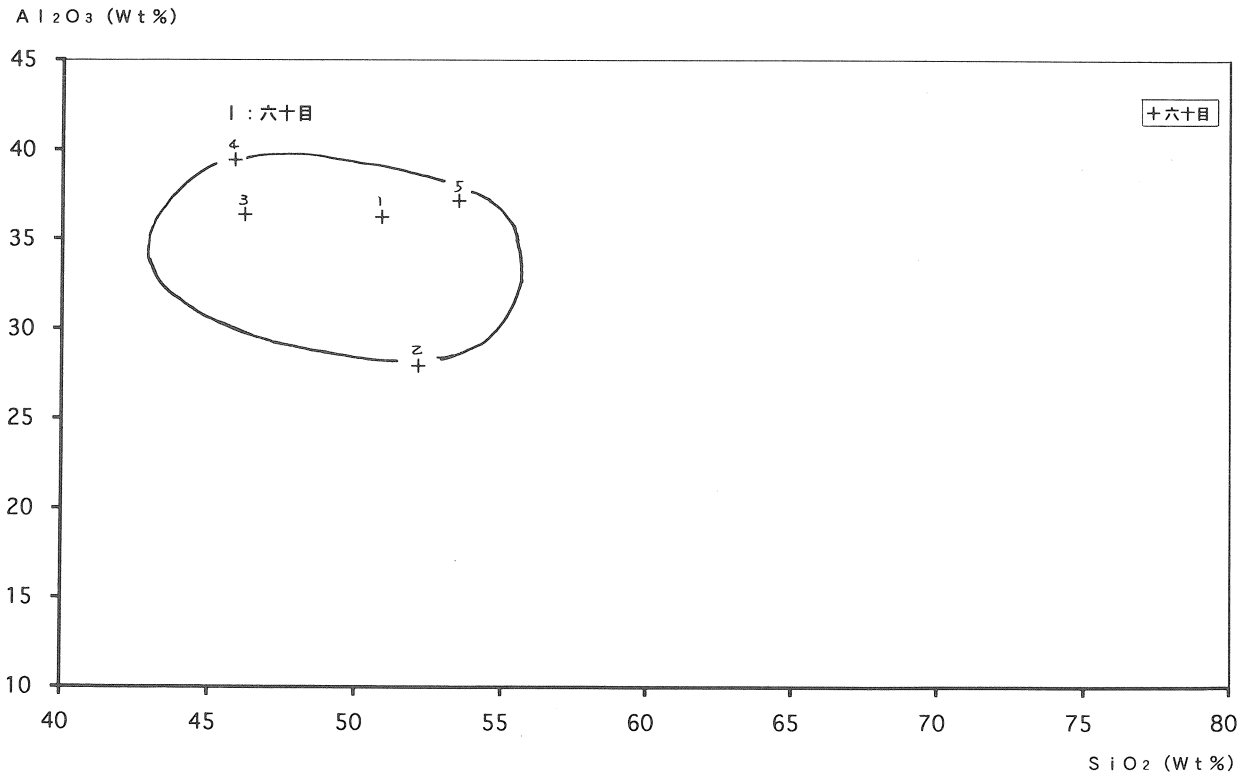
表―2　化学分析表

試料番号	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	K2O	CaO	TiO2	MnO	Fe2O3	NiO	Total	備考			
三反田－1	0.72	0.00	26.98	65.85	1.49	0.44	1.08	0.12	3.32	0.00	100.00	土師器S字甕	3～4C		
三反田－2	1.42	0.00	24.59	67.70	2.07	0.31	1.10	0.16	2.65	0.00	100.00	土師器壺	3～4C	網目	
三反田－3	1.60	0.20	25.17	62.97	1.21	0.99	1.22	0.42	6.18	0.03	99.99	土師器壺	3～4C	ナデ	
三反田－4	0.94	0.00	19.84	71.96	1.28	0.57	1.11	0.12	4.00	0.19	100.01	土師器壺	3～4C	ナデ	
三反田－5	0.60	0.00	30.13	61.13	1.04	0.48	1.52	0.00	5.07	0.03	100.00	土師器壺	3～4C		
三反田－6	0.47	0.00	27.96	61.86	1.70	0.58	1.49	0.45	5.46	0.04	100.01	土師器S字甕	3～4C		
三反田－7	0.90	3.07	23.26	54.32	1.99	1.63	0.63	0.55	13.65	0.00	100.00	土師器壺	3～4C	大廓	
三反田－8	1.11	0.00	23.80	66.38	1.46	0.49	1.06	0.43	5.27	0.00	100.00	土師器S字甕	3～4C		
三反田－9	0.57	0.00	27.61	59.70	0.89	0.22	1.68	0.44	8.79	0.10	100.00	土師器壺	3～4C		
三反田－10	0.86	0.00	25.65	63.24	1.12	0.49	1.19	0.15	7.30	0.00	100.00	土師器壺	3～4C	内面施文	
三反田－11	0.70	0.00	28.11	63.62	1.04	0.33	1.36	0.17	4.67	0.00	100.00	土師器大型甕	3～4C		
三反田－12	1.58	0.00	27.21	60.41	1.96	0.90	1.56	0.30	6.08	0.00	100.00	土師器壺	3～4C	内面施文	
武　田－1	1.27	0.00	24.26	65.71	1.49	0.72	1.04	0.37	4.93	0.22	100.01	土師器甕	4C	布留1(小)	石高
武　田－2	1.02	0.00	28.12	63.85	0.99	0.62	1.32	0.00	3.83	0.24	99.99	土師器甕	4C	布留2(精)	石高
武　田－3	0.51	0.00	27.09	65.84	0.57	0.44	1.12	0.38	4.04	0.01	100.00	土師器甕	4C	布留3(粗)	石高
武　田－4	0.92	0.00	26.08	64.81	1.35	0.43	1.35	0.15	4.64	0.28	100.01	土師器壺	4C	山陰系？	石高
武　田－5	0.74	0.00	25.87	63.78	1.53	0.53	1.16	0.29	6.10	0.00	100.00	土師器甕	4C		石高
武　田－6	1.14	0.00	27.32	63.81	1.00	1.13	1.55	0.14	3.92	0.00	100.01	土師器壺	4C		石高
武　田－7	0.64	0.00	27.23	60.92	1.04	0.48	1.92	0.53	7.22	0.02	100.00	土師器甕	4C	布留1	原前
武　田－8	0.75	0.00	27.45	64.35	1.24	0.23	1.20	0.27	4.46	0.05	100.00	土師器甕	4C	布留2	原前
武　田－9	0.78	0.00	27.63	60.36	1.39	0.40	1.24	0.29	7.91	0.00	100.00	土師器甕	4C		原前
武　田－10	0.82	0.00	25.01	66.51	1.71	0.25	1.42	0.10	4.11	0.06	99.99	土師器壺	4C		原前
武　田－11	1.09	0.00	29.33	58.36	1.50	0.65	2.04	0.22	6.82	0.00	100.01	土師器壺	4C		原前
六十目－1	0.72	0.00	36.23	50.89	1.27	0.19	1.20	0.59	8.87	0.05	100.01	土師器壺	4CE	第1号住居跡P2	
六十目－2	0.85	0.00	27.92	52.15	0.85	0.54	1.34	0.28	16.01	0.07	100.01	土師器甕	4CE	第1号住居跡P5	
六十目－3	0.78	0.00	36.36	46.21	0.73	0.21	1.14	0.38	13.97	0.24	100.02	土師器鉢	4CE	第3号住居跡P8	
六十目－4	0.47	0.00	39.43	45.87	0.85	0.16	1.55	0.42	11.07	0.17	99.99	土師器鉢	4CE	第3号住居跡P14	
六十目－5	0.43	0.00	37.13	53.53	0.50	0.32	1.54	0.43	6.11	0.01	100.00	土師器異形器台	4CE	第3号住居跡P19	
鹿　嶋－1	0.68	0.00	24.63	64.85	1.28	0.41	1.45	0.37	6.32	0.00	99.99	土師器壺	4C		
鹿　嶋－2	0.90	0.00	22.75	69.27	1.93	0.55	0.97	0.00	3.62	0.00	99.99	土師器壺	4C		
鹿　嶋－3	0.80	0.04	24.79	63.76	2.00	0.59	1.10	0.28	6.60	0.04	100.00	土師器壺	4C		
鹿　嶋－4	0.65	0.09	20.83	70.42	1.38	1.09	0.90	0.44	4.20	0.00	100.00	土師器壺	4C		
鹿　嶋－5	0.46	0.05	22.38	63.68	1.38	0.66	1.86	0.36	8.99	0.18	100.00	土師器壺	4C		
											0.00				

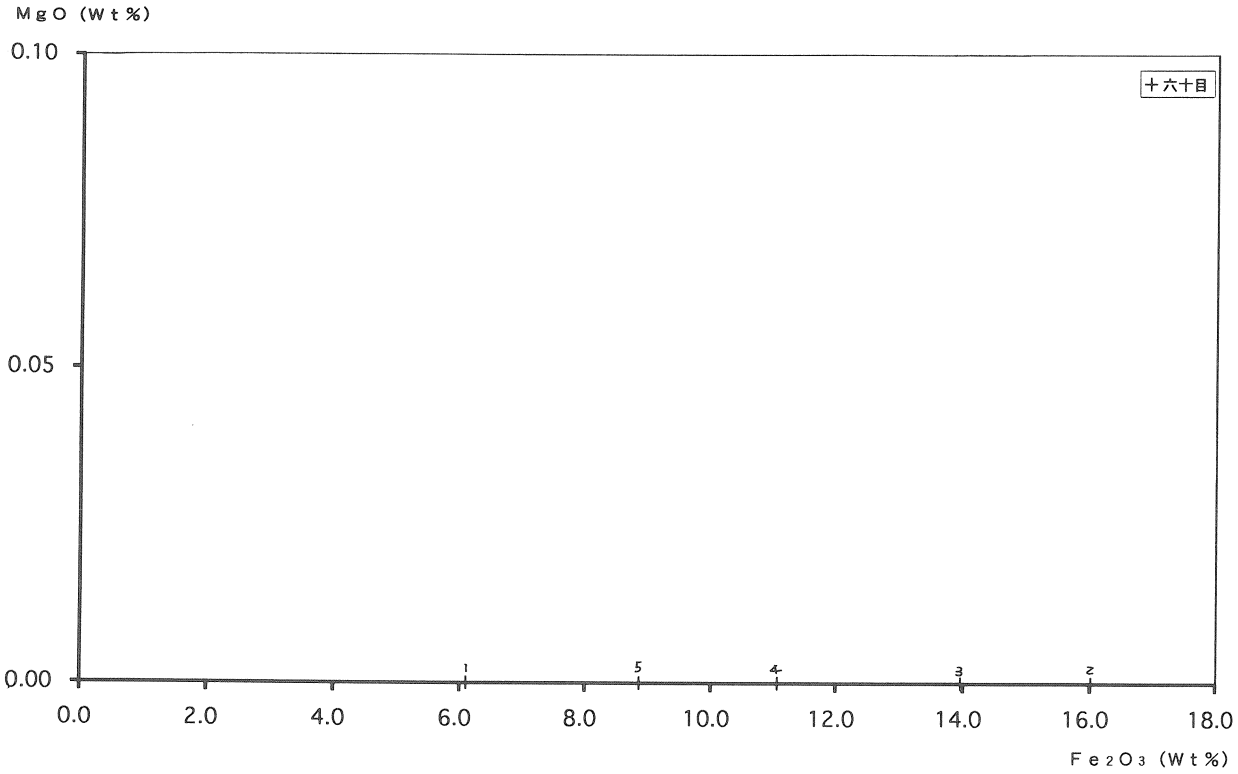
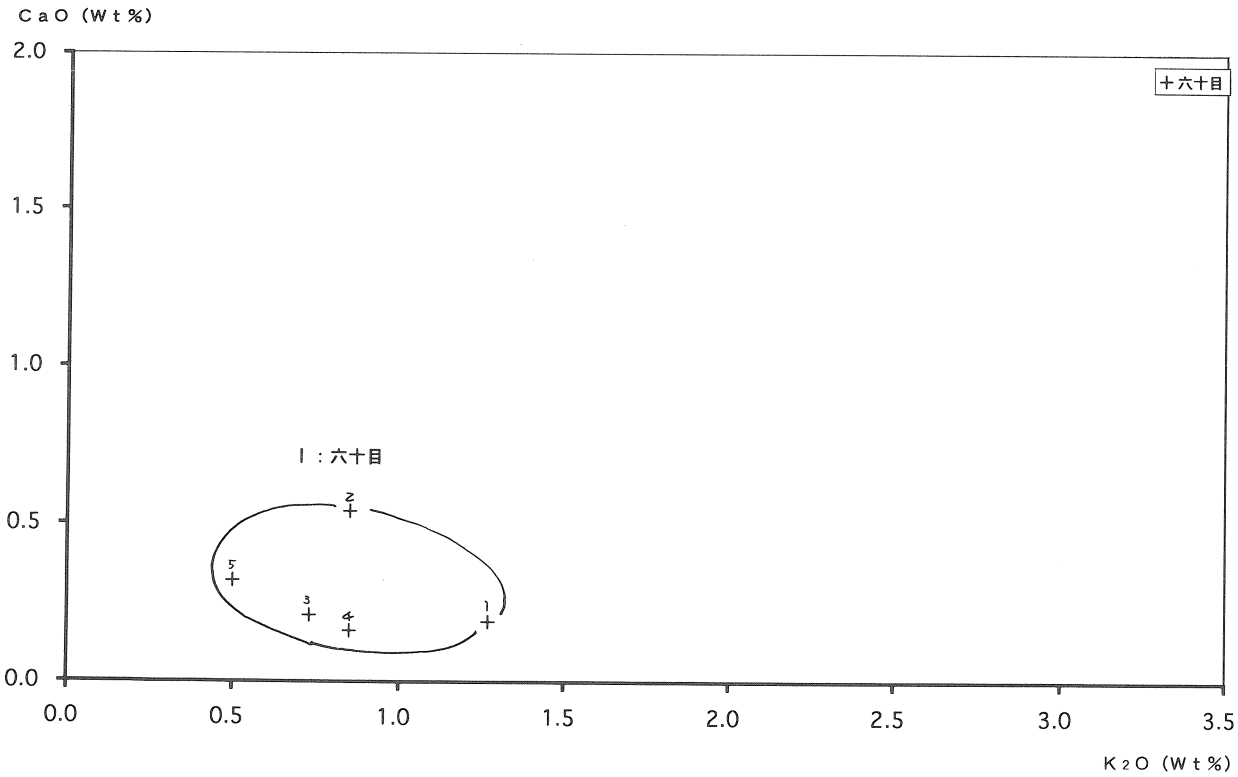
第5図　Ｑｔ—ＰＩ図



第6図　SiO_2—Al_2O_3図



第7図　Ｆｅ$_2$Ｏ$_3$—ＭｇＯ図



第8図　Ｋ$_2$Ｏ—ＣａＯ図